

平成 30 年度

食育・健康づくりに関する

市民アンケート調査報告書

平成 30 年 12 月

新潟市

目 次

第1章 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収結果	1
5. 集計結果の数字の見方	2
6. 回答者の構成	3
第2章 調査結果	7
1 体格 (BMI の状況)	7
2 「食育」に対する意識	8
(1) 「食育」への関心度	8
(2) 「食育」の実践度	13
(3) 食育を実践していない理由	18
(4) 食べ物を無駄にしないための行動	20
(5) 伝統的な料理や作法の大切さ	25
(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承	30
(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承	35
3 日ごろの食生活の状況	40
(1) 「地産地消」の実践度	40
(2) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数	45
(3) 生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度	50
(4) 健康のための食事の認識と程度の度合い	55
(5) 朝食の回数	62
(6) 朝食を食べない理由	67
(7) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするものの大切さ	69
(8) 家族と朝食を食べる回数	74
(9) 家族と夕食を食べる回数	79
(10) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数	84
(11) 家族と食事を一緒に食べるものの良い点	89
(12) 家族との食事に対する意識	91
(13) ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度	106
(14) かんで食べる時の状態	111
4 「食の安全」について	116
(1) 食の安全に対する関心度	116
(2) 特に関心があること	121
(3) 食の安全に関する知識を持っている程度	123
(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度	128
(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況	133
5 健康づくりに対する意識や状況	138
(1) 自身の現在の健康状態	138
(2) 睡眠による休養	143
(3) ストレスがある時の対処法	148
(4) 定期的に継続している運動の実施状況	150
(5) 1週間に10分以上続けて歩くことの有無	155

(6)	1週間に10分以上続けて歩く日数.....	160
(7)	1日の合計歩行時間.....	165
(8)	1日60分くらいの運動習慣.....	170
(9)	この1年間での運動の有無.....	175
(10)	この1年間での運動日数.....	180
(11)	喫煙習慣.....	185
(12)	最近1か月間の受動喫煙の状況.....	190
(13)	慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度.....	191
(14)	飲酒の頻度.....	196
(15)	平均飲酒量.....	201
(16)	最近1年間の歯科健（検）診の受診状況.....	206
(17)	歯間部清掃用具の使用状況.....	211
(18)	自身の歯の本数.....	216
(19)	「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度.....	221
(20)	メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況.....	226
(21)	メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること.....	231
(22)	「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度.....	233
(23)	最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況.....	238
(24)	最近1年間のがん検診の受診状況.....	240
(25)	がん検診の検診場所.....	242
(26)	がん検診を受けなかった主な理由.....	253
(27)	地域の人とのつながりの強さ.....	258
(28)	最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況.....	263
6	農林漁業体験について.....	265
(1)	農林漁業体験の参加経験の有無.....	265
(2)	参加した農林漁業体験の内容.....	270
(3)	今後の農林漁業体験への参加意向.....	273

第1章

調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

市民の食育・健康づくりに対する意識や関心、日頃の生活等について把握し、「新潟市食育推進計画（第3次）」「新潟市健康づくり推進基本計画（第2次）」を含む健康づくり関連計画の推進のための基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 体格（BMI の状況）
- (2) 「食育」に対する意識
- (3) 日頃の食生活の状況
- (4) 「食の安全」について
- (5) 健康づくりに対する意識や状況
- (6) 農林漁業体験について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 系統抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成30年9月3日～9月19日

4. 回収結果

有効回収数（率） 1,404人（46.8%）

【参考】性別、年齢別、居住地区別回収結果

(1) 性別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
男性	1,446人	613人	42.4%
女性	1,554人	767人	49.4%
性別不明		24人	

(2) 年齢別

調査対象者	標本数	回収数	回収率
20～29 歳	317 人	85 人	26.8%
30～39 歳	424 人	135 人	31.8%
40～49 歳	519 人	218 人	42.0%
50～59 歳	491 人	253 人	51.5%
60～69 歳	494 人	271 人	54.9%
70 歳以上	755 人	436 人	57.7%
年齢不明		6 人	

(3) 居住地区別

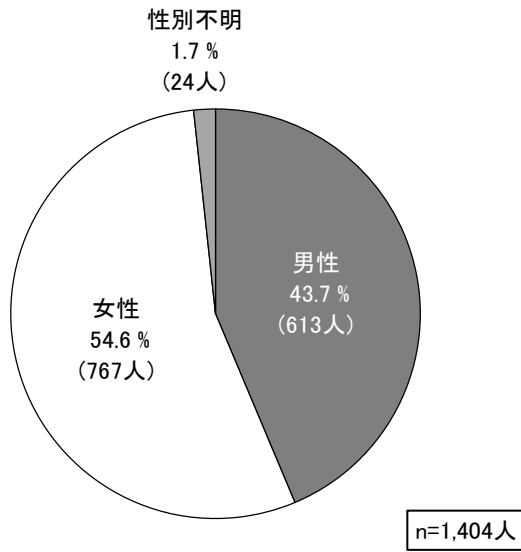
調査対象者	標本数	回収数	回収率
北区	266 人	112 人	42.1%
東区	520 人	231 人	44.4%
中央区	664 人	321 人	48.3%
江南区	258 人	123 人	47.7%
秋葉区	294 人	127 人	43.2%
南区	175 人	87 人	49.7%
西区	618 人	297 人	48.1%
西蒲区	205 人	100 人	48.8%
居住地区不明		6 人	

5. 集計結果の数字の見方

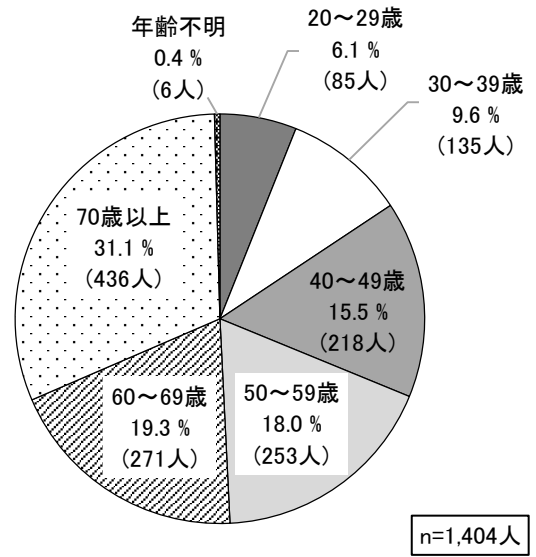
- (1) 結果は百分率 (%) で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答 (2つ以上の回答) では、合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n (number of casesの略)」は、質問に対する回答者の総数 (該当者質問では該当者数) を示し、回答者の比率 (%) を算出するための基数である。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

6. 回答者の構成

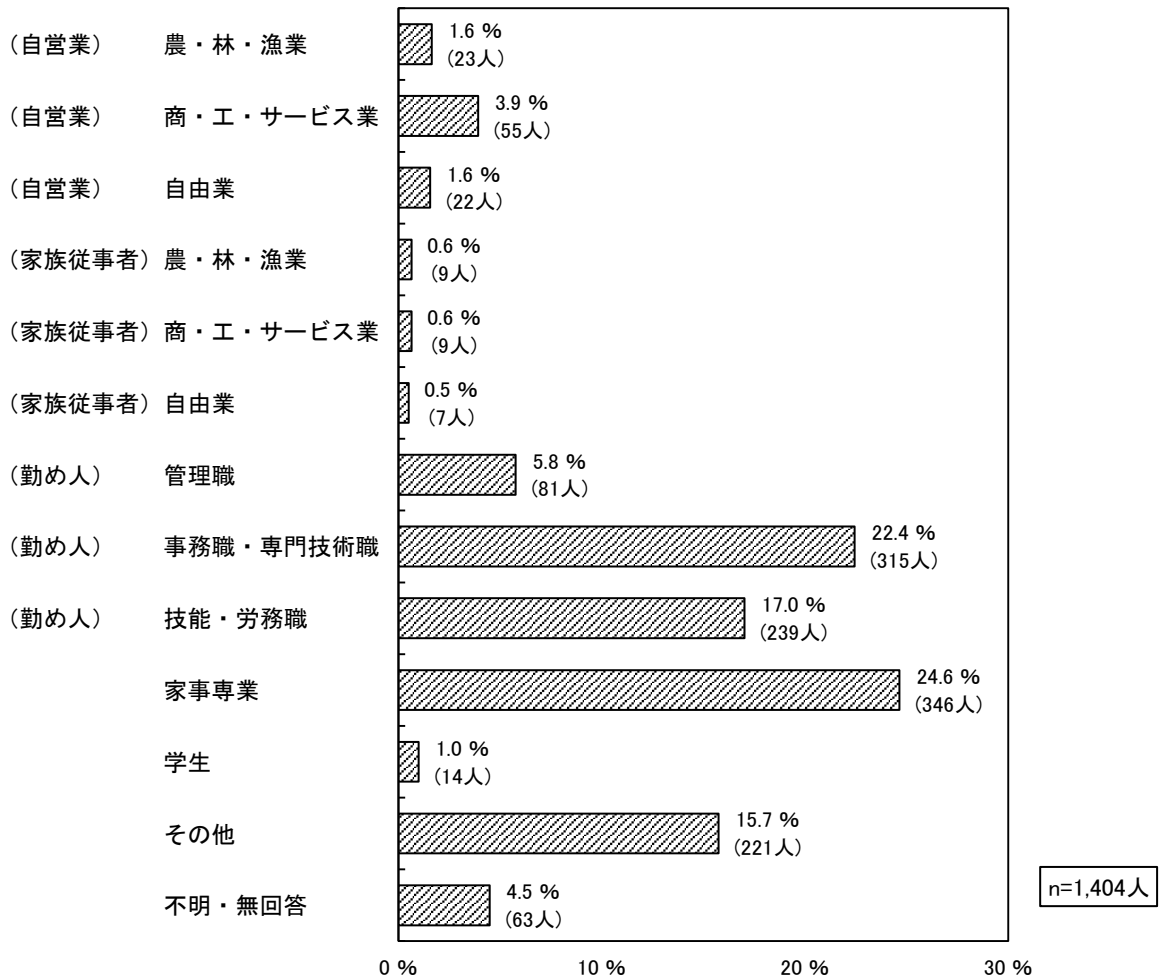
(1) 性別



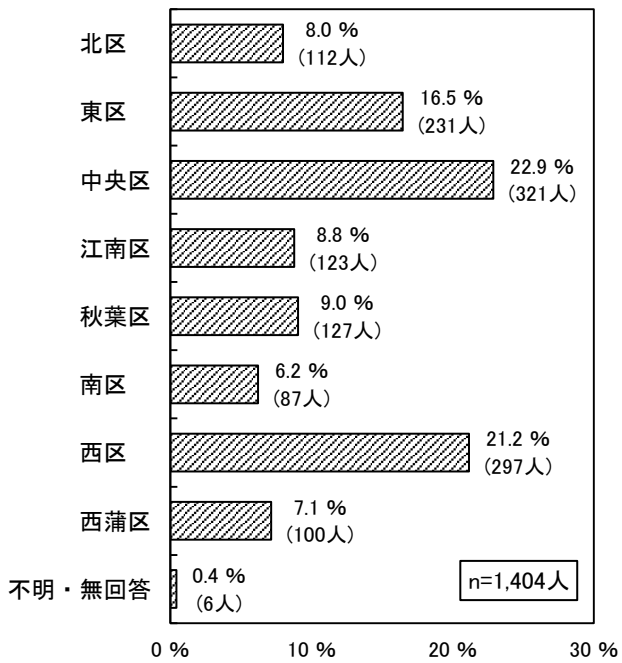
(2) 年齢



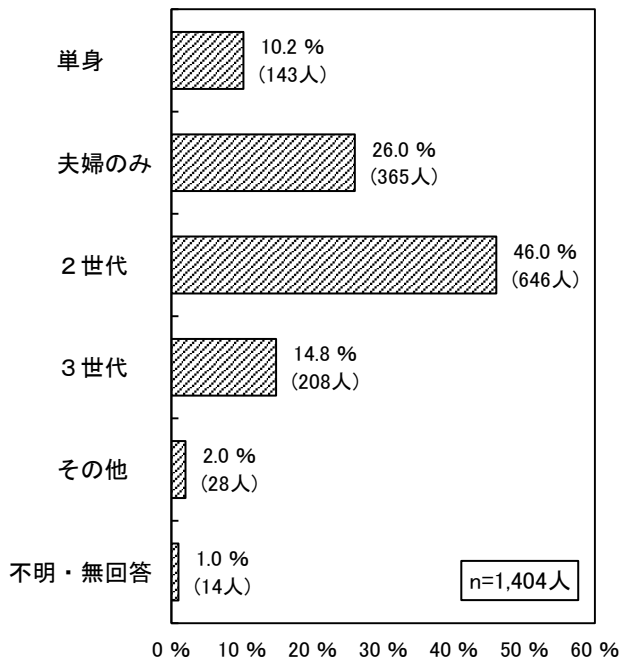
(3) 職業



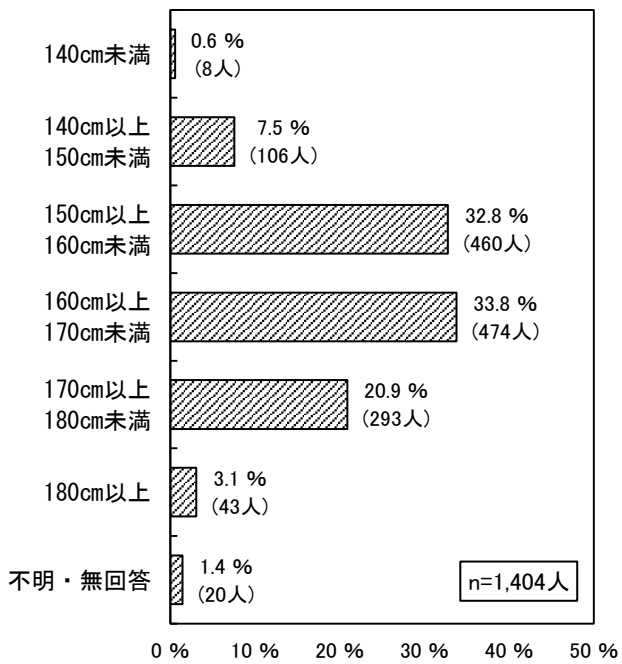
(4) 地区



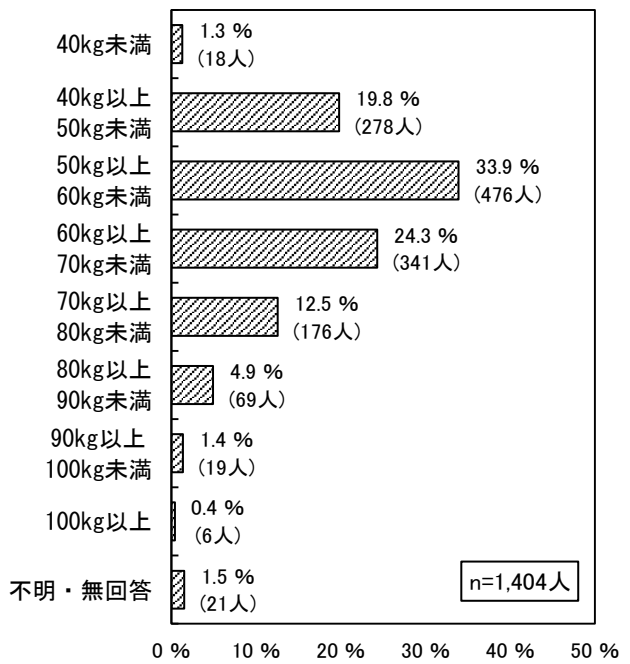
(5) 家族構成



(6) 身長



(7) 体重



第2章

調査結果

第2章 調査結果

1 体格 (BMIの状況)

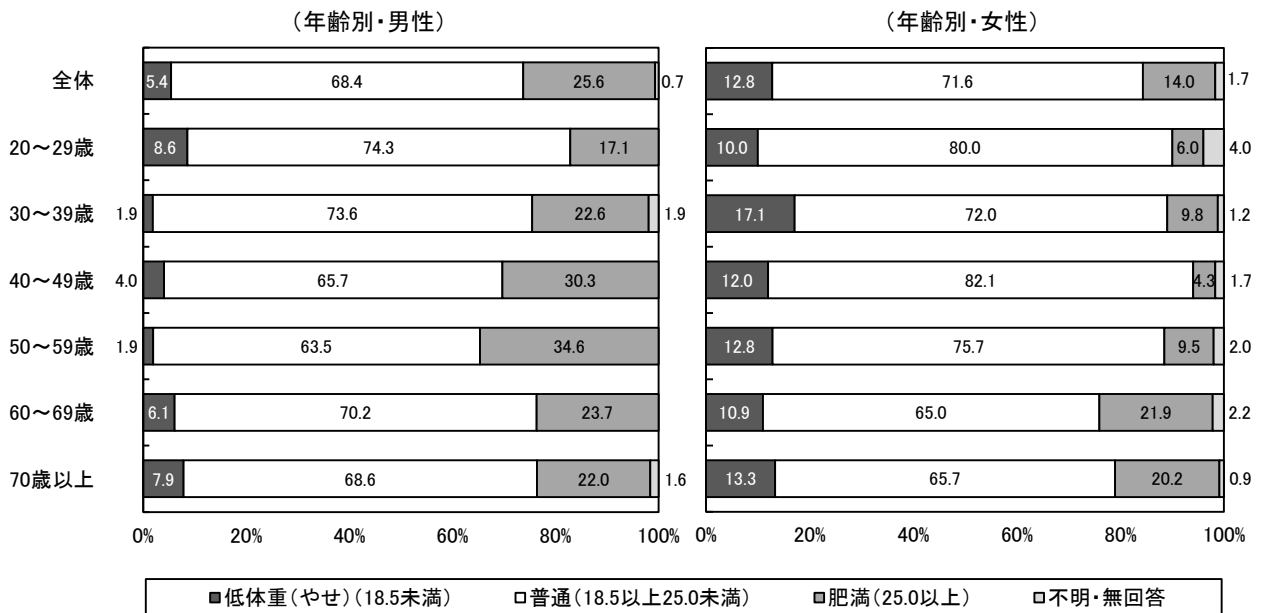
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の3割弱が肥満 (BMI25.0以上)、女性の1割強が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合が50歳代 (34.6%) で4割弱と最も高く、以下40歳代 (30.3%)、60歳代 (23.7%) となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は60歳代 (21.9%) で2割強と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、30歳代 (17.1%) が2割弱で高くなっている。

図1.1 BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

BMI = 体重 [kg] ÷ 身長 [m] ÷ 身長 [m] により算出
 BMI < 18.5 低体重 (やせ)
 18.5 ≤ BMI < 25.0 普通体重 (正常)
 25.0 ≤ BMI 肥満

2 「食育」に対する意識

「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるひとを育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

(1) 「食育」への関心度

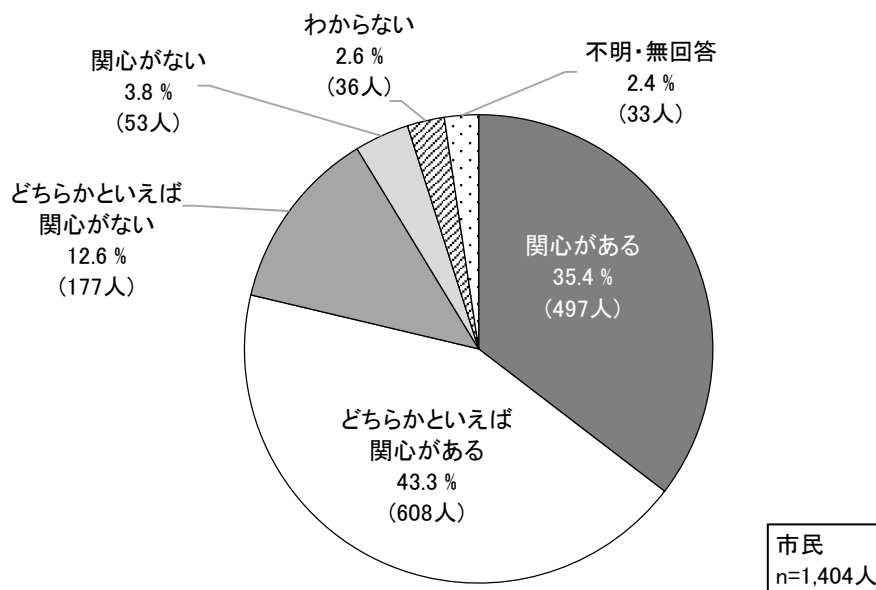
問7 あなたは、食（食事や食習慣）に関心がありますか。（○は1つだけ）

8割弱が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

「関心がある」(35.4%)、「どちらかといえば関心がある」(43.3%)と回答した人を合わせた割合は8割弱(78.7%)となっている。

一方、「関心がない」(3.8%)、「どちらかといえば関心がない」(12.6%)と回答した人を合わせた割合は2割弱(16.4%)となっている。

図2.1 「食育」への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性（74.1%）に対し女性（82.8%）の方が高くなっている。特に30歳代および60歳代の女性で高く、9割弱となっている。

図 2.1-2 「食育」への関心度（年齢別・全体）

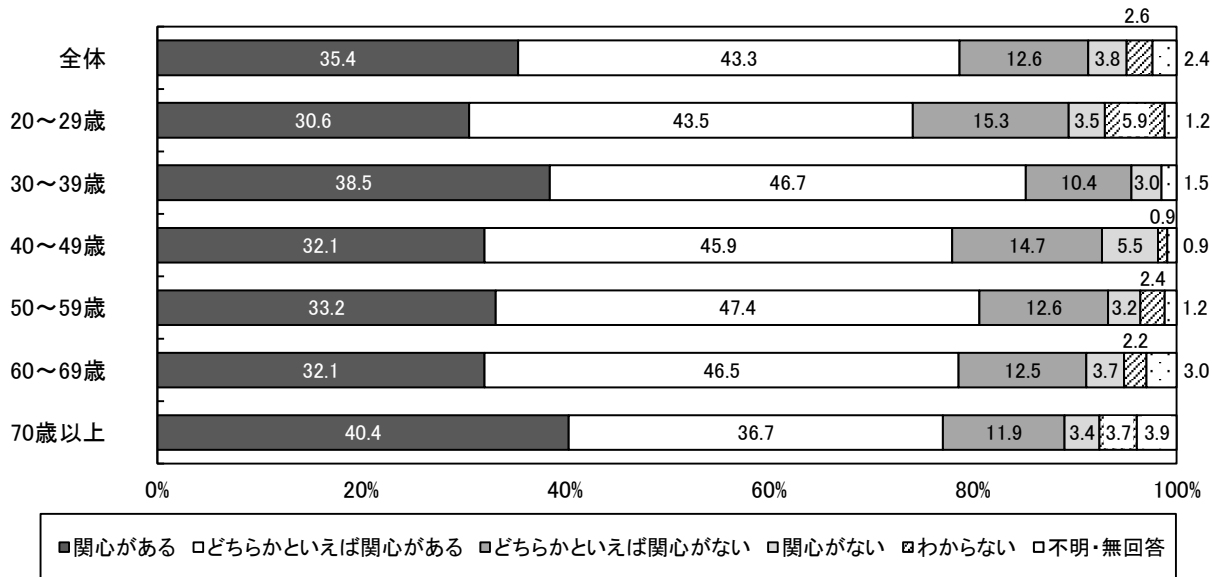
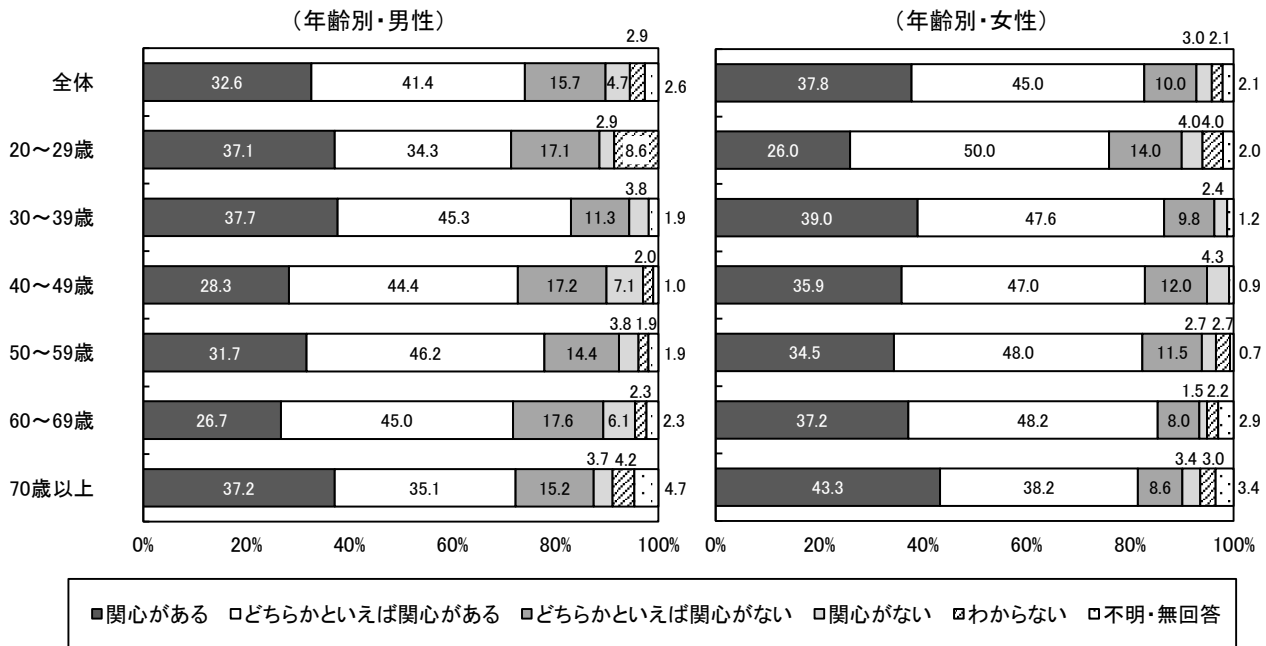


図 2.1-3 「食育」への関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

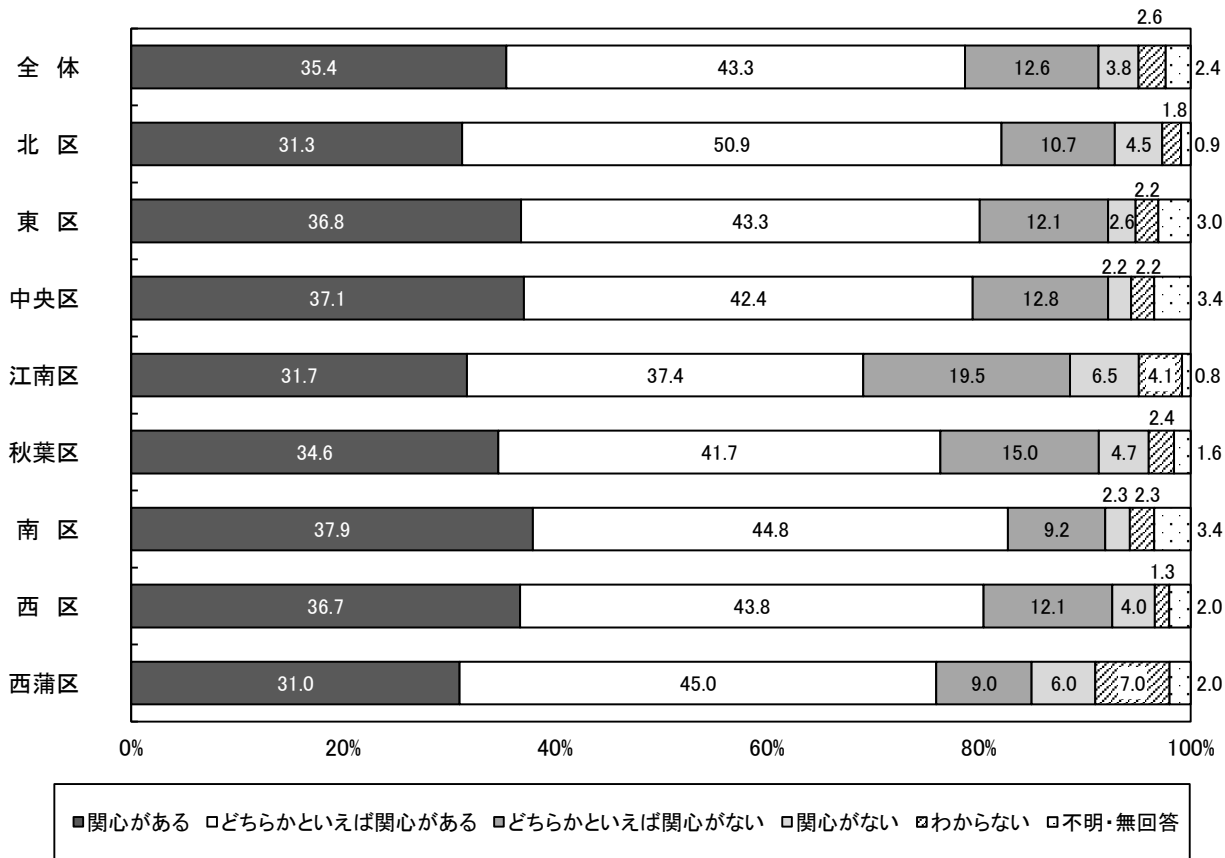
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、南区（82.8%）で最も高く、江南区（69.1%）では他の地区と比べて低くなっている。

図 2.1-4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

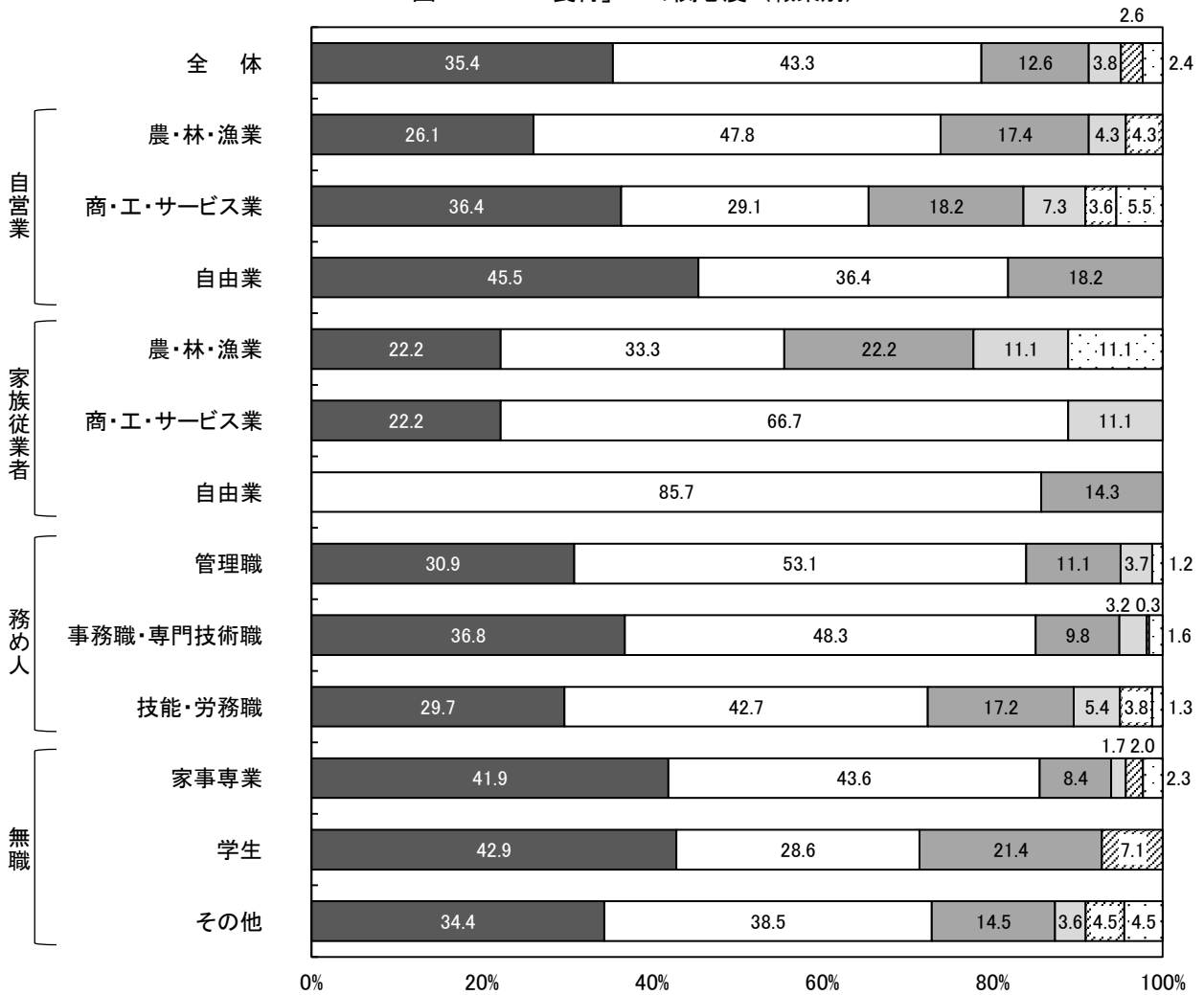
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.1-5 「食育」への関心度（職業別）



■関心がある □どちらかといえば関心がある ▨どちらかといえば関心がない □関心がない □わからない □不明・無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

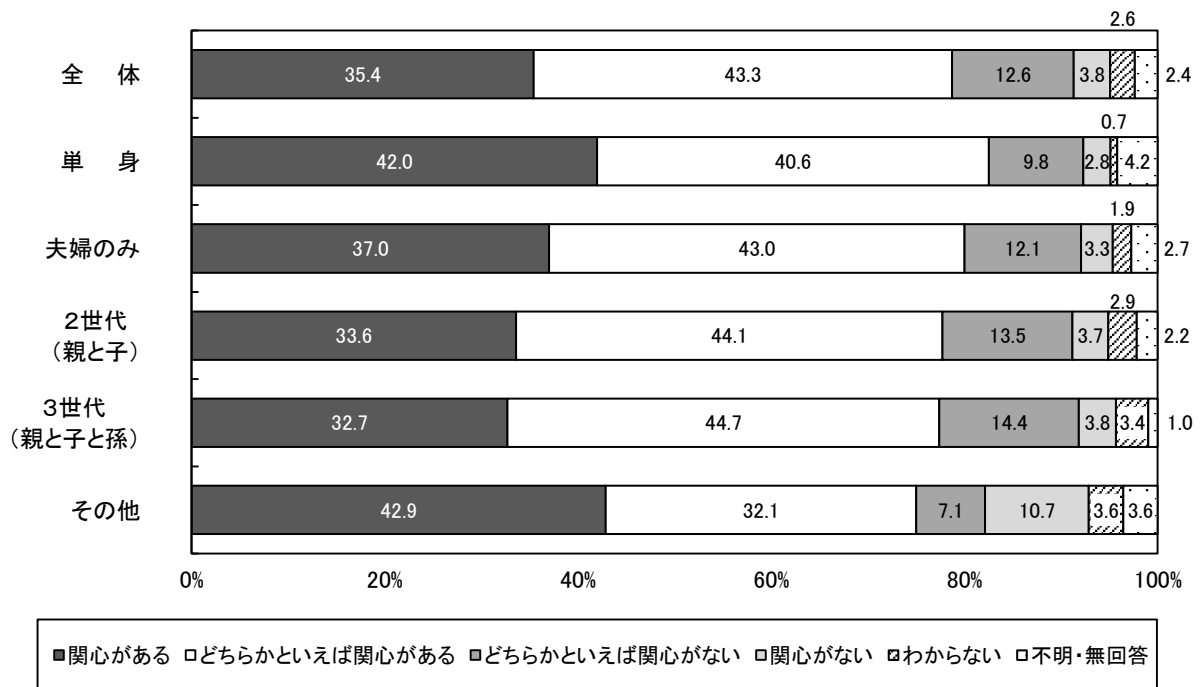
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、単身（82.5%）で最も高くなっている。

図 2.1-6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

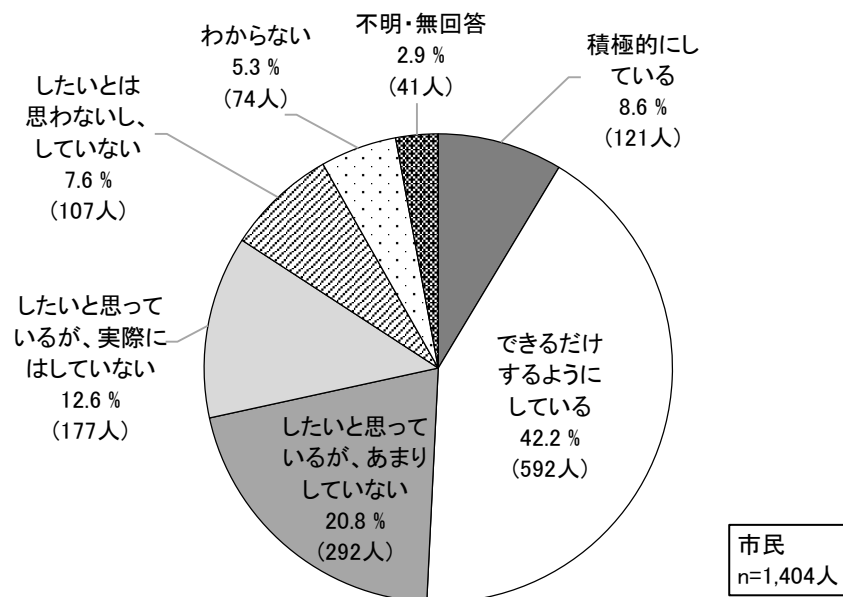
(2) 「食育」の実践度

問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

5割強が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

「積極的にしている」(8.6%)、「できるだけするようにしている」(42.2%)と回答した人を合わせた割合は5割強(50.8%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」(20.8%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(12.6%)と回答した人を合わせた割合が3割強(33.4%)で、「したいとは思わないし、していない」と回答した人は1割弱(7.6%)となっている。

図2.2 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、70歳以上で高く6割を超えている。また、40歳代以上で、女性の方が男性よりも実践度が高い。20歳代では、女性(24.0%)に比べ男性(60.0%)の実践度が大きく上回った。

図 2.2-2 「食育」の実践度 (年齢別・全体)

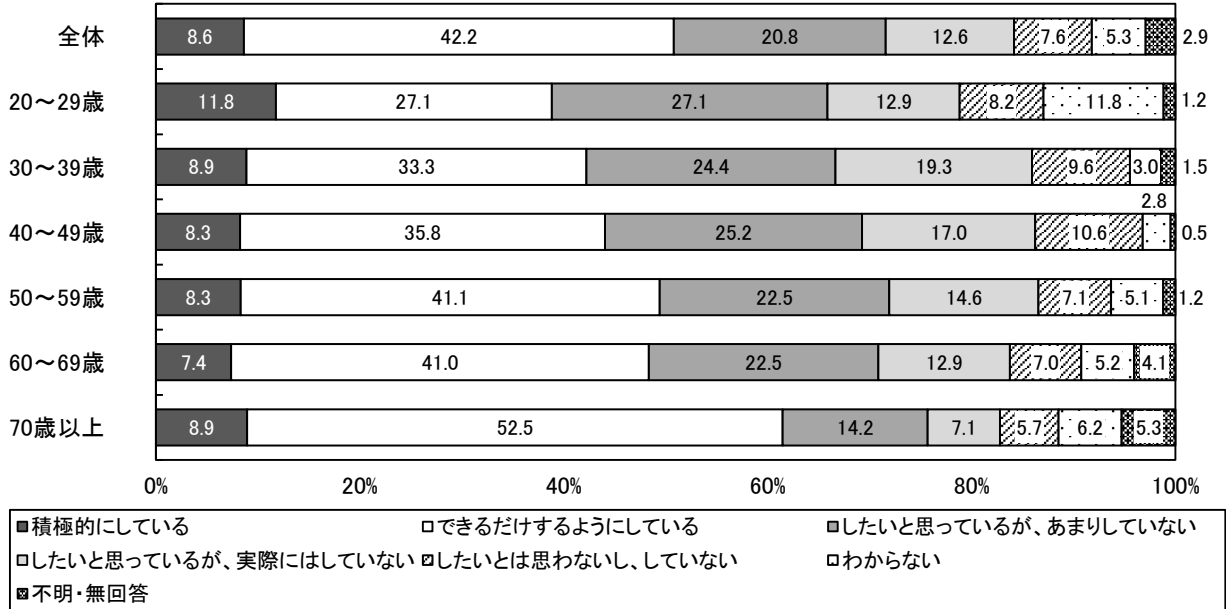
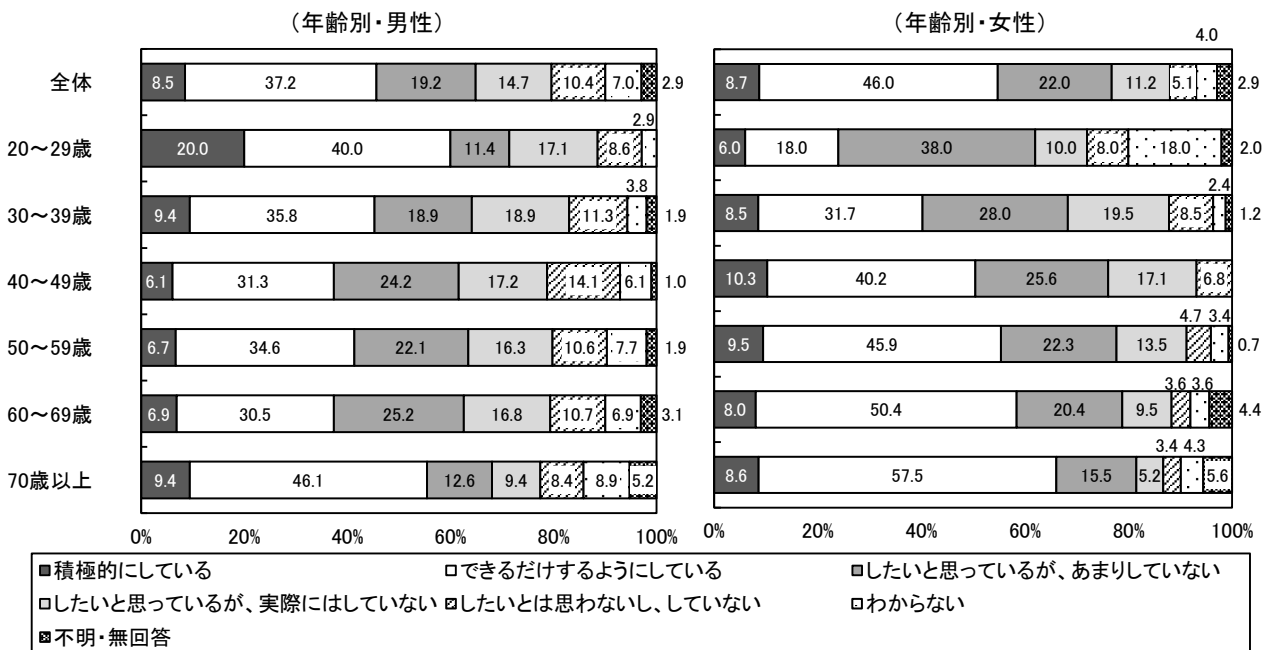


図 2.2-3 「食育」の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

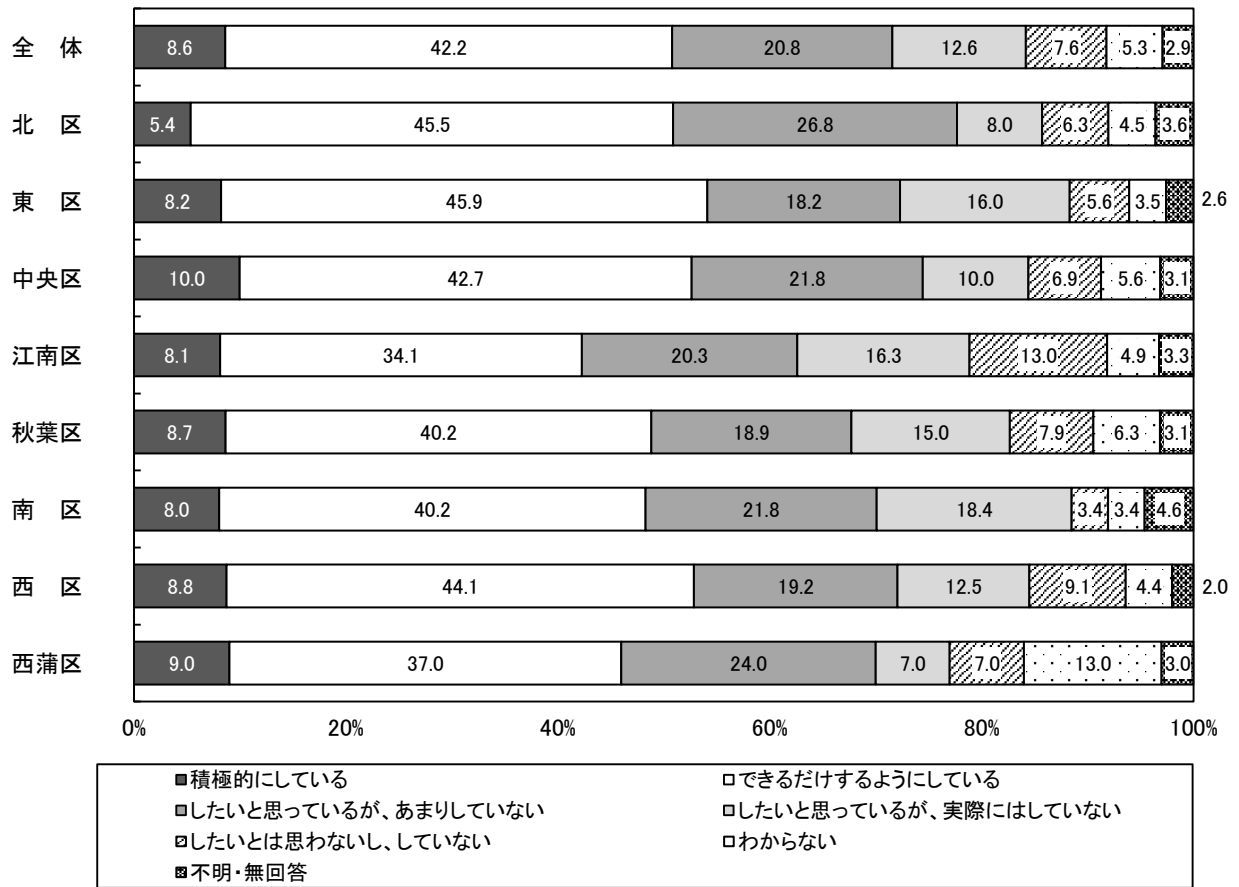
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、東区（54.1%）で最も高くなっている。江南区（42.3%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.2-4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	不明・無回答
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

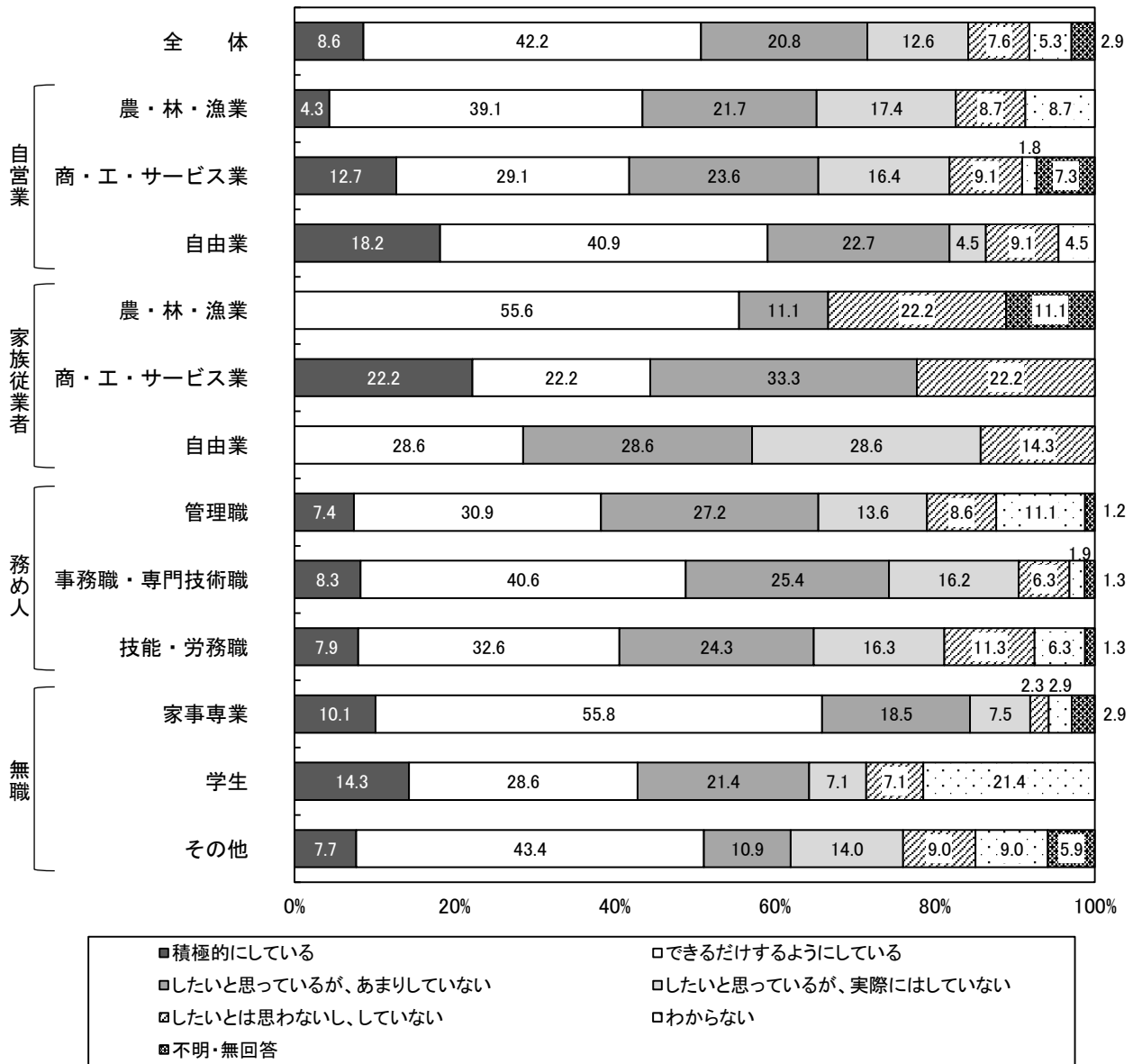
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.2-5 「食育」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

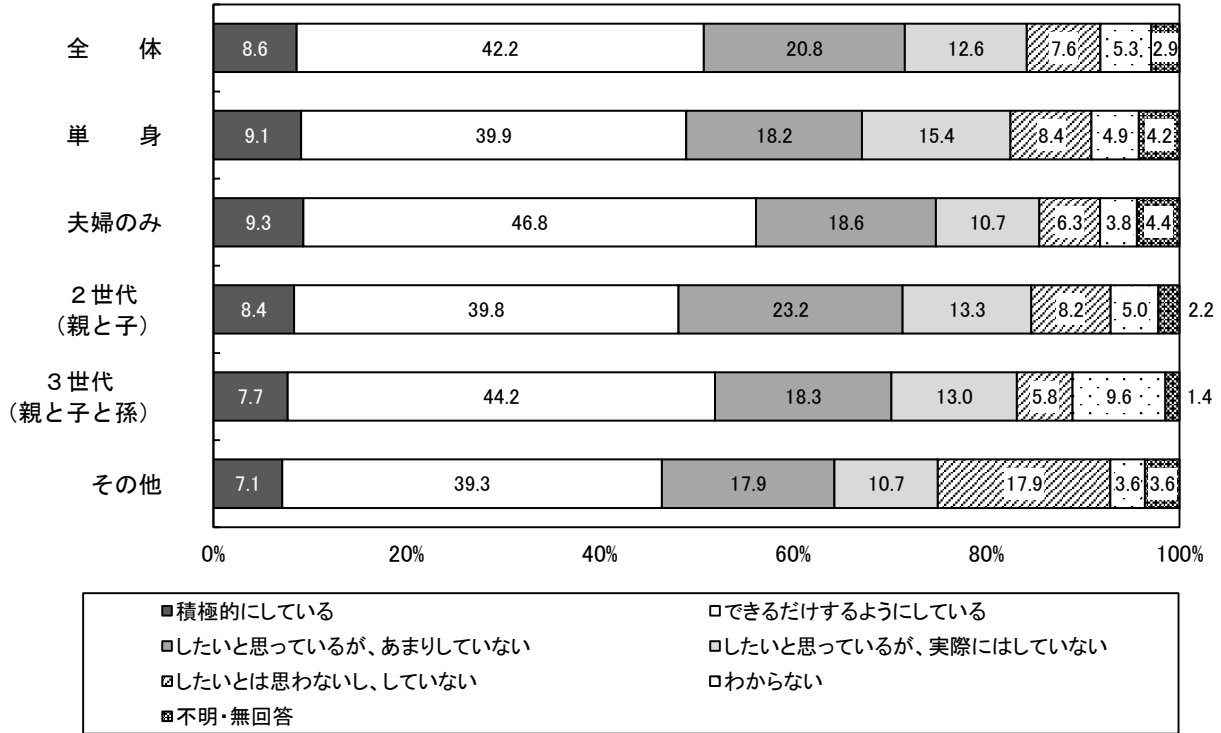
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（56.2%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.5%）で高くなっている。

図 2.2-6 「食育」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	不明・無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

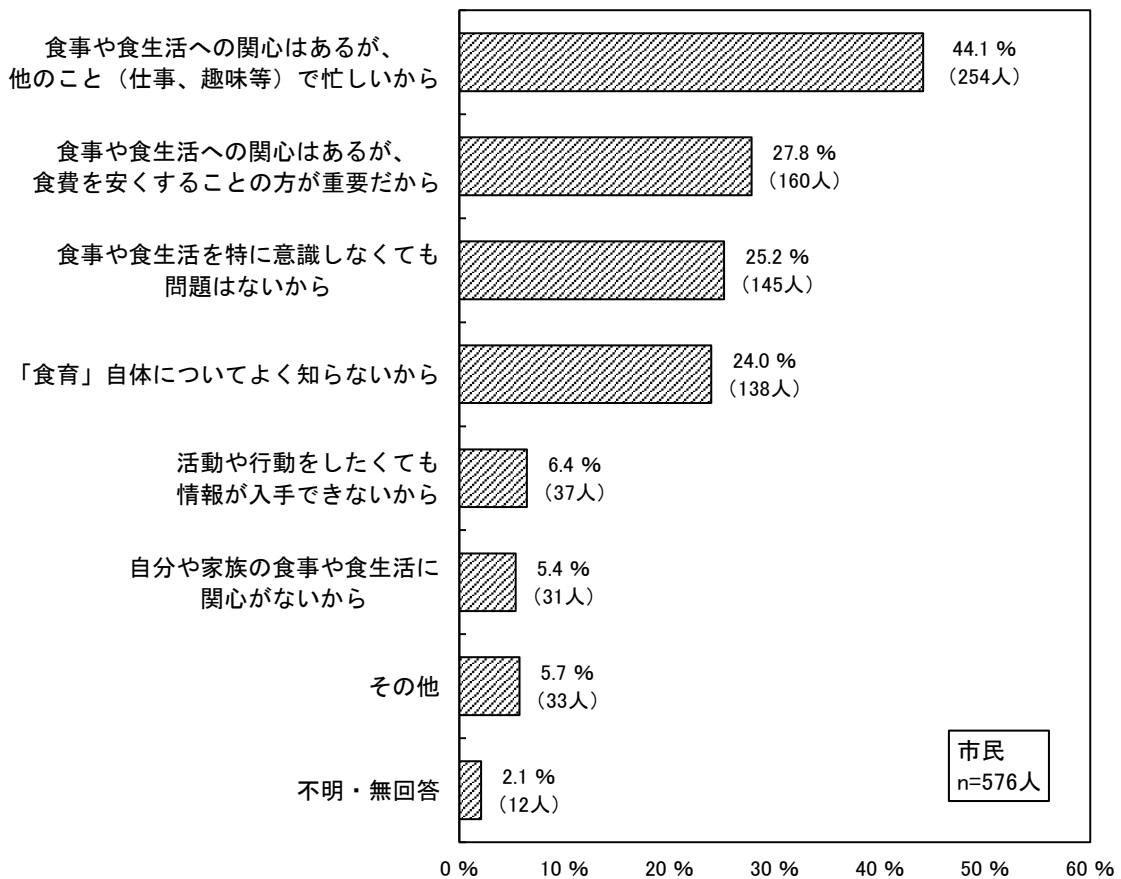
(3) 食育を実践していない理由

問8-1 あなたが「食育」を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が4割強

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（44.1%）と回答した人が最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（27.8%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（25.2%）、「『食育』自体についてよく知らないから」（24.0%）と続いている。

図 2.3 食育を実践していない理由



【性別・年齢別】

60歳代と70歳以上を除いた年代で、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。60歳代（38.3%）と70歳以上（40.7%）では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」と回答した人が最も多くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	576	44.1	27.8	25.2	24.0	6.4	5.4	5.7	2.1
20～29歳	41	73.2	34.1	17.1	22.0	2.4	4.9	4.9	0.0
30～39歳	72	52.8	36.1	13.9	26.4	4.2	6.9	2.8	0.0
40～49歳	115	53.0	30.4	15.7	24.3	4.3	1.7	7.0	2.6
50～59歳	112	59.8	17.9	16.1	19.6	5.4	3.6	6.3	1.8
60～69歳	115	34.8	31.3	38.3	27.8	9.6	4.3	4.3	0.0
70歳以上	118	14.4	24.6	40.7	22.9	9.3	10.2	7.6	5.9
年齢不明	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	272	42.6	31.6	23.9	22.1	7.7	7.4	4.4	1.5
20～29歳	13	84.6	7.7	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0
30～39歳	26	46.2	19.2	23.1	30.8	11.5	0.0	0.0	0.0
40～49歳	55	47.3	18.2	32.7	23.6	3.6	7.3	5.5	3.6
50～59歳	51	56.9	23.5	21.6	11.8	5.9	5.9	3.9	2.0
60～69歳	69	39.1	43.5	20.3	29.0	7.2	11.6	4.3	0.0
70歳以上	58	19.0	48.3	22.4	17.2	10.3	8.6	6.9	1.7
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	「食育」自体についてよく知らないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	その他	無回答
計	294	45.9	33.0	24.1	19.7	5.4	3.1	7.1	2.4
20～29歳	28	67.9	39.3	21.4	21.4	3.6	0.0	7.1	0.0
30～39歳	46	56.5	39.1	28.3	10.9	6.5	4.3	4.3	0.0
40～49歳	58	60.3	37.9	15.5	13.8	1.7	0.0	8.6	0.0
50～59歳	60	61.7	23.3	18.3	10.0	3.3	1.7	8.3	1.7
60～69歳	46	28.3	34.8	39.1	30.4	6.5	0.0	4.3	0.0
70歳以上	56	8.9	28.6	25.0	33.9	10.7	10.7	8.9	10.7
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

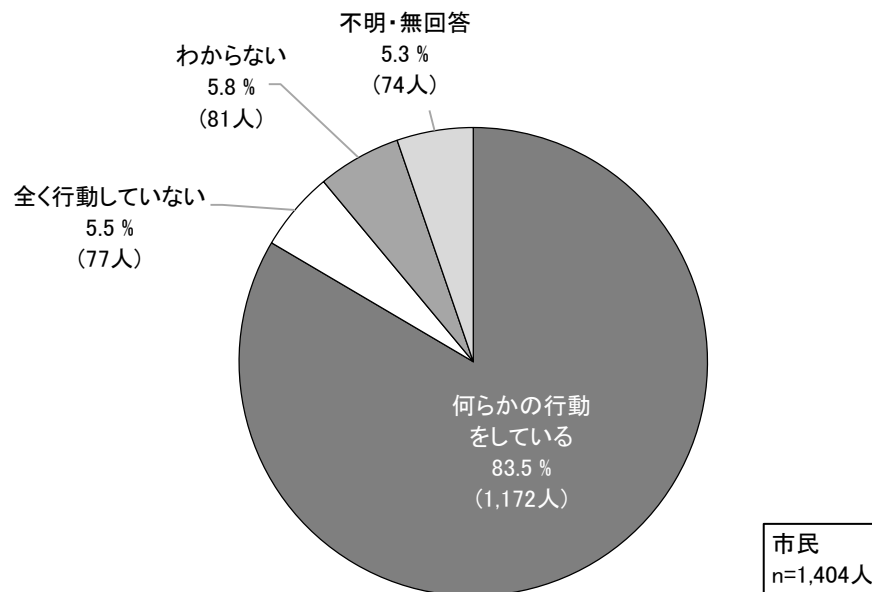
(4) 食べ物を無駄にしないための行動

問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。
(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (〇は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は8割強(83.5%)となっている。「全く行動していない」と回答した人の割合は1割弱(5.5%)となっている。

図 2.4 食べ物を無駄にしないための行動



【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、50歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、20歳代を除いた各年代で、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.4-2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

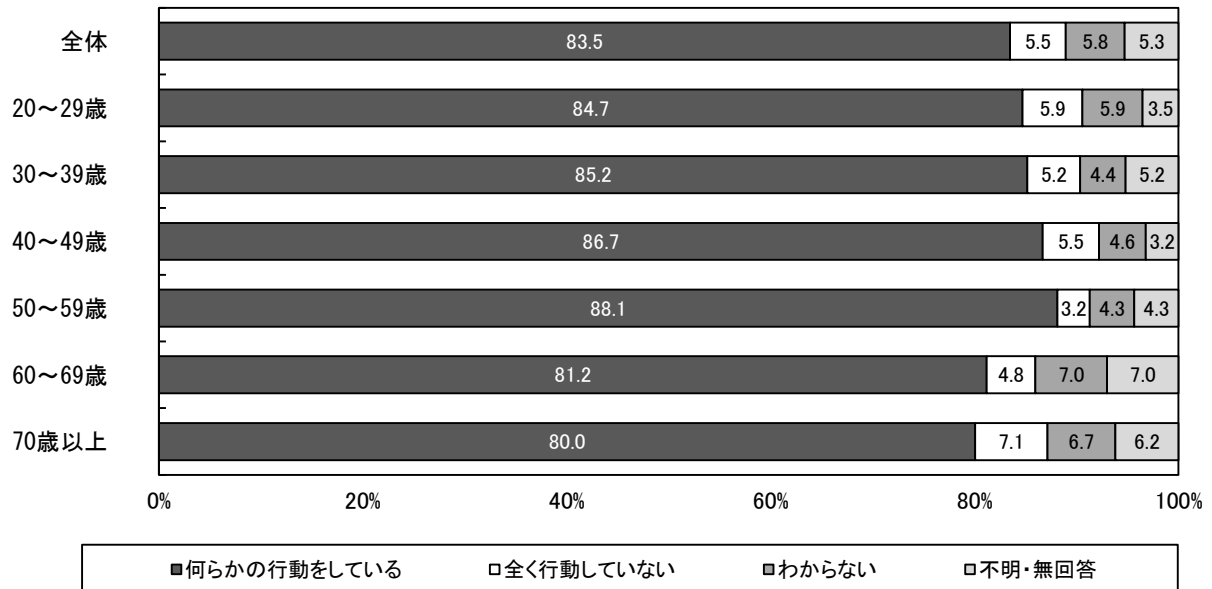
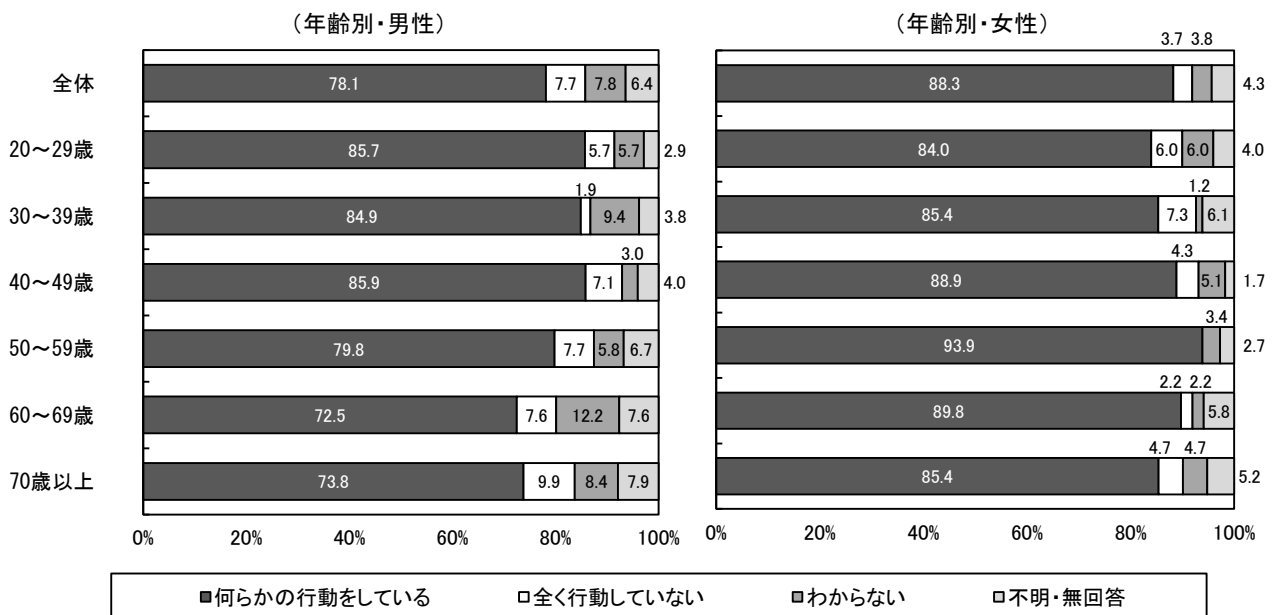


図 2.4-3 食べ物を無駄にしないための行動



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

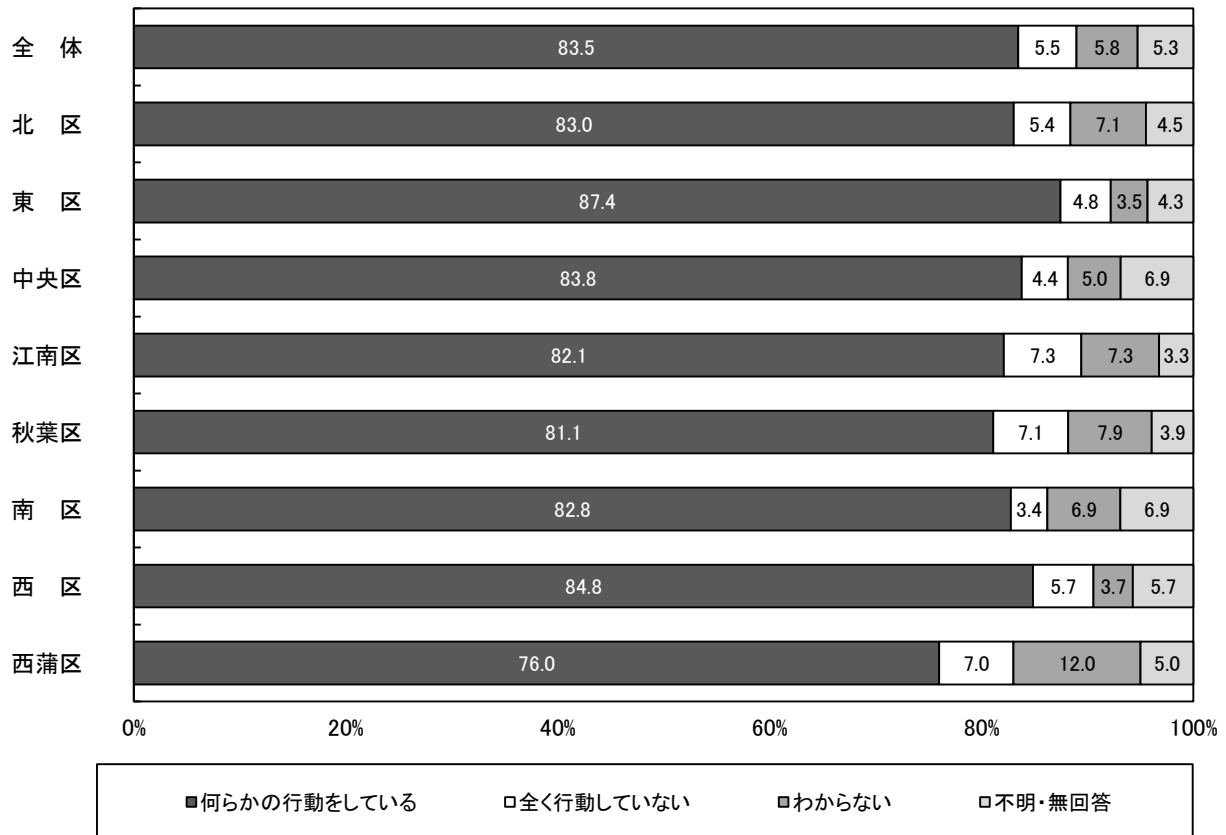
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、東区（87.4%）で最も高く、9割弱となっている。西蒲区（76.0%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.4-4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

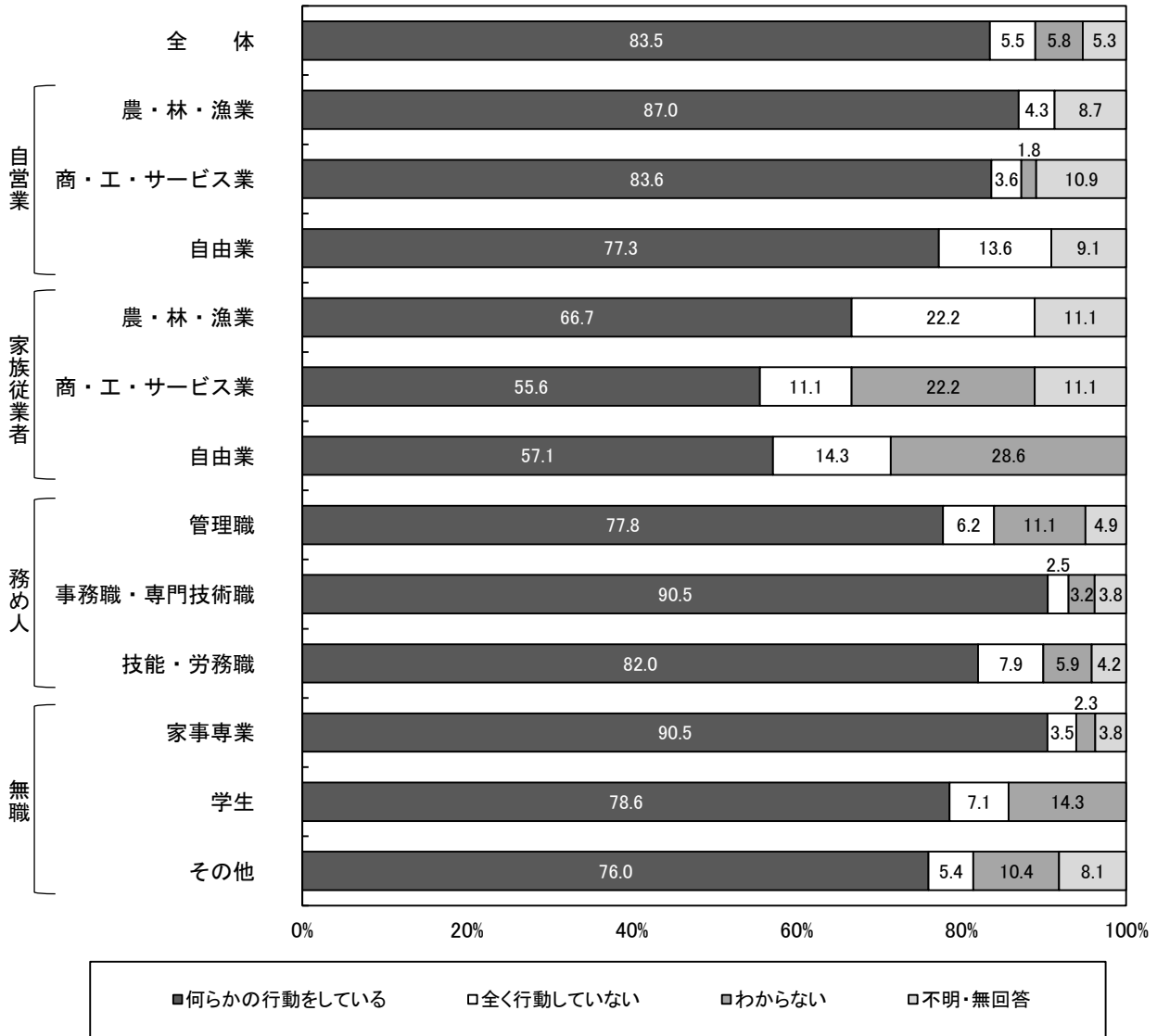
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.4-5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

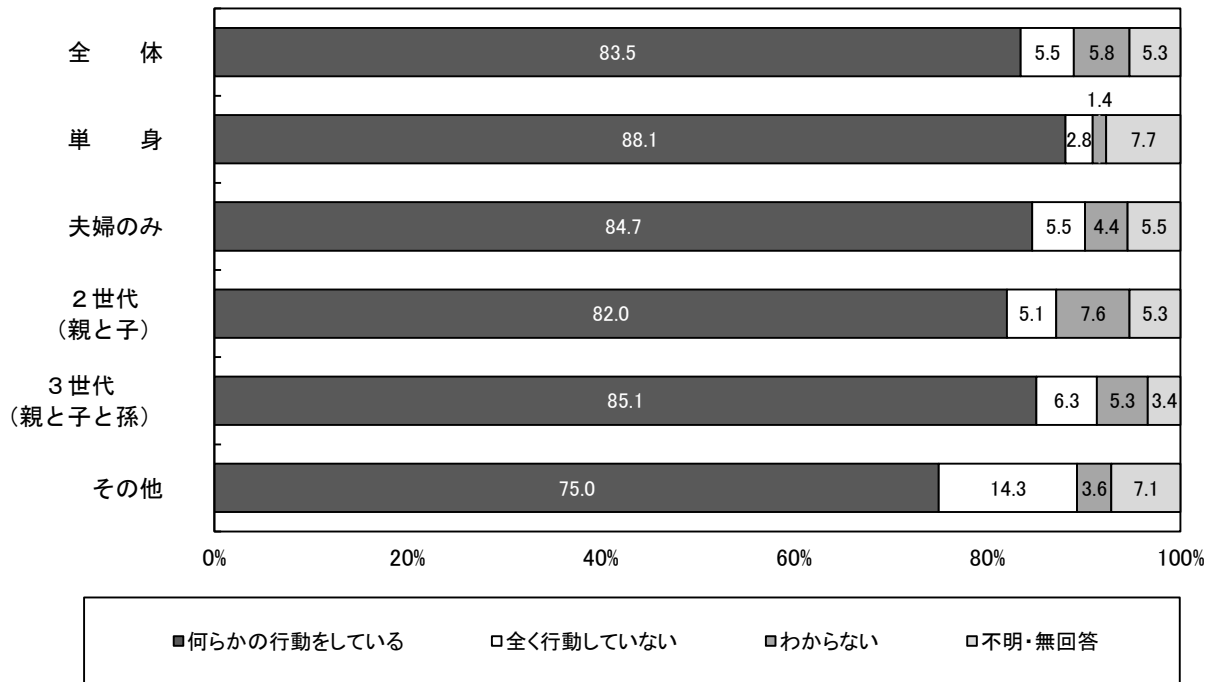
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、単身（88.1%）で最も高くなっている。

図 2.4-6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

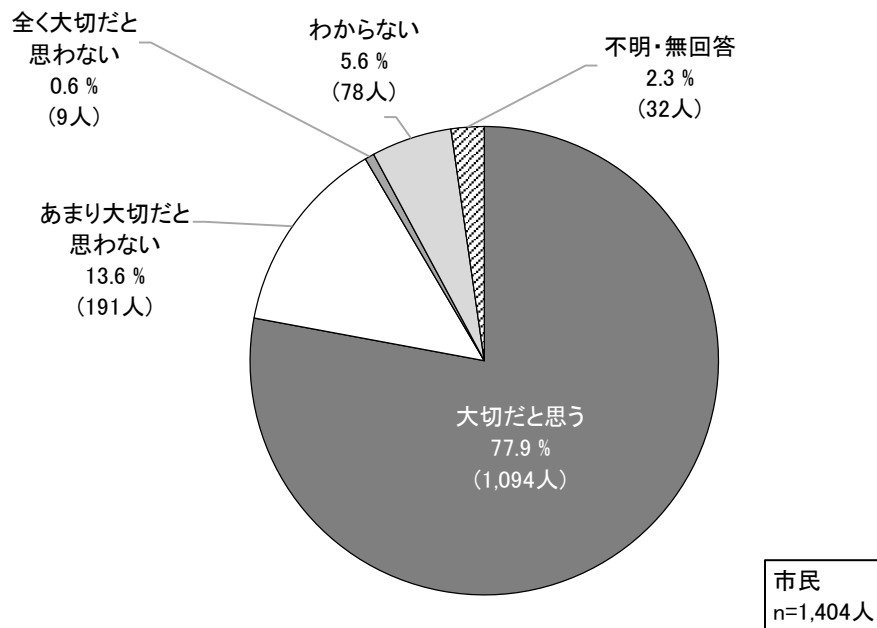
(5) 伝統的な料理や作法の大切さ

問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。(〇は1つだけ)

8割弱が「大切だと思う」と回答

「大切だと思う」と回答した人の割合は8割弱(77.9%)となっている。「あまり大切だと思わない」(13.6%)、「全く大切だと思わない」(0.6%)と回答した人を合わせた割合が1割強(14.2%)となっている。

図 2.5 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、30歳代（84.4%）で最も高く、8割強を占めている。60歳代以上は他の年齢と比べて低くなっている。また、50歳代を除き、男性より女性で「大切だと思う」と答えた割合が高い。

図 2.5-2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

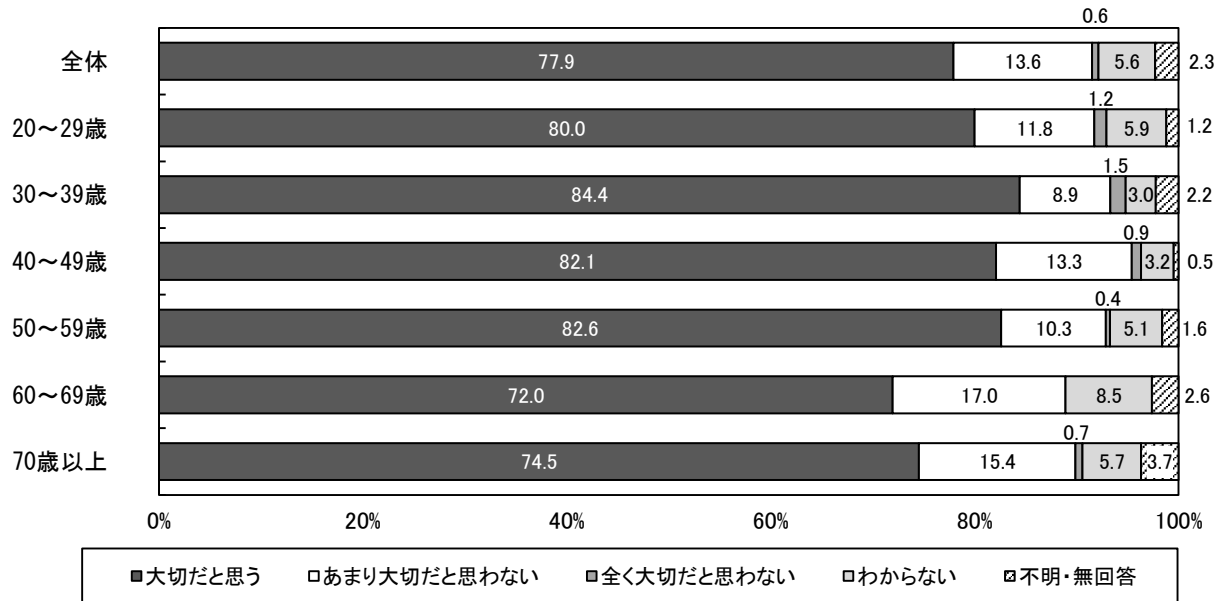
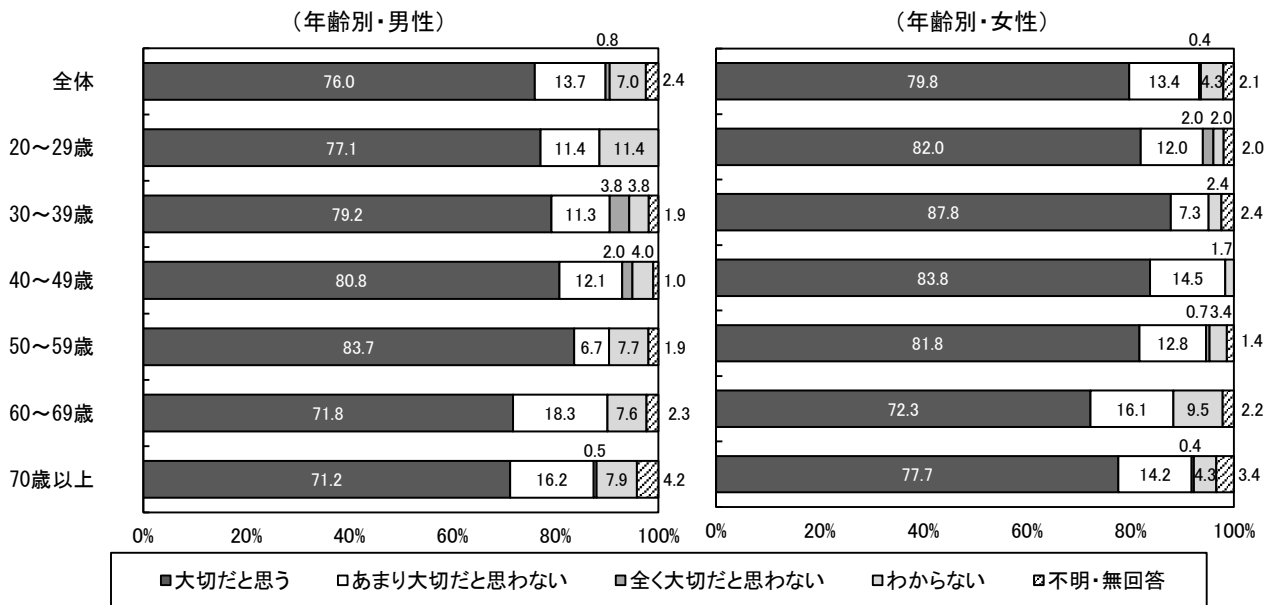


図 2.5-3 伝統的な料理や作法の大切さ



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

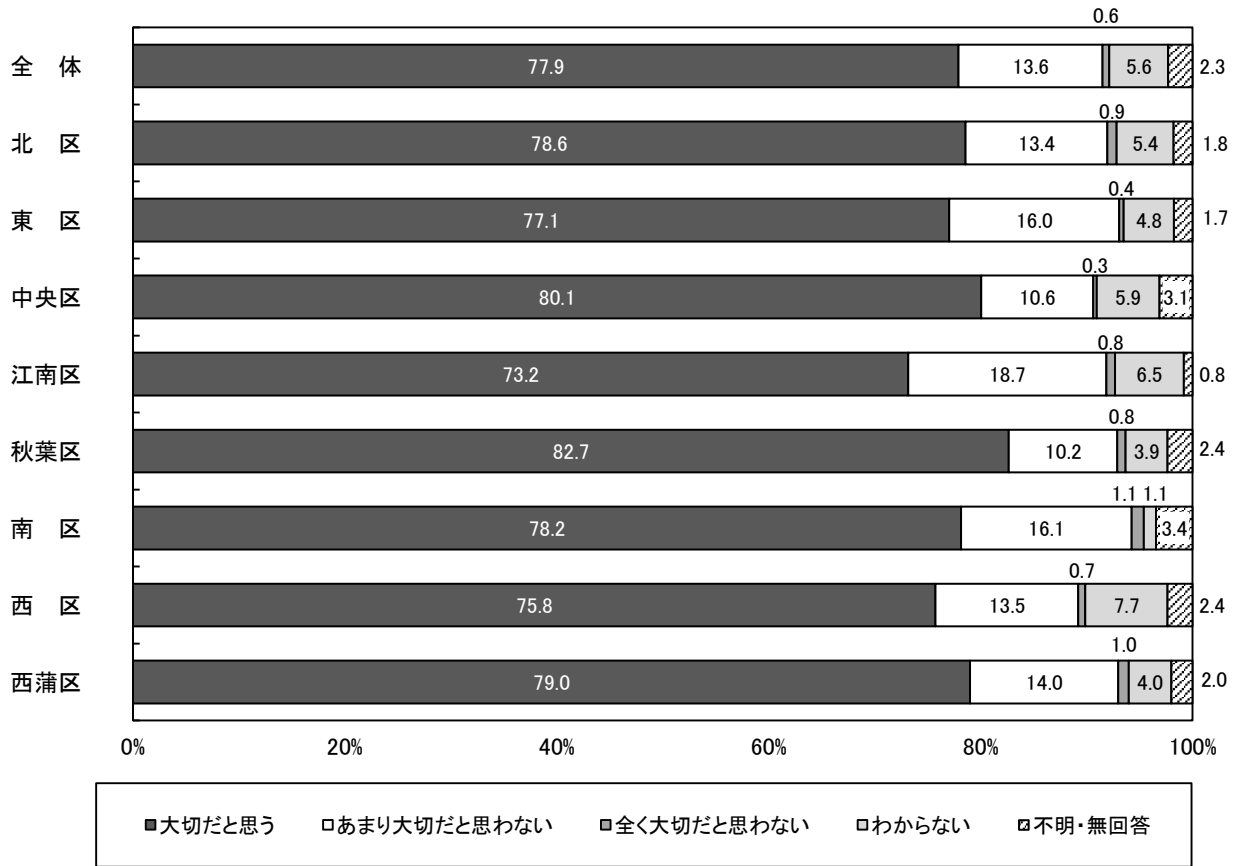
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、秋葉区（82.7%）で最も高く、8割強となっている。江南区（73.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.5-4 伝統的な料理や作法の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

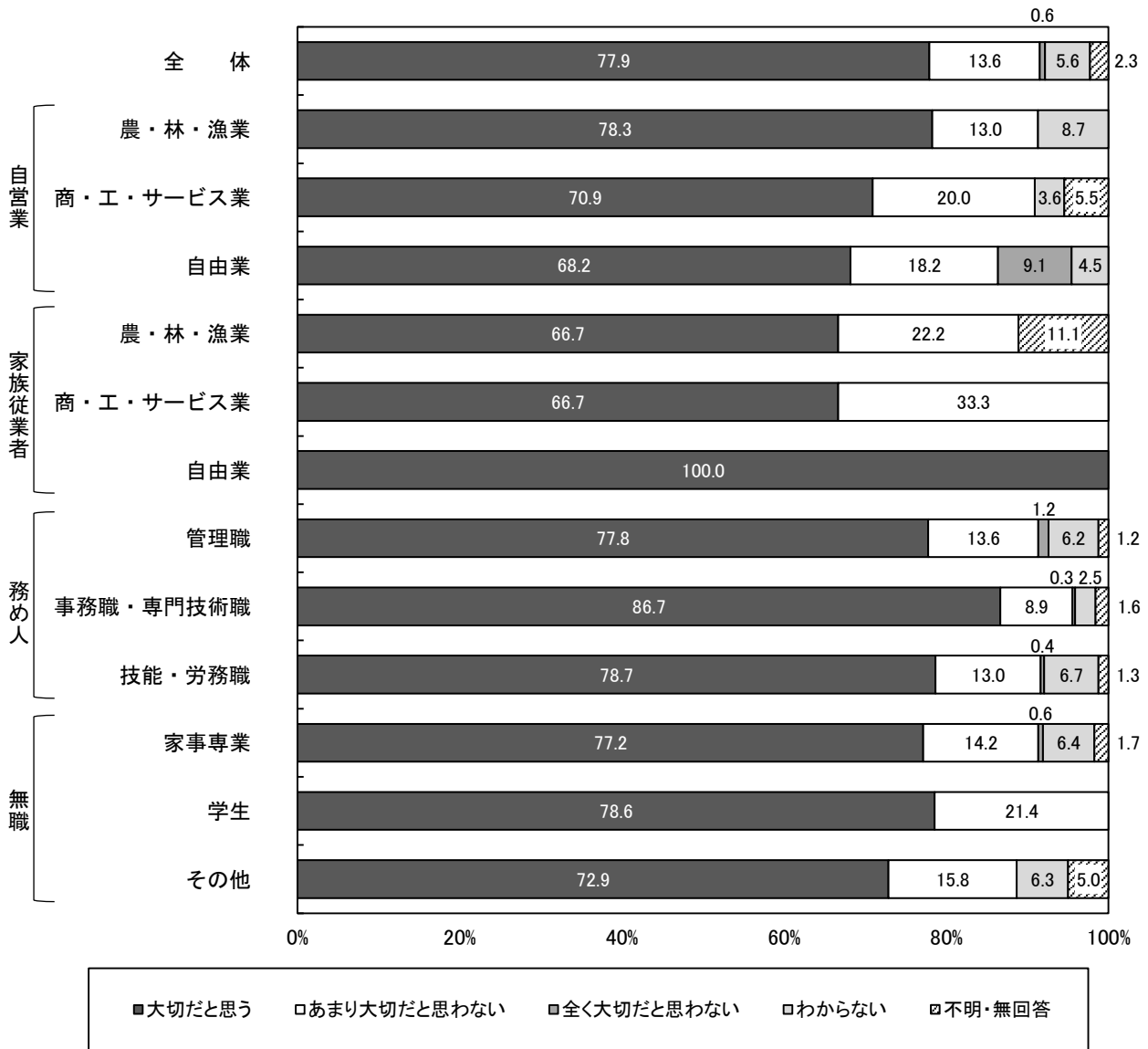
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5-5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

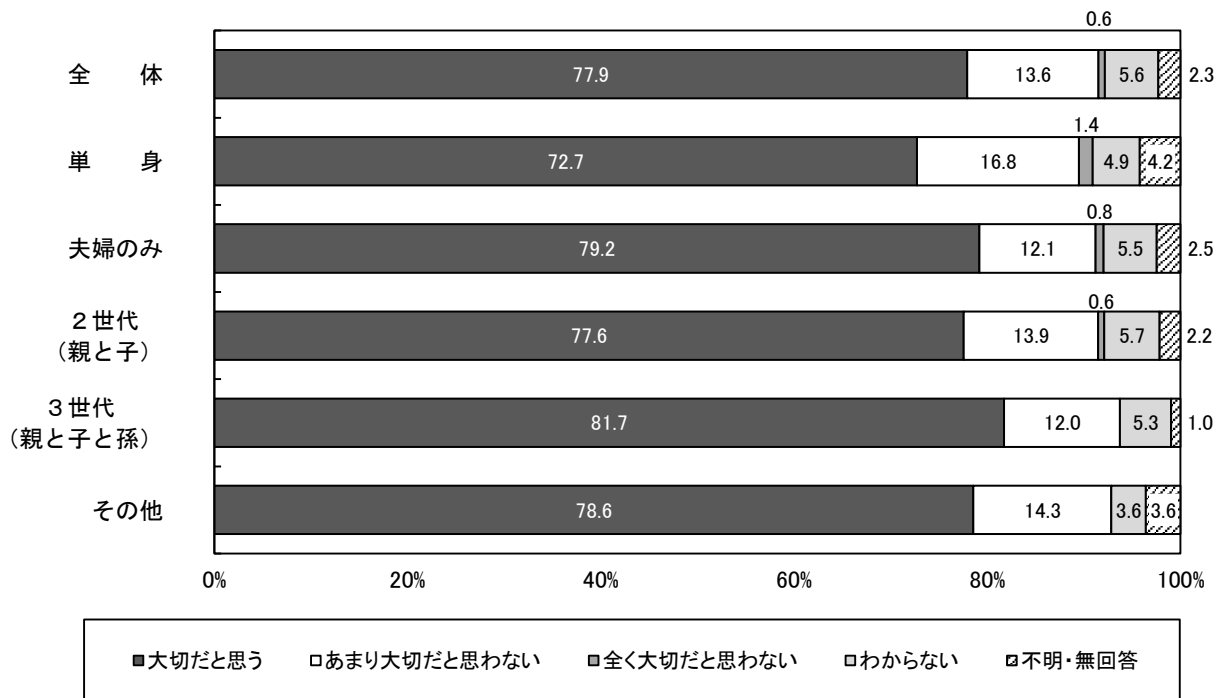
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（81.7%）で最も高くなっている。一方、単身（72.7%）ではやや低くなっている。

図 2.5-6 伝統的な料理や作法の大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

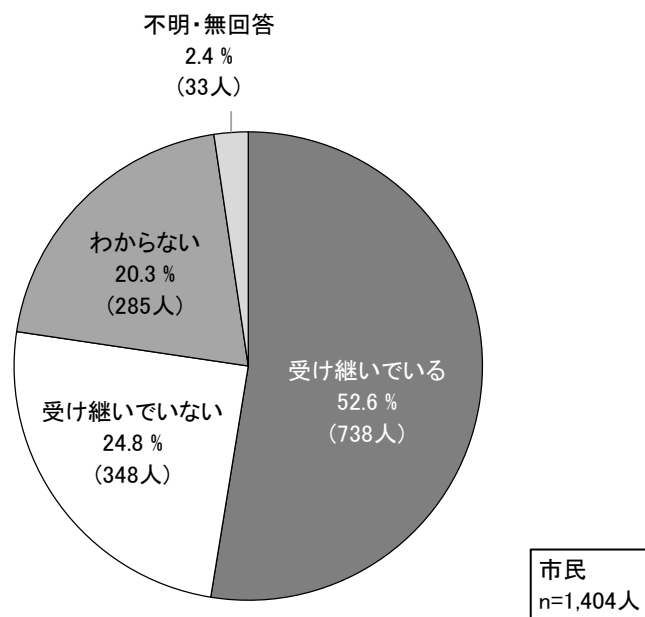
(6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

問11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つだけ)

5割強が「受け継いでいる」と回答

「受け継いでいる」と回答した人の割合は5割強(52.6%)となっている。「受け継いでいない」と回答した人の割合が3割弱(24.8%)で、「わからない」と回答した人は約2割(20.3%)となっている。

図 2.6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、70歳以上で最も多く、約6割を占めている。一方、「受け継いでいない」は40歳代で約3割、「わからない」は20歳代で3割強となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 2.6-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

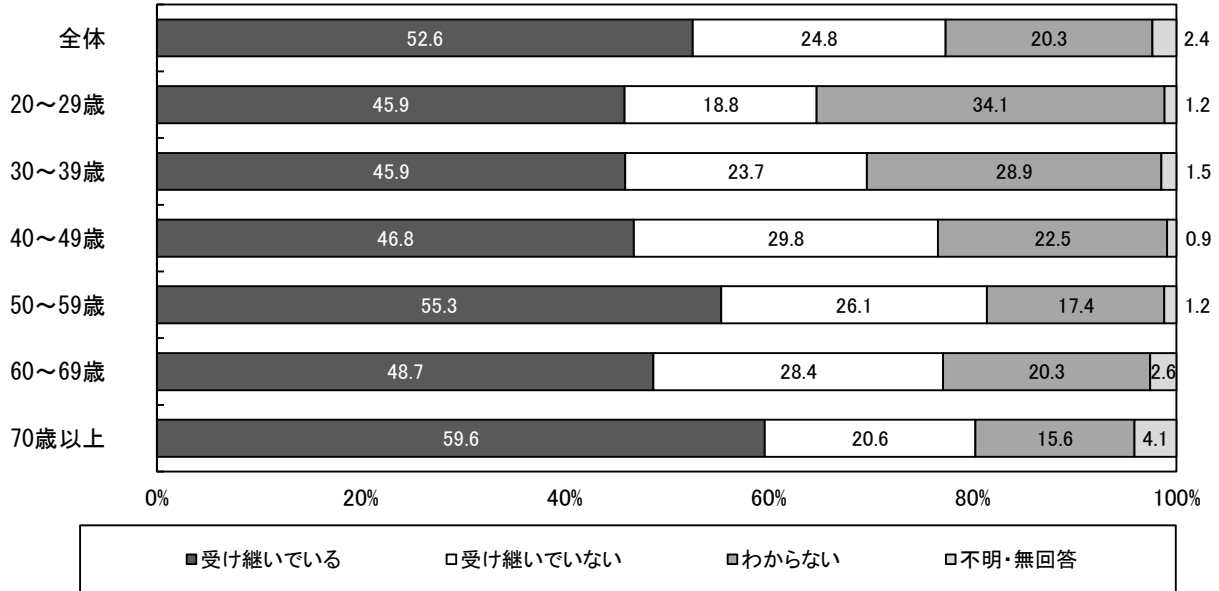
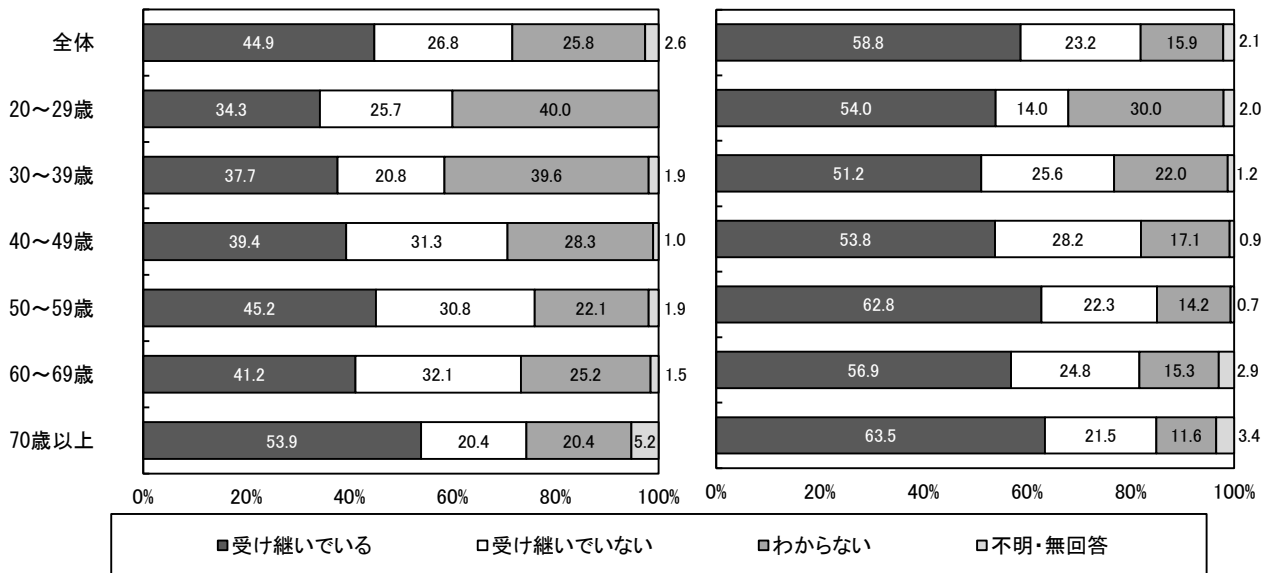


図 2.6-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

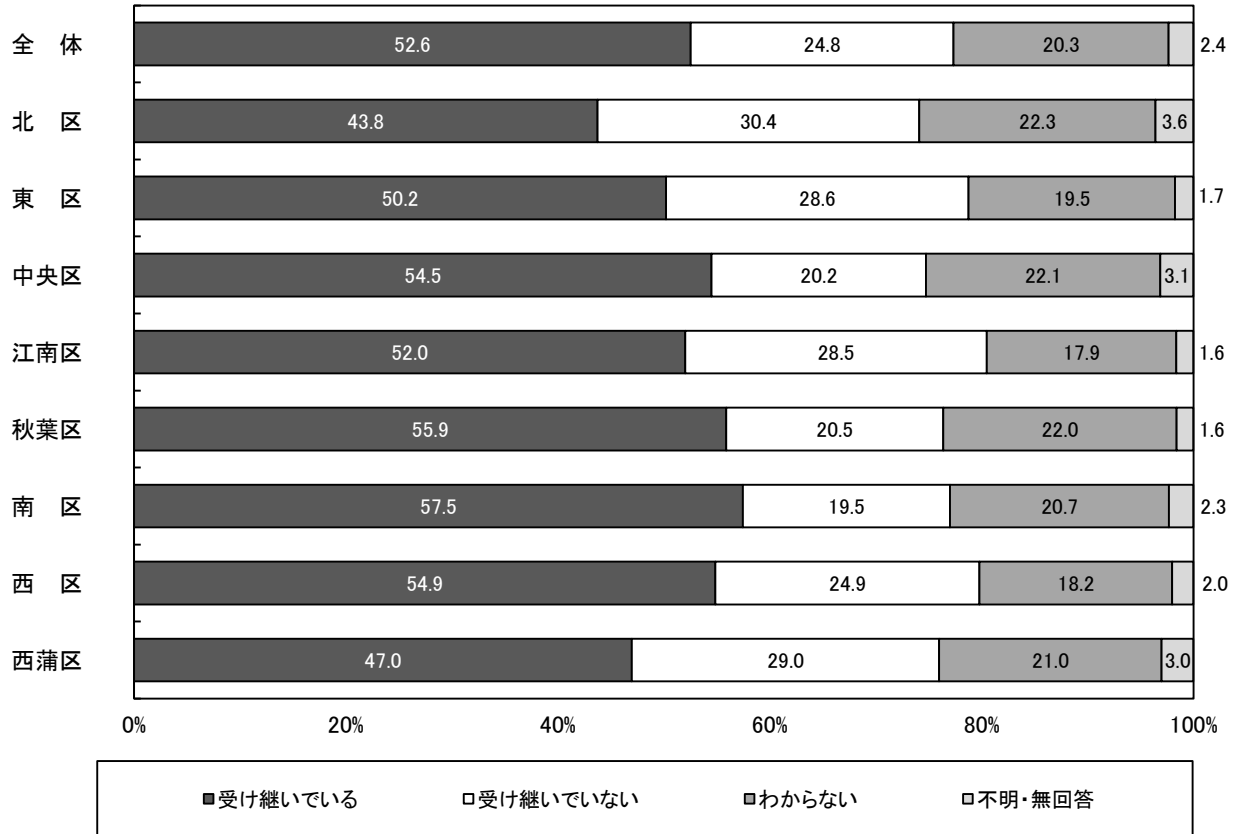
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、南区（57.5%）で最も高く、6割弱となっている。北区（43.8%）、西蒲区（47.0%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.6-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

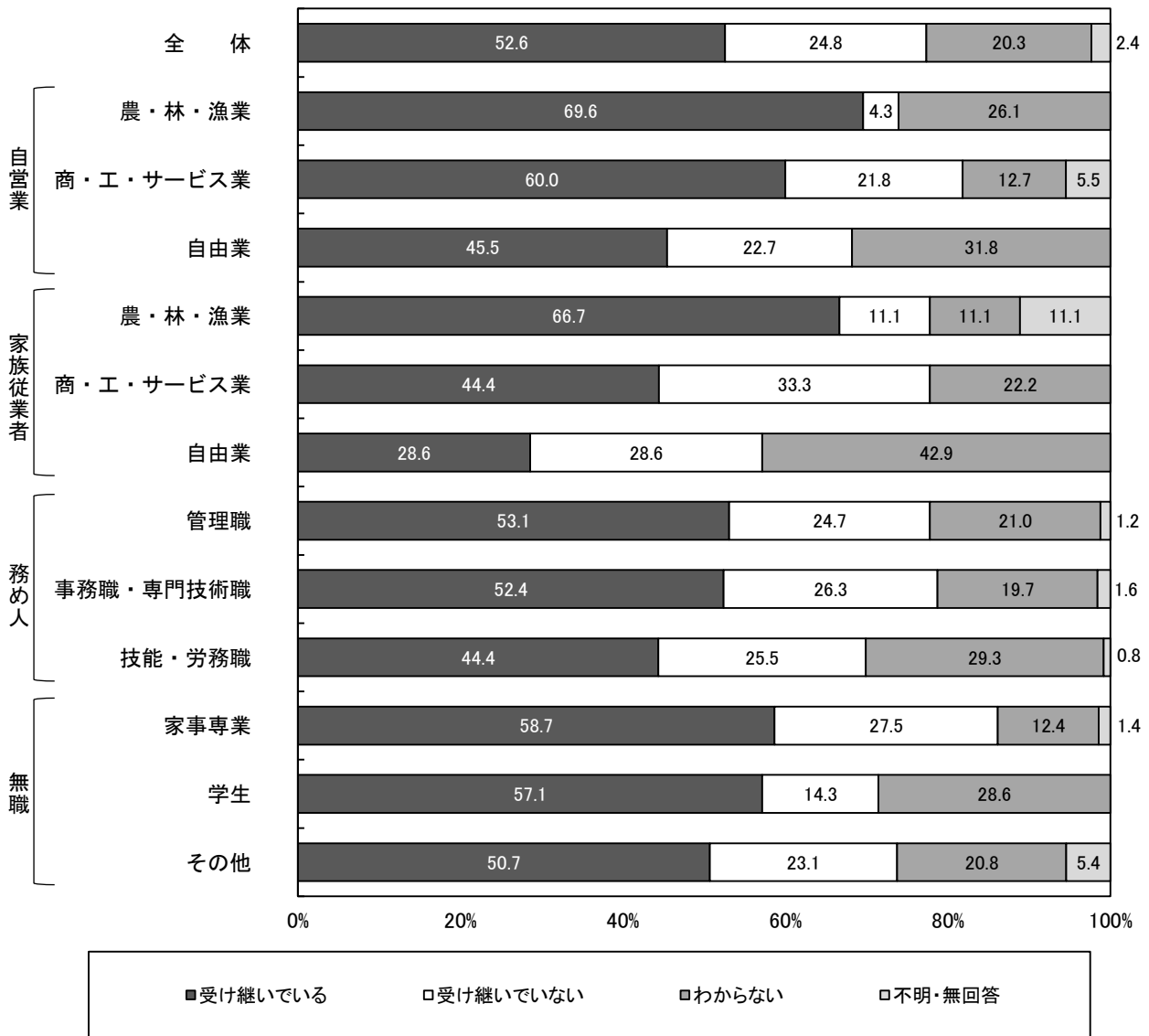
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.6-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

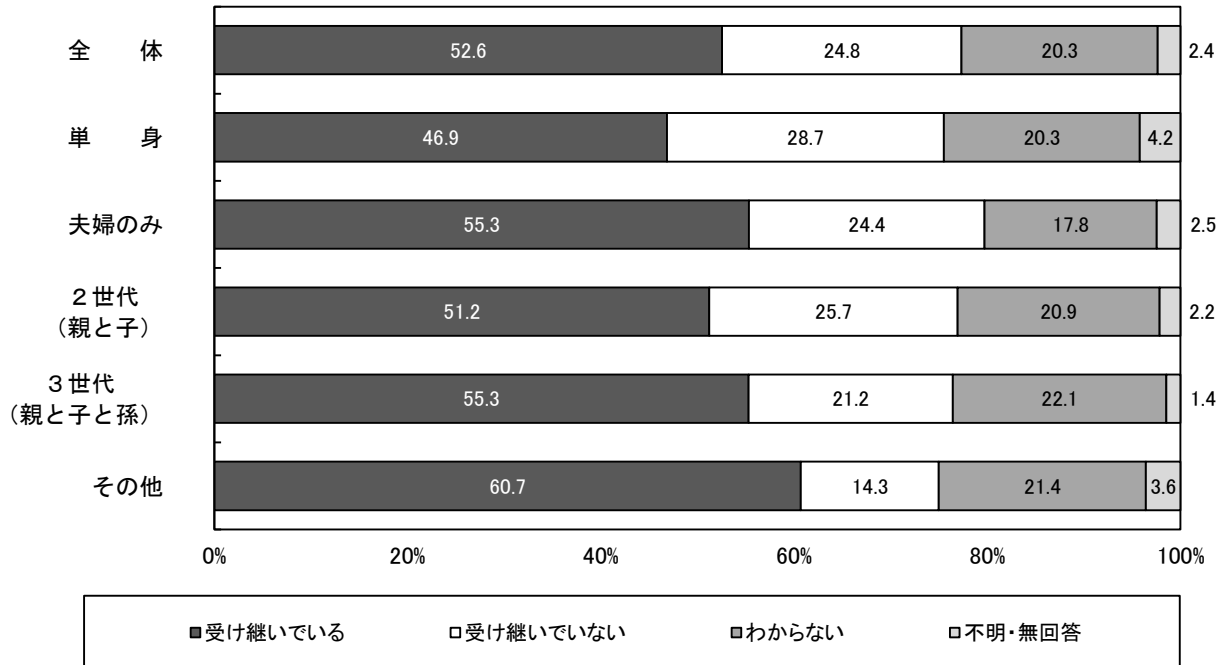
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、単身を除く家族構成で5割を超えている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（22.1%）で高くなっている。

図 2.6-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

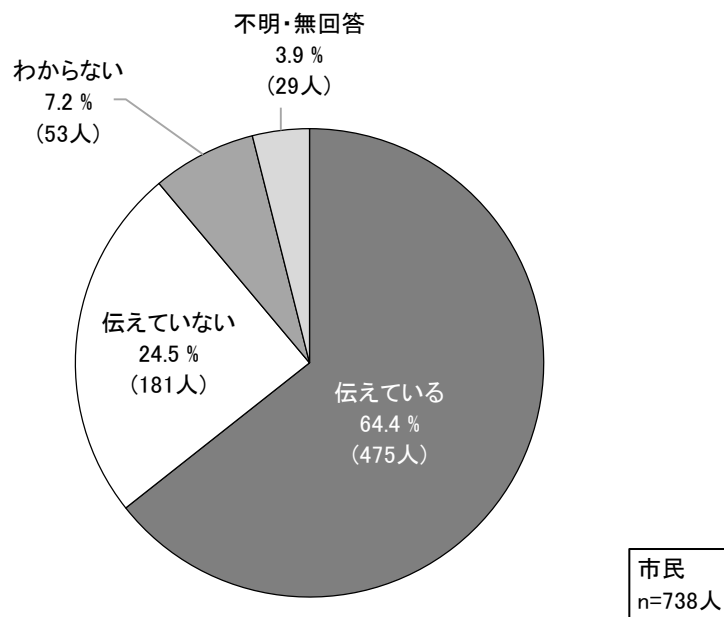
(7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

問11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。
(〇は1つだけ)

6割強が「伝えている」と回答

「伝えている」と回答した人の割合は6割強（64.4%）となっている。「伝えていない」と回答した人の割合が3割弱（24.5%）で、「わからない」と回答した人は1割弱（7.2%）となっている。

図 2.7 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、70歳代(71.2%)で最も高くなっているが、20歳代(10.3%)では他の年代に比べかなり低くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代(43.6%)で4割強と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、30歳代と70歳以上で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。

図 2.7-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

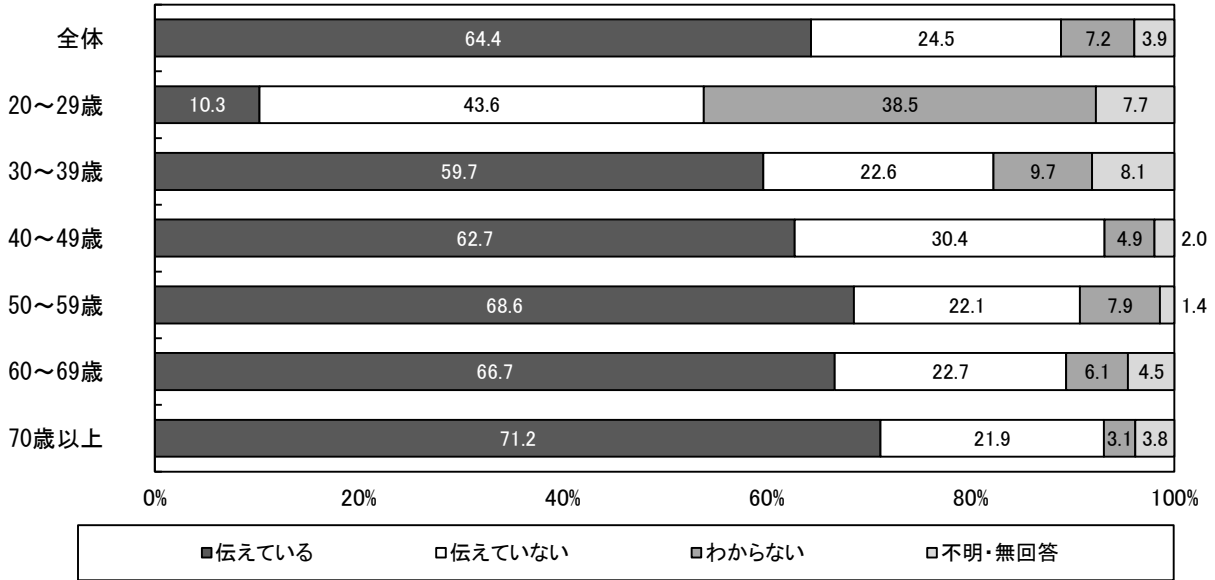
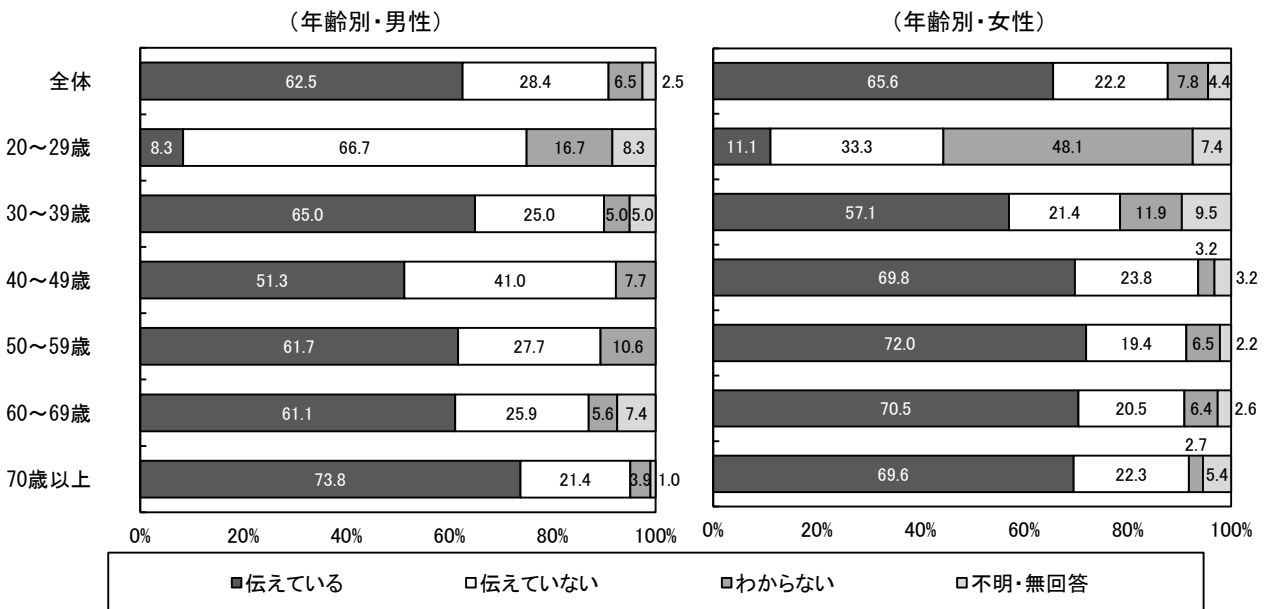


図 2.7-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	738	39	62	102	140	132	260	3
男性	275	12	20	39	47	54	103	0
女性	451	27	42	63	93	78	148	0

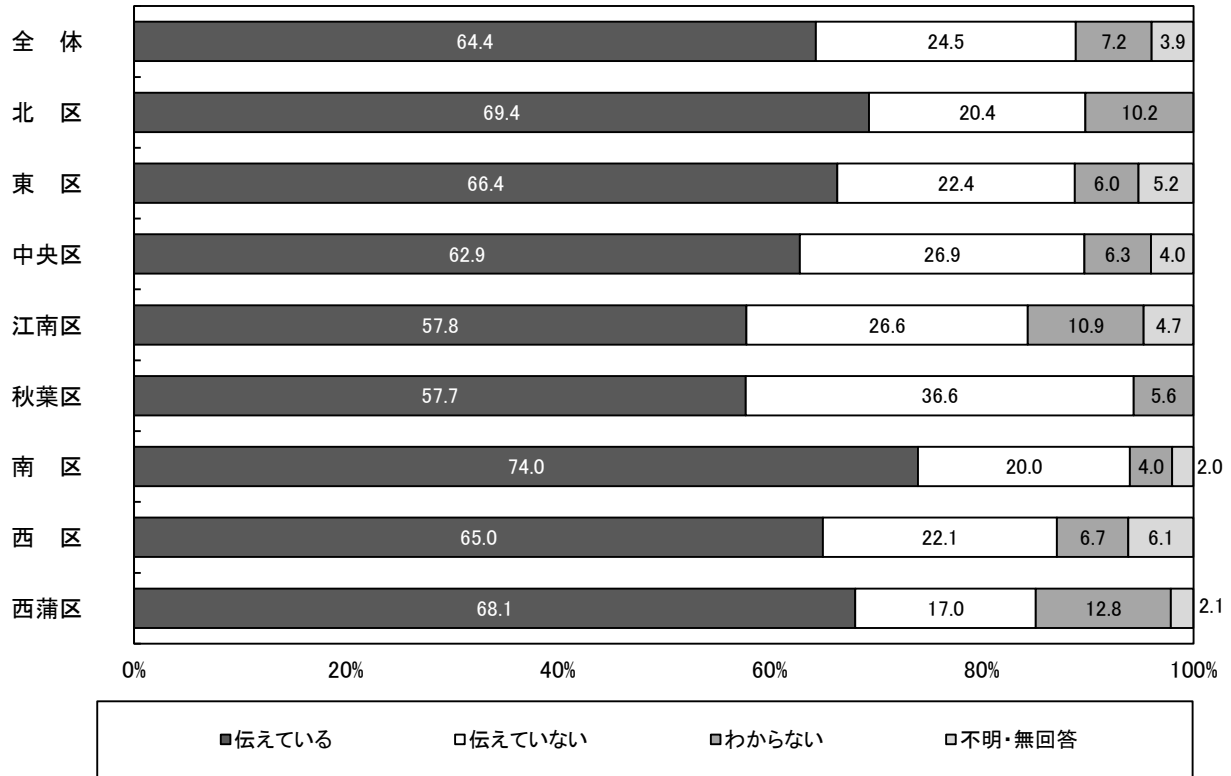
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、南区（74.0%）で最も高く、次いで北区（69.4%）となっている。一方、「伝えていない」は秋葉区（36.6%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 2.7-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
738	49	116	175	64	71	50	163	47	3

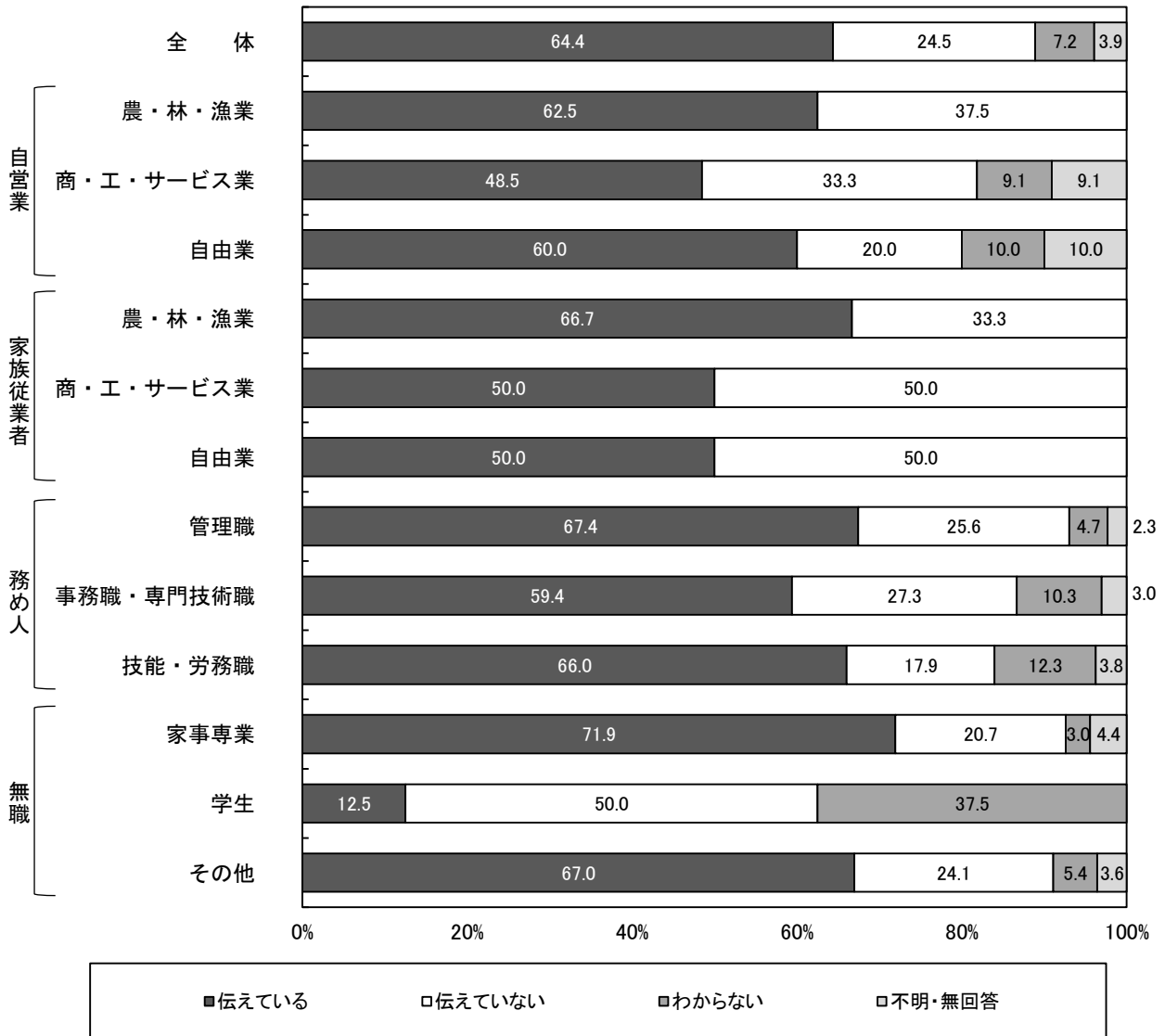
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.7-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
738	16	33	10	6	4	2

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
43	165	106	203	8	112	30

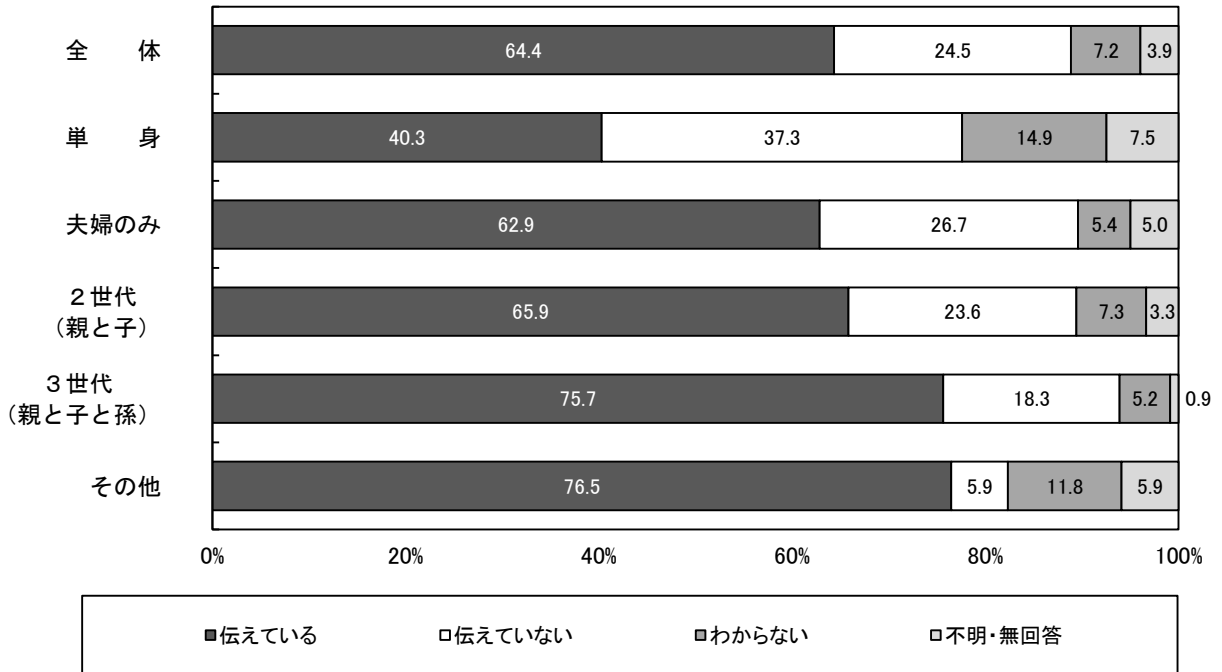
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、その他（76.5%）や3世代（親と子と孫）（75.7%）で高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（37.3%）で最も高くなっている。

図 2.7-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
738	67	202	331	115	17	6

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

3 日ごろの食生活の状況

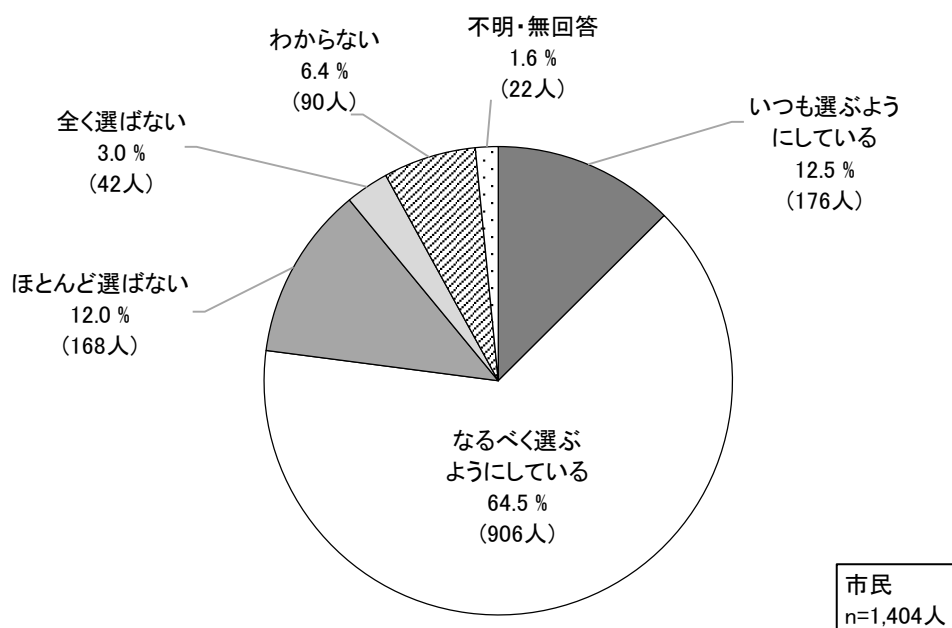
(1) 「地産地消」の実践度

問12 あなたは食材を選ぶ際に、身近な場所をとれたものを選ぶようにはしていますか。
(○は1つだけ)

8割弱が「いつも選ぶようにはしている」「なるべく選ぶようにはしている」と回答

「いつも選ぶようにはしている」(12.5%)、「なるべく選ぶようにはしている」(64.5%)と回答した人を合わせた割合は8割弱(77.1%)となっている。「ほとんど選ばない」(12.0%)、「全く選ばない」(3.0%)と回答した人を合わせた割合が2割弱(15.0%)で、「わからない」と回答した人は1割弱(6.4%)となっている。

図 3.1 「地産地消」の実践度



【性別・年齢別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、50歳代（82.6%）、70歳以上（81.7%）で高く、8割強となっている。一方、20歳代では「ほとんど選ばない」、「全く選ばない」を合わせた割合が比較的高く、地産地消を実践していない人が3割弱となっている。

性別では、20歳代を除いた各年代で、女性の方が男性よりも地産地消の実践度は高くなっている。

図 3.1-2 「地産地消」の実践度（年齢別・全体）

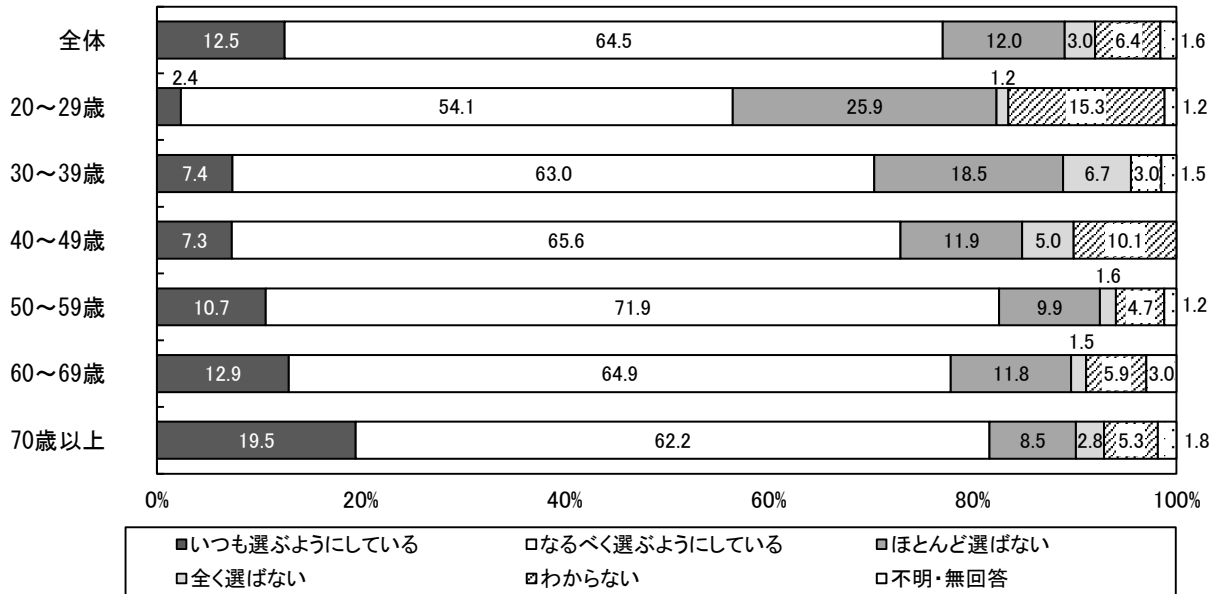
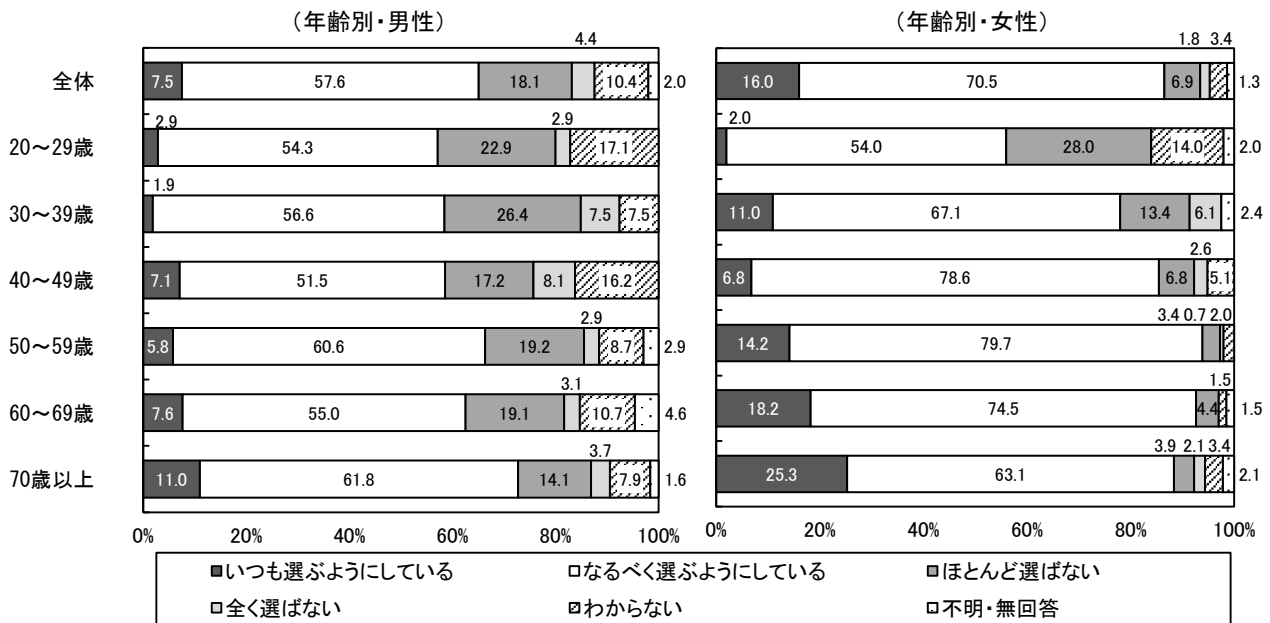


図 3.1-3 「地産地消」の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

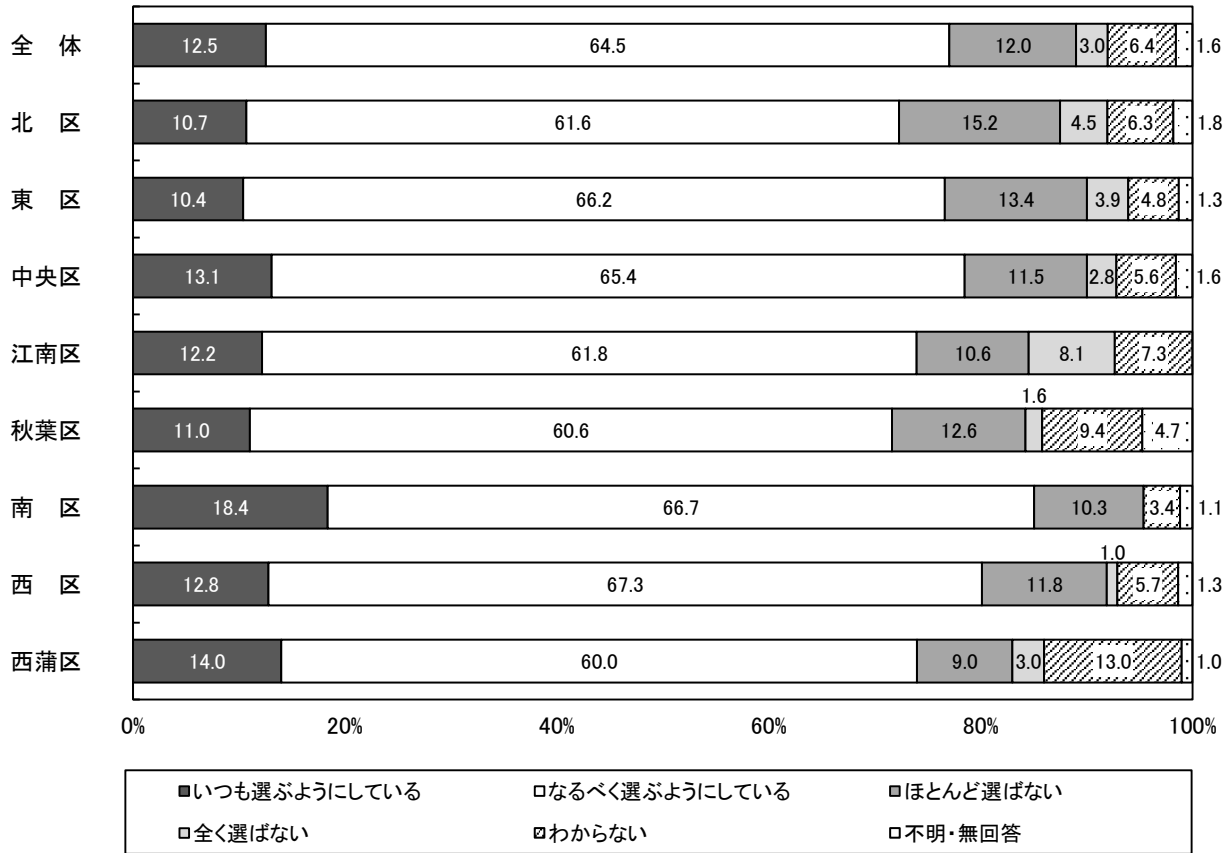
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、南区（85.1%）で高く、9割弱となっている。次いで西区（80.1%）が約8割と高い。

図 3.1-4 「地産地消」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

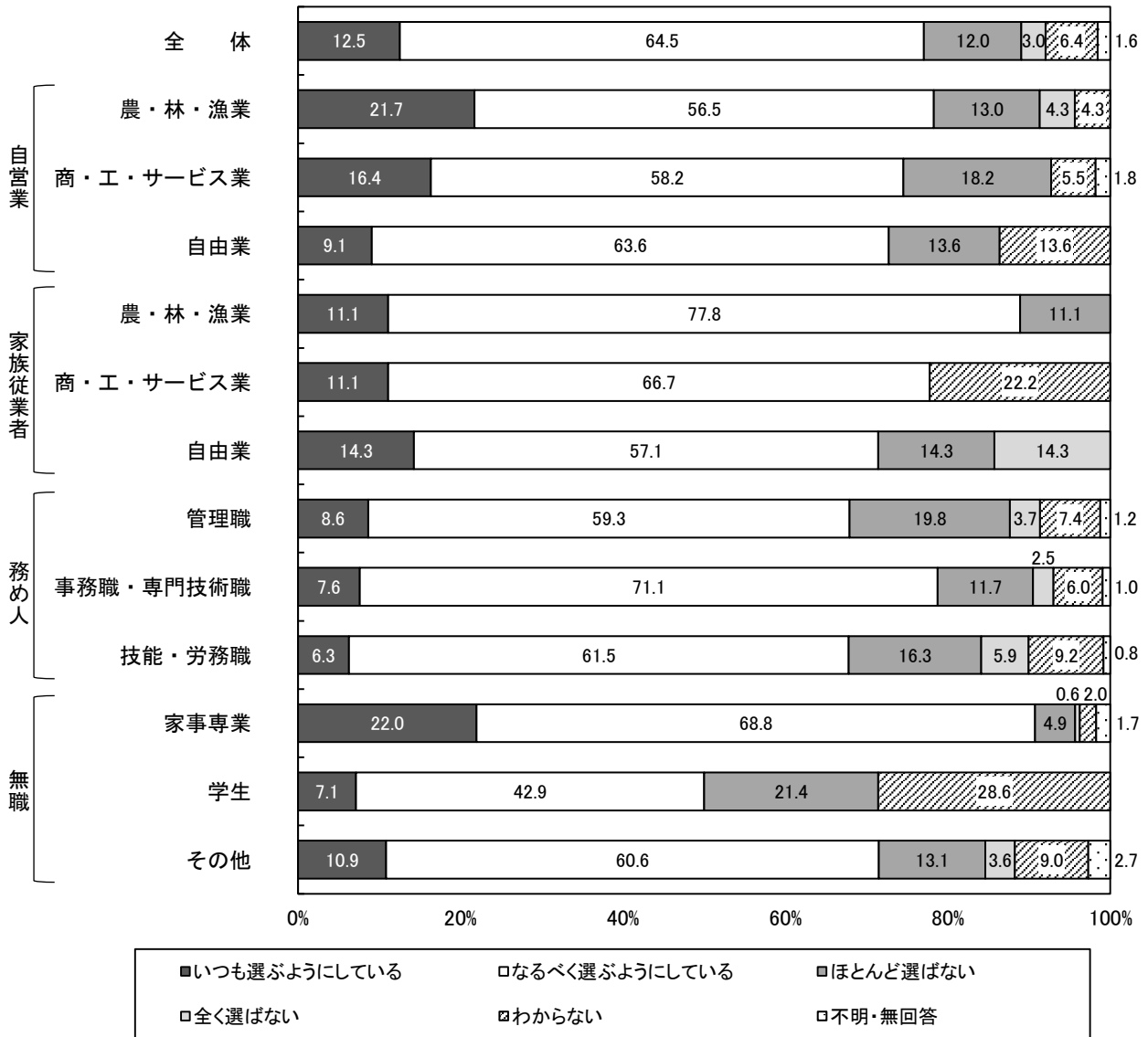
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.1-5 「地産地消」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

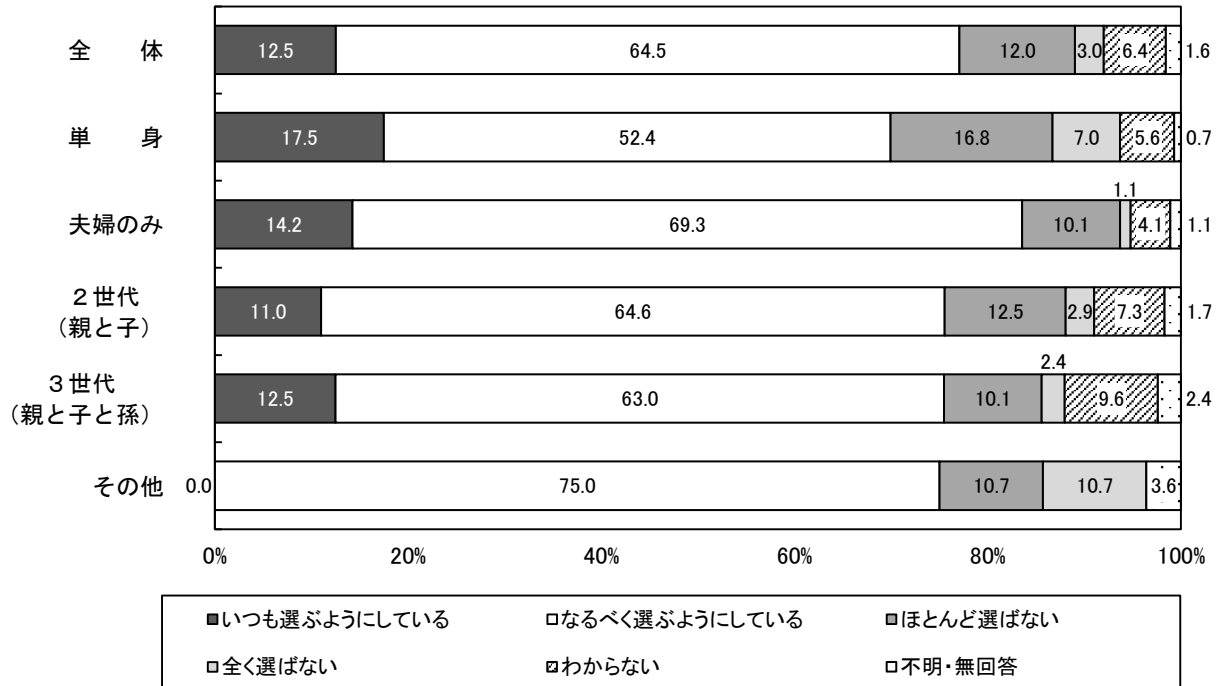
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも選ぶようにしている」、「なるべく選ぶようにしている」の割合を合わせた地産地消の実践度は、夫婦のみ（83.6%）で高くなっている。一方、単身では「ほとんど選ばない」、「全く選ばない」の割合が比較的高く、地産地消を実施していない人が2割強となっている。

図 3.1-6 「地産地消」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

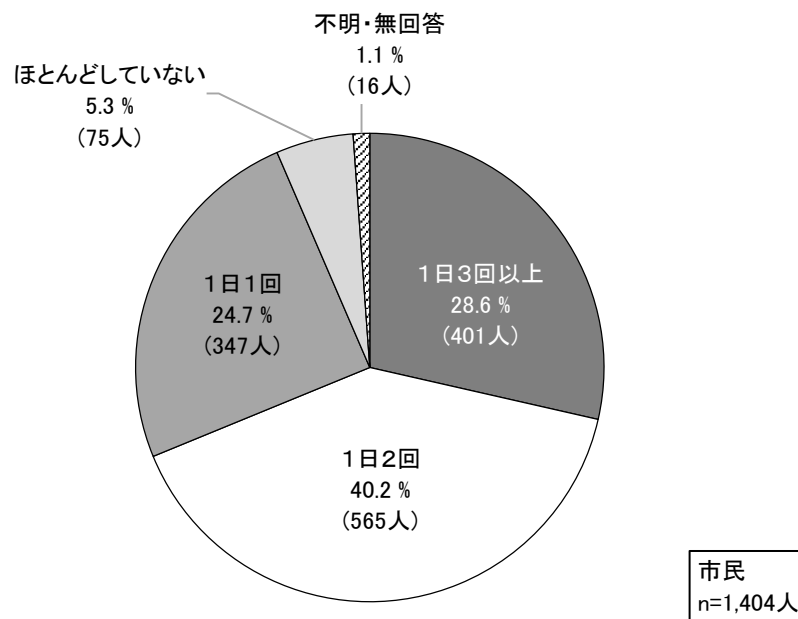
(2) 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数

問13 あなたは日ごろ、主食（ごはん、パン、麺）・主菜（肉、魚、卵、大豆・大豆製品）・副菜（野菜、海藻、きのこ、いも）のそろった食事を、1日に何回していますか。（○は1つだけ）

7割弱が「1日2回」以上と回答

「1日3回以上」(28.6%)、「1日2回」(40.2%)を合わせると、7割弱(68.8%)の人が主食・主菜・副菜がそろっていてバランスのとれた食事を1日2回以上実践している。

図3.2 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数



【性別・年齢別】

主食・主菜・副菜のそろった食事を「1日3回以上」実践している人の割合は、30歳代以上で年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、最も高い70歳代（40.1%）では約4割となっている。

一方、20歳代と30歳代では「1日1回」、「ほとんどしていない」を合わせた割合が高く、主食・主菜・副菜のそろった食事が実践できていない人が4割以上となっている。性別では、女性は年齢が上がるにつれて、主食・主菜・副菜のそろった食事を実践している人の割合が高くなる傾向が見られる。

図 3.2-2 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（年齢別・全体）

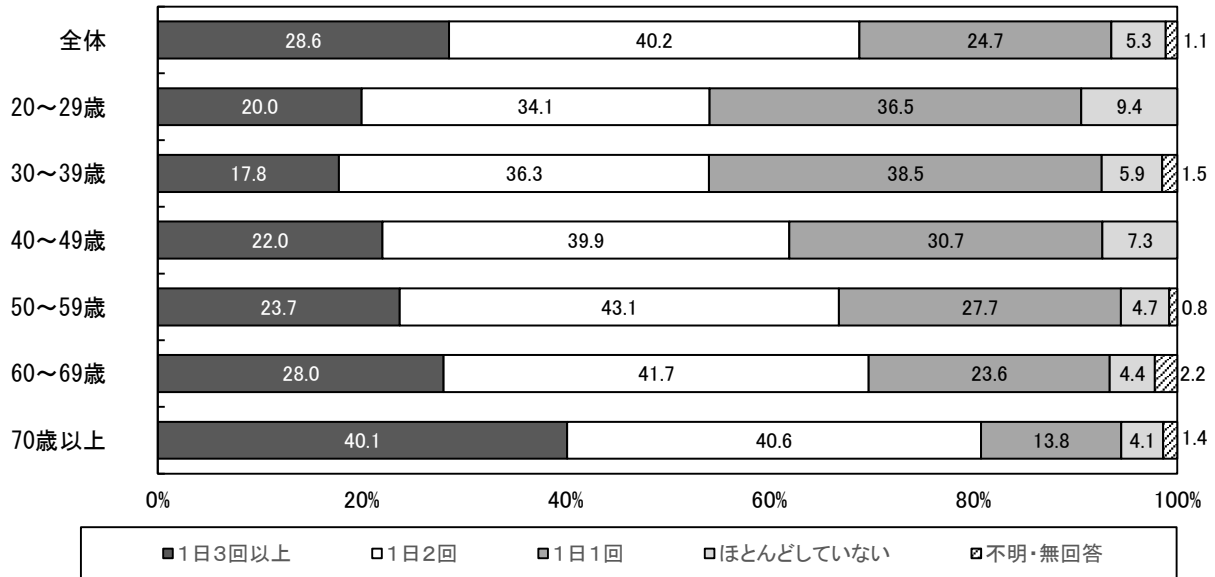
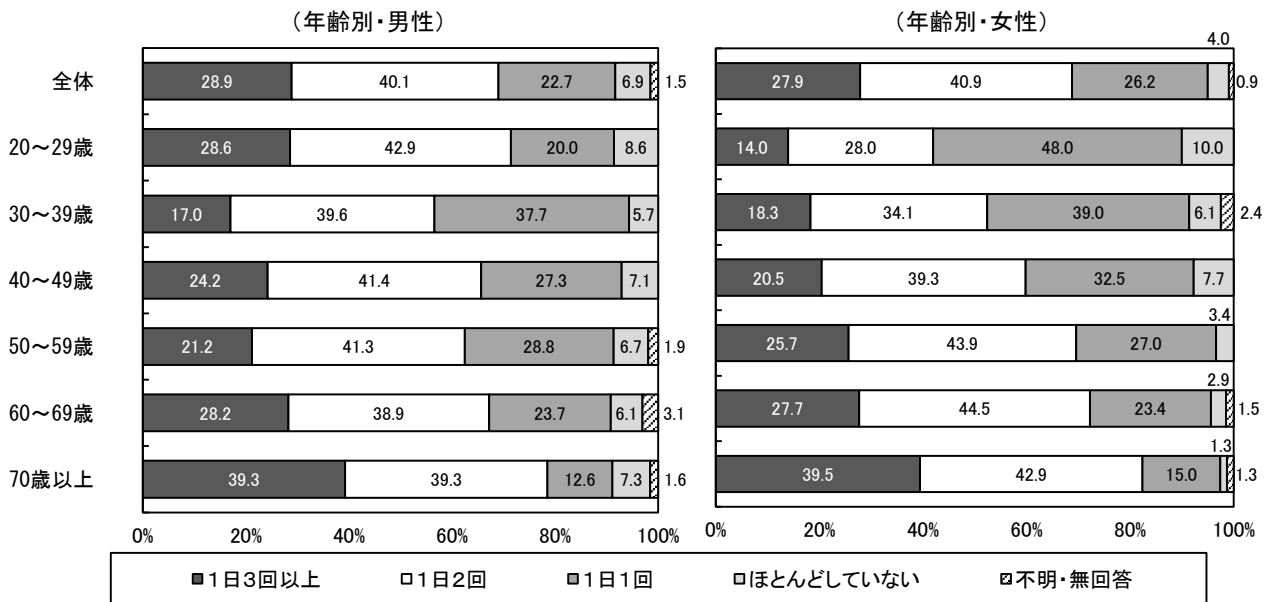


図 3.2-3 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

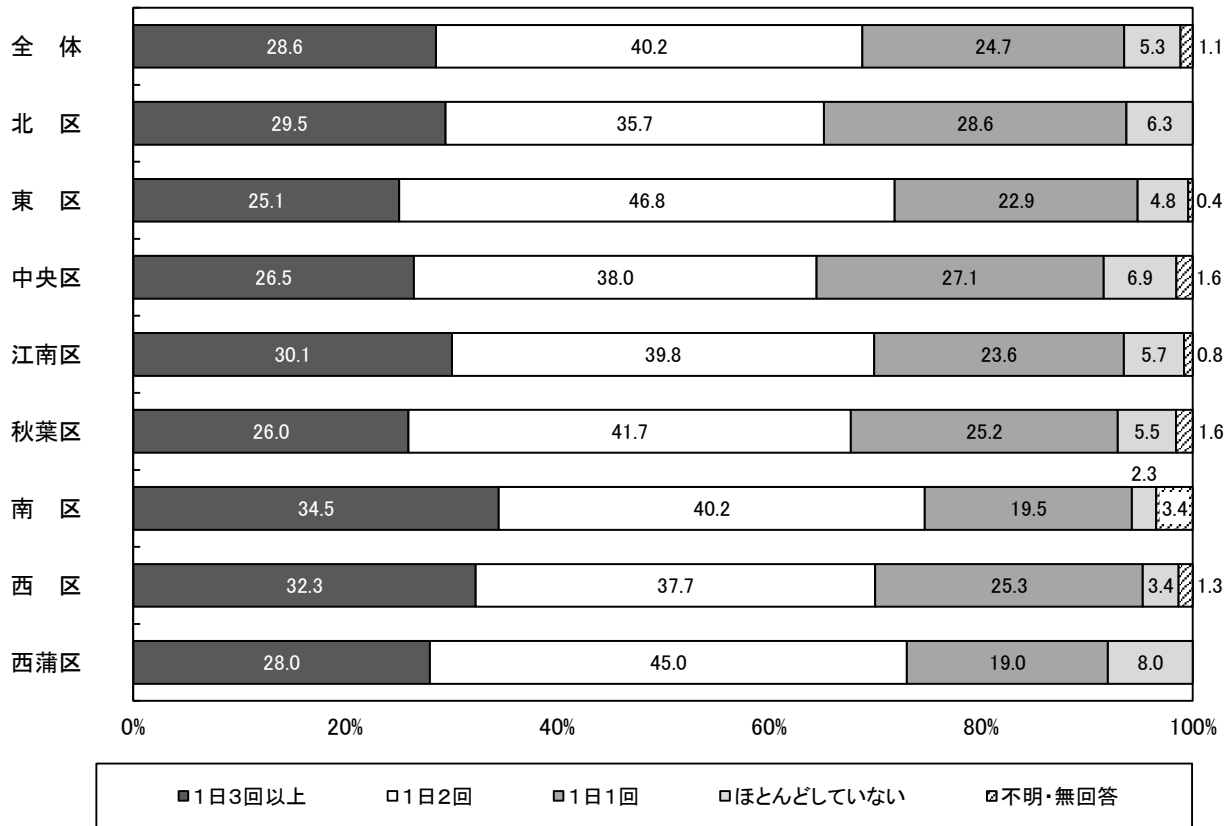
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事を1日2回以上実践している人の割合は、南区(74.7%)で最も高くなっている。

図3.2-4 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	不明・無回答
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

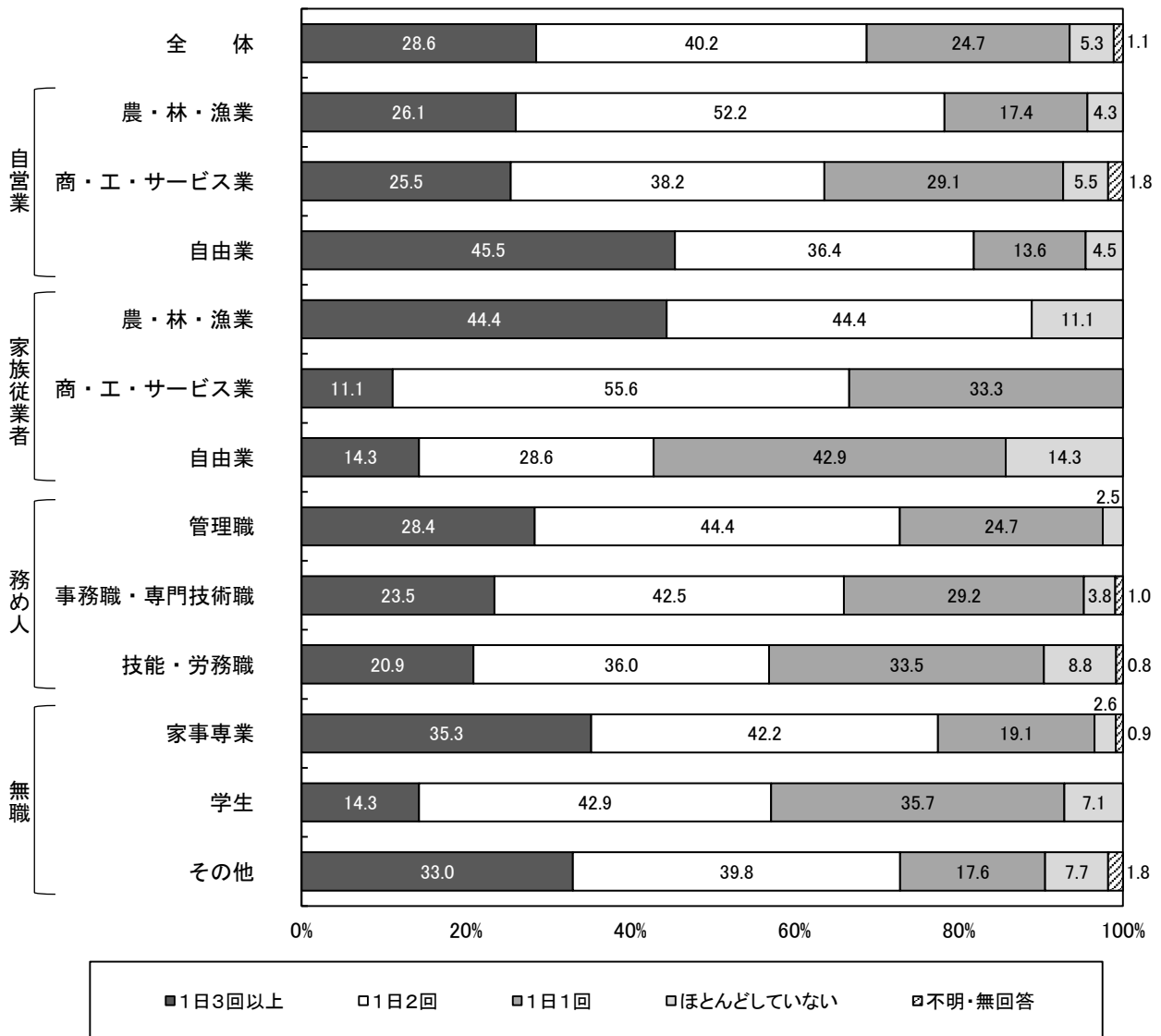
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.2-5 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

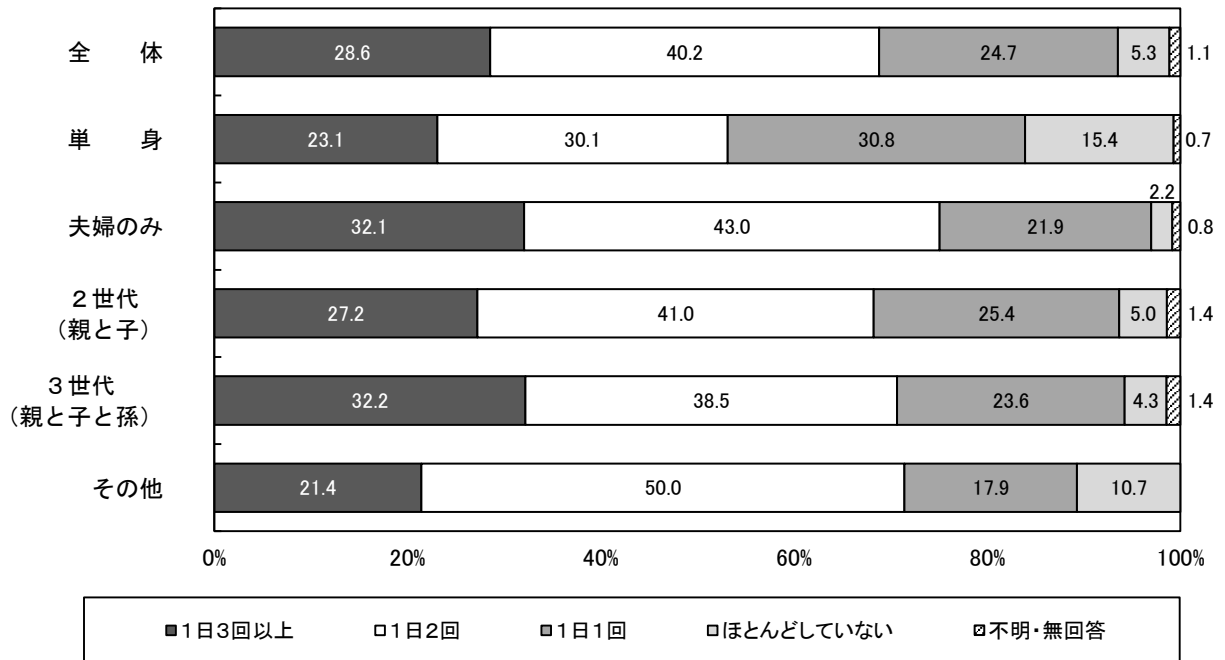
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「1日3回以上」、「1日2回」と回答した人の割合は、夫婦のみ(75.1%)で高くなっている。一方、「ほとんどしていない」と回答した人の割合は、単身(15.4%)で他の家族構成に比べ高くなっている。

図 3.2-6 主食・主菜・副菜のそろった食事の回数(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

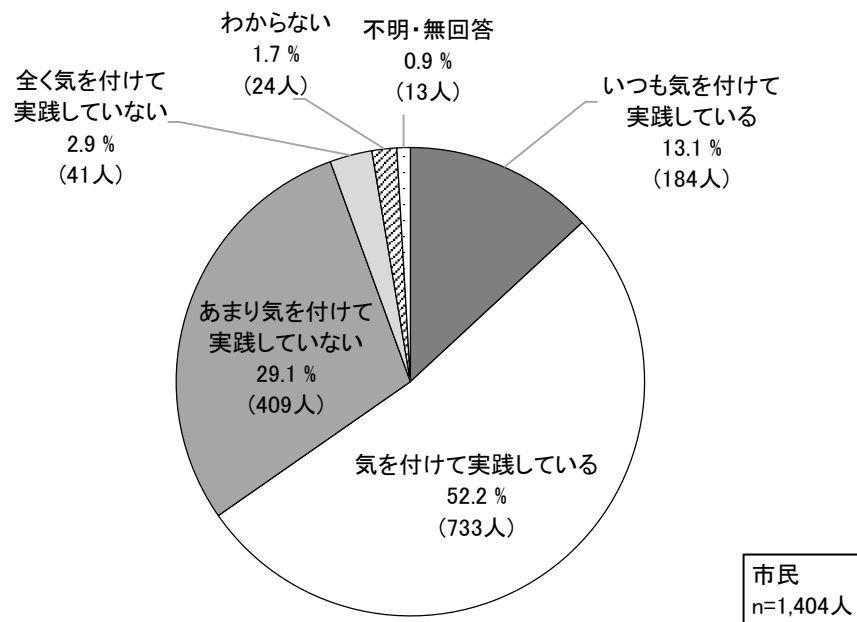
(3) 生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践度

問14 生活習慣病予防や改善のために、あなたは普段から適正体重の維持や減塩、野菜の摂取などに気を付けた食生活を実践していますか。(○は1つだけ)

7割弱が「いつも気を付けて実践している」「気を付けて実践している」と回答

「いつも気を付けて実践している」(13.1%)、「気を付けて実践している」(52.2%)と回答した人を合わせた割合は7割弱(65.3%)となっている。「あまり気を付けて実践していない」(29.1%)、「全く気を付けて実践していない」(2.9%)と回答した人を合わせた割合は3割強(32.1%)となっている。

図 3.3 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度



【性別・年齢別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、50歳代（71.5%）と70歳以上（71.6%）で高くなっている。

一方、30歳代では「あまり気を付けて実践していない」、「全く気を付けて実践していない」の割合が高く、生活習慣予防や改善を意識した食生活を実践できていない人が5割弱となっている。

図 3.3-2 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（年齢別・全体）

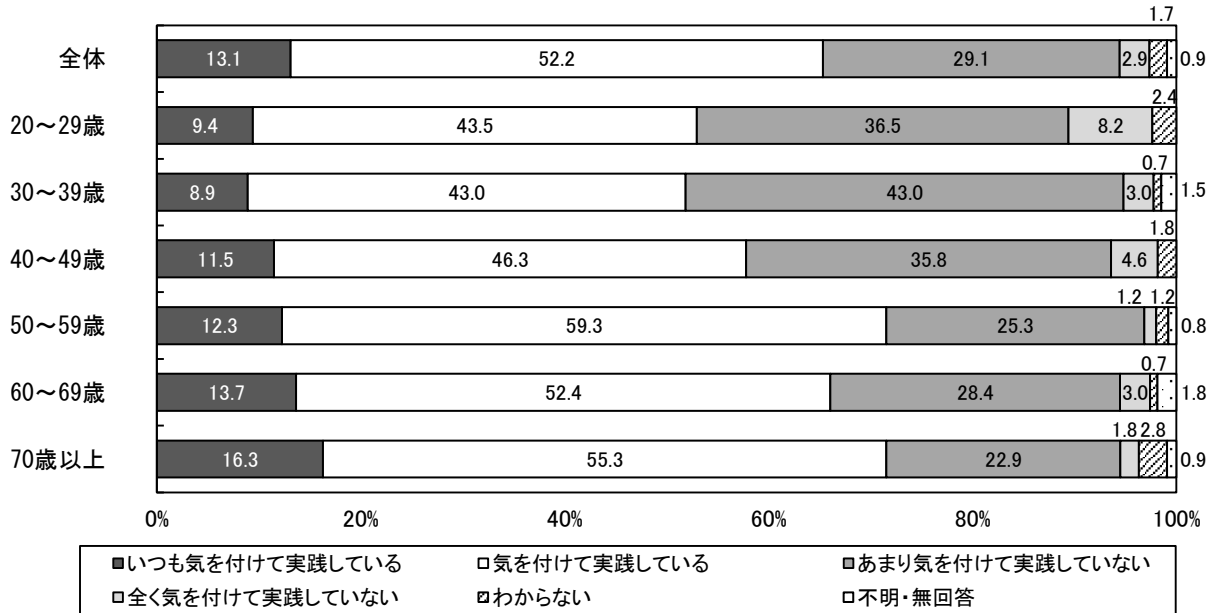
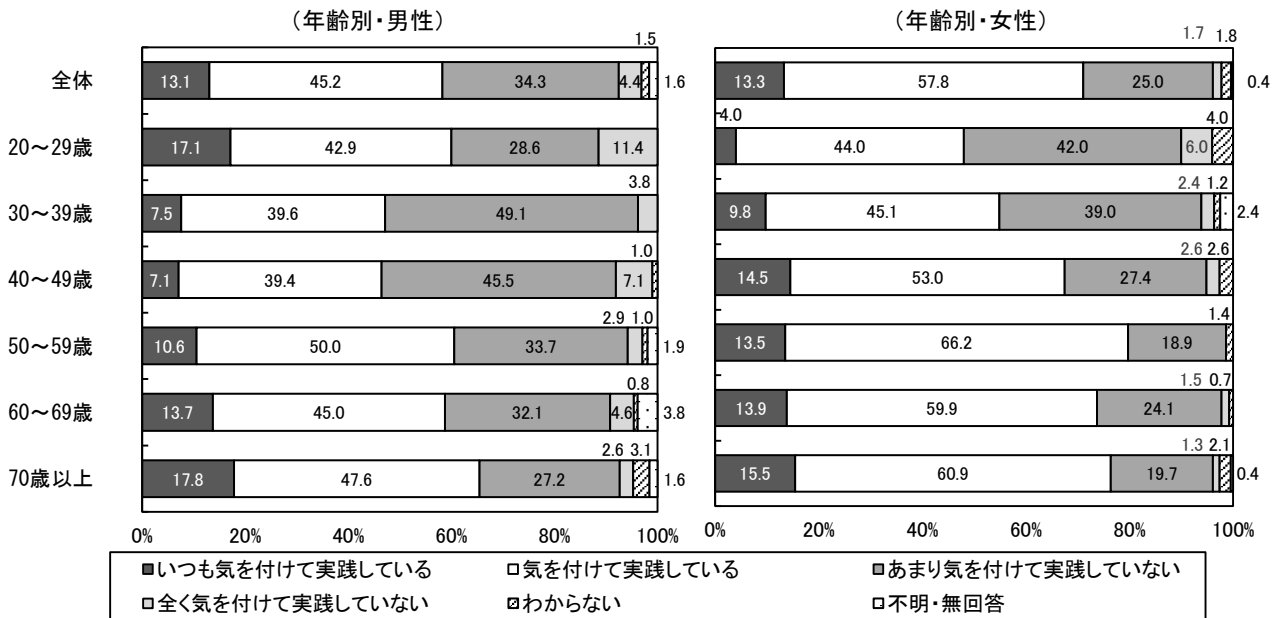


図 3.3-3 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

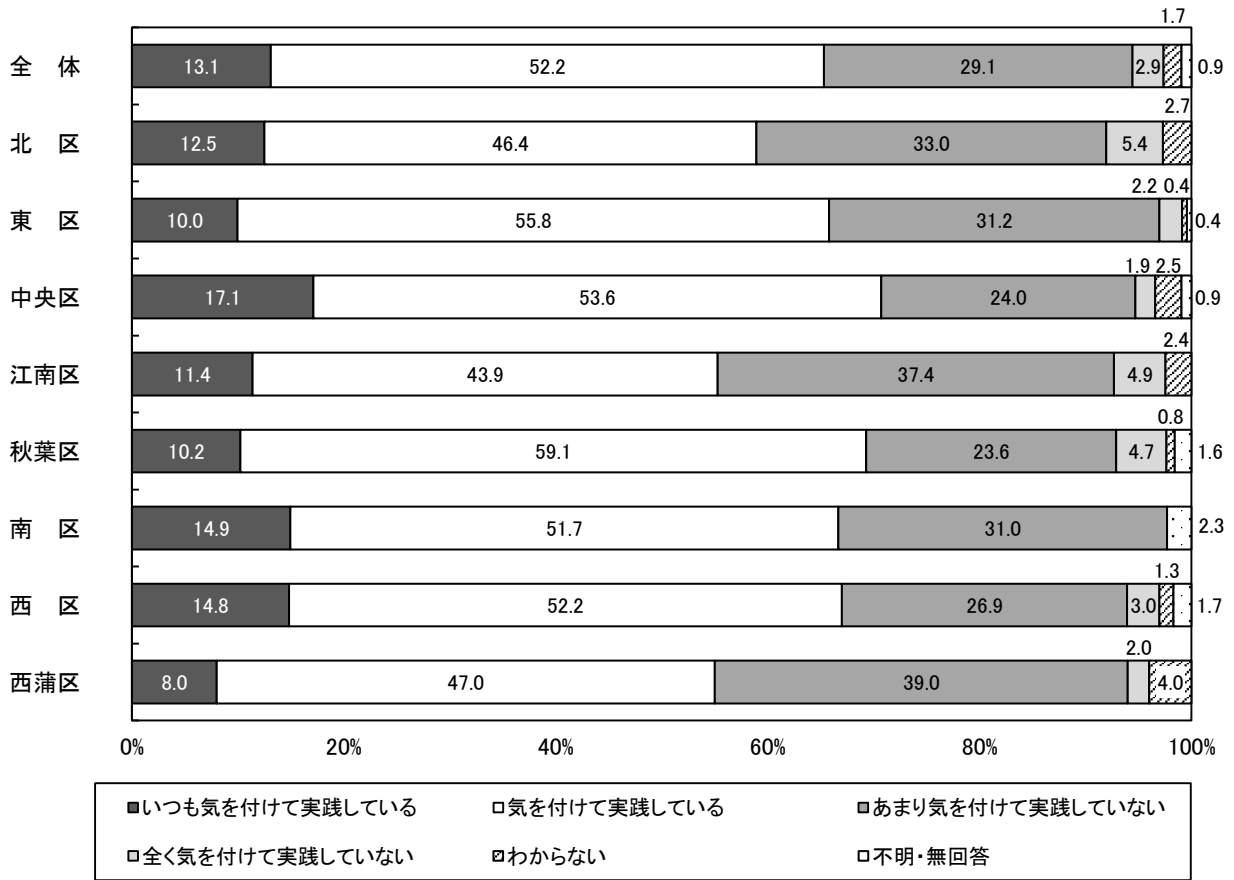
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、中央区（70.7%）で最も高くなっている。

図 3.3-4 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

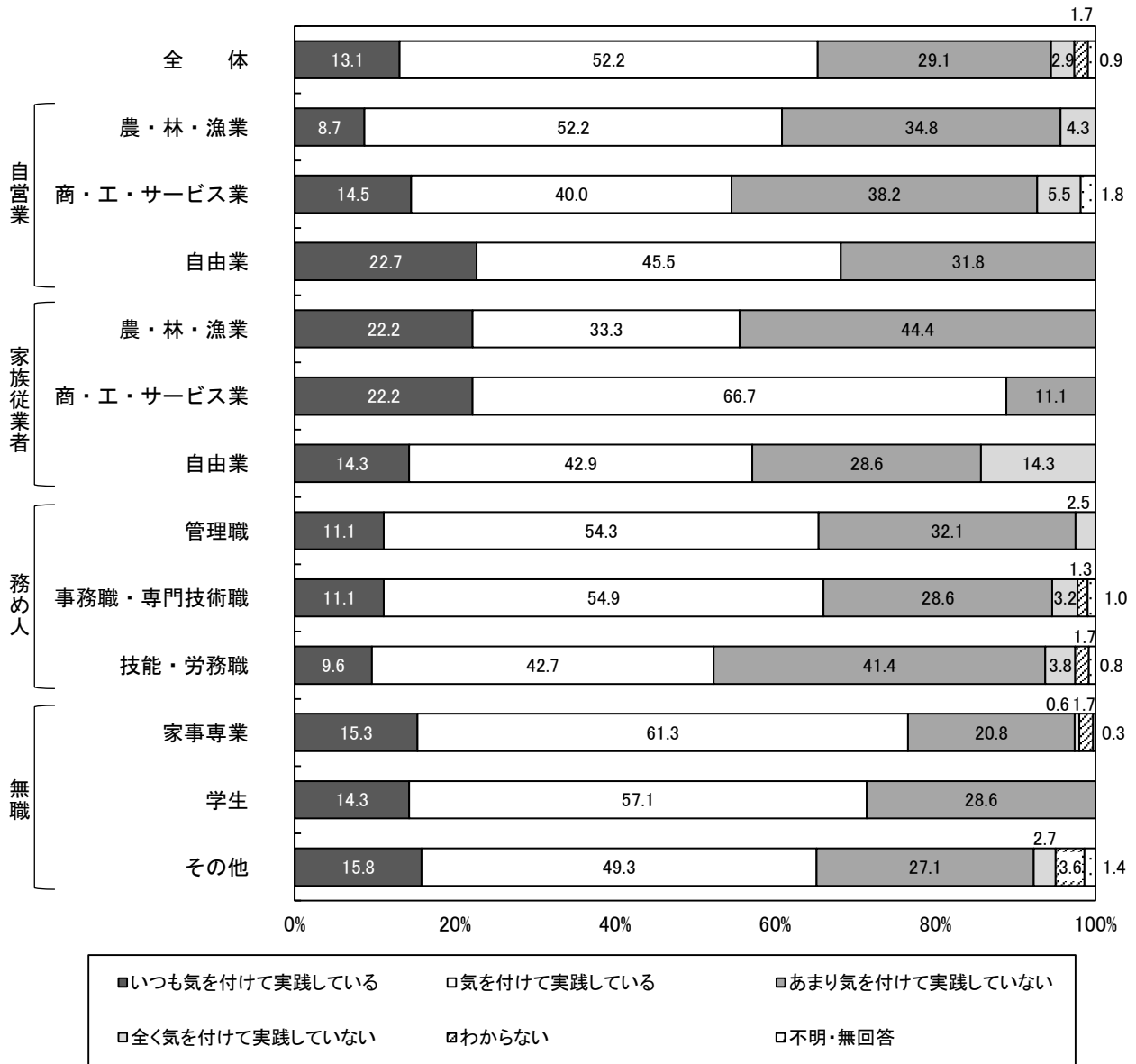
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.3-5 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

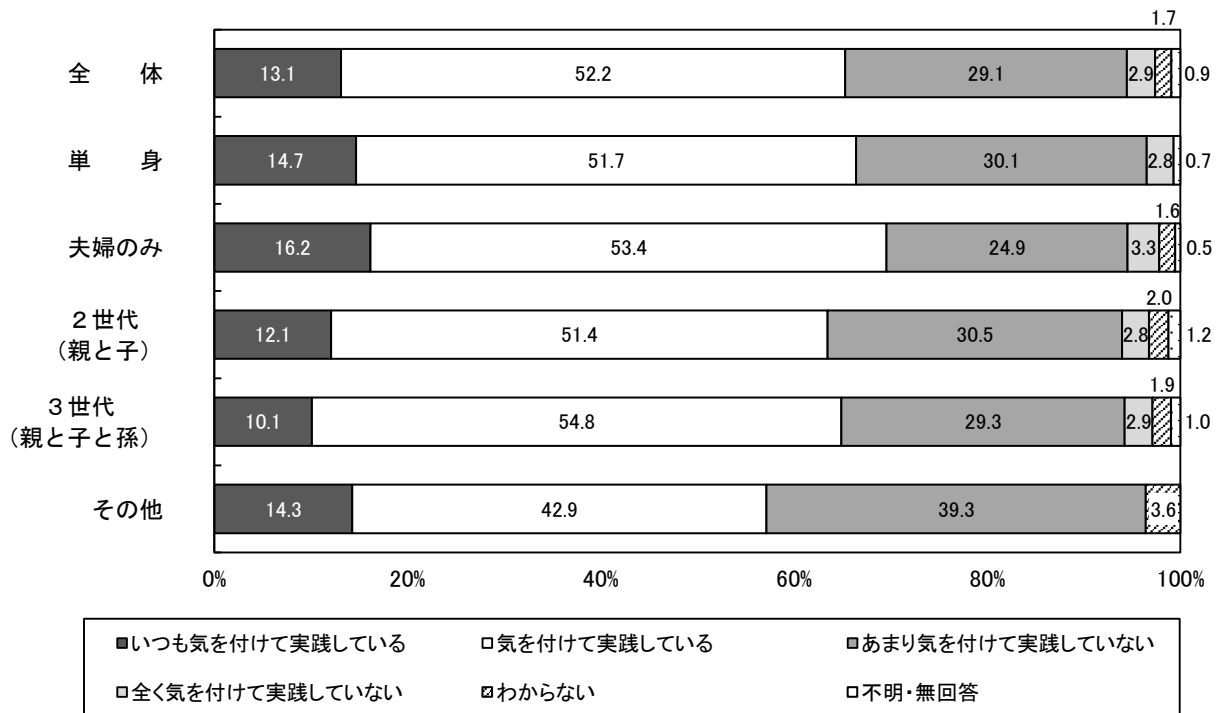
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも気を付けて実践している」、「気を付けて実践している」の割合を合わせた、生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度は、夫婦のみ（69.6%）で最も高くなっている。

図 3.3-6 生活習慣予防や改善を意識した食生活の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(4) 健康のための食事の認識と程度の度合い

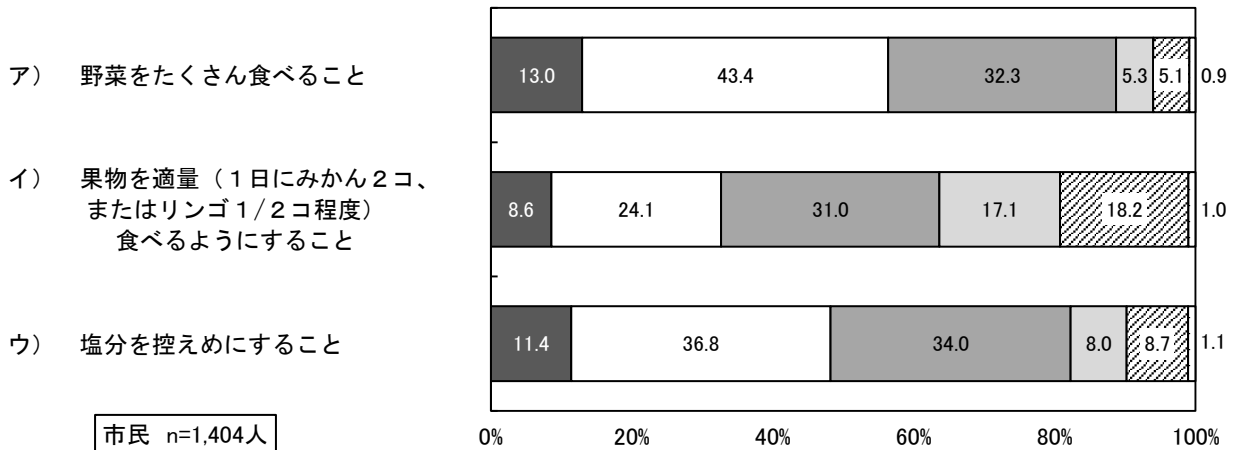
問15 あなたは日ごろから、健康のために次のようなことを意識して食事をしていますか。
(項目毎に○は1つだけ)

6割弱が「野菜をたくさん食べること」を意識していると回答

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人を合わせた割合は、『ア) 野菜をたくさん食べること』(56.4%)の項目が6割弱と高くなっている。

一方、「意識しているが、あまりできていないと思う」「意識しているが、ほとんどできていないと思う」と回答した人を合わせた割合は、『イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』(48.1%)で最も高く、「意識していない」の割合も、『イ) 果物を適量(1日みかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること』の項目が2割弱(18.2%)で最も高くなっている。

図 3.4 健康のための食事の認識と程度の度合い



意識しているし、できていると思う 意識しているし、だいたいできていると思う
 意識しているが、あまりできていないと思う 意識しているが、ほとんどできていないと思う
 意識していない 不明・無回答

	全体	意識しているし、できていると思う	意識しているし、だいたいできていると思う	意識しているが、あまりできていないと思う	意識しているが、ほとんどできていないと思う	意識していない	無回答
ア) 野菜をたくさん食べること	1,404	182	610	454	74	72	12
イ) 果物を適量(1日にみかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度)食べるようにすること	1,404	121	338	435	240	256	14
ウ) 塩分を控えめにすること	1,404	160	517	478	112	122	15

(人)

ア) 野菜をたくさん食べること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上（64.0%）で最も高く、20歳代（42.4%）で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、20歳代を除いた各年代で、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-2 健康のための食事の認識と程度の度合い【野菜をたくさん食べること】（年齢別・全体）

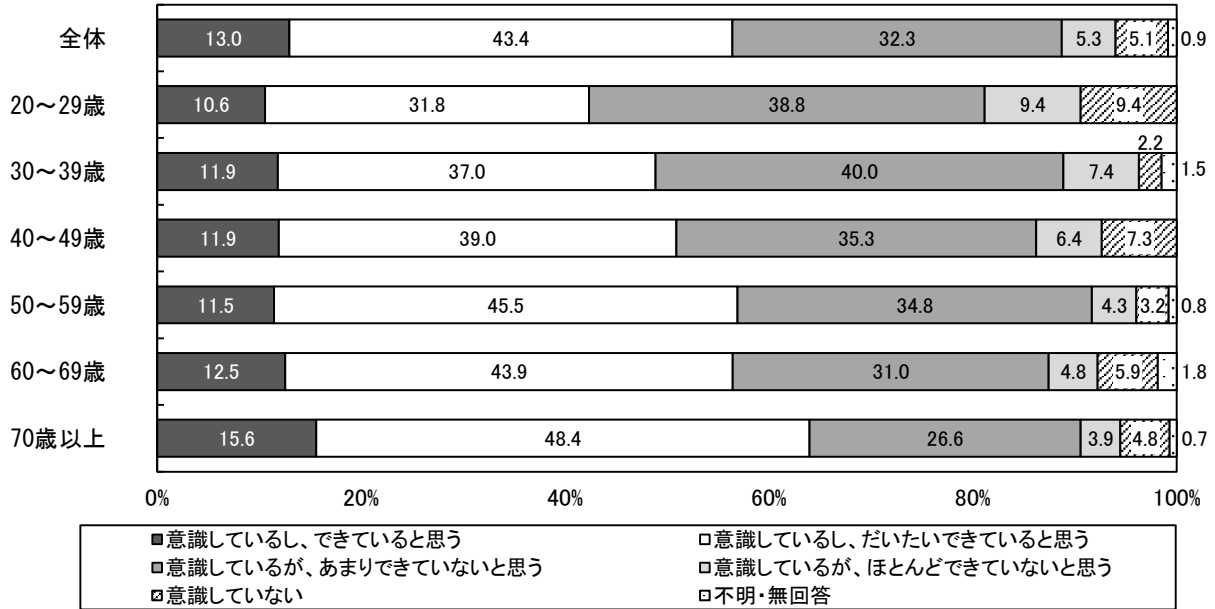
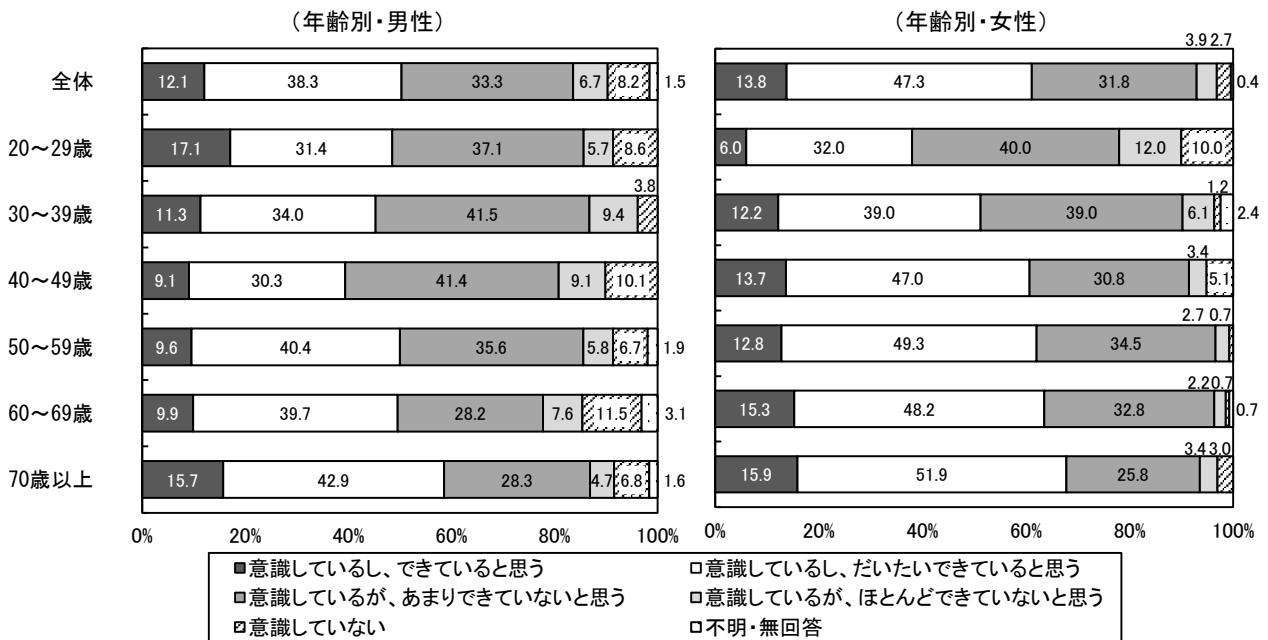


図 3.4-3 健康のための食事の認識と程度の度合い【野菜をたくさん食べること】



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

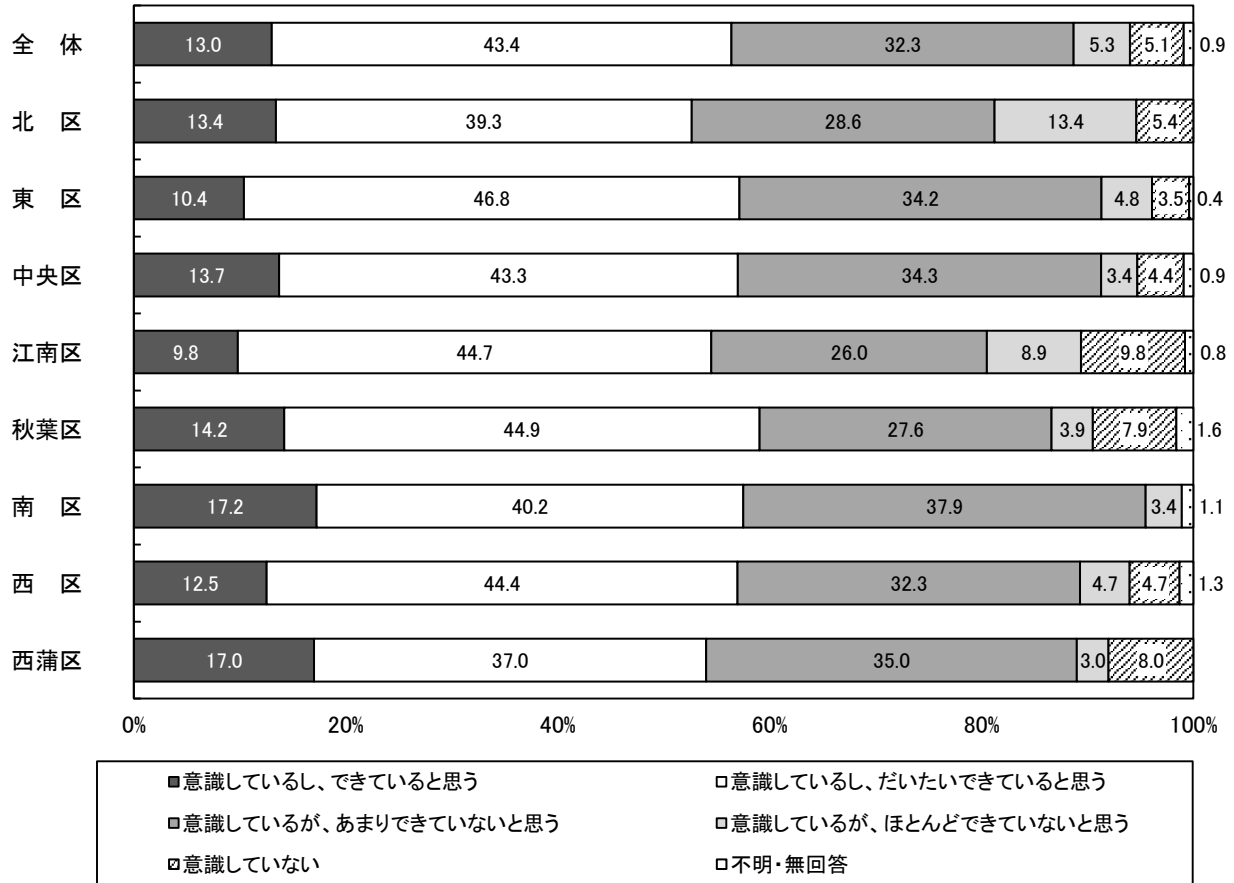
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、秋葉区（59.1%）で最も高く、北区（52.7%）で最も低くなっている。

図 3.4-4 健康のための食事の認識と程度の度合い〔野菜をたくさん食べること〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 果物を適量（1日みかん2コ、またはリンゴ1/2コ程度）食べるようにすること

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上（43.8%）で最も高く、20歳代（14.1%）で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、20歳代を除いた各年代で、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-5 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕
（年齢別・全体）

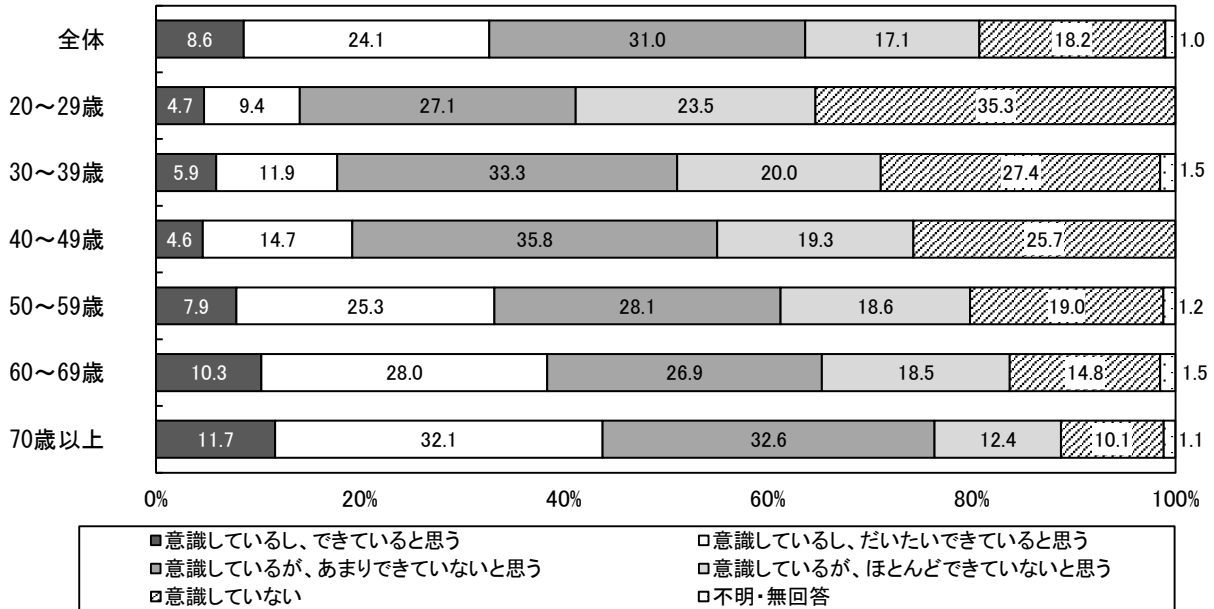
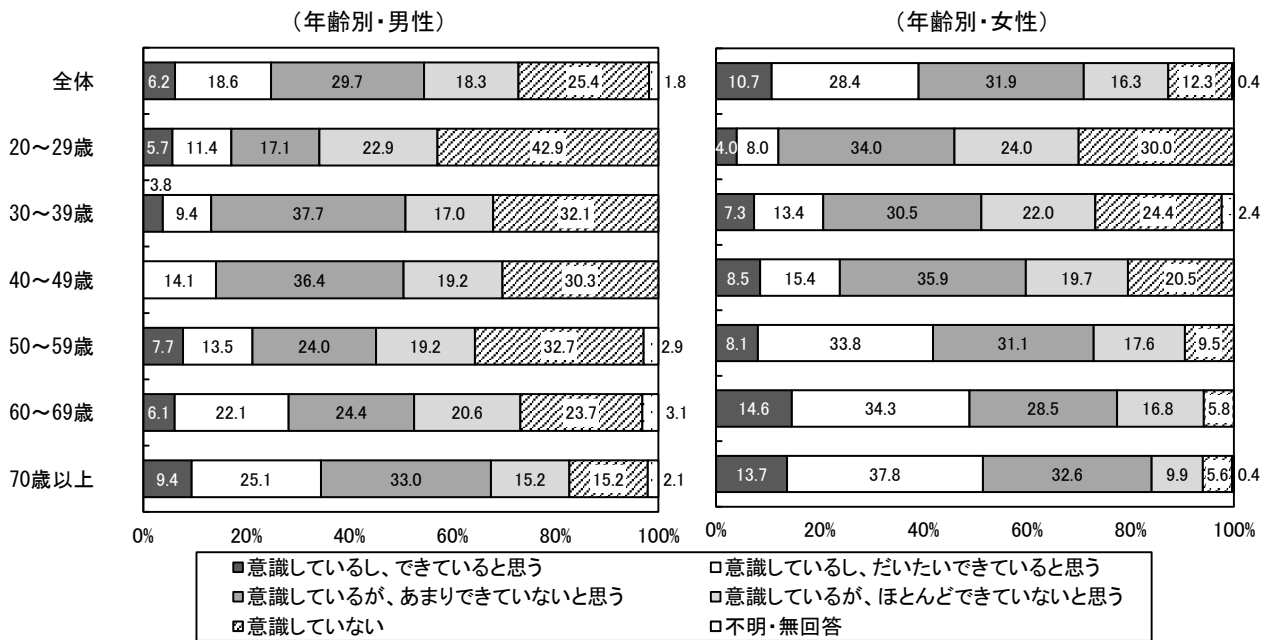


図 3.4-6 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

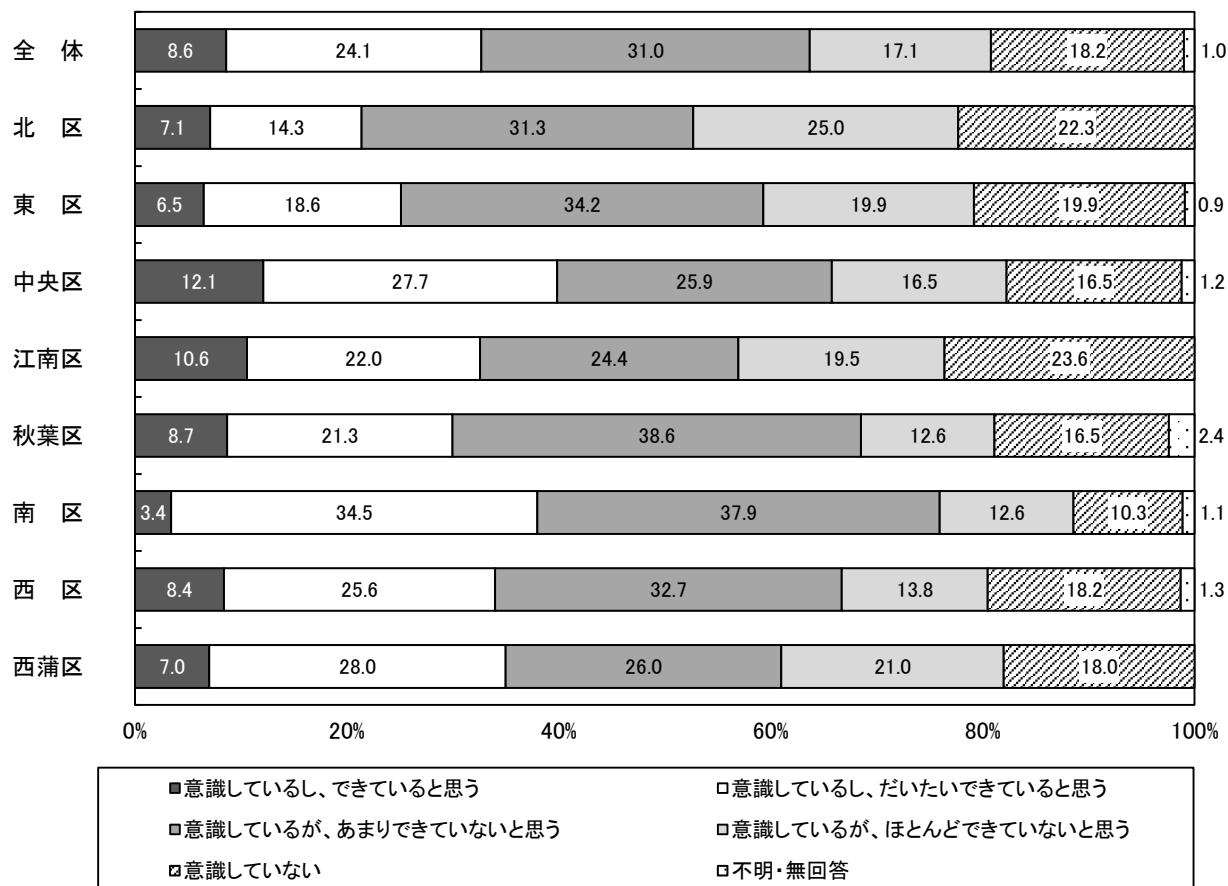
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、中央区（39.9%）で最も高く、北区（21.4%）で最も低くなっている。

図 3. 4-7 健康のための食事の認識と程度の度合い〔果物を適量食べるようにすること〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

ウ) 塩分に控えめにするこ

【性別・年齢別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、70歳以上(61.2%)で最も高く、20歳代(27.1%)で最も低くなっている。

性別では、「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、20歳代を除いた年代で、女性の方が男性より高くなっている。

図 3.4-8 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えめにするこ〕(年齢別・全体)

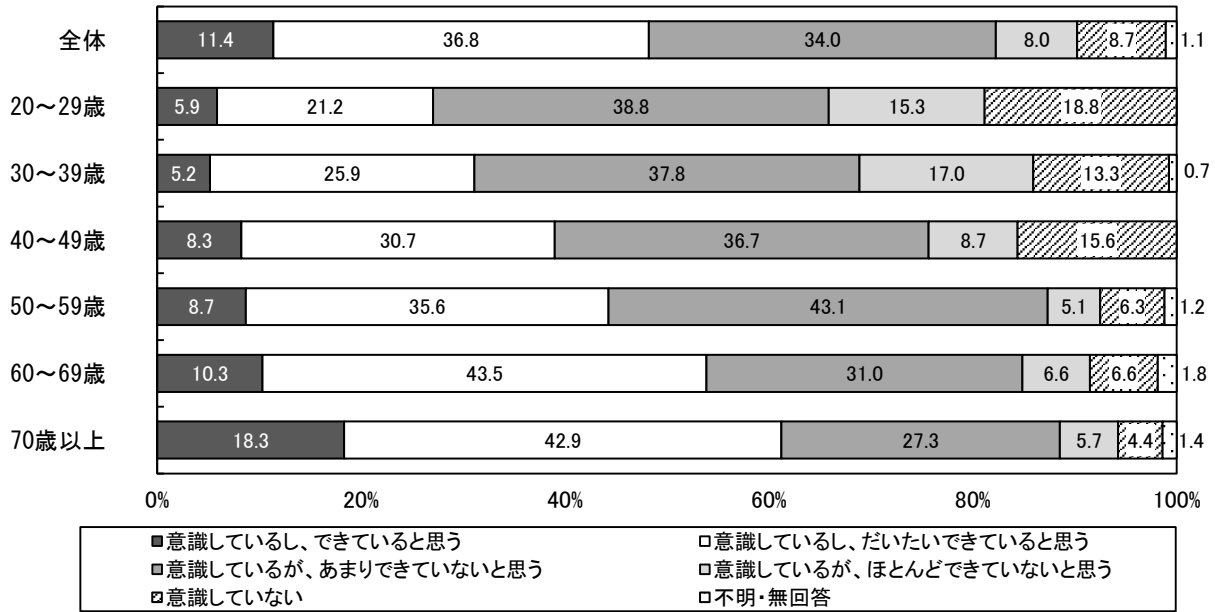
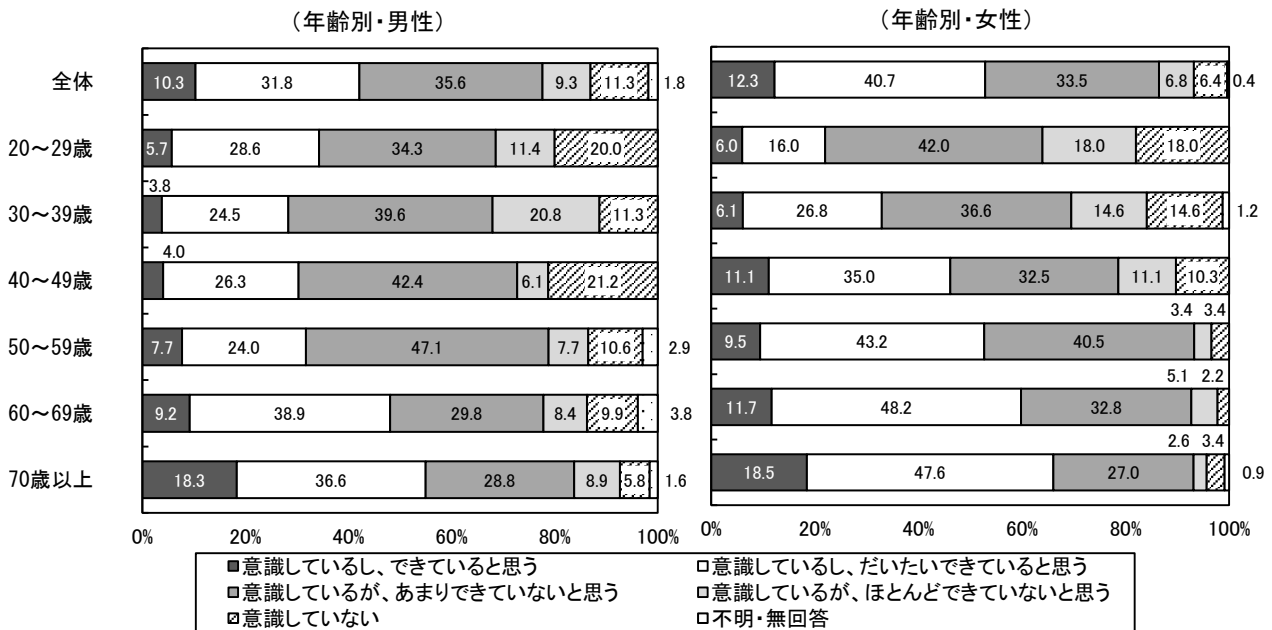


図 3.4-9 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えめにするこ〕



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

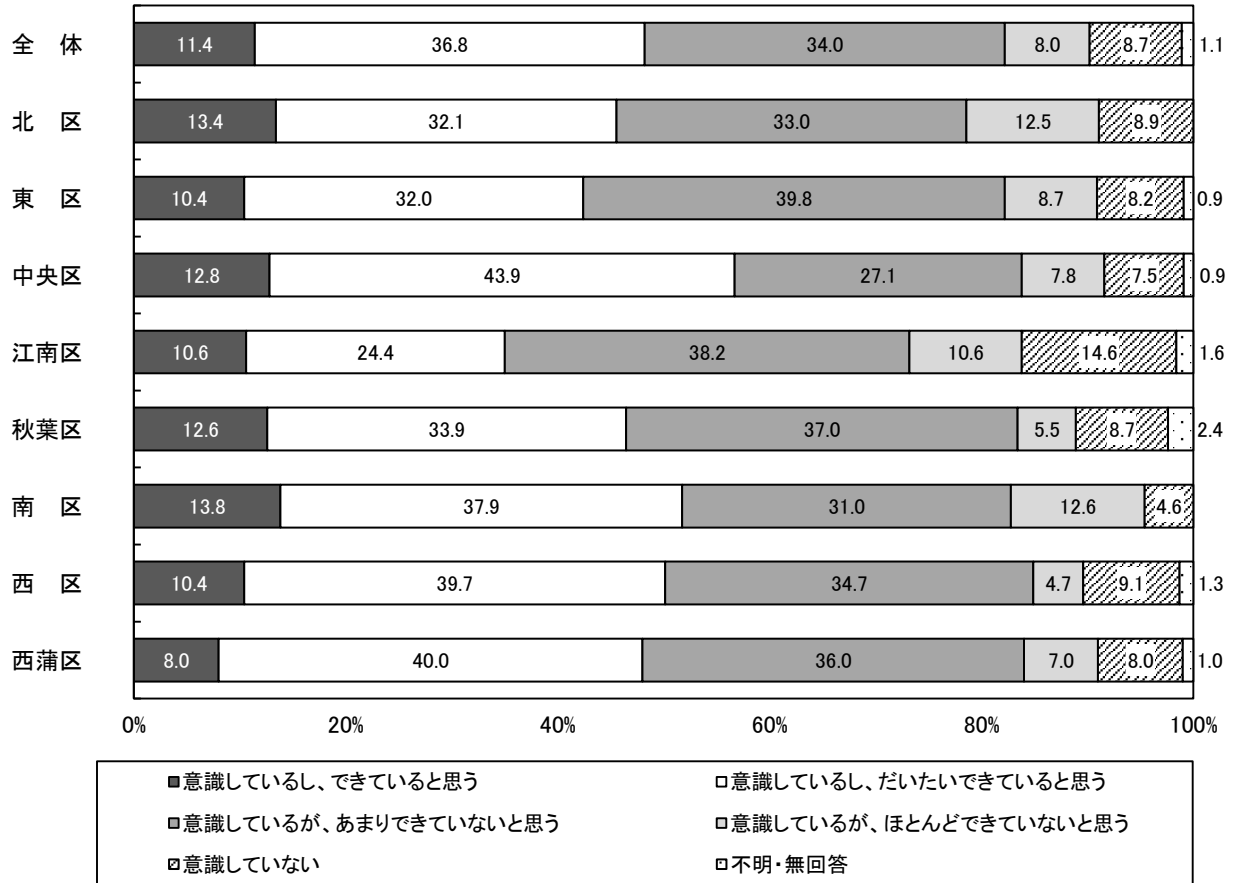
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「意識しているし、できていると思う」「意識しているし、だいたいできていると思う」と回答した人の割合は、中央区（56.7%）で最も高くなっている。

図 3.4-10 健康のための食事の認識と程度の度合い〔塩分を控えること〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

(5) 朝食の回数

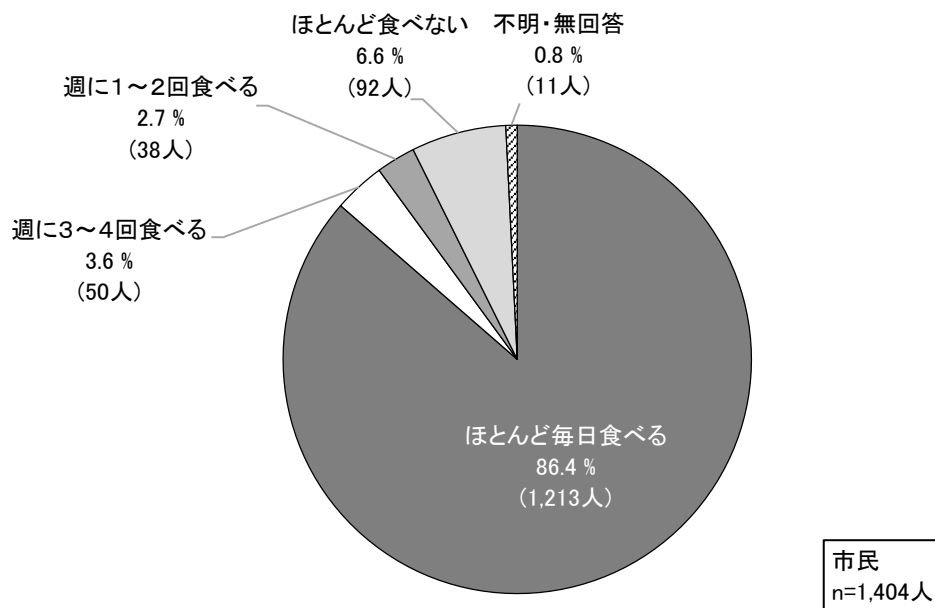
問16 あなたは日ごろ、朝食を食べていますか。(〇は1つだけ)

1割弱が「ほとんど食べない」「週に1～2回食べる」と回答

9割弱(86.4%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に3～4回食べる」(3.6%)を合わせると、9割(90.0%)の人が朝食を食べている。

一方、「週に1～2回食べる」(2.7%)、「ほとんど食べない」(6.6%)と回答した、朝食を食べない人は1割弱(9.3%)となっている。

図 3.5 朝食の回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、年齢上がるにつれて朝食の回数が増える傾向が見られる。60歳以上では、9割以上の人朝食をほぼ毎日食べている。

一方、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、20歳代～40歳代で1割を超えている。性別で見ると、男性は20歳代（14.3%）、女性は30歳代（13.4%）が最も高い。

図 3.5-2 朝食の回数（年齢別・全体）

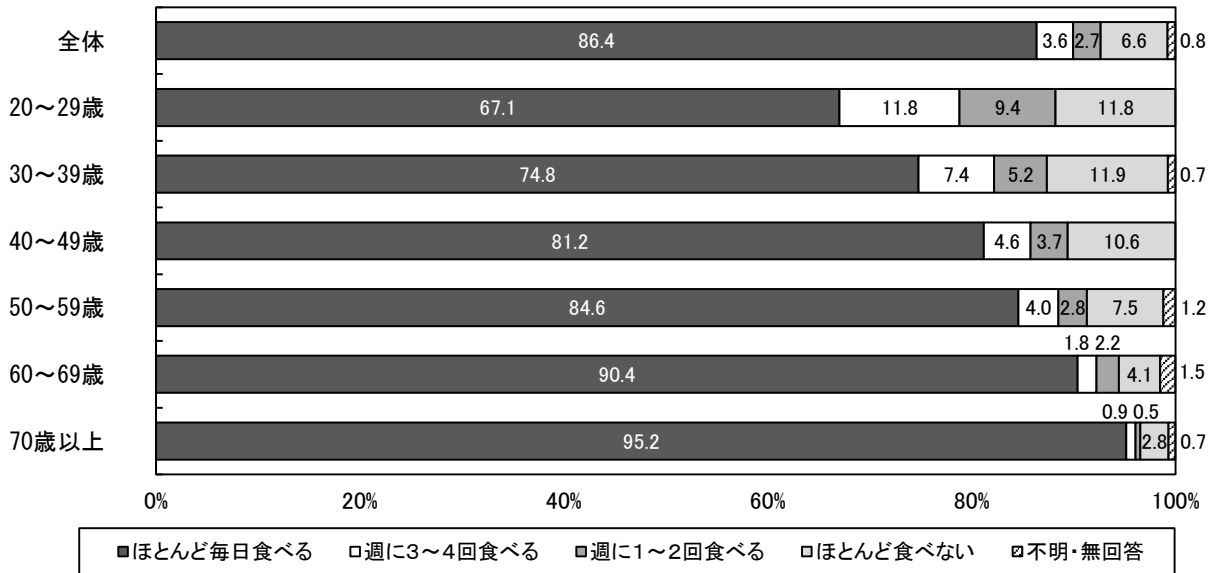
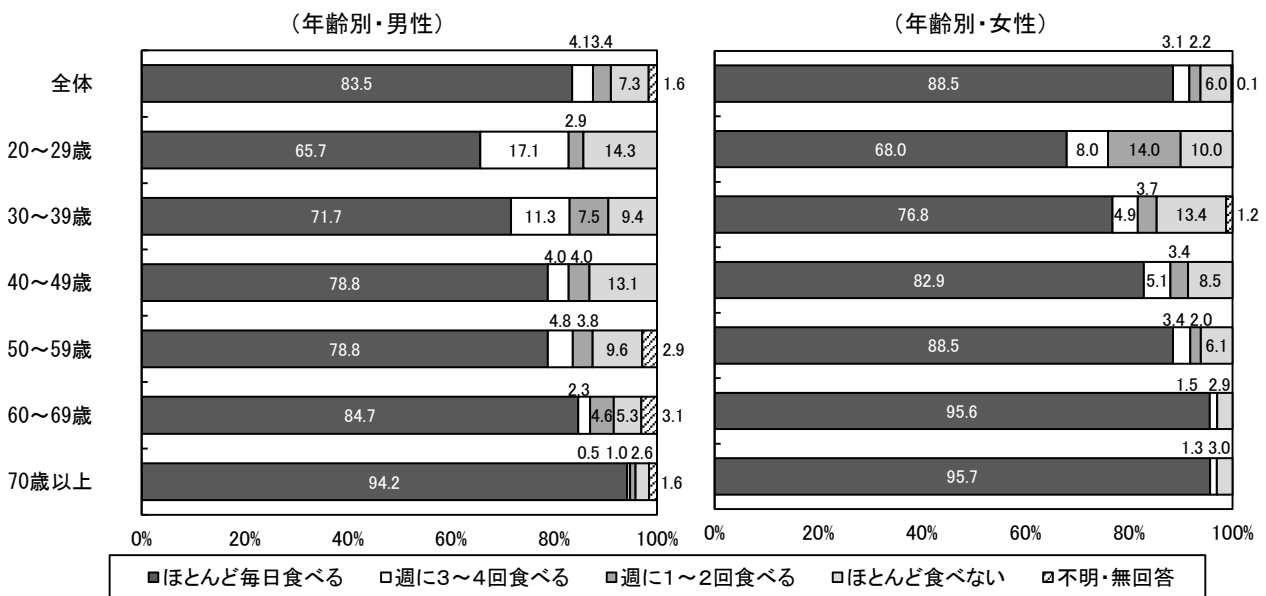


図 3.5-3 朝食の回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

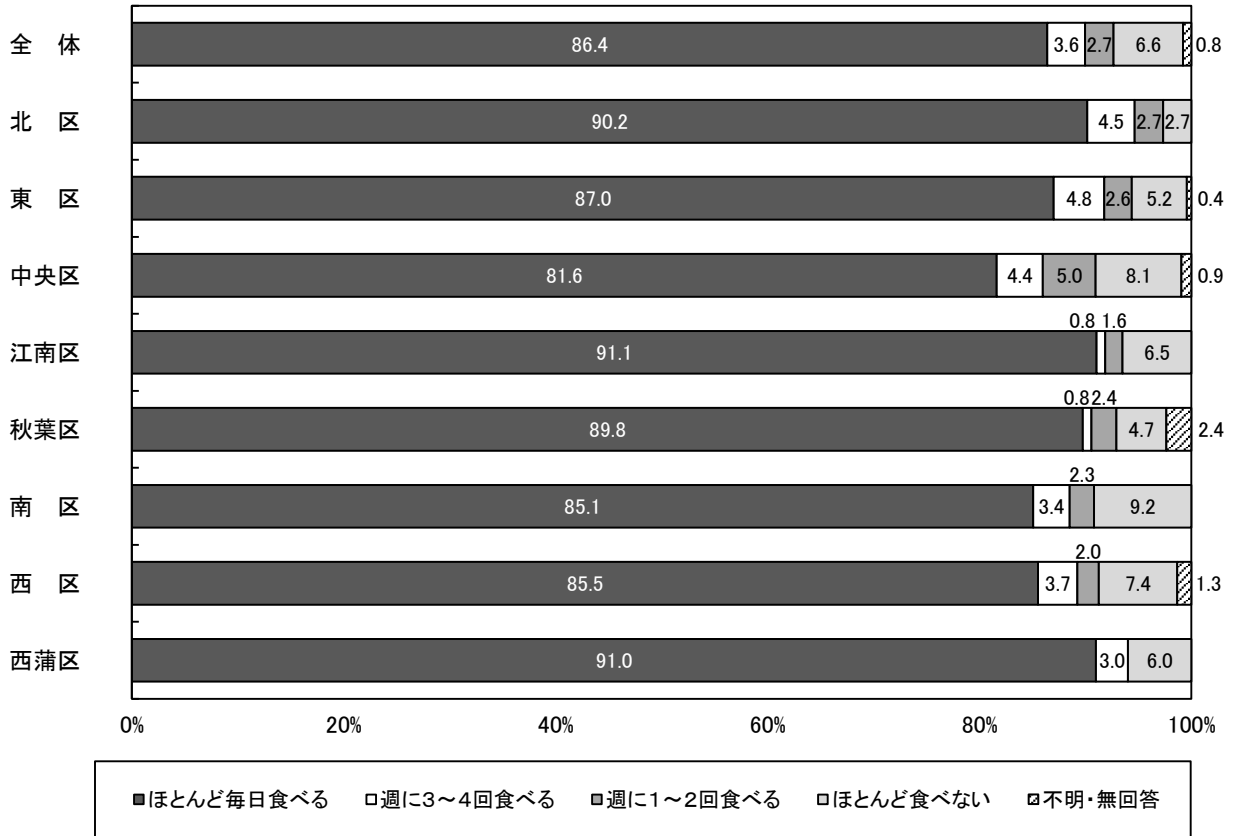
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、北区（90.2%）、江南区（91.1%）、西蒲区（91.0%）では、9割を超えている。

図 3.5-4 朝食の回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

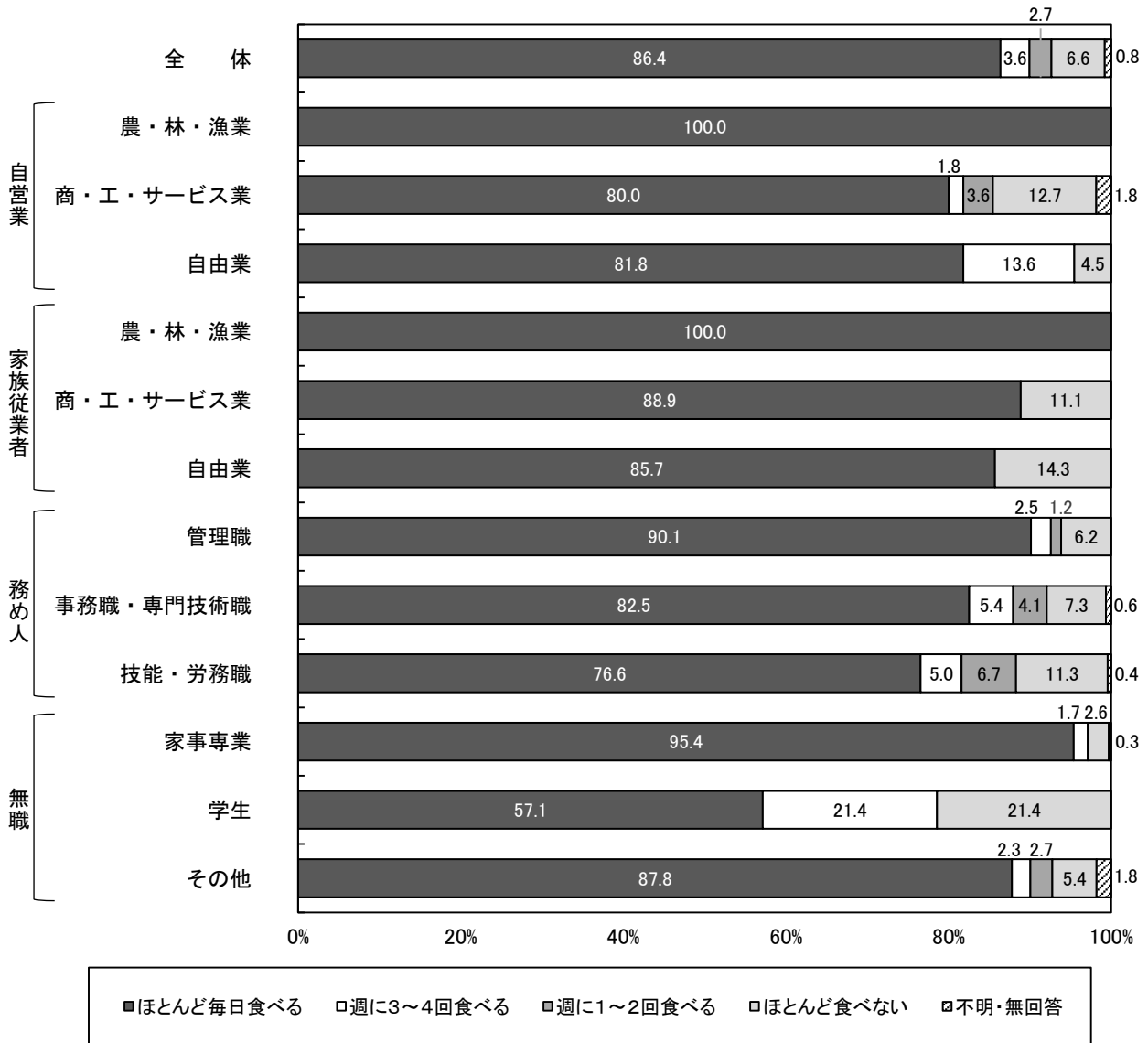
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.5-5 朝食の回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

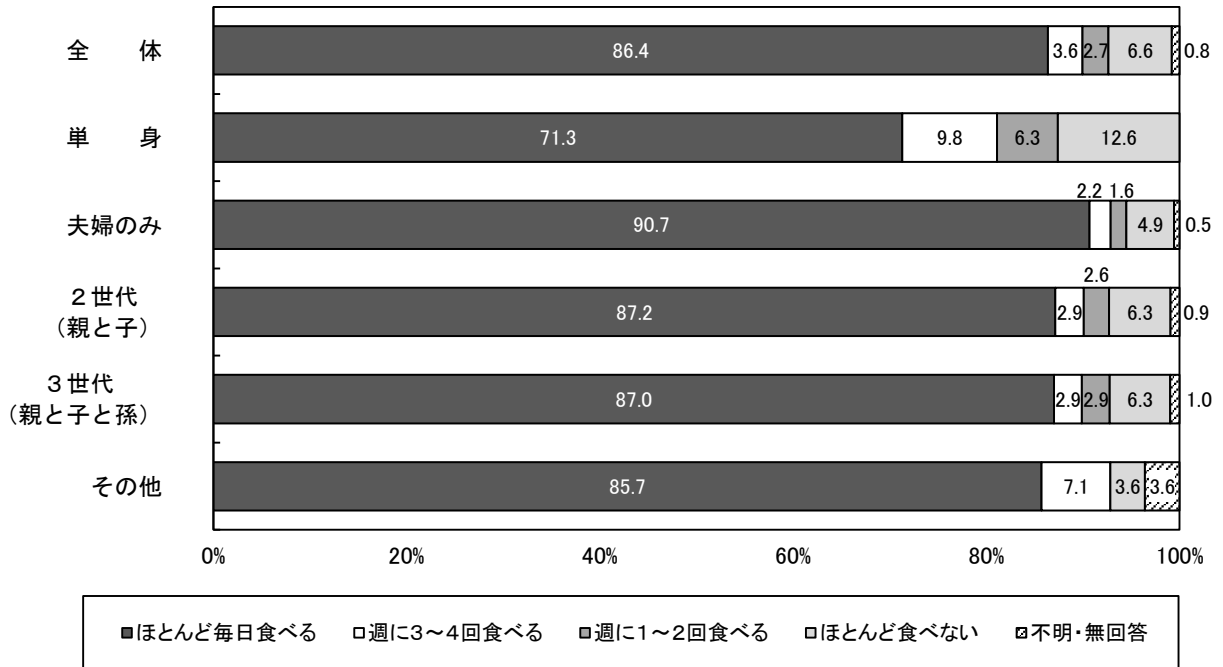
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成別とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多くなっている。夫婦のみ（90.7%）では9割強となっている。単身（71.3%）では7割強に留まり、他の家族構成と比べて割合が低くなっている。

図 3.5-6 朝食の回数（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

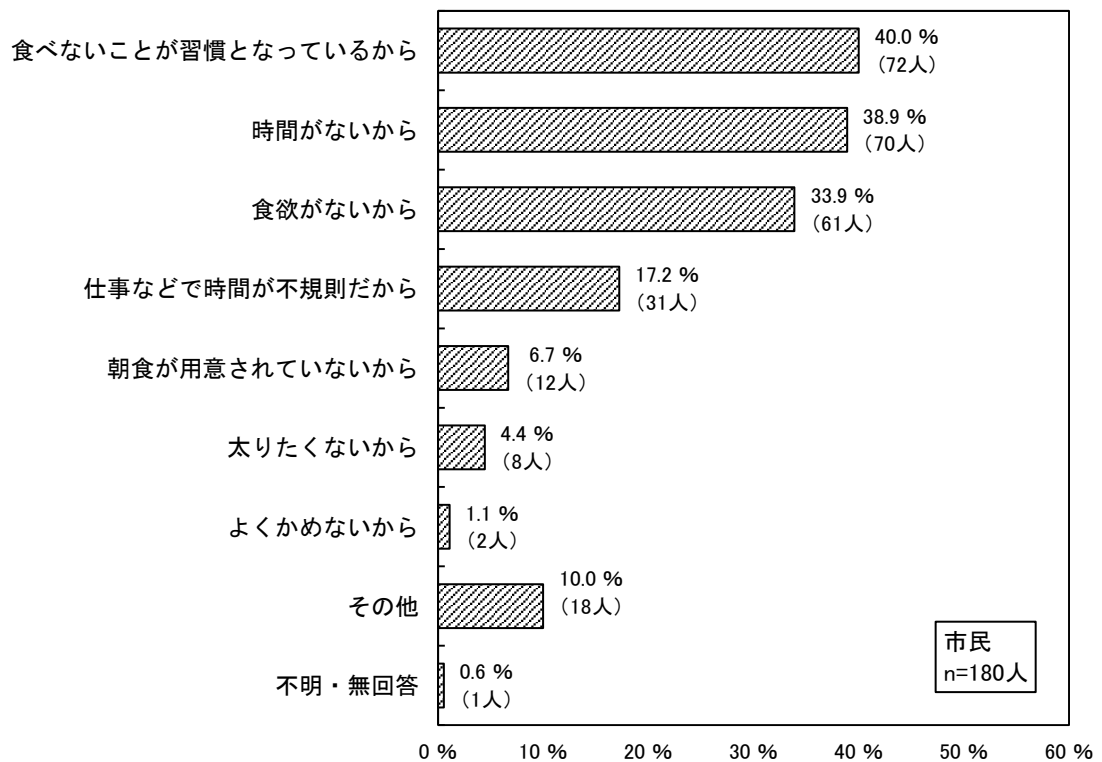
(6) 朝食を食べない理由

問16-1 あなたが、朝食を食べない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食べないことが習慣となっているから」が4割、「時間がないから」も4割弱

朝食を食べない理由については、「食べないことが習慣となっているから」(40.0%)と回答した人が最も多く、以下「時間がないから」(38.9%)、「食欲がないから」(33.9%)、「仕事などで時間が不規則だから」(17.2%)と続いている。

図 3.6 朝食を食べない理由



【性別・年齢別】

20歳代と30歳代は「時間がないから」と回答した人の割合が最も高く、40歳代～60歳代では「食べないことが習慣となっているから」、70歳以上では「食欲がないから」と回答した人の割合が最も高くなっている。

表 2.1 朝食を食べない理由（年齢別・全体）

	対象者	食べないことが習慣となっているから	時間がないから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	朝食が用意されていないから	太りたくないから	よくかめないから	その他	無回答
計	272	40.0	38.9	33.9	17.2	6.7	4.4	1.1	10.0	0.6
20～29歳	13	39.3	67.9	25.0	17.9	7.1	0.0	0.0	10.7	0.0
30～39歳	26	27.3	54.5	42.4	24.2	9.1	6.1	0.0	6.1	0.0
40～49歳	55	41.5	39.0	24.4	24.4	7.3	2.4	2.4	2.4	0.0
50～59歳	51	44.4	33.3	33.3	13.9	5.6	8.3	2.8	5.6	0.0
60～69歳	69	59.1	18.2	45.5	13.6	0.0	4.5	0.0	18.2	0.0
70歳以上	58	27.8	5.6	44.4	0.0	11.1	5.6	0.0	33.3	0.0
年齢不明	0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

対象者：人／回答：%

表 2.2 朝食を食べない理由（年齢別・男性）

	対象者	食べないことが習慣となっているから	時間がないから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	朝食が用意されていないから	太りたくないから	よくかめないから	その他	無回答
計	91	40.7	37.4	33.0	17.6	9.9	5.5	1.1	11.0	0.0
20～29歳	12	33.3	66.7	25.0	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
30～39歳	15	20.0	66.7	40.0	20.0	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0
40～49歳	21	52.4	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	4.8	0.0	0.0
50～59歳	19	47.4	26.3	31.6	15.8	10.5	15.8	0.0	5.3	0.0
60～69歳	16	56.3	12.5	56.3	6.3	0.0	6.3	0.0	18.8	0.0
70歳以上	8	12.5	0.0	37.5	0.0	25.0	12.5	0.0	50.0	0.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 2.3 朝食を食べない理由（年齢別・女性）

	対象者	食べないことが習慣となっているから	時間がないから	食欲がないから	仕事などで時間が不規則だから	朝食が用意されていないから	太りたくないから	よくかめないから	その他	無回答
計	87	41.4	39.1	35.6	17.2	3.4	3.4	1.1	9.2	0.0
20～29歳	16	68.8	43.8	25.0	12.5	0.0	6.3	0.0	12.5	0.0
30～39歳	18	44.4	33.3	44.4	27.8	11.1	11.1	0.0	5.6	0.0
40～49歳	20	35.0	30.0	35.0	20.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0
50～59歳	17	41.2	41.2	35.3	11.8	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0
60～69歳	6	33.3	66.7	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
70歳以上	10	10.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

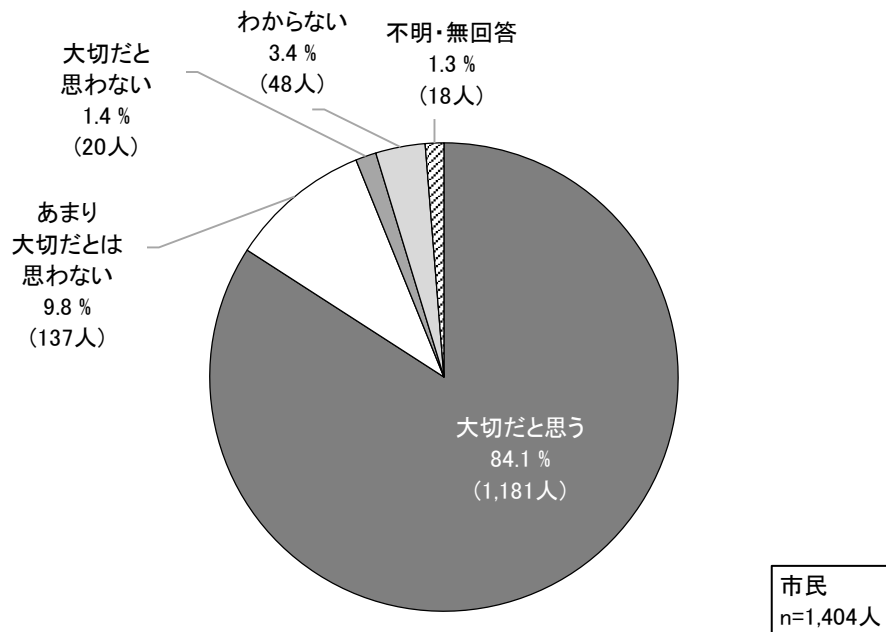
(7) 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ

問17 あなたは地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をするのは大切だと思いますか。
(○は1つだけ)

8割強が「大切だと思う」と回答

「大切だと思う」と回答した人の割合は8割強(84.1%)となっている。「あまり大切だとは思わない」(9.8%)、「大切だと思わない」(1.4%)と回答した人を合わせた割合は1割強(11.2%)となっている。

図3.7 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ



【性別・年齢別】

各年代とも、「大切だと思う」と回答した人が最も多く、70歳代を除き8割を超えている。

性別では、「大切だと思う」割合は、40歳代以上では女性の方が男性よりも高く、女性は全ての年代で8割を超えている。

図 3.7-2 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ（年齢別・全体）

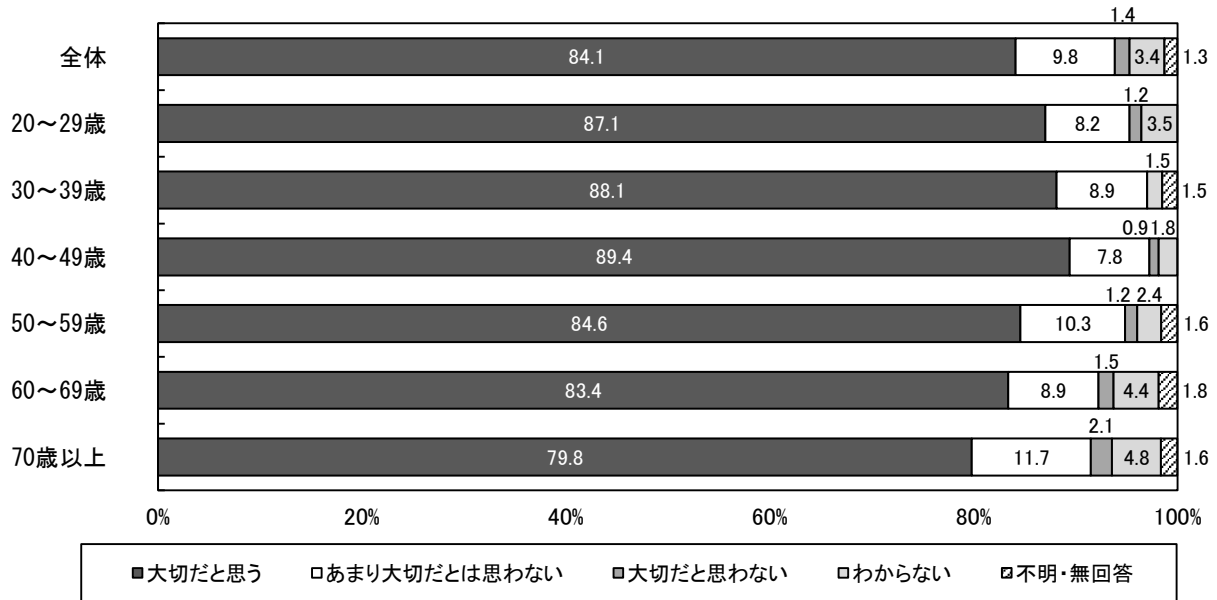
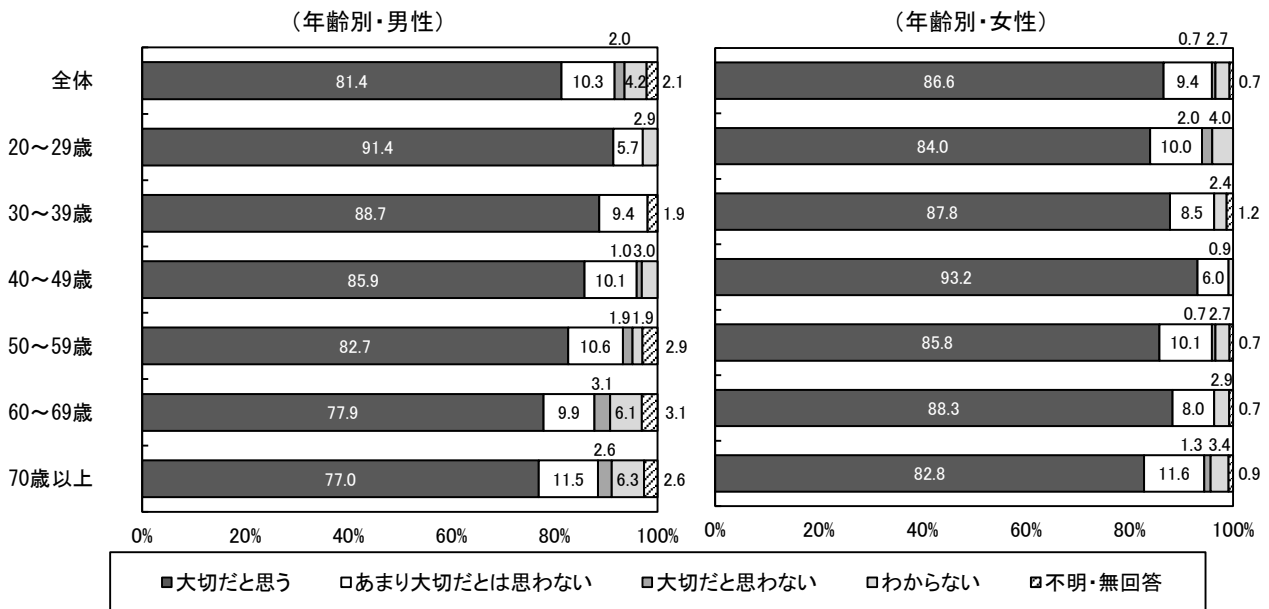


図 3.7-3 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

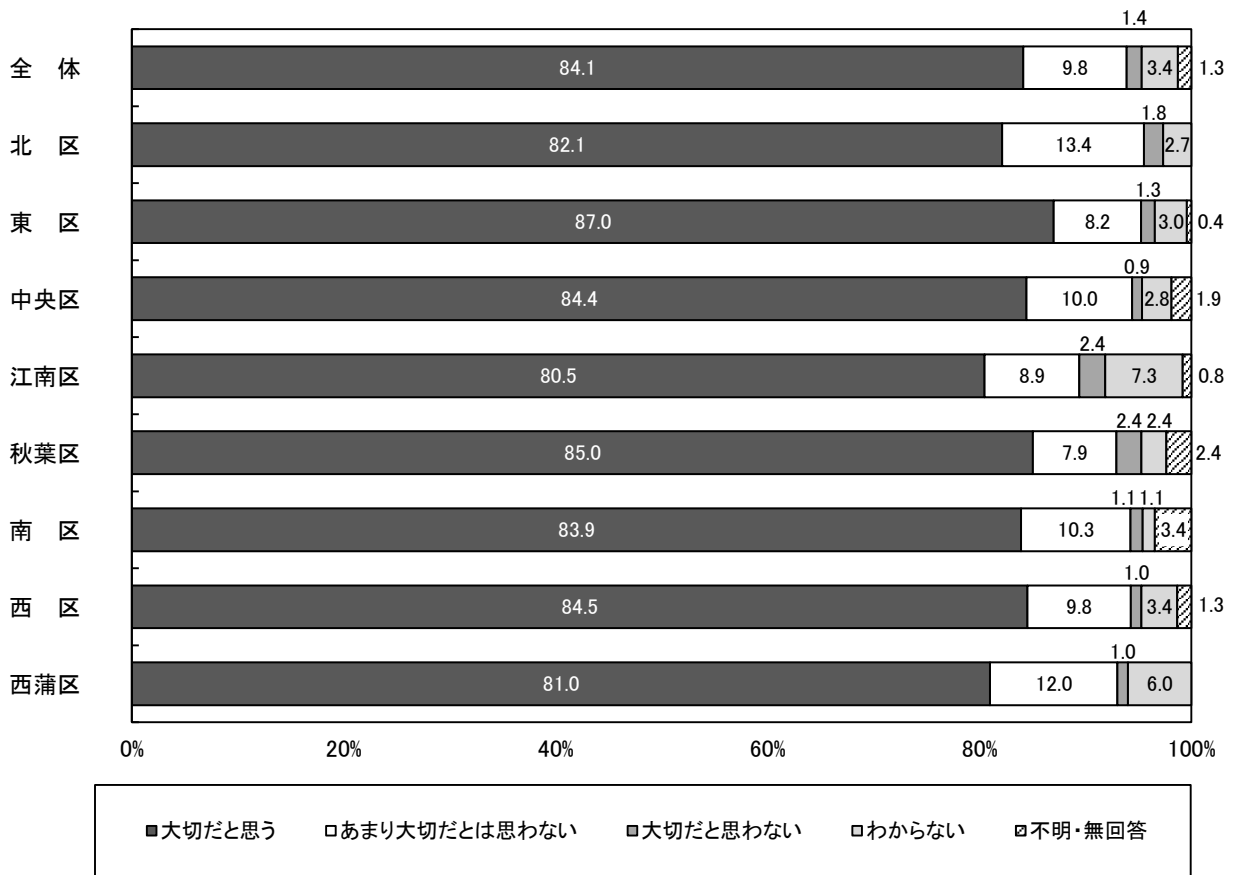
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに「大切だと思う」と回答した人が最も多く、全ての区で8割を超えている。

図 3.7-4 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

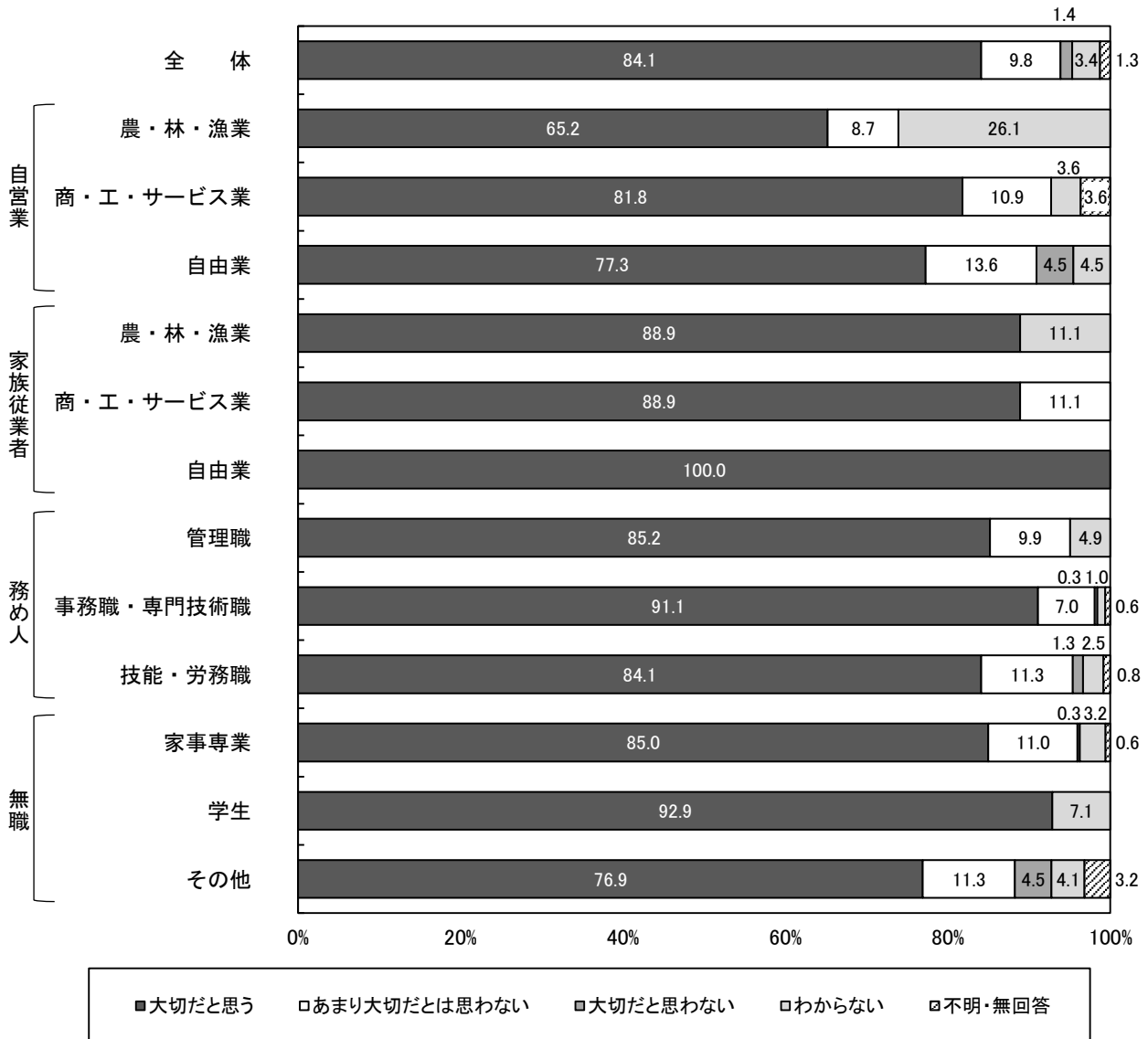
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.7-5 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をする事の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

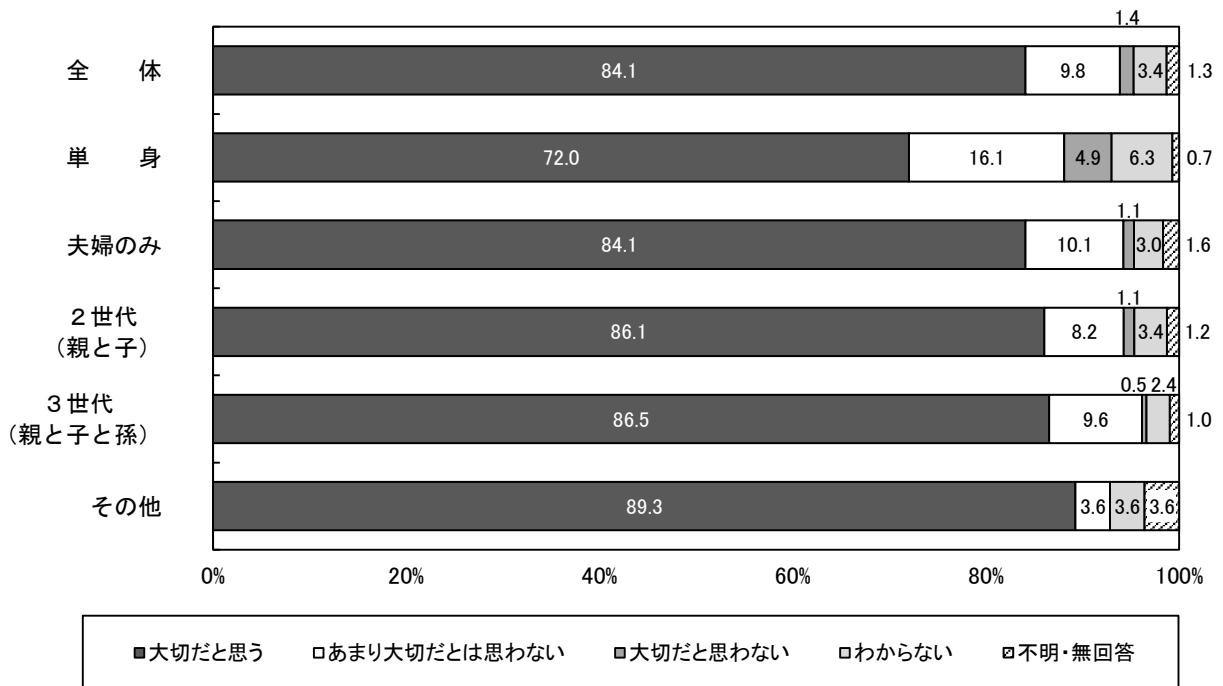
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成別とも、「大切だと思う」と回答した人が最も多いが、単身（72.0%）では7割強と、他の家族構成に比べて低くなっている。

図 3.7-6 地域や家族、友人などと食卓を囲んで食事をすることの大切さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(8) 家族と朝食を食べる回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

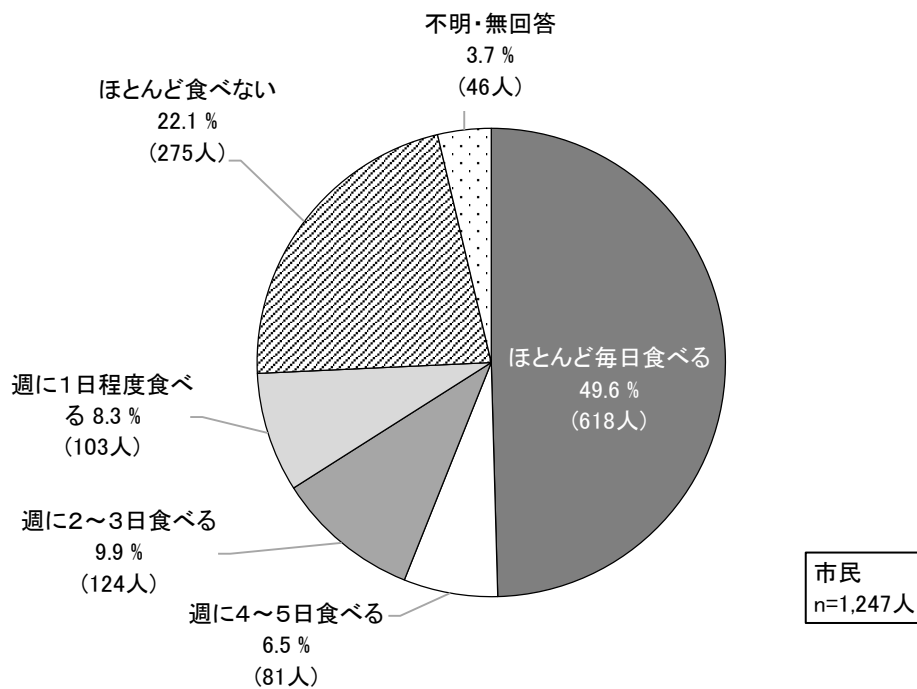
ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

約5割が「ほとんど毎日食べる」と回答

約5割(49.6%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(6.5%)、「週に2～3日食べる」(9.9%)を合わせると、7割弱(66.0%)の人が家族と一緒に朝食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(8.3%)、「ほとんど食べない」(22.1%)と回答した、家族と一緒に朝食を食べない人は約3割(30.3%)となっている。

図 3.8 家族と朝食を食べる回数



【性別・年齢別】

30歳以上では「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、70歳以上では6割強となっている。
一方、20歳代では4割弱（36.9%）の人が「ほとんど食べない」と回答している

図 3.8-2 家族と朝食を食べる回数（年齢別）

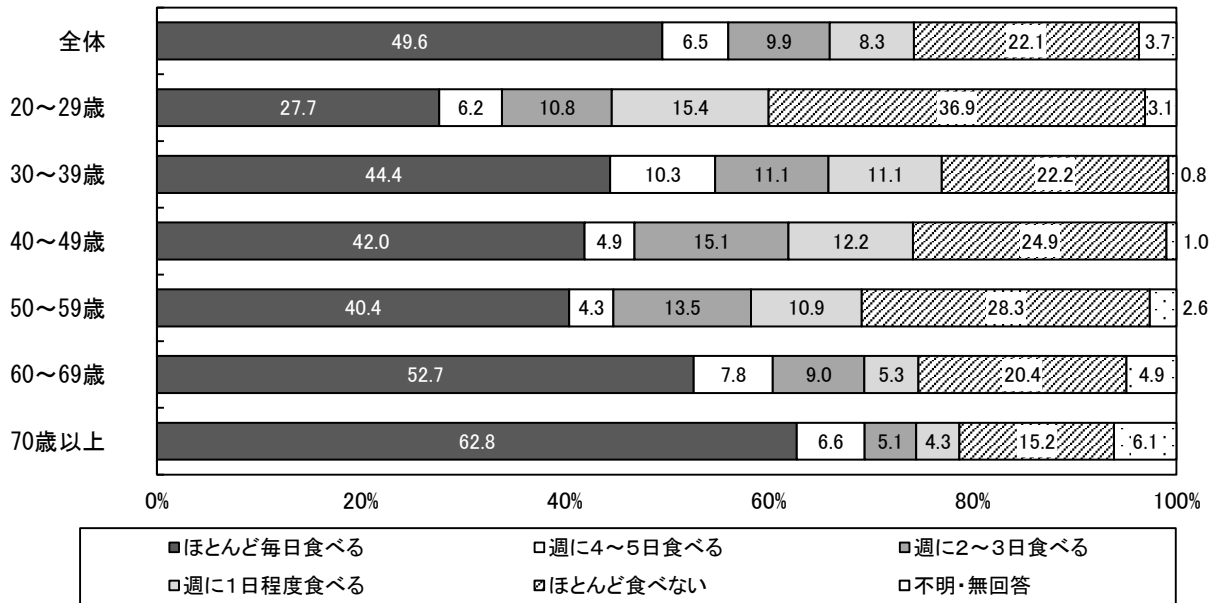
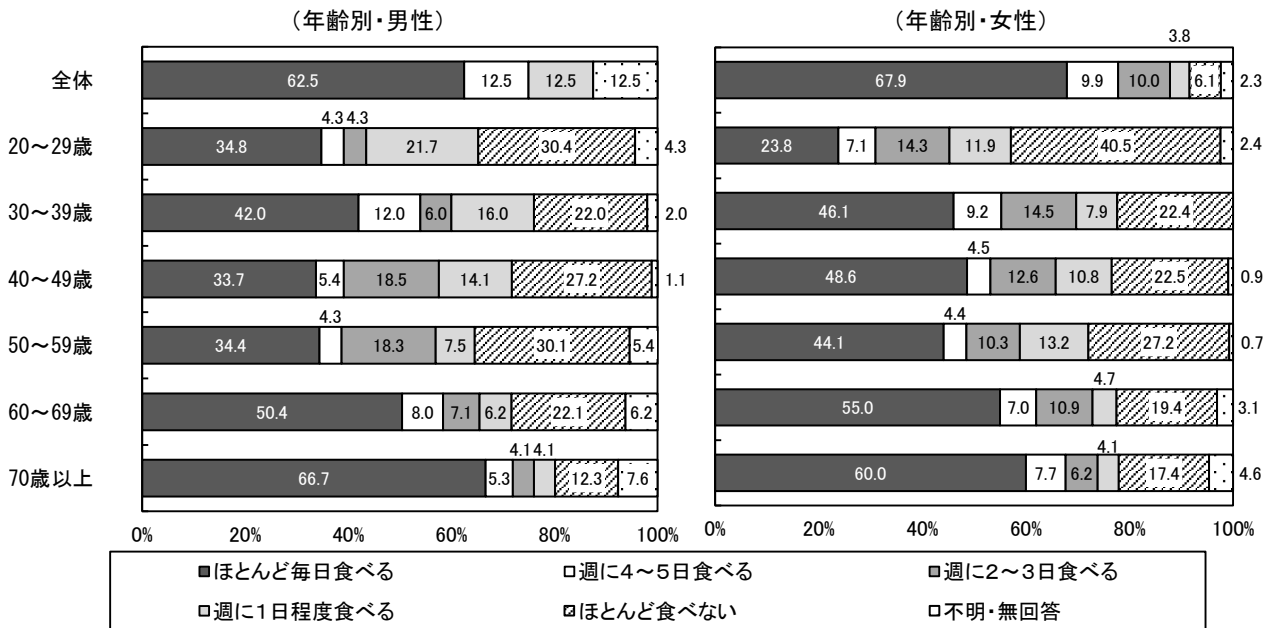


図 3.8-3 家族と朝食を食べる回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

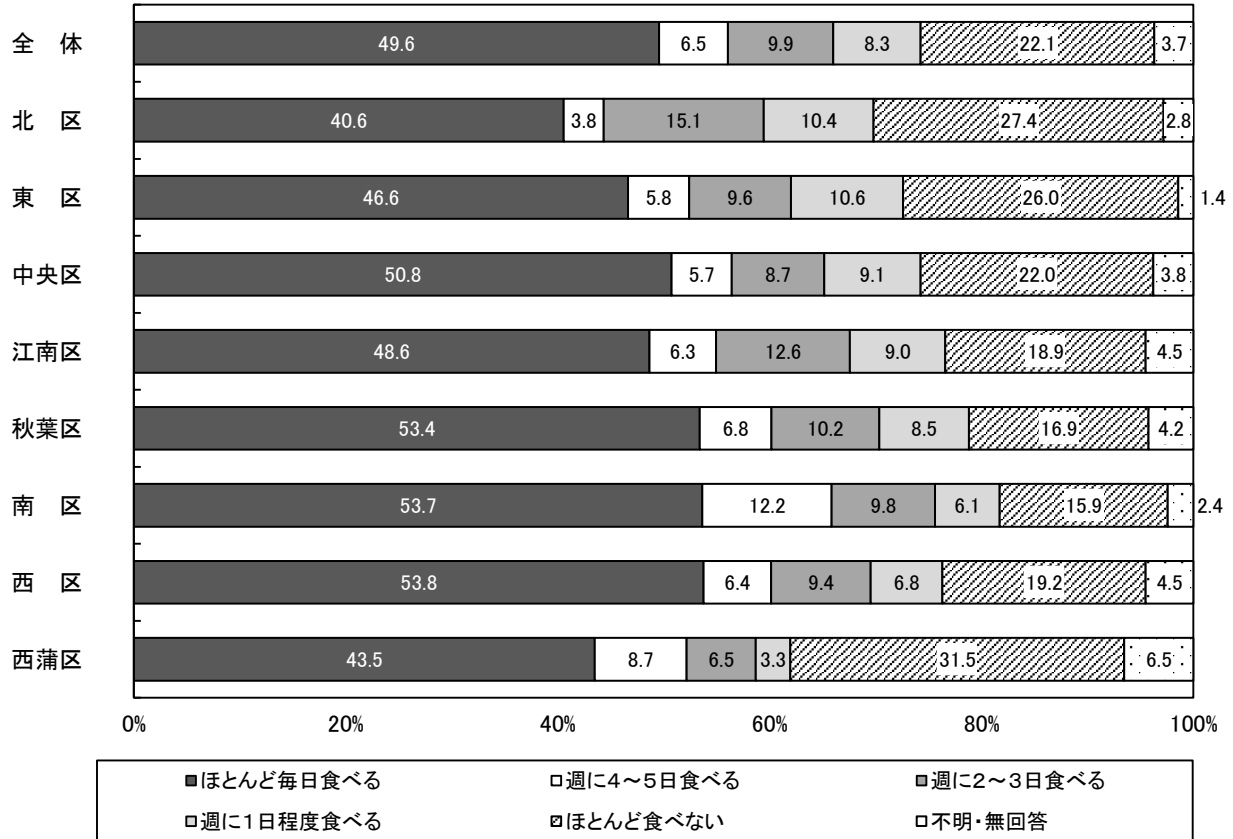
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、秋葉区（53.4%）、南区（53.7%）、西区（58.8%）で高くなっている。一方「ほとんど食べない」の割合は、西蒲区（31.5%）が最も高くなっている。

図 3.8-4 家族と朝食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

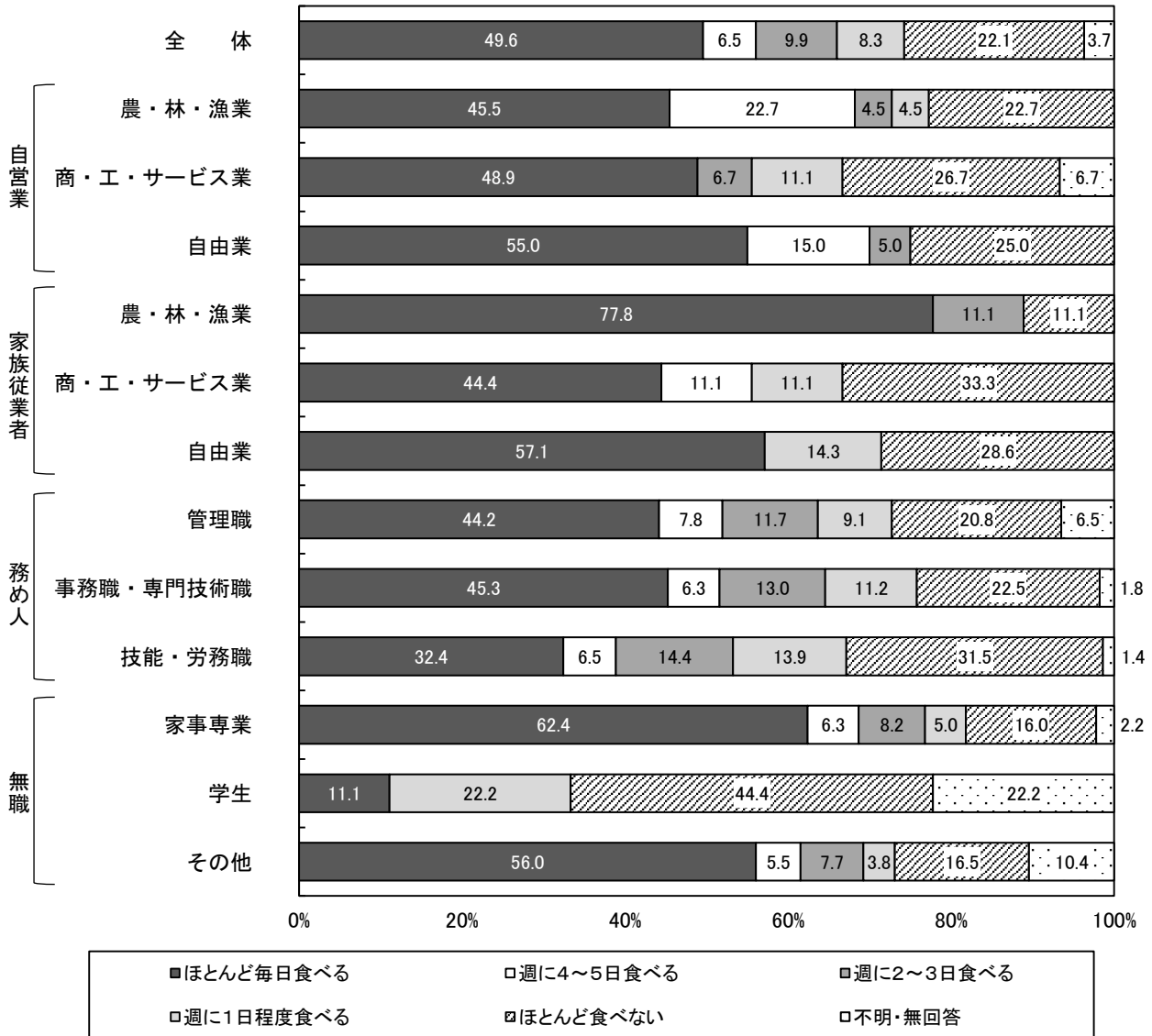
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.8-5 家族と朝食を食べる回数（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,247	22	45	20	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
77	285	216	319	9	182	47

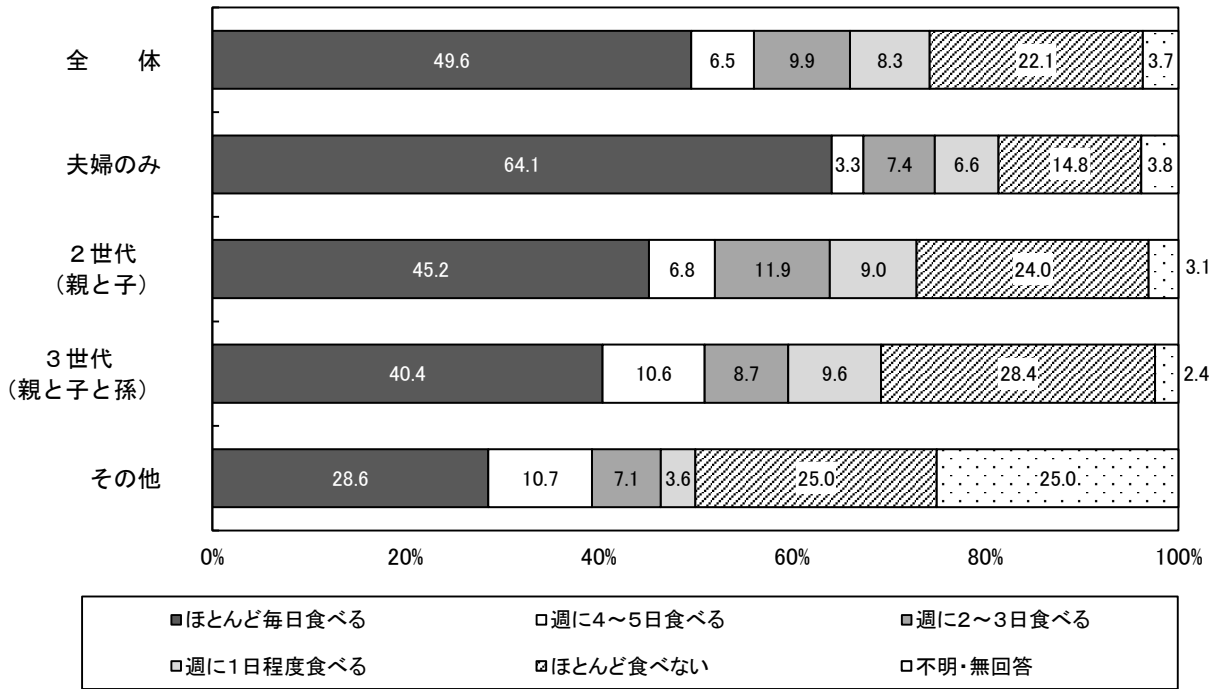
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ（64.1%）で最も高く、6割強となっている。

図 3.8-6 家族と朝食を食べる回数（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,247	0	365	646	208	28	0

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(9) 家族と夕食を食べる回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

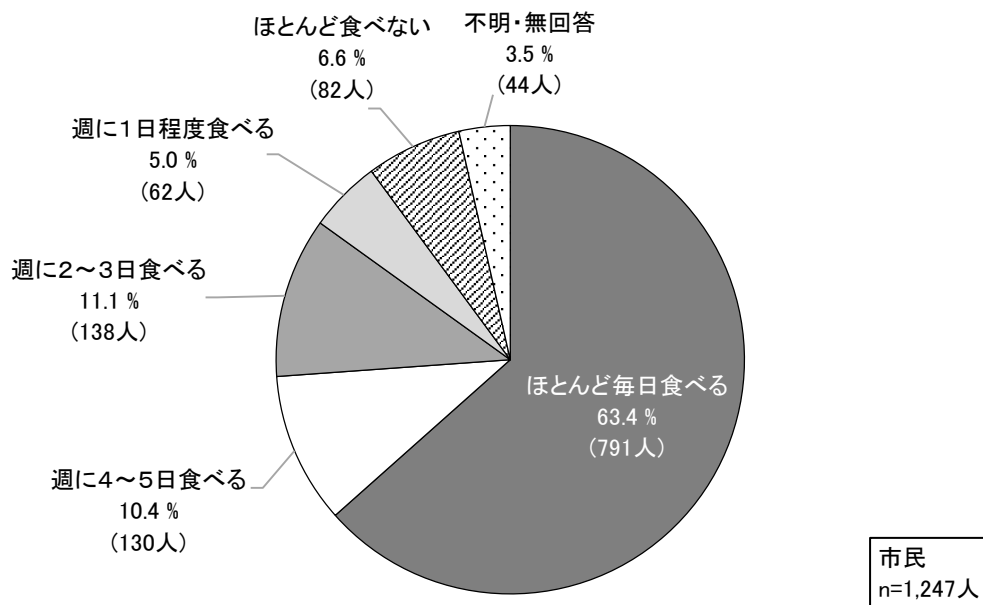
イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

6割強が「ほとんど毎日食べる」と回答

6割強(63.4%)が「ほとんど毎日食べる」と回答し、「週に4～5日食べる」(10.4%)、「週に2～3日食べる」(11.1%)を合わせると、9割弱(84.9%)の人が家族と一緒に夕食を食べている。

一方、「週に1日程度食べる」(5.0%)、「ほとんど食べない」(6.6%)と回答した、家族と一緒に夕食を食べない人は1割強(11.5%)となっている。

図 3.9 家族と夕食を食べる回数



【性別・年齢別】

各年代とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、70歳以上では7割を超えている。
 また、性別で見ると、「ほとんど毎日食べる」の割合は、30～60歳代で女性の方が高くなっている。
 一方、20歳代では、男性（73.9%）と女性を大きく上回っている。

図 3.9-2 家族と食を食べる回数（年齢別）

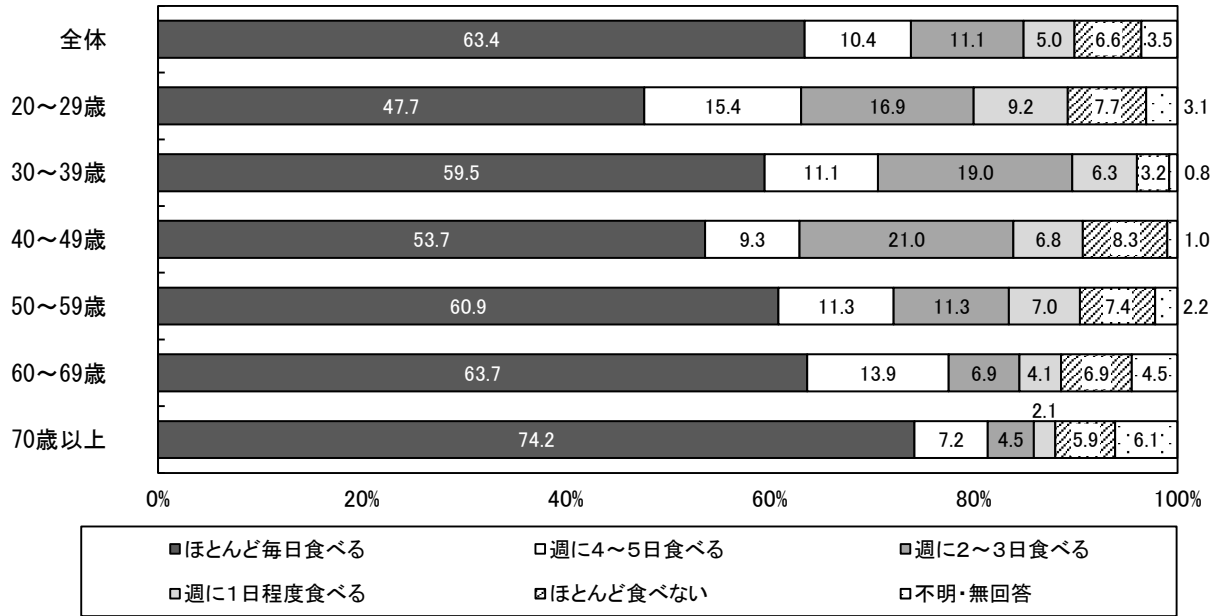
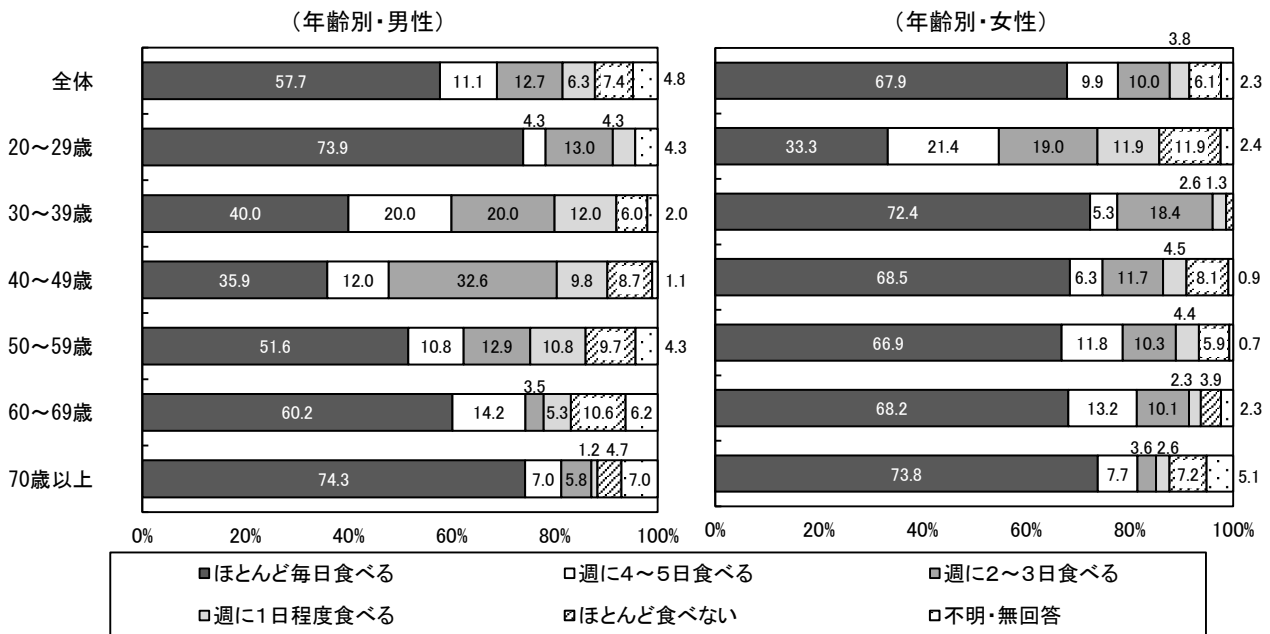


図 3.9-3 家族と夕食を食べる回数



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

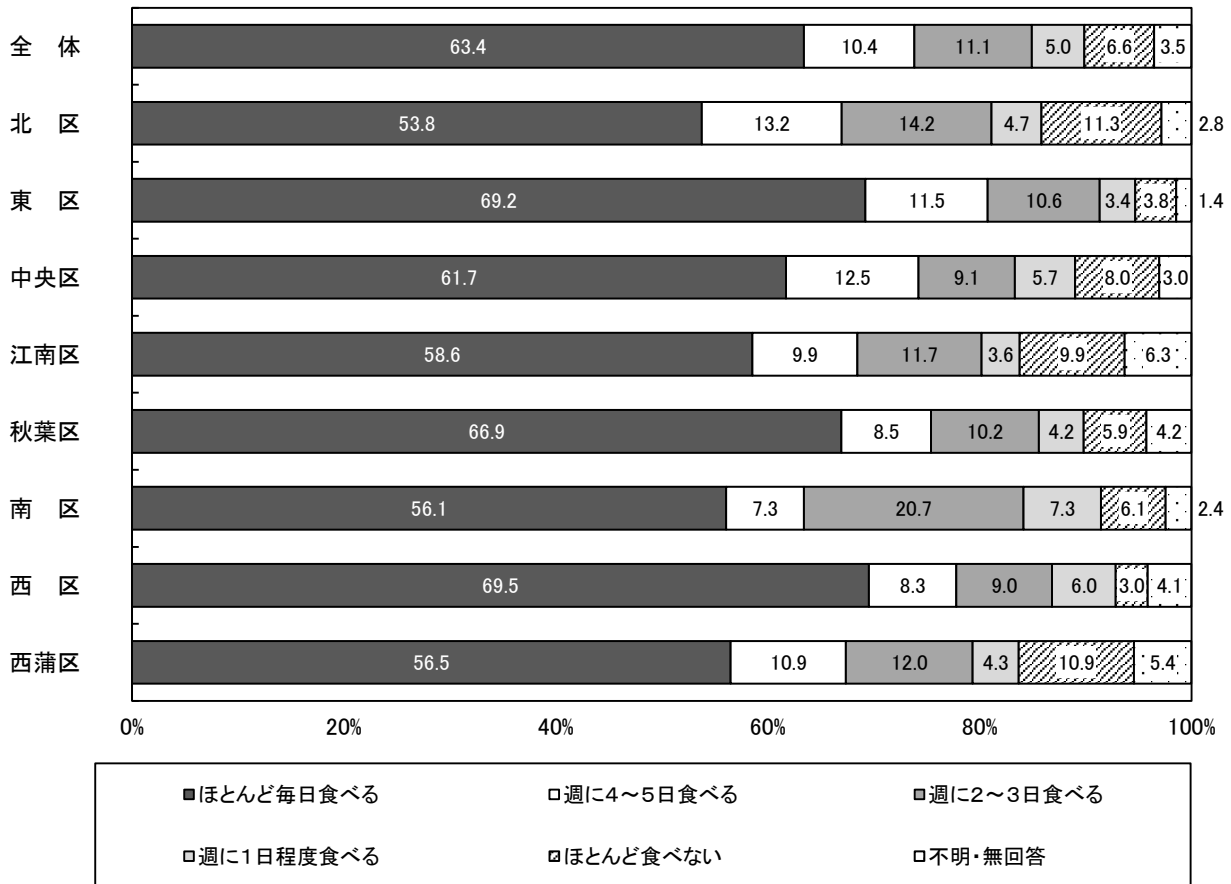
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「ほとんど毎日食べる」と回答した人が最も多く、西区（69.5%）と東区（69.2%）で割合が高くなっている。

図 3.9-4 家族と夕食を食べる回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

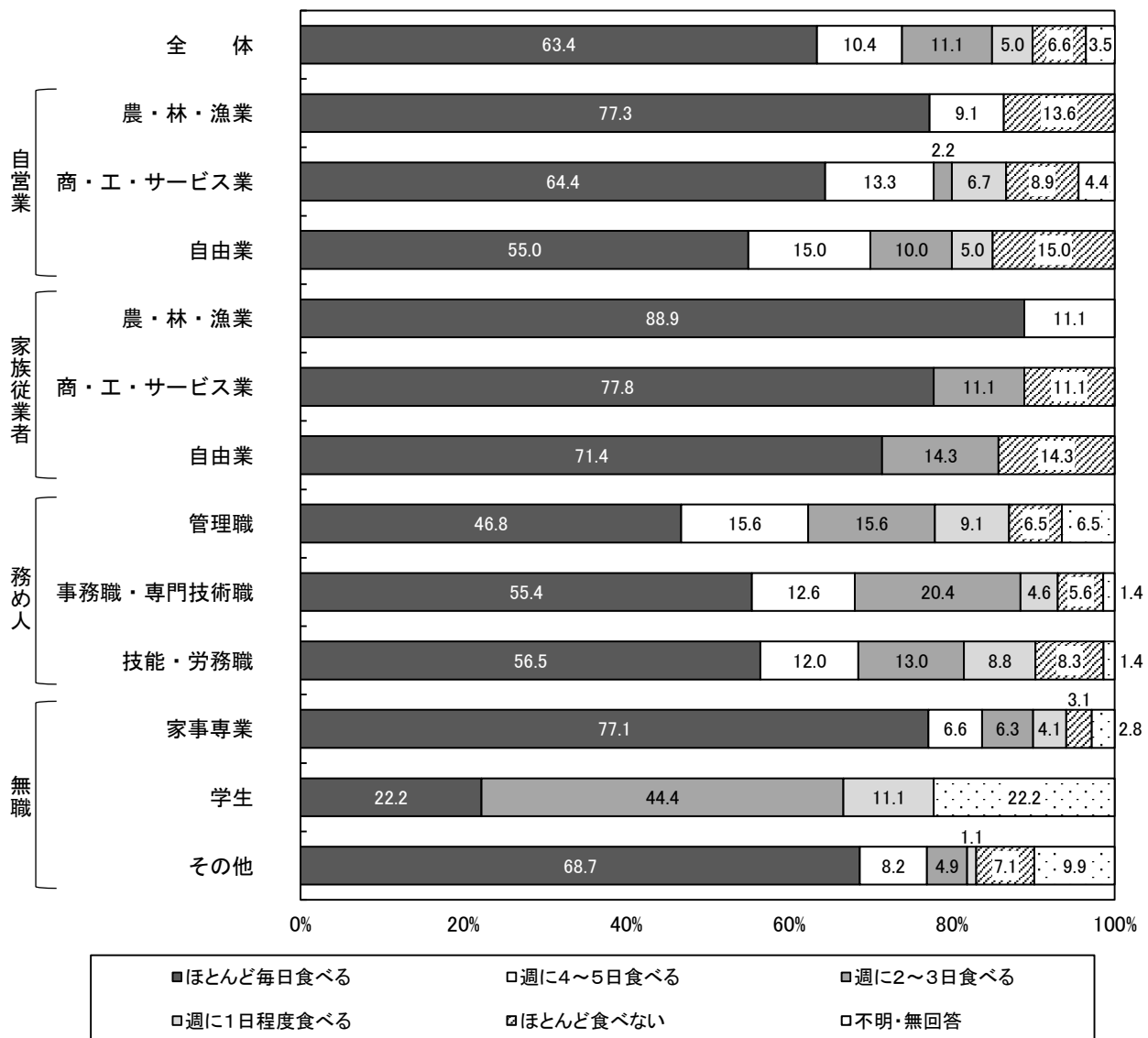
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.9-5 家族と夕食を食べる回数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,247	22	45	20	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
77	285	216	319	9	182	47

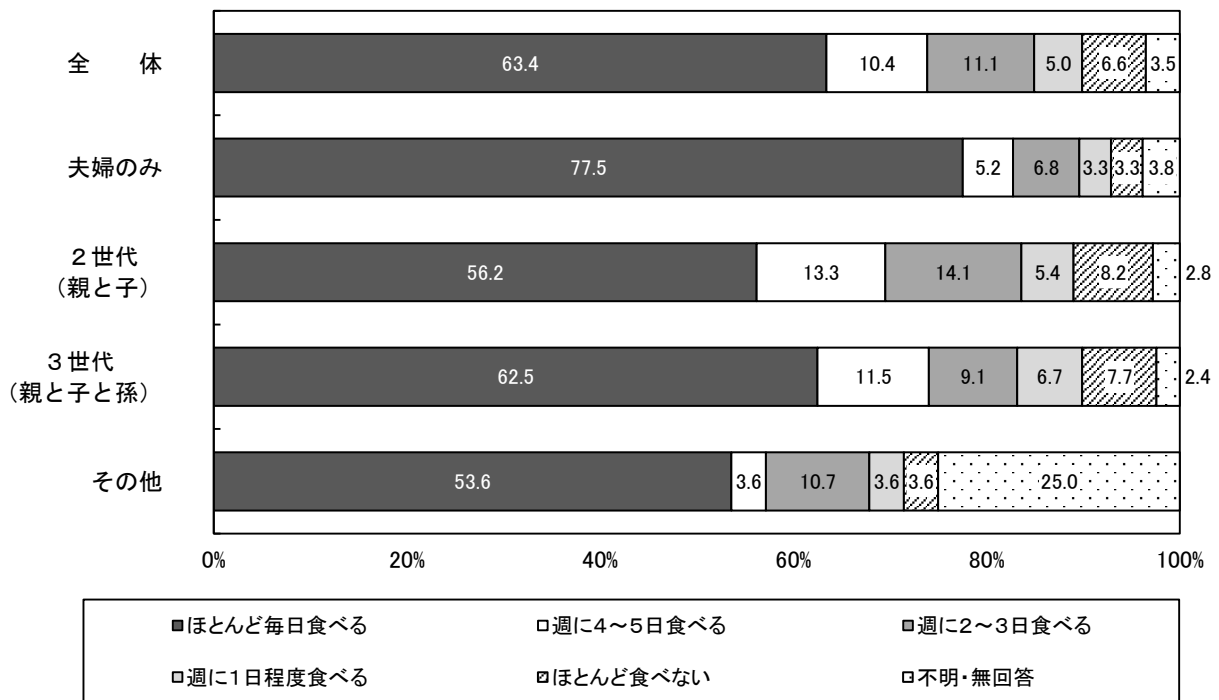
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は、夫婦のみ(77.5%)で8割弱と最も高くなっている。

図 3.9-6 家族と夕食を食べる回数(家族構成別)



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,247	0	365	646	208	28	0

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(10) この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数

問18 家族と一緒に食べる頻度について伺います。

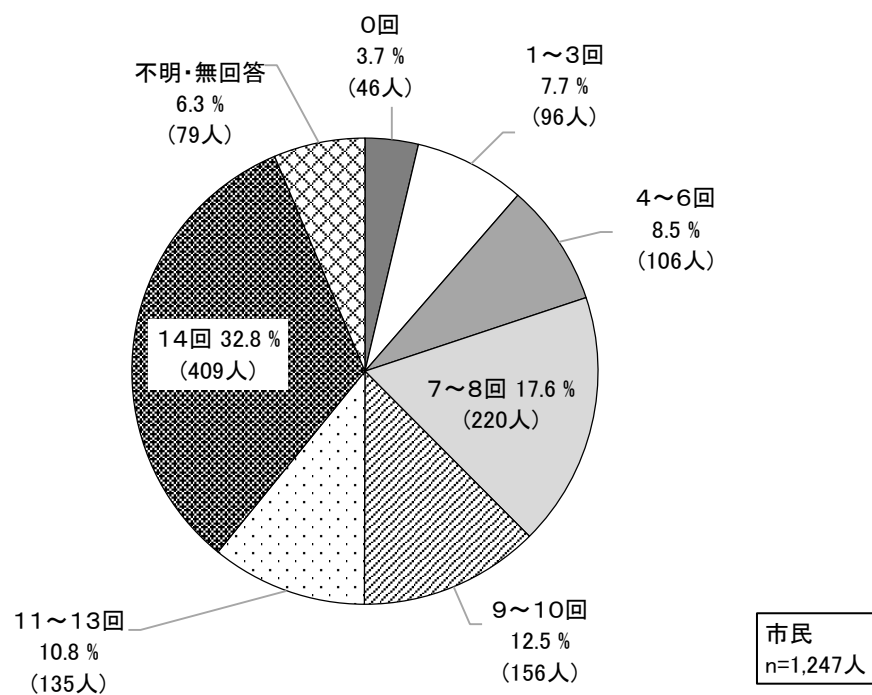
ウ) この1週間で朝食及び夕食を家族と一緒に食べた回数は何回ですか。

3割強が「14回」家族と食事をしたと回答

この1週間で家族と一緒に朝食または夕食を食べた回数が「14回（毎回）」(32.8%)と回答した人が最も多く、次いで「7～8回」(17.6%)、「9～10回」(12.5%)、「11～13回」(10.8%)と続いている。

一方、「0回」(3.7%)、「1～3回」(7.7%)と回答した、家族と食べた回数が少ない人は1割強(11.4%)となっている。

図 3.10 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数



【性別・年齢別】

20歳代では「7～8回」と回答した人が最も多く、その他の年齢層では「14回」と回答した人が最も多くなっている。

また、性別で見ると、「14回」の割合は20歳代と70歳以上では男性の方が女性より高くなっている。

図 3. 10-2 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（年齢別）

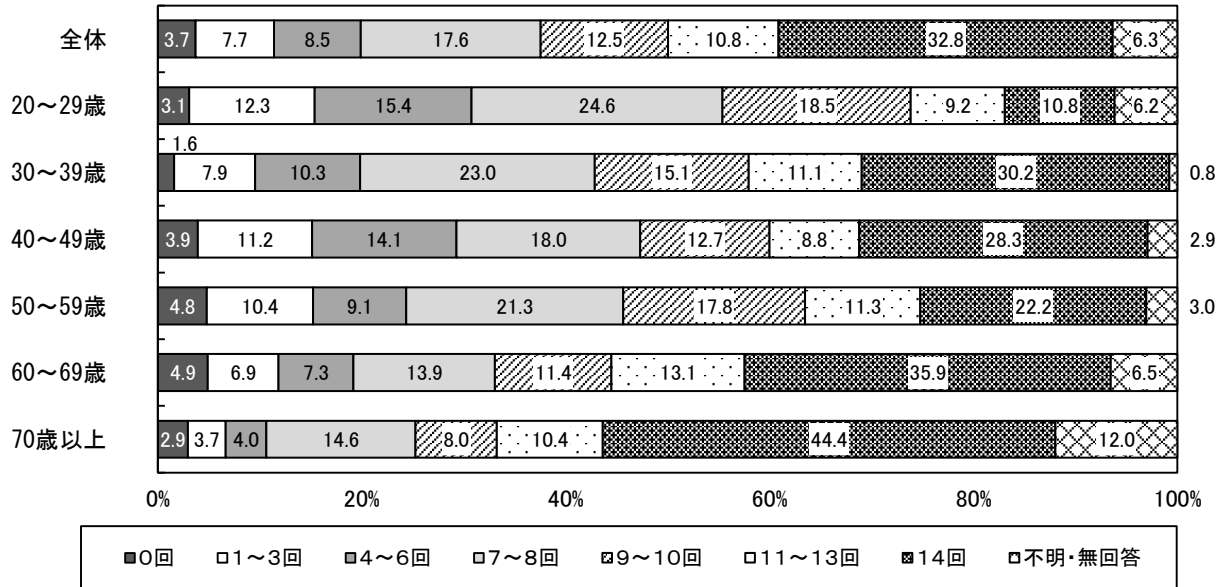
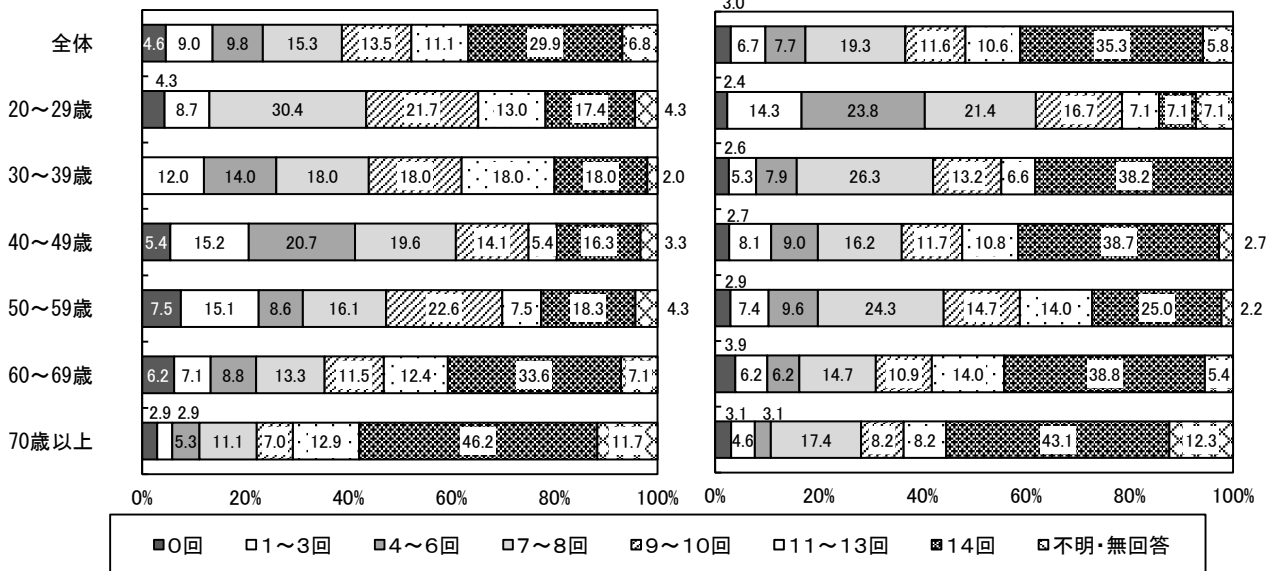


図 3. 10-3 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

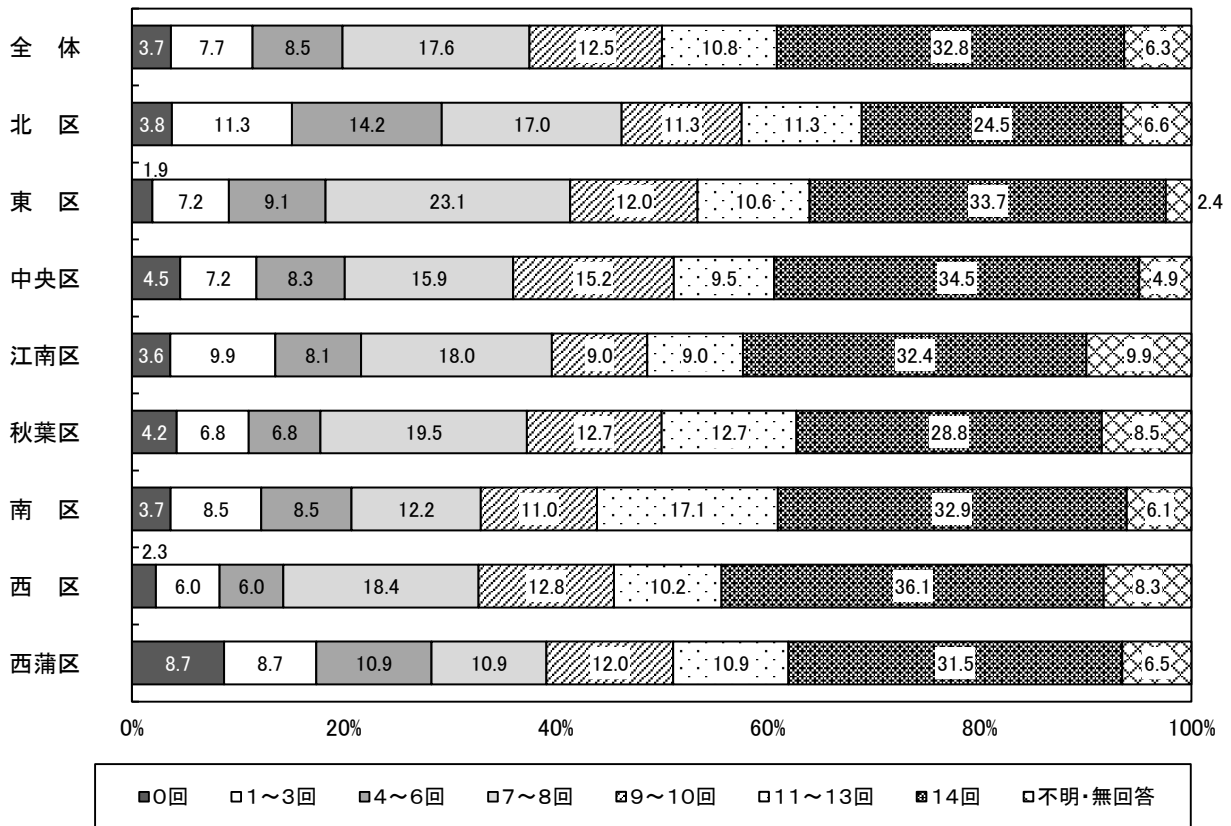
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも、「14回」と回答した人が最も多くなっている。

図 3.10-4 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

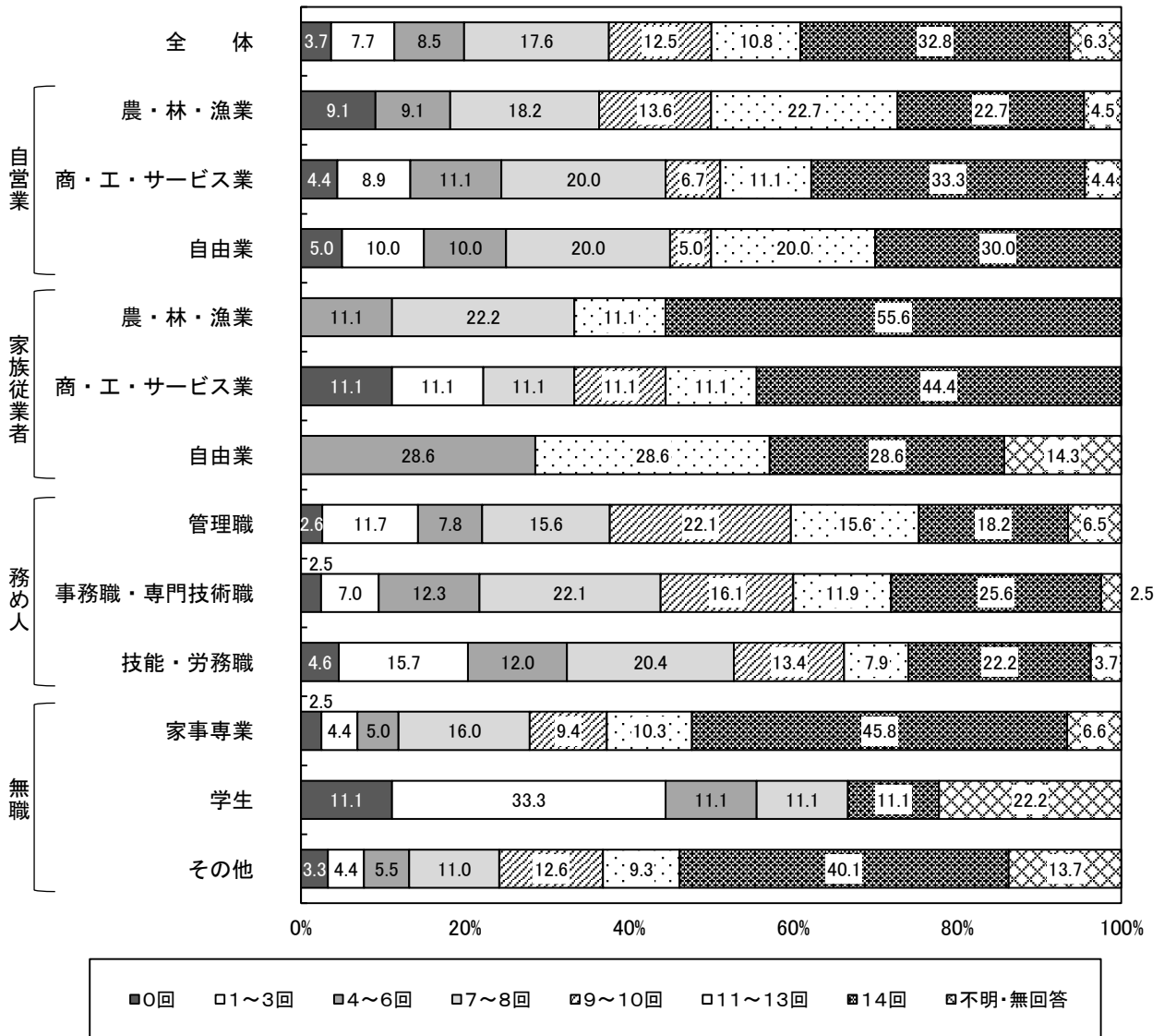
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.10-5 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,247	22	45	20	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
77	285	216	319	9	182	47

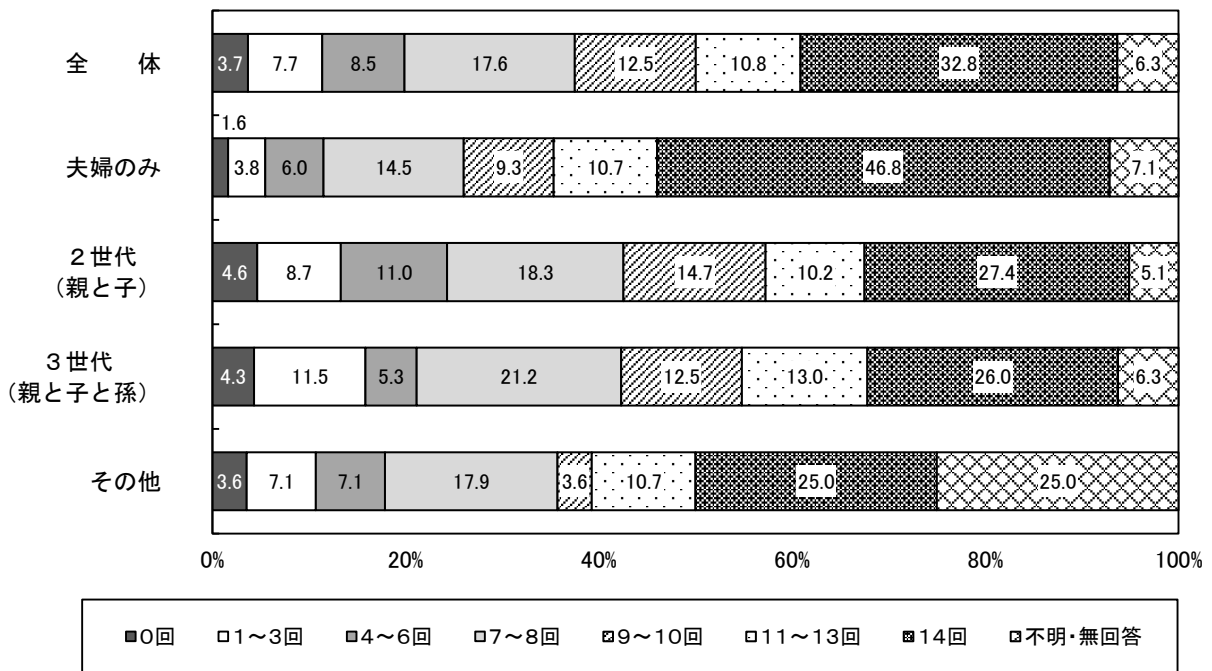
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「14回」と回答した人の割合は、夫婦のみ（46.8%）で最も高く、5割弱となっている。

図 3.10-6 この1週間で朝食または夕食を家族と食べた回数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,247	0	365	646	208	28	0

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

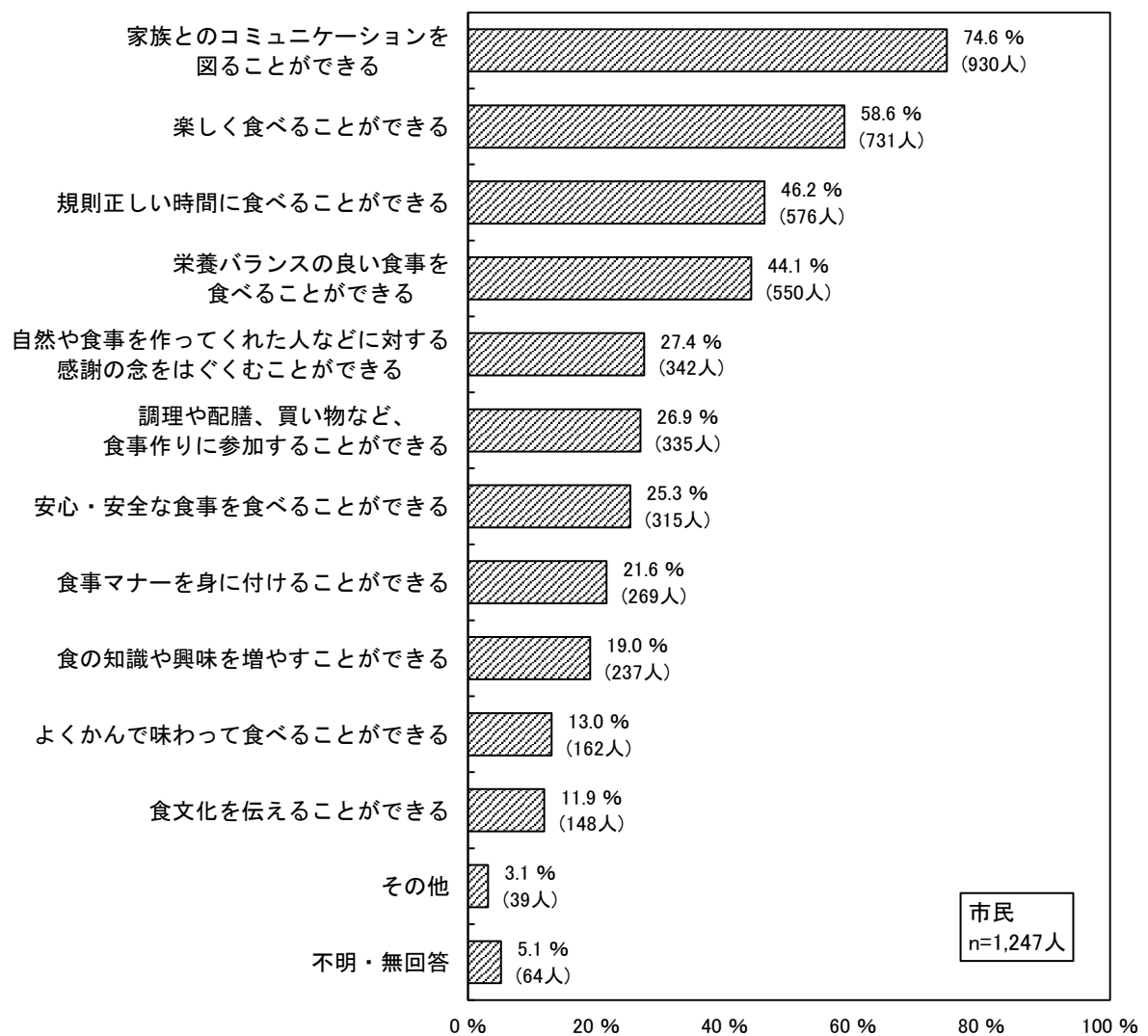
(11) 家族と食事を一緒に食べることの良い点

問19 食事を家族と一緒に食べることは、一人で食べるよりどのような良い点があると思いますか。
(〇はいくつでも)

8割弱が「家族とのコミュニケーションを図ることができる」と回答

家族と食事を一緒にすることの良い点は、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」(74.6%)をあげる人が最も多くなっている。以下「楽しく食べることができる」(58.6%)、「規則正しい時間に食べることができる」(46.2%)、「栄養バランスの良い食事を食べることができる」(44.1%)と続いている。

図 3.11 家族と食事を一緒に食べることの良い点



【性別・年齢別】

各年代とも、「楽しく食べることができる」、「家族とのコミュニケーションを図ることができる」の割合が高くなっている。60歳以上では「規則正しい時間に食べることができる」の割合も高くなっている。

表 3.1 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・全体）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	安心・安全な食事を食べることができる	食事マナーを身に付けることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よくかんで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	1247	74.6	58.6	46.2	44.1	27.4	26.9	25.3	21.6	19.0	13.0	11.9	3.1	5.1
20～29歳	65	80.0	61.5	35.4	43.1	23.1	26.2	21.5	16.9	10.8	7.7	6.2	7.7	4.6
30～39歳	126	82.5	72.2	34.9	45.2	31.0	32.5	19.8	39.7	23.0	10.3	14.3	0.8	1.6
40～49歳	205	84.4	66.8	34.1	35.6	27.8	26.3	14.1	32.2	19.5	9.8	10.2	2.9	3.4
50～59歳	230	83.9	60.9	40.9	47.4	27.4	24.3	20.4	21.7	16.5	8.7	12.6	2.2	3.5
60～69歳	245	73.1	55.1	55.5	45.3	22.9	28.6	28.6	12.7	20.0	12.2	13.5	3.3	5.7
70歳以上	376	60.9	50.0	55.6	45.7	29.8	25.8	34.6	16.2	19.7	19.7	11.4	3.7	8.0
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 3.2 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・男性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	安心・安全な食事を食べることができる	食事マナーを身に付けることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よくかんで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	542	74.7	57.7	41.7	39.9	32.1	24.5	23.8	17.9	15.5	11.3	10.0	2.2	7.2
20～29歳	23	82.6	73.9	47.8	69.6	17.4	30.4	21.7	17.4	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3
30～39歳	50	74.0	70.0	30.0	34.0	36.0	22.0	20.0	32.0	18.0	10.0	12.0	2.0	4.0
40～49歳	92	87.0	62.0	30.4	32.6	28.3	22.8	10.9	27.2	13.0	5.4	5.4	0.0	3.3
50～59歳	93	84.9	60.2	33.3	38.7	38.7	19.4	16.1	19.4	14.0	4.3	12.9	1.1	6.5
60～69歳	113	74.3	56.6	46.9	37.2	24.8	23.9	24.8	8.8	14.2	13.3	8.0	3.5	8.0
70歳以上	171	62.0	49.1	51.5	43.9	36.3	28.7	35.7	14.0	18.7	18.1	12.3	2.9	10.5
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 3.3 家族と食事を一緒に食べることの良い点（年齢別・女性）

	対象者	家族とのコミュニケーションを図ることができる	楽しく食べることができる	規則正しい時間に食べることができる	栄養バランスの良い食事を食べることができる	自然や食事を作ってくれた人などに対する感謝の念をはぐくむことができる	調理や配膳、買い物など、食事作りに参加することができる	安心・安全な食事を食べることができる	食事マナーを身に付けることができる	食の知識や興味を増やすことができる	よくかんで味わって食べることができる	食文化を伝えることができる	その他	無回答
計	689	75.3	59.8	49.6	47.6	23.9	28.6	26.4	24.5	21.6	14.4	13.4	3.6	3.2
20～29歳	42	78.6	54.8	28.6	28.6	26.2	23.8	21.4	16.7	11.9	9.5	7.1	9.5	4.8
30～39歳	76	88.2	73.7	38.2	52.6	27.6	39.5	19.7	44.7	26.3	10.5	15.8	0.0	0.0
40～49歳	111	83.8	71.2	36.9	37.8	27.9	28.8	16.2	36.9	24.3	12.6	13.5	4.5	3.6
50～59歳	136	83.8	61.8	46.3	53.7	19.9	27.9	23.5	23.5	18.4	11.8	12.5	2.9	0.7
60～69歳	129	72.9	54.3	63.6	52.7	21.7	33.3	32.6	16.3	25.6	11.6	18.6	3.1	3.1
70歳以上	195	60.5	51.3	59.0	47.7	24.1	22.6	33.8	17.4	20.0	21.5	10.8	4.1	5.6
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(12) 家族との食事に対する意識

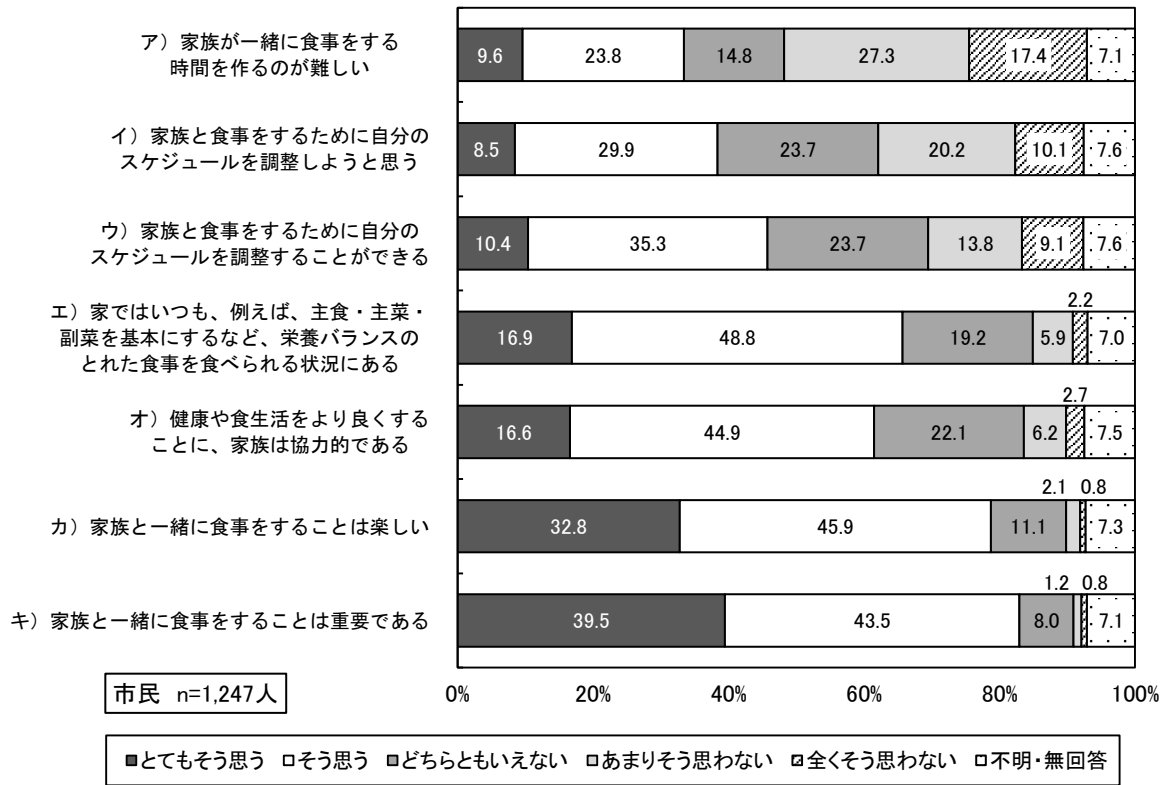
問20 家族との食事について伺います。(項目毎に○は1つだけ)

8割強が「家族と一緒に食事をすることは重要である」、
8割弱が「家族と一緒に食事をすることは楽しい」と回答

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人を合わせた割合は、『キ) 家族と一緒に食事をすることは重要である』の項目で8割強 (82.9%)、『カ) 家族と一緒に食事をすることは楽しい』の項目で8割弱 (78.7%) と高くなっている。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した人を合わせた割合は、『ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい』の項目が5割弱 (44.7%) と高くなっている。

図 3.12 家族との食事に対する意識



	全体	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答
ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい	1,247	120	297	185	340	217	88
イ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う	1,247	106	373	295	252	126	95
ウ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる	1,247	130	440	296	172	114	95
エ) 家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある	1,247	211	609	240	73	27	87
オ) 健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である	1,247	207	560	276	77	34	93
カ) 家族と一緒に食事をするのは楽しい	1,247	409	572	139	26	10	91
キ) 家族と一緒に食事をするのは重要である	1,247	492	542	100	15	10	88

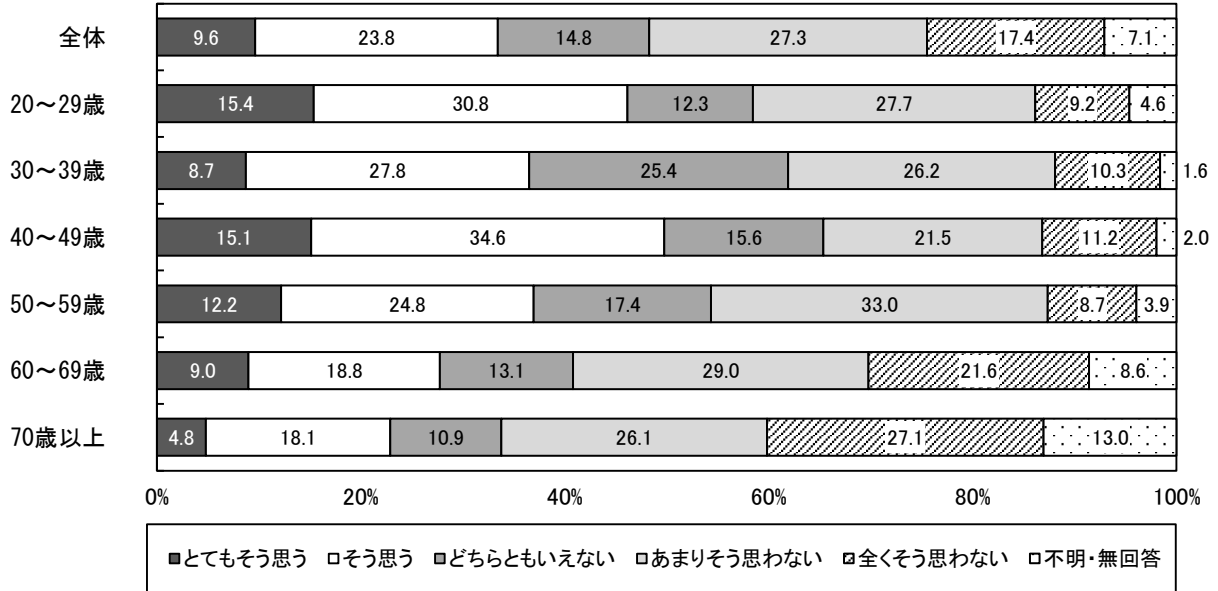
(人)

ア) 家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、40歳代(49.8%)で最も高く、70歳以上(22.9%)で最も低くなっている。

図 3.12-2 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい〕
(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

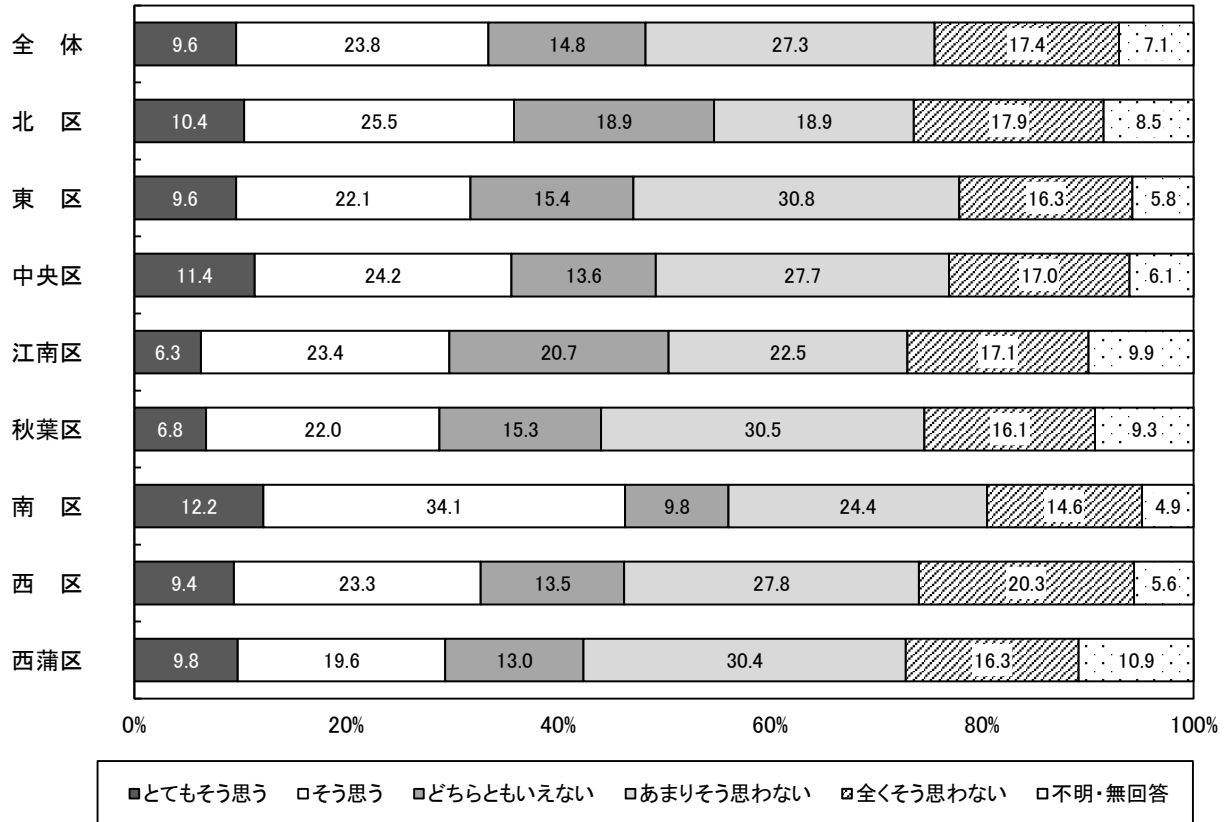
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、南区（46.3%）で最も高く、秋葉区（28.8%）で最も低くなっている。

図 3.12-3 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をする時間を作るのが難しい〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

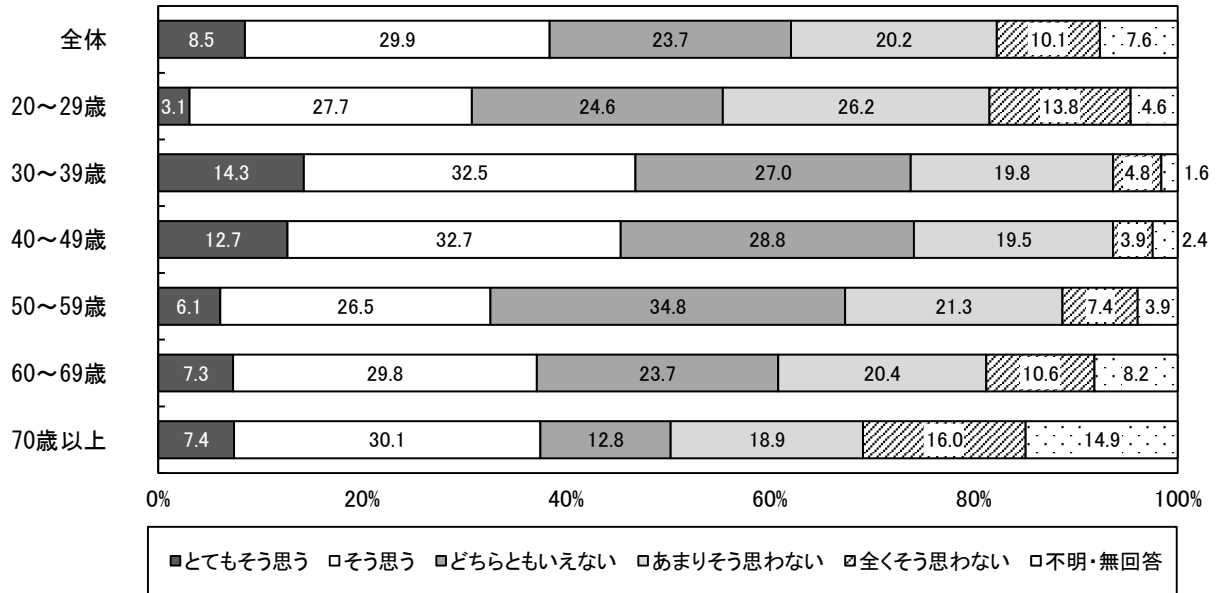
※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(46.8%)で最も高く、20歳代(30.8%)で最も低くなっている。

図 3.12-4 家族との食事に対する意識
 「家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う」(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

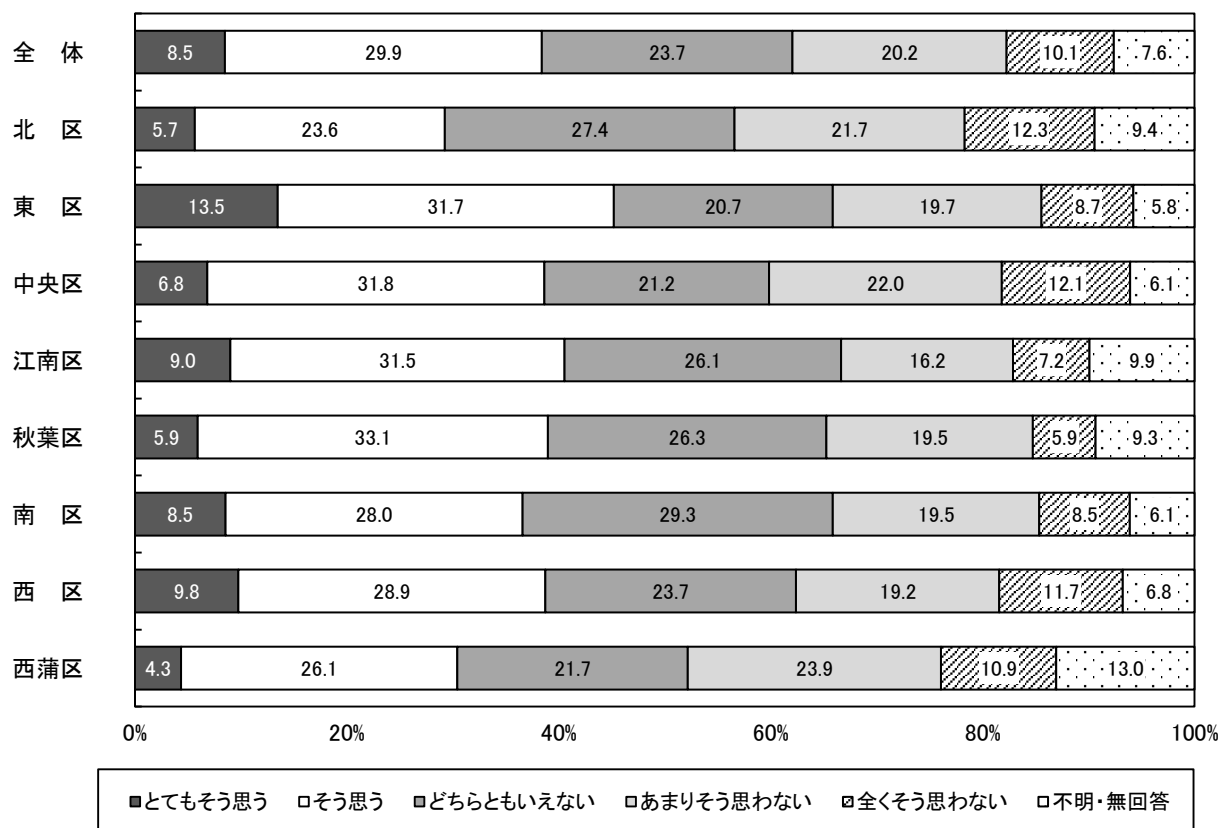
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、東区（45.2%）で最も高く、北区（29.2%）で最も低くなっている。

図 3.12-5 家族との食事に対する意識
〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整しようと思う〕（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

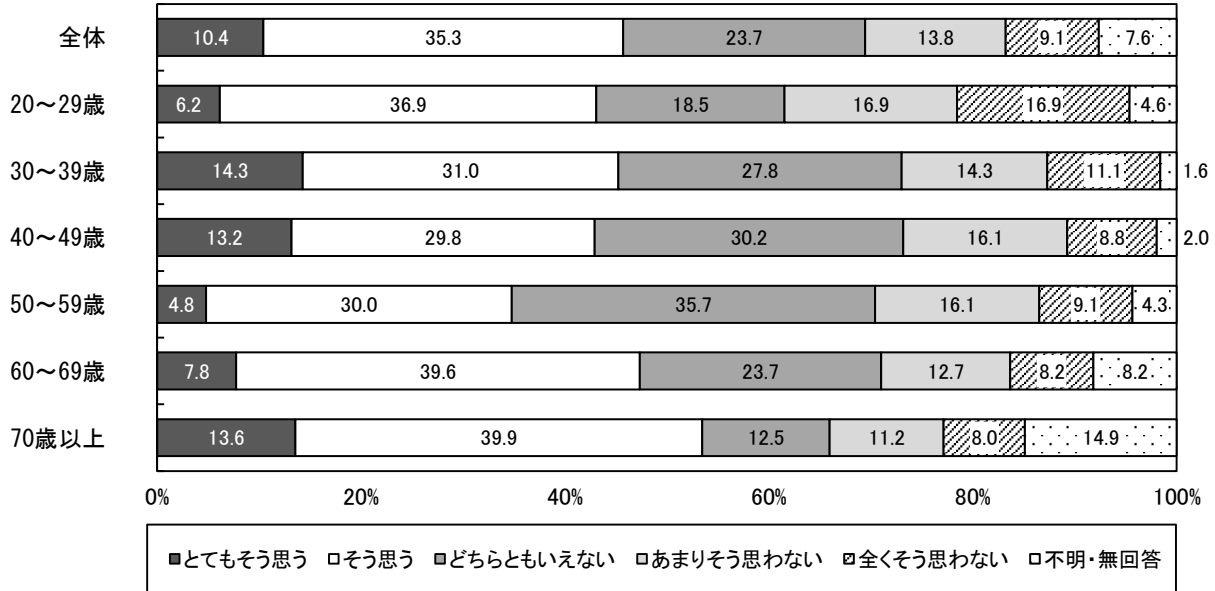
ウ) 家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、70歳以上(53.5%)で最も高く、50歳代(34.8%)で最も低くなっている。

図 3.12-6 家族との食事に対する意識

〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる〕(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

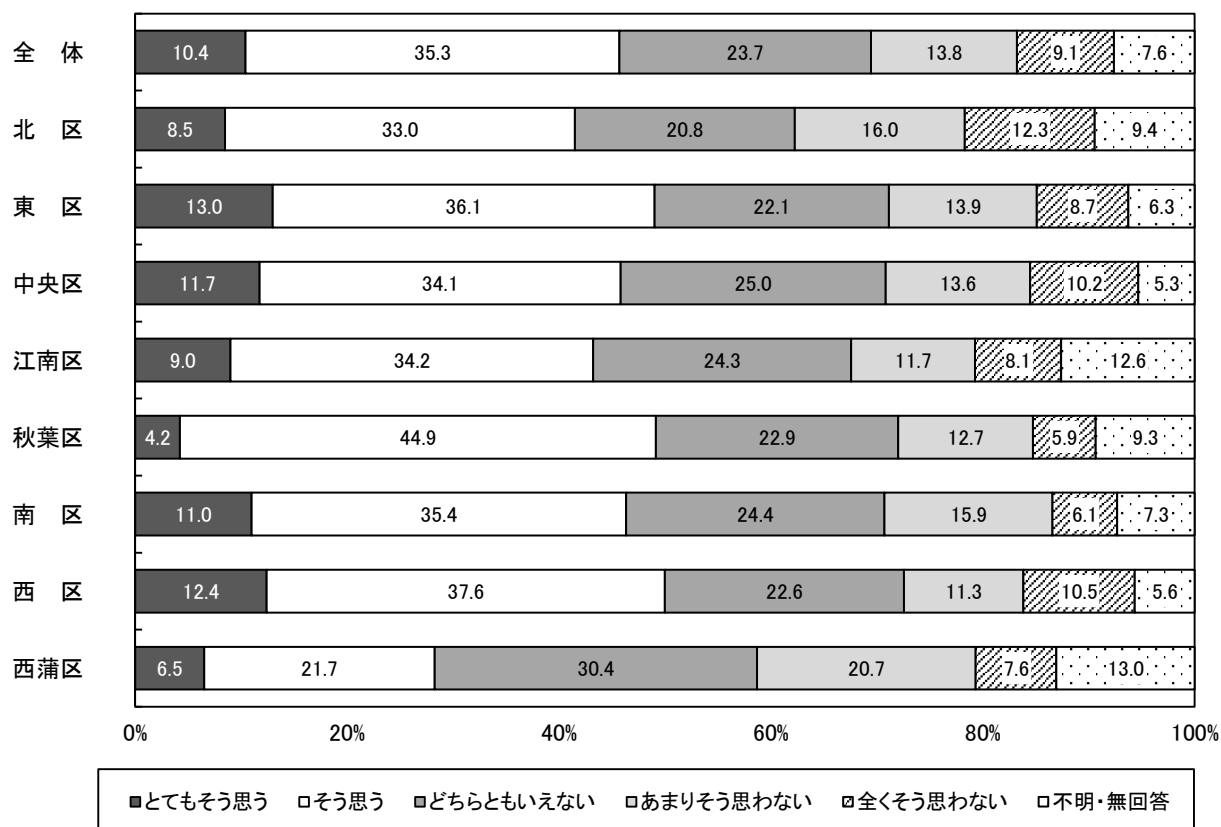
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、東区(49.0%)、秋葉区(49.2%)、西区(50.0%)で高く、西蒲区(28.3%)で最も低くなっている。

図 3.12-7 家族との食事に対する意識
〔家族と食事をするために自分のスケジュールを調整することができる〕(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

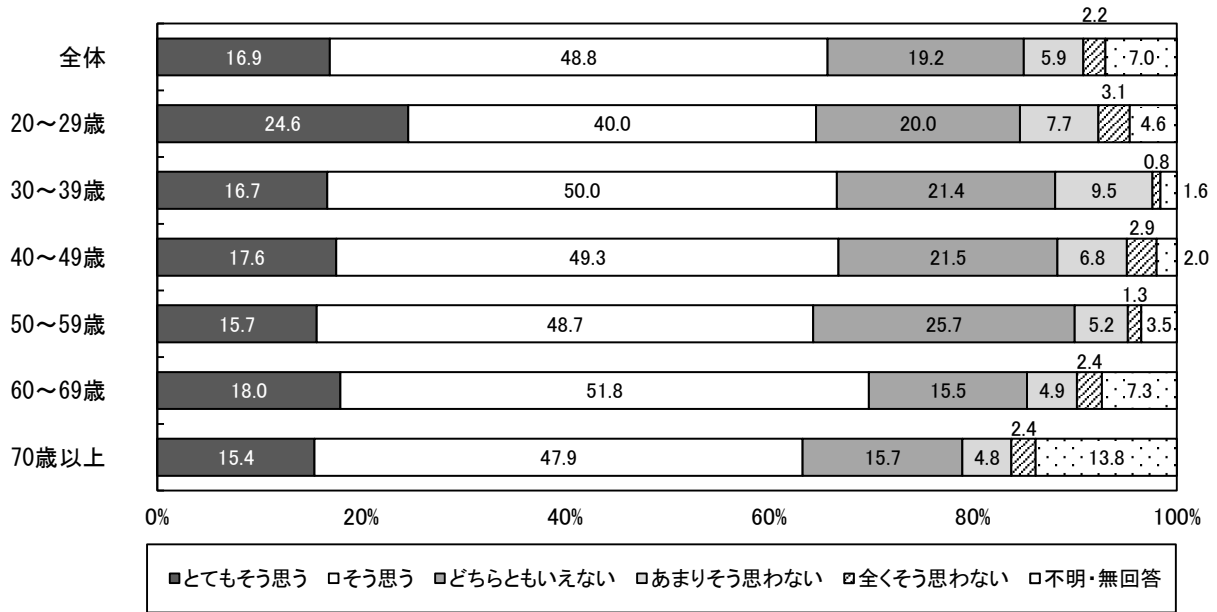
※地区不明者のグラフは省略した。

エ) 家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、60歳代(69.8%)で最も高く、70歳代(63.3%)で最も低くなっている。

図 3.12-8 家族との食事に対する意識
 [家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、
 栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある] (年齢別・全体)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

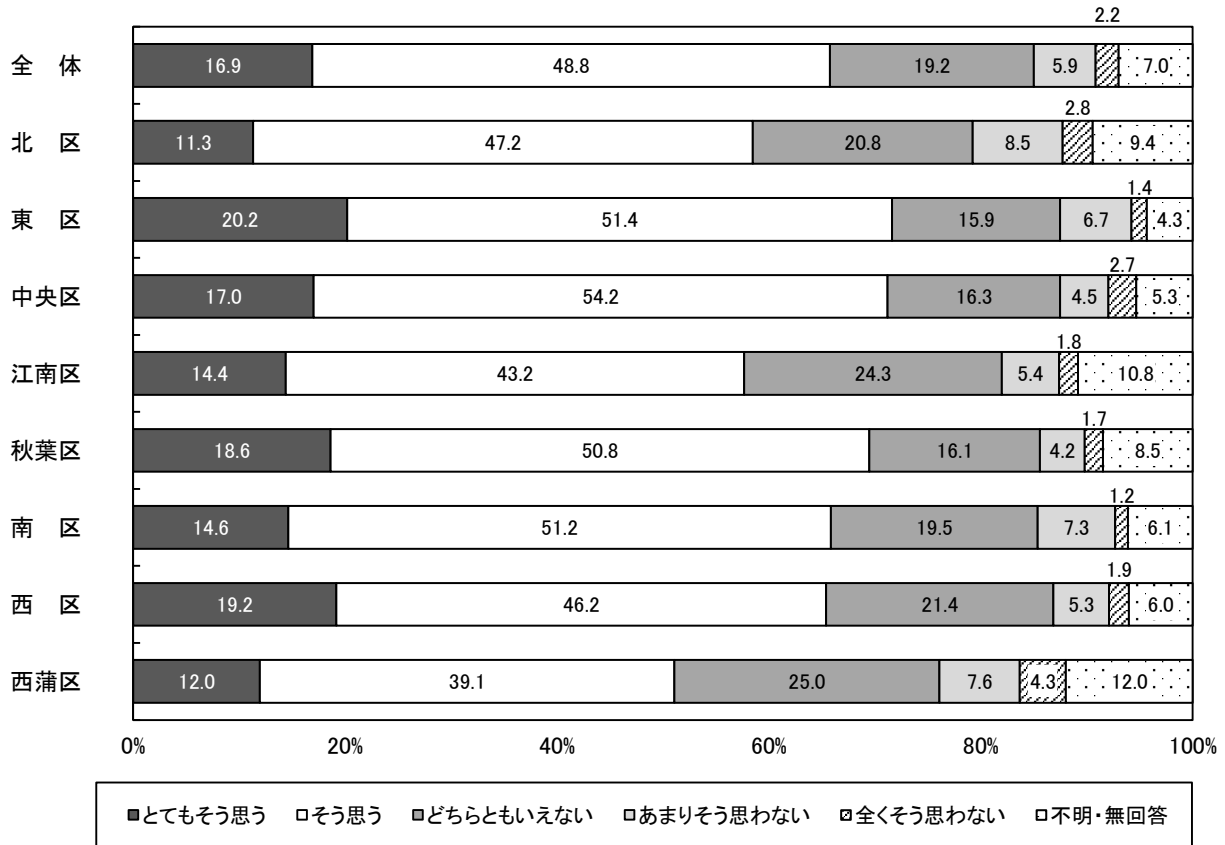
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、東区（71.6%）、中央区（71.2%）、秋葉区（69.5%）で高く、西蒲区（51.1%）で最も低くなっている。

図 3.12-9 家族との食事に対する意識
 [家ではいつも、例えば、主食・主菜・副菜を基本にするなど、
 栄養バランスのとれた食事を食べられる状況にある]（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

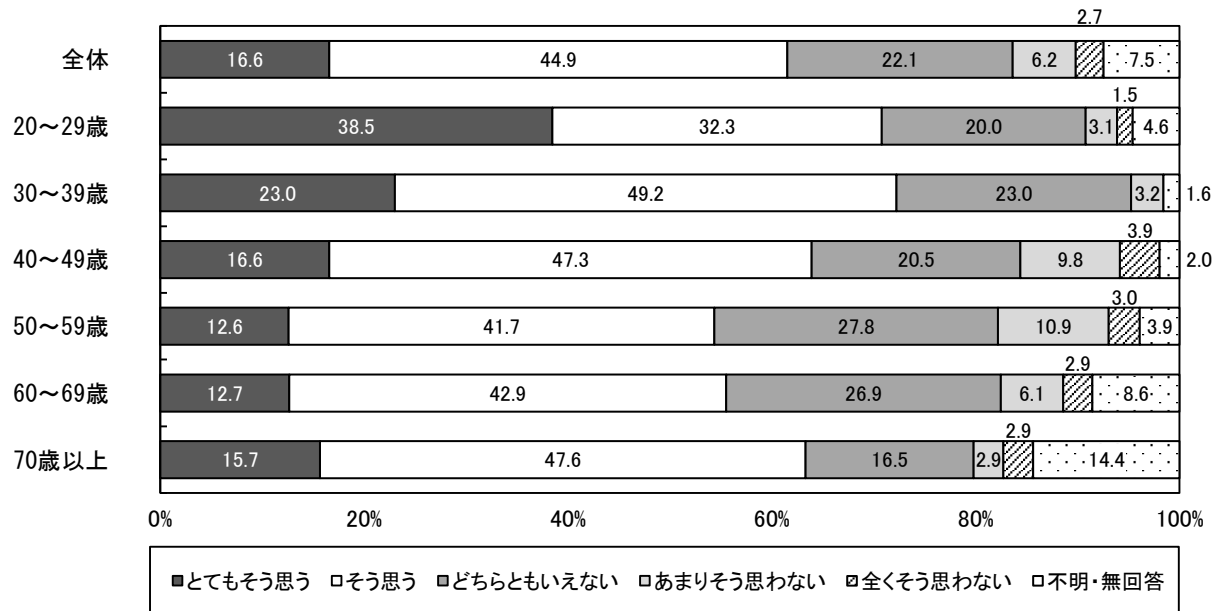
オ) 健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(72.2%)で最も高く、50歳代(54.3%)で最も低くなっている。

図 3.12-10 家族との食事に対する意識〔健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である〕

(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

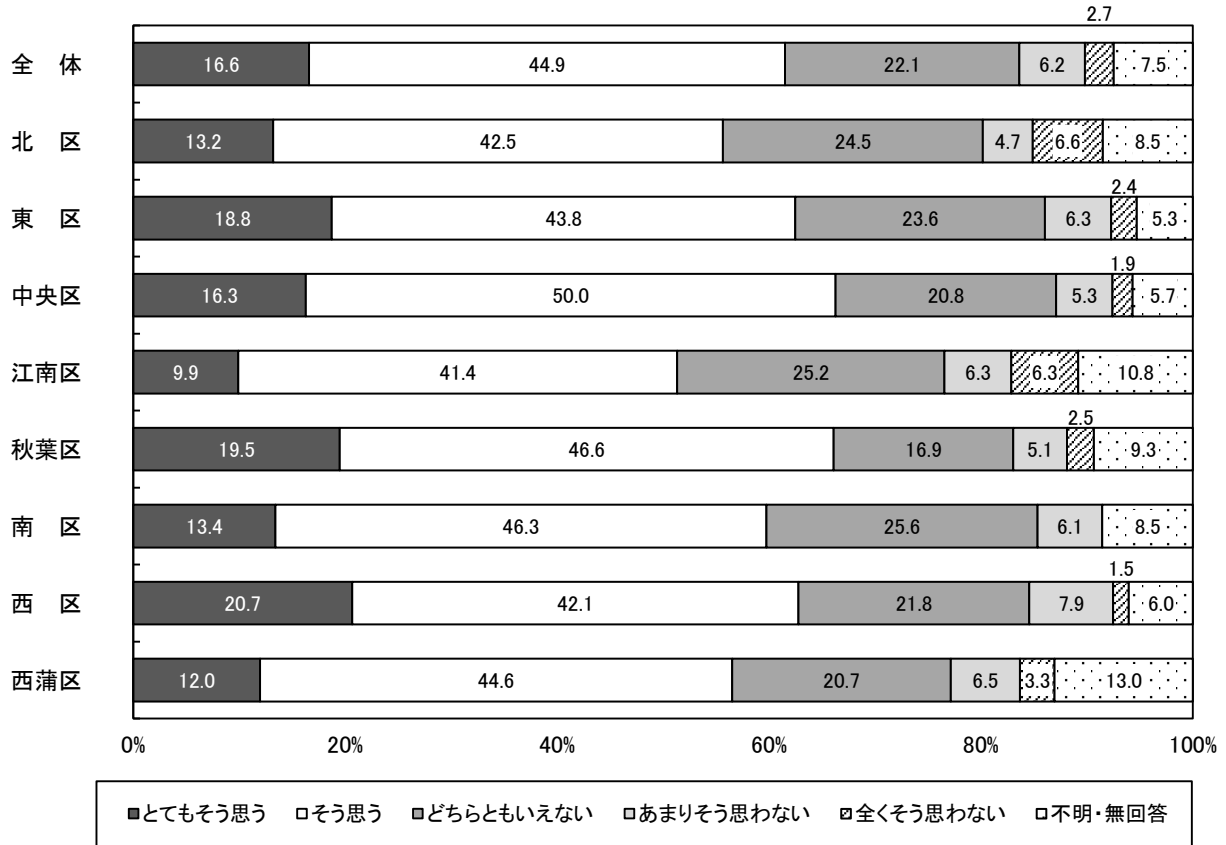
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、中央区（66.3%）、秋葉区（66.1%）で高く、江南区（51.4%）で最も低くなっている。

図 3.12-11 家族との食事に対する意識〔健康や食生活をより良くすることに、家族は協力的である〕
(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

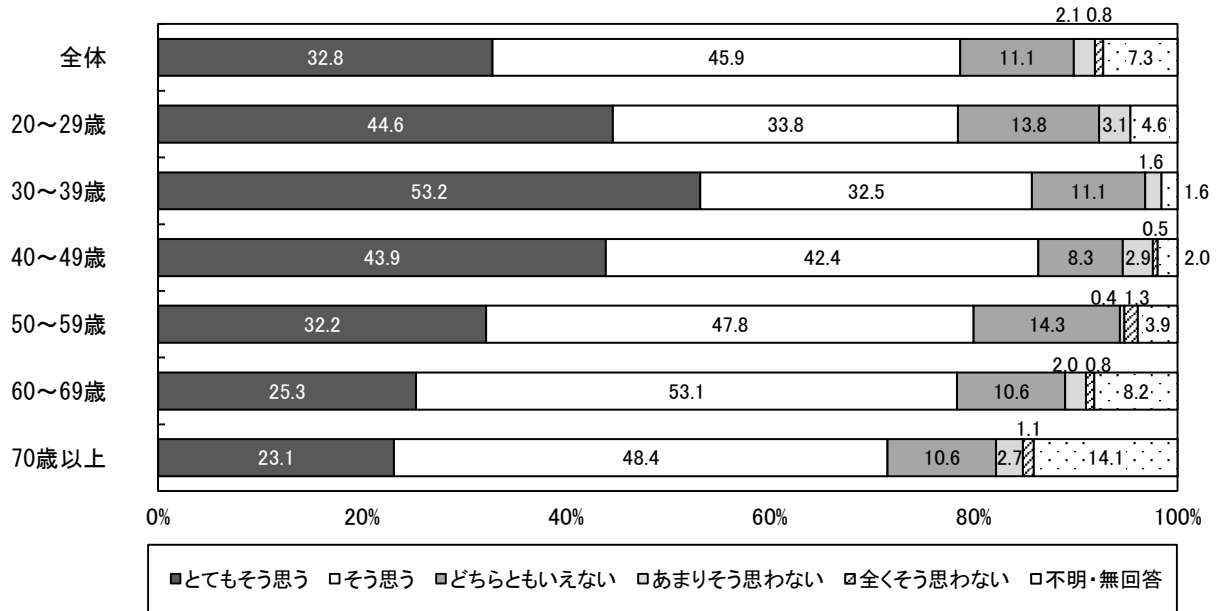
カ) 家族と一緒に食事をするのは楽しい

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(85.7%)と40歳代(86.3%)で高く、70歳以上(71.5%)で最も低くなっている。

図 3.12-12 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をするのは楽しい〕

(年齢別・全体)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

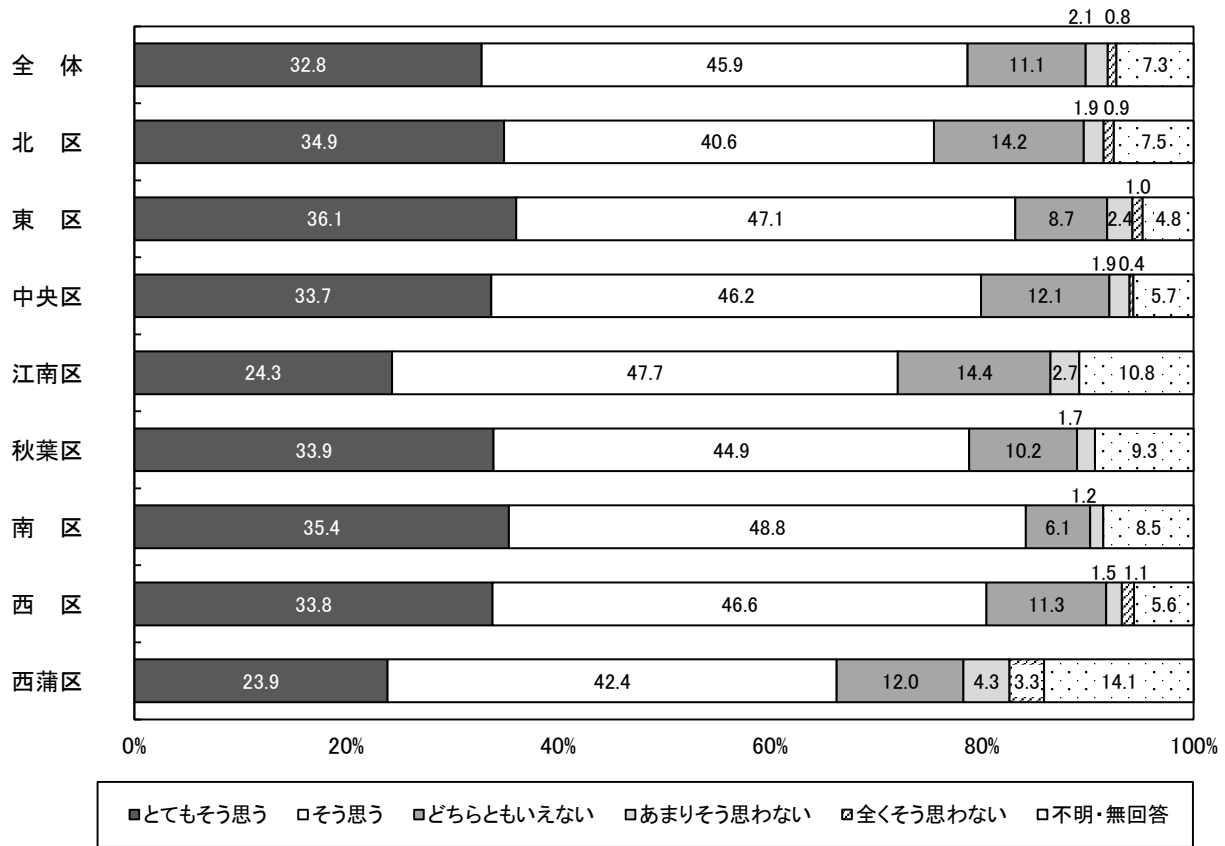
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、南区 (84.1%) で最も高く、西蒲区 (66.3%) で最も低くなっている。

図 3.12-13 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をするのは楽しい〕(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

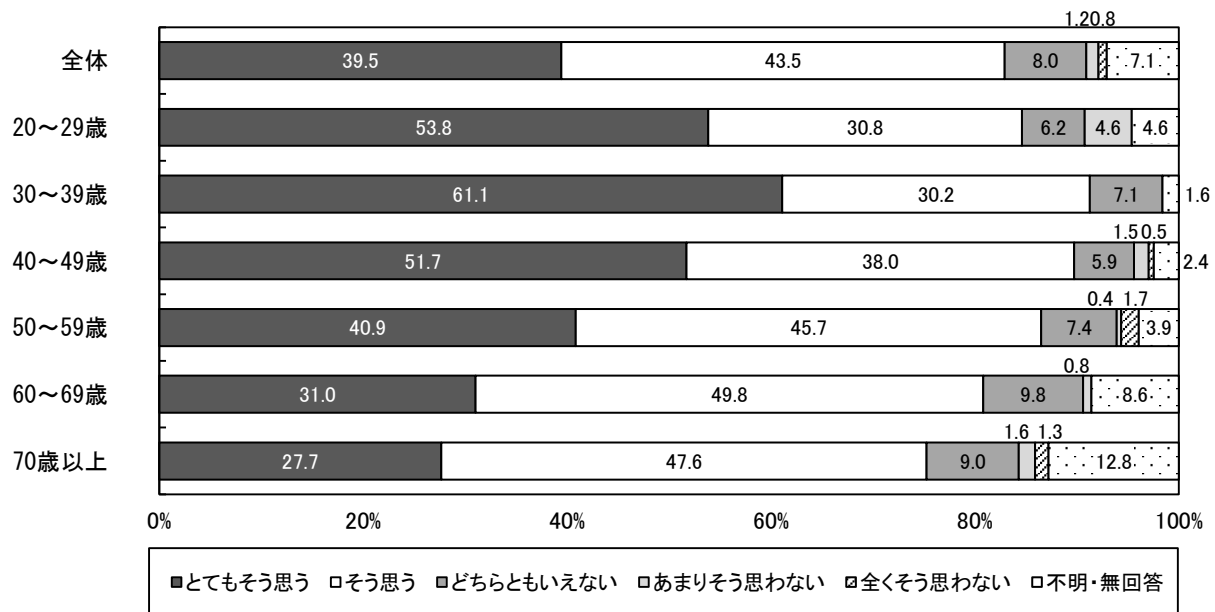
キ) 家族と一緒に食事をすることは重要である

【年齢別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、30歳代(91.3%)で最も高く、70歳以上(75.3%)で最も低くなっている。

図 3.12-14 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事をすることは重要である〕

(年齢別・全体)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,247	65	126	205	230	245	376	0
男性	542	23	50	92	93	113	171	0
女性	689	42	76	111	136	129	195	0

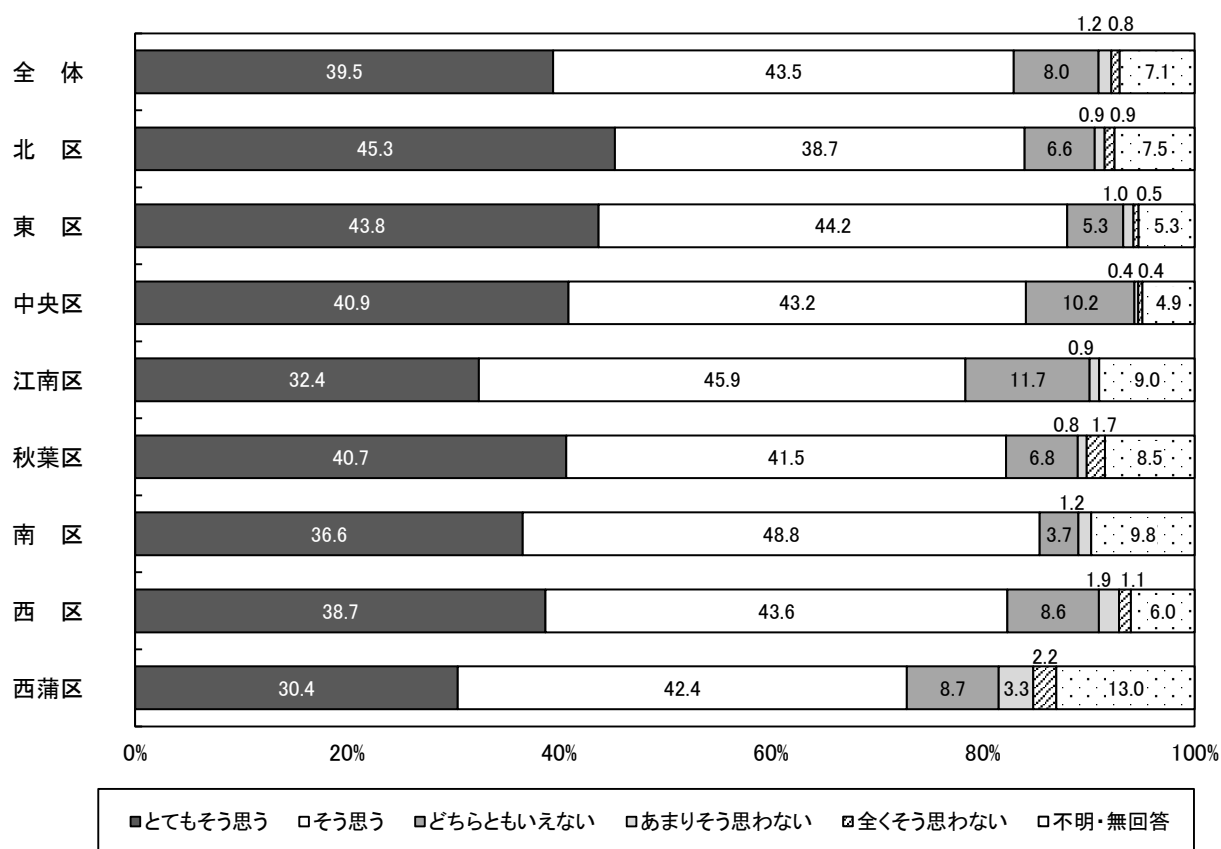
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は、東区(88.0%)で最も高く、西蒲区(72.8%)で最も低くなっている。

図 3.12-15 家族との食事に対する意識〔家族と一緒に食事することは重要である〕(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,247	106	208	264	111	118	82	266	92	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

(13) ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度

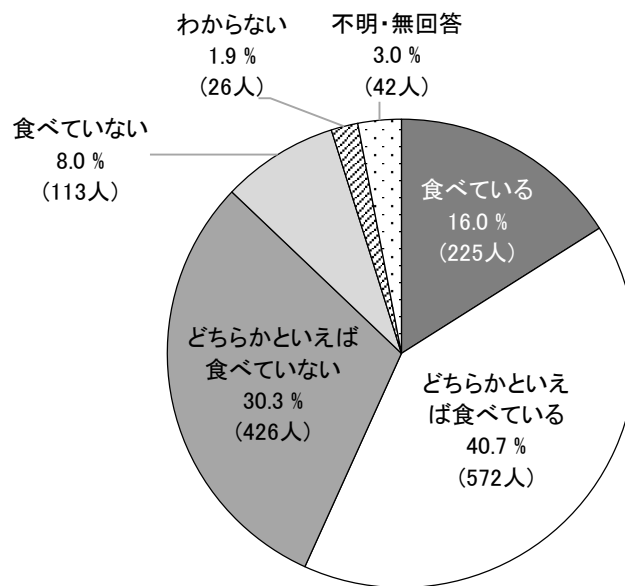
問21 あなたは、ふだんゆっくりよくかんで味わって食べていますか。(〇は1つだけ)

6割弱が「食べている」「どちらかと言えば食べている」と回答

「食べている」(16.0%)、「どちらかと言えば食べている」(40.7%)と回答した人を合わせた割合は6割弱(56.8%)となっている。

一方、「どちらかと言えば食べていない」(30.3%)、「食べていない」(8.0%)と回答した人を合わせた割合は4割弱(38.4%)となっている。

図 3.13 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度



【性別・年齢別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、70歳以上（73.6%）で最も高く、30歳代（45.2%）で最も低くなっている。

性別では、「食べている」「どちらかといえば食べている」を合わせた割合は、20歳代を除く、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 3.13-2 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（年齢別）

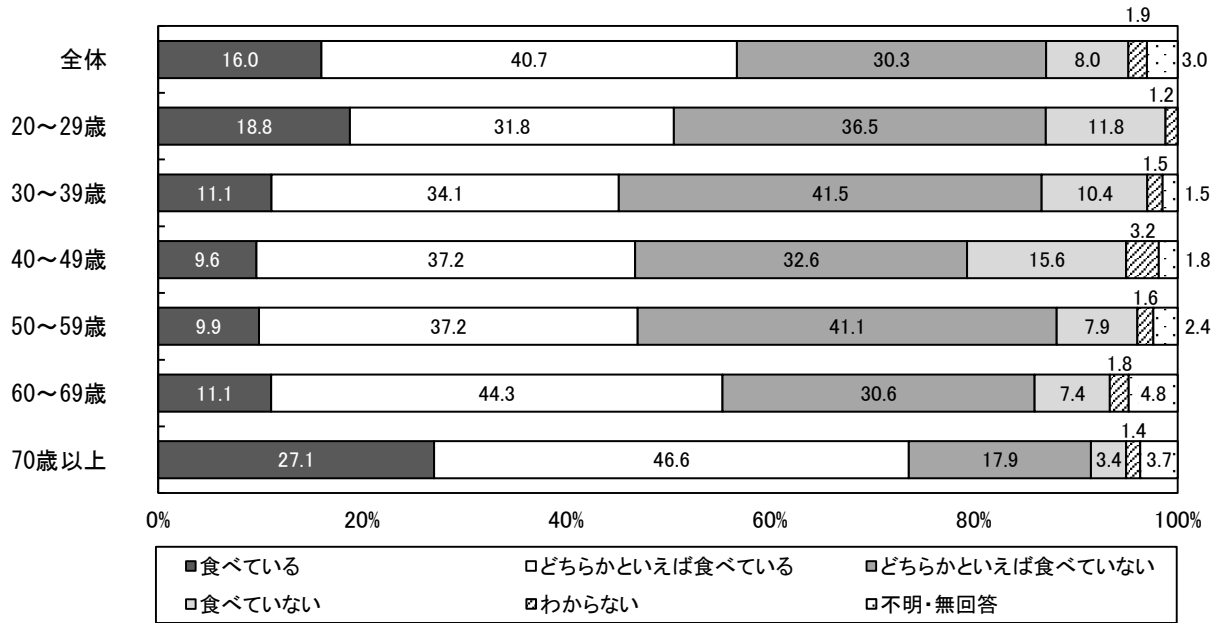
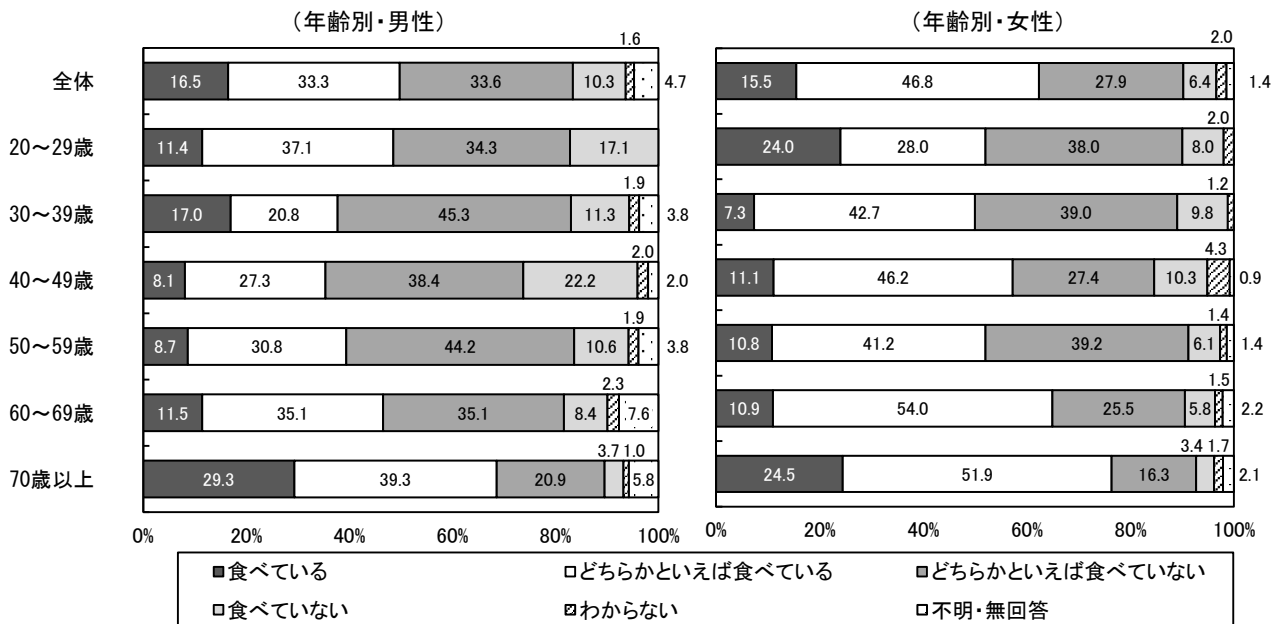


図 3.13-3 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

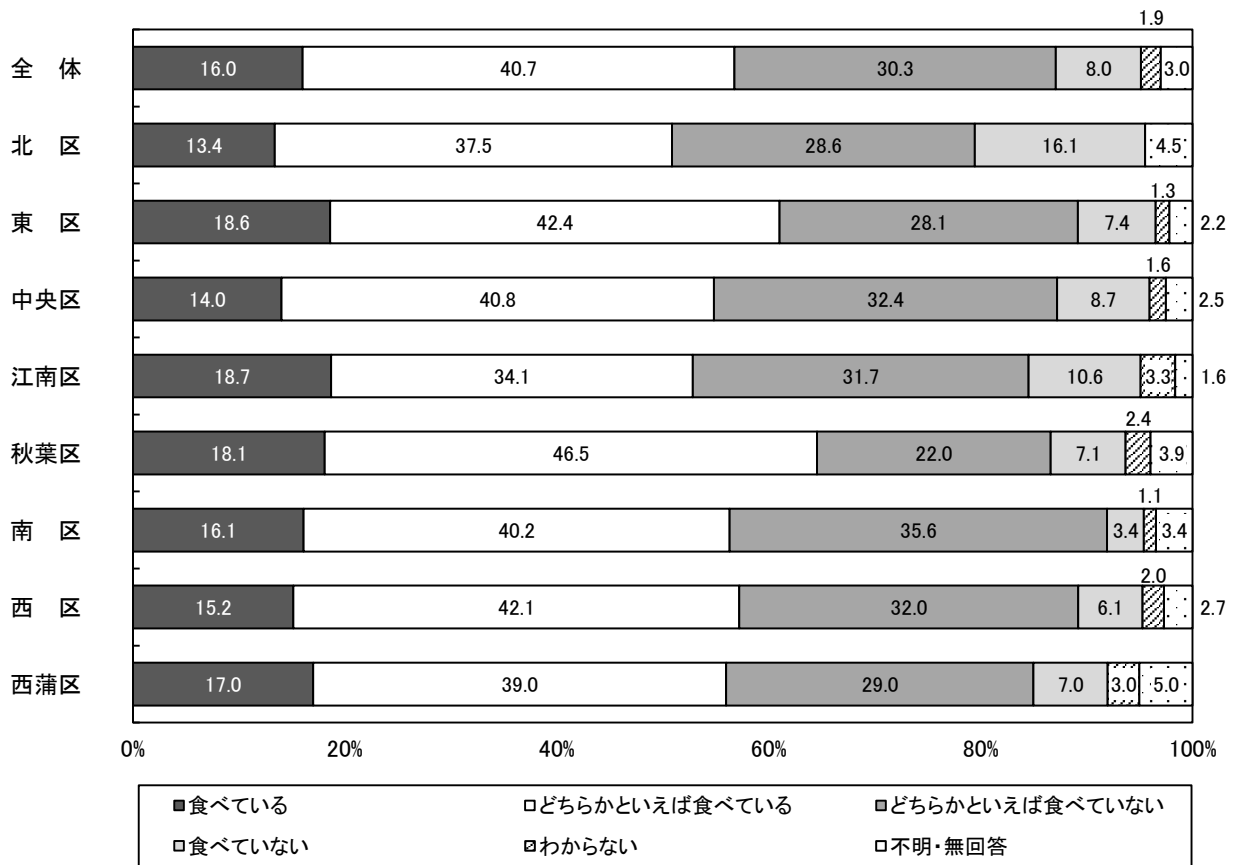
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、秋葉区（64.6%）で最も高く、北区（50.9%）で最も低くなっている。

図 3.13-4 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

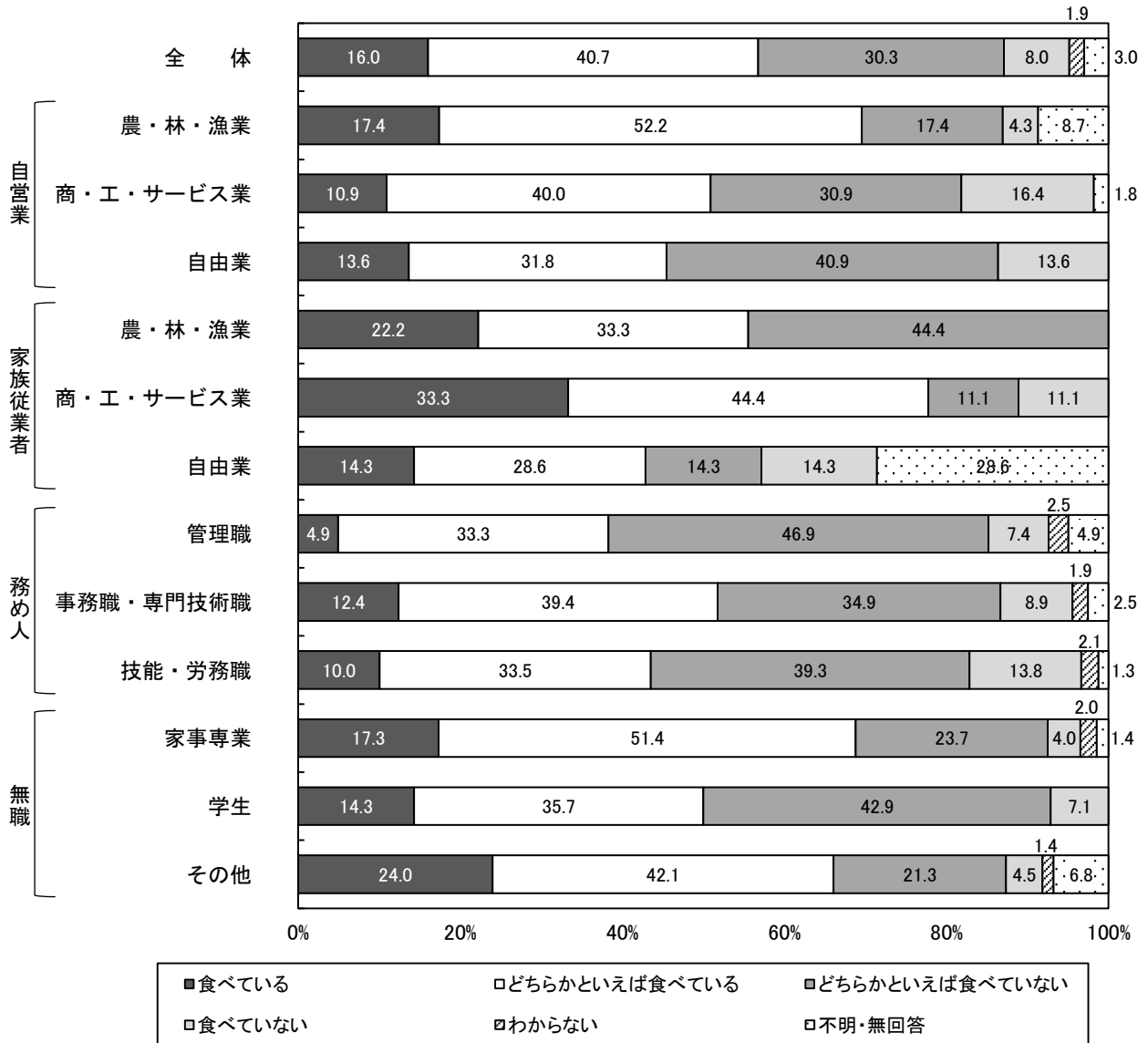
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.13-5 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

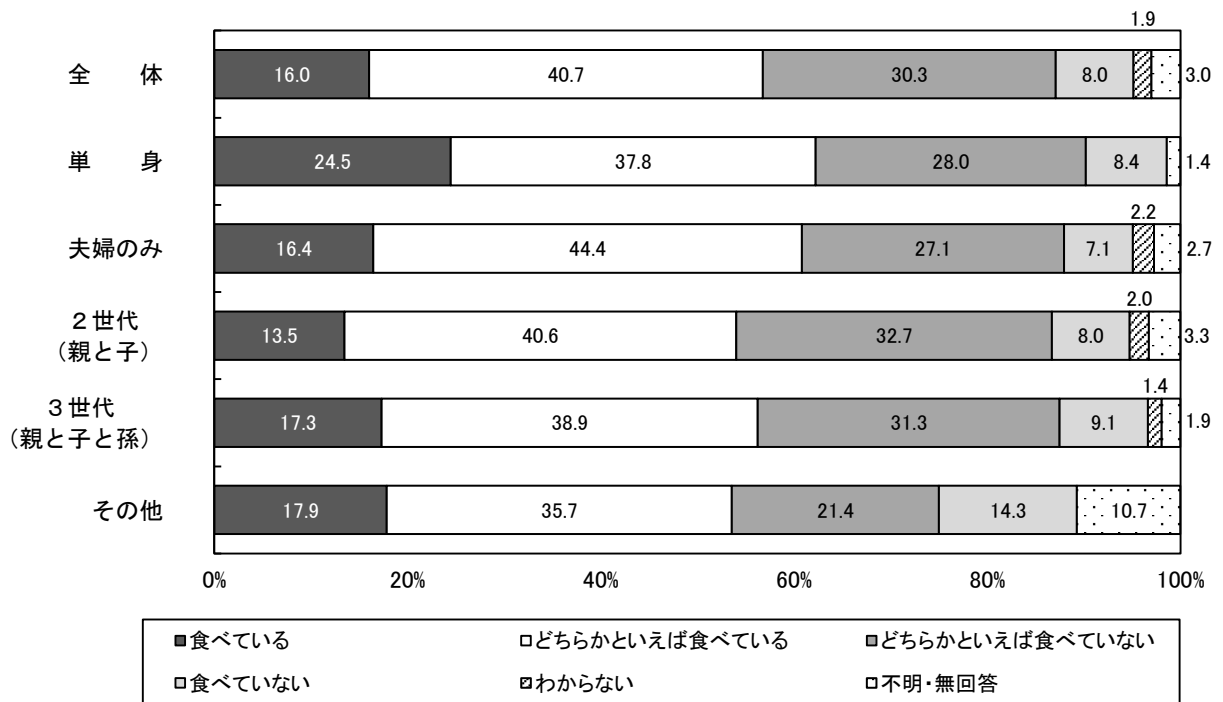
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した人を合わせた割合は、単身（62.2%）で最も高くなっている。

図 3.13-6 ゆっくりよく噛んで味わって食べる頻度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

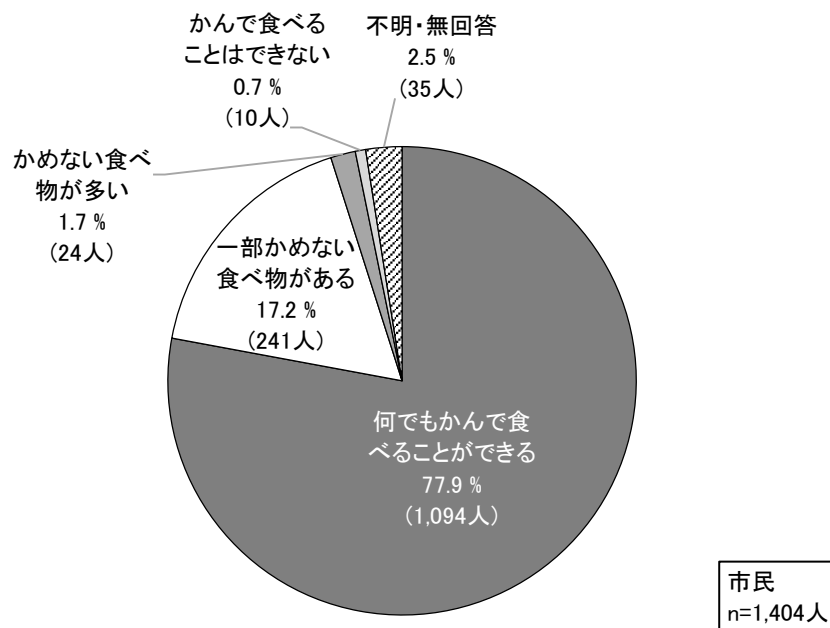
(14) かんで食べる時の状態

問22 かんで食べる時の状態についてあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。
(○は1つだけ)

8割弱が「何でもかんで食べるができる」と回答

「何でもかんで食べるができる」と回答した人の割合は8割弱 (77.9%) となっている。以下「一部かめない食べ物がある」(17.2%)、「かめない食べ物が多い」(1.7%)、「かんで食べることはできない」(0.7%) となっている。

図 3.14 かんで食べる時の状態



【性別・年齢別】

各年代とも、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっており、30歳代(93.3%)で最も高く、70歳以上(63.8%)で最も低くなっている。「一部かめない食べ物がある」は60歳代で約2割、70歳以上で3割弱となっている。

図 3.14-2 かんで食べる時の状態 (年齢別)

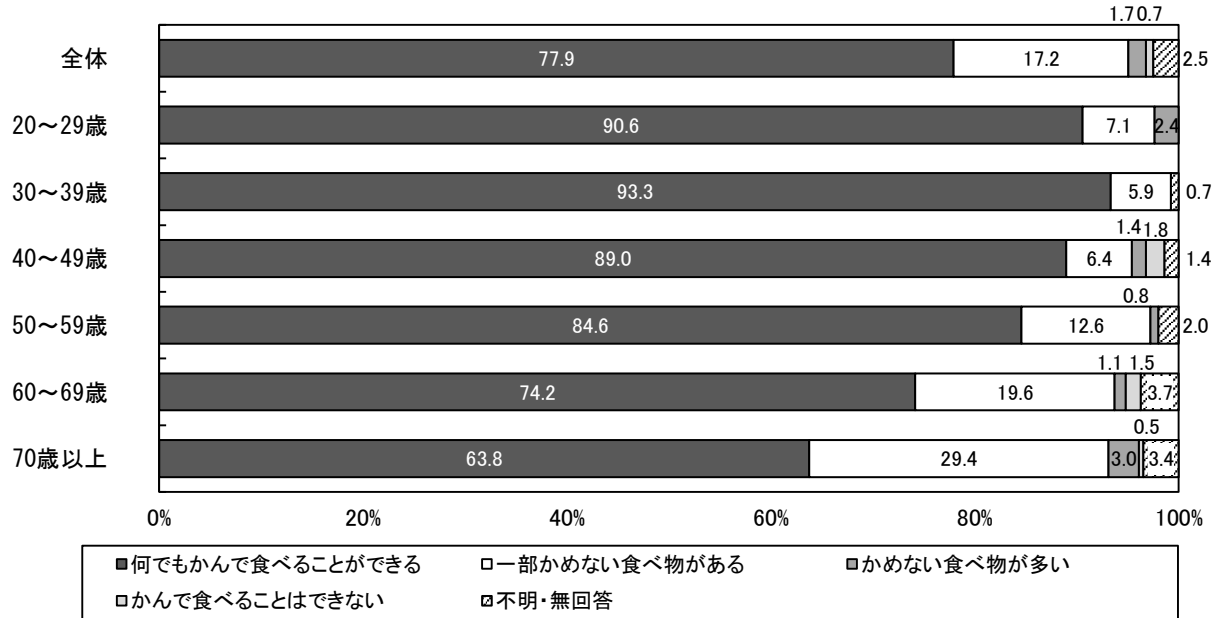
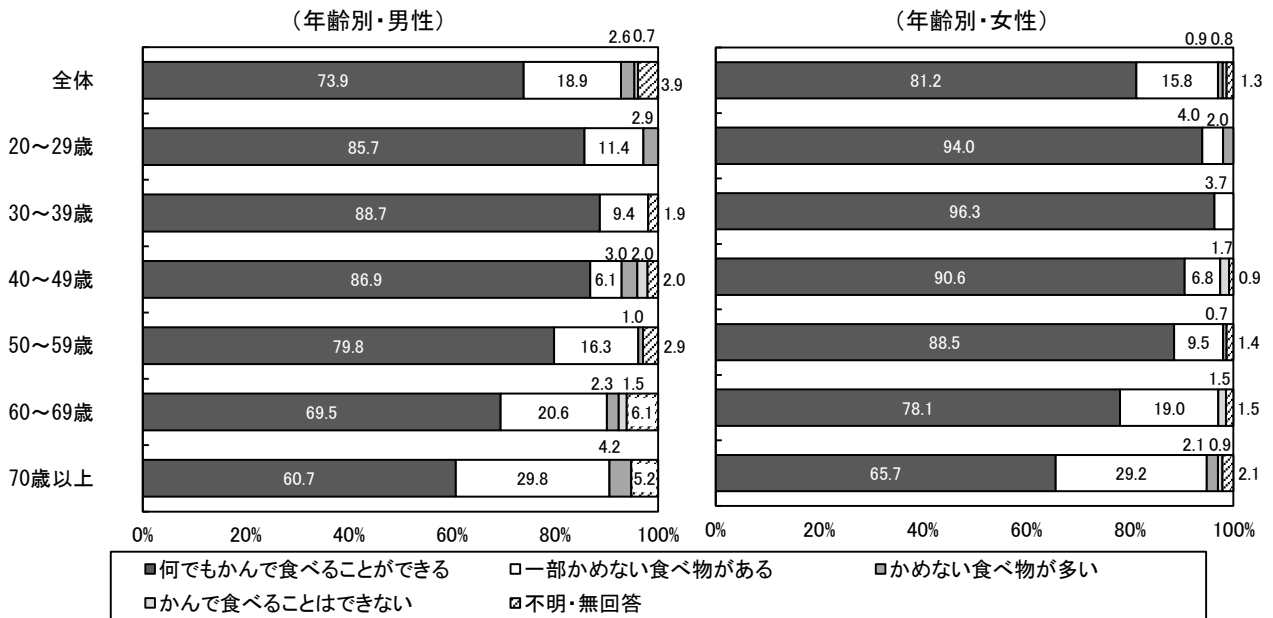


図 3.14-3 かんで食べる時の状態



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

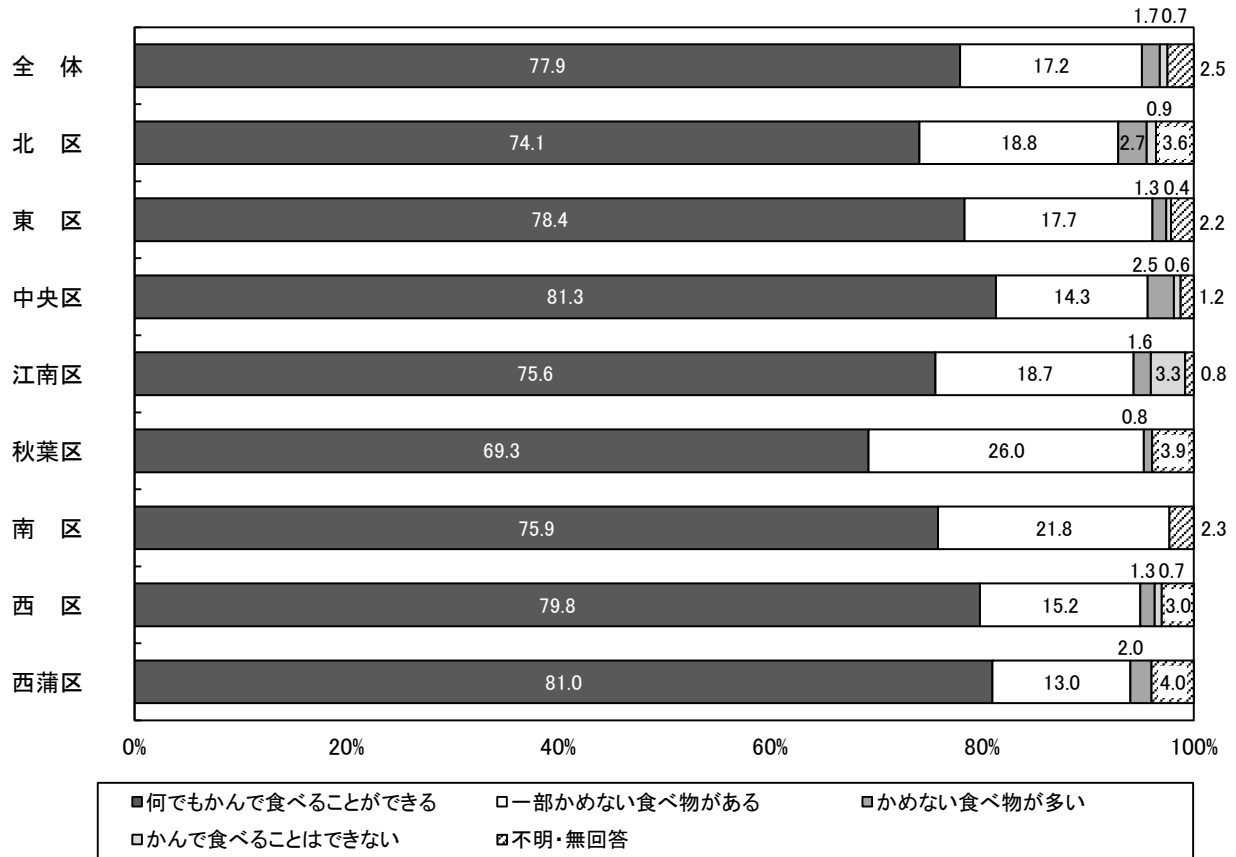
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっている。秋葉区では「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が7割弱にとどまり、「一部かめない食べ物がある」が3割弱で、他の地区と差がみられる。

図 3.14-4 かんで食べる時の状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

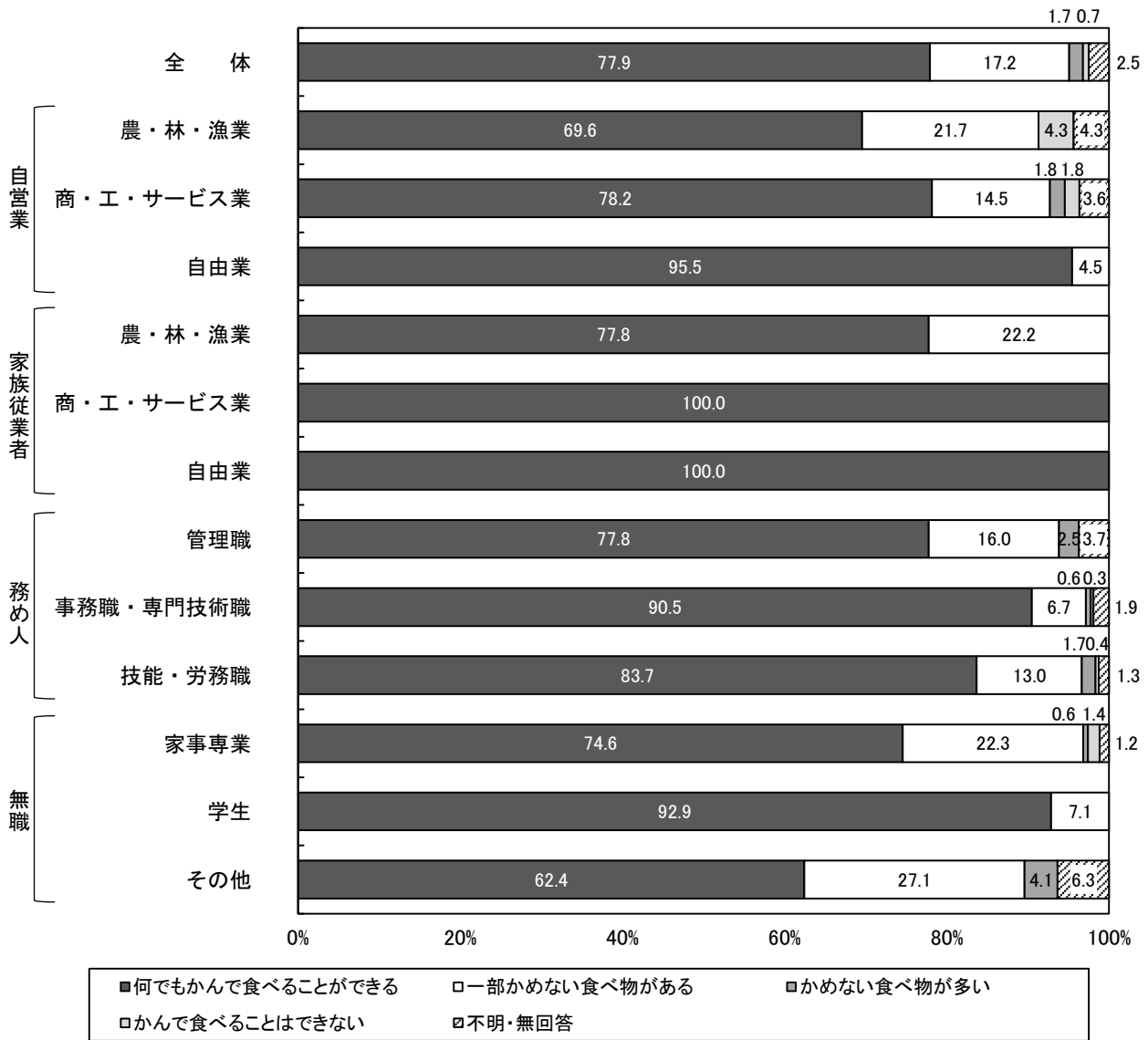
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 3.14-5 かねで食べる時の状態（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

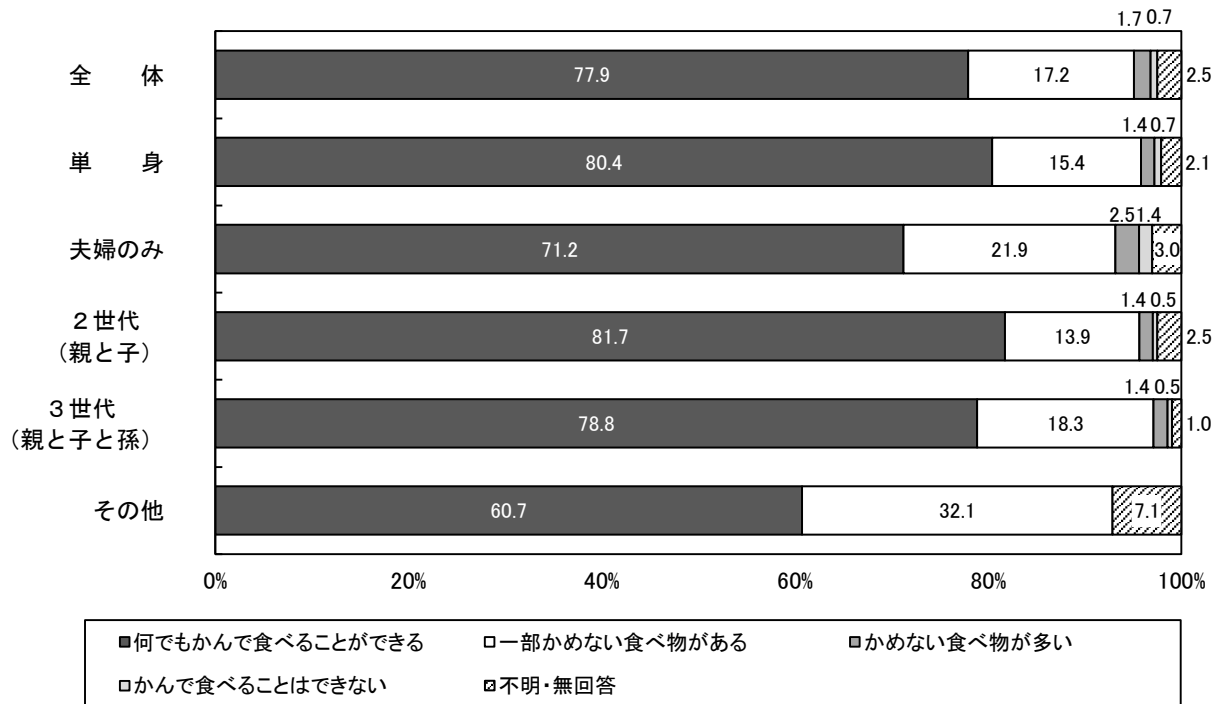
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

すべての家族構成で、「何でもかんで食べることができる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 3.14-6 かんで食べる時の状態（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

4 「食の安全」について

(1) 食の安全に対する関心度

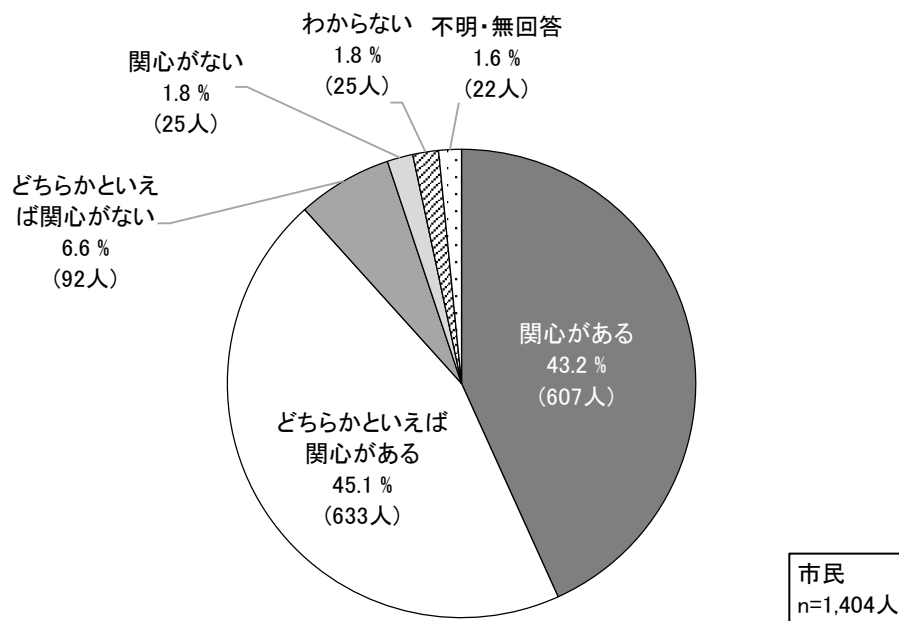
問23 あなたは、食の安全に関心がありますか。(○は1つだけ)

9割弱が食の安全に「関心がある」と回答

「関心がある」(43.2%)、「どちらかといえば関心がある」(45.1%)と回答した人を合わせた割合は9割弱(88.3%)となっている。

一方、「関心がない」(1.8%)、「どちらかといえば関心がない」(6.6%)と回答した人を合わせた割合は1割弱(8.3%)となっている。

図4.1 食の安全に対する関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、50歳代と60歳代では9割を超え、30歳代と40歳代、70歳以上も8割台となっている。

性別では、70歳以上を除いた各年代で、女性の方が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.1-2 食の安全に対する関心度（年齢別・全体）

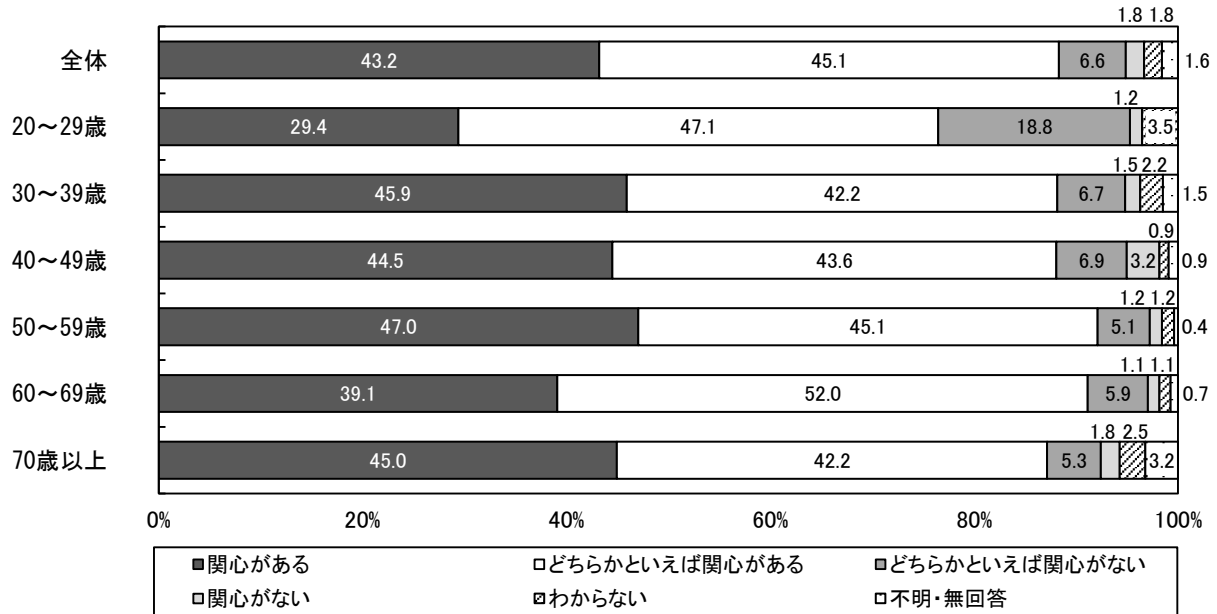
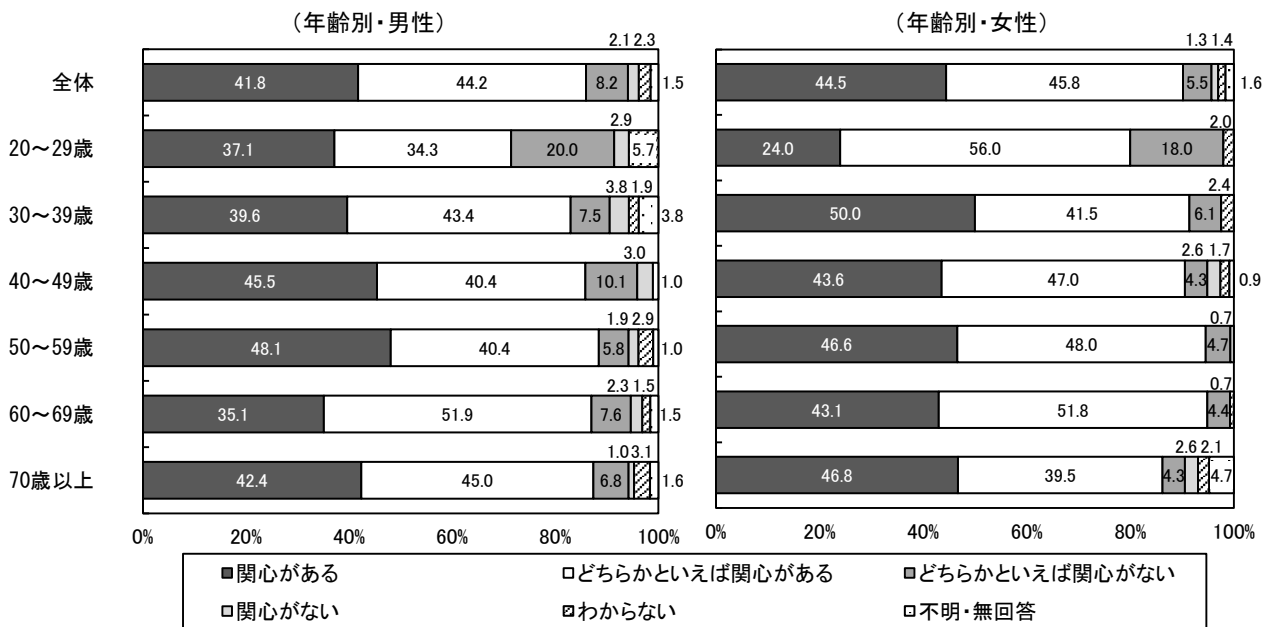


図 4.1-3 食の安全に対する関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

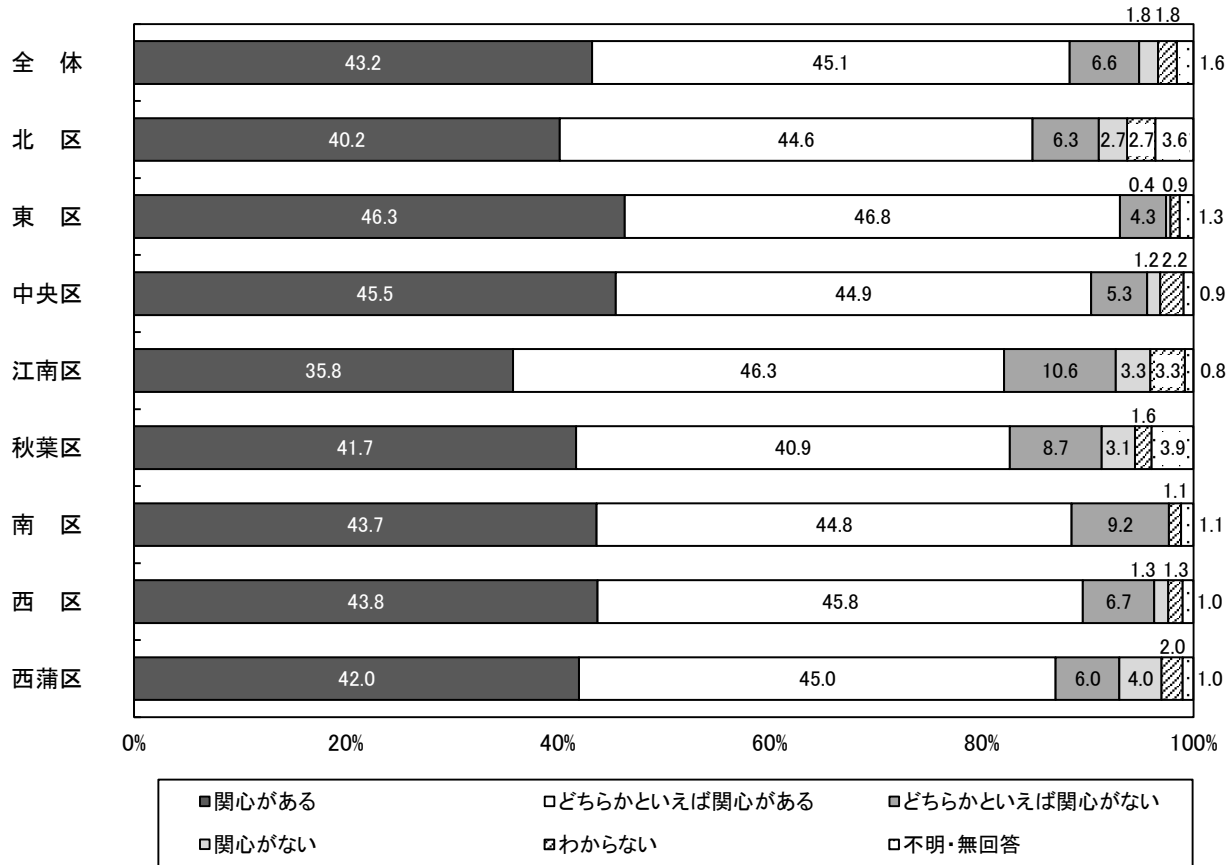
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、東区（93.1%）で最も高く、9割を超えている。

図 4.1-4 食の安全に対する関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

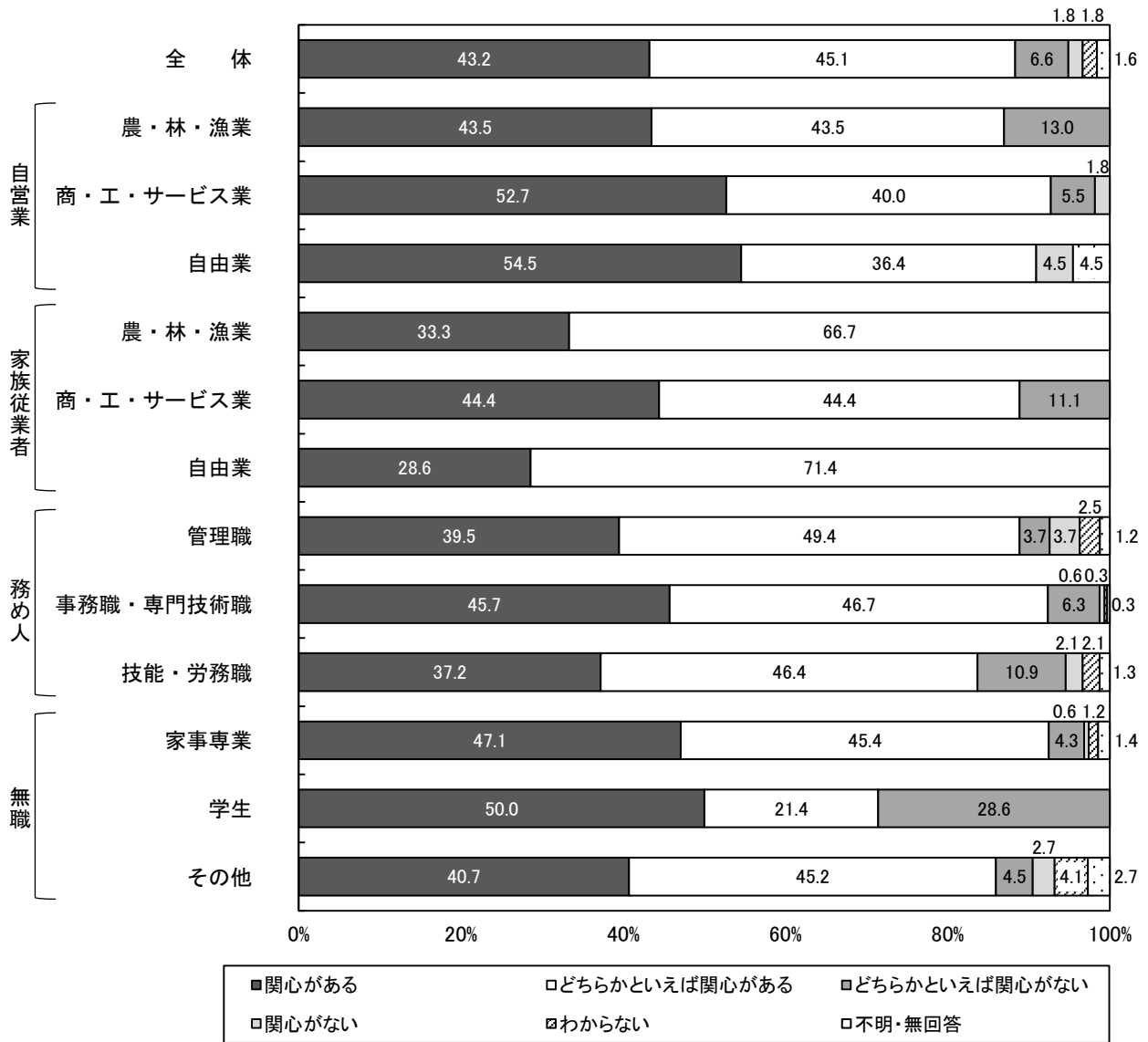
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.1-5 食の安全に対する関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

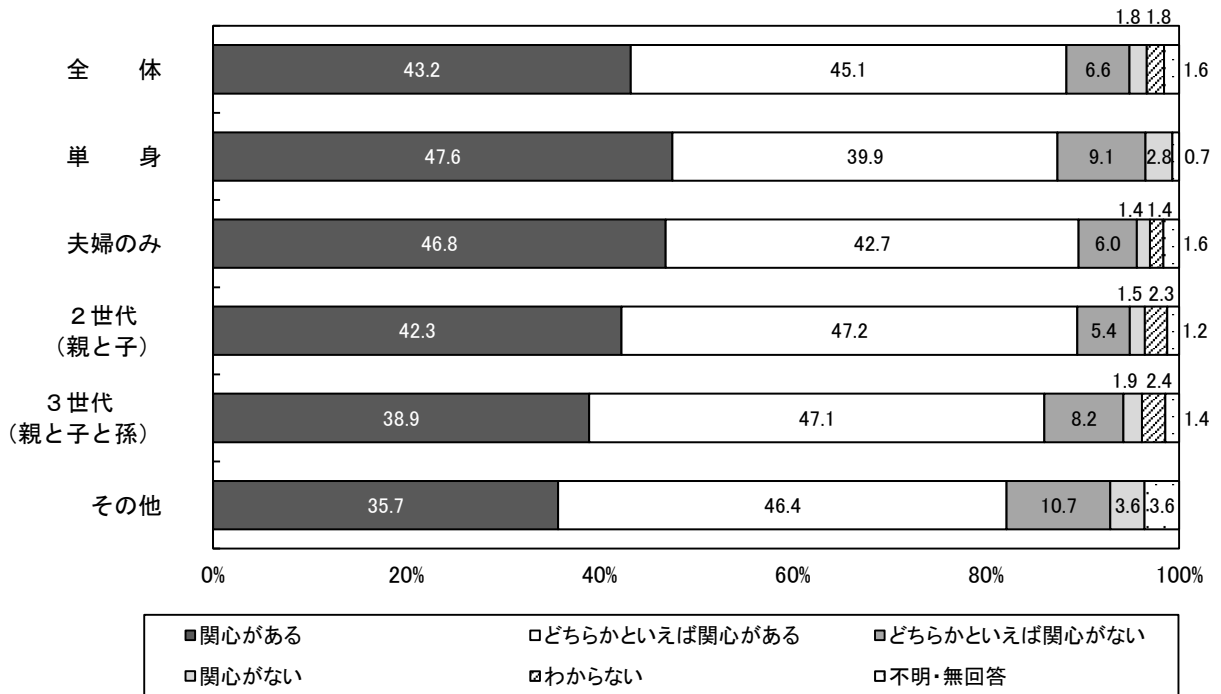
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、夫婦のみ(89.6%)と2世代(89.5%)で高くなっている。

図 4.1-6 食の安全に対する関心度(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

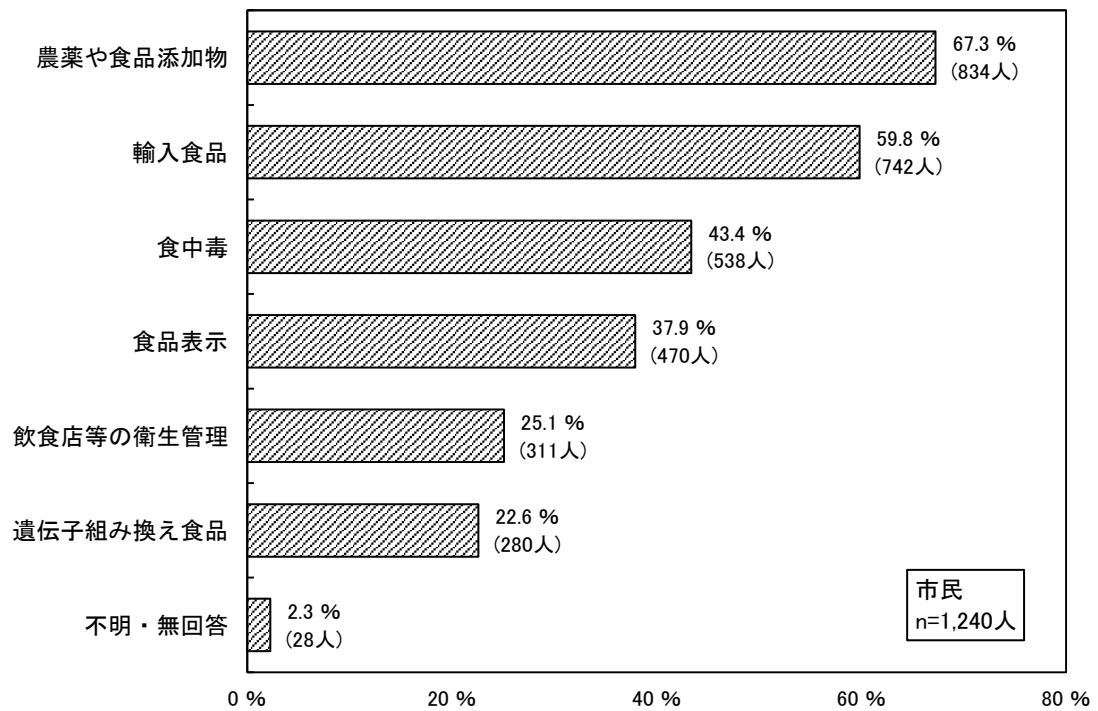
(2) 特に関心があること

問23-1 どのようなことに関心がありますか。(〇は3つまで)

7割弱が「農薬や食品添加物」と回答

特に関心があることについては、「農薬や食品添加物」(67.3%)と回答した人が最も多く、以下「輸入食品」(59.8%)、「食中毒」(43.4%)、「食品表示」(37.9%)、「飲食店等の衛生管理」(25.1%)、「遺伝子組み換え食品」(22.6%)となっている。

図4.2 特に関心があること



【性別・年齢別】

各年代とも、「農薬や食品添加物」「輸入食品」の割合が高くなっている。20歳代では「食中毒」の割合も高くなっている。

表 4.1 特に関心があること（年齢別・全体）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	1,240	67.3	59.8	43.4	37.9	25.1	22.6	2.3
20～29歳	65	60.0	32.3	56.9	30.8	41.5	10.8	1.5
30～39歳	119	63.9	51.3	48.7	29.4	38.7	26.9	2.5
40～49歳	192	70.8	57.3	47.4	28.6	35.9	24.0	0.5
50～59歳	233	67.0	61.8	45.9	39.5	27.9	22.7	3.4
60～69歳	247	68.8	66.4	40.1	43.3	15.8	25.5	0.4
70歳以上	380	67.1	62.9	38.2	41.8	16.8	20.5	3.7
年齢不明	4	50.0	75.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 4.2 特に関心があること（年齢別・男性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	527	61.1	58.6	46.3	36.8	26.0	22.4	1.7
20～29歳	25	60.0	28.0	56.0	24.0	36.0	20.0	4.0
30～39歳	44	54.5	45.5	61.4	31.8	38.6	25.0	2.3
40～49歳	85	65.9	51.8	48.2	29.4	40.0	20.0	1.2
50～59歳	92	62.0	60.9	43.5	38.0	30.4	21.7	3.3
60～69歳	114	63.2	63.2	43.9	37.7	19.3	26.3	0.0
70歳以上	167	58.7	65.9	43.1	42.5	16.2	21.0	1.8
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 4.3 特に関心があること（年齢別・女性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	692	72.3	60.8	41.0	22.4	38.6	24.7	2.7
20～29歳	40	60.0	35.0	57.5	35.0	45.0	5.0	0.0
30～39歳	75	69.3	54.7	41.3	28.0	38.7	28.0	2.7
40～49歳	106	75.5	62.3	46.2	28.3	33.0	26.4	0.0
50～59歳	140	70.7	62.9	47.1	40.0	26.4	22.9	3.6
60～69歳	130	73.1	69.2	36.9	47.7	13.1	24.6	0.8
70歳以上	201	74.6	60.7	33.3	41.8	17.4	19.9	5.5
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(3) 食の安全に関する知識を持っている程度

問24 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていますか。(○は1つだけ)
「食の安全に関する知識」とは、次のようなものに関する知識とお考えください。

「食の安全に関する知識」の例

- ◆ 食品表示の見方について
(消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
- ◆ 食中毒の予防方法について
- ◆ 輸入食品について
- ◆ 健康食品について

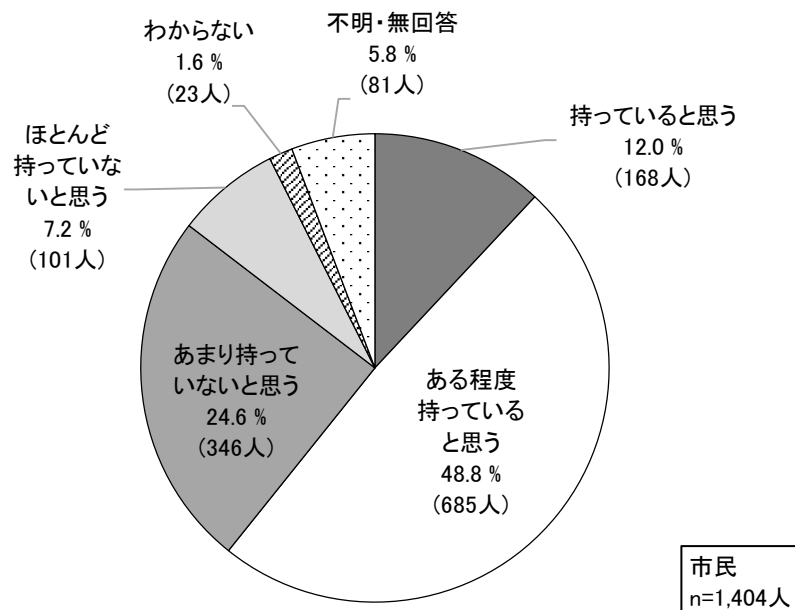
その他、農薬使用の実態や鳥インフルエンザに関する知識など

6割強が知識を持っていると回答

「持っていると思う」(12.0%)、「ある程度持っていると思う」(48.8%)と回答した人を合わせた、知識を持っている人の割合は6割強(60.8%)となっている。

一方、「あまり持っていないと思う」(24.6%)、「ほとんど持っていないと思う」(7.2%)と回答した人を合わせた割合は3割強(31.8%)となっている。

図 4.3 食の安全に関する知識を持っている程度



【性別・年齢別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、70歳以上（71.6%）で最も高く、7割を超えている。一方、「あまり持っていないと思う」「ほとんど持っていないと思う」を合わせた割合は、30歳代（48.1%）と40歳代（48.2%）で高くなっている。

性別では、各年代とも、女性の方が「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.3-2 食の安全に関する知識を持っている程度（年齢別・全体）

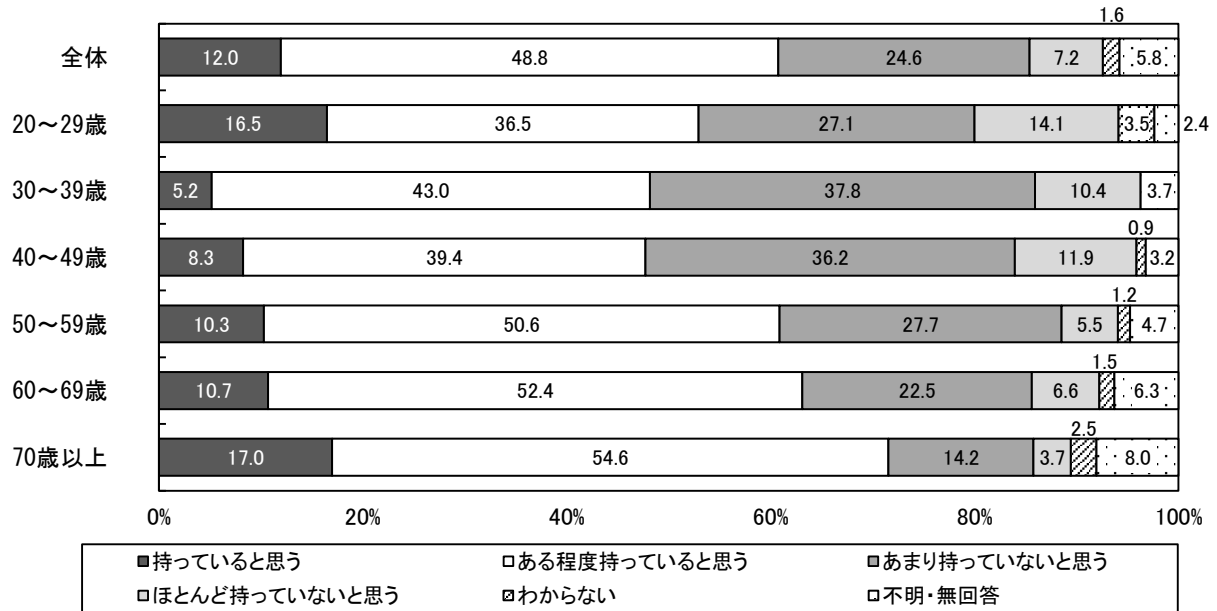
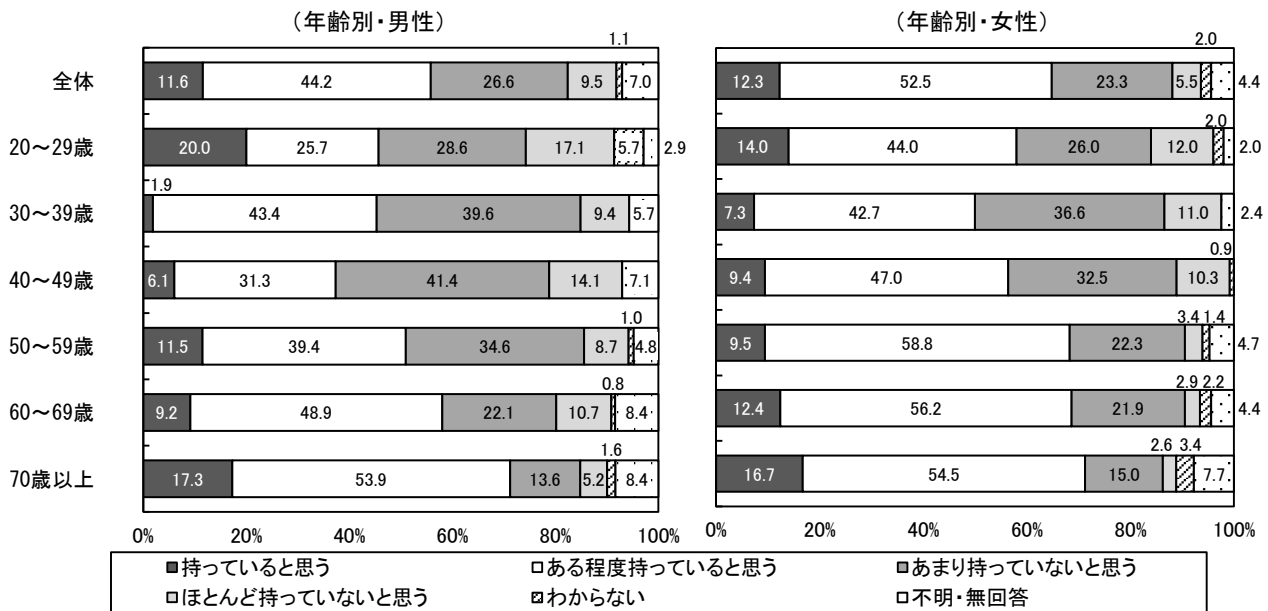


図 4.3-3 食の安全に関する知識を持っている程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

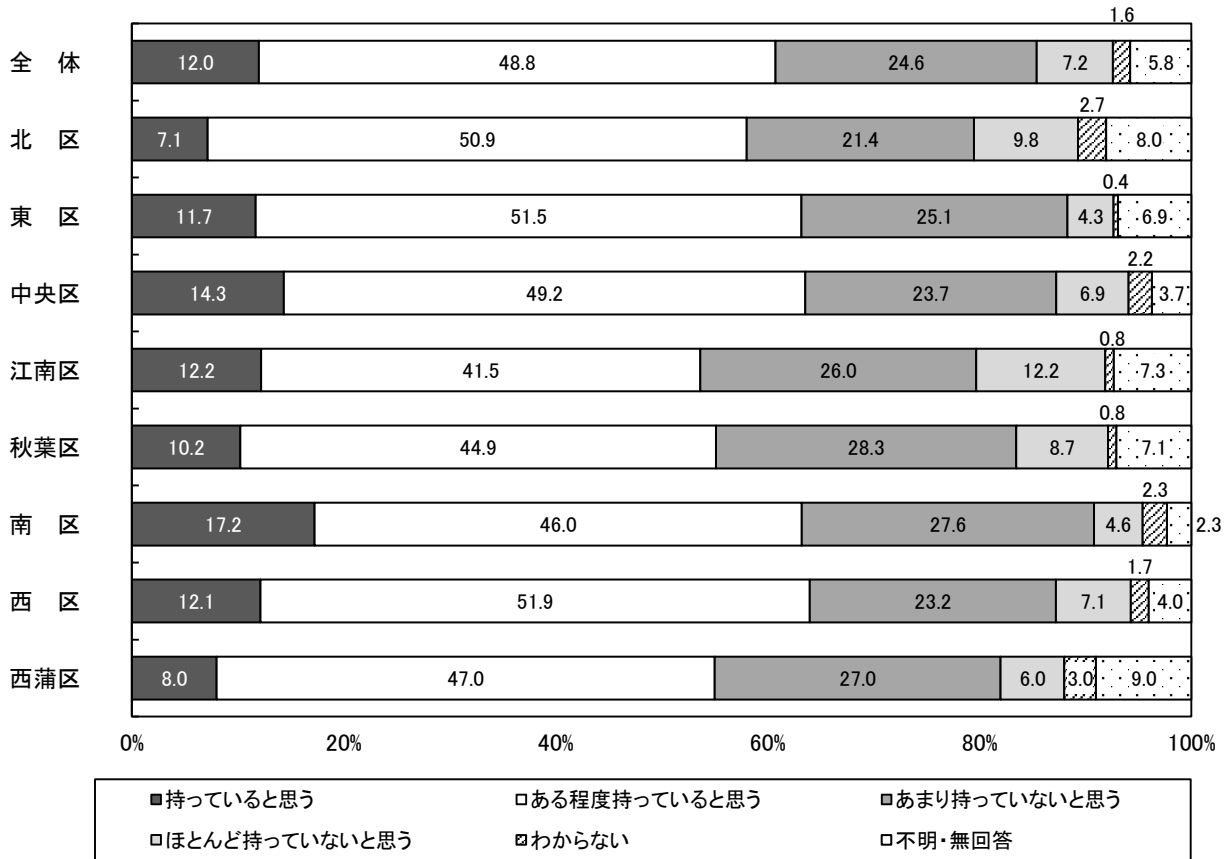
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、西区(64.0%)、中央区(63.6%)、東区、南区(いずれも63.2%)で高くなっている。

図 4.3-4 食の安全に関する知識を持っている程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

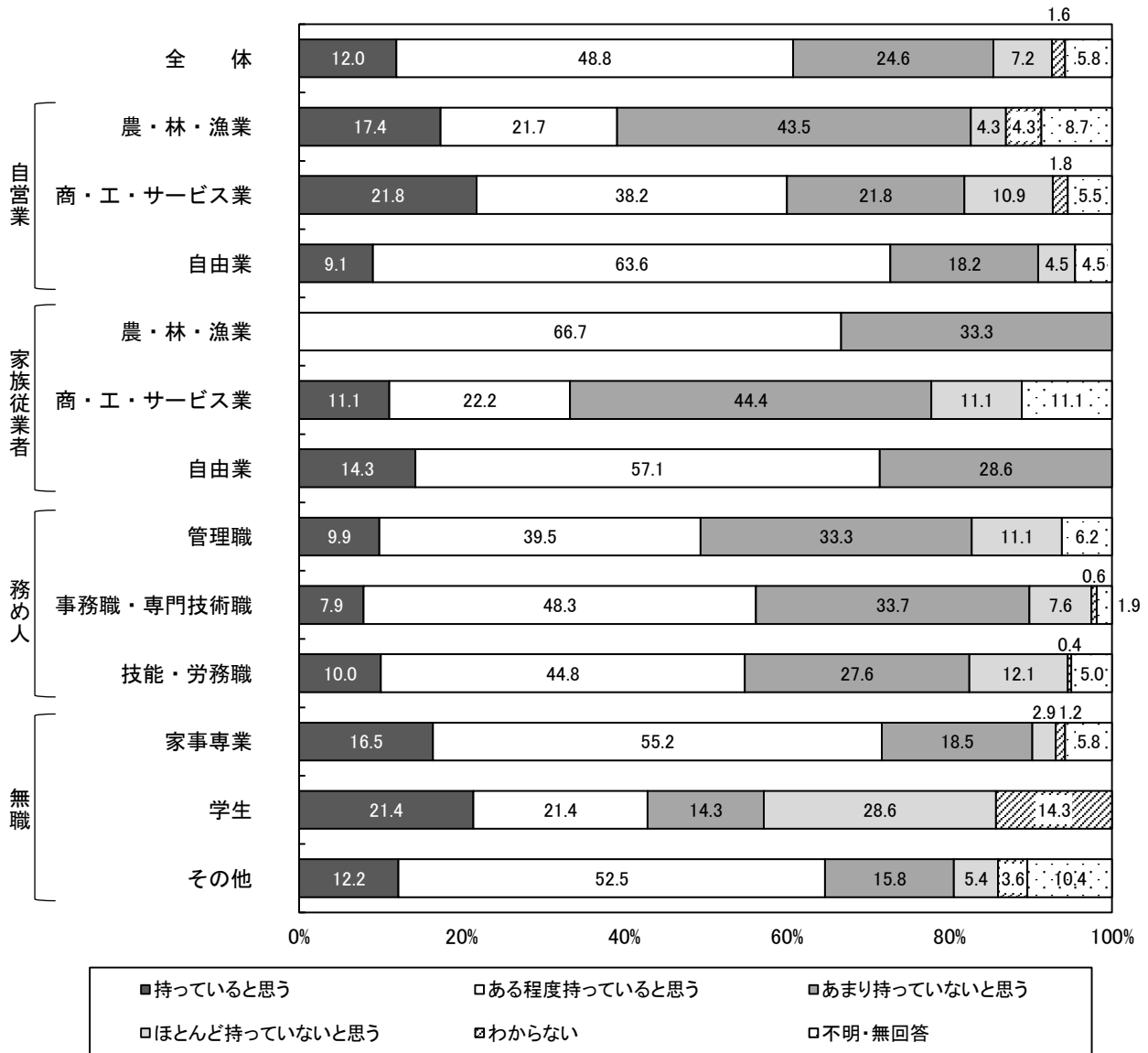
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.3-5 食の安全に関する知識を持っている程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

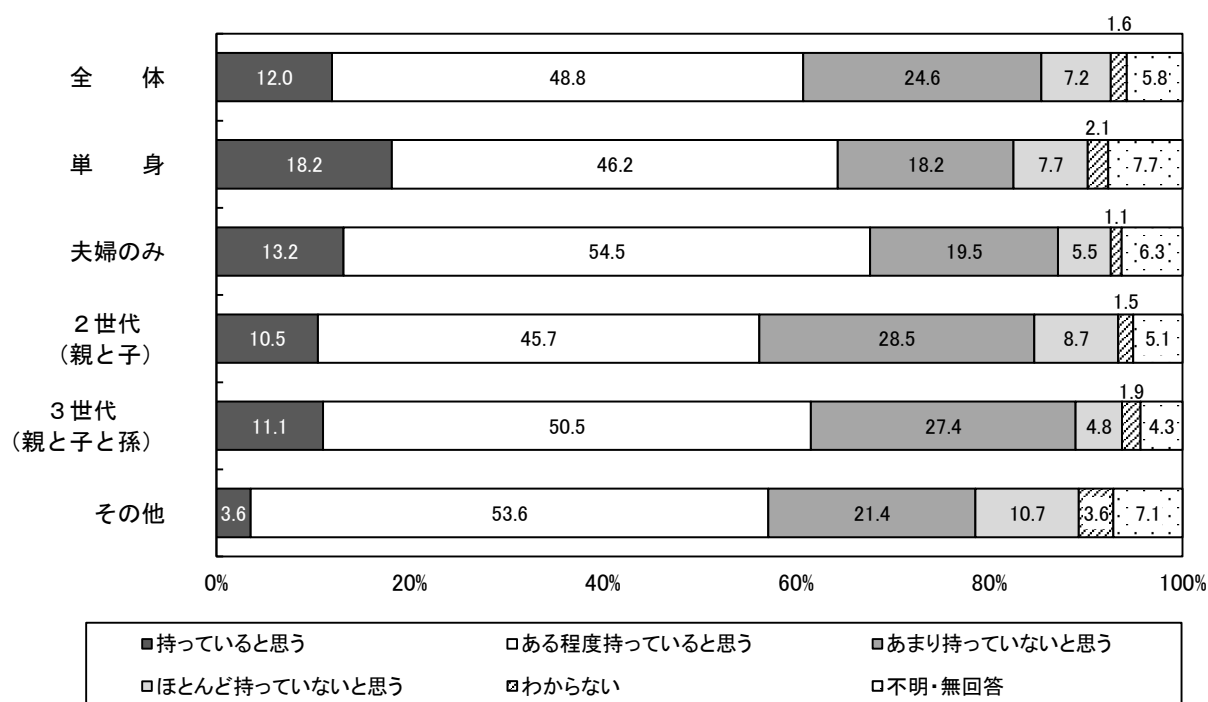
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、夫婦のみ（67.7%）で高くなっている。

図 4.3-6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度

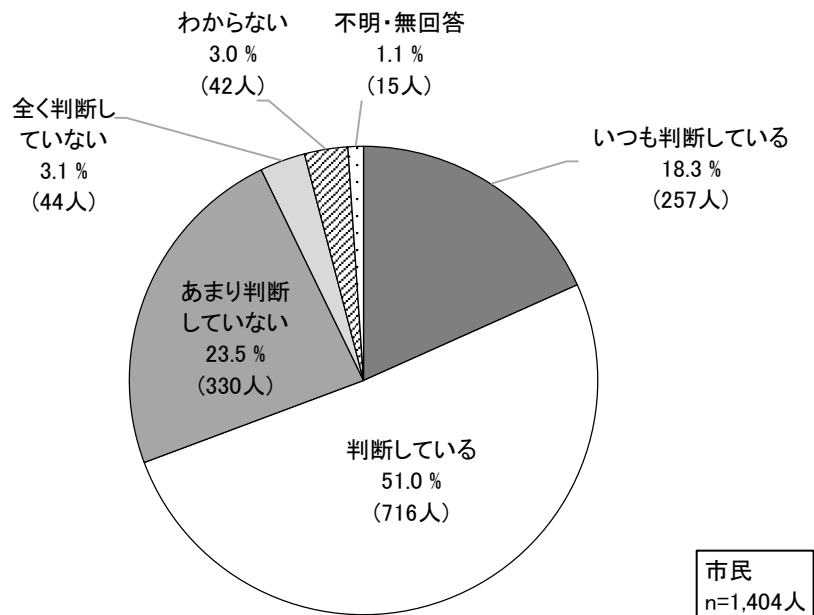
問25 あなたは、安全な食生活を送るために、自ら食品選択等の判断をしていますか。
(○は1つだけ)

7割弱が判断していると回答

「いつも判断している」(18.3%)、「判断している」(51.0%)と回答した人を合わせた、判断している人の割合は7割弱(69.3%)となっている。

一方、「あまり判断していない」(23.5%)、「全く判断していない」(3.1%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(26.6%)となっている。

図4.4 安全な食生活を送ることについての判断の程度



【性別・年齢別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、50歳代(73.1%)で最も高く、7割強となっている。一方、「あまり判断していない」「全く判断していない」を合わせた割合は、20歳代(37.6%)で最も高く4割弱となっている。

性別では、「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.4-2 安全な食生活を送ることについての判断の程度（年齢別・全体）

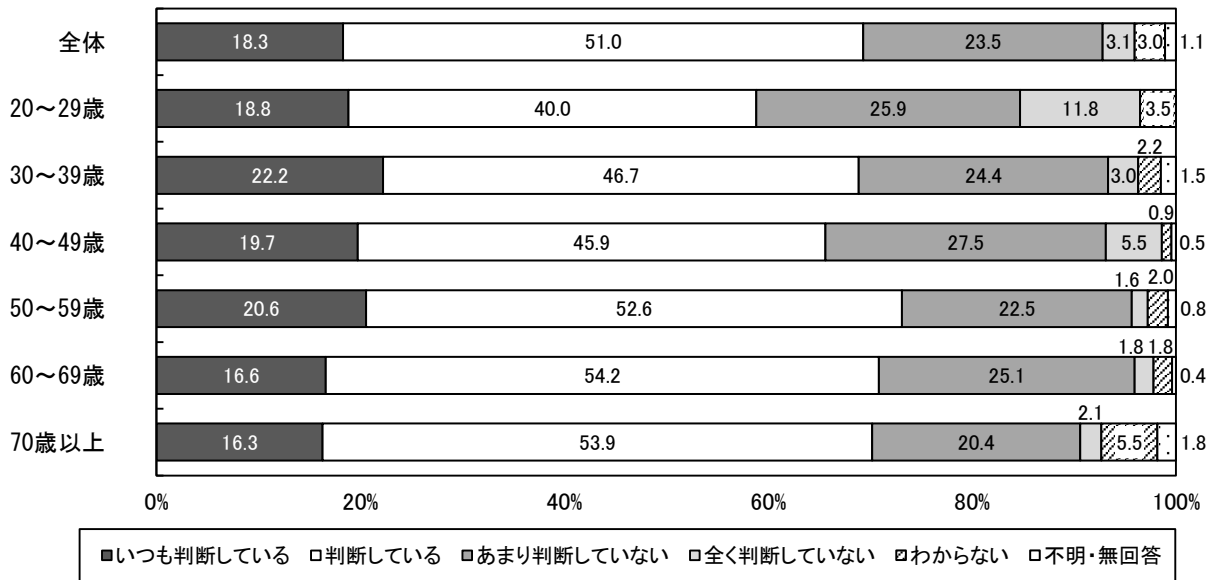
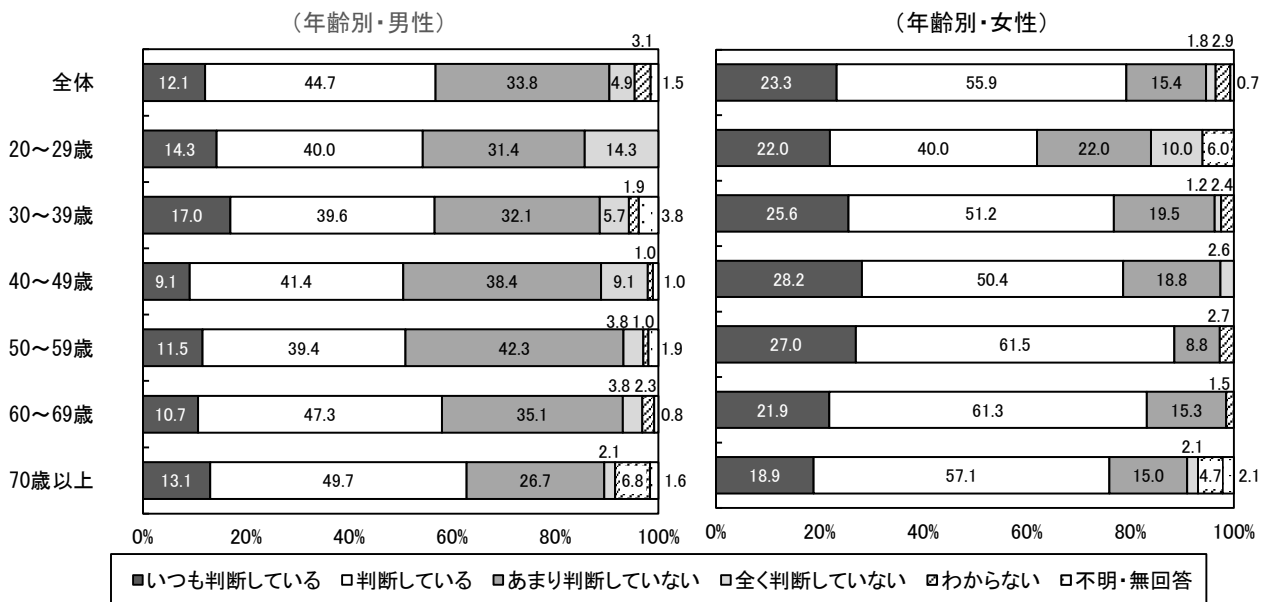


図 4.4-3 安全な食生活を送ることについての判断の程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

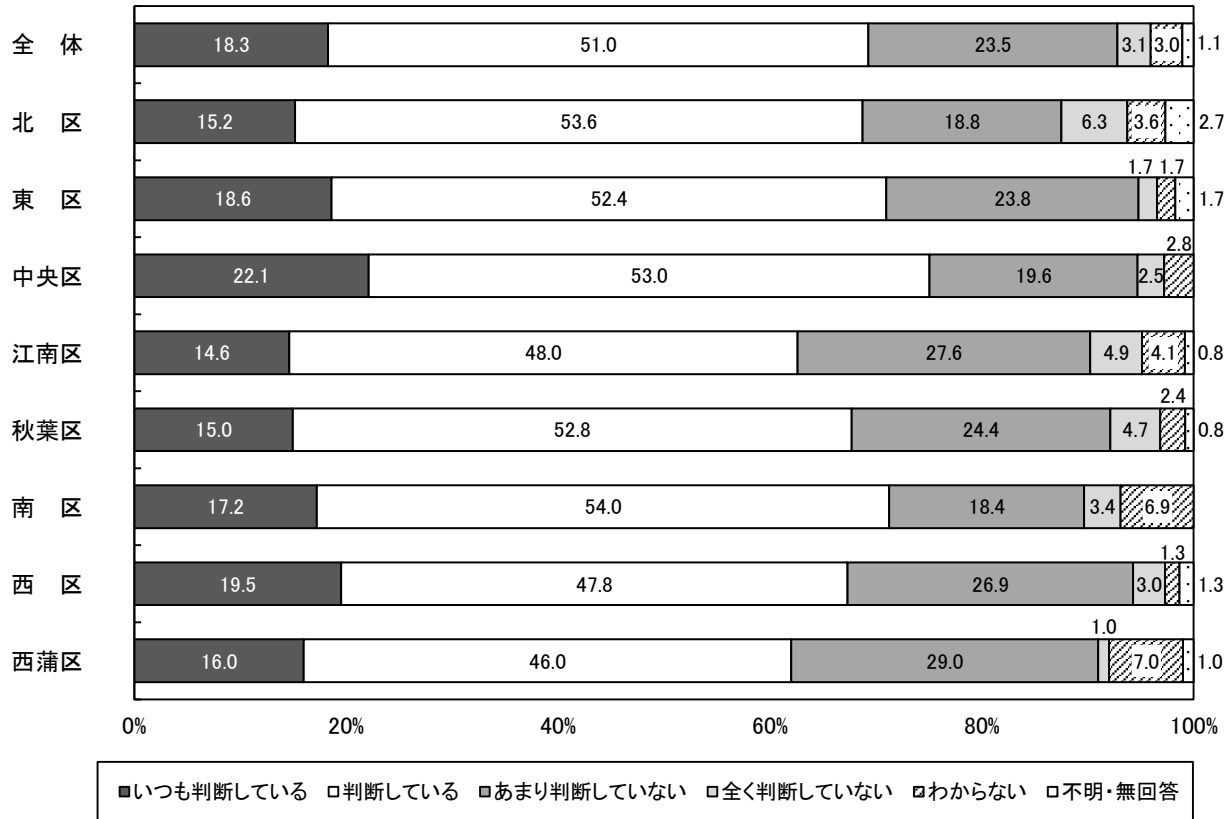
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、中央区(75.1%)で最も高くなっている。

図 4.4-4 安全な食生活を送ることについての判断の程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

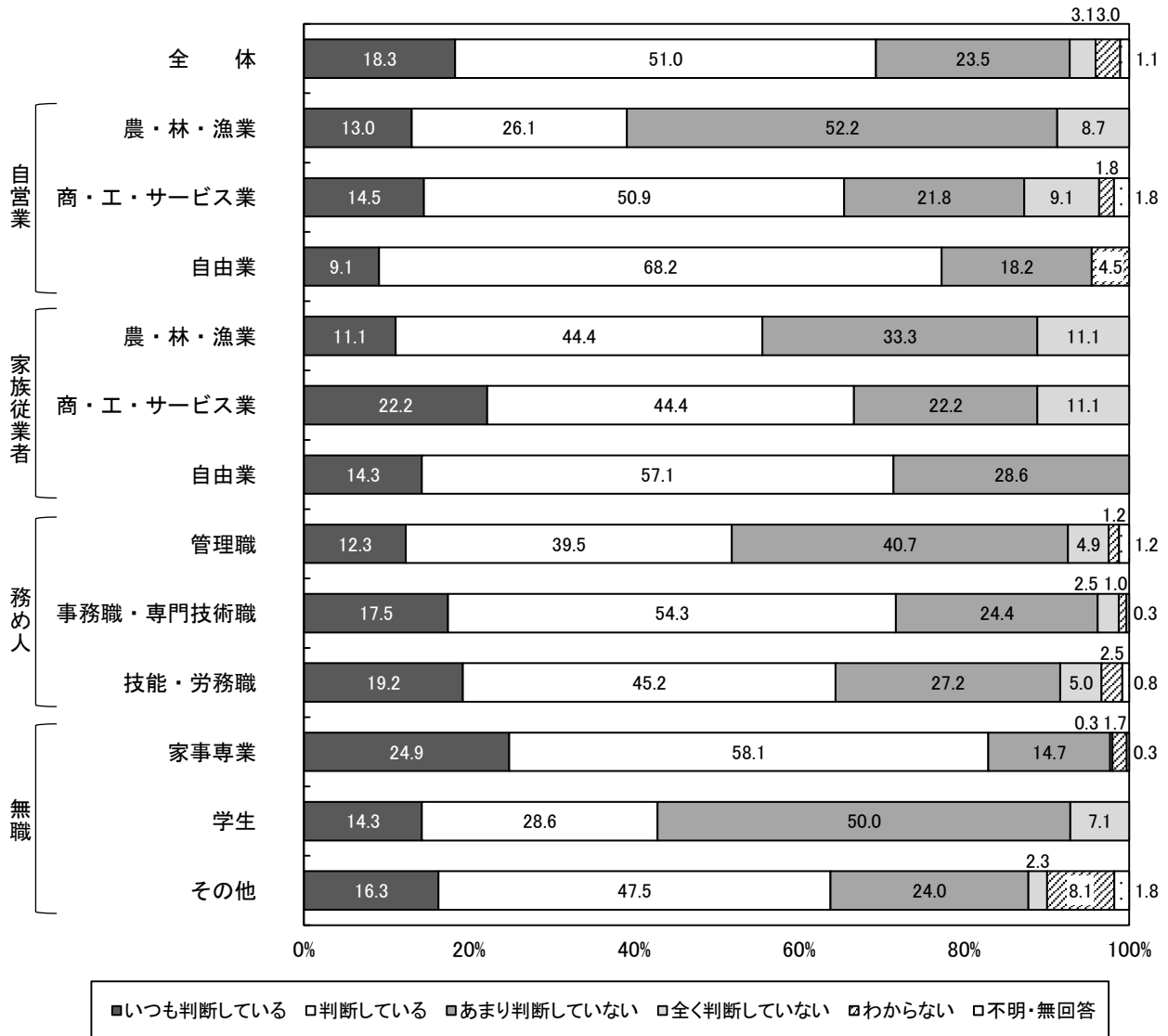
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.4-5 安全な食生活を送ることについての判断の程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

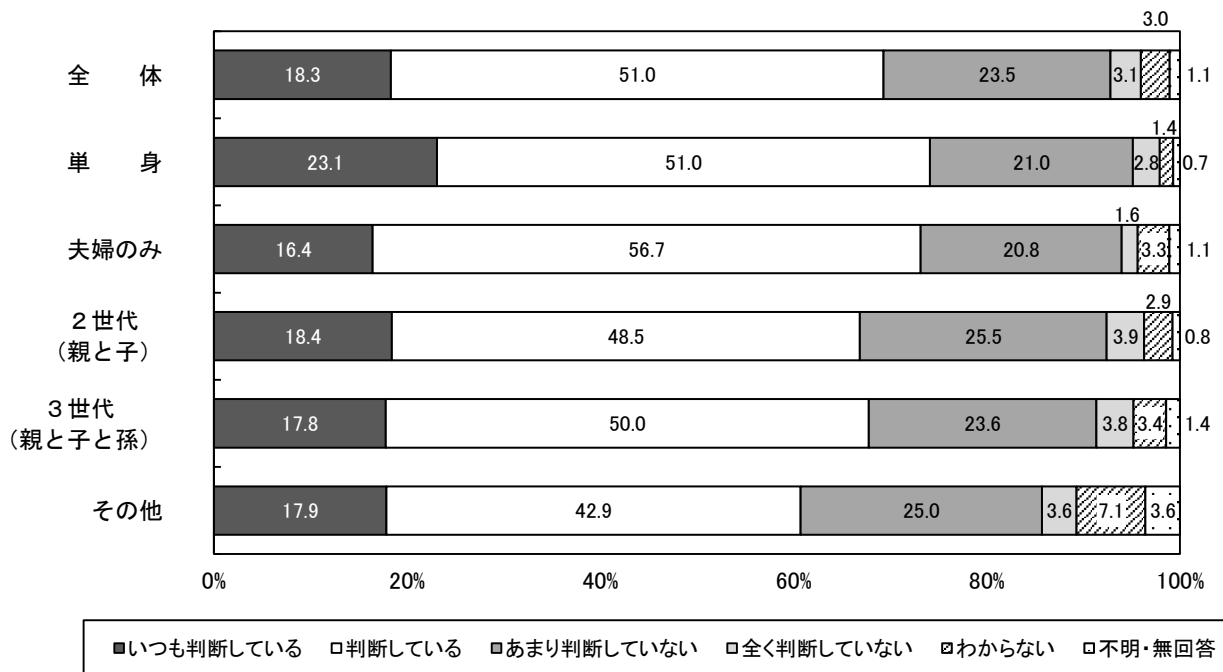
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、単身（74.1%）で高くなっている。

図 4. 4-6 安全な食生活を送ることについての判断の程度（家族構成別）



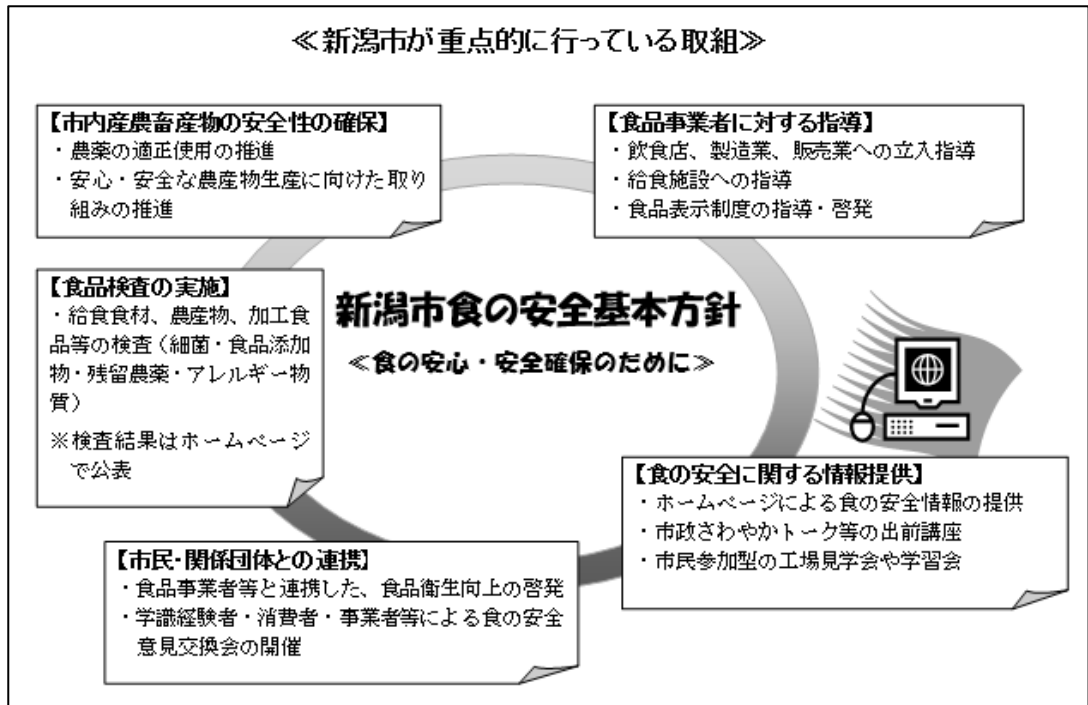
全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況

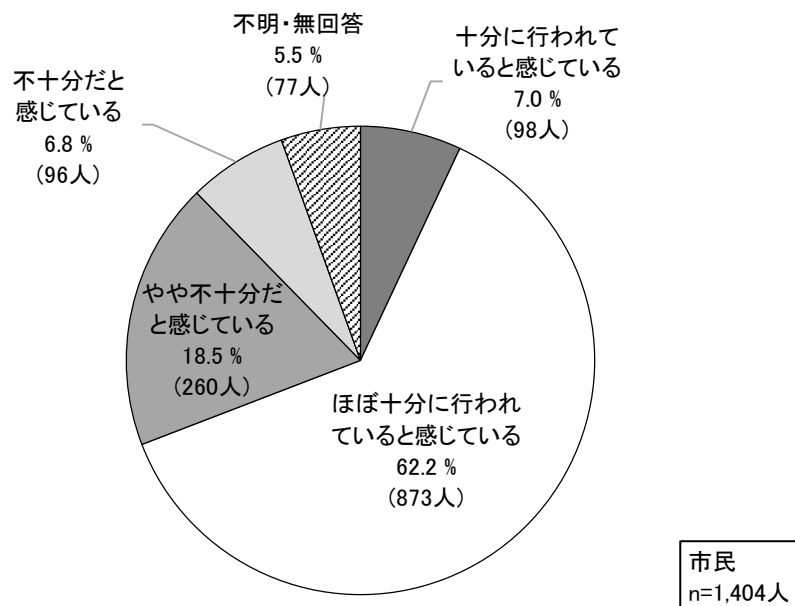
問26 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところです。あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組が、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(○は1つだけ)



7割弱が十分に、もしくはほぼ十分に行われていると感じていると回答

「十分に行われていると感じている」(7.0%)、「ほぼ十分に行われていると感じている」(62.2%)と回答した人を合わせた割合は7割弱(69.2%)となっている。「やや不十分だと感じている」(18.5%)、「不十分だと感じている」(6.8%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(25.4%)となっている。

図 4.5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



【性別・年齢別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人の割合は、70歳代（73.6%）で最も高く、40歳代（62.4%）で最も低くなっている。「やや不十分だと感じている」「不十分だと感じている」と回答した人の割合は、40歳代（35.3%）で最も高くなっている。

性別では、「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.5-2 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・全体）

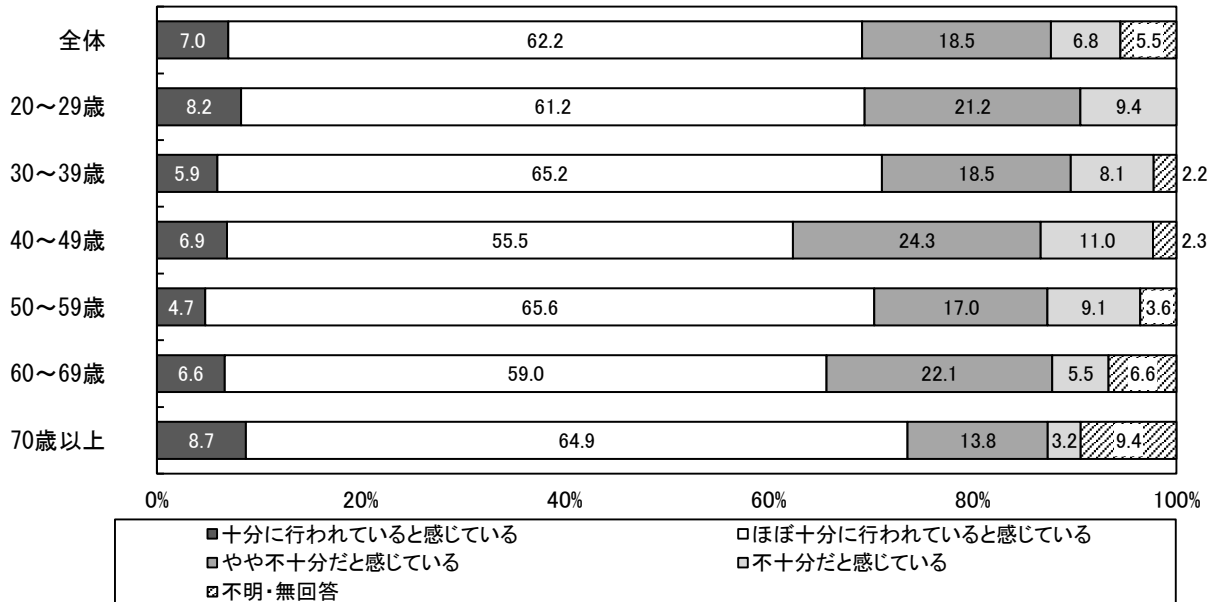
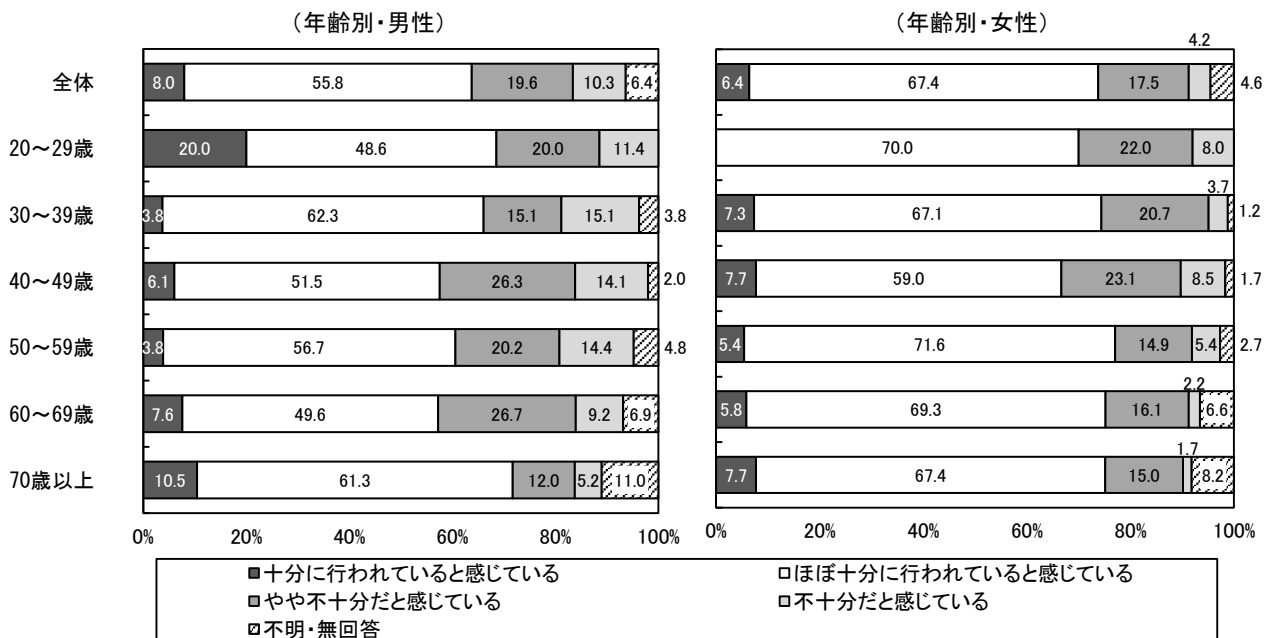


図 4.5-3 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

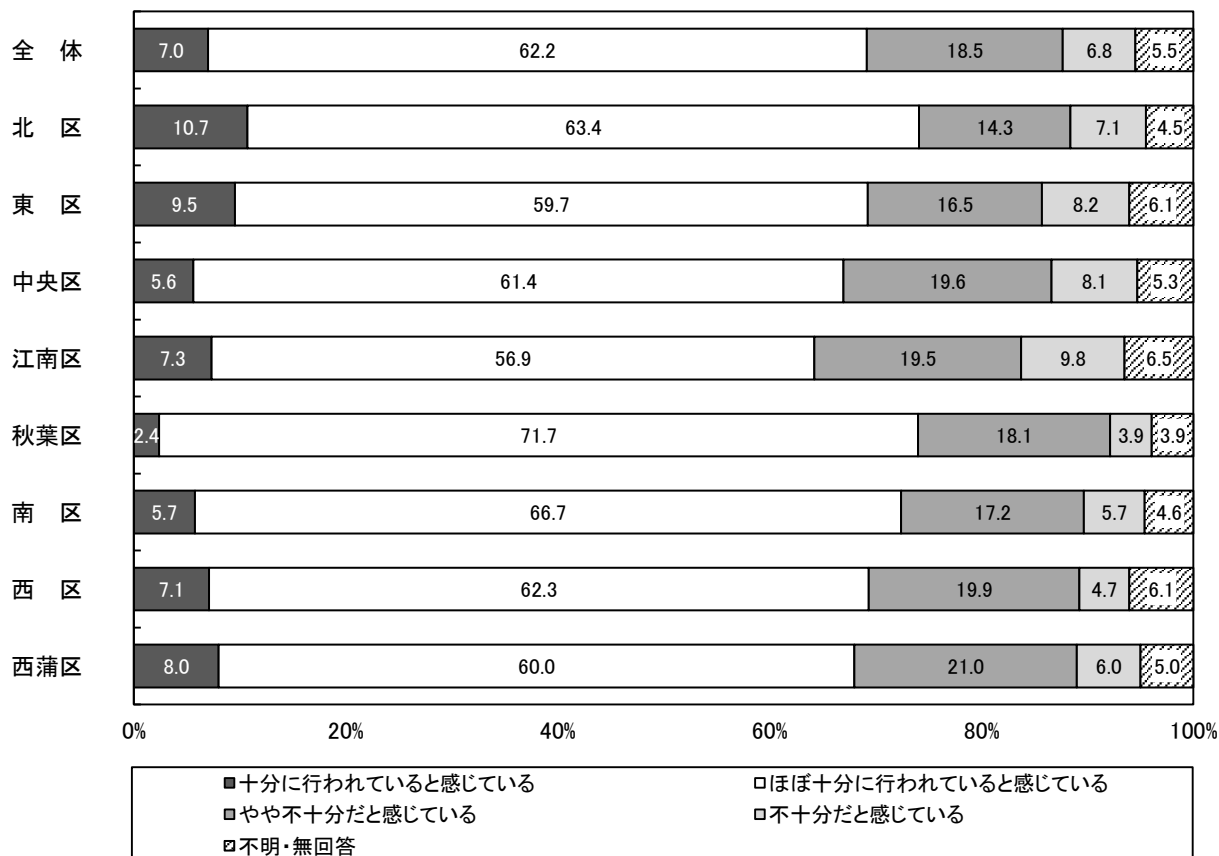
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、北区（74.1%）と秋葉区（74.0%）で高くなっている。

図 4.5-4 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

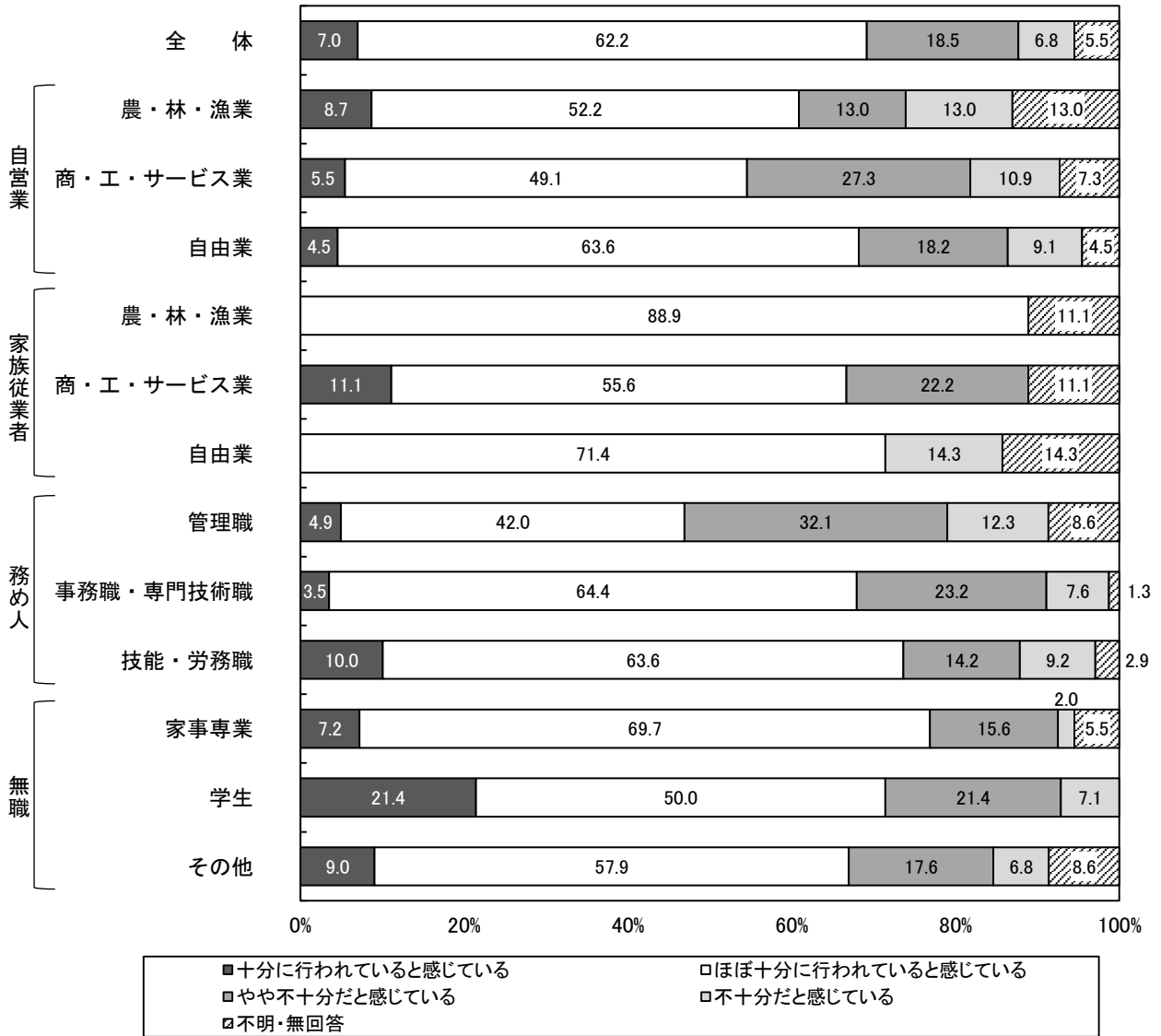
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.5-5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

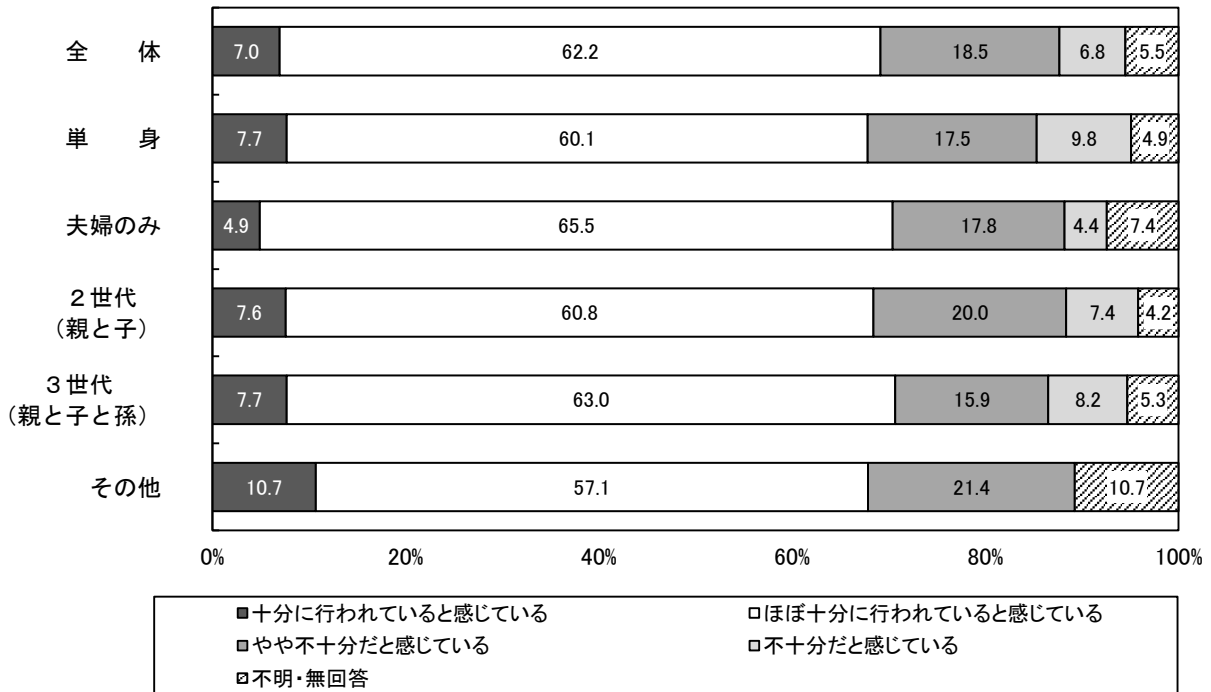
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、3世代（70.7%）で最も高く、単身（67.8%）で最も低くなっている。

図 4.5-6 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

5 健康づくりに対する意識や状況

(1) 自身の現在の健康状態

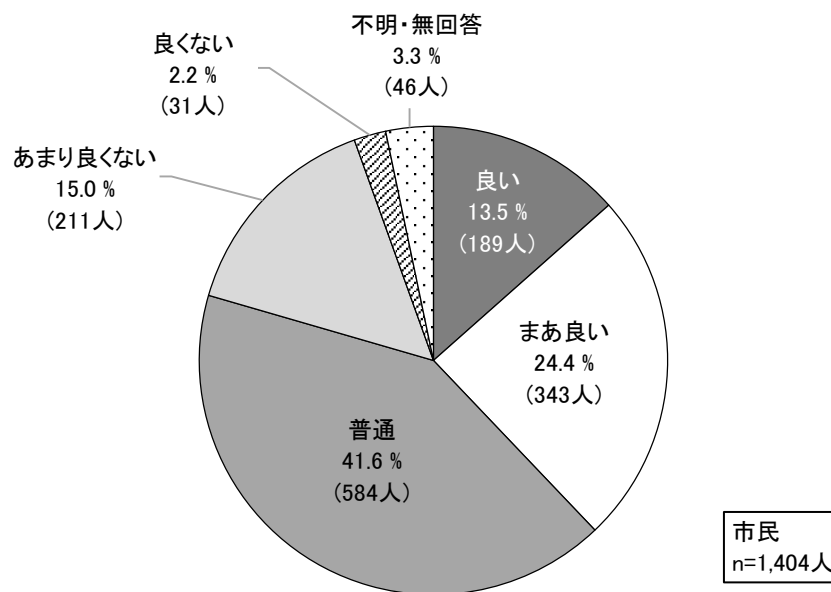
問27 あなたはご自身の現在の健康状態をどのように考えていますか。(○は1つだけ)

4割弱が「良い」「まあ良い」と回答

「良い」(13.5%)、「まあ良い」(24.4%)と回答した人を合わせた、健康状態が良いと感じている人の割合は4割弱(37.9%)となっている。

一方、「あまり良くない」(15.0%)、「良くない」(2.2%)と回答した人を合わせた、健康状態が良くないと感じている人の割合は2割弱(17.2%)となっている。

図5.1 自身の現在の健康状態



【性別・年齢別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、20歳代（52.9%）が最も高く、5割強となっている。

一方、「あまり良くない」「良くない」と回答した人を合わせた割合は、他の年代に比べ70歳以上（21.3%）でやや高くなっている。

図 5.1-2 自身の現在の健康状態（年齢別・全体）

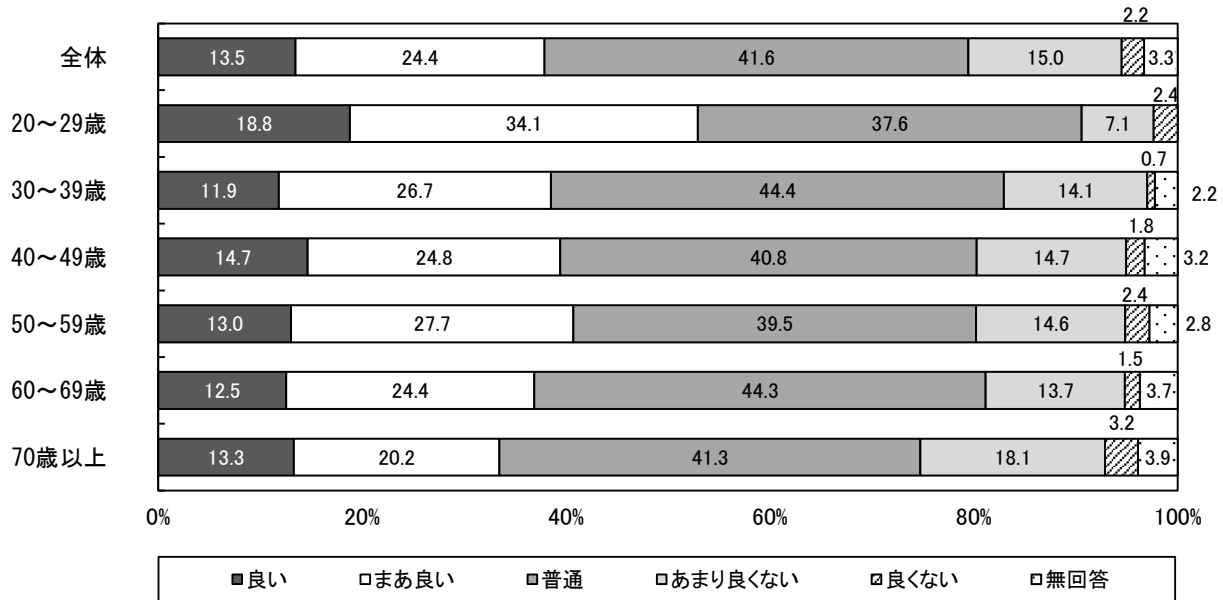
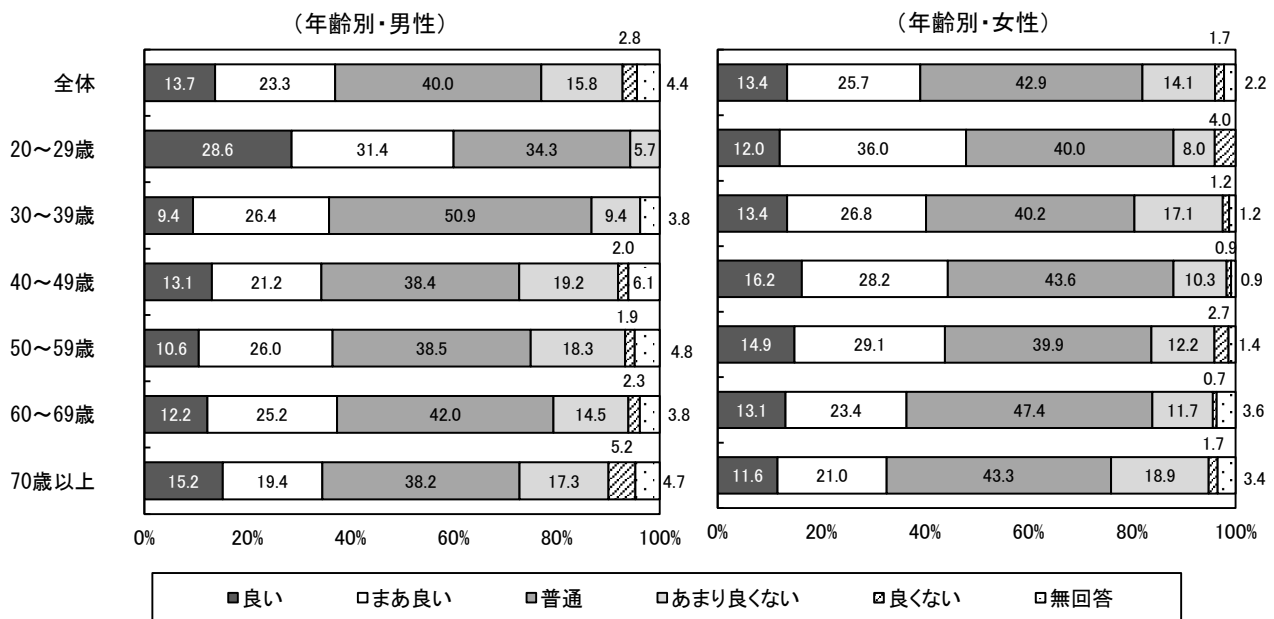


図 5.1-3 自身の現在の健康状態



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	46
男性	613	35	53	99	104	131	191	27
女性	767	50	82	117	148	137	233	17

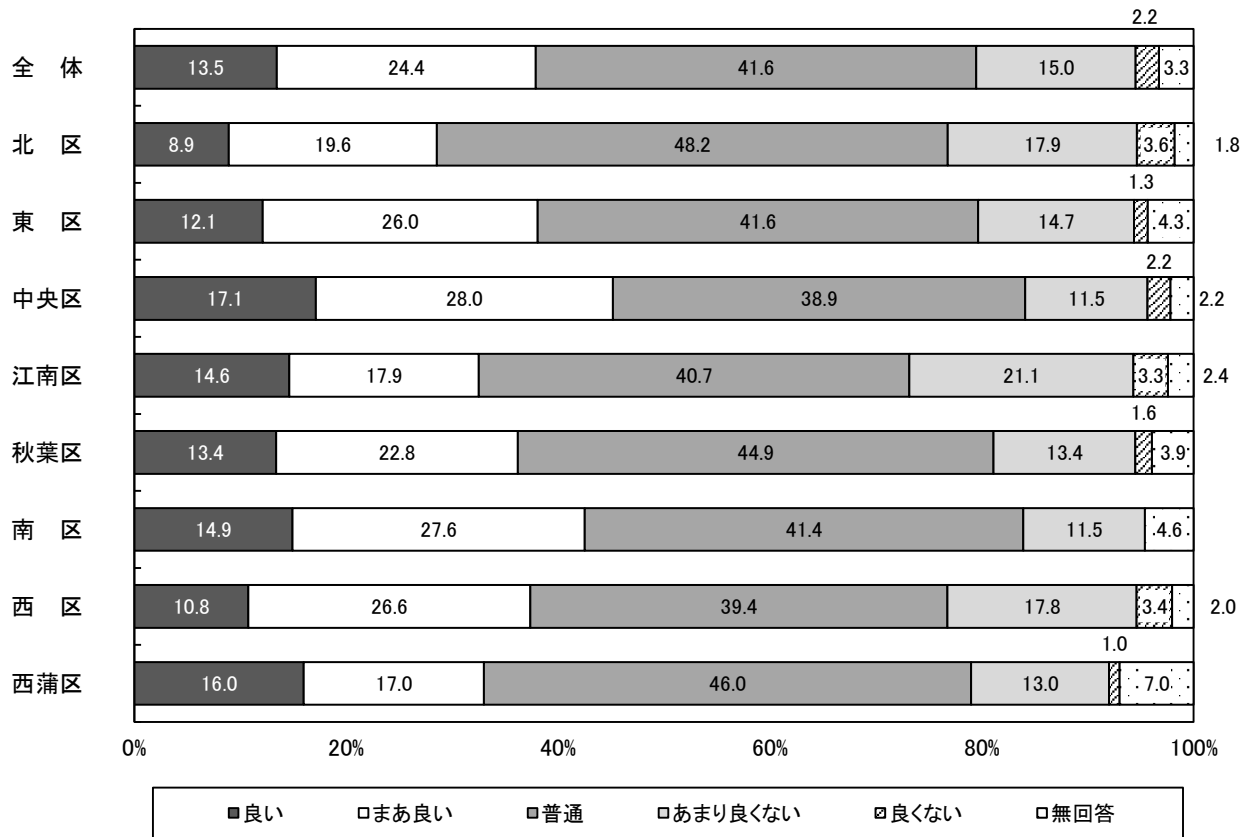
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「良い」「まあ良い」と回答した人を合わせた割合は、中央区(45.2%)で最も高くなっている。一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合では、江南区(24.4%)が最も高くなっている。

図 5.1-4 自身の現在の健康状態（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

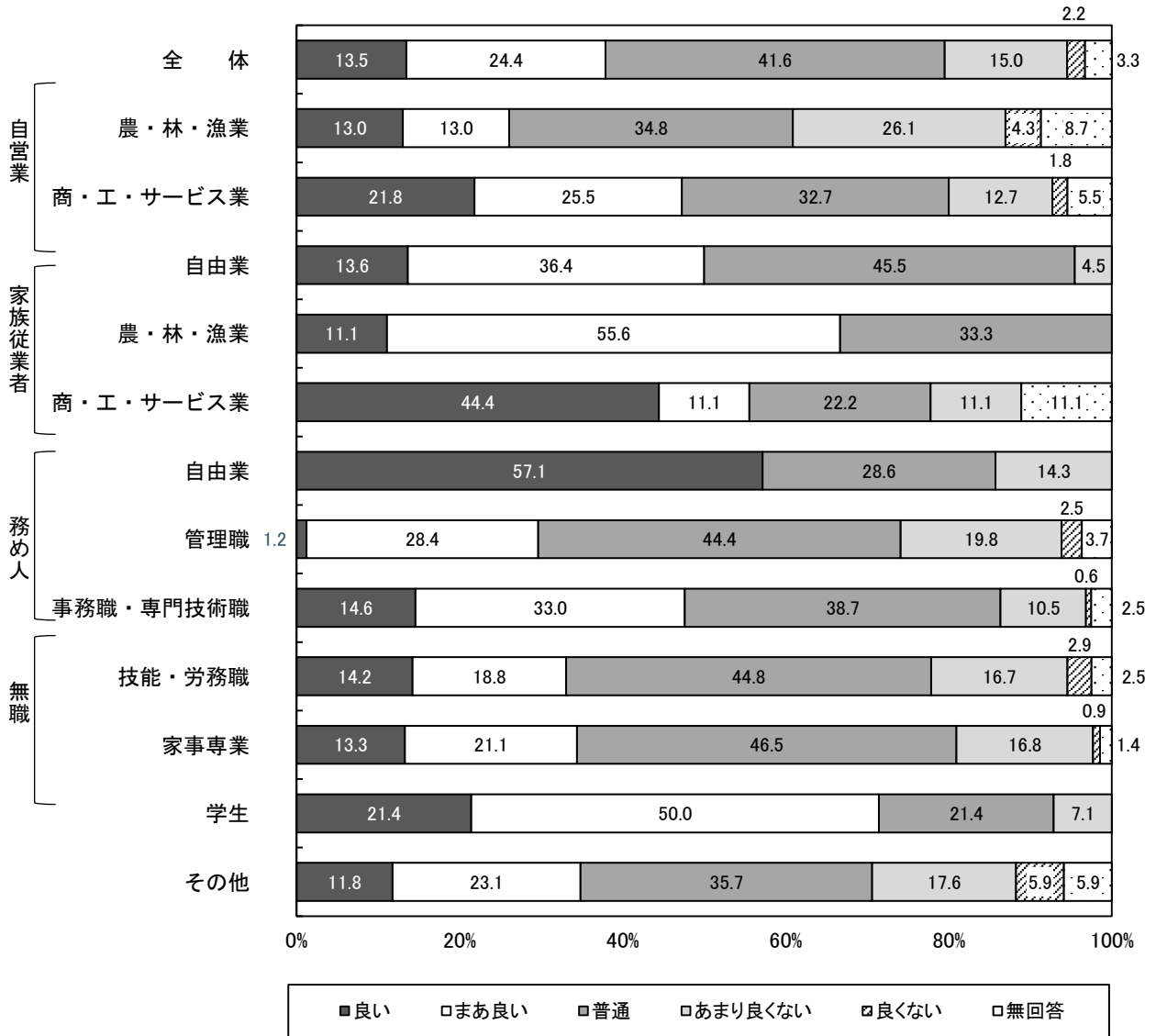
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.1-5 自身の現在の健康状態（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

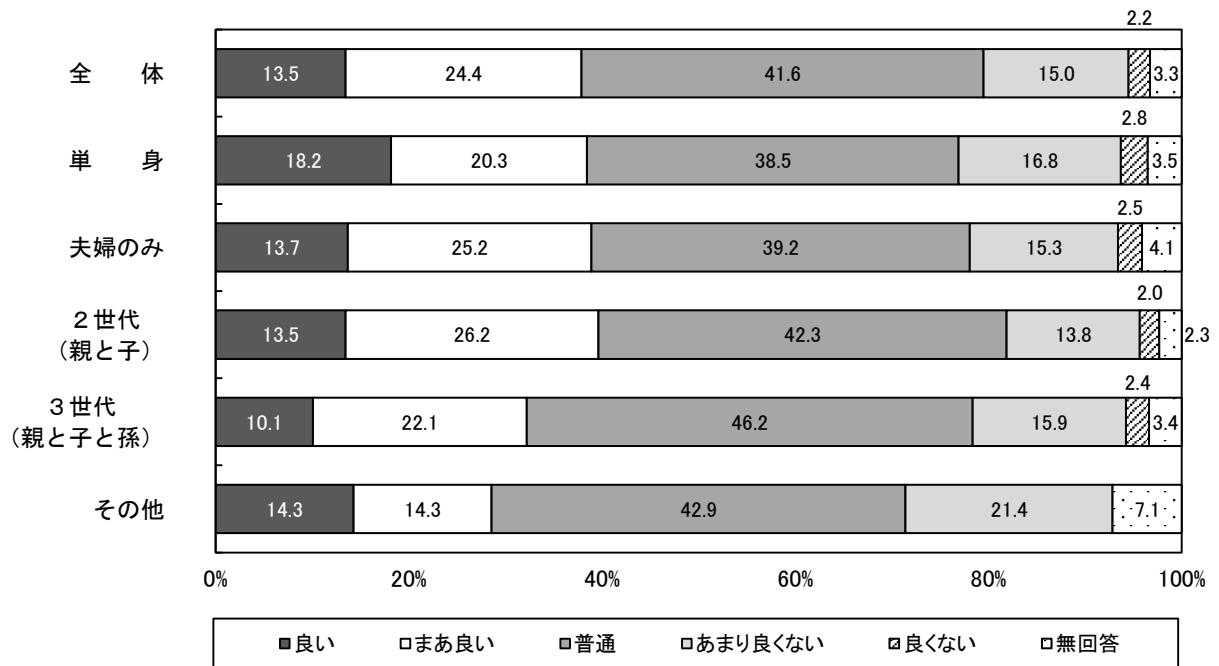
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「良い」「まあ良い」を合わせた割合は、2世代（39.6%）で最も高く、一方、「あまり良くない」「良くない」を合わせた割合は、その他（21.4%）で最も高くなっている。

図 5.1-6 自身の現在の健康状態（家族構成別）



家族構成	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
全体	1,404	143	365	646	208	28

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(2) 睡眠による休養

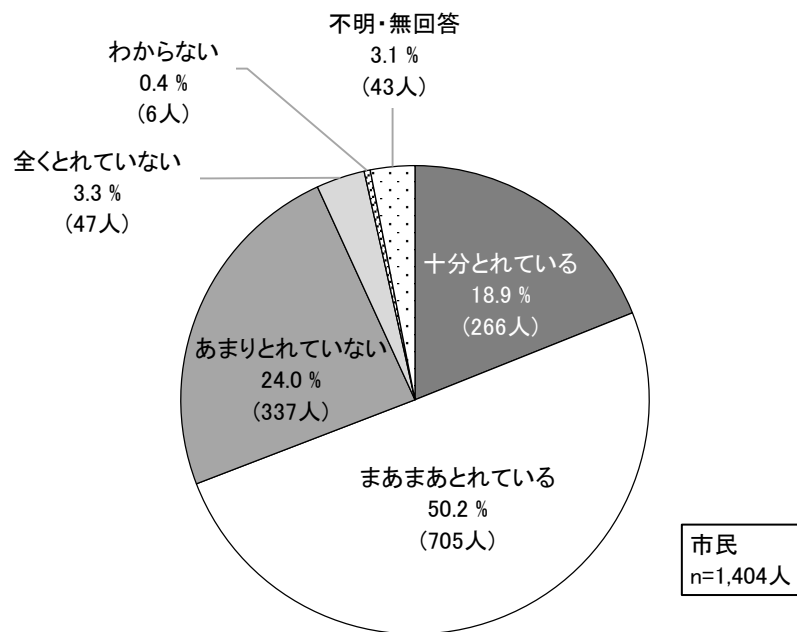
問28 あなたはいつもとっている睡眠で休養が十分とれていると思いますか。(○は1つだけ)

7割弱が睡眠による休養がとれていると回答

睡眠による休養が「十分とれている」(18.9%)、「まあまあとれている」(50.2%)と回答した人を合わせた割合は7割弱(69.2%)となっている。

一方、「あまりとれていない」(24.0%)、「全くとれていない」(3.3%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(27.3%)となっている。

図 5.2 睡眠による休養



【性別・年齢別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、70歳以上で高く、8割を超えている。

性別では、20歳～29歳、60歳代以上で、男性の方が「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合が高くなっている。

図 5.2-2 睡眠による休養（年齢別・全体）

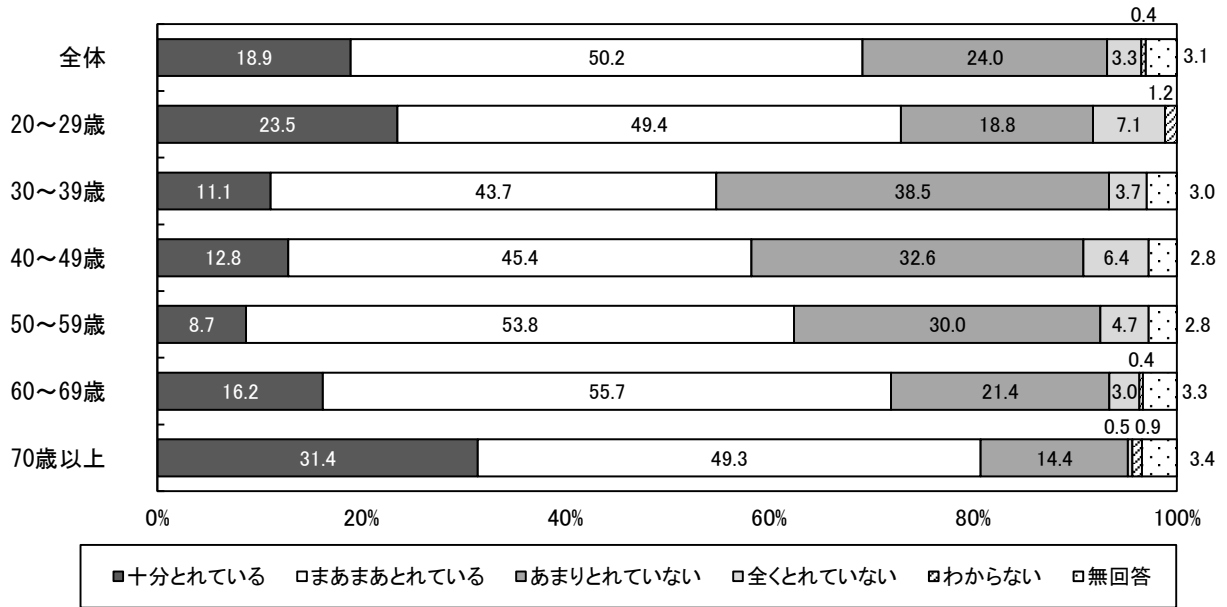
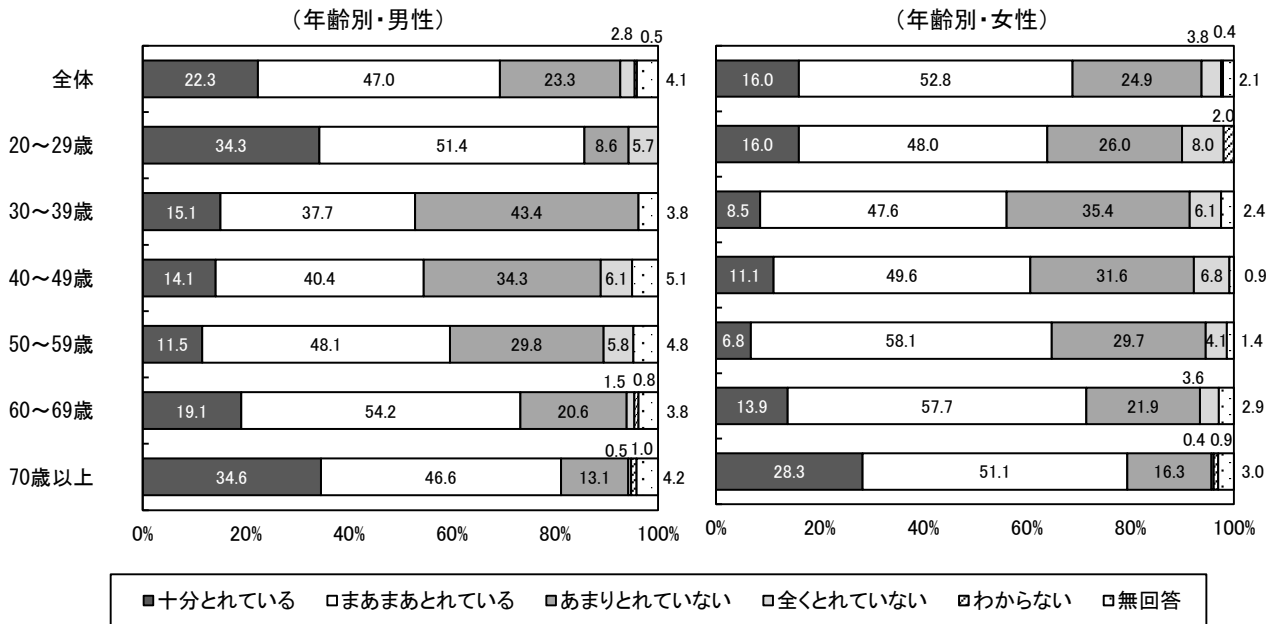


図 5.2-3 睡眠による休養



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
全体	1,404	85	135	218	253	271	436
男性	613	35	53	99	104	131	191
女性	767	50	82	117	148	137	233

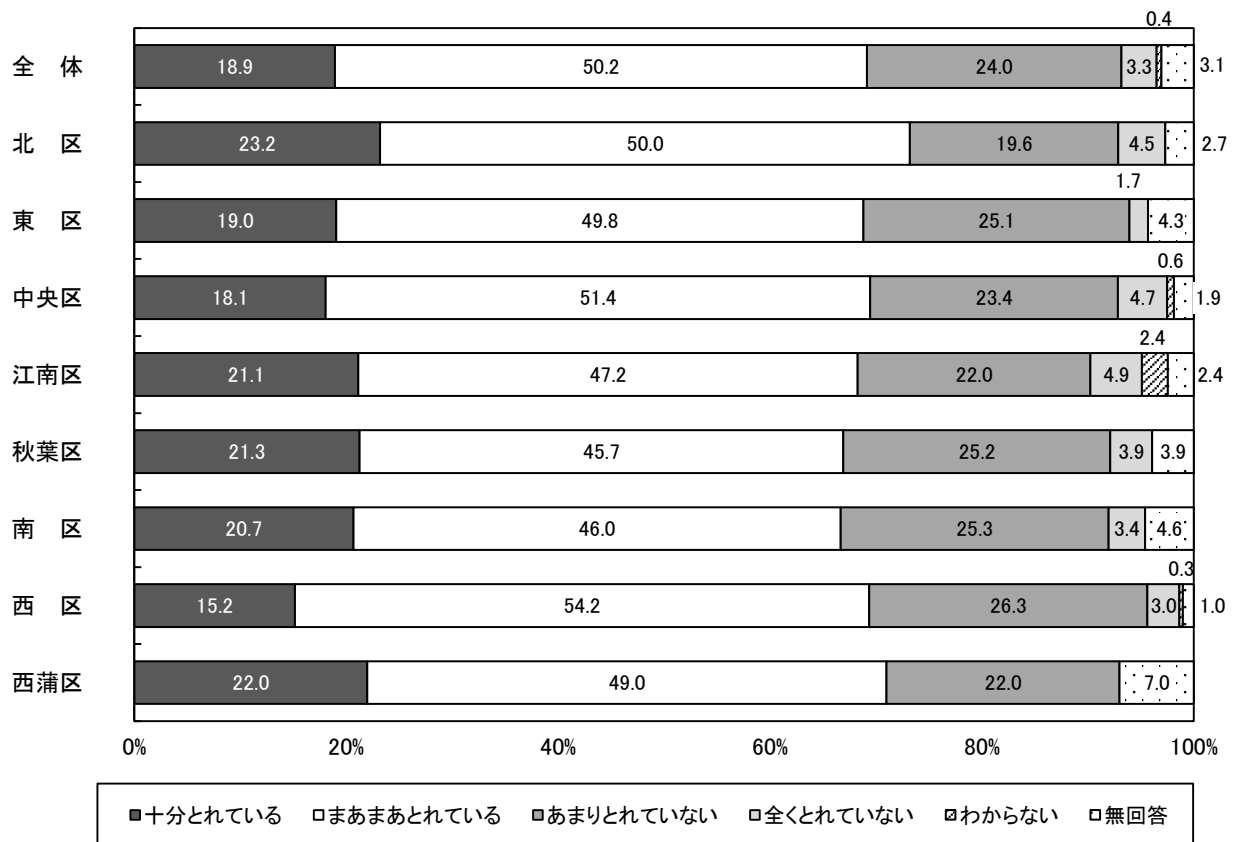
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、北区(73.2%)で最も高くなっている。

図 5.2-4 睡眠による休養（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

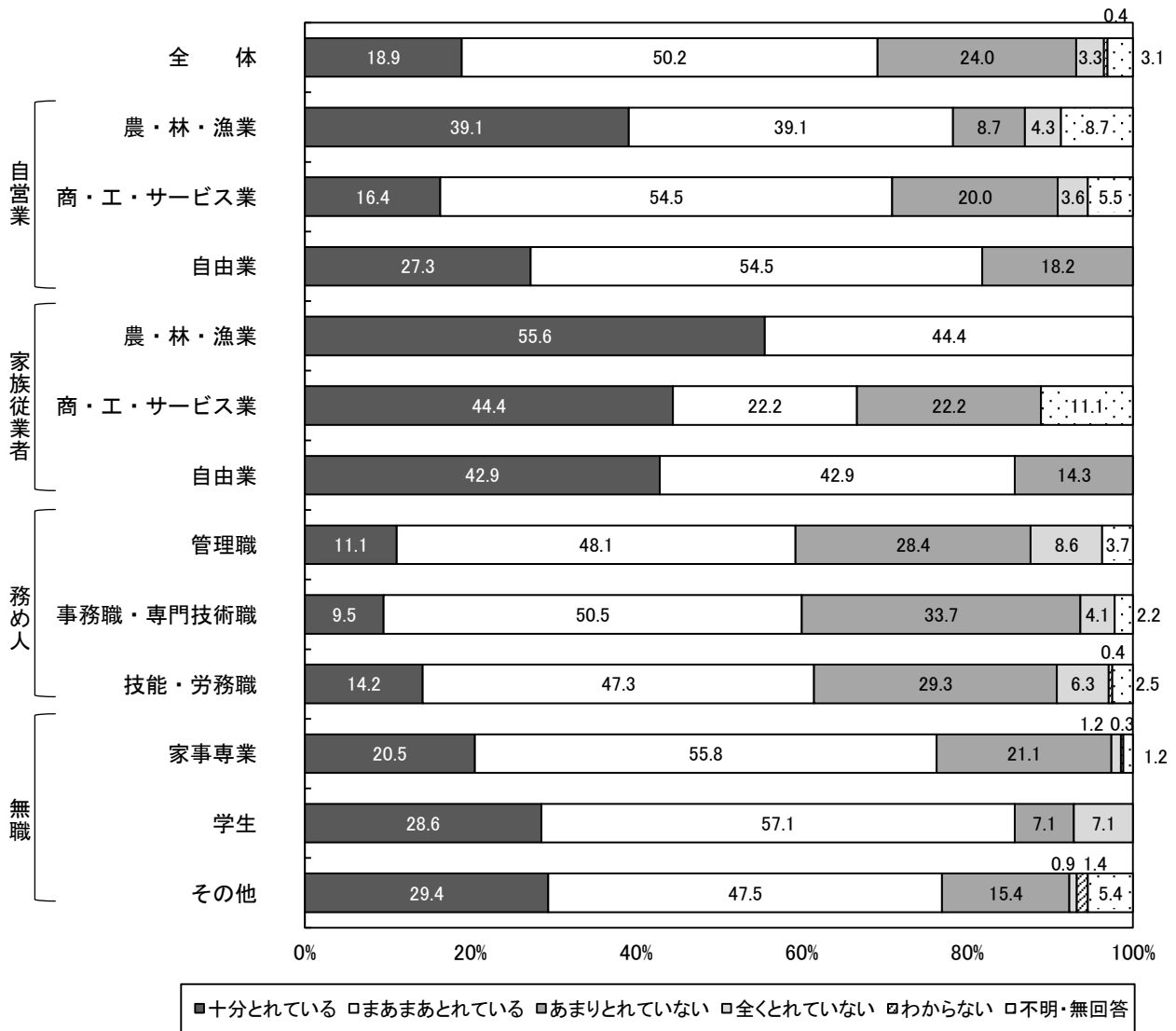
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.2-5 睡眠による休養（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

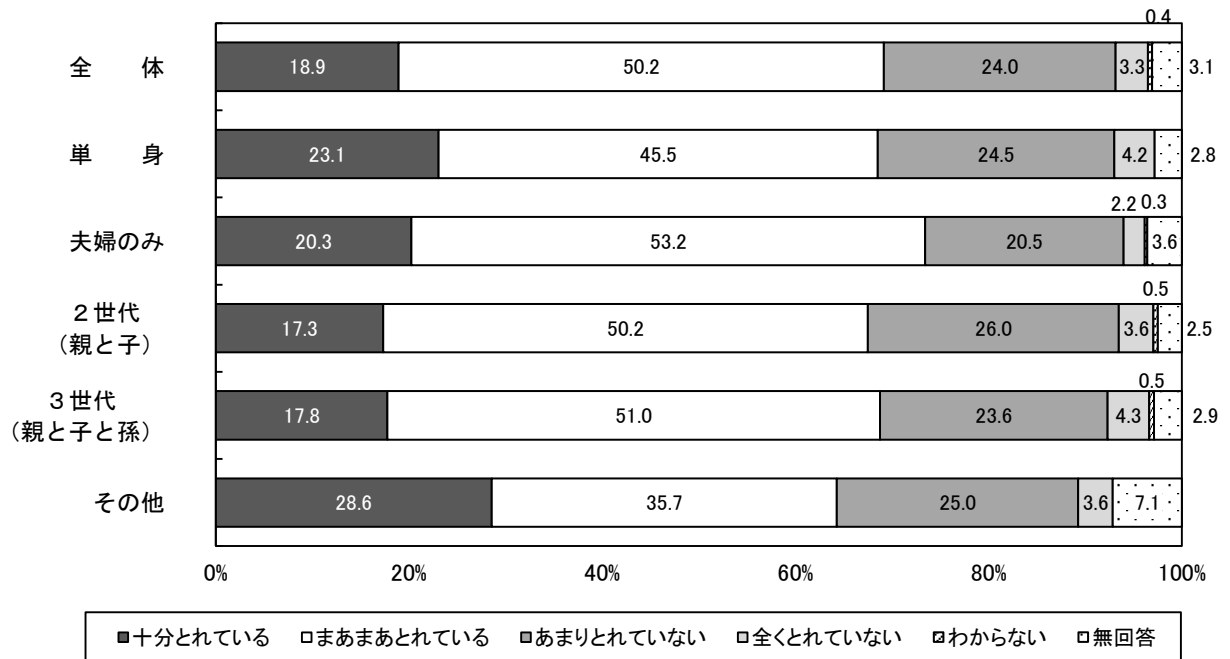
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分とれている」「まあまあとれている」を合わせた割合は、夫婦のみ（73.4%）で最も高くなっている。

図 5.2-6 睡眠による休養（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

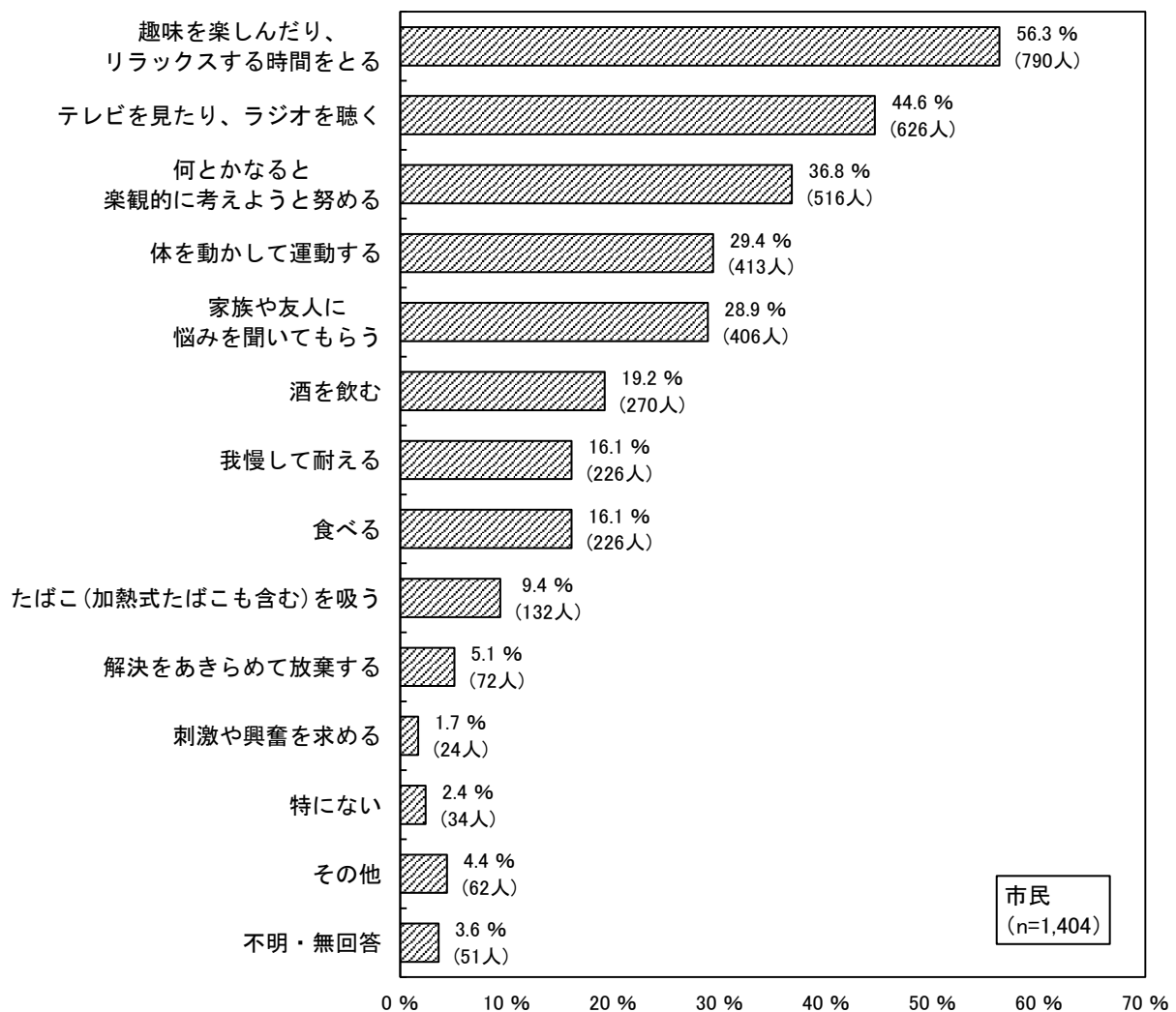
(3) ストレスがある時の対処法

問29 ストレスがある時の対処法は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

6割弱が「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答

ストレスがある時の対処法については、「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人が6割弱(56.3%)と最も多く、以下「テレビを見たり、ラジオを聴く」(44.6%)、「何とかなると楽観的に考えようと努める」(36.8%)、「体を動かして運動する」(29.4%)、「家族や友人に悩みを聞いてもらう」(28.9%)と続いている。

図5.3 ストレスがある時の対処法



【性別・年齢別】

70歳以上では「テレビを見たり、ラジオを聴く」と回答した人の割合が最も高く、60歳代以下では「趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

性別では「体を動かして運動する」「我慢して耐える」「たばこを吸う」の割合は、男性の方が高く、「家族や友人に悩みを聞いてもらう」「食べる」の割合は、女性の方が高くなっている。

表 7.1 ストレスがある時の対処法（年齢別・全体）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようと努める	体を動かして運動する	家族や友人に悩みを聞いてもらう	酒を飲む	我慢して耐える	食べる	たばこ(加熱式たばこも含む)を吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にない	その他	無回答
全体	1,404	56.3	44.6	36.8	29.4	28.9	19.2	16.1	16.1	9.4	5.1	1.7	2.4	4.4	3.6
20～29歳	85	77.6	37.6	36.5	36.5	40.0	16.5	15.3	27.1	8.2	10.6	10.6	2.4	5.9	0.0
30～39歳	135	62.2	31.9	28.9	20.7	31.1	21.5	27.4	34.8	14.1	9.6	2.2	1.5	8.9	2.2
40～49歳	218	58.7	42.7	34.9	22.9	33.9	33.5	19.3	23.9	17.4	6.0	1.4	2.3	4.1	3.7
50～59歳	253	64.0	48.6	39.9	28.1	38.3	26.1	16.2	22.1	9.5	6.3	1.6	0.8	2.8	2.8
60～69歳	271	56.5	45.0	37.3	32.8	28.8	17.0	14.8	9.6	9.6	2.2	0.4	1.1	3.0	4.1
70歳以上	436	45.0	48.6	38.3	32.6	18.3	9.6	12.2	5.0	4.1	3.4	0.7	4.4	4.8	4.6
年齢不明	6	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3

対象者：人/回答：%

表 7.2 ストレスがある時の対処法（年齢別・男性）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようと努める	体を動かして運動する	家族や友人に悩みを聞いてもらう	酒を飲む	我慢して耐える	食べる	たばこ(加熱式たばこも含む)を吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にない	その他	無回答
計	613	55.6	43.2	30.5	36.2	12.9	28.7	18.8	12.2	15.7	4.7	2.4	3.8	3.3	4.9
20～29歳	35	77.1	34.3	28.6	57.1	37.1	8.6	17.1	20.0	8.6	5.7	8.6	2.9	5.7	0.0
30～39歳	53	60.4	32.1	34.0	32.1	15.1	34.0	34.0	26.4	22.6	9.4	3.8	3.8	5.7	3.8
40～49歳	99	56.6	42.4	31.3	31.3	13.1	39.4	24.2	23.2	24.2	7.1	3.0	4.0	2.0	5.1
50～59歳	104	65.4	48.1	28.8	29.8	20.2	42.3	18.3	15.4	18.3	4.8	3.8	1.9	1.0	4.8
60～69歳	131	52.7	43.5	27.5	38.9	9.2	31.3	19.1	3.8	18.3	3.1	0.0	2.3	2.3	5.3
70歳以上	191	46.6	45.5	32.5	37.7	6.3	16.2	12.0	5.2	7.3	3.1	1.6	5.8	4.7	5.8
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 7.3 ストレスがある時の対処法（年齢別・女性）

	対象者	趣味を楽しんだり、リラックスする時間をとる	テレビを見たり、ラジオを聴く	何とかなると楽観的に考えようと努める	体を動かして運動する	家族や友人に悩みを聞いてもらう	酒を飲む	我慢して耐える	食べる	たばこ(加熱式たばこも含む)を吸う	解決をあきらめて放棄する	刺激や興奮を求める	特にない	その他	無回答
計	767	57.2	45.8	41.9	24.0	42.0	11.9	14.1	19.4	4.4	5.5	1.0	1.3	5.5	2.5
20～29歳	50	78.0	40.0	42.0	22.0	42.0	22.0	14.0	32.0	8.0	14.0	12.0	2.0	6.0	0.0
30～39歳	82	63.4	31.7	25.6	13.4	41.5	13.4	23.2	40.2	8.5	9.8	1.2	0.0	11.0	1.2
40～49歳	117	61.5	43.6	38.5	16.2	51.3	29.1	15.4	24.8	11.1	5.1	0.0	0.9	6.0	2.6
50～59歳	148	62.8	48.6	48.0	27.0	51.4	14.9	14.9	27.0	3.4	7.4	0.0	0.0	4.1	1.4
60～69歳	137	59.9	46.0	46.7	26.3	48.2	2.9	10.9	14.6	0.7	1.5	0.7	0.0	3.6	2.9
70歳以上	233	43.3	51.1	42.5	28.8	27.9	3.9	11.6	4.7	1.7	3.4	0.0	3.4	5.2	3.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(4) 定期的に継続している運動の実施状況

問30 あなたは、定期的に継続して運動や散歩等を行っていますか。(○は1つだけ)

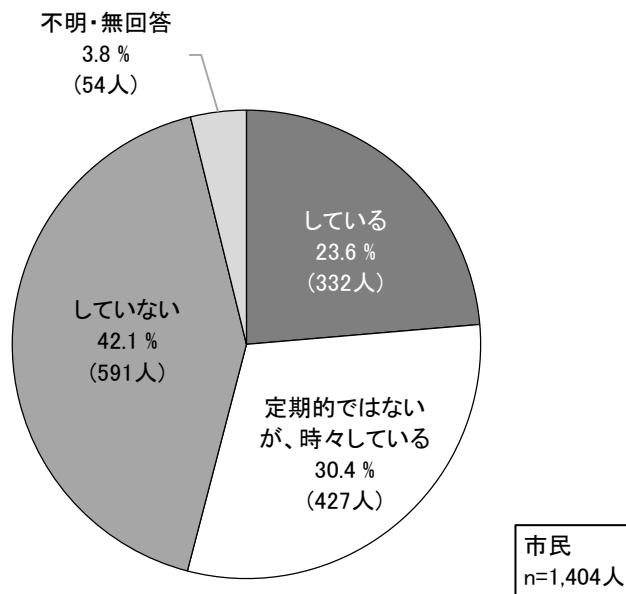
※「定期的に継続して」とは、1回30分以上、かつ週2日以上、かつ1年以上続けていることをいいます。

5割強が運動を実施していると回答

【全体結果】

定期的に継続している運動の実施状況については、「している」(23.6%)、「定期的ではないが、時々している」(30.4%)と回答した人を合わせた割合は5割強(54.1%)となっている。一方、「していない」と回答した人が4割強(42.1%)となっている。

図 5.4 定期的に継続している運動の実施状況



【性別・年齢別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、70歳以上（60.3%）で最も高く、30歳代（43.7%）で最も低くなっている。30歳代と40歳代では、「していない」と回答した人が半数を超えた。

性別では、「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、50歳代を除き、女性より男性で高くなっている。

図 5.4-2 定期的に継続した運動の有無（年齢別・全体）

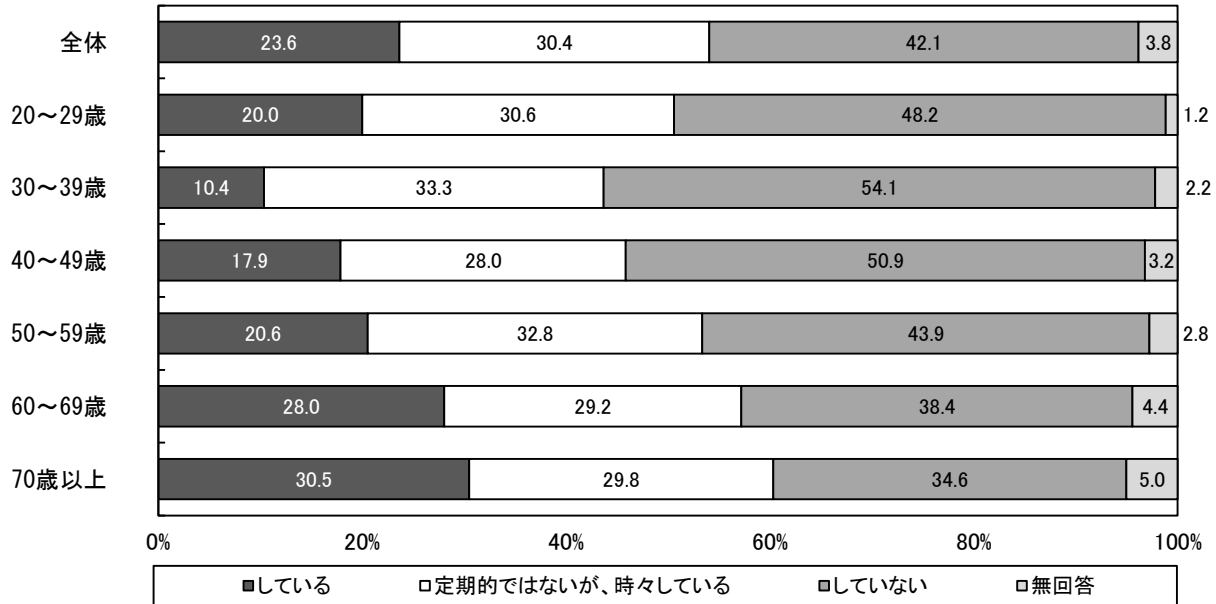
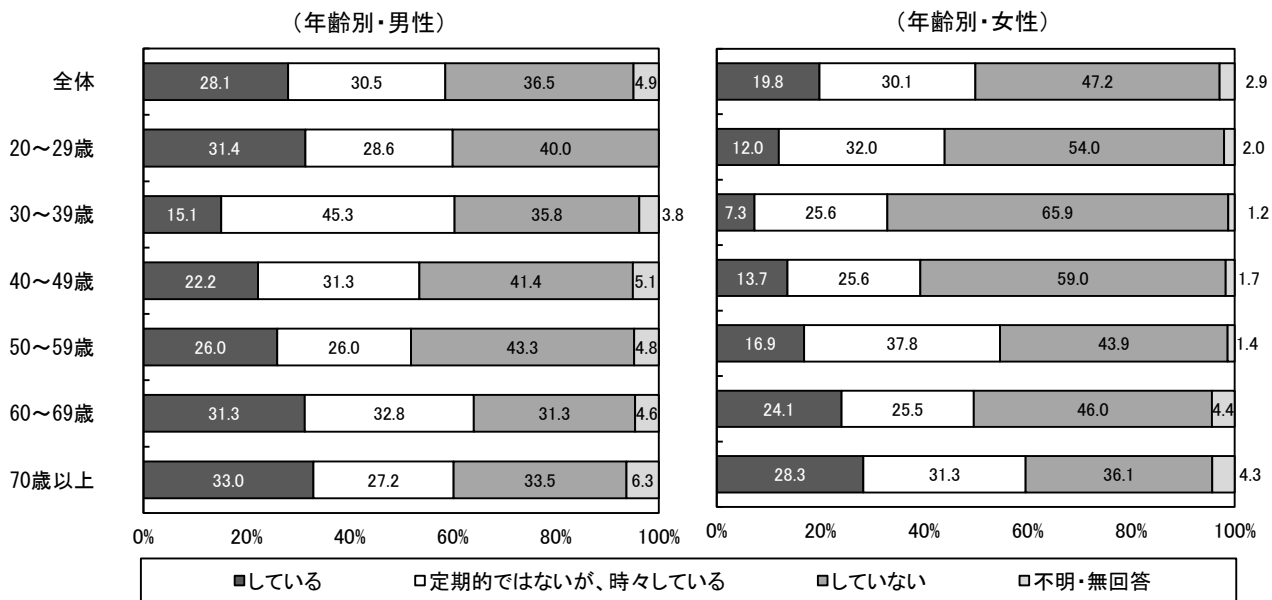


図 5.4-3 定期的に継続した運動の有無



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	46
男性	613	35	53	99	104	131	191	27
女性	767	50	82	117	148	137	233	17

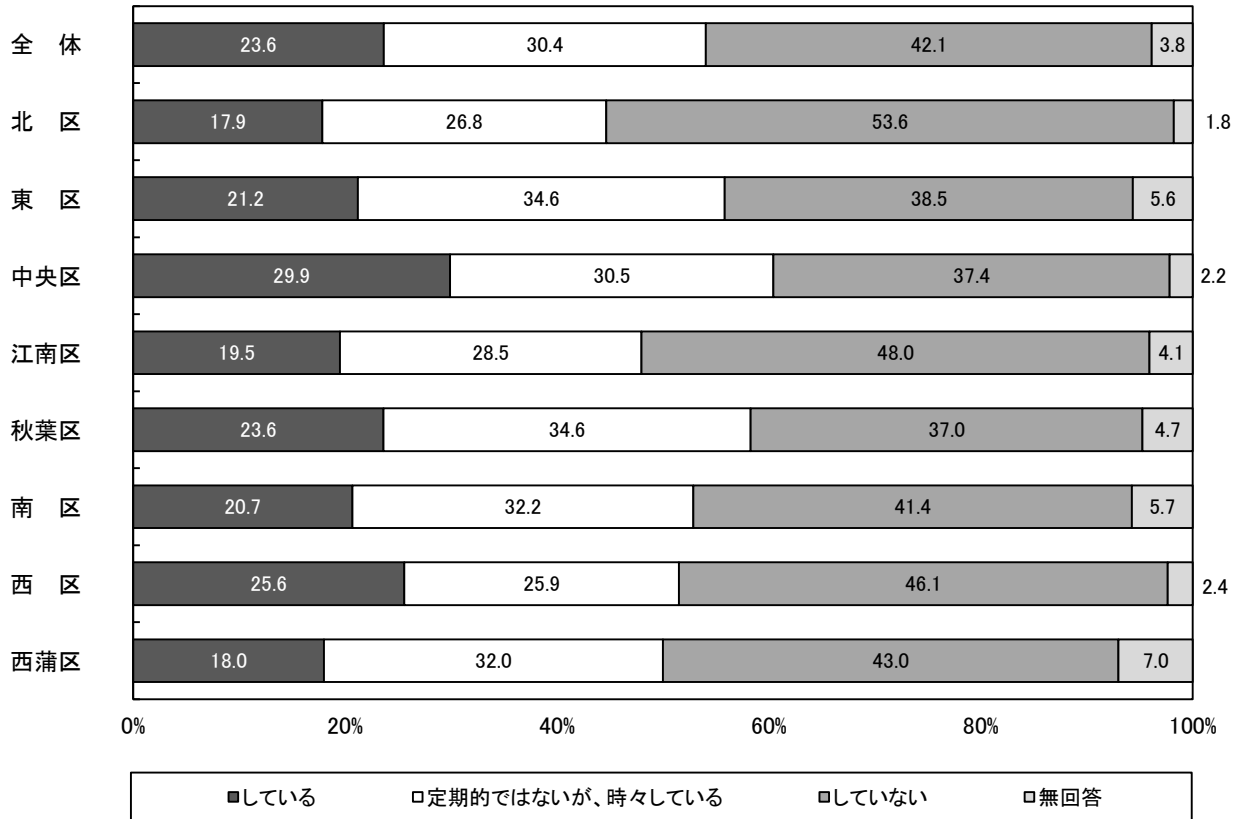
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、中央区（60.4%）で最も高くなっている。北区、江南区を除き、「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合が、「していない」と答えた割合を上回っている。

図 5.4-4 定期的に継続した運動の有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

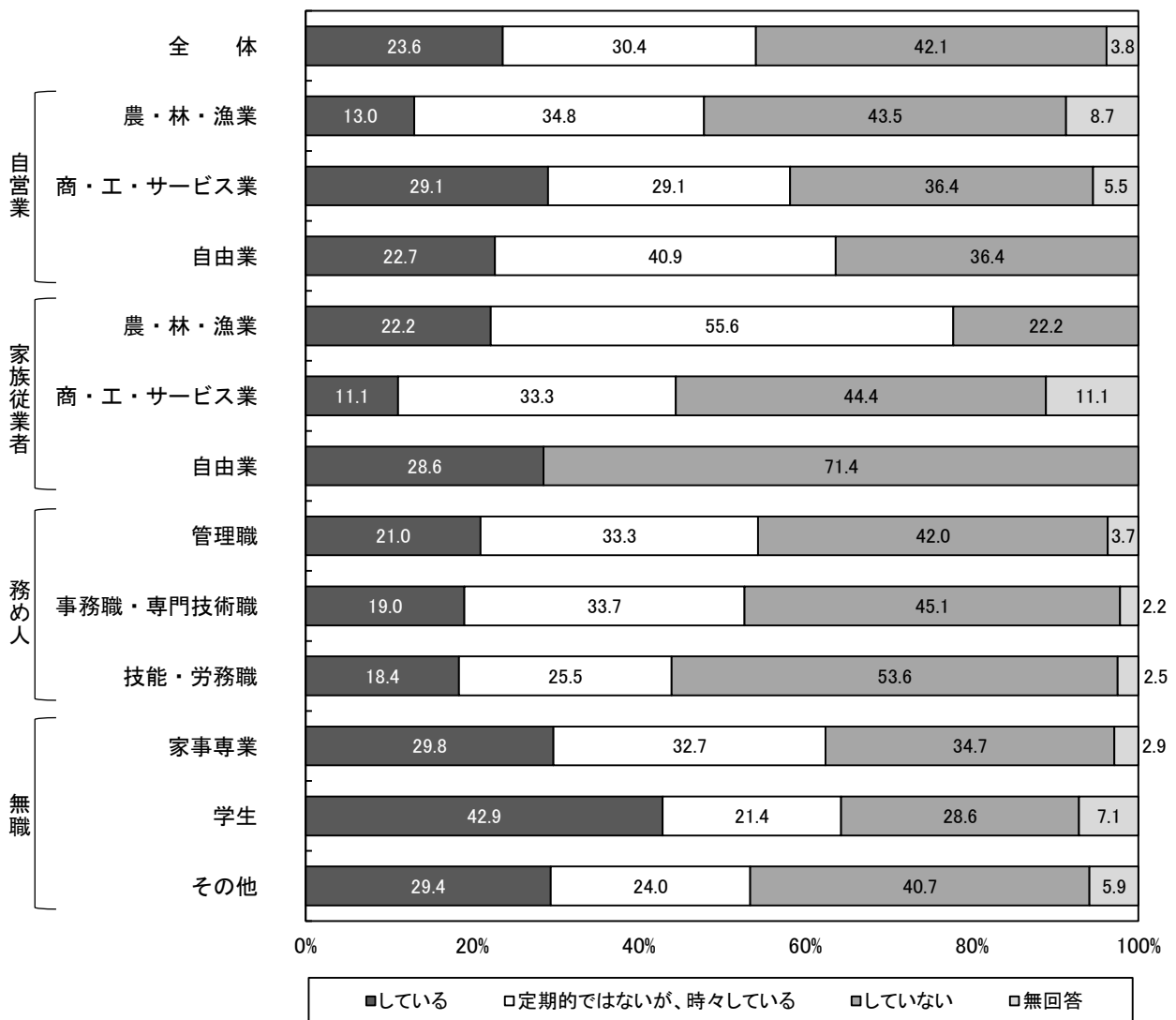
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.4-5 定期的に継続した運動の有無（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

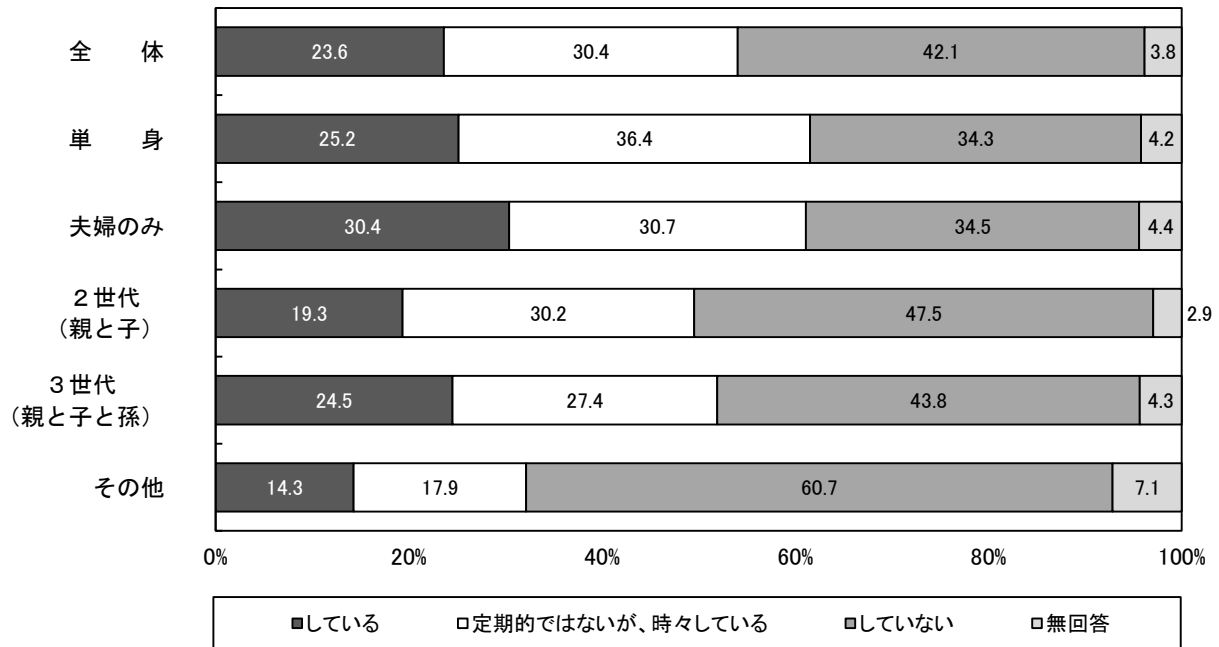
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「している」「定期的ではないが、時々している」を合わせた割合は、単身(61.5%)と夫婦のみ(61.1%)で高く、6割を超えている。

図 5.4-6 定期的に継続した運動の有無（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

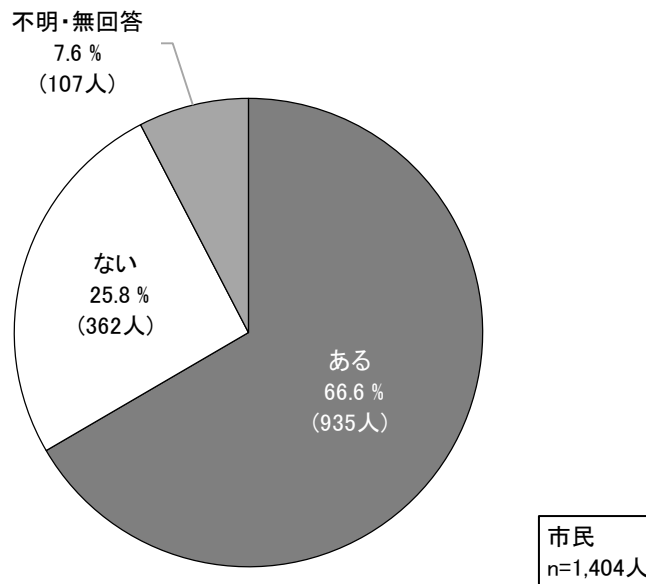
(5) 1週間に10分以上続けて歩くことの有無

問31 あなたは、平均的な1週間で、10分以上続けて歩くことは何日ありますか。
※ここで歩くとは、仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩など全てを含みます。(〇は1つだけ)

7割弱が1週間に10分以上続けて歩くことが「ある」と回答

1週間に10分以上続けて歩くことが「ある」と回答した人の割合が7割弱(66.6%)となっている。一方、「ない」と回答した人の割合は3割弱(25.8%)となっている。

図 5.5 1週間に10分以上続けて歩くことの有無



【性別・年齢別】

「ある」と回答した人の割合は、20歳代（72.9%）で最も高く、30歳代（59.3%）で最も低くなっている。

性別では、「ある」の割合は、40歳代と50歳代を除き、女性より男性で高くなっている。

図 5.5-2 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（年齢別・全体）

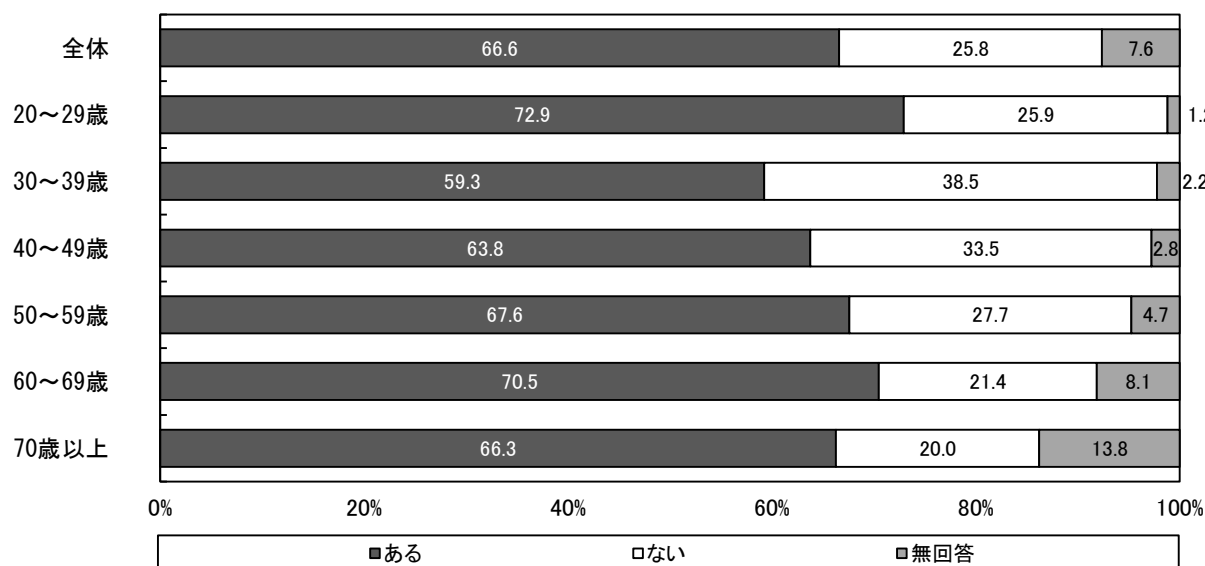
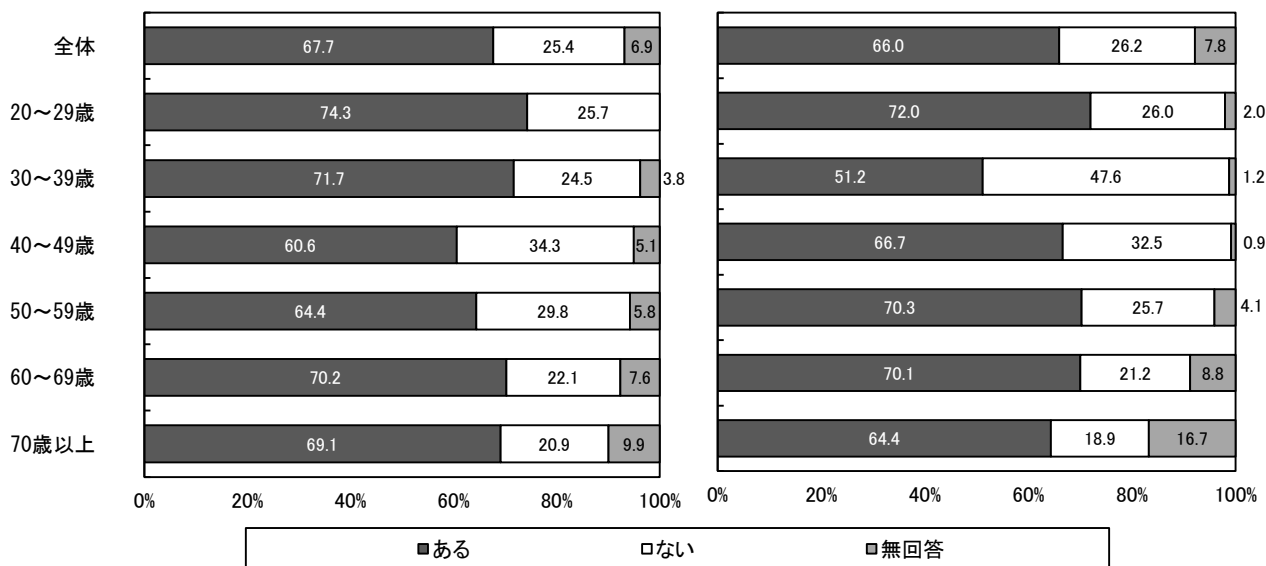


図 5.5-3 1週間に10分以上続けて歩くことの有無

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	46
男性	613	35	53	99	104	131	191	27
女性	767	50	82	117	148	137	233	17

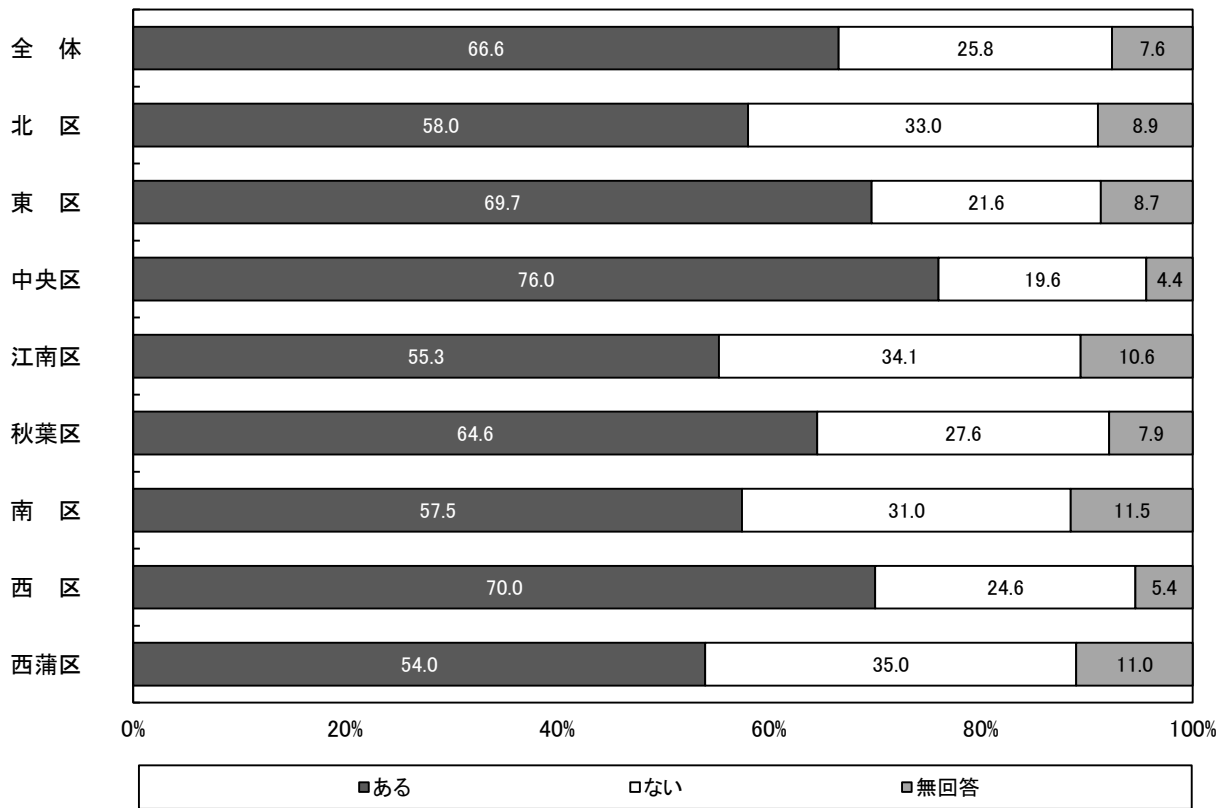
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「ある」の割合は、中央区（76.0%）が最も高く、西蒲区（54.0%）が最も低くなっている。

図 5.5-4 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

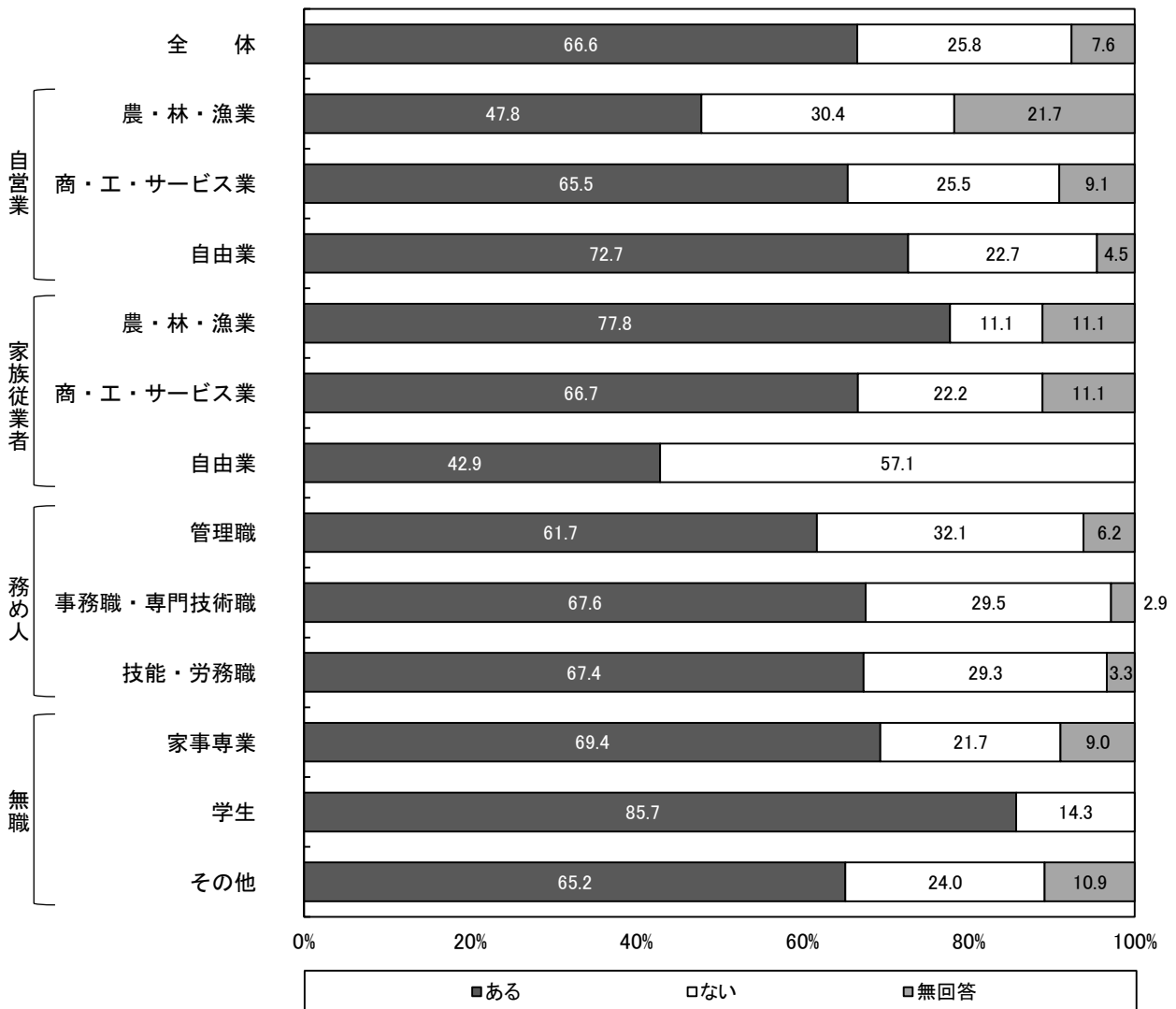
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.5-5 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（職業別）



全体	自営業			家族従業者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

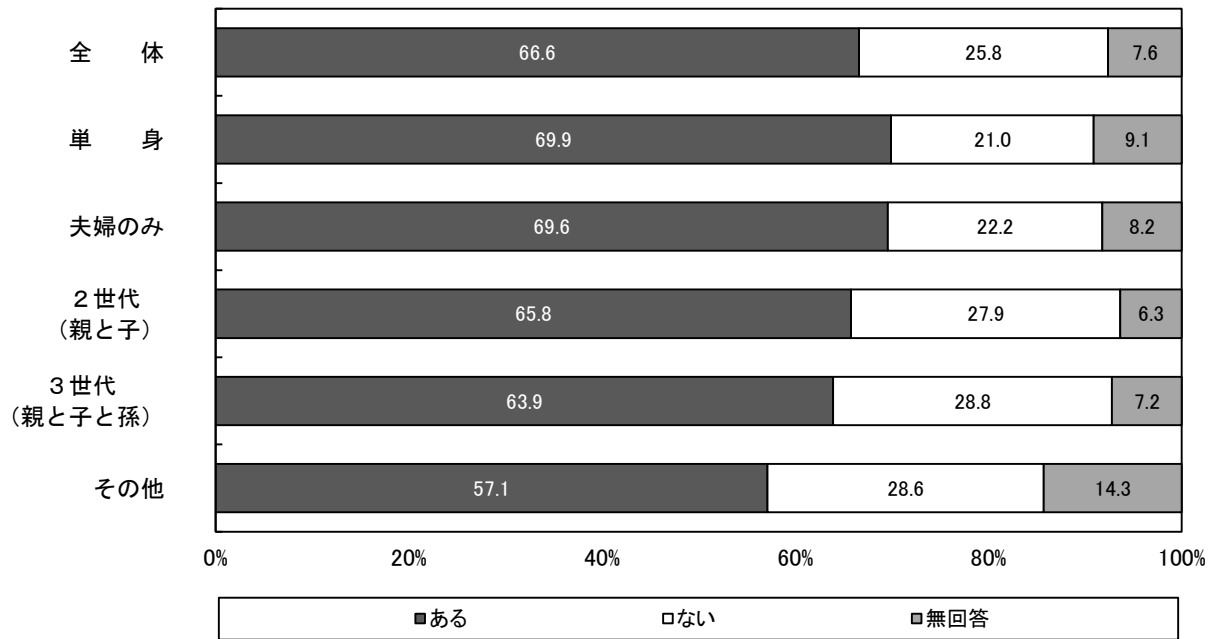
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ある」の割合は、単身（69.9%）、夫婦のみ（69.6%）で高く、約7割を占めた。

図 5.5-6 1週間に10分以上続けて歩くことの有無（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

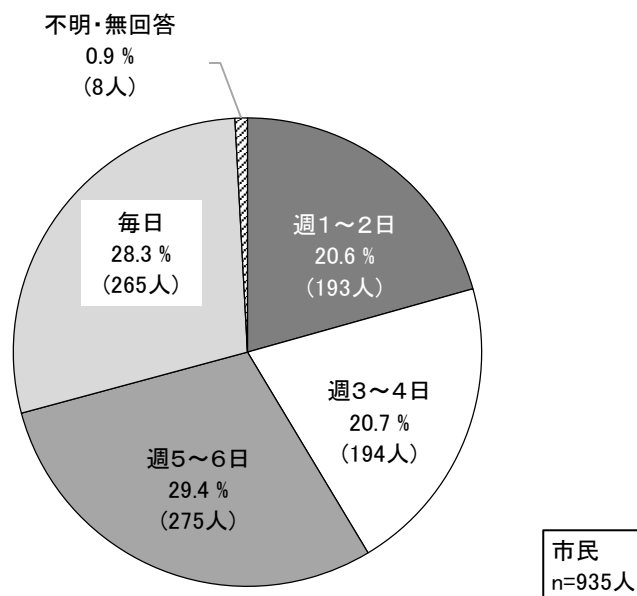
(6) 1週間に10分以上続けて歩く日数

問31 あなたは、平均的な1週間で、10分以上続けて歩くことは何日ありますか。
※ここで歩くとは、仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩など全てを含みます。(○は1つだけ)

3割弱が「週5～6日」1週間に10分以上続けて歩くことがあると回答

1週間に10分以上続けて歩く日数は、「週5～6日」と回答した人の割合が3割弱(29.4%)で最も多くなっている。以下、「毎日」(28.3%)、「週3～4日」(20.7%)、「週1～2日」(20.6%)となっている。

図 5.6 1週間に10分以上続けて歩く日数



【性別・年齢別】

「毎日」と回答した人の割合は、60歳代（33.0%）で最も高く、40歳代（21.6%）で最も低くなっている。

性別では、「週1～2日」の割合は、20歳代と70歳以上を除き、女性より男性で高くなっている。

図 5.6-2 1週間に10分以上続けて歩く日数（年齢別・全体）

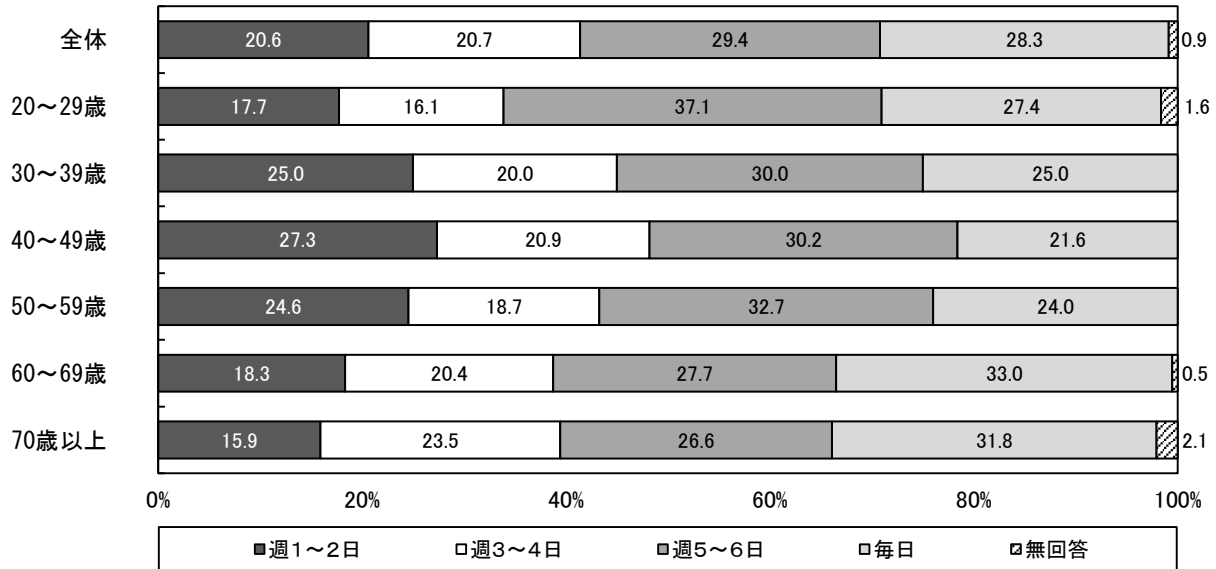
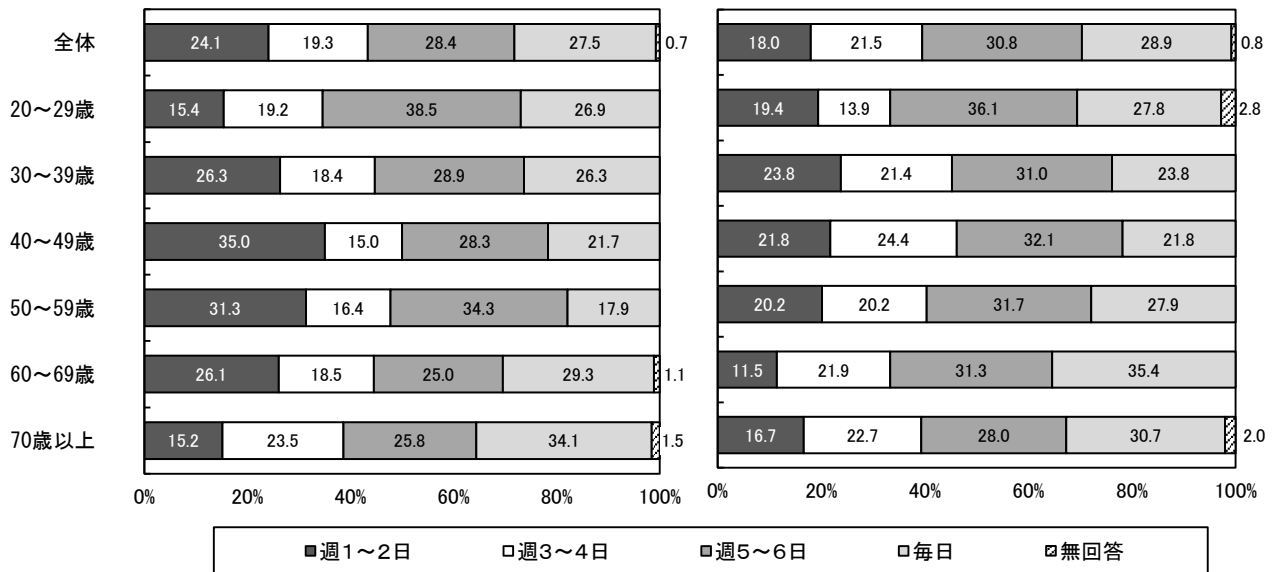


図 5.6-3 1週間に10分以上続けて歩く日数

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	935	62	80	139	171	191	289	3
男性	415	26	38	60	67	92	132	0
女性	506	36	42	78	104	96	150	0

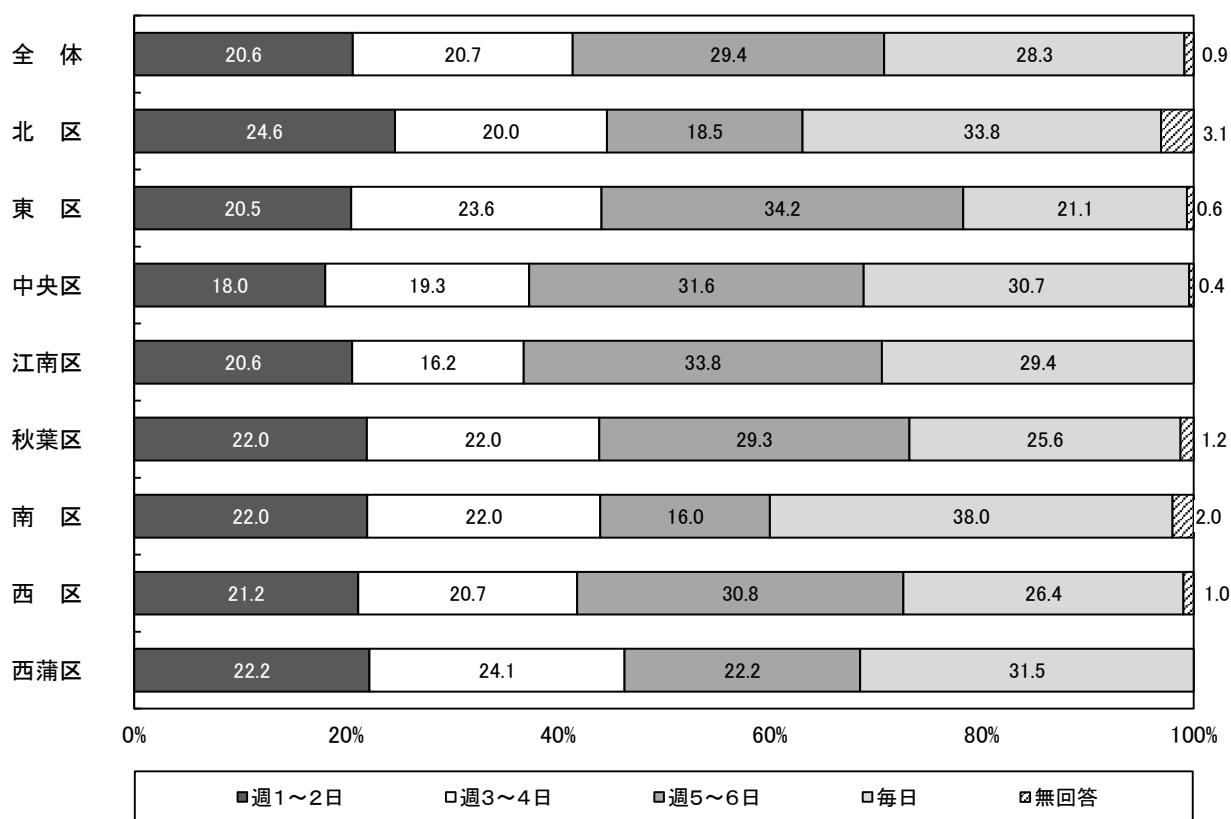
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「毎日」の割合は、南区（38.0%）が最も高くなっている。

図 5.6-4 1週間に10分以上続けて歩く日数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区
935	65	161	244	68	82	50	208	54

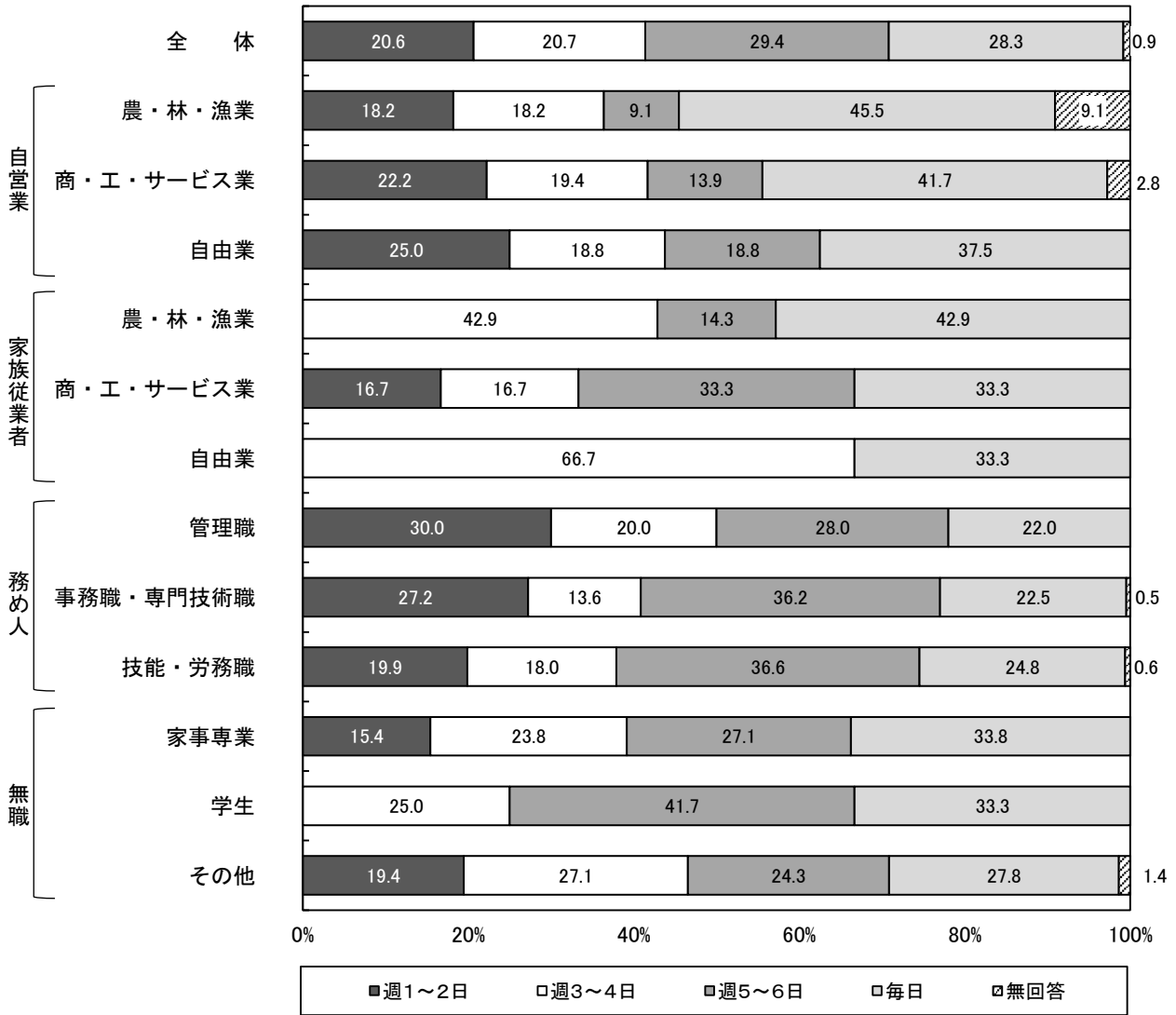
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.6-5 1週間に10分以上続けて歩く日数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
935	11	36	16	7	6	3

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
50	213	161	240	12	144	36

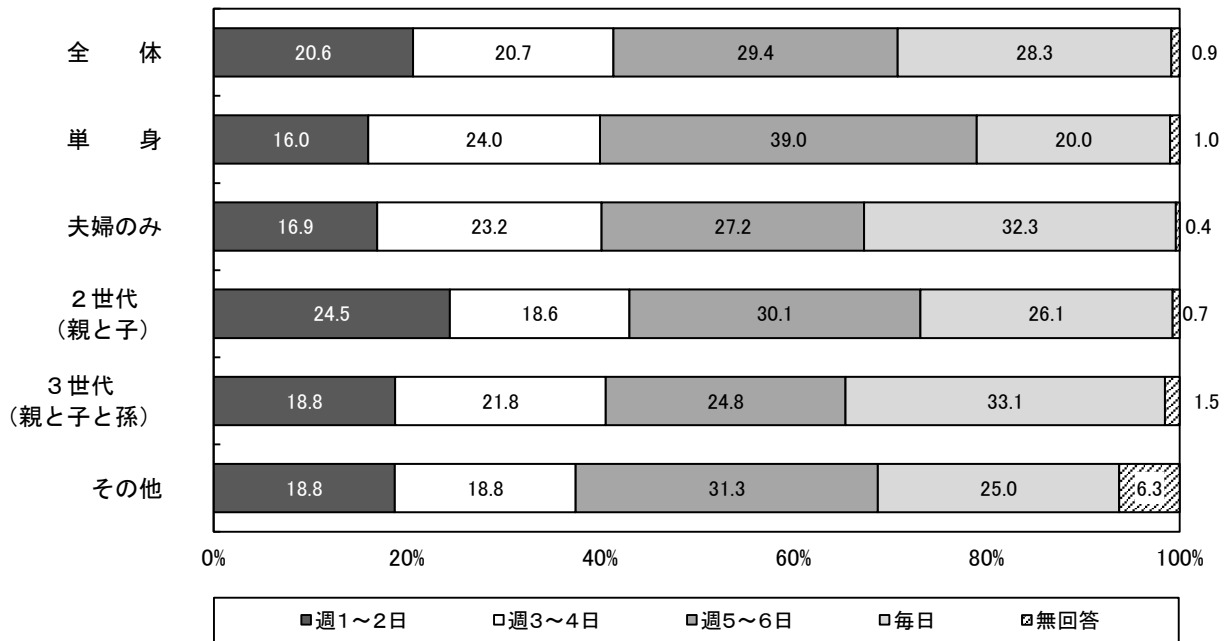
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「毎日」の割合は、3世代（33.1%）で最も高く、3割を超えている。

図 5.6-6 1週間に10分以上続けて歩く日数（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
935	100	254	425	133	16	7

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

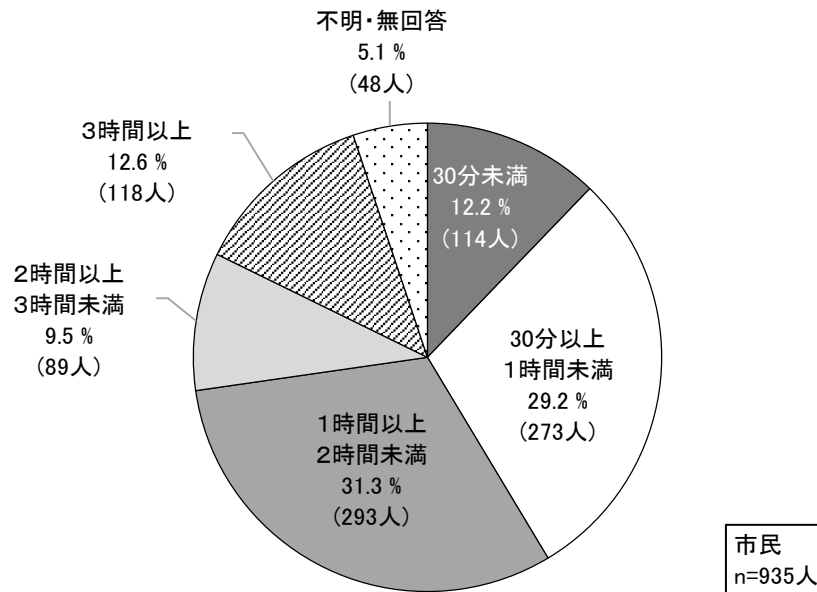
(7) 1日の合計歩行時間

問31-1 そのような日には、通常、1日合計してどのくらいの時間歩きますか。

「1時間以上2時間未満」が3割強で最も多い

1日の合計歩行時間は、「1時間以上2時間未満」が3割強（31.3%）で最も多く、以下「30分以上1時間未満」（29.2%）、「3時間以上」（12.6%）、「30分未満」（12.2%）となっている。

図 5.7 1日の合計歩行時間



【性別・年齢別】

30歳代では、「30分未満」と回答した割合が2割を超えているが、「3時間以上」が2割弱で、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

性別では、「1時間以上2時間未満」の割合が、すべての年代で男性が女性を上回っている。

図 5.7-2 1週間に10分以上続けて歩く日数（年齢別・全体）

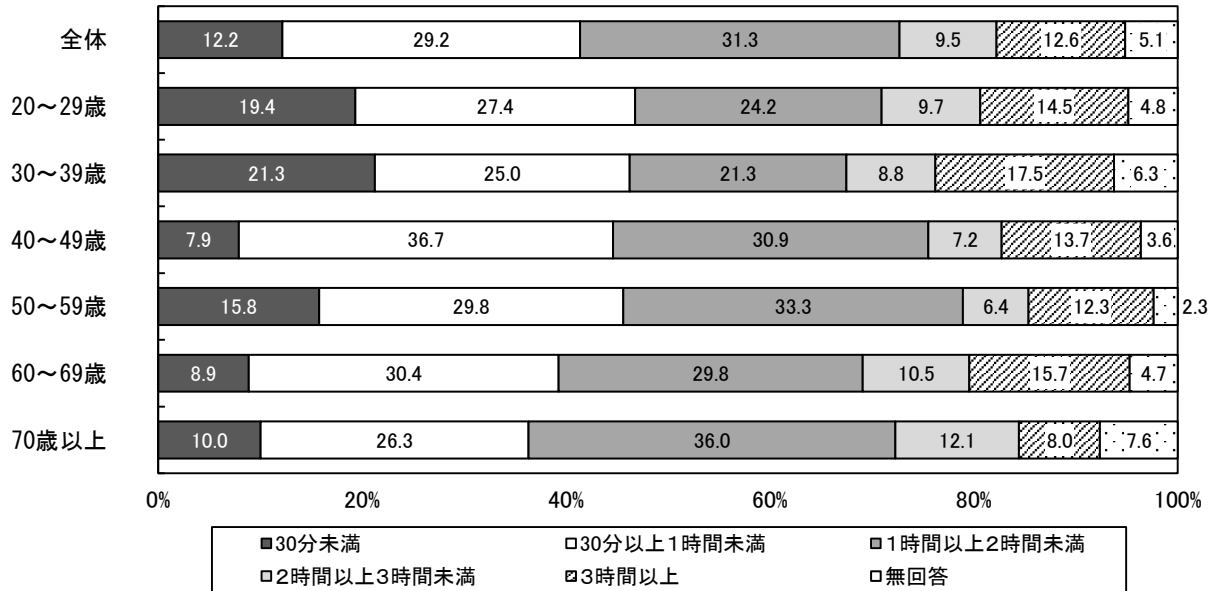
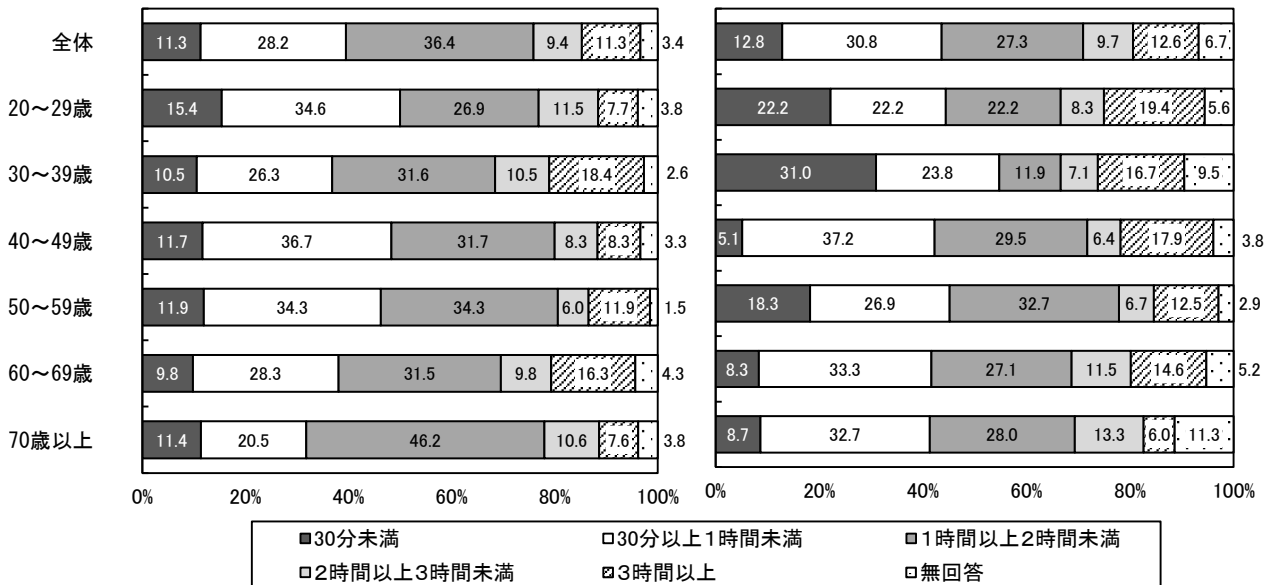


図 5.7-3 1週間に10分以上続けて歩く日数

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	935	62	80	139	171	191	289	3
男性	415	26	38	60	67	92	132	0
女性	506	36	42	78	104	96	150	0

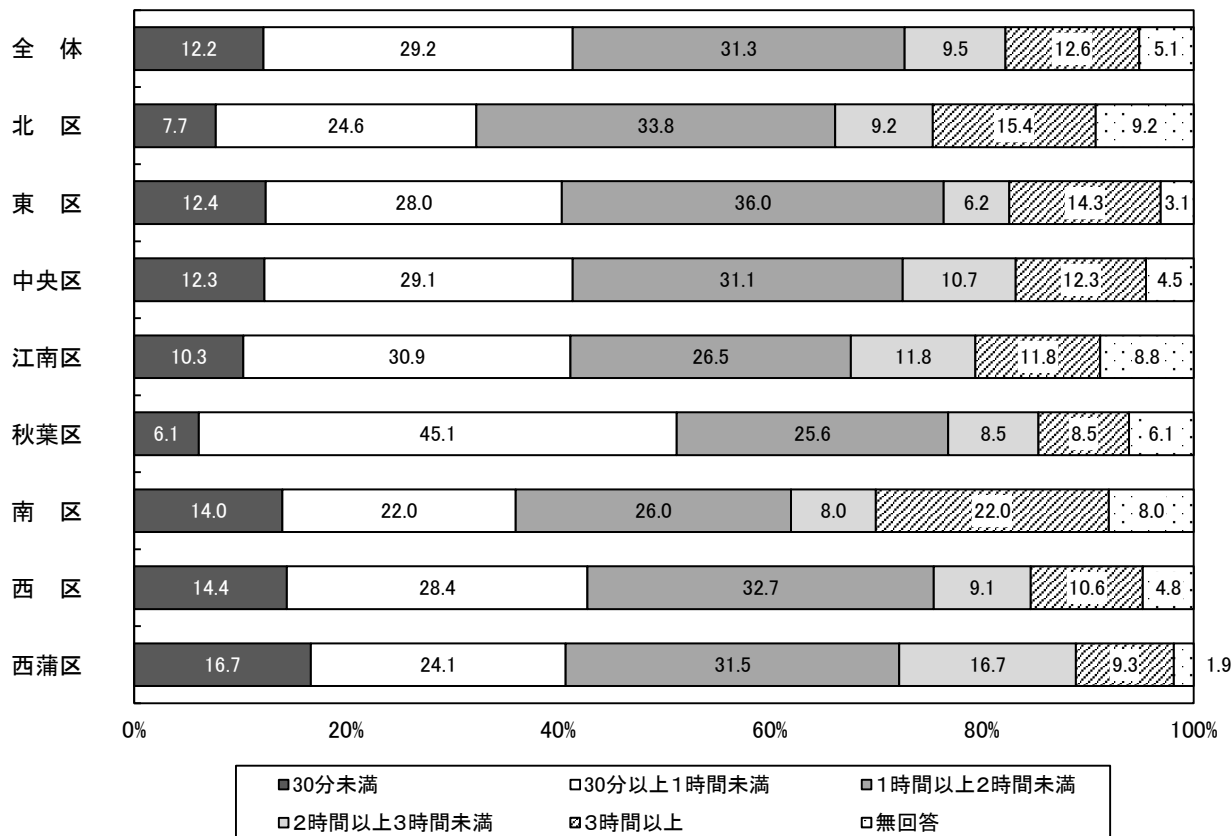
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「3時間以上」の割合が南区(22.0%)で最も高く、「2時間以上3時間未満」の割合が西蒲区(16.7%)で最も高くなっている。秋葉区では、「30分未満」「30分以上1時間未満」を合わせた割合が、5割を超えている。

図 5.7-4 1週間に10分以上続けて歩く日数(地区別)



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
935	65	161	244	68	82	50	208	54	3

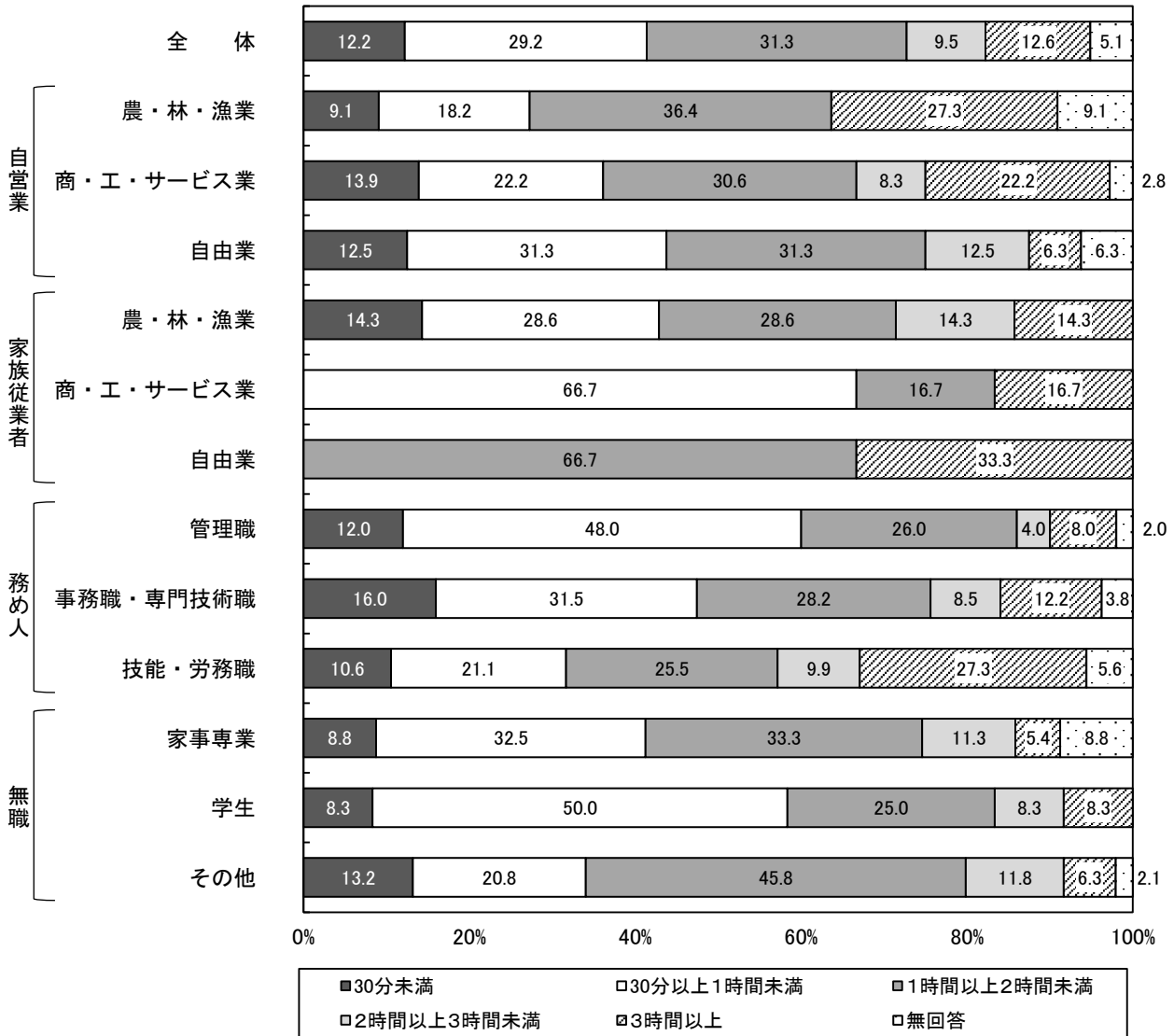
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.7-5 1週間に10分以上続けて歩く日数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
935	11	36	16	7	6	3

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
50	213	161	240	12	144	36

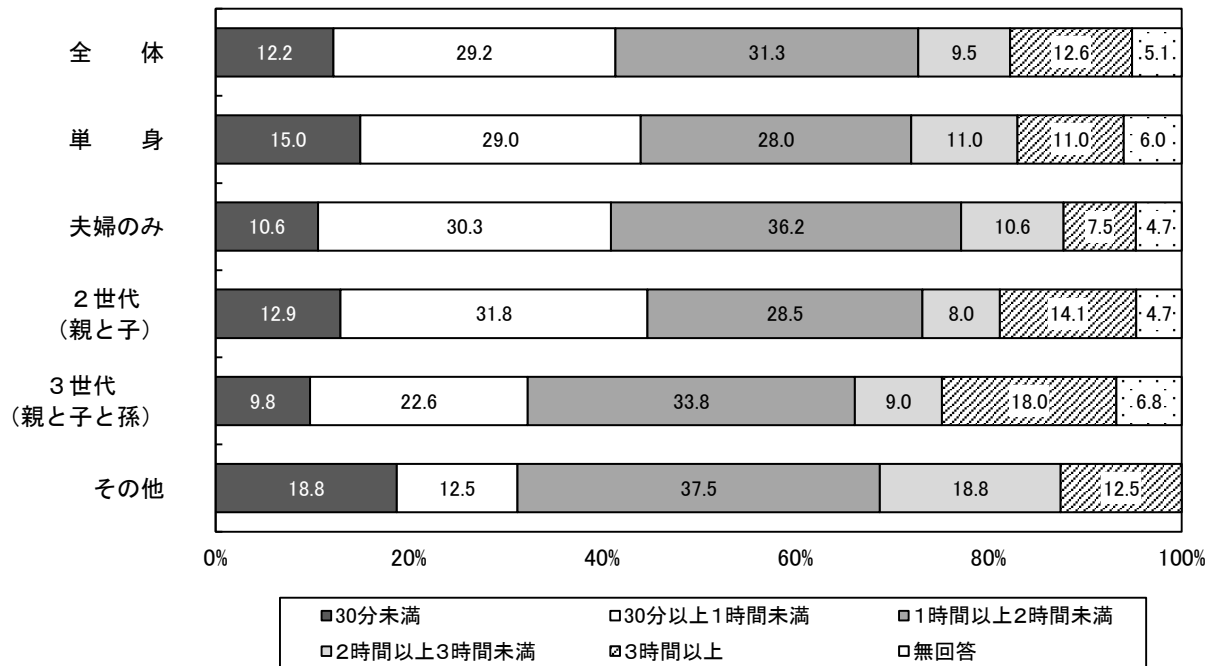
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「3時間以上」の割合は、3世代（18.0%）で最も高くなっている。

図 5.7-6 1週間に10分以上続けて歩く日数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
935	100	254	425	133	16	7

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(8) 1日60分くらいの運動習慣

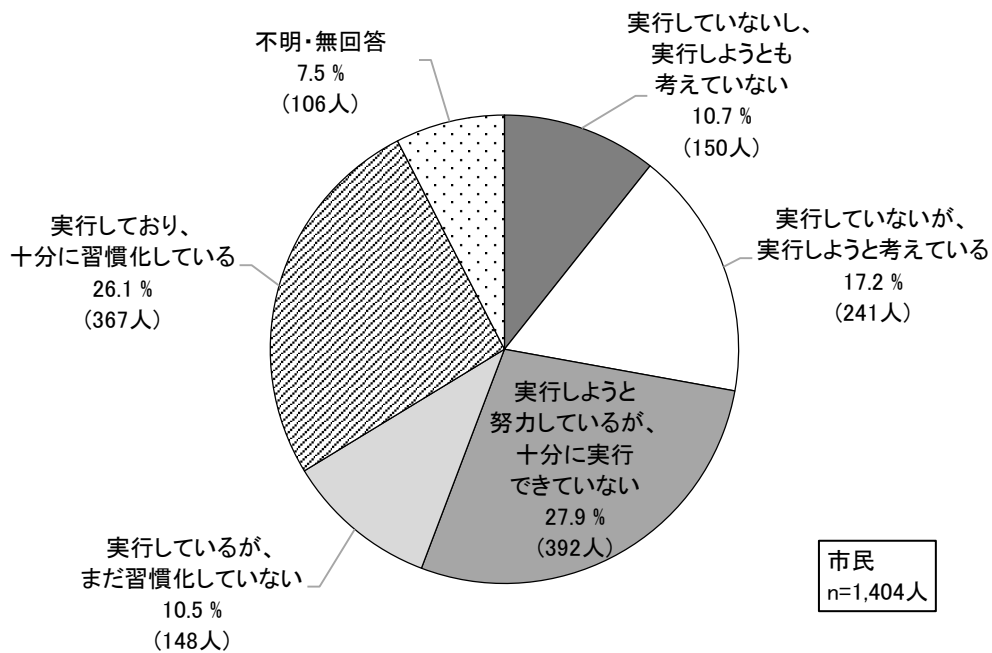
問32 「健康維持のためには1日に60分くらい体を動かすような生活をする事」が推奨されています。あなたはこれを実行していますか。(〇は1つだけ)
 ※「体を動かす」とは、日常生活における労働、家事、通勤・通学などを含みます。

4割弱が1日60分くらいの運動を実行していると回答

1日60分くらいの運動習慣については、「実行しており、十分に習慣化している」(26.1%)と「実行しているが、まだ習慣化していない」(10.5%)と回答した人を合わせた実行している割合は4割弱(36.7%)となっている。

一方、「実行していないし、実行しようとも考えていない」(10.7%)、「実行していないが、実行しようと考えている」(17.2%)、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」(27.9%)を合わせた実行していない割合は6割弱(55.8%)となっている。

図5.8 1日60分くらいの運動習慣



【性別・年齢別】

「実行しているが、まだ習慣化していない」と「実行しており、十分に習慣化している」を合わせた割合は20歳代で最も高くなっている。

性別では、「実行しており、十分に習慣化している」の割合が20歳代男性(45.7%)で突出している。

図 5.8-2 1日60分くらいの運動習慣(年齢別・全体)

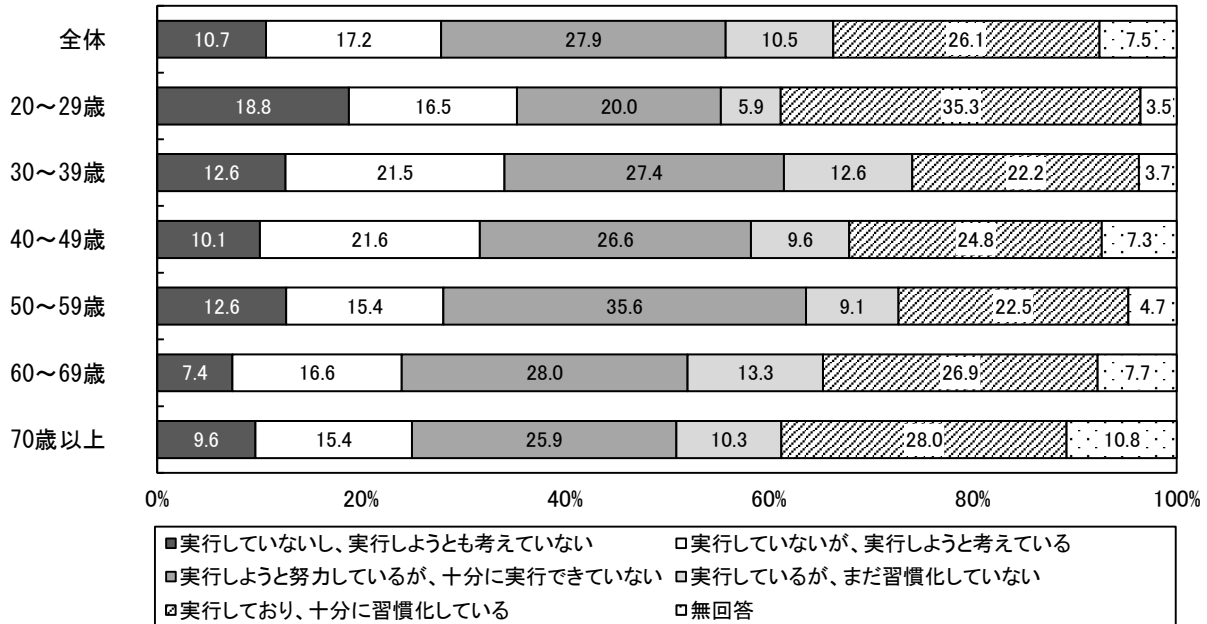
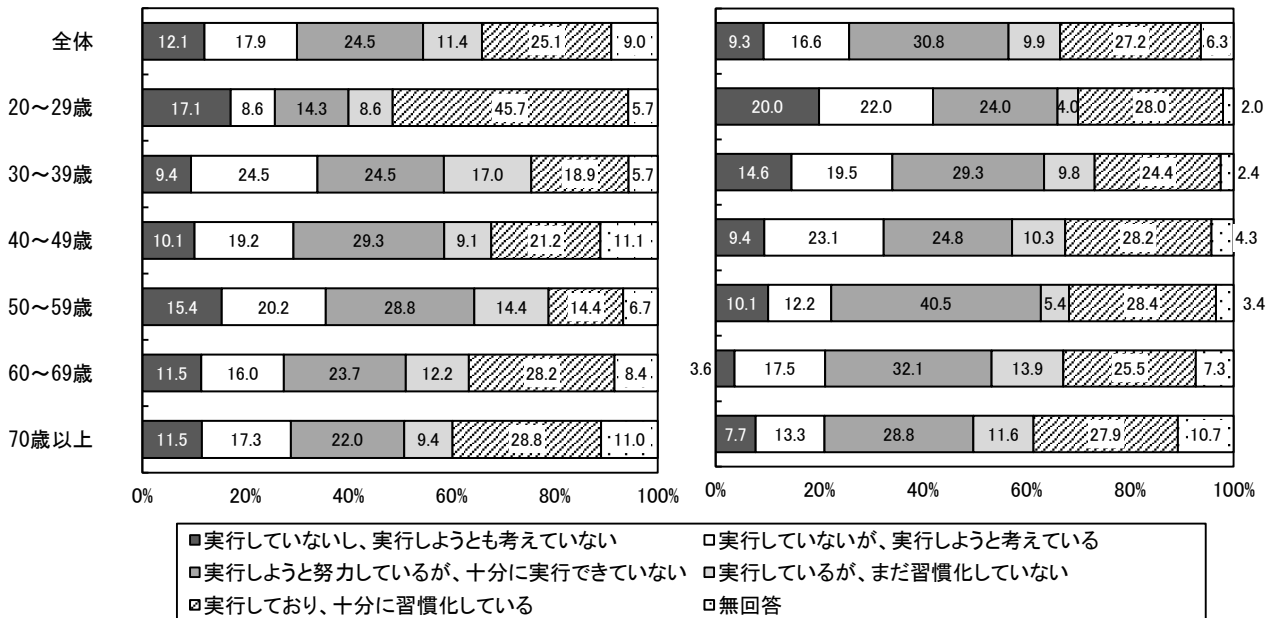


図 5.8-3 1日60分くらいの運動習慣

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

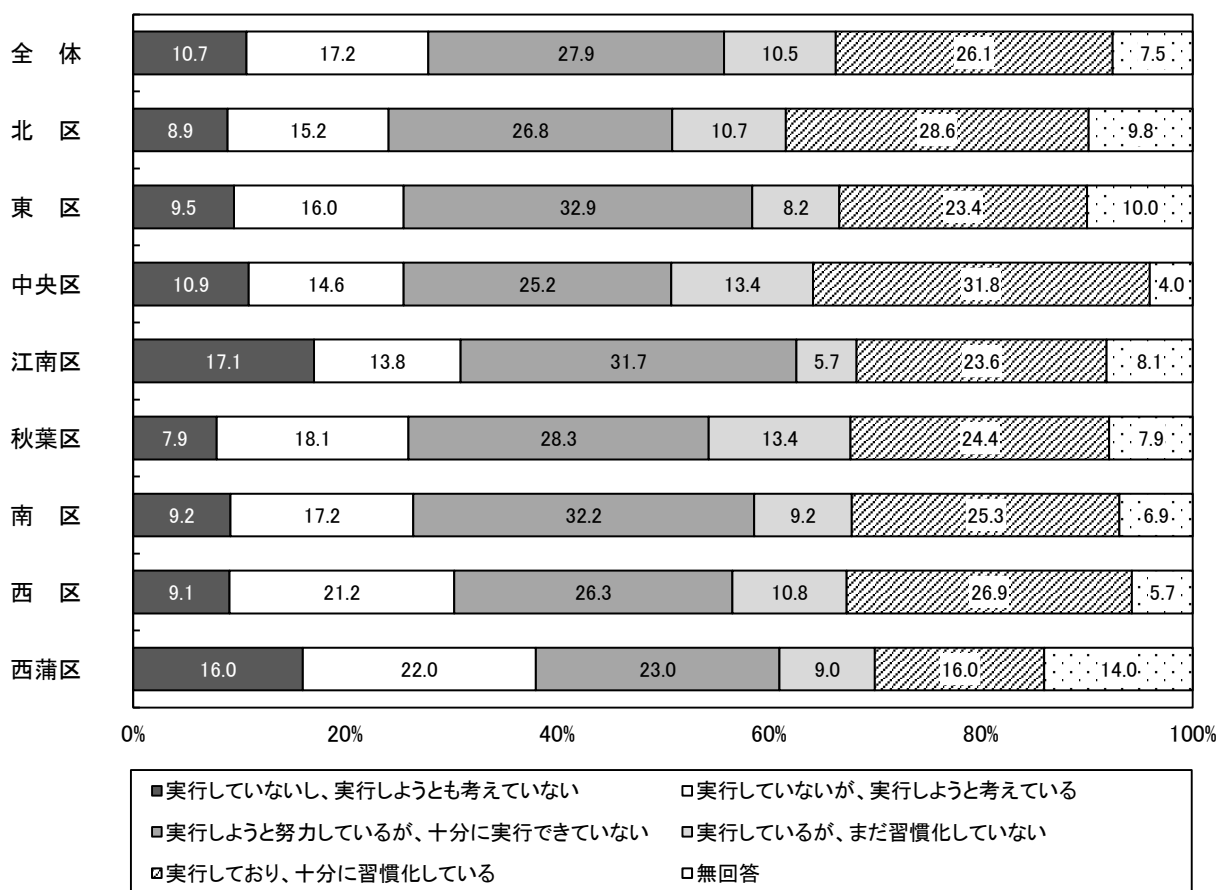
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「実行しており、十分に習慣化している」と回答した人の割合は、中央区で最も高く、3割を超えている。北区、中央区、西区では、「実行しており、十分に習慣化している」と回答した割合が最も高く、その他の地区では、「実行しようとして努力しているが、十分に実行できていない」と回答した割合が最も高くなっている。

図 5.8-4 1日60分くらいの運動習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

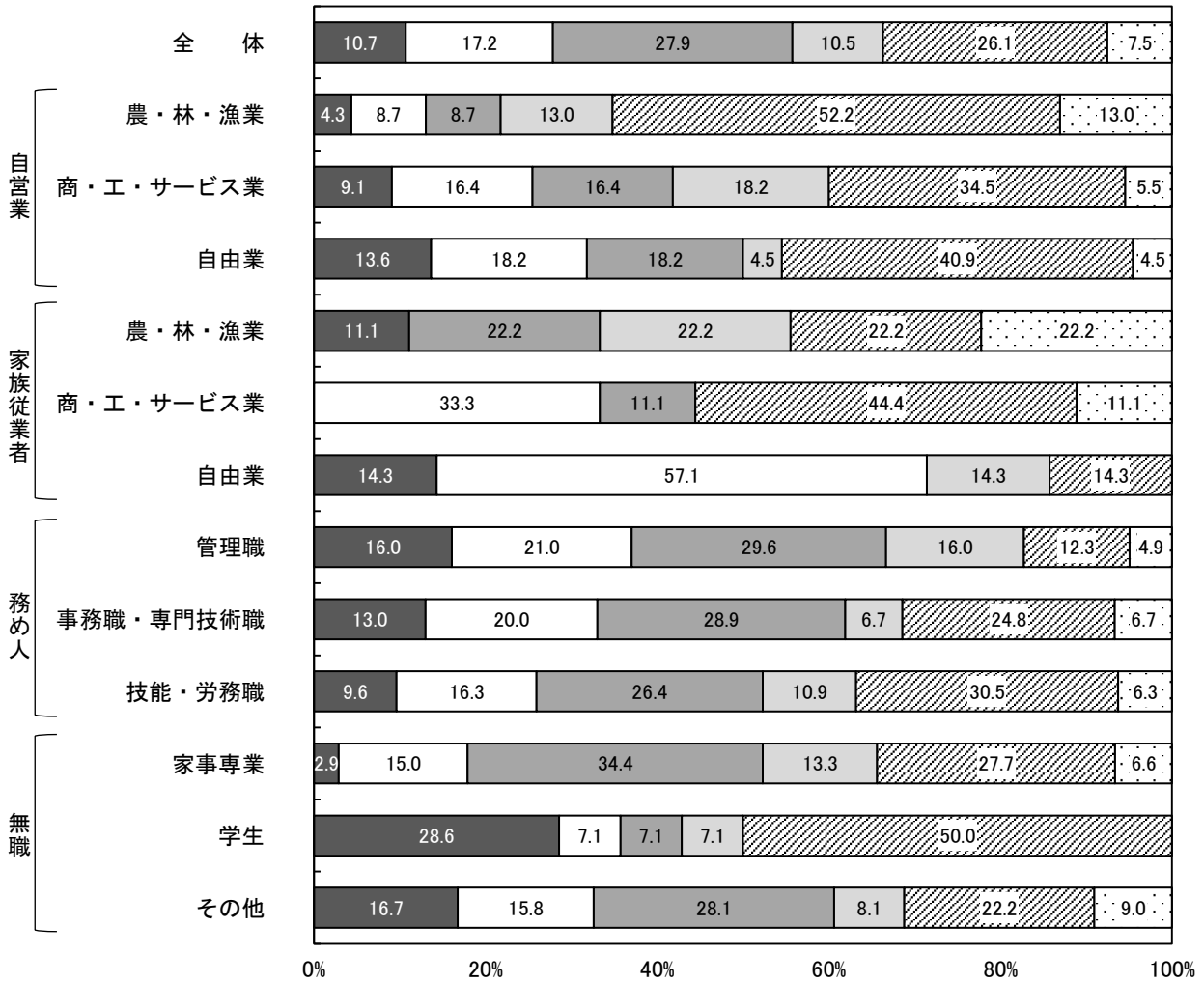
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.8-5 1日60分くらいの運動習慣（職業別）



実行していないし、実行しようとも考えていない 実行していないが、実行しようと考えている
 実行しようとするが、十分に実行できていない 実行しているが、まだ習慣化していない
 実行しており、十分に習慣化している 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

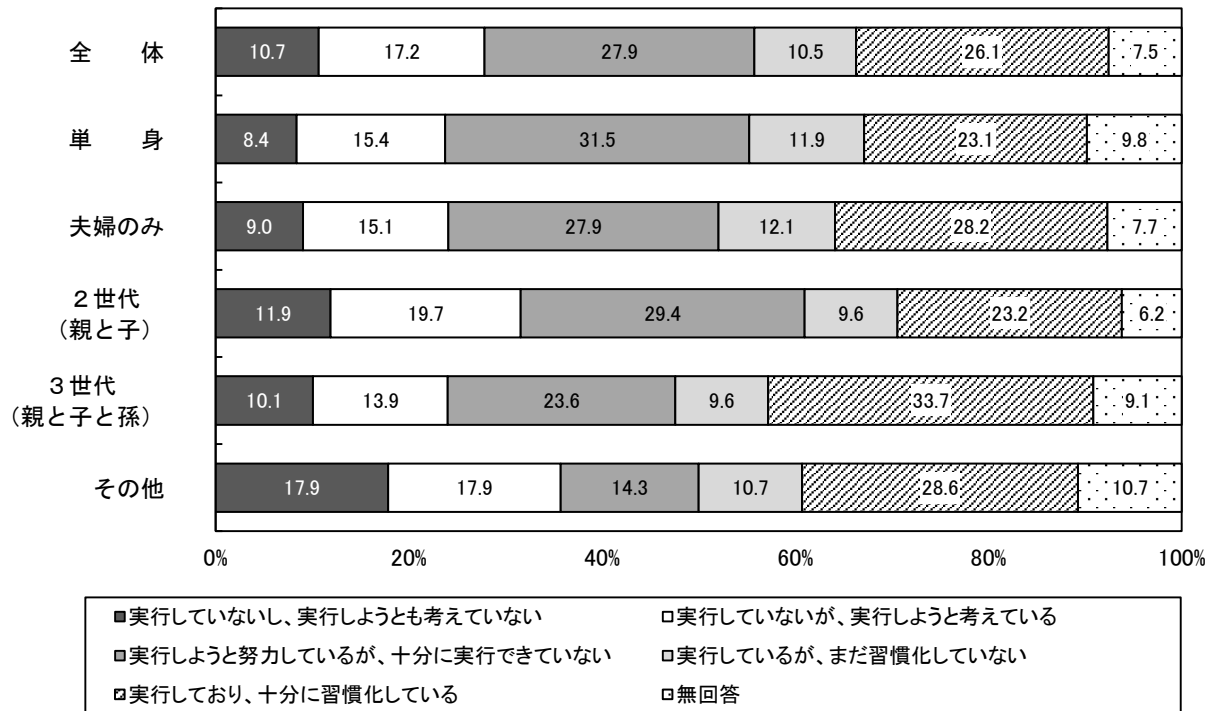
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

夫婦のみ、3世代、その他では、「実行しており、十分に習慣化している」と回答した割合が最も高く、単身、2世代では、「実行しようとしているが、十分に実行できていない」と回答した割合が最も高くなっている。

図 5.8-6 1日60分くらいの運動習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

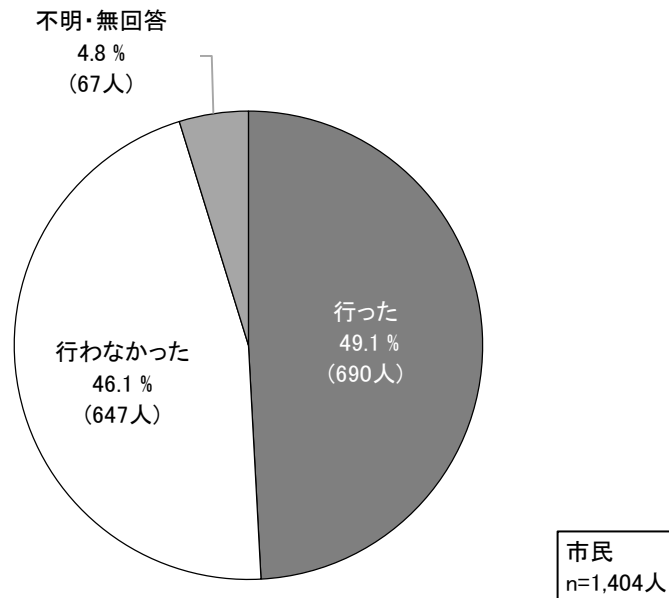
(9) この1年間での運動の有無

問33 この1年間に運動やスポーツを行いましたか。

5割弱が「行った」と回答

この1年間に運動やスポーツを「行った」と回答した人の割合は5割弱（49.1%）となっている。一方、「ない」と回答した人の割合も5割弱（46.1%）となっている。

図5.9 この1年間での運動の有無



【性別・年齢別】

「行った」と回答した人の割合は、20歳代（72.9%）で最も高く、突出している。

性別では、「行った」と回答した人の割合は、70歳以上を除き、女性より男性で高くなっている。女性では、20歳代、70歳以上を除き、「行った」より「行わなかった」と回答した割合の方が高い。

図 5.9-2 1年間の運動の有無（年齢別・全体）

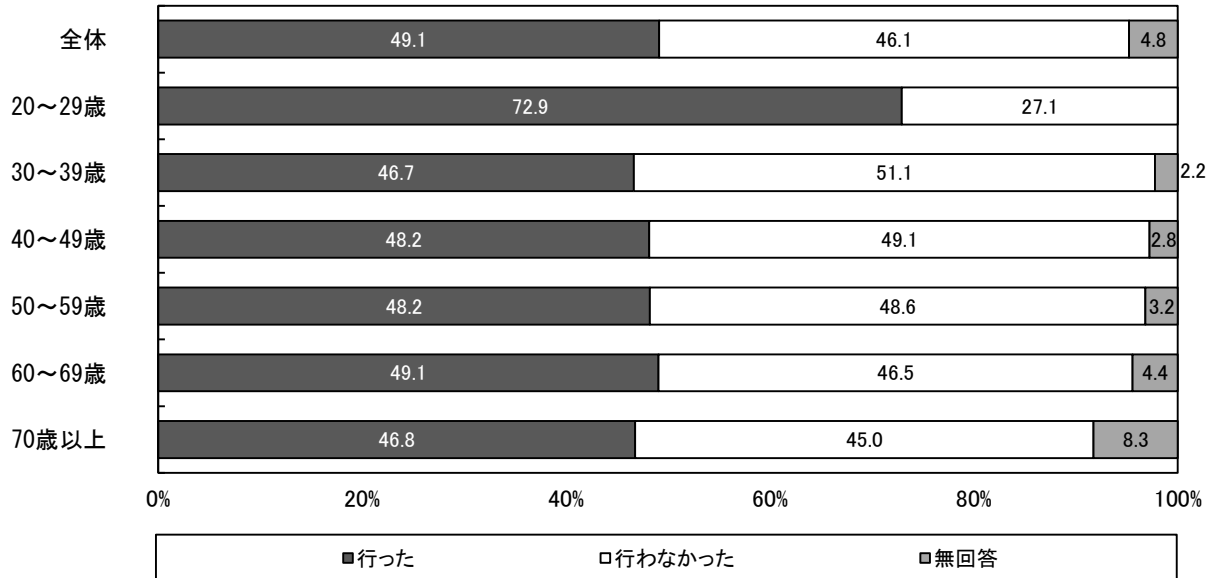
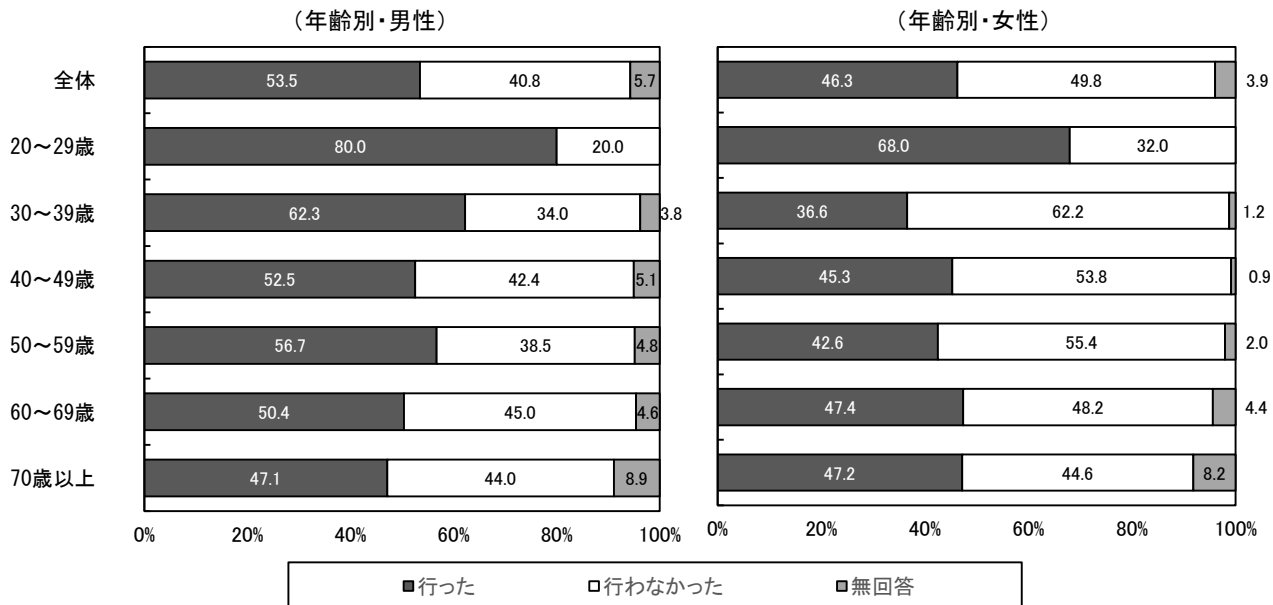


図 5.9-3 1年間の運動の有無



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

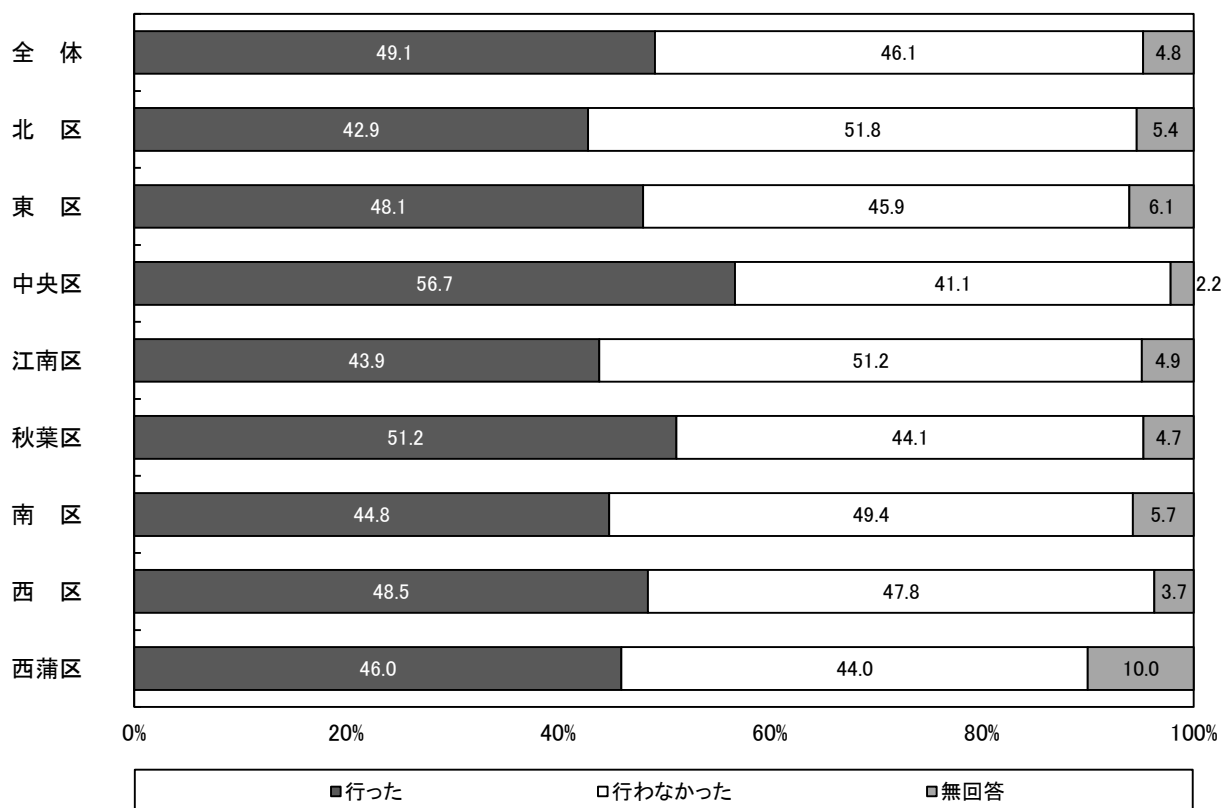
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「行った」と回答した人の割合は、中央区（56.7%）で最も高く、秋葉区（51.2%）と共に半数を超えている。北区、江南区、南区では、「行った」より「行かなかった」と答えた割合の方が高い。

図 5.9-4 1年間の運動の有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

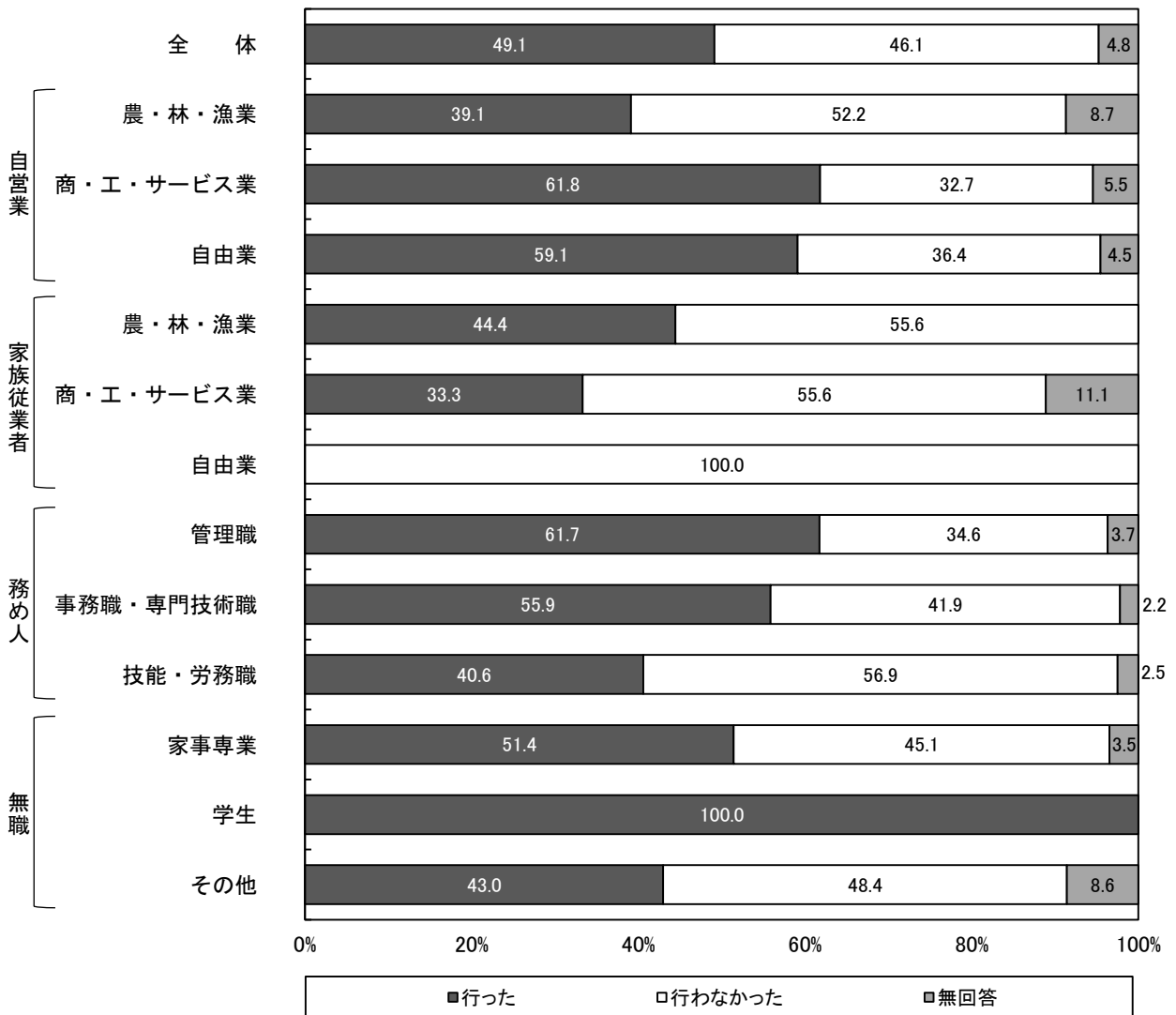
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.9-5 1年間の運動の有無（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

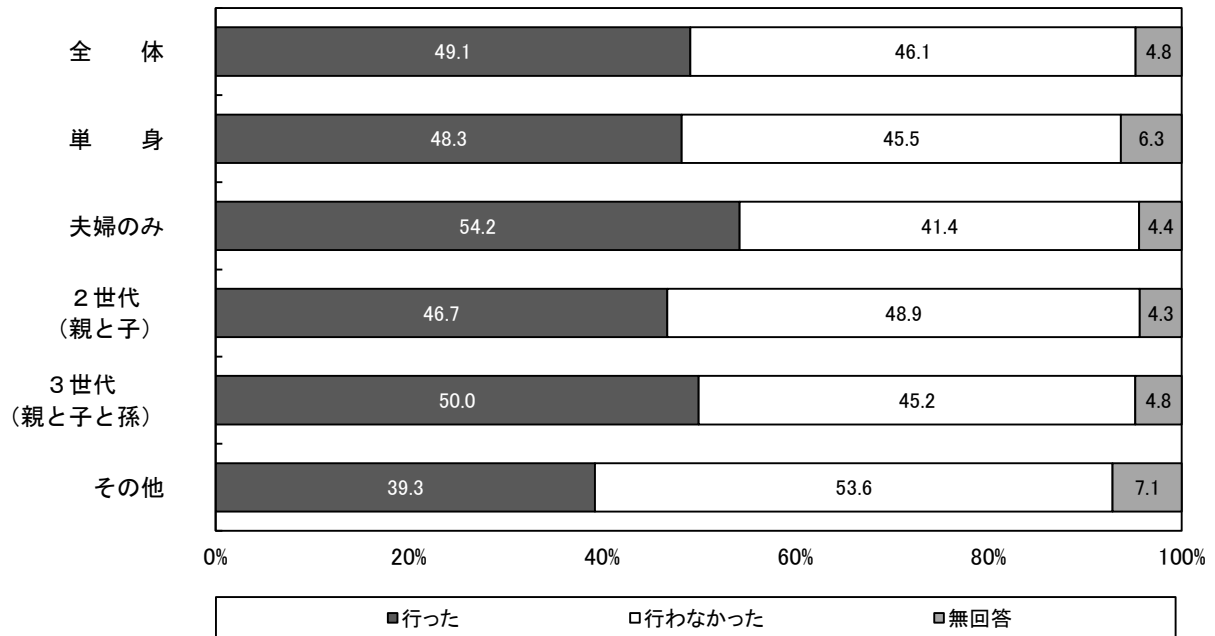
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「行った」と回答した人の割合は、夫婦のみ（54.2%）で最も高くなっている。2世代、その他では、「行った」より「行かなかった」と答えた割合の方が高くなっている。

図 5.9-6 1年間の運動の有無（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

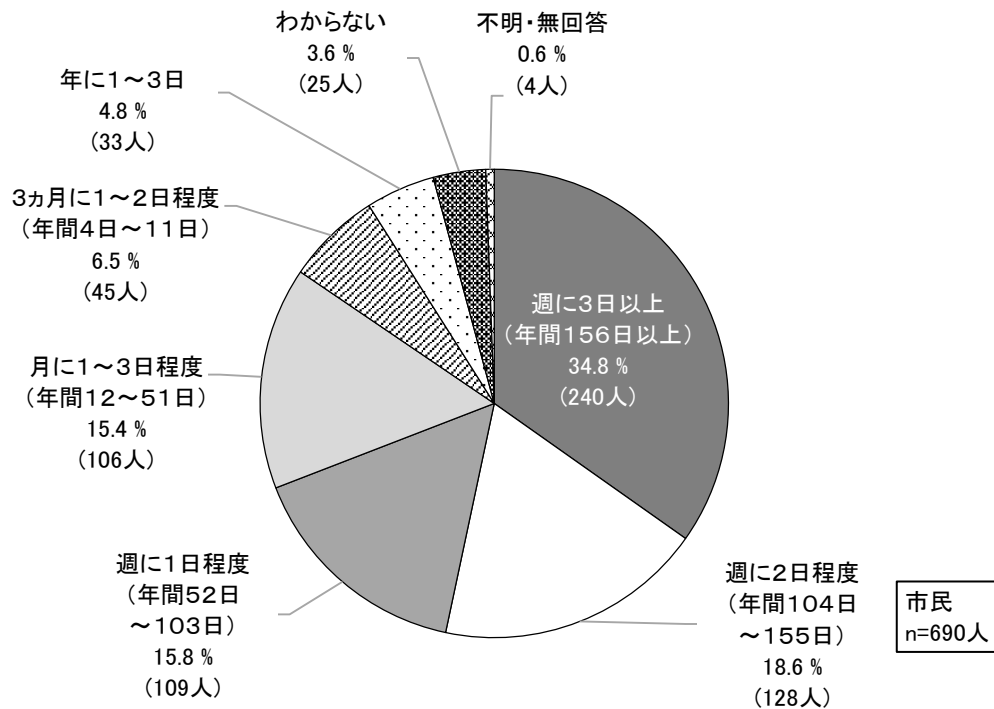
(10) この1年間での運動日数

問33-1 その運動やスポーツ、散歩等を行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。

7割弱が週に1日以上運動を行ったと回答

「週に3日以上(年間156日以上)」(34.8%)、「週に2日程度(年間104日～155日)」(18.6%)、「週に1日程度(年間52日～103日)」(15.8%)と回答した人を合わせた、週に1日以上運動を行った人の割合は7割弱(69.1%)となっている。

図 5.10 この1年間での運動日数



【性別・年齢別】

「週に3日以上」と回答した人の割合は、70歳以上で最も高く5割を超えている。30歳代（15.9%）では最も低い。

性別では、20歳代、70歳以上の年代で「週3日以上」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

図 5.10-2 1年間の運動日数（年齢別・全体）

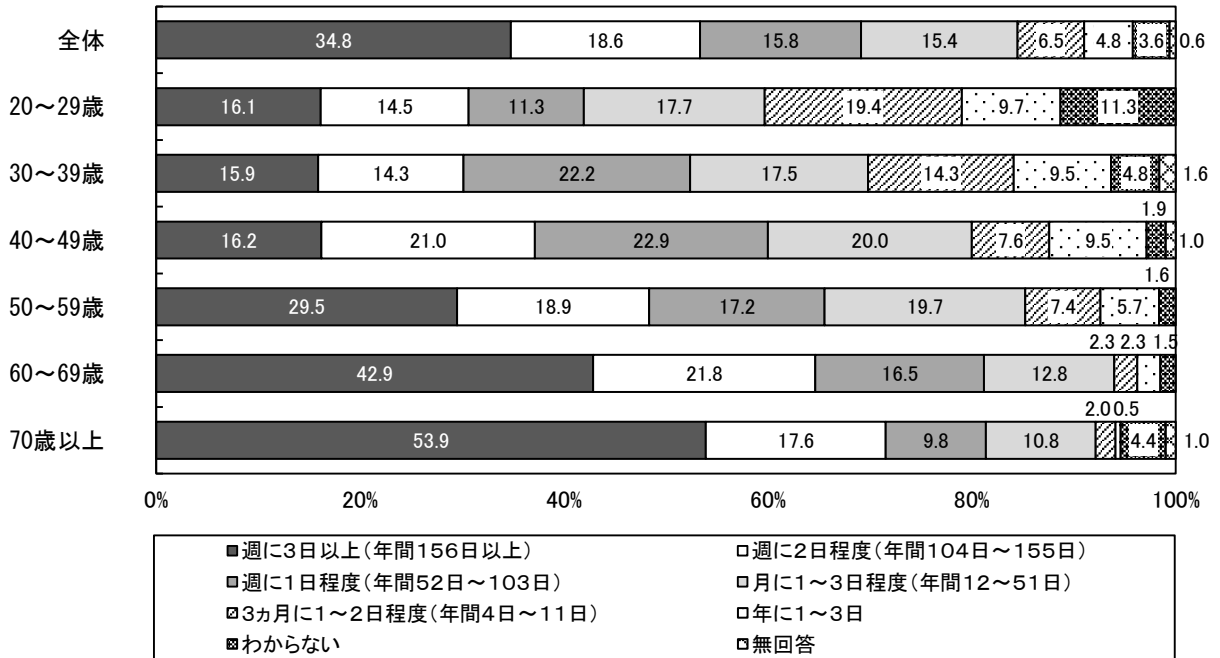
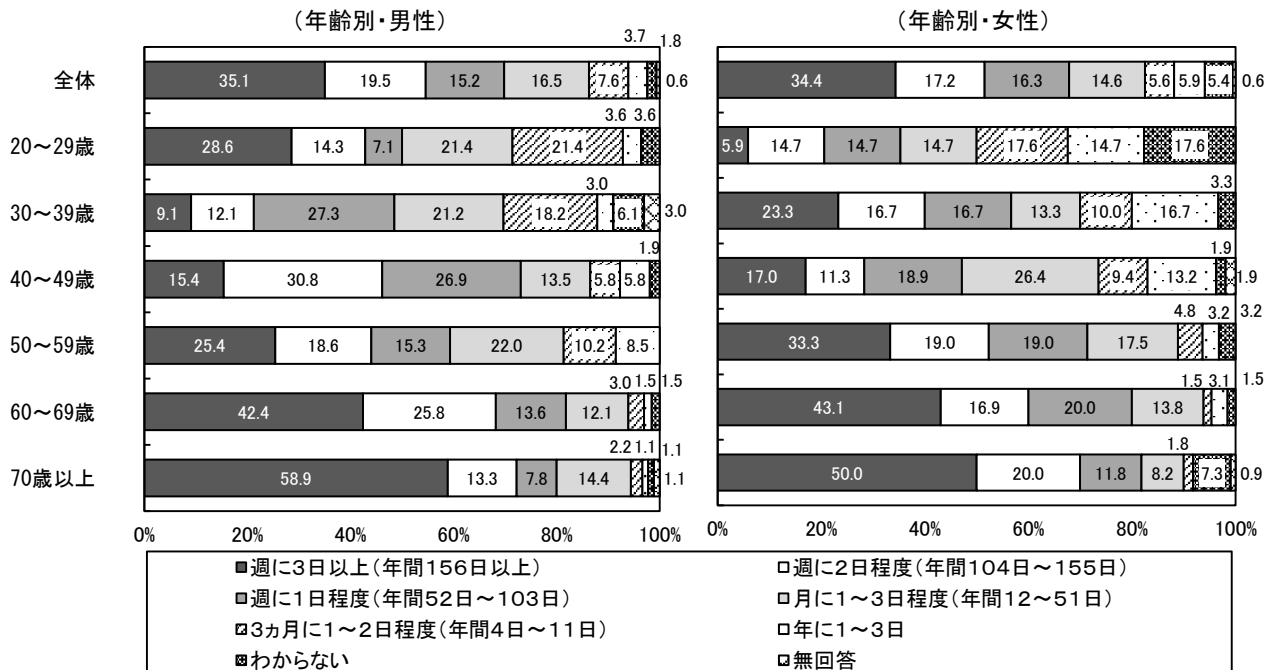


図 5.10-3 1年間の運動日数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	690	62	63	105	122	133	204	1
男性	328	28	33	52	59	66	90	0
女性	355	34	30	53	63	65	110	0

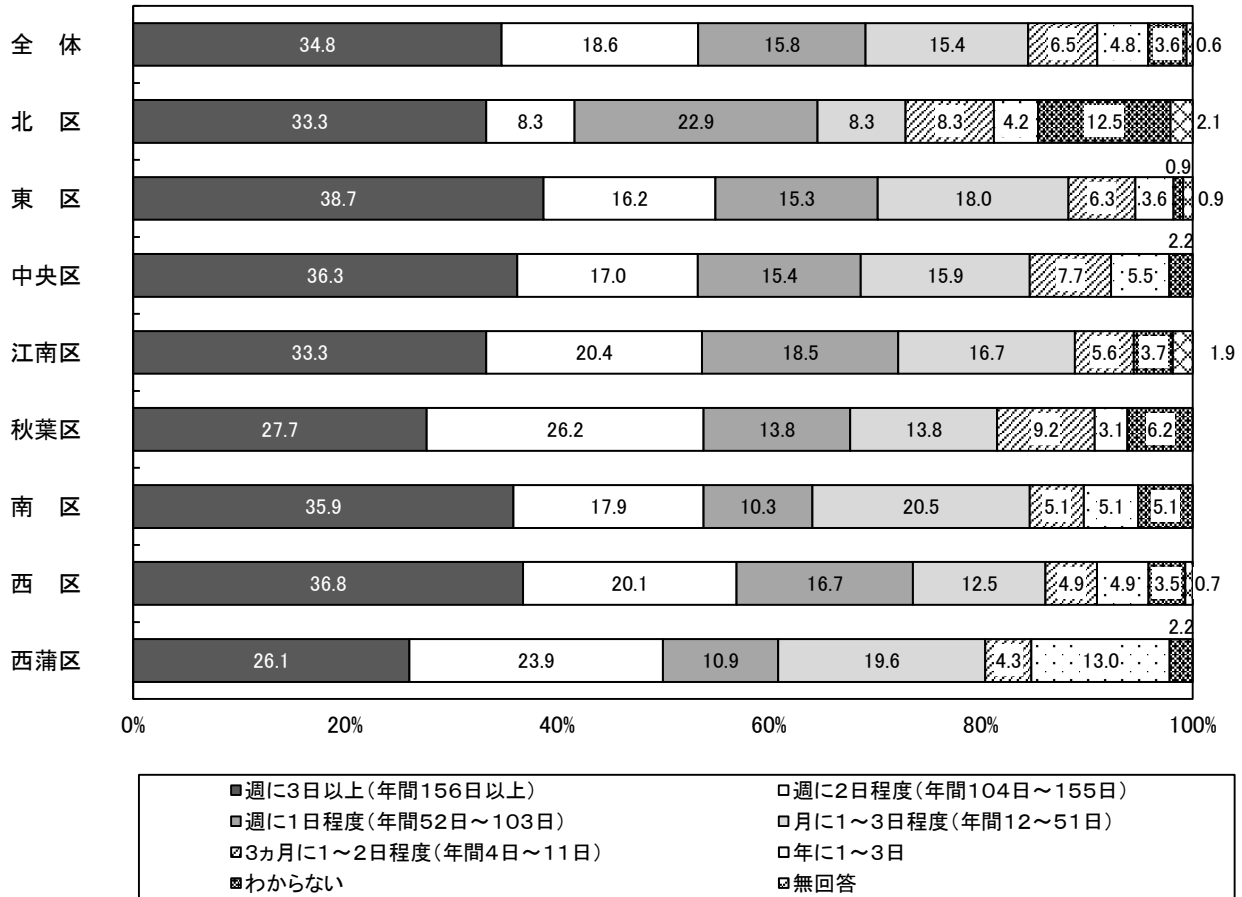
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「週に3日以上」「週に2日程度」「週に1日程度」を合わせた、週に1日以上運動を行った人の割合は、西区（73.6%）で最も高くなっている。

図 5.10-4 1年間の運動日数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
690	48	111	182	54	65	39	144	46	1

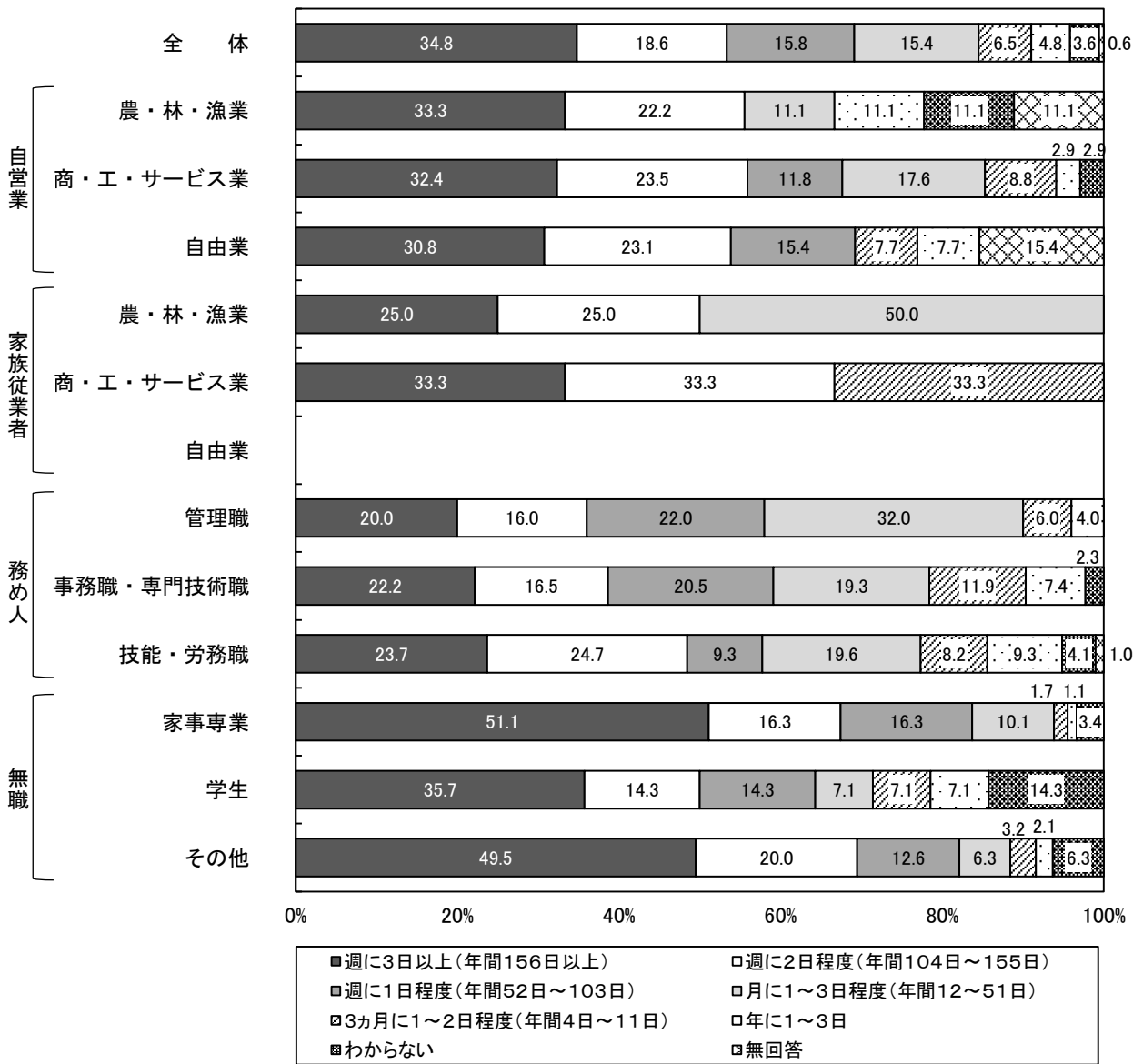
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.10-5 1年間の運動日数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
690	9	34	13	4	3	0

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
50	176	97	178	14	95	17

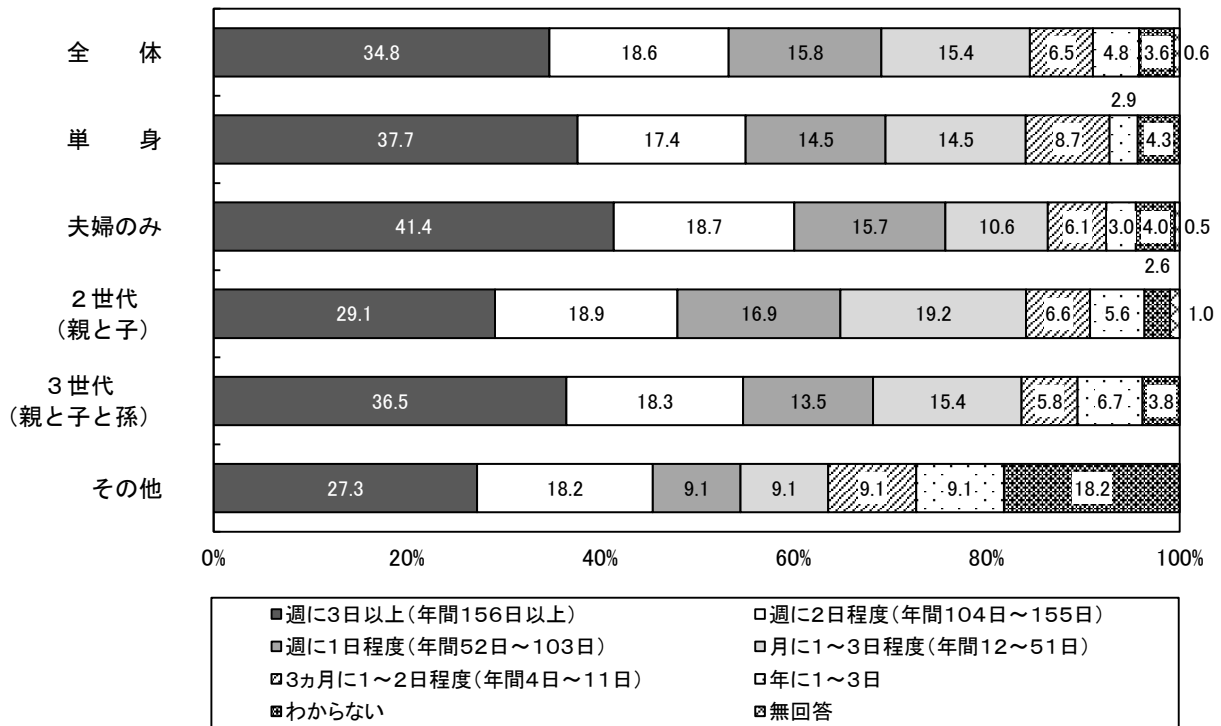
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「週に3日以上」と回答した人の割合は、夫婦のみ（41.4%）で最も高くなっている。

図 5.10-6 1年間の運動日数（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
690	69	198	302	104	11	6

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

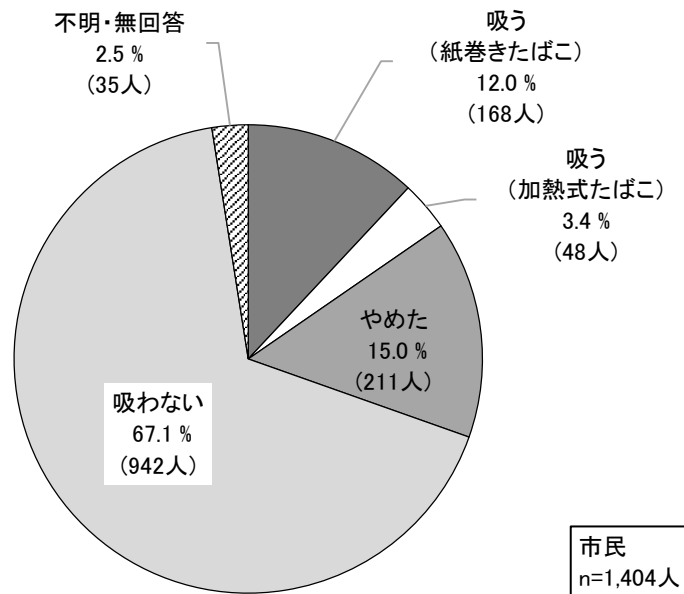
(11) 喫煙習慣

問34 あなたはたばこ（加熱式たばこも含む）を吸いますか。（○は1つだけ）

8割強が喫煙をしていないと回答

「やめた」(15.0%)、「吸わない」(67.1%)と回答した人を合わせた、喫煙をしていない人の割合は8割強(82.1%)となっている。

図 5.11 喫煙習慣



【性別・年齢別】

「やめた」「吸わない」と回答した人の割合は、各年代で7割を超えている。一方、「吸う」と回答した人の割合は40歳代で高く、2割弱となっている。

性別では、各年代とも「吸う」の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

図 5.11-2 喫煙習慣（年齢別・全体）

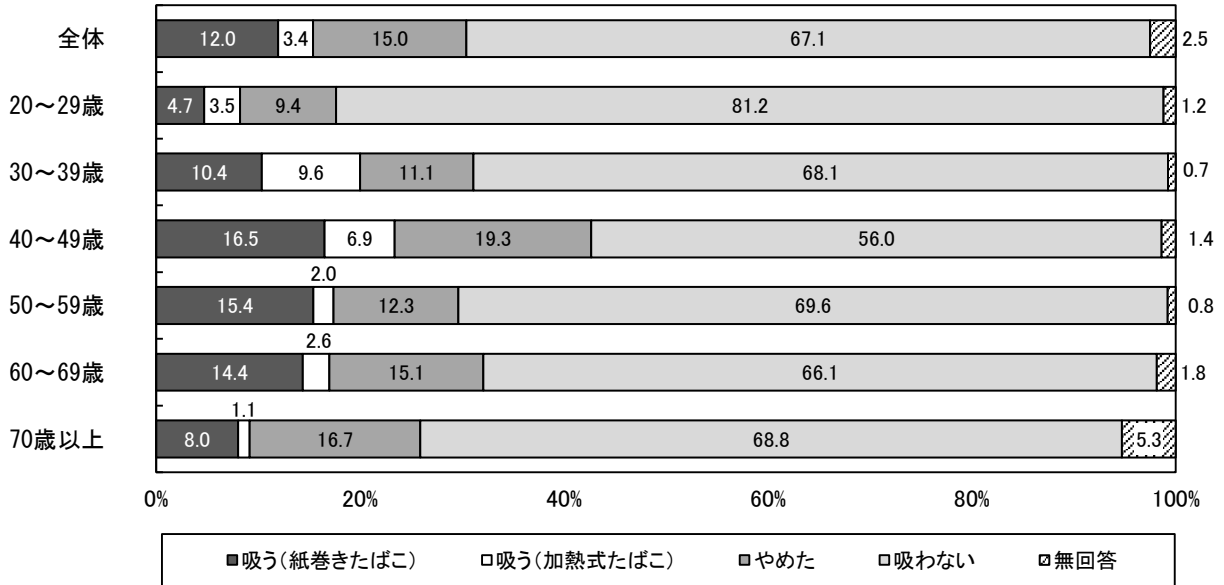
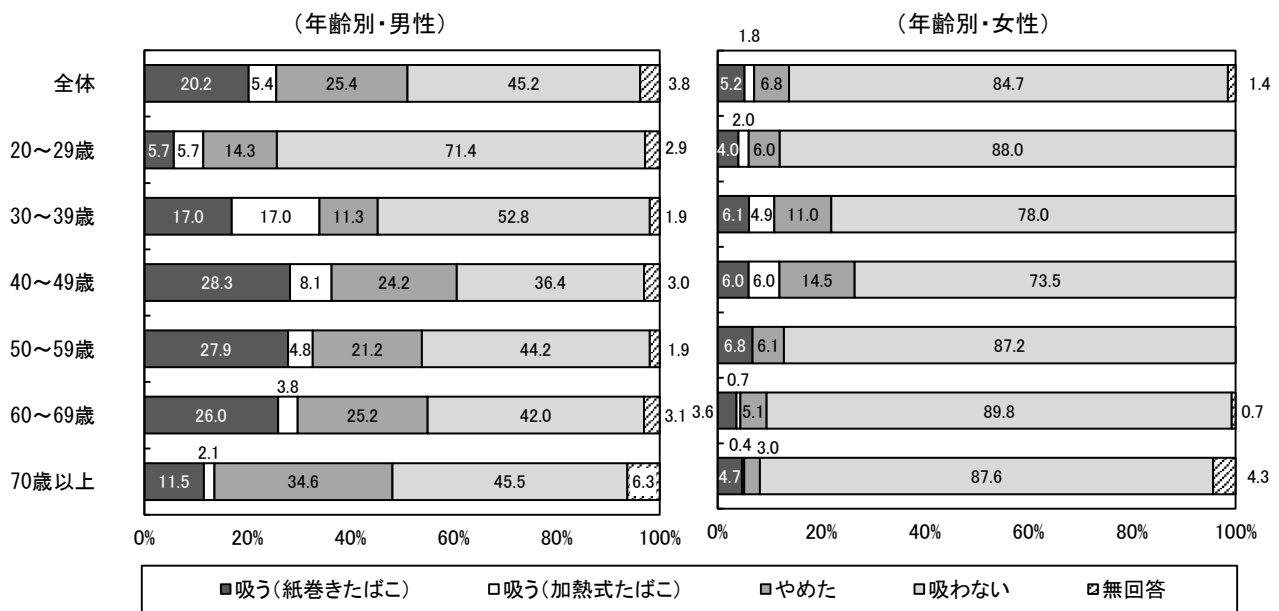


図 5.11-3 喫煙習慣



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

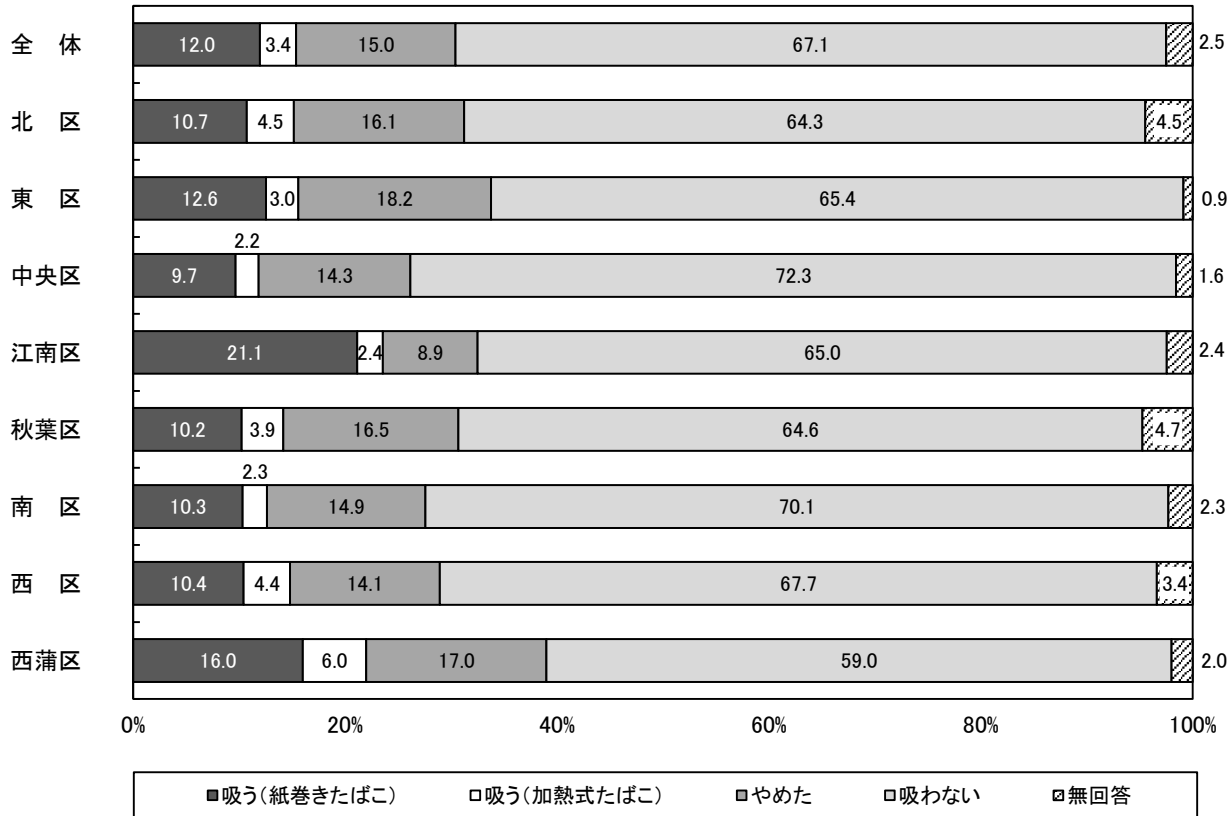
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、中央区（86.6%）で最も高くなっている。

図 5.11-4 喫煙習慣（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

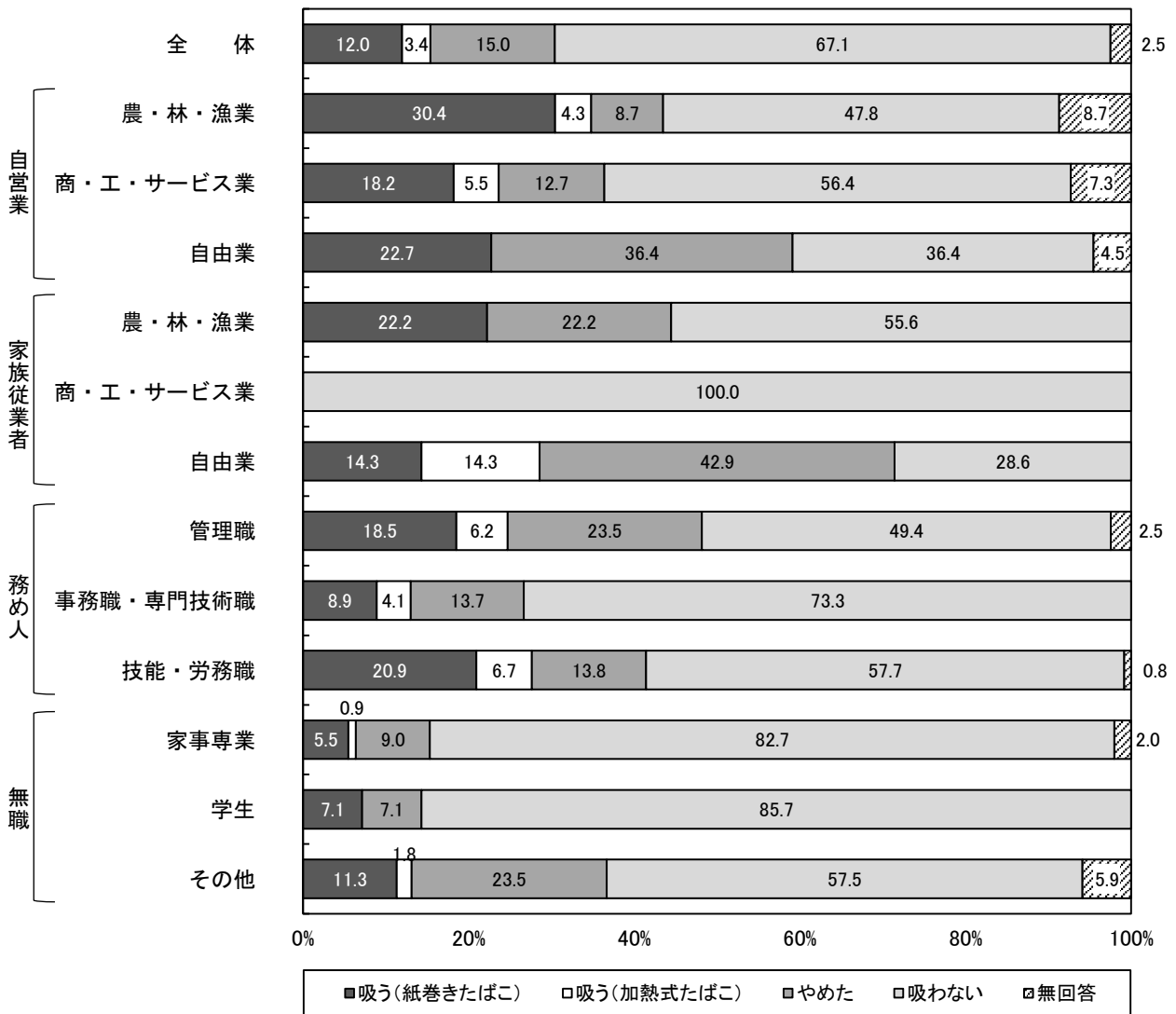
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.11-5 喫煙習慣（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

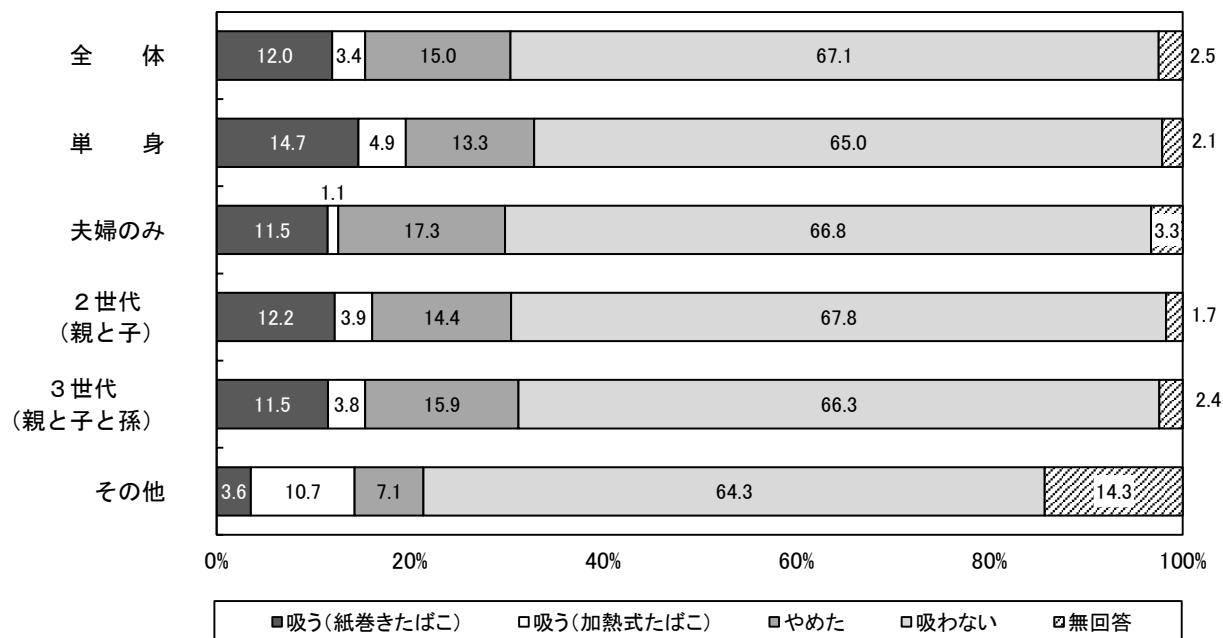
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「やめた」「吸わない」を合わせた、喫煙をしていない人の割合は、夫婦のみ（84.1%）で最も高くなっている。一方、「吸う」は単身（14.7%）が最も高くなっている。

図 5.11-6 喫煙習慣（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(12) 最近1か月の受動喫煙の状況

問35 あなたはこの1か月に自分以外の人が吸っているたばこ（加熱式のたばこも含む）の煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。（項目ごとに〇は1つだけ）

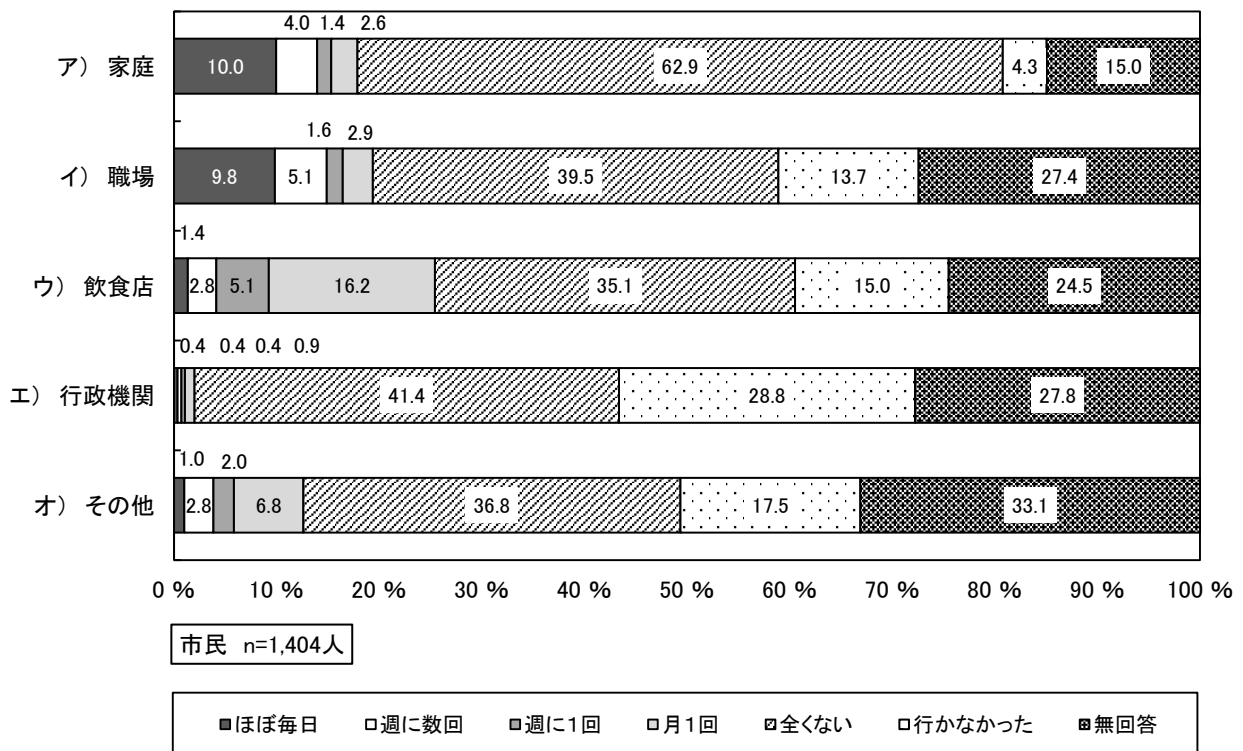
6割強が『家庭』での受動喫煙は「全くない」と回答

【全体結果】

いずれの項目も「全くない」の割合が最も高く、『ア) 家庭』の項目では6割強（62.9%）となっている。

一方、「ほぼ毎日」と回答した人の割合は、『ア) 家庭』（10.0%）と『イ) 職場』（9.8%）の項目で約1割となっている。また、『ウ) 飲食店』の項目では「月に1回」（16.2%）の割合が高くなっている。

図 5.12 最近1か月の受動喫煙の状況



	全体	ほぼ毎日	週に数回	週に1回	月1回	全くない	行かなかった	無回答
ア) 家庭	1,404	140	56	19	36	883	60	210
イ) 職場	1,404	138	71	22	41	555	192	385
ウ) 飲食店	1,404	19	39	72	227	493	210	344
エ) 行政機関	1,404	5	5	5	13	581	405	390
オ) その他	1,404	14	40	28	95	516	246	465

(人)

(13) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）という言葉や意味の認知度

問36 あなたは「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉やその意味を知っていましたか。
（〇は1つだけ）

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」とは

主として喫煙などにより、有害物質を長期に吸い込むことによって肺に炎症がおき、肺の中の組織が破壊されて、酸素の取り込みや二酸化炭素を排出する機能が低下する疾患です。

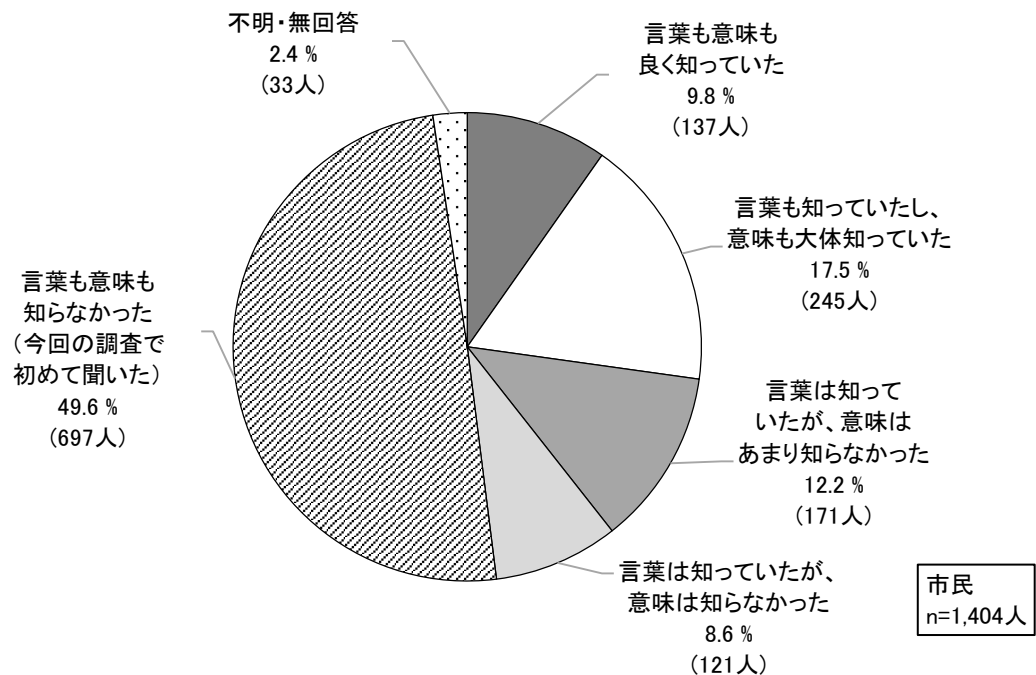
せき・たん・息切れを主な症状とし、徐々に呼吸障がい progresses します。

3割弱が言葉や意味を認知していると回答

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（9.8%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（17.5%）と回答した人を合わせた割合は3割弱（27.2%）となっている。

一方、「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」と回答した人の割合は約5割（49.6%）となっている。

図 5.13 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、20歳代で高く、全体の3分の1以上を占めている。

性別では、60歳以上の年代で「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、男性の方が高くなっている。

図 5.13-2 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（年齢別・全体）

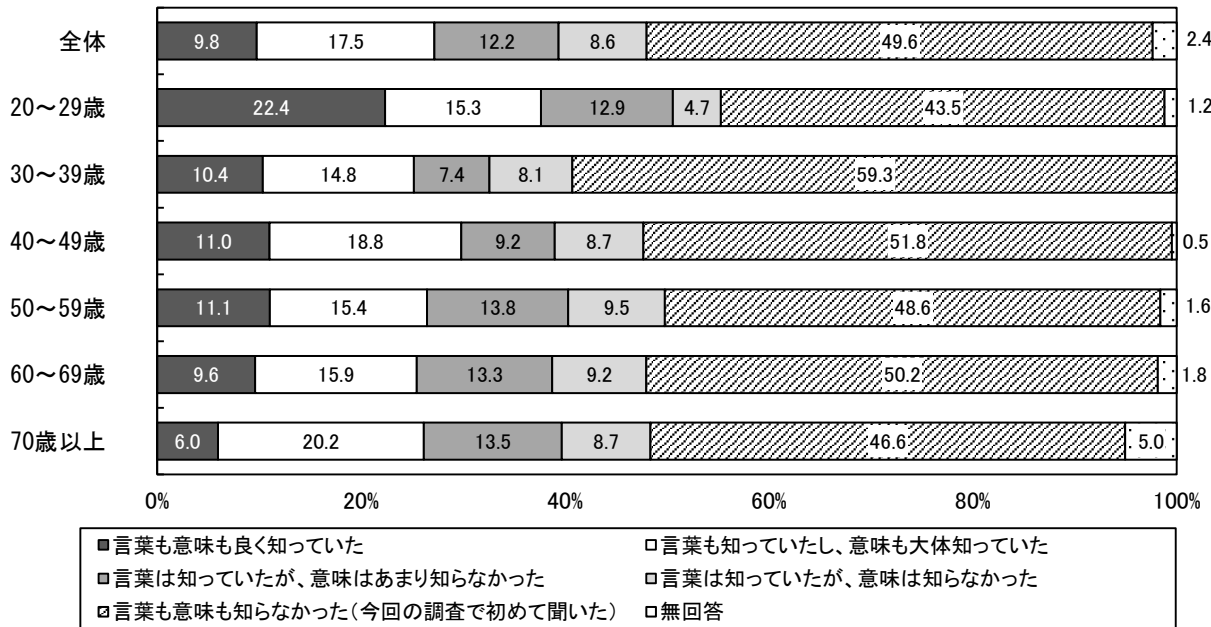
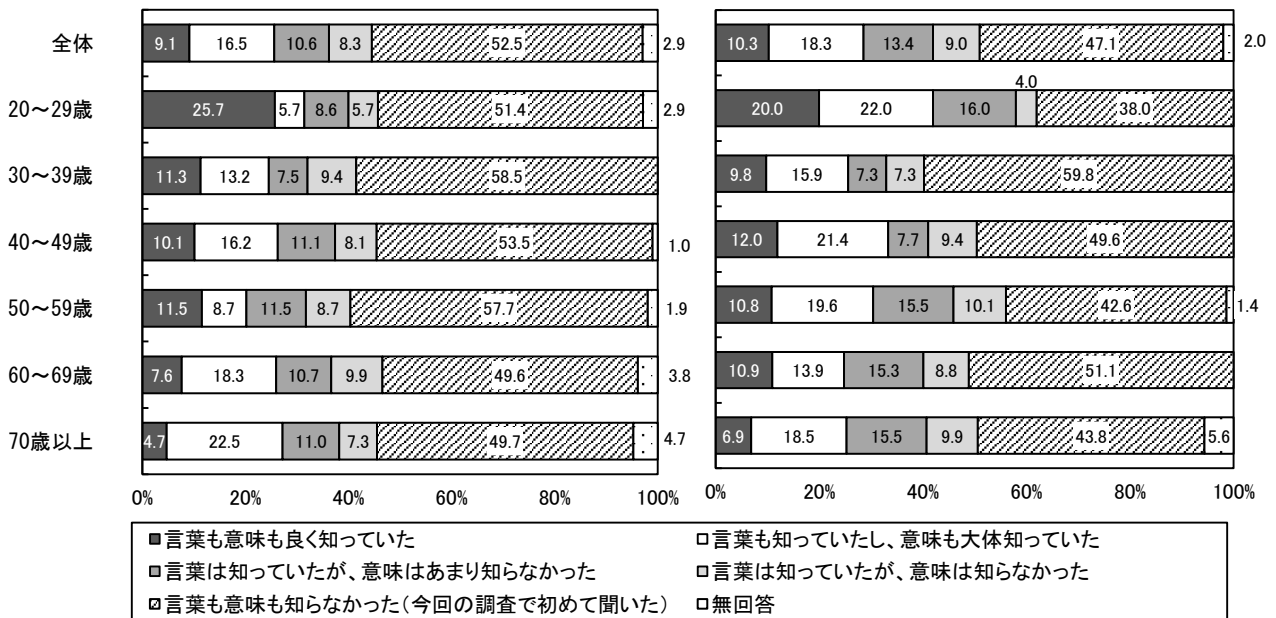


図 5.13-3 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

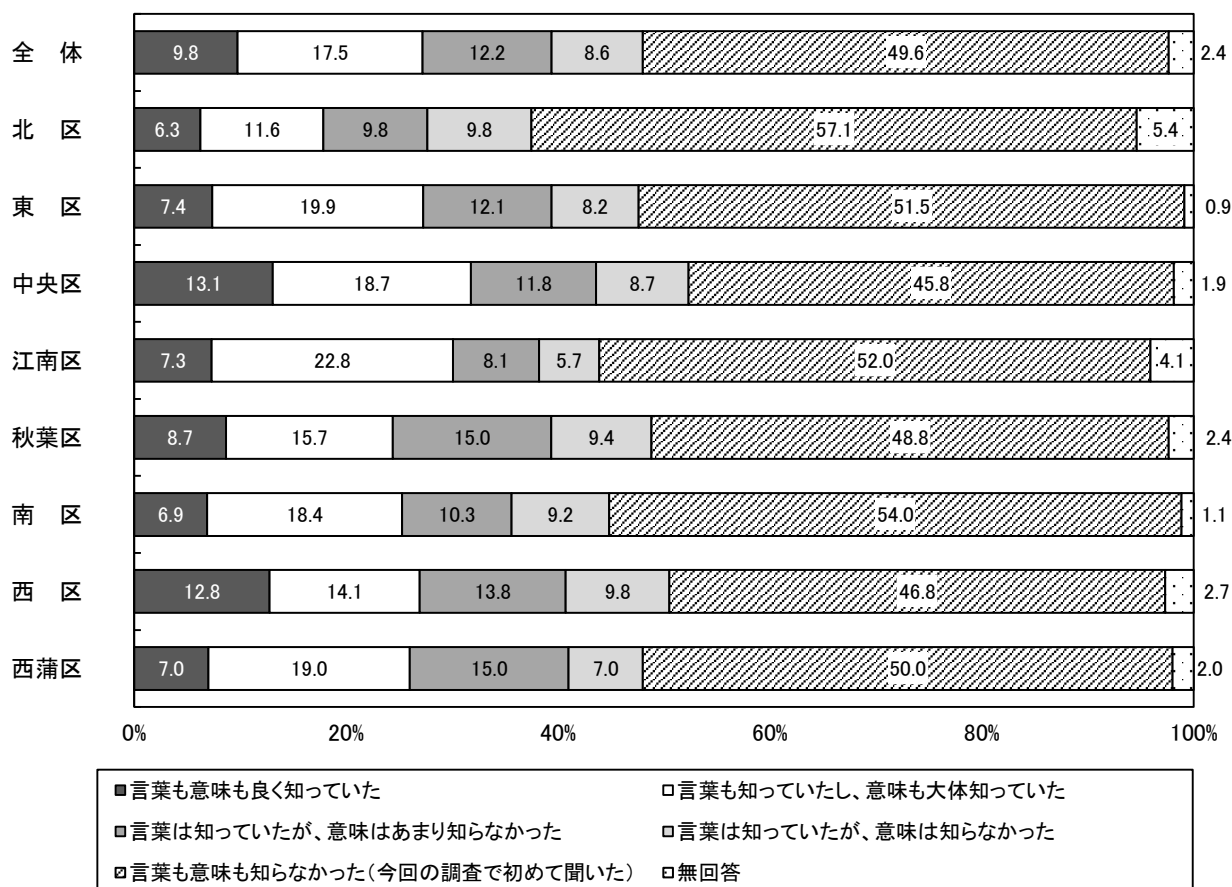
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、中央区（31.8%）で最も高くなっている。

図 5.13-4 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

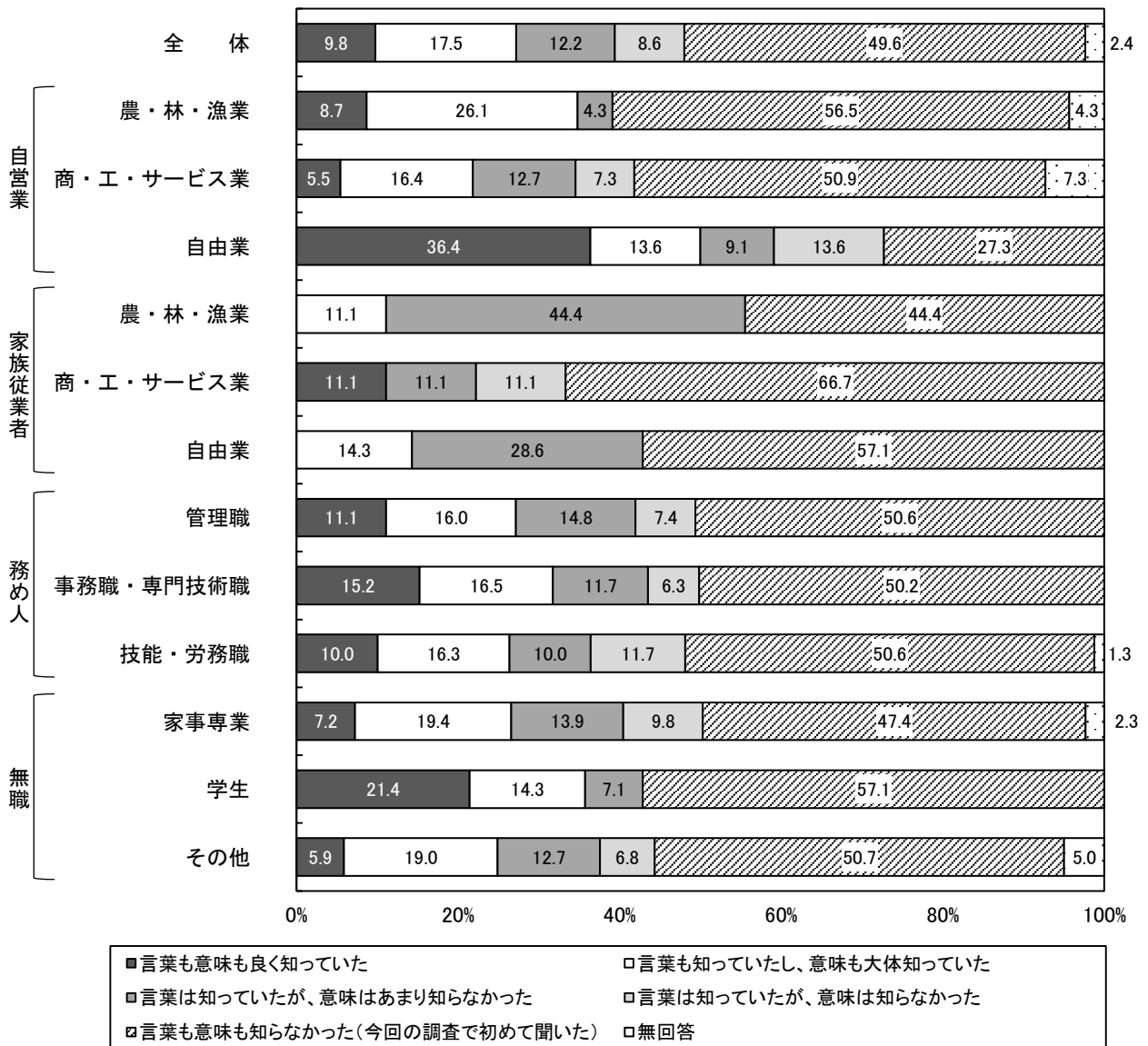
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.13-5 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

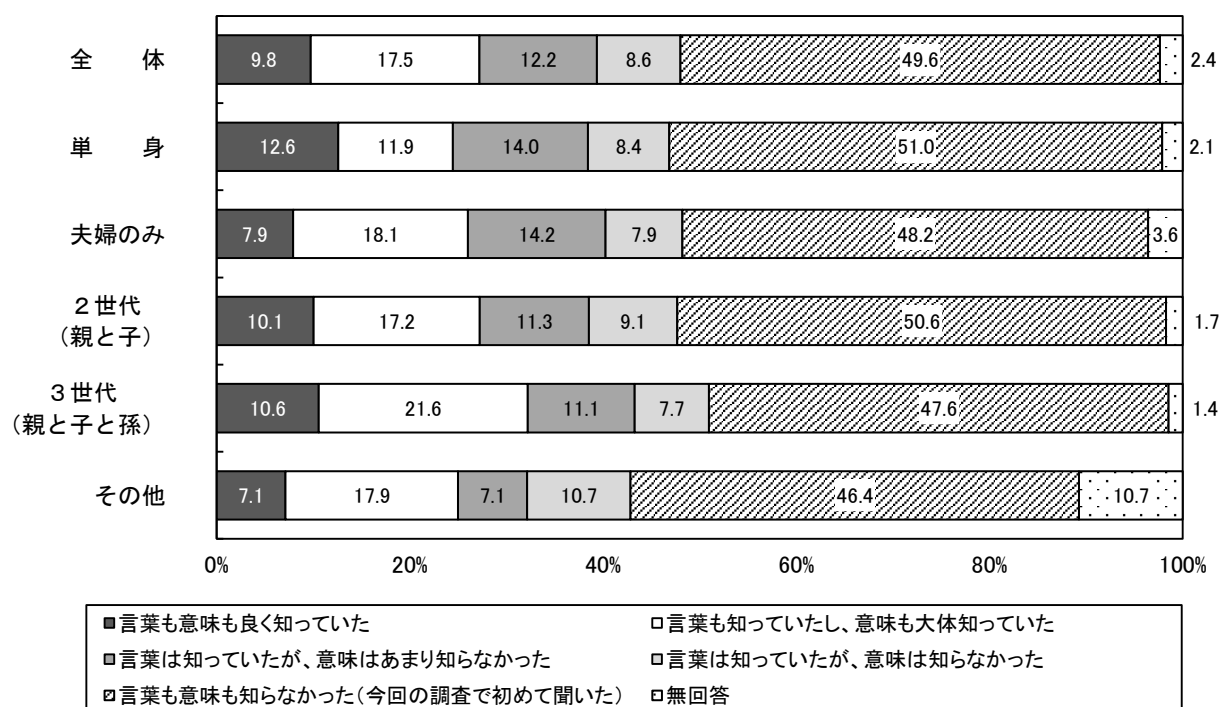
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、3世代（32.2%）で最も高くなっている。

図 5.13-6 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

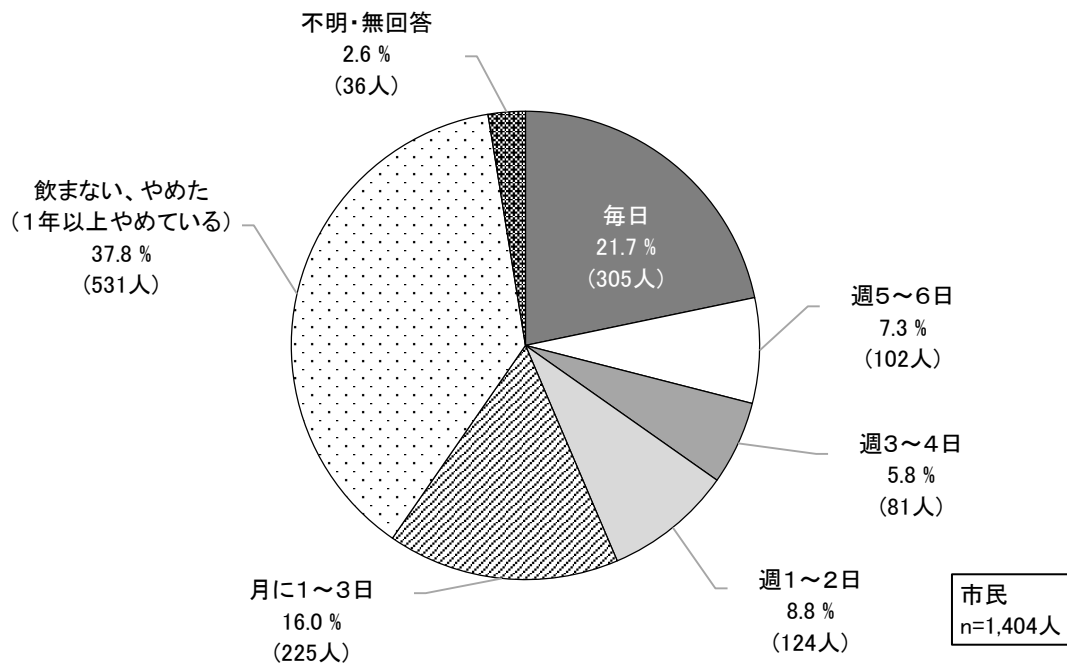
(14) 飲酒の頻度

問37 あなたは週に何日くらいビール、日本酒、ウイスキーなどのアルコール類を飲みますか。
(〇は1つだけ)

4割弱が「飲まない、やめた」と回答

「飲まない、やめた（1年以上やめている）」と回答した人の割合が4割弱（37.8%）となっている。
一方、飲酒の回数では「毎日」が2割強（21.7%）で、最も多くなっている。

図 5.14 飲酒の頻度



【性別・年齢別】

20歳代を除く年代で「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。20歳代では「月に1～3日」の割合が最も高くなっている。

性別では、すべての年代で「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合は男性より女性の方が高くなっている。「毎日」「週5～6日」を合わせた割合は、すべての年代で、女性より男性の方が高くなっている。また「毎日」の割合は、50歳代と60歳代の男性で高く4割を超えている。

図 5.14-2 飲酒の頻度（年齢別・全体）

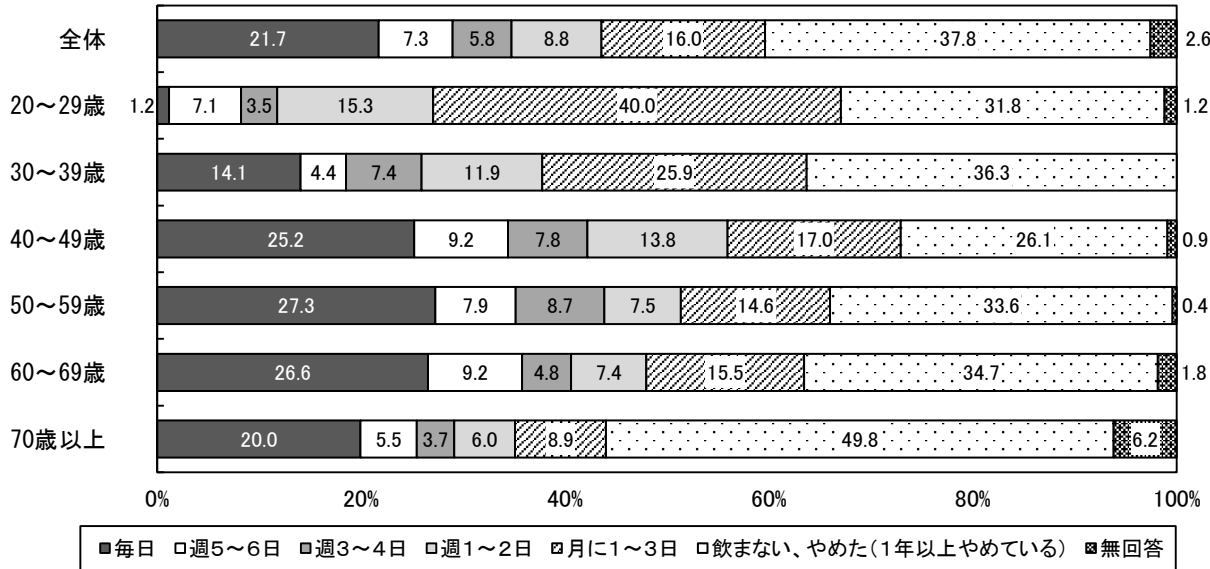
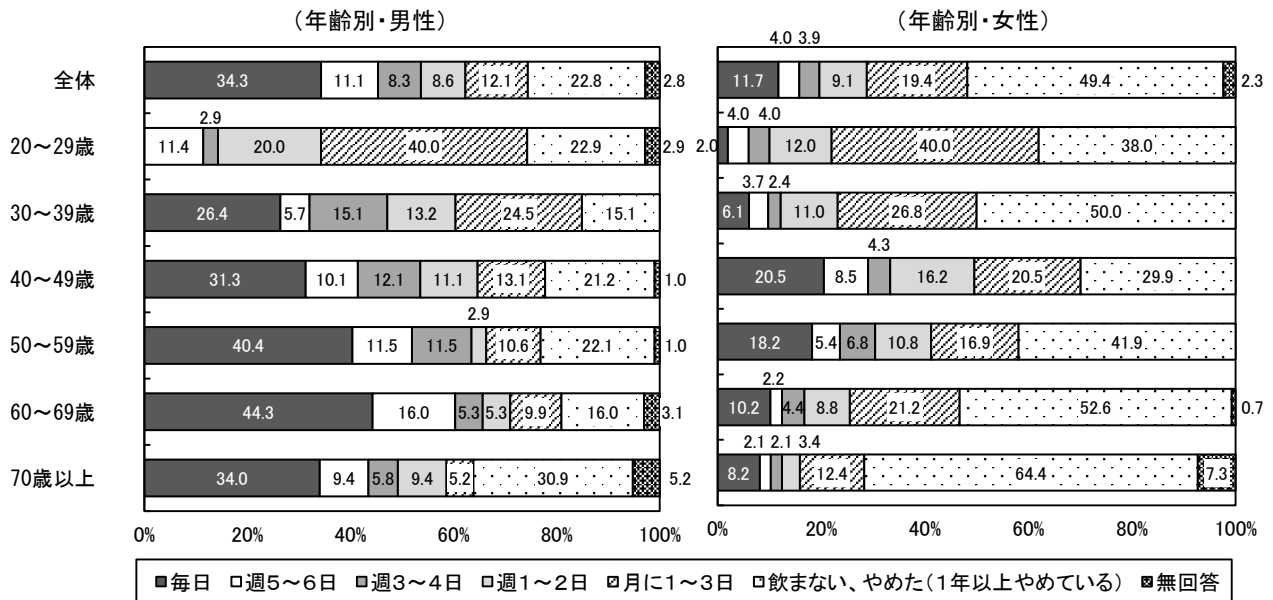


図 5.14-3 飲酒の頻度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

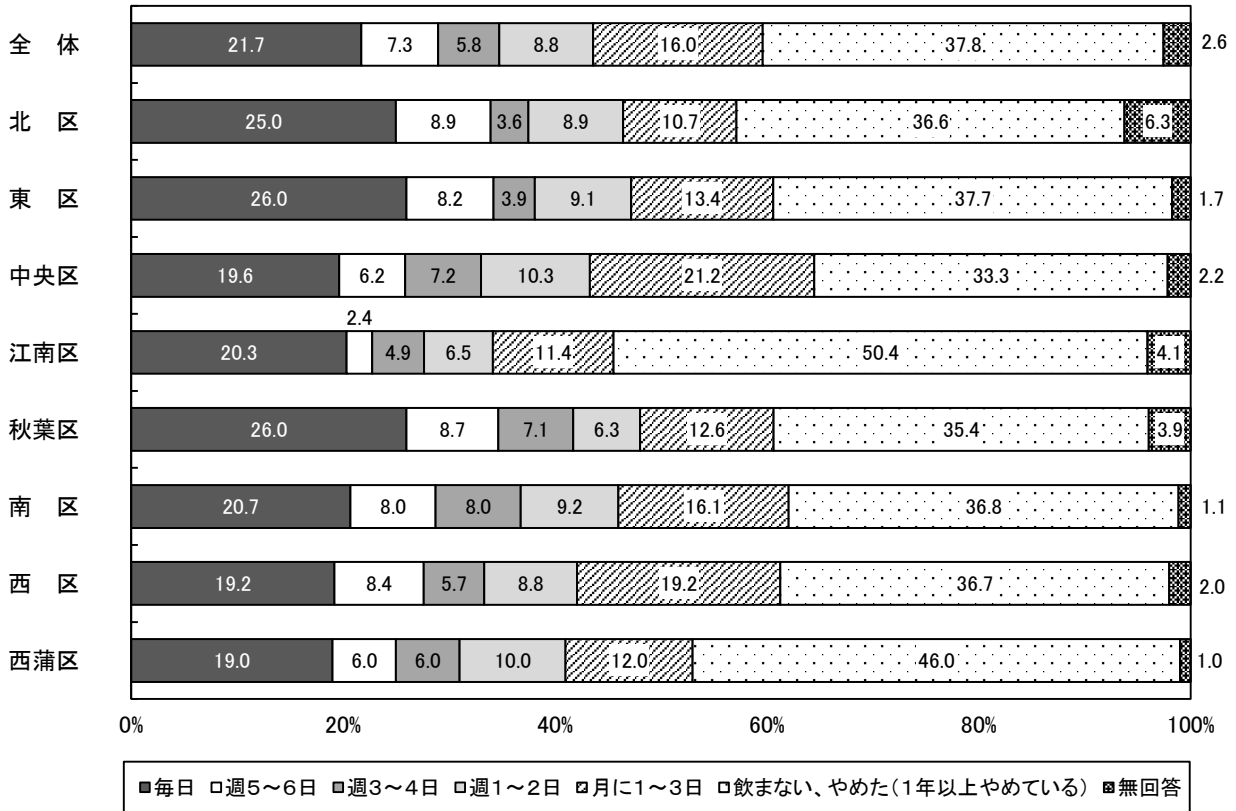
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。一方、「毎日」の割合は、東区と秋葉区（いずれも26.0%）で高くなっている。

図 5.14-4 飲酒の頻度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

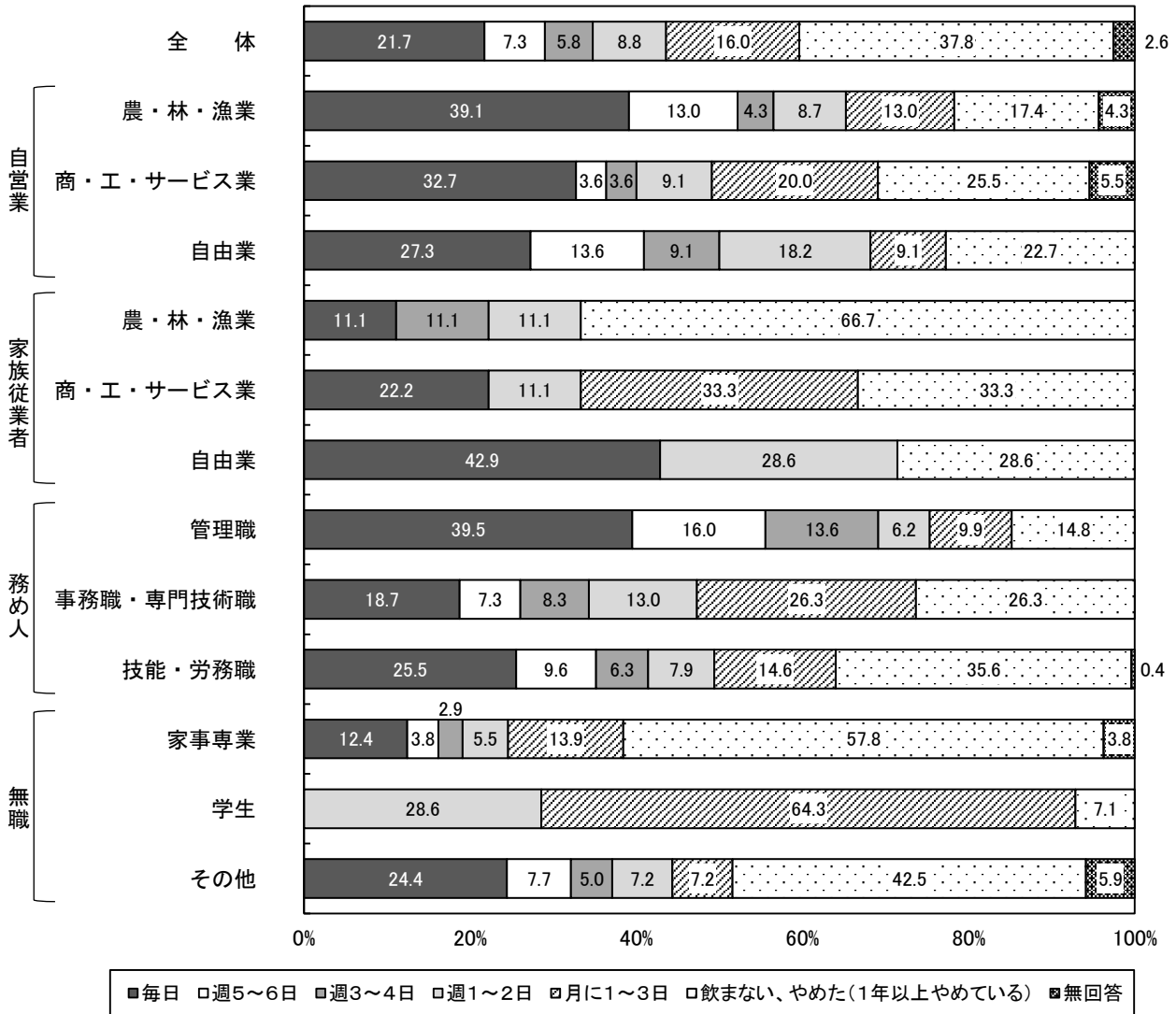
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.14-5 飲酒の頻度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

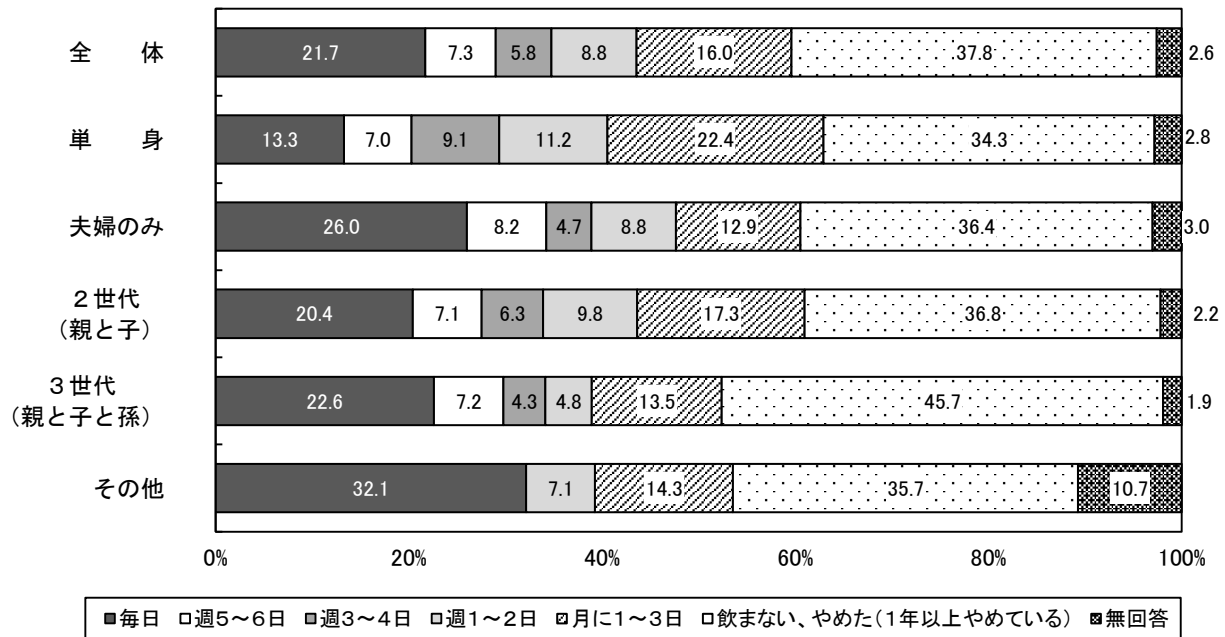
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成ともに、「飲まない、やめた（1年以上やめている）」の割合が最も高くなっている。

図 5.14-6 飲酒の頻度（家族構成別）



家族構成	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
全体	1,404	143	365	646	208	28

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(15) 平均飲酒量

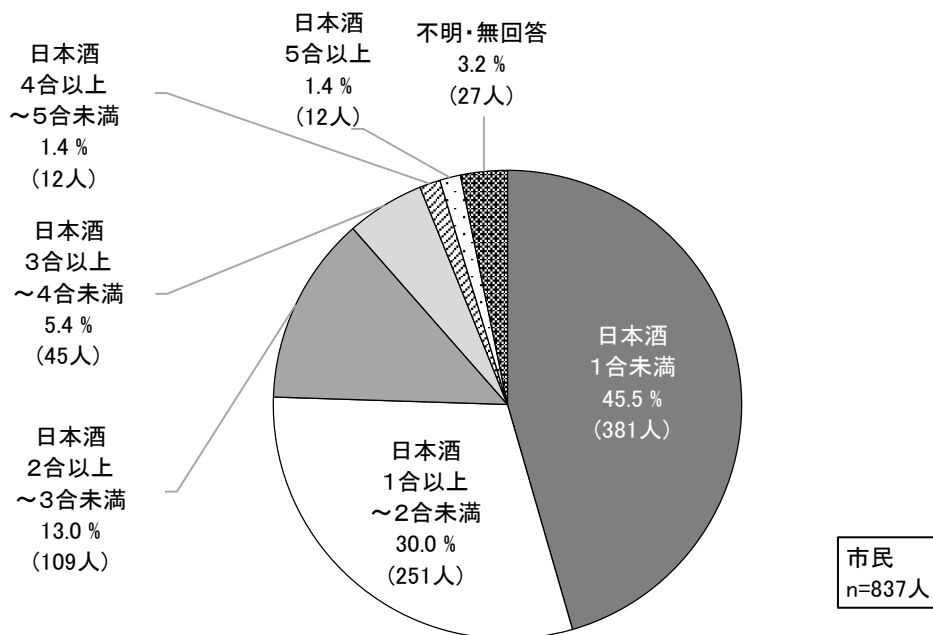
問37-1 あなたの1回当たりの平均飲酒量はどの程度ですか。(○は1つだけ)

※日本酒1合＝(180ml) { ビール、発泡酒1本(500ml)
 ワイン2杯(240ml)
 ウイスキーダブル1杯(60ml)
 焼酎 20度(135ml)
 焼酎 25度(110ml)
 酎ハイ 7度(350ml) } を目安にしてください。

5割弱が「日本酒1合未満」と回答

平均飲酒量については、「日本酒1合未満」(45.5%)と回答した人が最も多く、以下「日本酒1合以上～2合未満」(30.0%)、「日本酒2合以上～3合未満」(13.0%)、「日本酒3合以上～4合未満」(5.4%)と続いている。

図 5.15 平均飲酒量



【性別・年齢別】

30歳代を除く年代で「日本酒1合未満」と回答した人の割合が最も高く、30歳代では「日本酒1合未満」「日本酒1合以上～2合未満」が同じ割合で最も高くなっている。

性別では、女性はすべての年代で、「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。男性の30歳代～50歳代では、「日本酒1合以上～2合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.15-2 平均飲酒量（年齢別・全体）

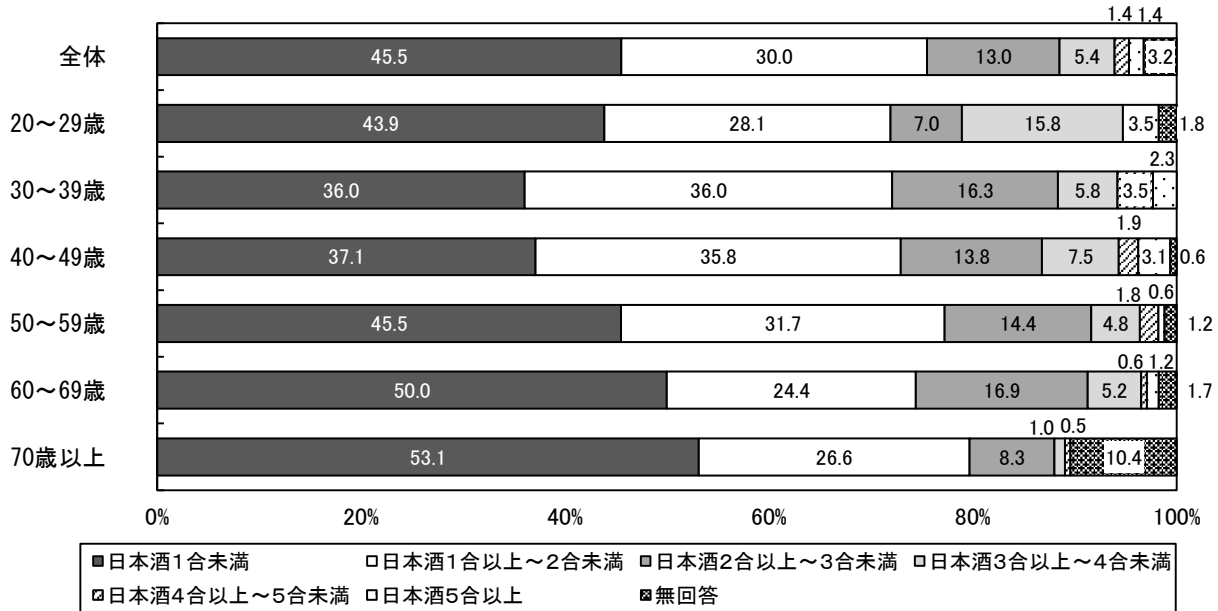
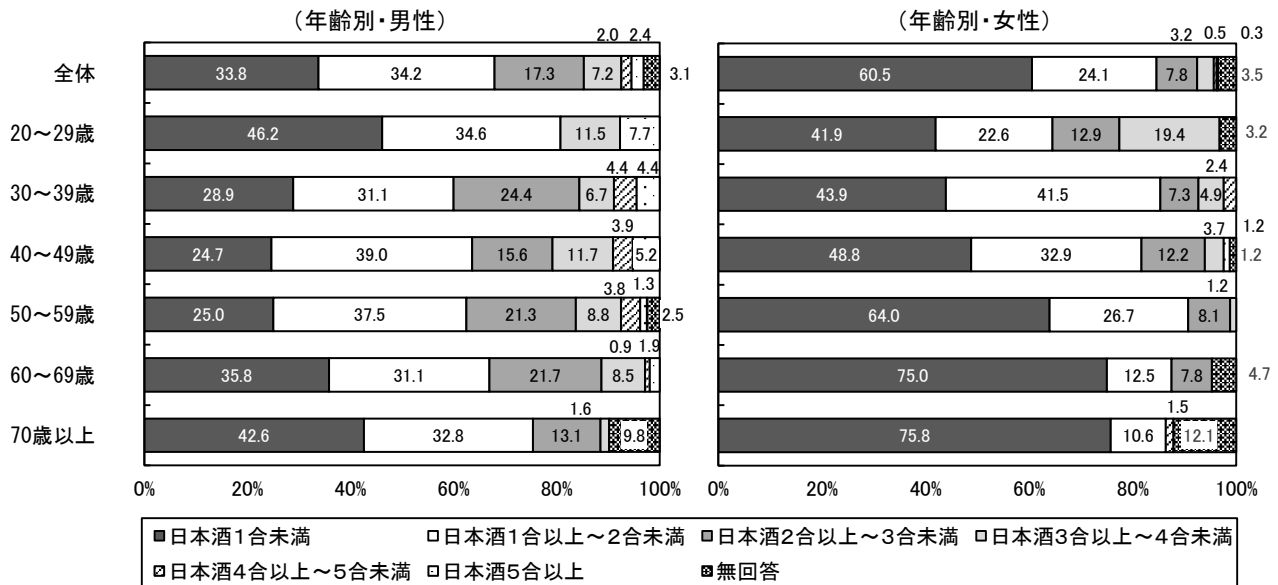


図 5.15-3 平均飲酒量



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	837	57	86	159	167	172	192	4
男性	456	26	45	77	80	106	122	0
女性	370	31	41	82	86	64	66	0

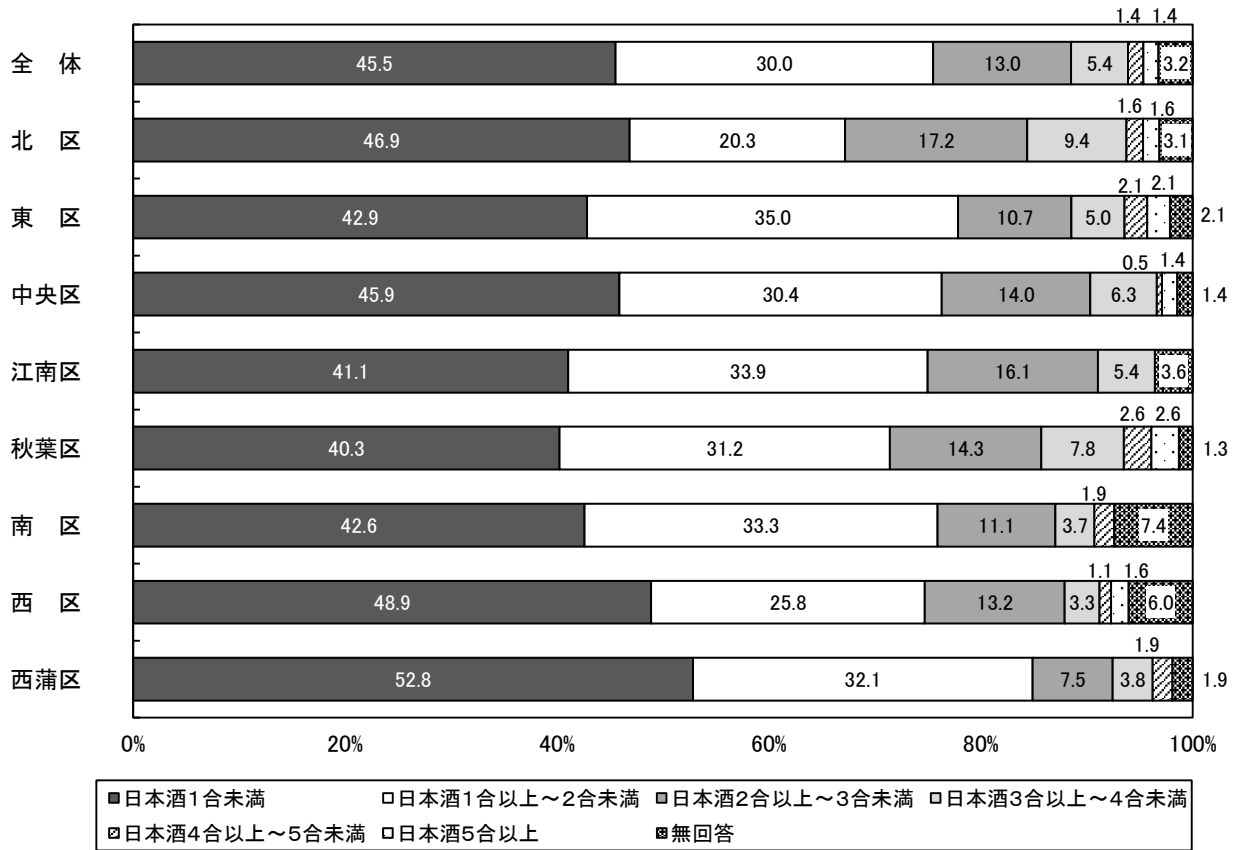
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

各地区とも「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.15-4 平均飲酒量（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
837	837	837	837	837	837	837	837	837	837

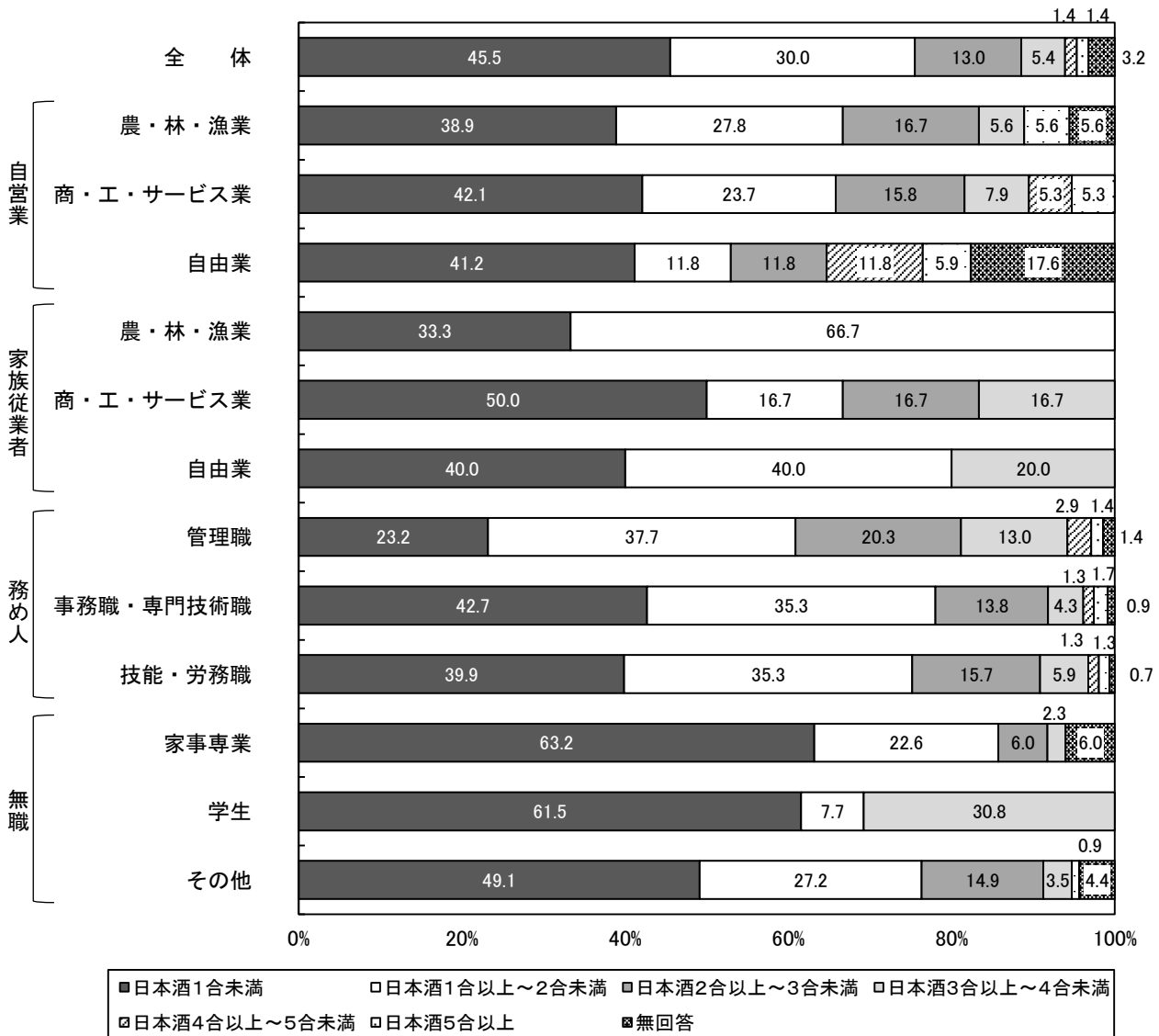
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.15-5 平均飲酒量（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
837	18	38	17	3	6	5

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
69	232	153	133	13	114	36

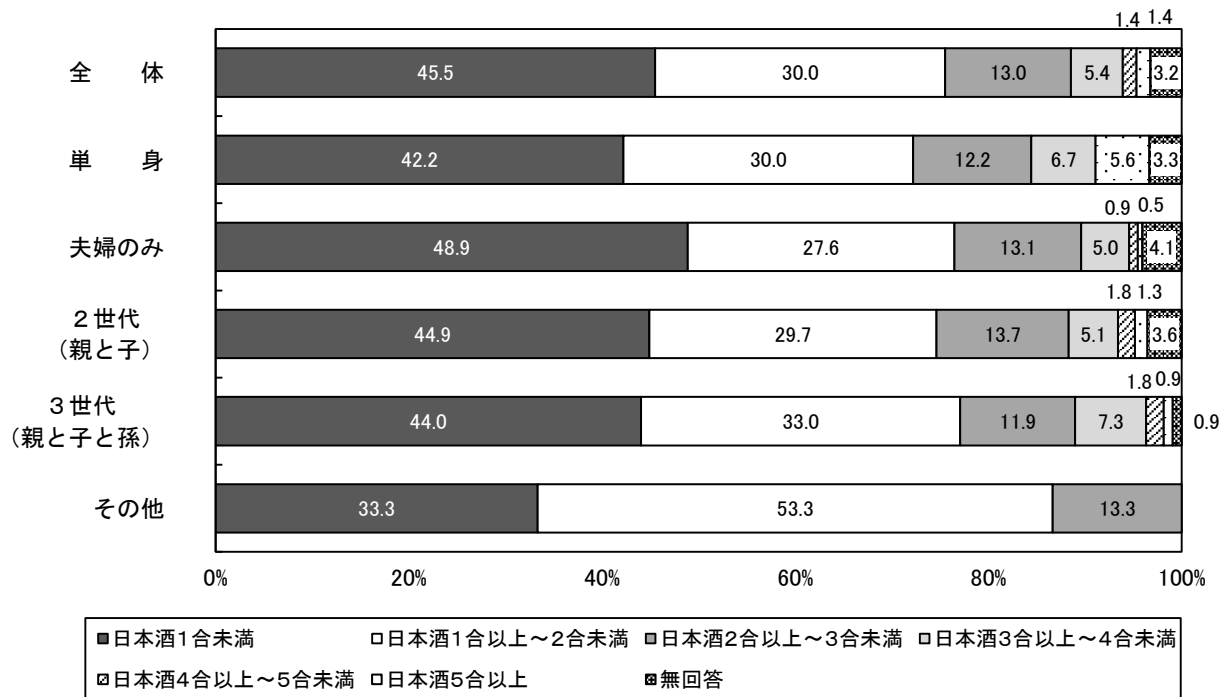
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

その他を除き、「日本酒1合未満」の割合が最も高くなっている。その他は、「日本酒1合以上～2合未満」の割合が最も高くなっている。

図 5.15-6 平均飲酒量（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
837	90	221	394	109	15	8

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

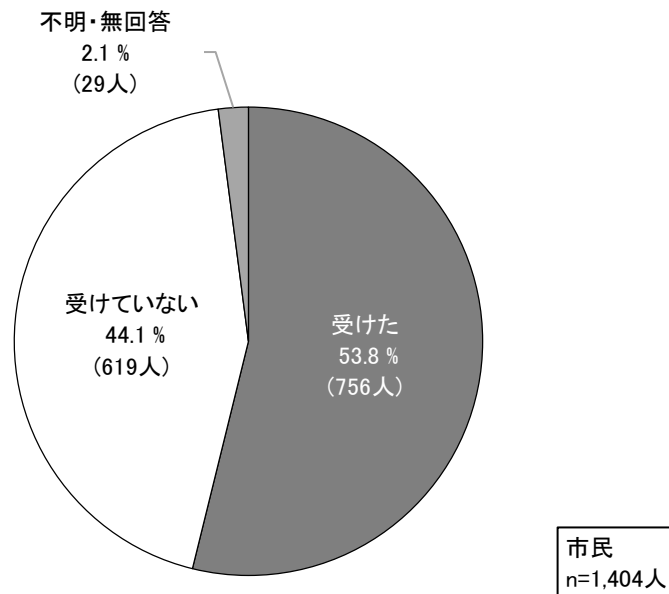
(16) 最近1年間の歯科健（検）診の受診状況

問38 あなたはこの1年間に歯科健（検）診を受けましたか。（○は1つだけ）

5割強が歯科健（検）診を「受けた」と回答

最近1年間に歯科健（検）診を「受けた」と回答した人の割合が5割強（53.8%）、「受けていない」と回答した人の割合は4割強（44.1%）となっている。

図 5.16 最近1年間の歯科健（検）診の受診状況



【性別・年齢別】

「受けた」の割合は、70歳以上（60.8%）が最も高く、6割を超えている。

性別では、「受けた」の割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 5.16-2 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況（年齢別・全体）

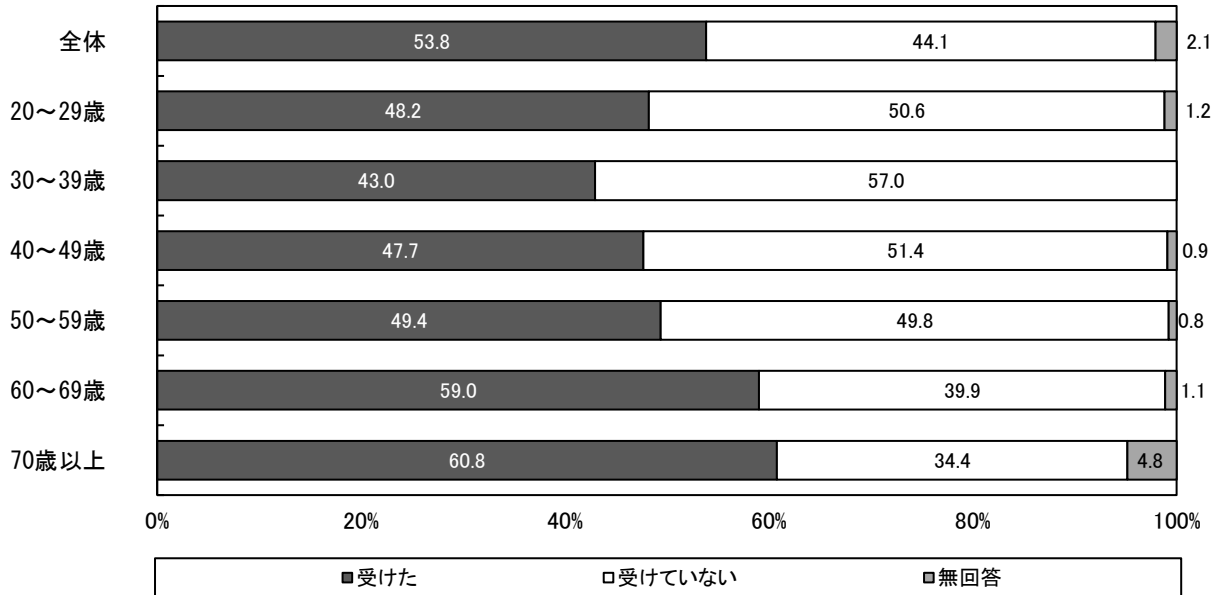
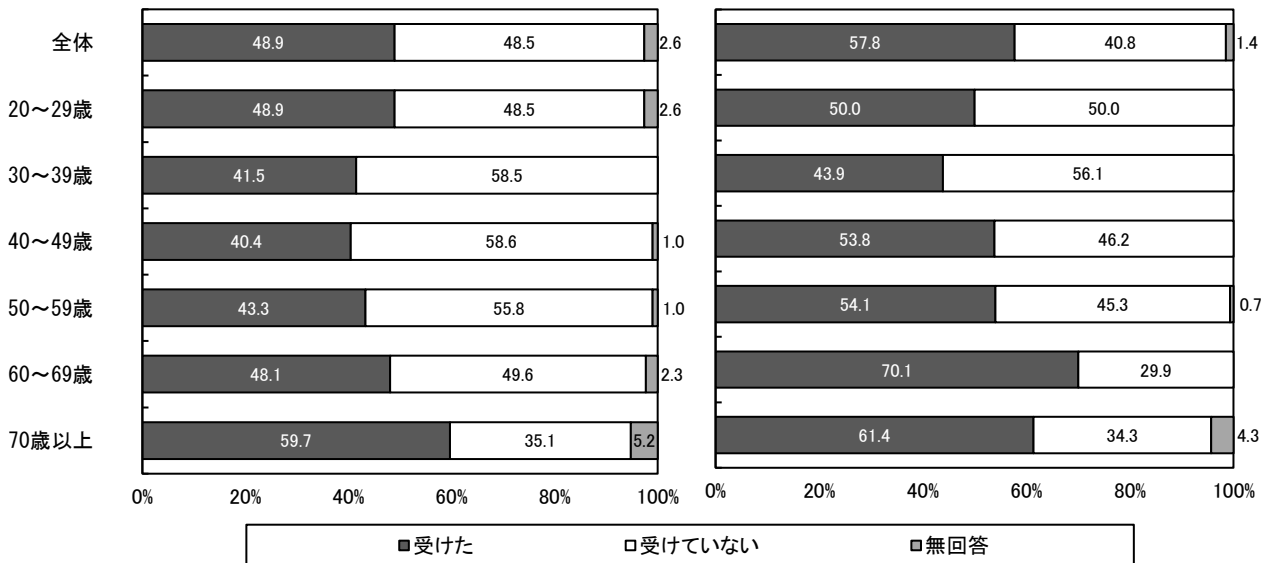


図 5.16-3 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

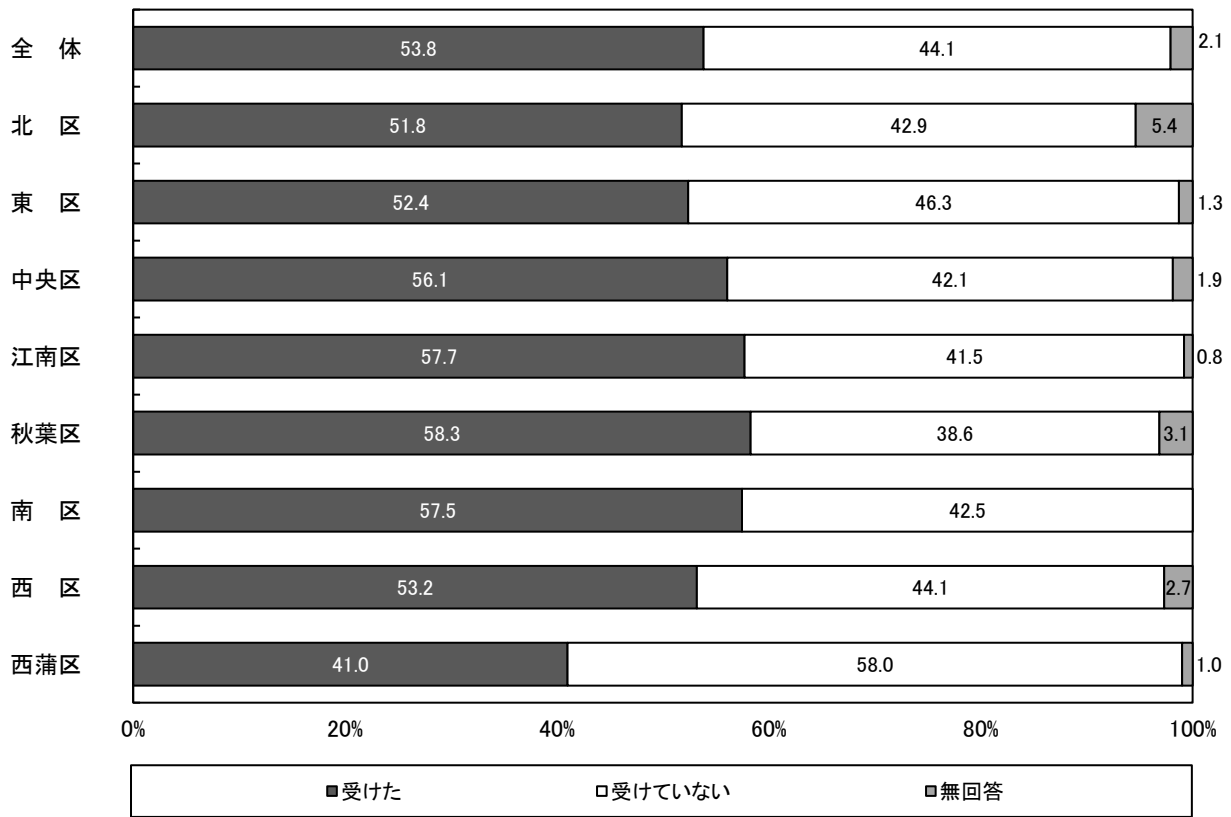
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「受けた」の割合は、秋葉区（58.3%）で最も高く、西蒲区（41.0%）で最も低くなっている。

図 5.16-4 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

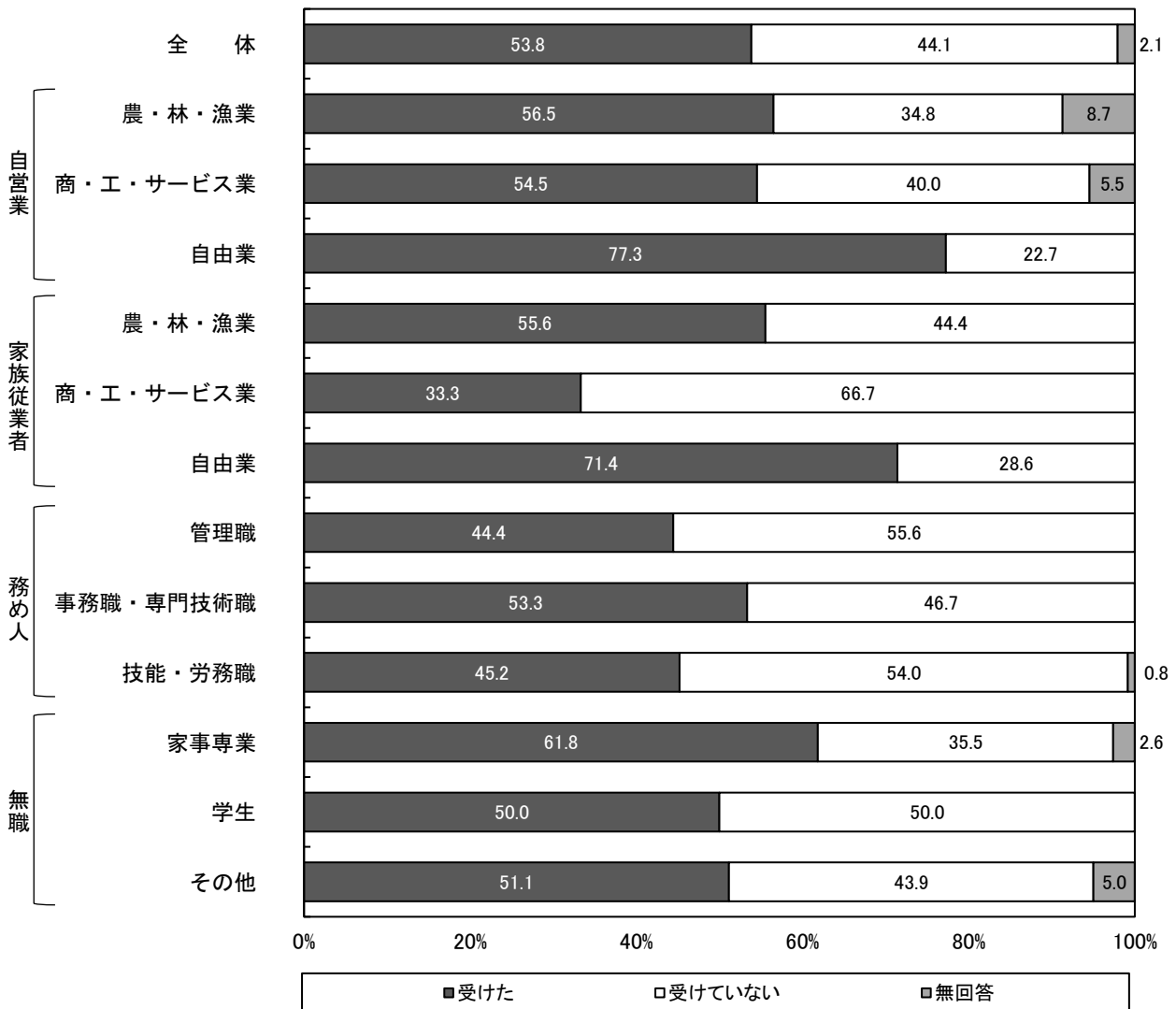
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5. 16-5 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況(職業別)



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

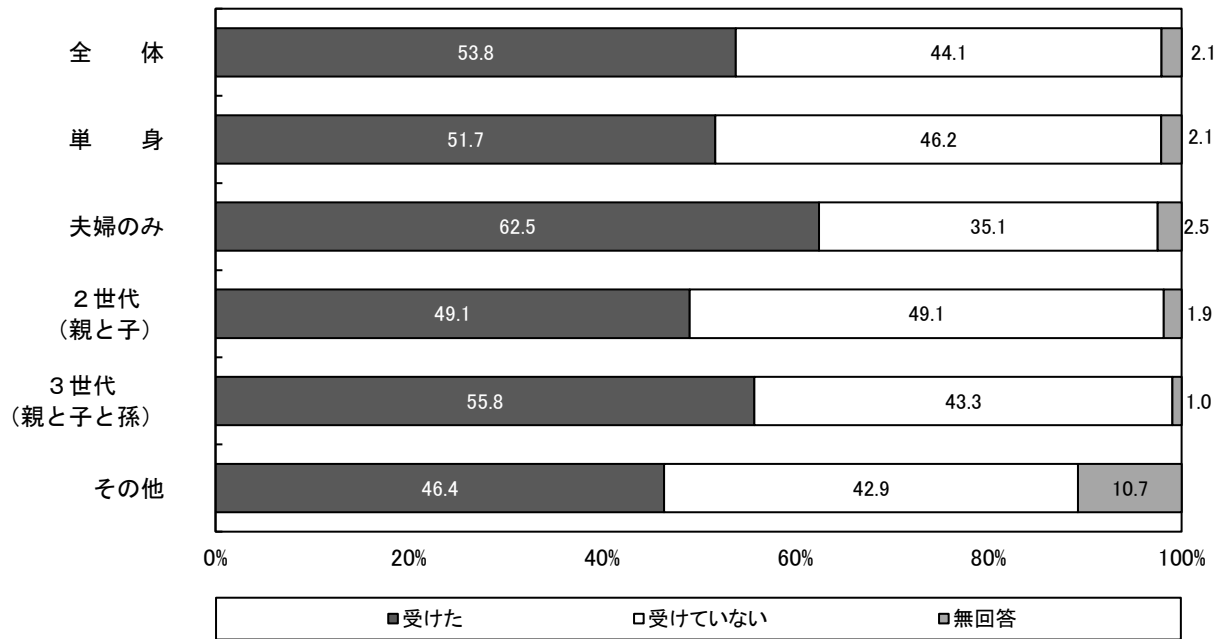
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「受けた」の割合は、夫婦のみ（62.5%）と3世代（55.8%）で高くなっている。

図 5.16-6 最近1年間の歯科健(検)診の受診状況（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

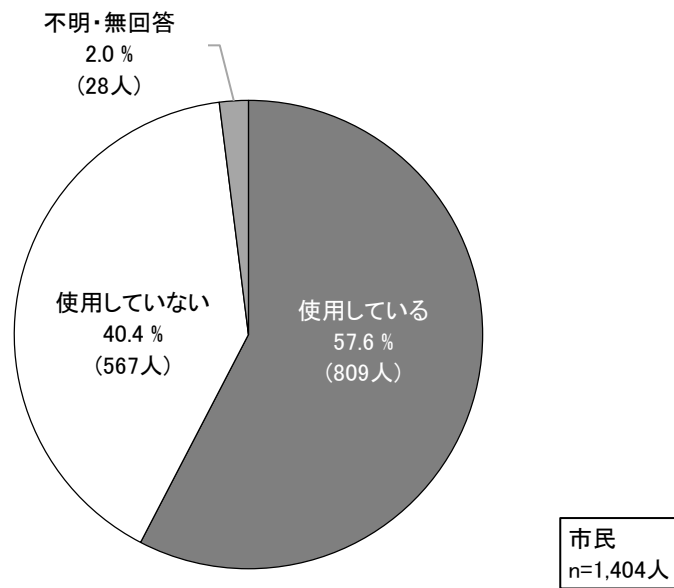
(17) 歯間部清掃用具の使用状況

問39 あなたはむし歯予防や歯周病の予防のために歯間部清掃用具（デンタルフロス（糸つきようじ）、歯間ブラシ）を使用していますか。（○は1つだけ）

6割弱が「使用している」と回答

歯間部清掃用具（デンタルフロス（糸つきようじ）、歯間ブラシ）を「使用している」と回答した人の割合が6割弱（57.6%）、「使用していない」と回答した人の割合は約4割（40.4%）となっている。

図 5.17 歯間部清掃用具の使用状況



【性別・年齢別】

「使用している」の割合は、20歳代（42.4%）で、他の年代に比べ低くなっている。

性別では、「使用している」割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 5.17-2 歯間部清掃用具の使用状況（年齢別・全体）

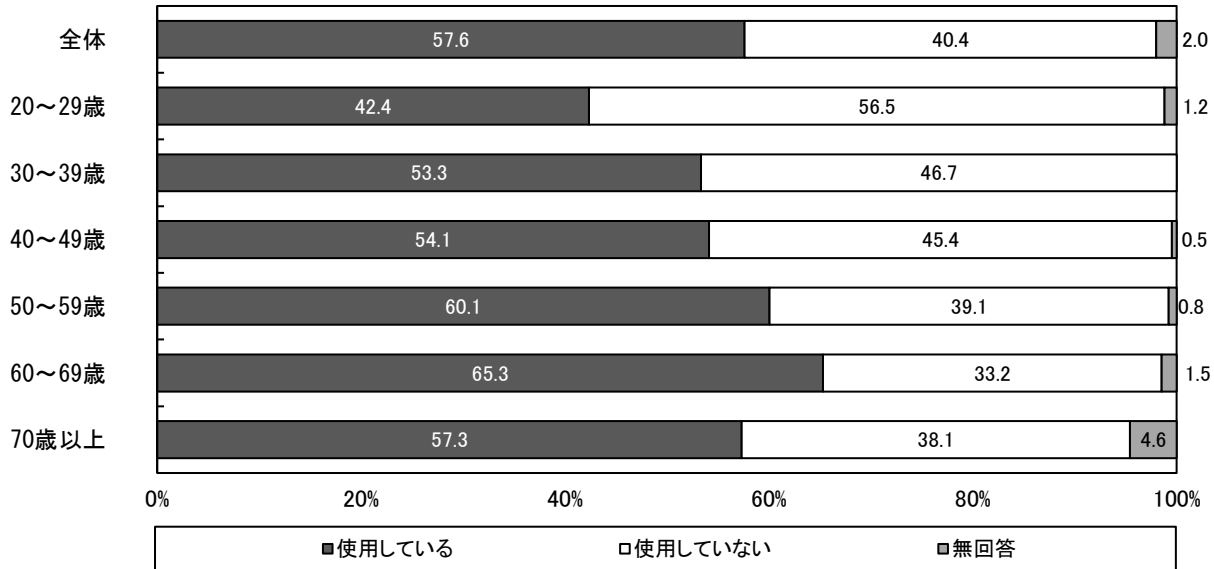
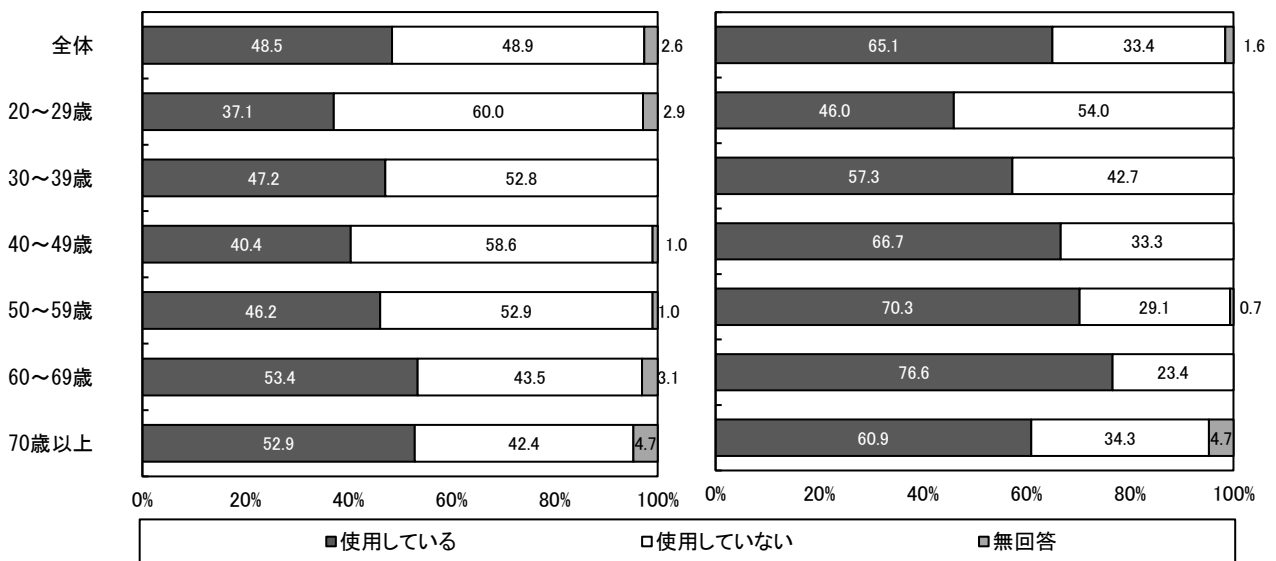


図 5.17-3 歯間部清掃用具の使用状況

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

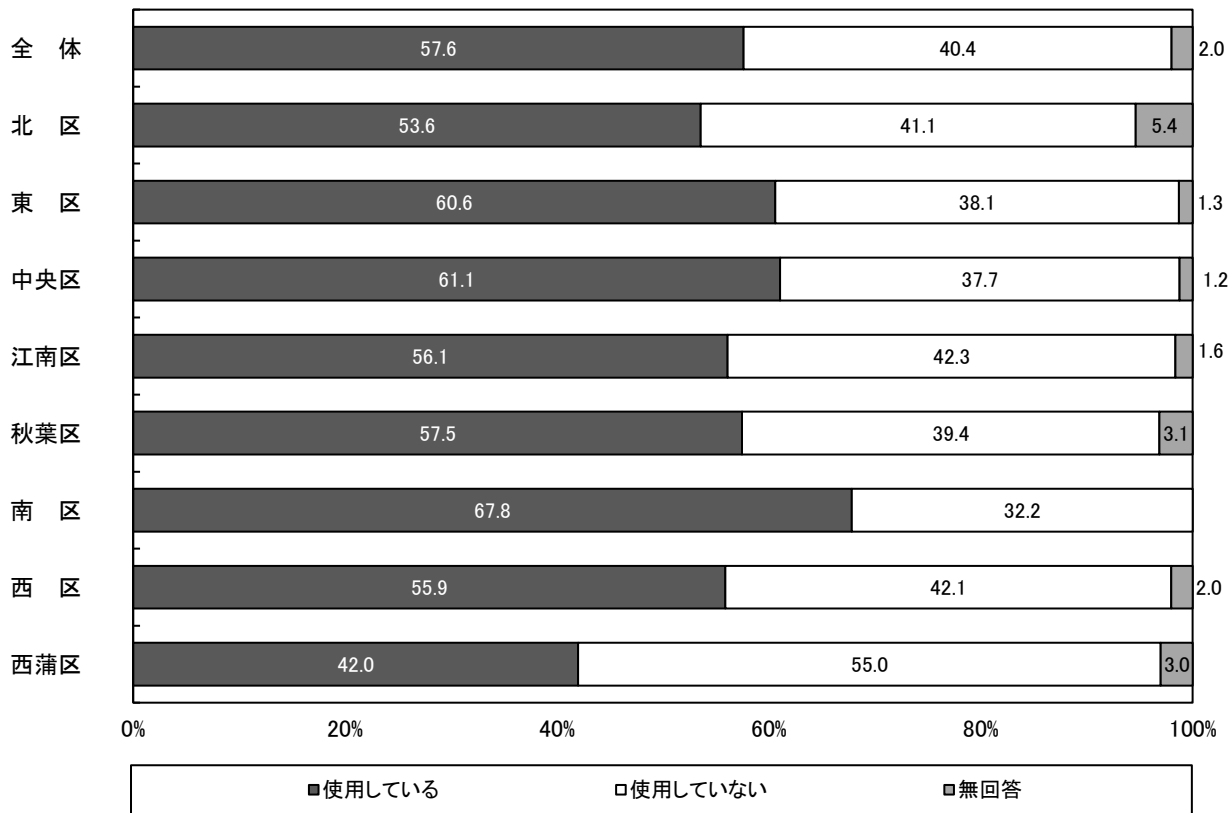
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「使用している」割合は、南区（67.8%）で最も高く、6割を超えている。

図 5.17-4 歯間部清掃用具の使用状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

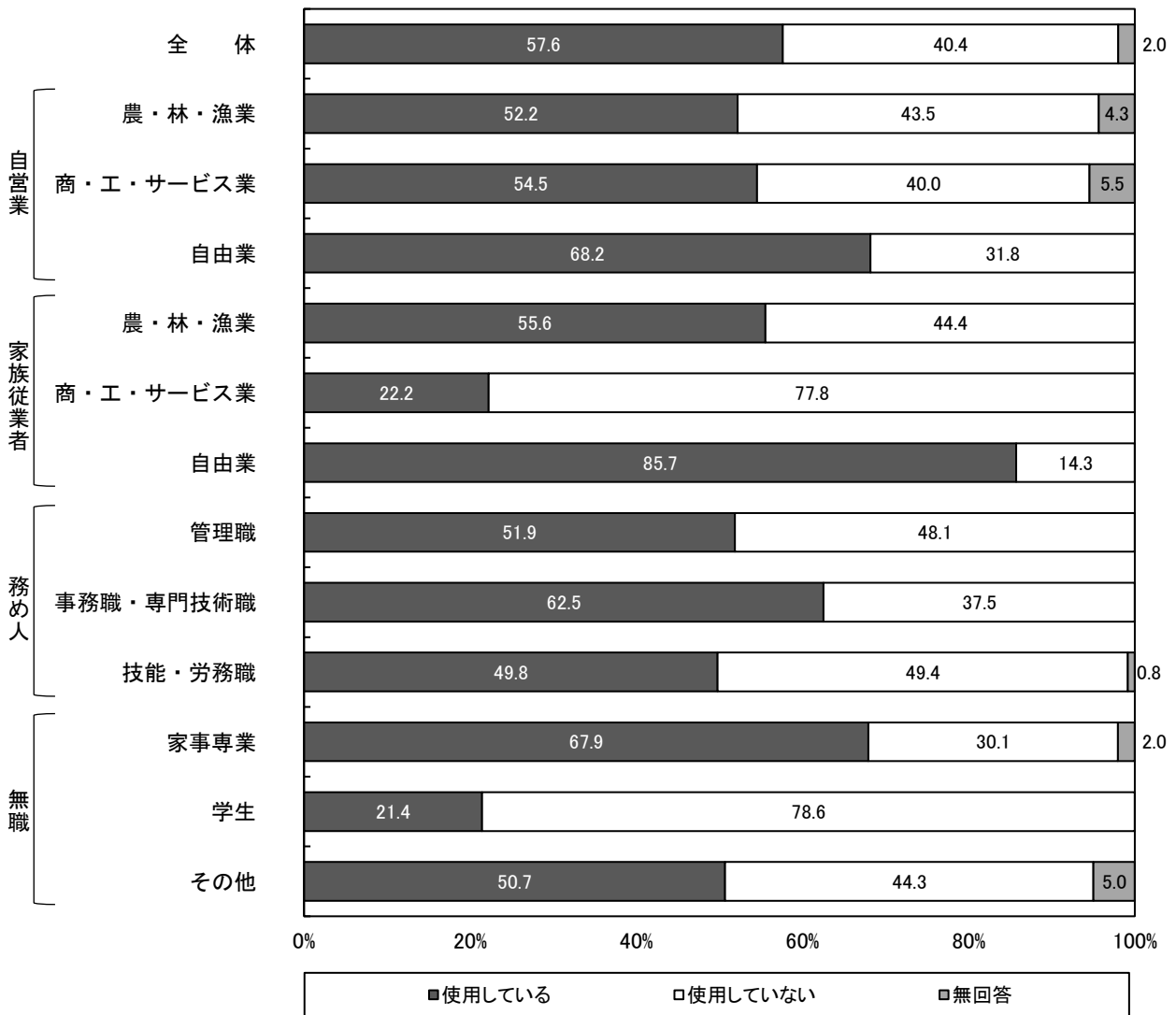
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.17-5 歯間部清掃用具の使用状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

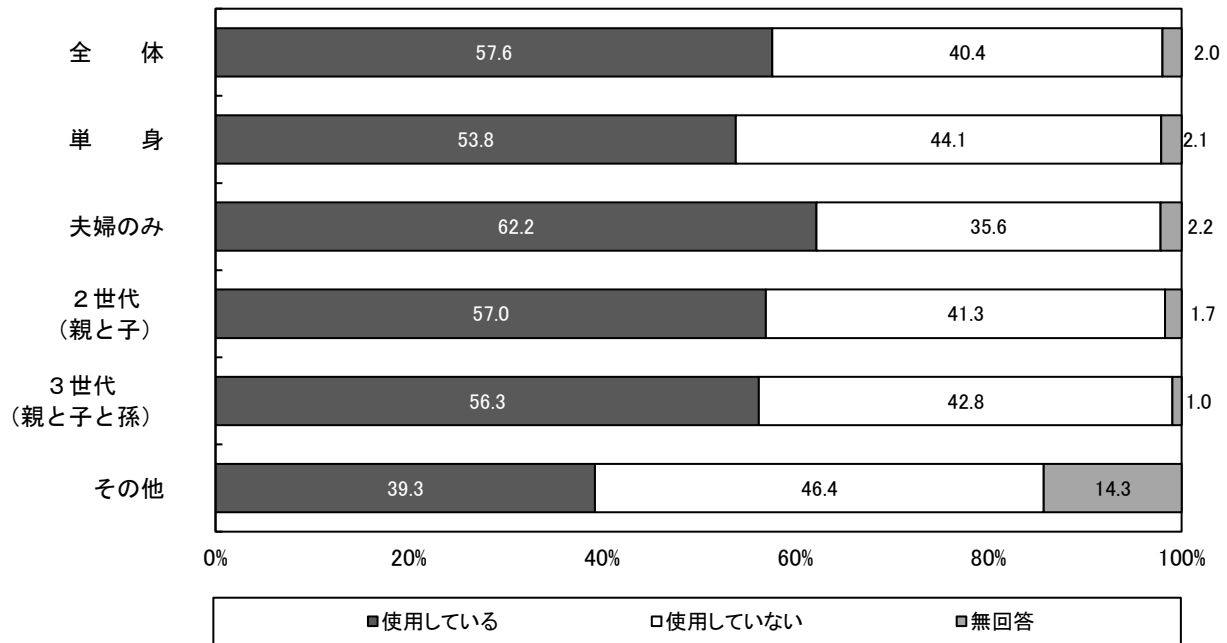
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「使用している」の割合は、夫婦のみ（62.2%）で最も高くなっている。

図 5.17-6 歯間部清掃用具の使用状況（家族構成別）



全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(18) 自身の歯の本数

問40 自身の歯は何本ありますか。

※「自分の歯」には、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。

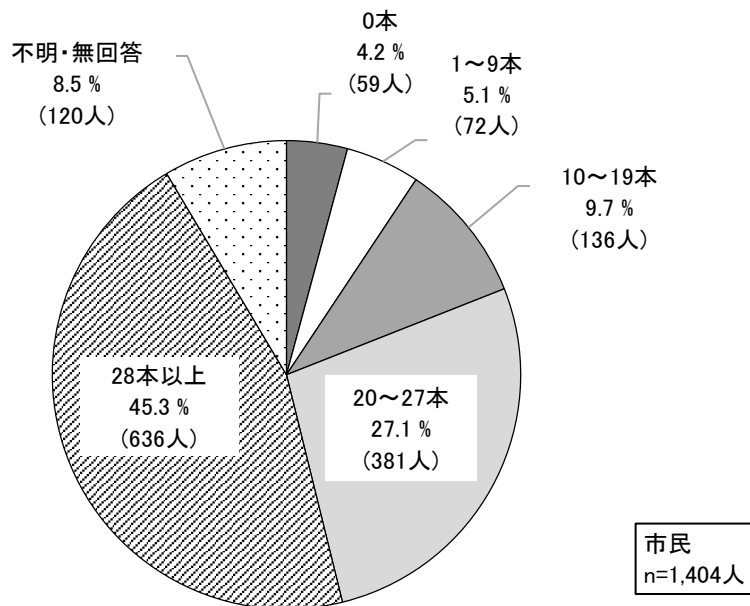
さし歯、親知らずは含みます。親知らずを含むと全部で32本が正常ですが、多少前後することもあります。

0本の場合は、0と書いてください。

5割弱が「28本以上」と回答

「28本以上」と回答した人の割合が5割弱（45.3%）となっている。「28本以上」（45.3%）、「20～27本」（27.1%）と回答した人を合わせた20本以上の割合は7割強（72.4%）となっている。

図 5.18 自身の歯の本数



【性別・年齢別】

「28本以上」「20～27本」を合わせた割合は、30歳代（95.5%）で最も高く9割強となっている。高齢層ほど、「0本」「1～9本」「10～19本」と答えた割合が高くなっている。

性別では、「28本以上」「20～27本」を合わせた割合は、70歳以上を除き、男性より女性で割合が高い。

図 5. 18-2 自分の歯の本数（年齢別・全体）

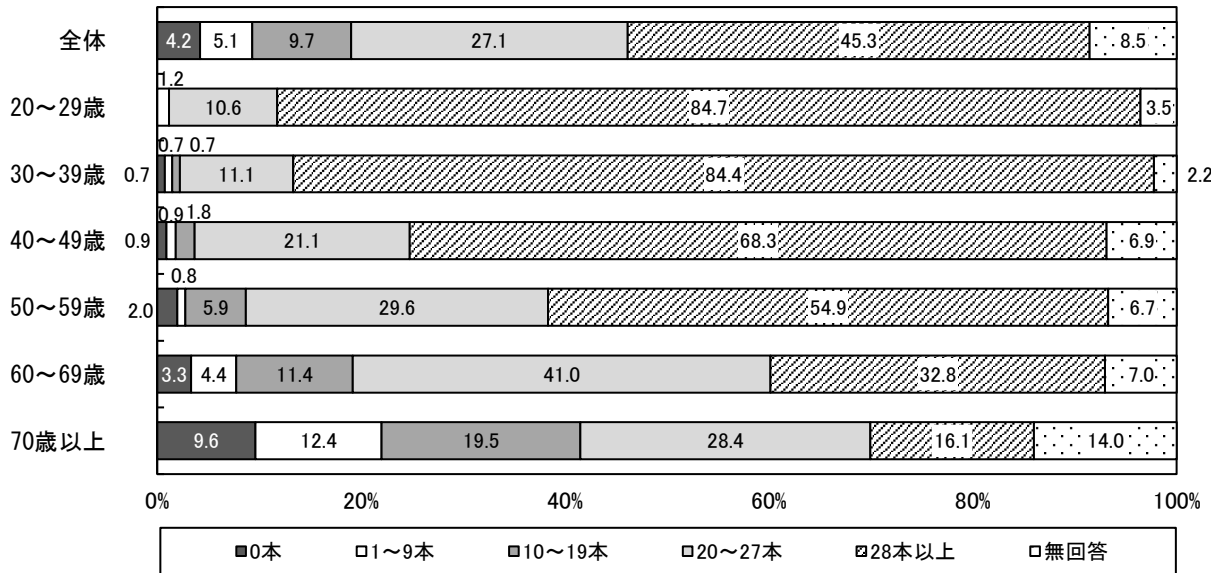
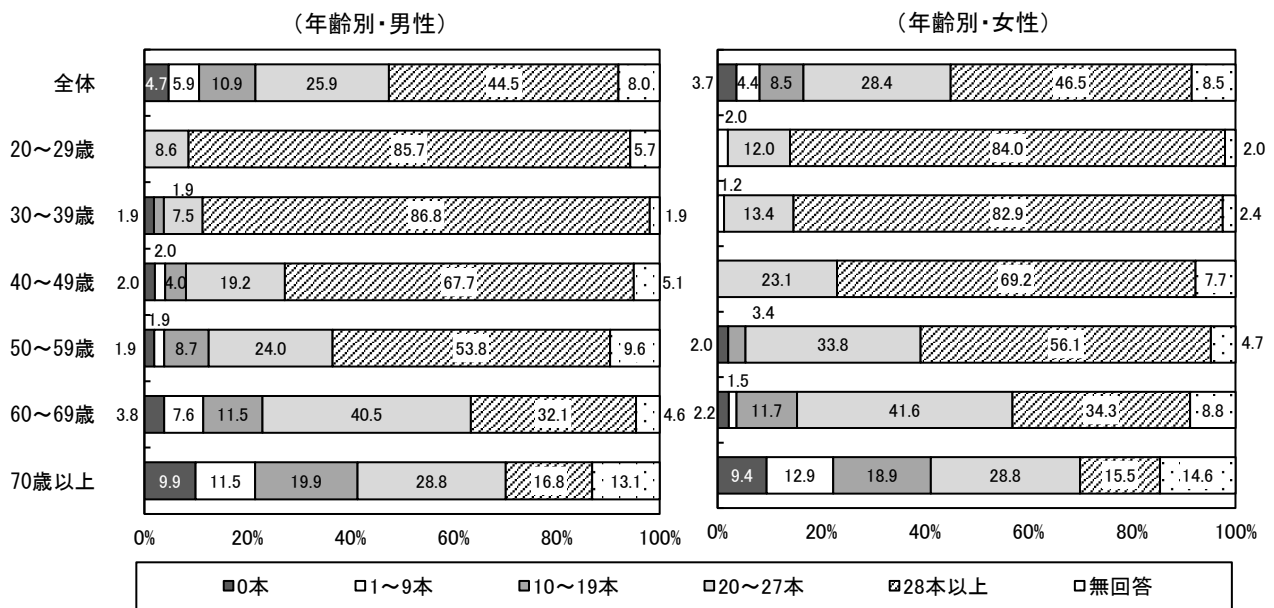


図 5. 18-3 自分の歯の本数



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

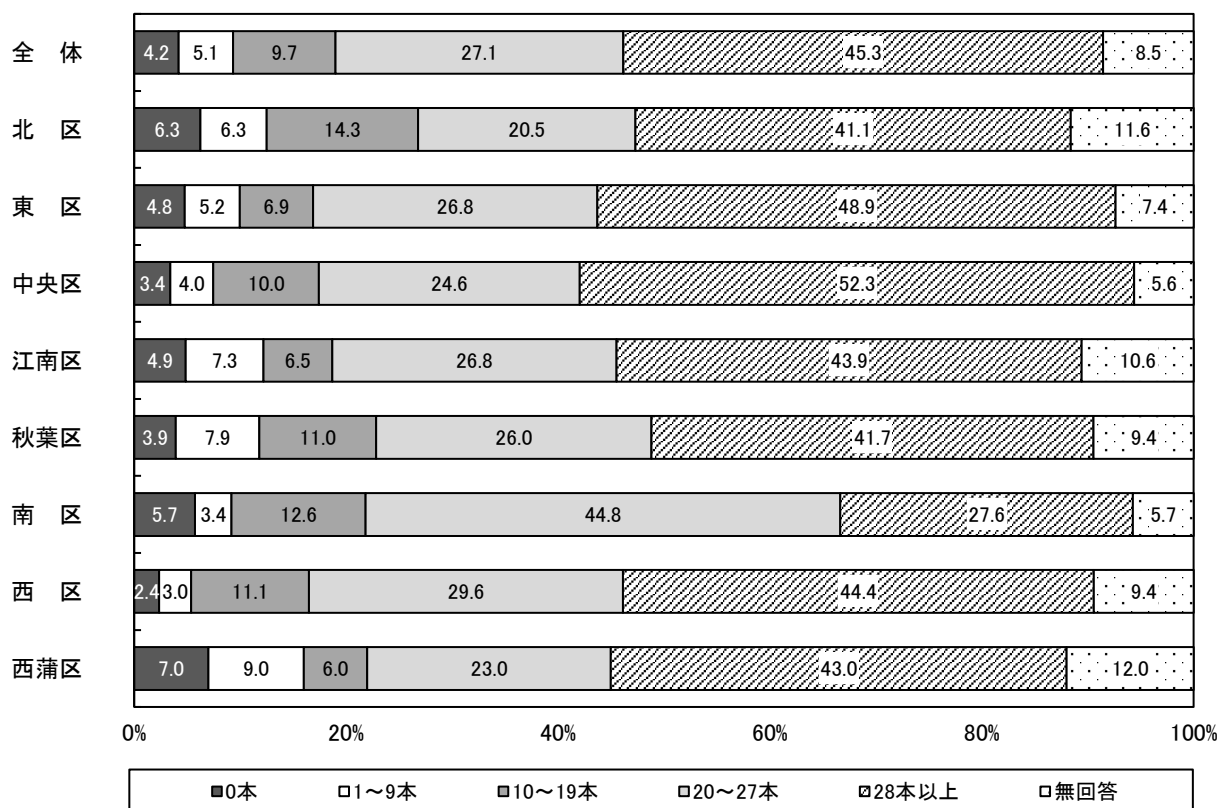
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「28本以上」と回答した人の割合は中央区（52.3%）で最も高い。「28本以上」「20～27本」を合わせた割合は、中央区（76.9%）で最も高く、北区（61.6%）で最も低い。

図 5.18-4 自分の歯の本数（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

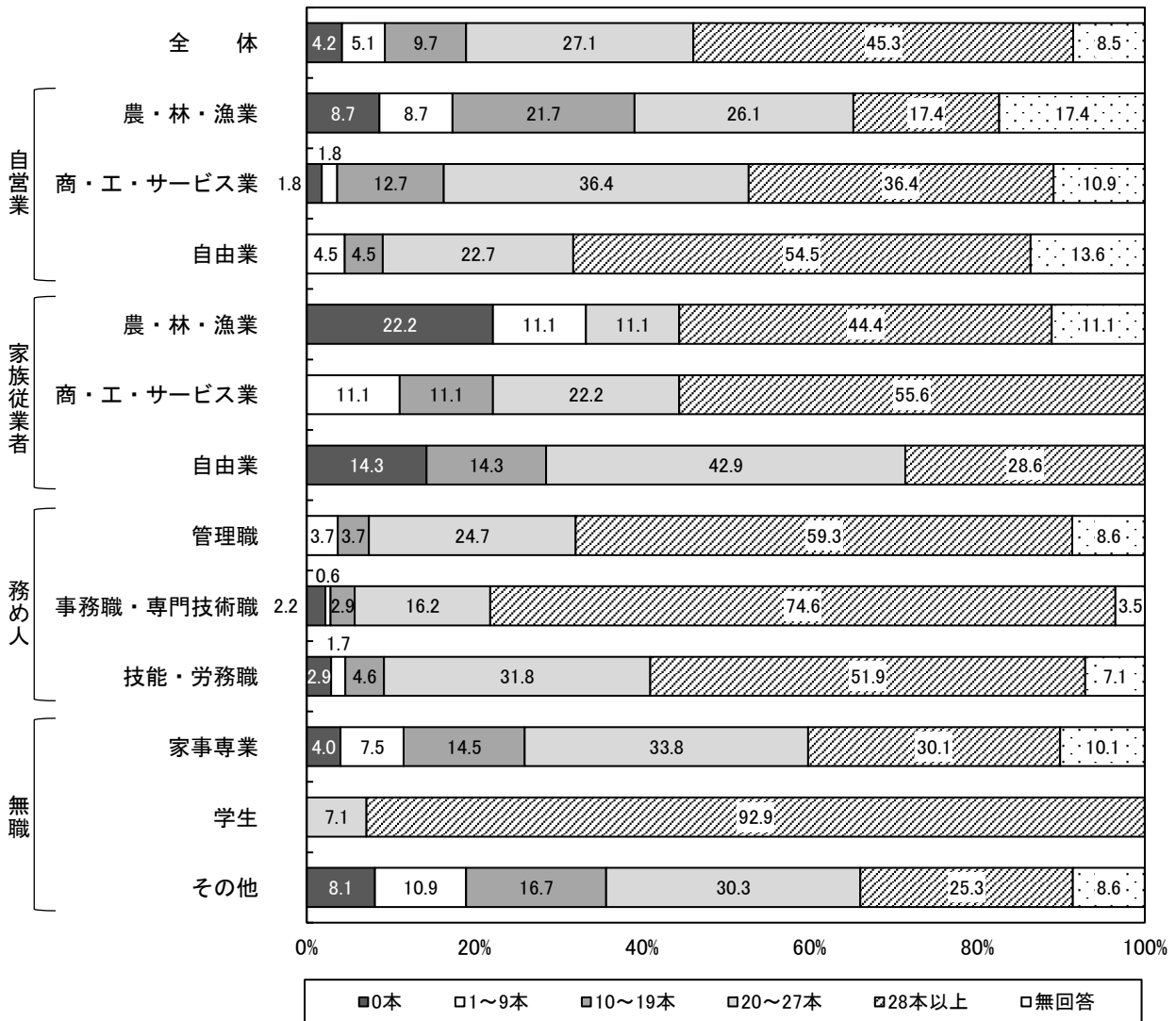
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.18-5 自分の歯の本数（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

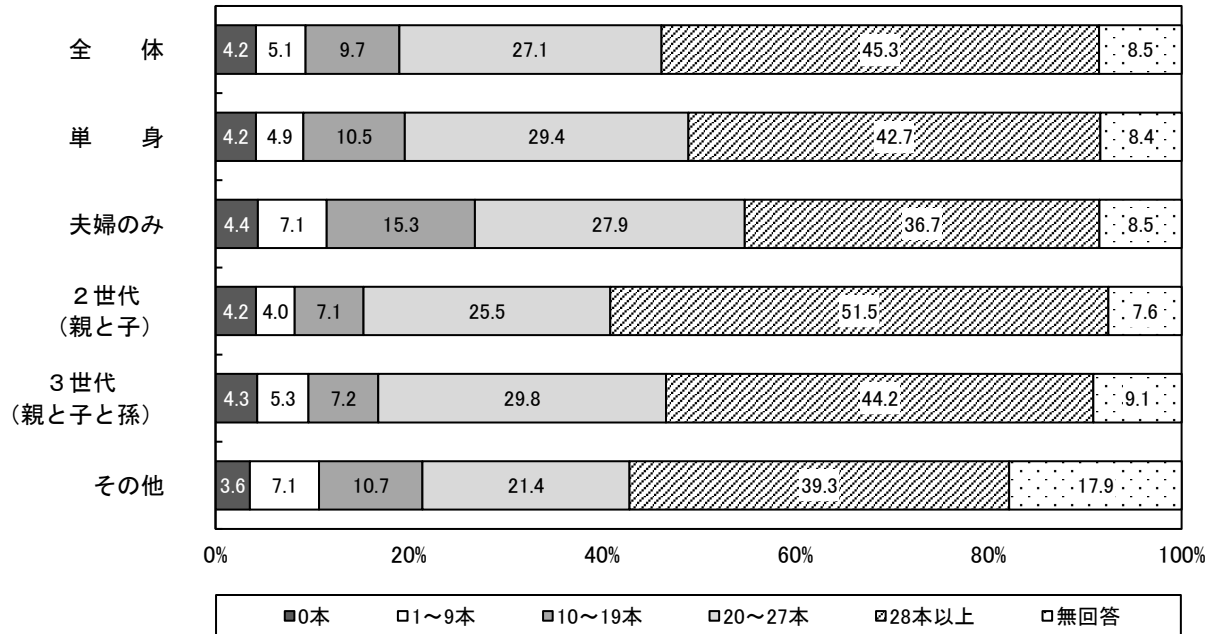
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「28本以上」と回答した人の割合は、2世代（51.5%）で最も高く5割を超えている。「28本以上」「20～27本」を合わせた割合は、2世代（77.1%）で最も高く、その他（60.7%）で最も低い。

図 5.18-6 自分の歯の本数（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(19) 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度

問41 あなたは、「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や、その意味を知っていましたか。（〇は1つだけ）

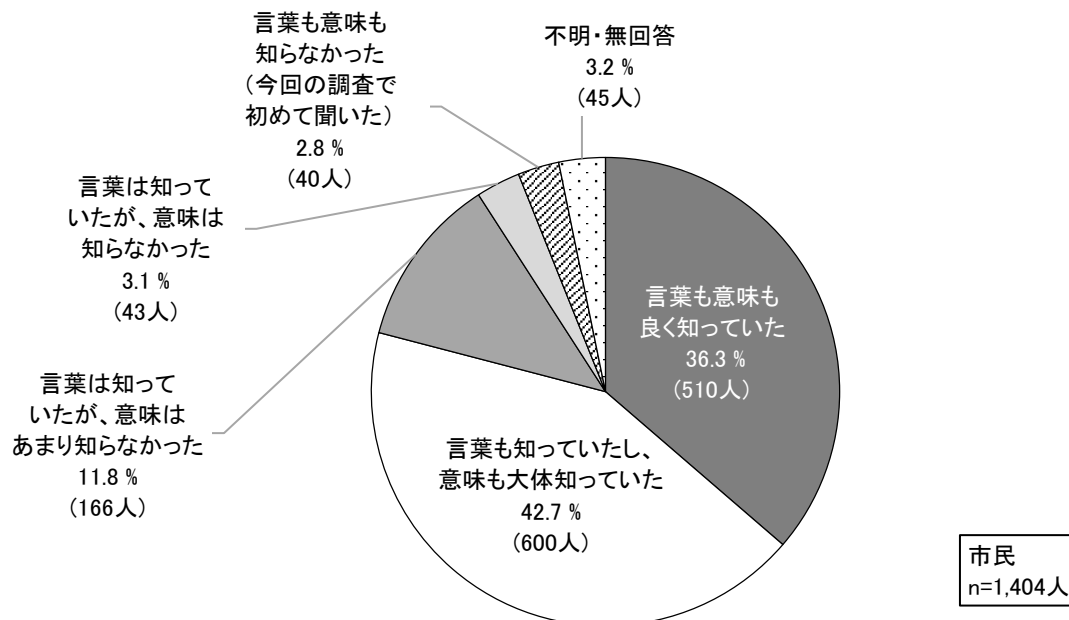
「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」とは

内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常をおこしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態のことです。

8割弱が言葉や意味を認知していると回答

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（36.3%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（42.7%）と回答した人を合わせた割合は8割弱（79.1%）となっている。

図 5.19 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、20歳代（87.1%）で最も高く9割弱となっている。一方、70歳以上では、他の年代に比べ「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」（6.7%）の割合がやや高くなっている。

図 5.19-2 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度
（年齢別・全体）

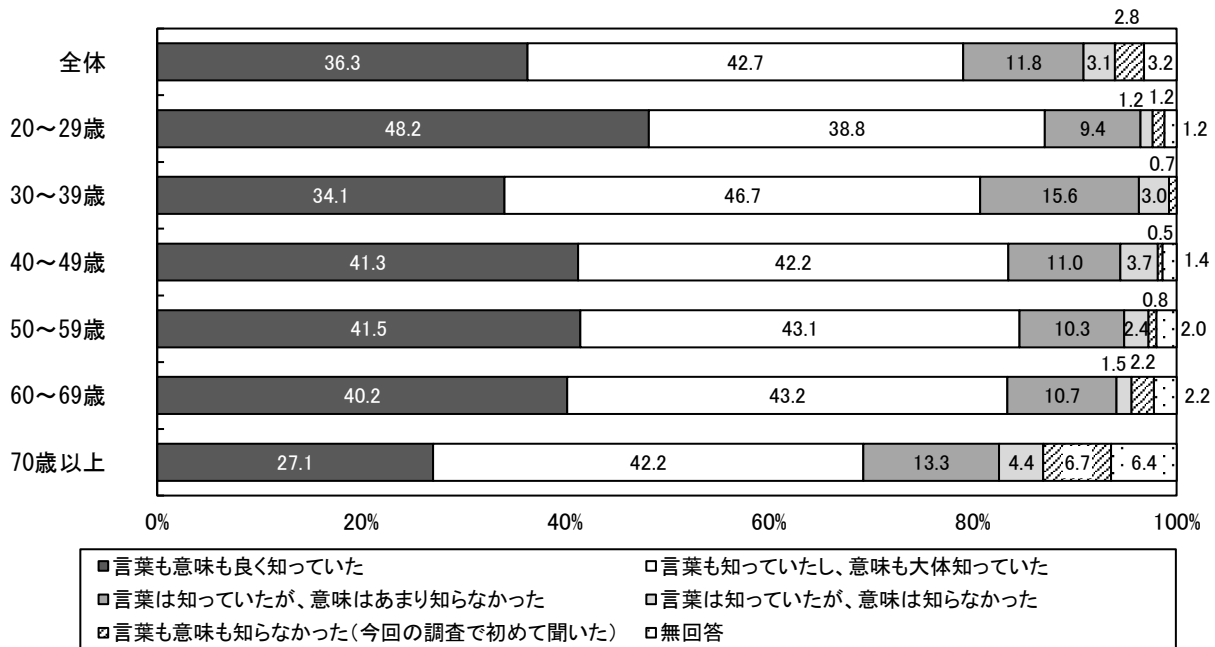
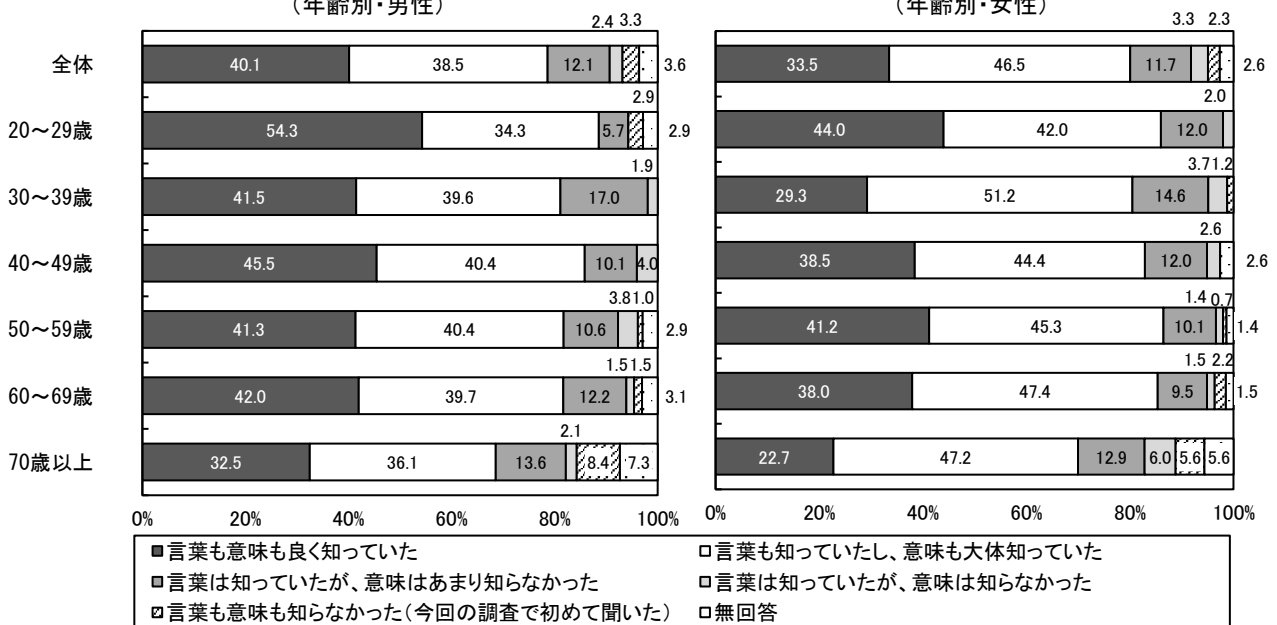


図 5.19-3 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度
（年齢別・男性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

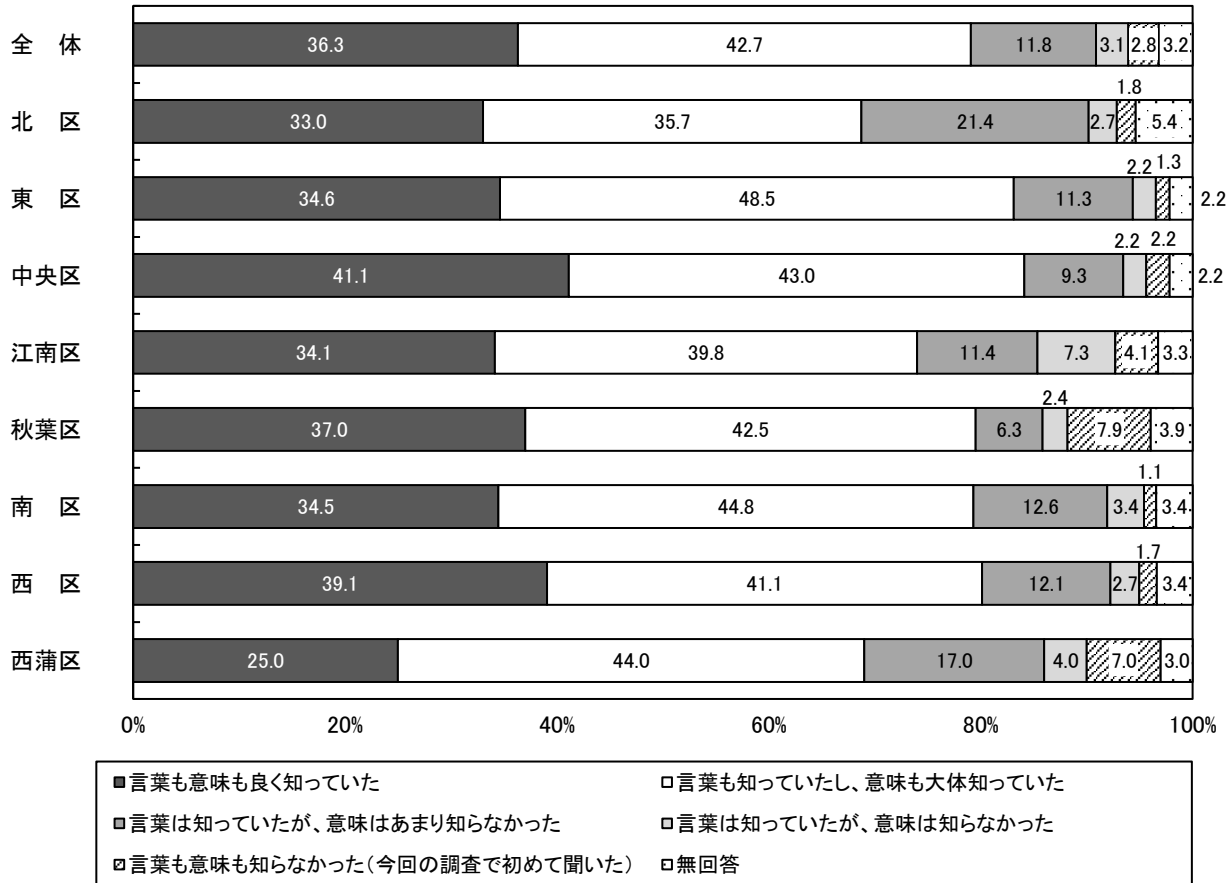
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、東区（83.1%）、中央区（84.1%）、西区（80.1%）で8割を超えている。

図 5.19-4 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

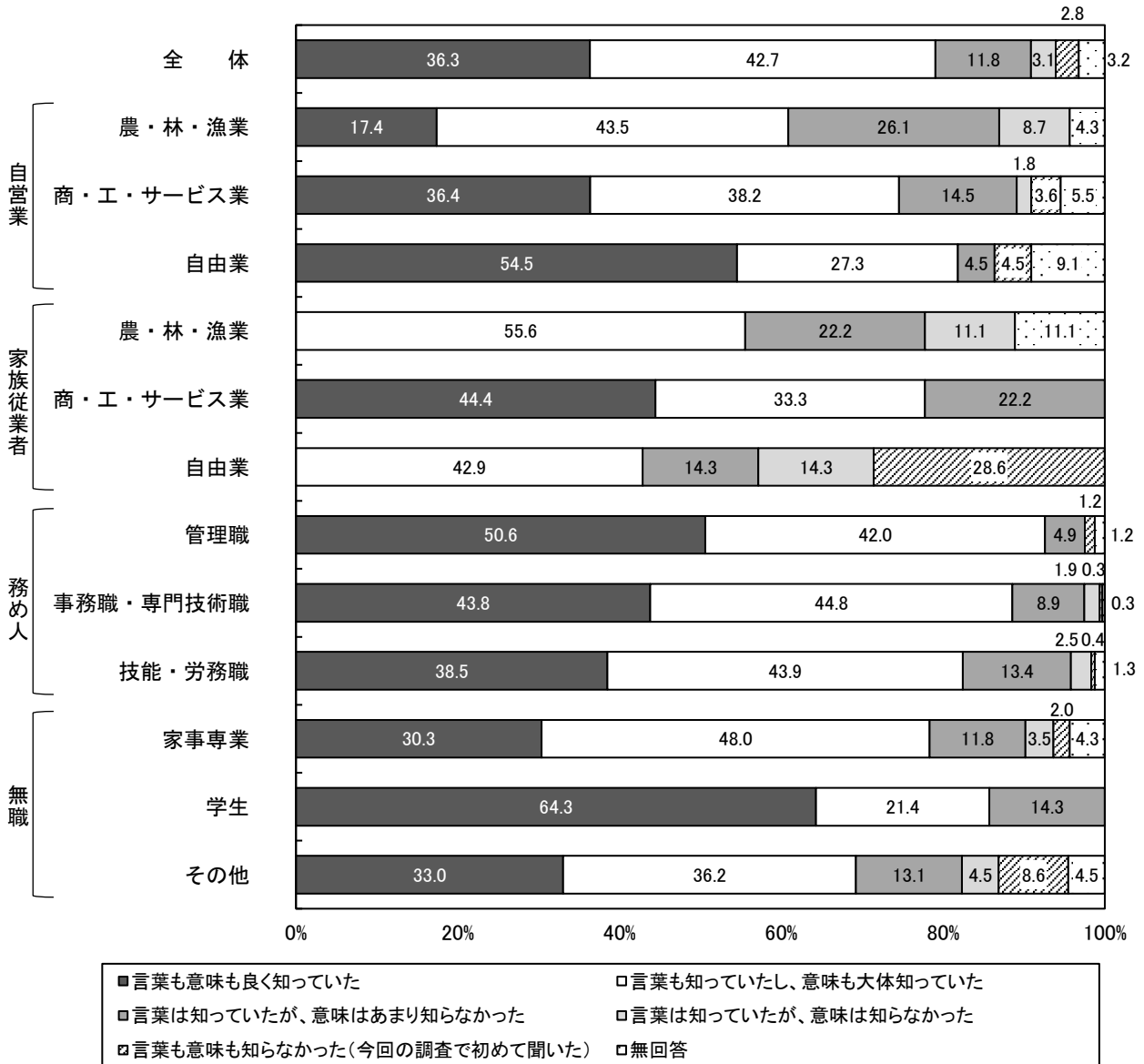
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.19-5 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

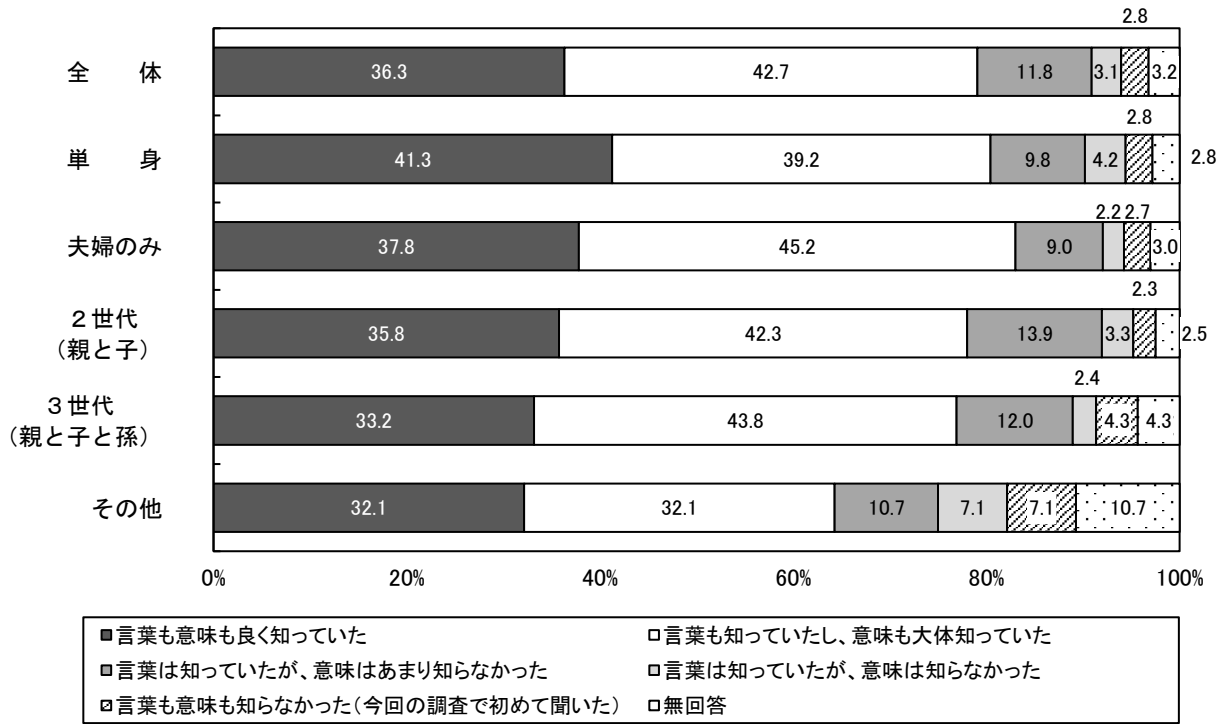
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、夫婦のみ（83.0%）で最も高くなっている。

図 5.19-6 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」という言葉や意味の認知度
(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(20) メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況

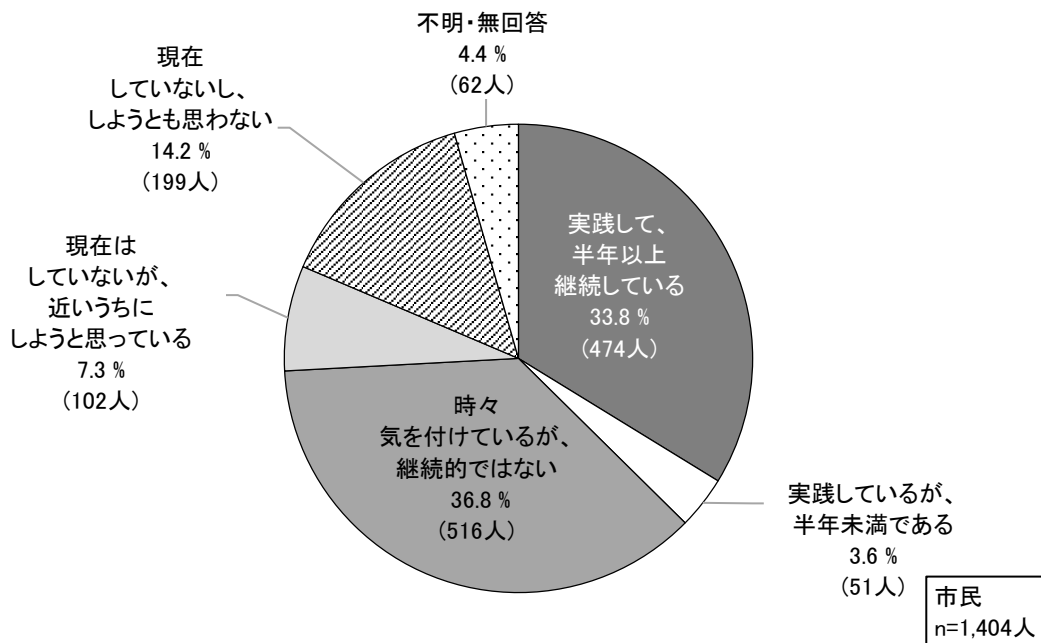
問42 あなたは、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のために、①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか。（○は1つだけ）

4割弱が予防・改善を実践していると回答

期間に程度の差はあるが、予防・改善を「実践して、半年以上継続している」（33.8%）、「実践しているが、半年未満である」（3.6%）と回答した人を合わせた割合は4割弱（37.4%）となっている。

一方、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」（7.3%）、「現在していないし、しようとも思わない」（14.2%）と回答した人を合わせた、現在予防・改善を実践していない人は2割強（21.4%）となっている。

図 5.20 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況



【性別・年齢別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は60歳代（41.7%）で最も高くなっている。一方、「現在していないし、しようとも思わない」の割合は、20歳代（22.4%）で高くなっている。

図 5.20-2 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（年齢別・全体）

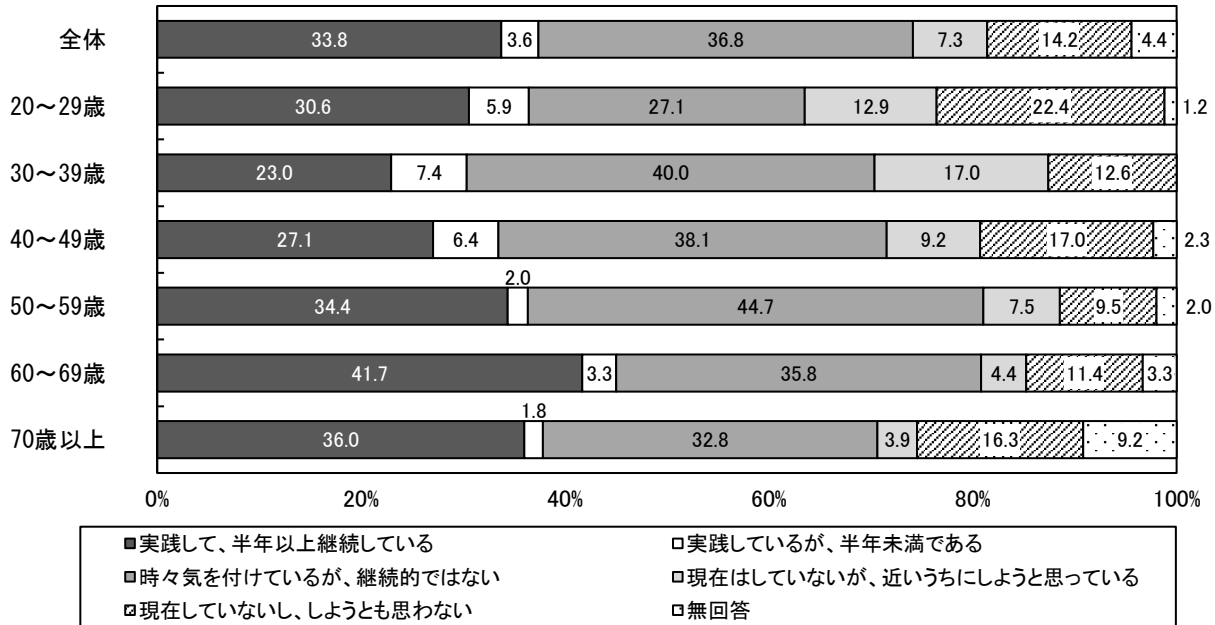
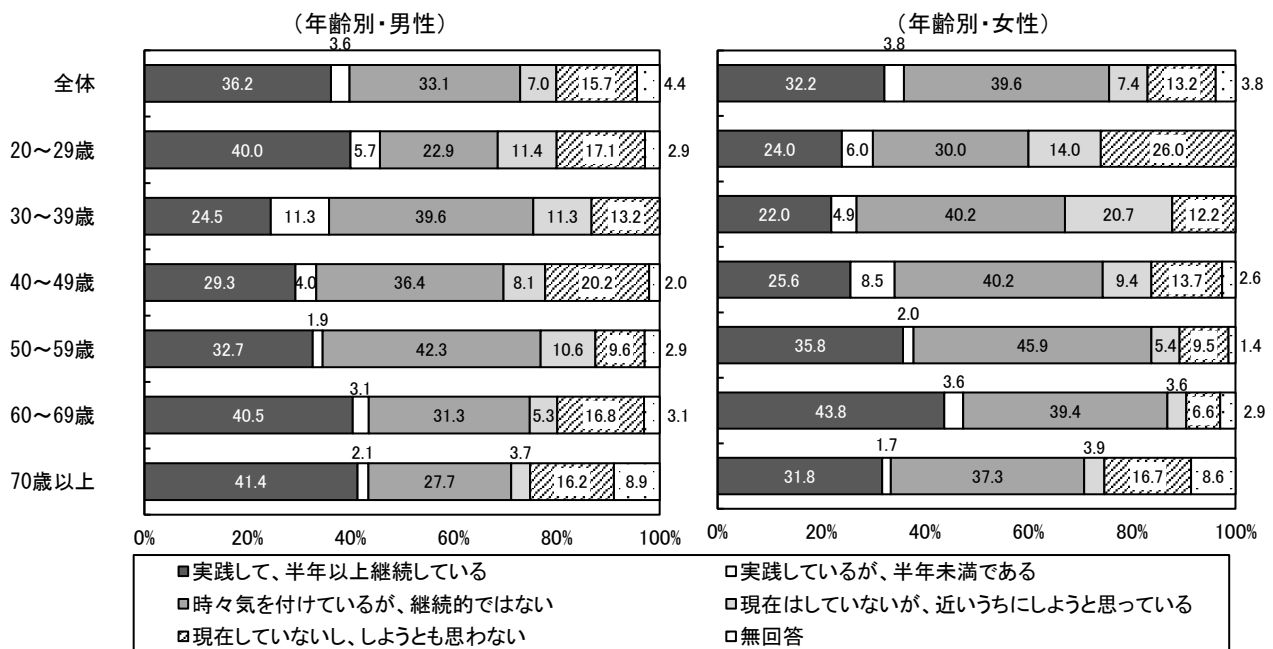


図 5.20-3 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

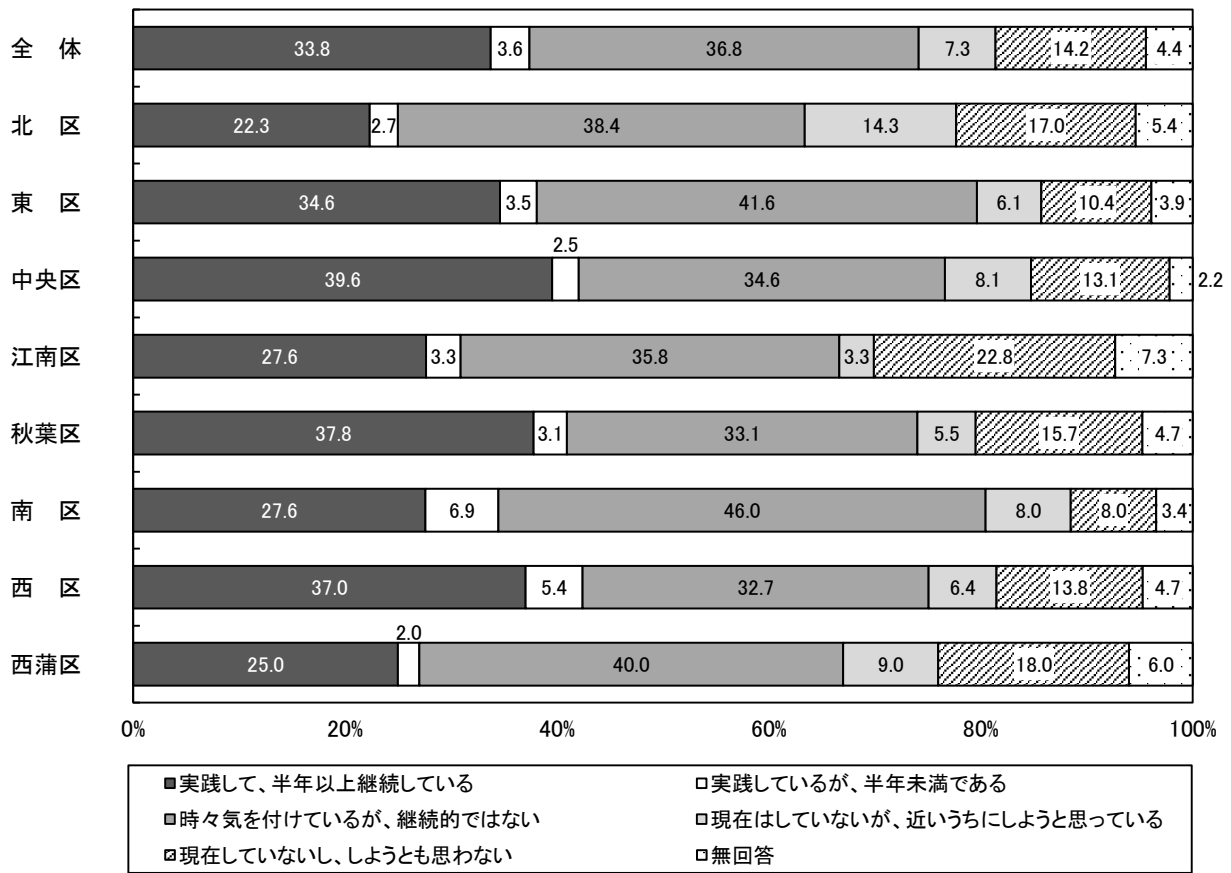
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は、中央区（39.6%）で約4割と最も高くなっている。

図 5.20-4 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

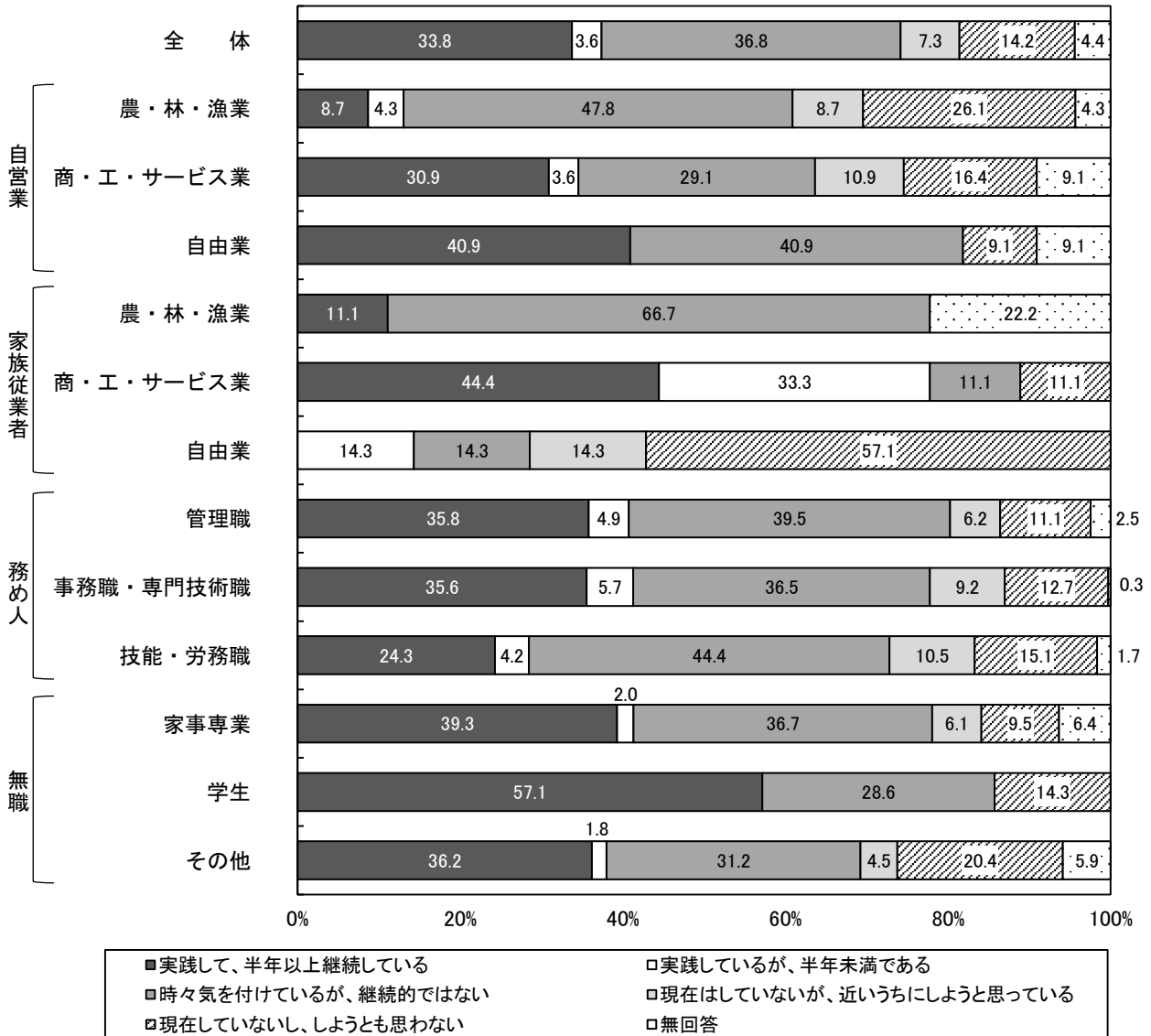
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.20-5 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

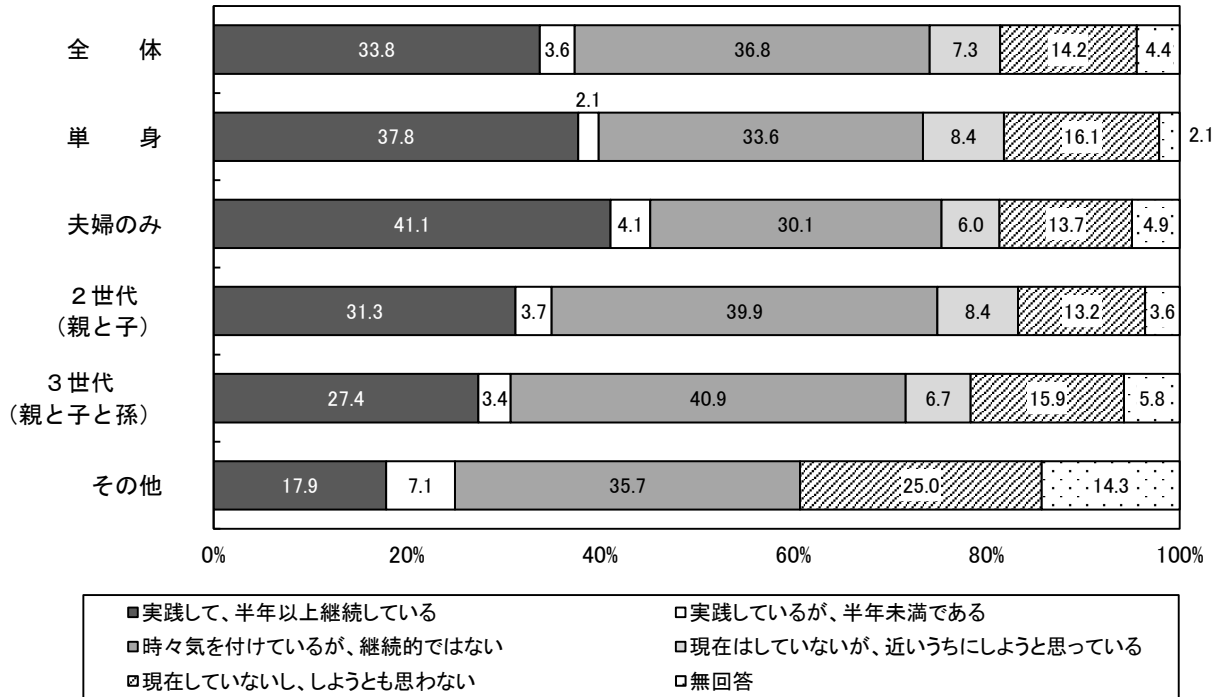
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「実践して、半年以上継続している」の割合は、夫婦のみ（41.1%）で最も高くなっている。一方、「現在していないし、しようとも思わない」の割合は、その他（25.0%）で高く、2割を超えている。

図 5.20-6 メタボリックシンドロームの予防・改善の取り組み状況（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

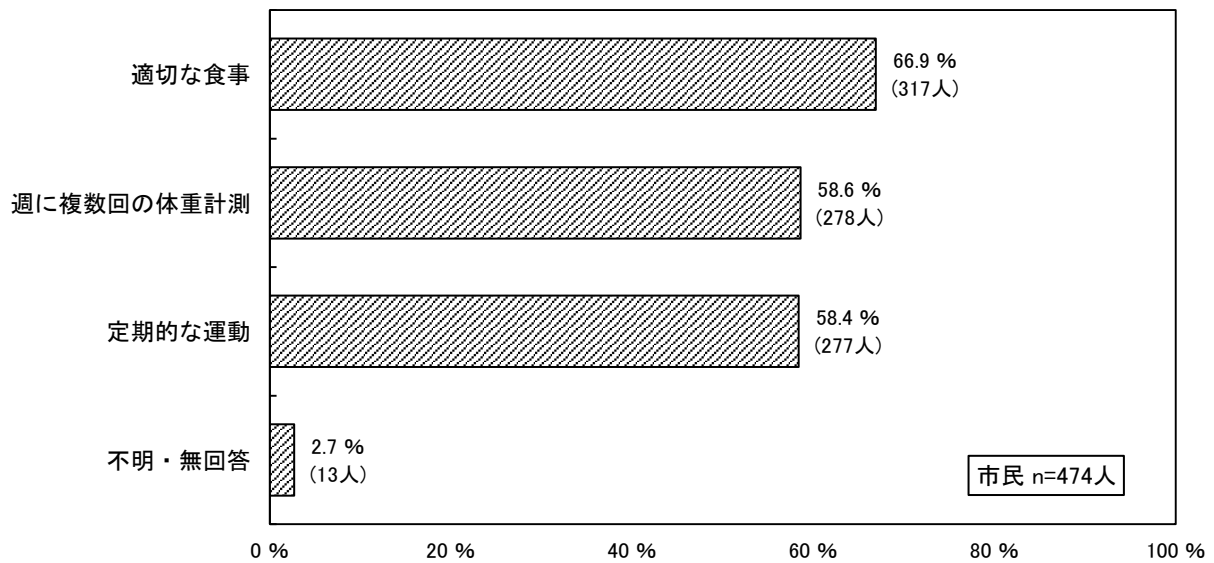
(21) メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること

問42-1 問42で1に○を付けた方にお尋ねします。実践しているものは何ですか。(○はいくつでも)

7割弱が「適切な食事」を実践

メタボリックシンドロームの予防・改善を半年以上実践している人に、具体的な実践内容を聞いたところ、「適切な食事」と回答した人の割合が7割弱(66.9%)で最も高くなっている。「週に複数回の体重計測」(58.6%)、「定期的な運動」(58.4%)と回答した人は6割弱となっている。

図 5.21 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること



【性別・年齢別】

すべての年代で「適切な食事」が最も高く、20歳代は「週に複数回の体重計測」も同率で最も高くなっている。

性別では、「定期的な運動」は男性の方が、「週に複数回の体重計測」は女性の方が、割合が高くなっている。

表 8.1 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・全体）

	対象者	適切な食事	週に複数回の 体重計測	定期的な運動	無回答
計	474	66.9	58.6	58.4	2.7
20～29歳	26	61.5	61.5	53.8	7.7
30～39歳	31	71.0	58.1	54.8	3.2
40～49歳	59	67.8	47.5	59.3	0.0
50～59歳	87	67.8	66.7	52.9	1.1
60～69歳	113	62.8	56.6	61.1	3.5
70歳以上	157	69.4	59.9	60.5	3.2
年齢不明	1	0.0	0.0	100.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 8.2 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・男性）

	対象者	適切な食事	週に複数回の 体重計測	定期的な運動	無回答
計	222	65.8	51.8	64.0	4.1
20～29歳	14	71.4	50.0	78.6	14.3
30～39歳	13	69.2	46.2	53.8	0.0
40～49歳	29	51.7	34.5	79.3	0.0
50～59歳	34	73.5	61.8	61.8	0.0
60～69歳	53	62.3	50.9	58.5	5.7
70歳以上	79	68.4	55.7	62.0	5.1
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 8.3 メタボリックシンドロームの予防・改善のために実践していること（年齢別・女性）

	対象者	適切な食事	週に複数回の 体重計測	定期的な運動	無回答
計	247	68.0	65.2	53.4	1.6
20～29歳	12	50.0	75.0	25.0	0.0
30～39歳	18	72.2	66.7	55.6	5.6
40～49歳	30	83.3	60.0	40.0	0.0
50～59歳	53	64.2	69.8	47.2	1.9
60～69歳	60	63.3	61.7	63.3	1.7
70歳以上	74	70.3	64.9	59.5	1.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

(22) 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度

問43 あなたは、「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つだけ）

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」とは

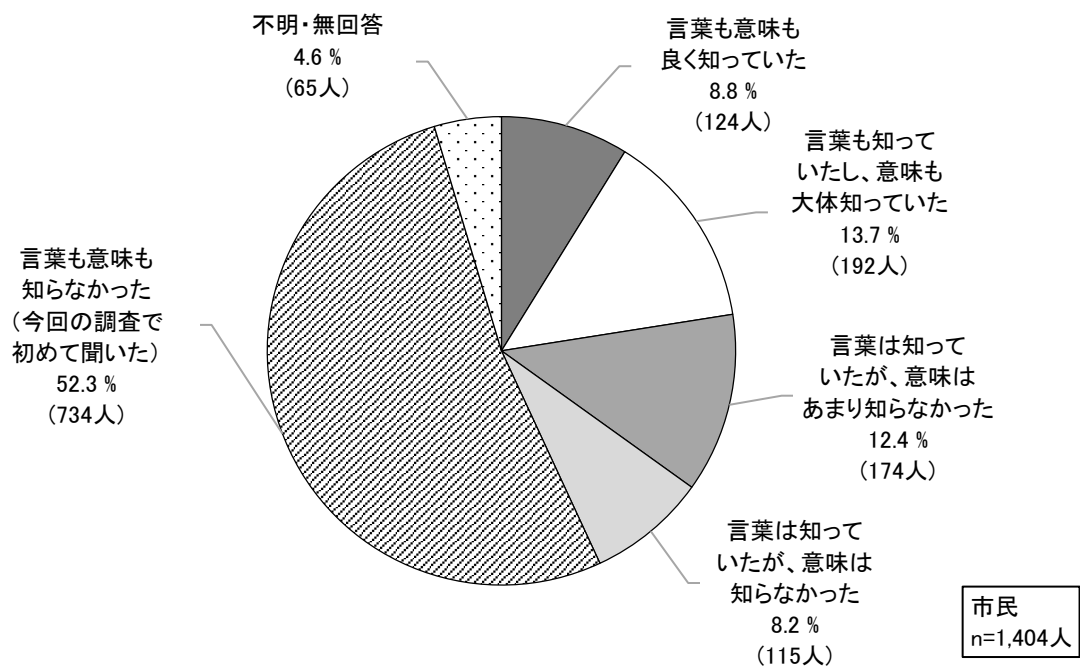
筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障がいが起こり、歩行や日常生活に何らかの機能低下をきたして、要介護になっていたり、要介護になる危険の高い状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）」といいます。

5割強が「言葉も意味も知らなかった」と回答

「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知の程度については、「言葉も意味も良く知っていた」（8.8%）、「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」（13.7%）と回答した人を合わせた割合は2割強（22.5%）となっている。

一方、「言葉も意味も知らなかった（今回の調査で初めて聞いた）」と回答した人の割合が、5割強（52.3%）と高くなっている。

図 5.22 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度



【性別・年齢別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、20歳代(29.4%)が最も高くなっている。

性別では、各年代とも「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」と答えた割合は、女性の方が高くなっている。

図 5.22-2 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度

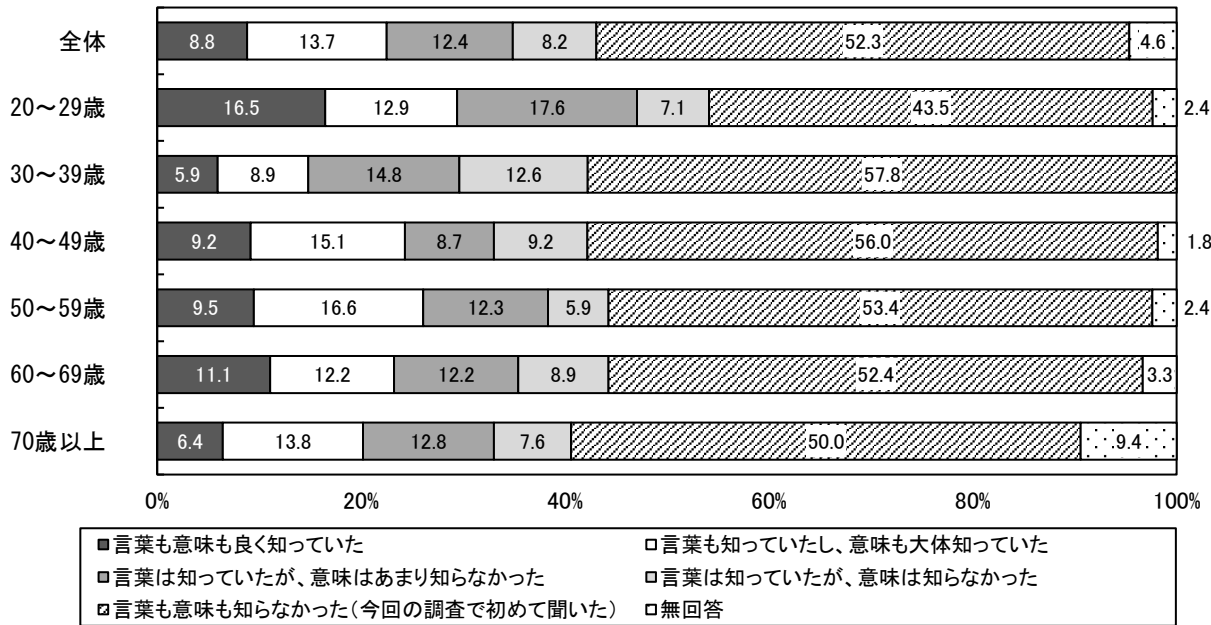
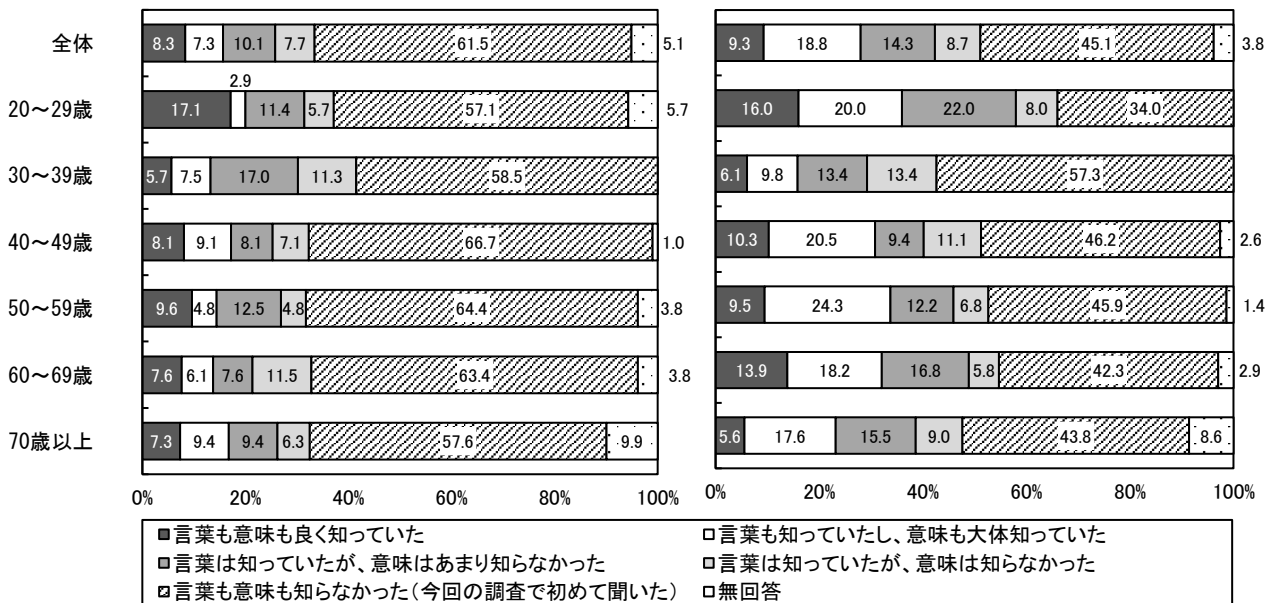


図 5.22-3 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度
(年齢別・男性) (年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

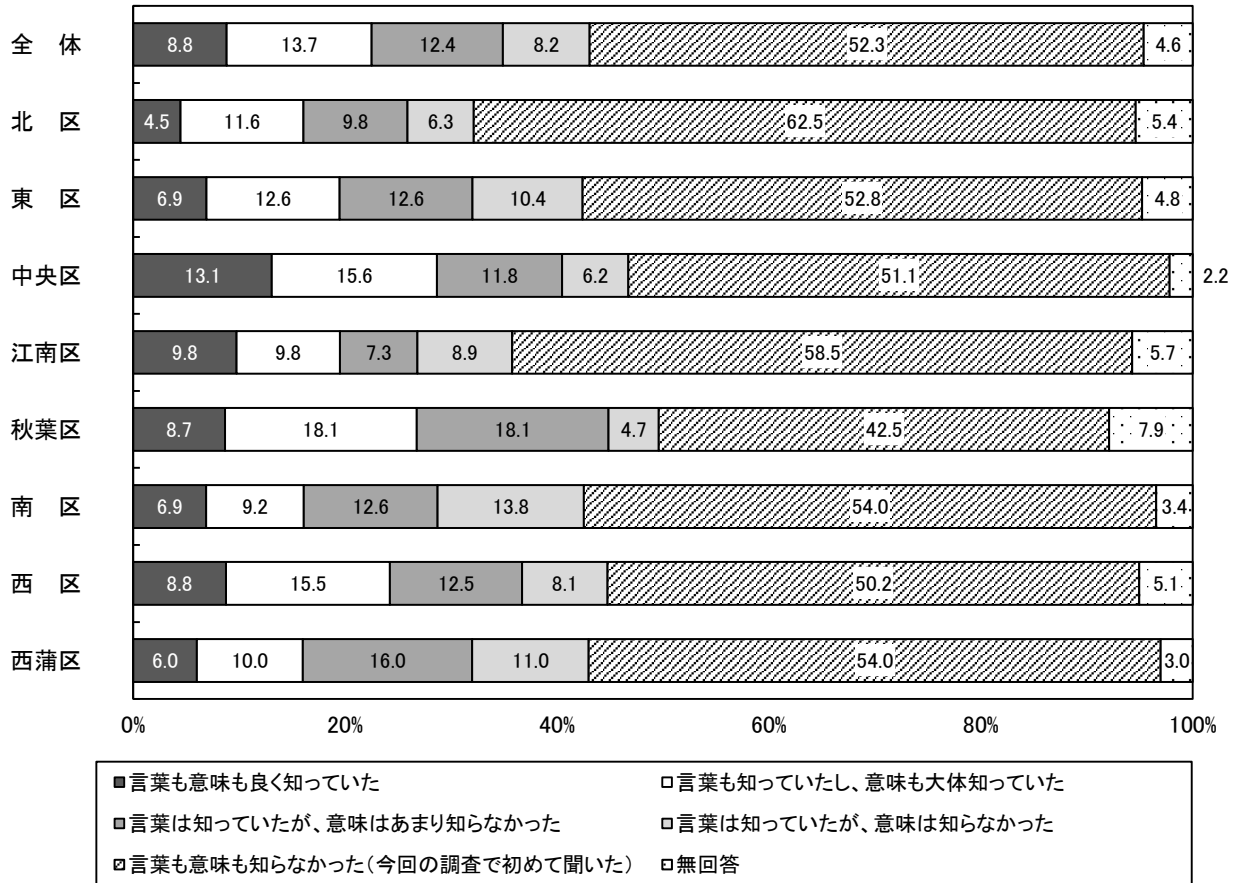
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、中央区（28.7%）が最も高くなっている。

図 5.22-4 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

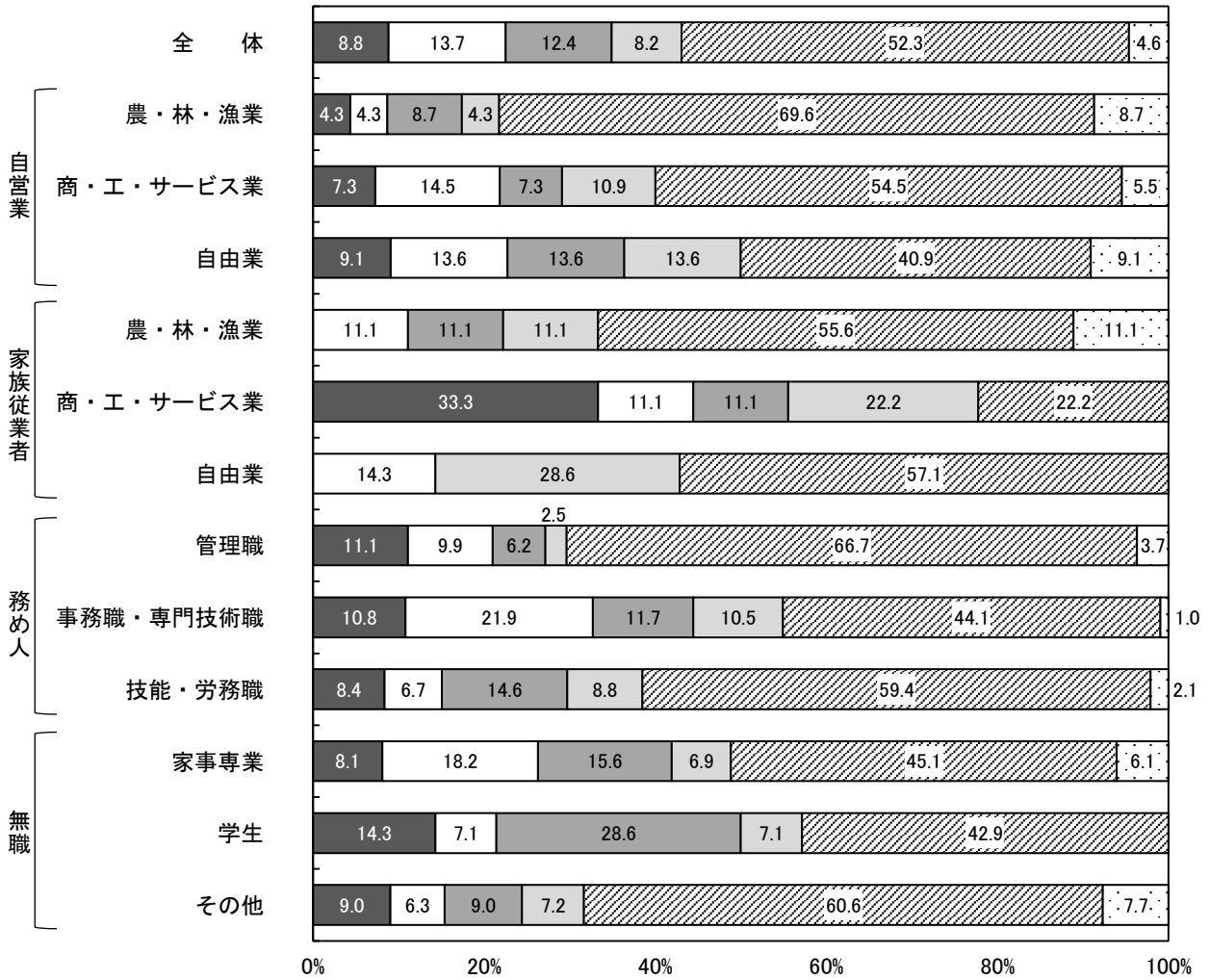
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.22-5 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（職業別）



言葉も意味も良く知っていた
 言葉も知っていたし、意味も大体知っていた
 言葉は知っていたが、意味はあまり知らなかった
 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
 言葉も意味も知らなかった(今回の調査で初めて聞いた)
 無回答

全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

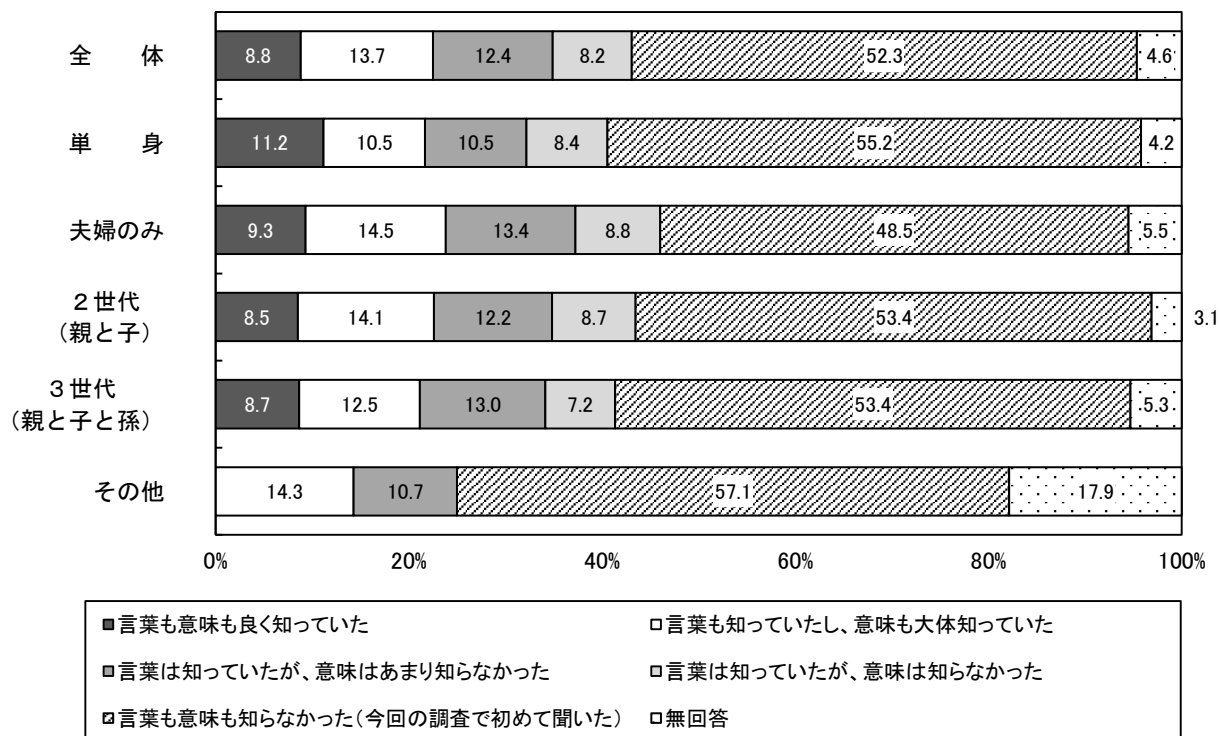
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「言葉も意味も良く知っていた」「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」を合わせた割合は、夫婦のみ（23.8%）で最も高くなっている。

図 5.22-6 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉や意味の認知度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(23) 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況

問44 あなたは過去1年間に市や職場などで行われる健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか。（受けたもの全てに○）
 ※含まれない健（検）診…がんのみの検診、妊産婦健診、病院・診療所で行う診療としての検査

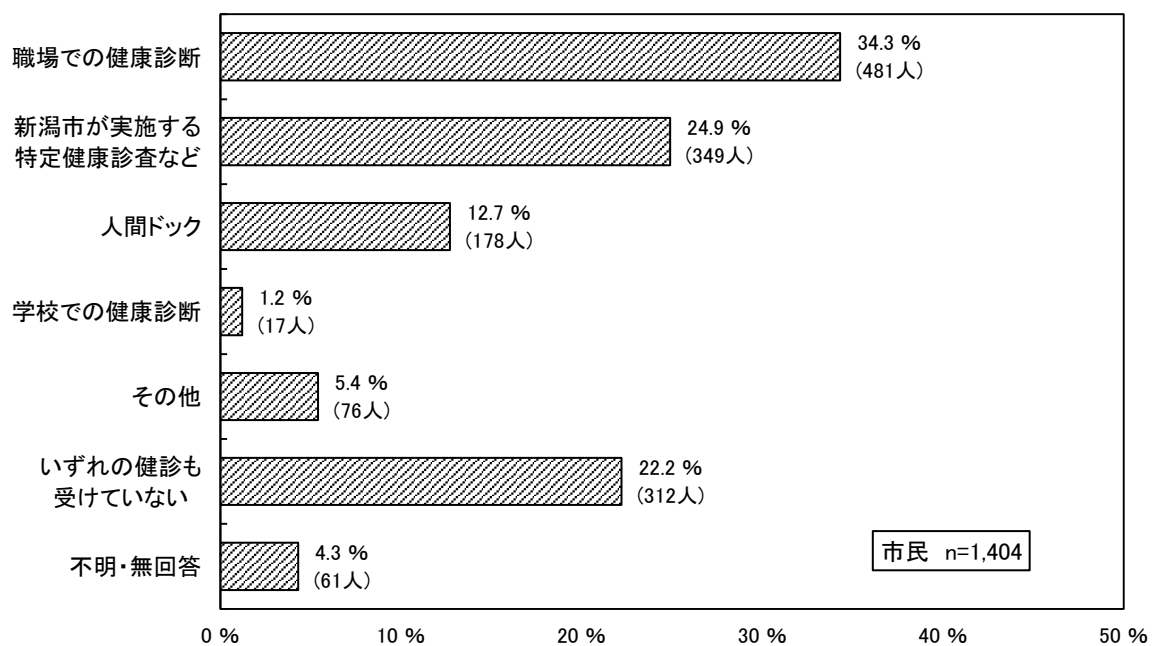
3割強が「職場での健康診断」を受診

【全体結果】

健（検）診の機会は、「職場での健康診断」と回答した人が3割強（34.3%）となっている。以下「新潟市が実施する特定健康診査など」（24.9%）、「人間ドック」（12.7%）が続いている。

一方、「いずれの健（検）診も受けていない」と回答した人は2割強（22.2%）となっている。

図 5.23 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況



【性別・年齢別】

50歳代以下では「職場での健康診断」と回答した人が最も多く、60歳以上では「新潟市が実施する特定健康診査など」と回答した人が多くなっている。

性別では、30歳以上では「職場での健康診断」「人間ドック」の割合は男性の方が高く、「新潟市が実施する特定健康診査など」の割合は女性の方が高くなっている。

表 9.1 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・全体）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	1,404	34.3	24.9	12.7	1.2	5.4	22.2	4.3
20～29歳	85	61.2	5.9	1.2	16.5	0.0	16.5	1.2
30～39歳	135	71.1	5.2	5.9	0.0	0.0	20.7	0.0
40～49歳	218	56.0	9.6	17.4	0.0	2.8	17.4	1.4
50～59歳	253	50.6	12.3	24.1	0.4	2.0	15.0	2.0
60～69歳	271	25.8	31.7	14.8	0.4	6.6	26.2	2.2
70歳以上	436	3.0	45.2	6.9	0.2	10.8	28.0	9.9
年齢不明	6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0

対象者：人/回答：%

表 9.2 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・男性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	613	38.2	22.5	15.7	1.8	6.0	17.9	4.1
20～29歳	35	51.4	8.6	0.0	25.7	0.0	17.1	2.9
30～39歳	53	86.8	3.8	7.5	0.0	0.0	3.8	0.0
40～49歳	99	63.6	8.1	22.2	0.0	1.0	9.1	0.0
50～59歳	104	55.8	6.7	27.9	1.0	0.0	12.5	2.9
60～69歳	131	31.3	27.5	16.8	0.0	8.4	23.7	2.3
70歳以上	191	4.2	42.9	9.9	0.5	13.1	25.7	9.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 9.3 最近1年間の健（検）診や人間ドックの受診状況（年齢別・女性）

	対象者	職場での健康診断	新潟市が実施する特定健康診査など	人間ドック	学校での健康診断	その他	いずれの健診も受けていない	無回答
計	613	31.8	26.2	10.6	0.8	4.8	25.7	4.0
20～29歳	50	68.0	4.0	2.0	10.0	0.0	16.0	0.0
30～39歳	82	61.0	6.1	4.9	0.0	0.0	31.7	0.0
40～49歳	117	50.4	10.3	13.7	0.0	3.4	24.8	2.6
50～59歳	148	46.6	16.2	21.6	0.0	3.4	16.9	1.4
60～69歳	137	19.7	35.8	12.4	0.7	5.1	28.5	2.2
70歳以上	233	2.1	46.8	4.7	0.0	9.0	30.0	9.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

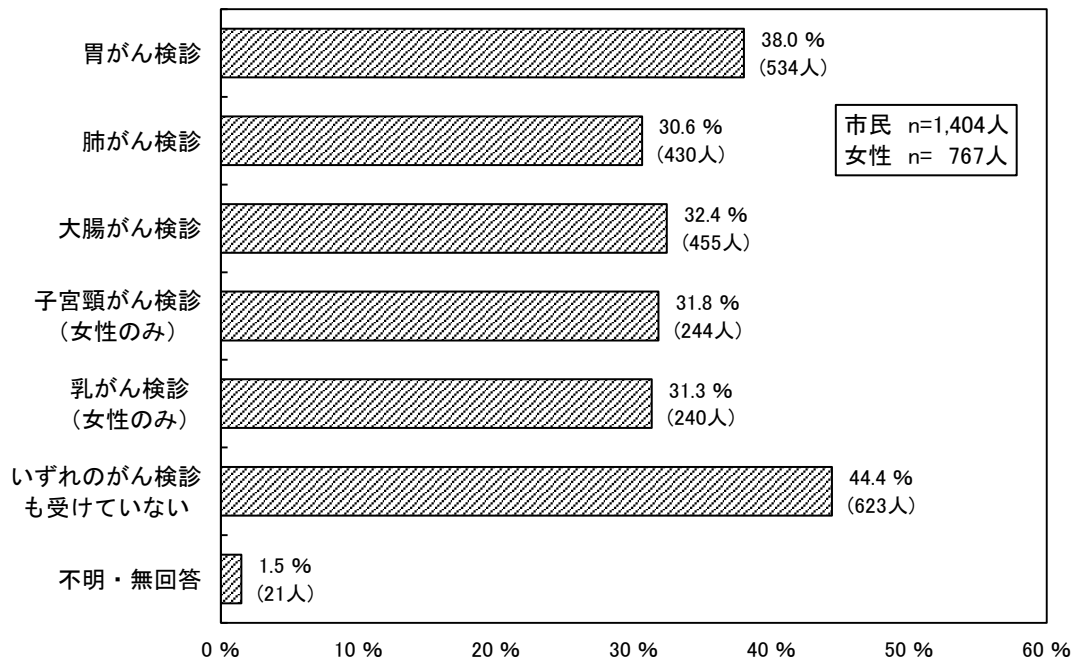
(24) 最近1年間のがん検診の受診状況

問45 あなたは過去1年間（子宮頸がんまたは乳がん検診は過去2年間）にがん検診を受けましたか。
（受けたもの全てに○）

4割強が「いずれのがん検診も受けていない」と回答

「いずれのがん検診も受けていない」と回答した人が4割強（44.4%）となっている。
一方、受診したがん検診については、「胃がん検診」の回答が最も多く、4割弱（38.0%）となっている。また、女性のみが対象の「子宮頸がん検診」（31.8%）、「乳がん検診」（31.3%）は3割強となっている。

図 5.24 最近1年間のがん検診の受診状況



【性別・年齢別】

「胃がん検診」「肺がん検診」「大腸がん検診」の割合は、60歳代で最も高くなっている。

女性が対象の「子宮頸がん検診」の割合は、30歳代から40歳代で高く、5割前後となっている。「乳がん検診」の割合は、40歳代から50歳代で5割前後となっている。

表 10.1 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・全体）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	1,404	38.0	30.6	32.4	31.8	31.3	44.4	1.5
20～29歳	85	0.0	1.2	0.0	42.0	2.0	74.1	0.0
30～39歳	135	7.4	4.4	7.4	48.8	23.2	60.0	0.0
40～49歳	218	29.8	22.9	23.4	52.1	50.4	44.5	0.0
50～59歳	253	46.2	39.5	38.7	41.9	49.3	37.9	0.8
60～69歳	271	50.9	41.7	44.3	26.3	35.0	37.6	0.7
70歳以上	436	45.9	36.0	39.9	10.3	17.2	41.7	3.9
年齢不明	6	66.7	50.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

対象者：人/回答：%

表 10.2 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・男性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	613	40.8	32.3	35.9	-	-	52.0	2.0
20～29歳	35	0.0	2.9	0.0	-	-	97.1	0.0
30～39歳	53	7.5	1.9	3.8	-	-	90.6	0.0
40～49歳	99	31.3	24.2	27.3	-	-	65.7	0.0
50～59歳	104	45.2	36.5	39.4	-	-	48.1	1.0
60～69歳	131	52.7	42.0	45.8	-	-	41.2	1.5
70歳以上	191	51.8	41.4	47.1	-	-	35.6	4.7
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 10.3 最近1年間のがん検診の受診状況（年齢別・女性）

	対象者	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	いずれのがん検診も受けていない	無回答
計	767	34.9	28.8	29.5	31.8	31.3	38.7	1.2
20～29歳	50	0.0	0.0	0.0	42.0	2.0	58.0	0.0
30～39歳	82	7.3	6.1	9.8	48.8	23.2	40.2	0.0
40～49歳	117	27.4	20.5	19.7	52.1	50.4	27.4	0.0
50～59歳	148	46.6	41.2	38.5	41.9	49.3	31.1	0.7
60～69歳	137	48.9	41.6	42.3	26.3	35.0	34.3	0.0
70歳以上	233	40.3	31.8	34.3	10.3	17.2	47.2	3.4
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

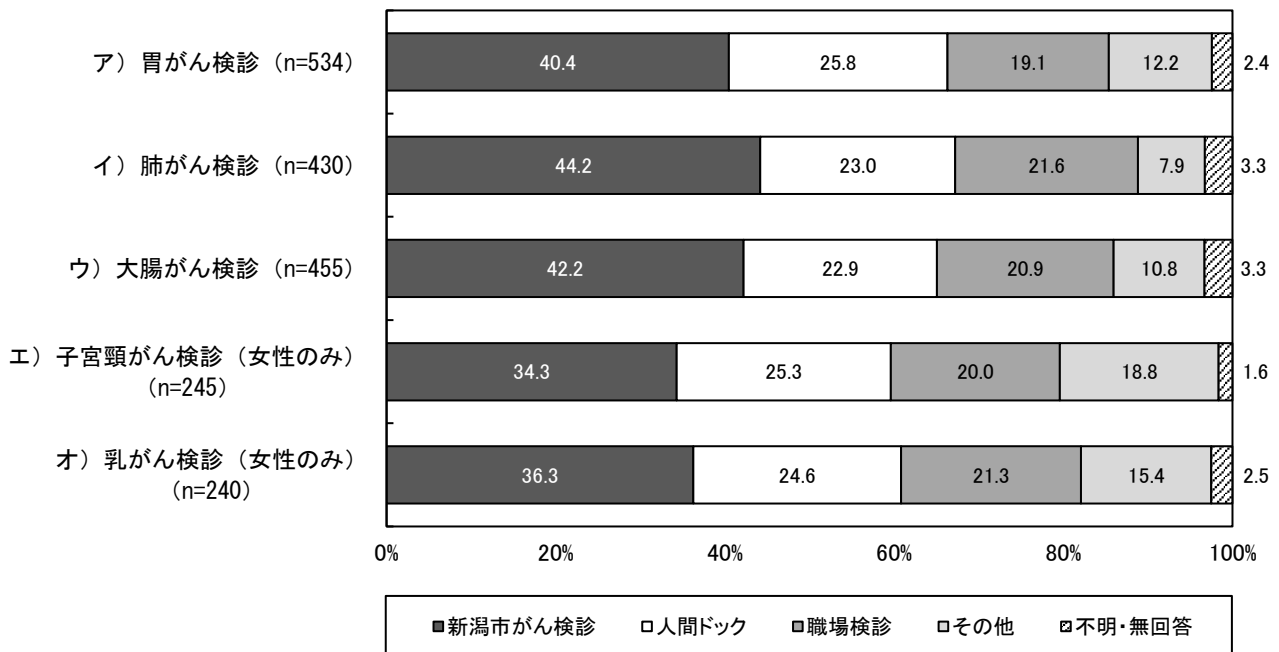
(25) がん検診の検診場所

問46 がん検診を受けた方にお尋ねします。それぞれどこで検診を受けましたか。
(がん検診ごとに○は1つだけ) ア～ウは全員、エ、オは女性のみお答えください。

検診場所は「新潟市がん検診」が最も多い

いずれのがん検診も「新潟市がん検診」と回答した人が最も多くなっており、なかでも「肺がん検診」(44.2%)の割合が最も高く、以下、「大腸がん検診」(42.2%)が4割強、「胃がん検診」(40.4%)が約4割となっている。

図 5.25 がん検診の検診場所



	全体	新潟市がん検診	人間ドック	職場検診	その他	無回答
ア) 胃がん検診	534	216	138	102	65	13
イ) 肺がん検診	430	190	99	93	34	14
ウ) 大腸がん検診	455	192	104	95	49	15
エ) 子宮頸がん検診(女性のみ)	245	84	62	49	46	4
オ) 乳がん検診(女性のみ)	240	87	59	51	37	6

(人)

ア) 胃がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（61.5%）で高く6割を超えている。「人間ドック」の割合は、50歳代（43.6%）で最も高く4割強となっている。

図 5.25-2 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

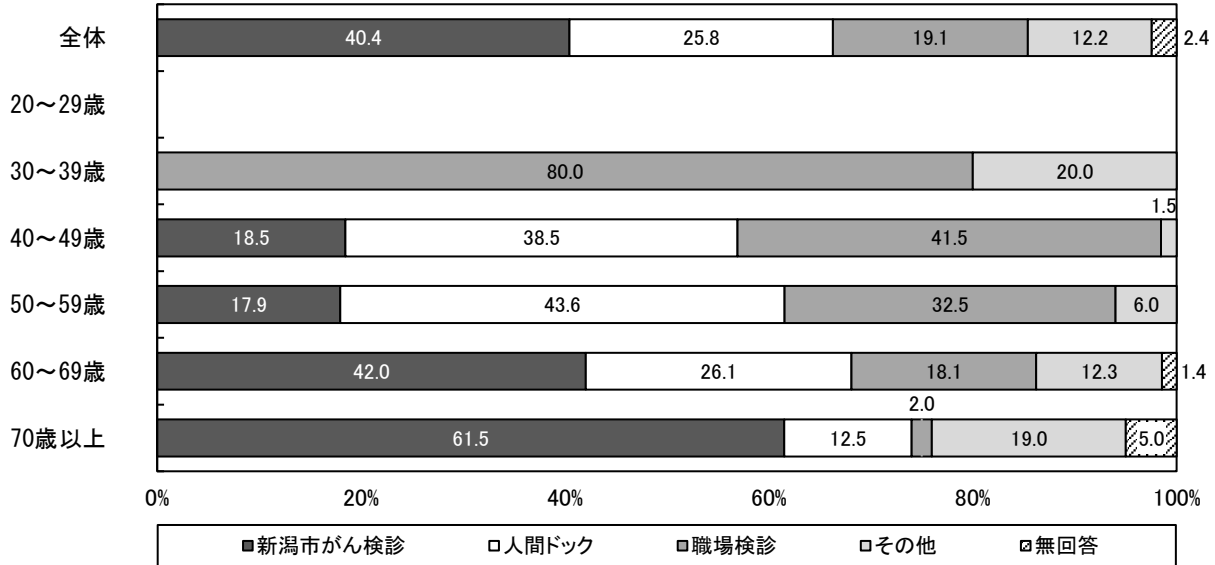
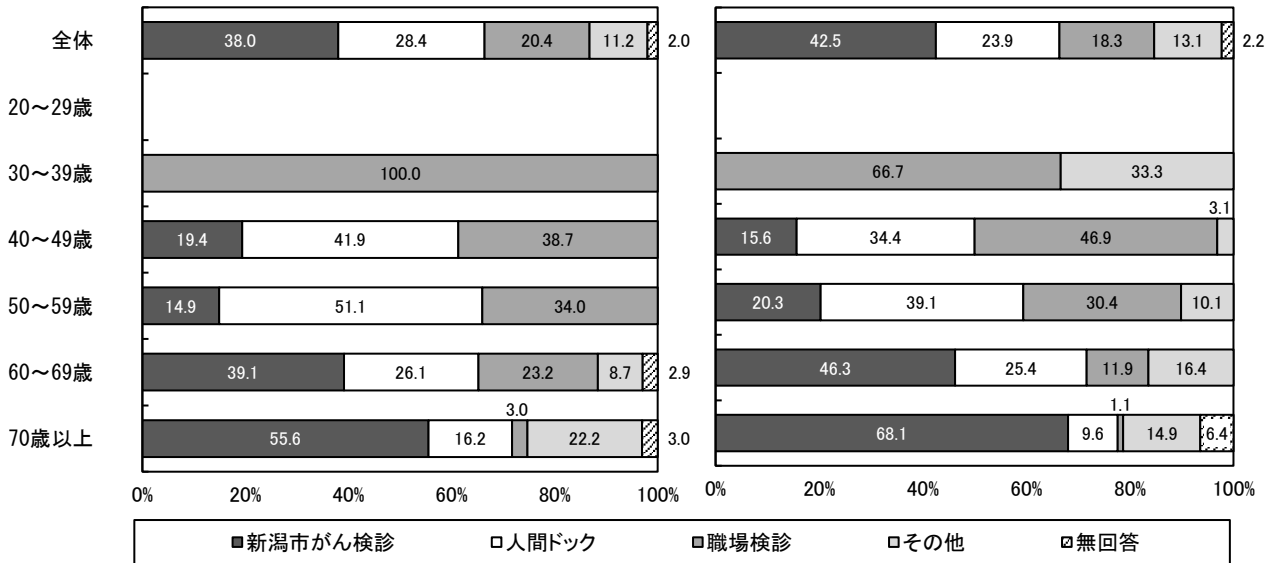


図 5.25-3 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	534	0	10	65	117	138	200	4
男性	250	0	4	31	47	69	99	0
女性	268	0	6	32	69	67	94	0

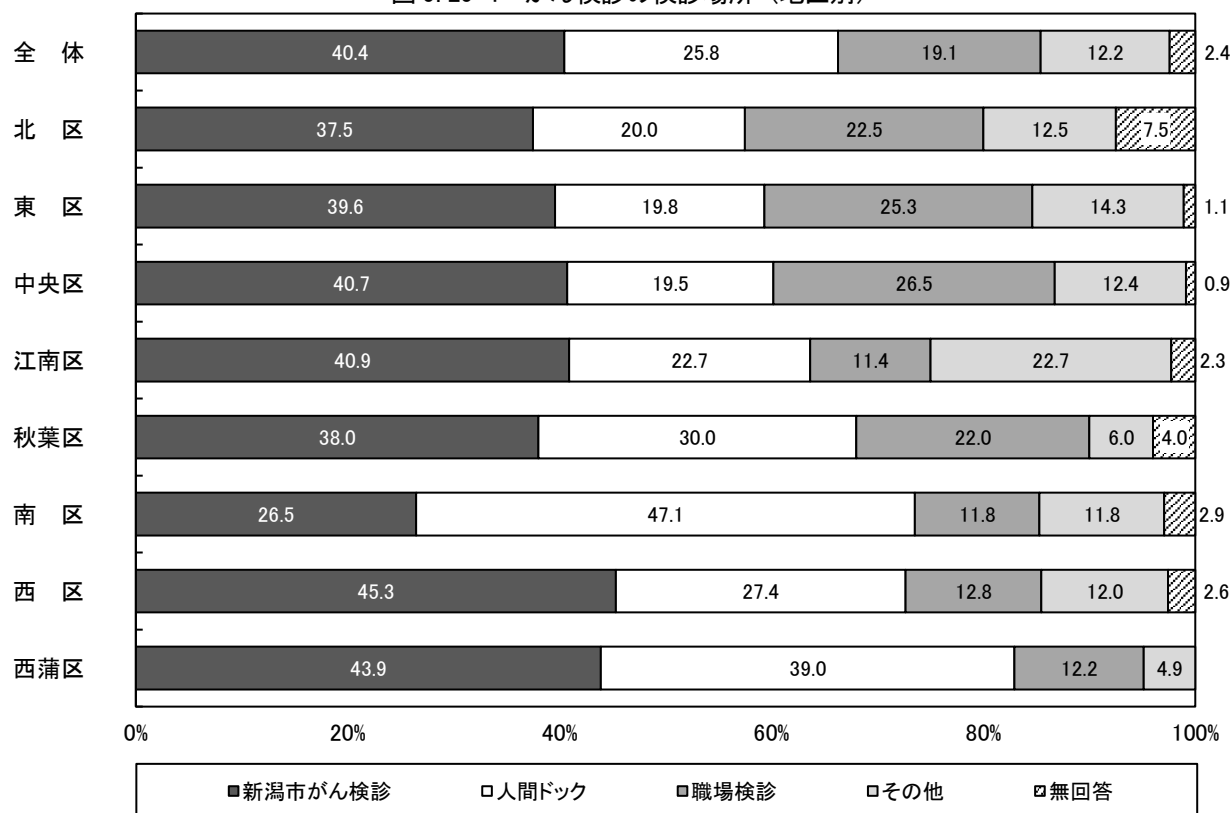
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区を除いた地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高い。南区は「人間ドック」(47.1%)の割合が最も高く、5割弱を占めている。

図 5.25-4 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
534	40	91	113	44	50	34	117	41	4

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

イ) 肺がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（62.4%）で最も高く、6割を超えている。性別でみると、「新潟市がん検診」は、男性より女性で割合が高い。

図 5. 25-5 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

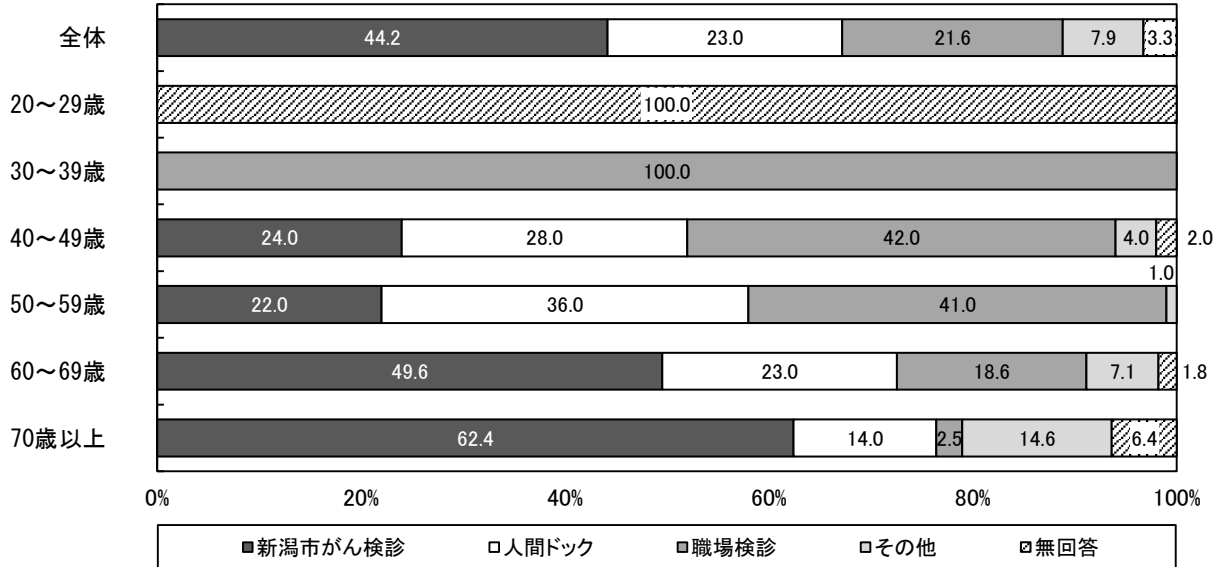
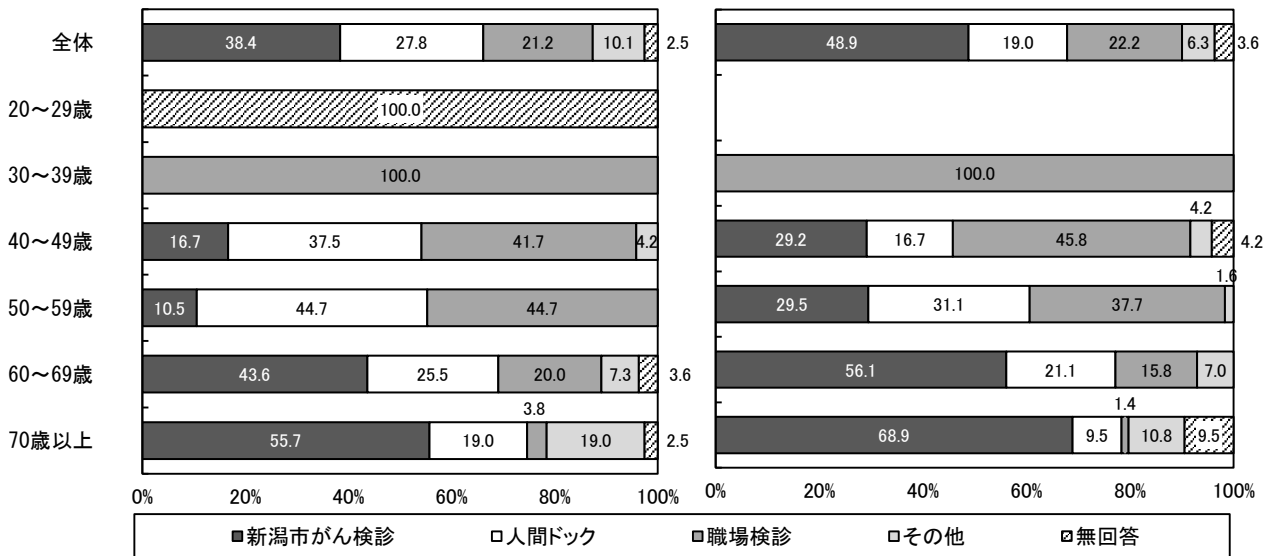


図 5. 25-6 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	430	1	6	50	100	113	157	3
男性	198	1	1	24	38	55	79	0
女性	221	0	5	24	61	57	74	0

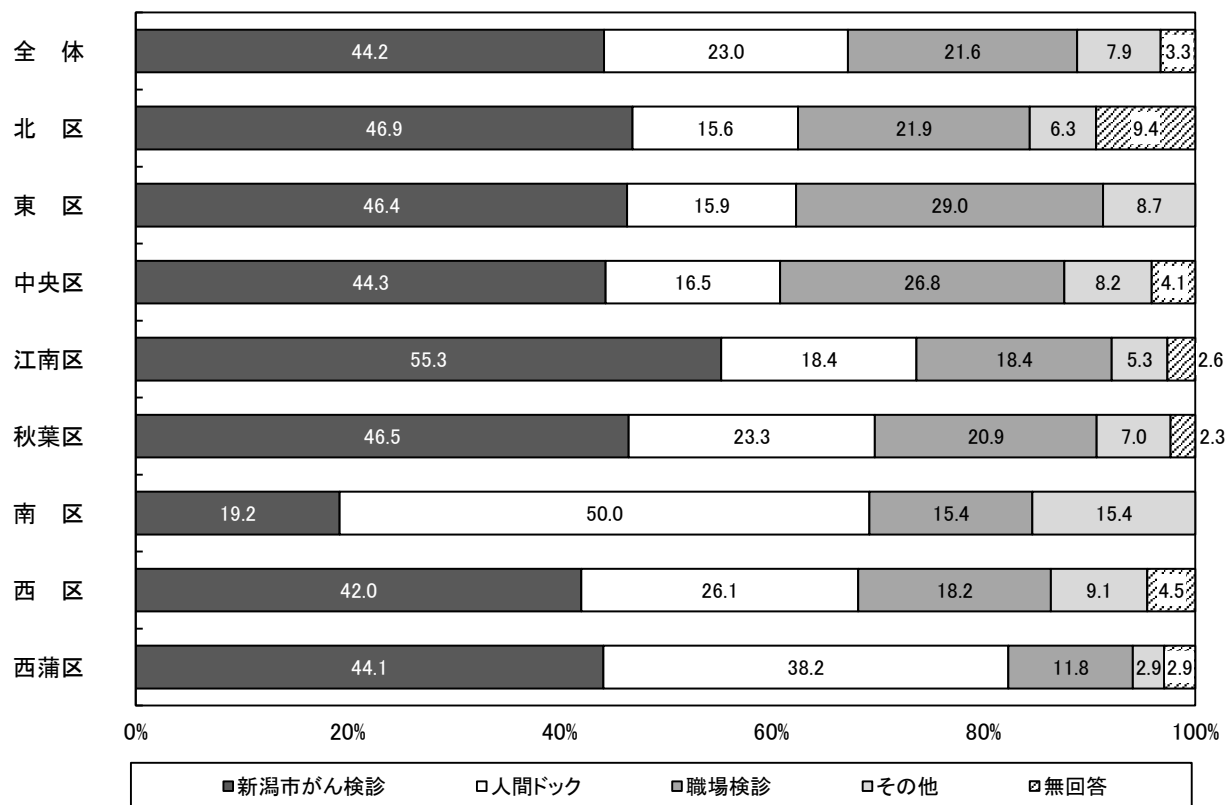
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区を除く地区で「新潟市がん検診」と回答した割合が最も高く、江南区では6割弱となっている。南区では「人間ドック」と回答した割合が最も高い。

図 5.25-7 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
430	32	69	97	38	43	26	88	34	3

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

ウ) 大腸がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、70歳以上（62.6%）で最も高く6割を超えている。

図 5.25-8 がん検診の検診場所（年齢別・全体）

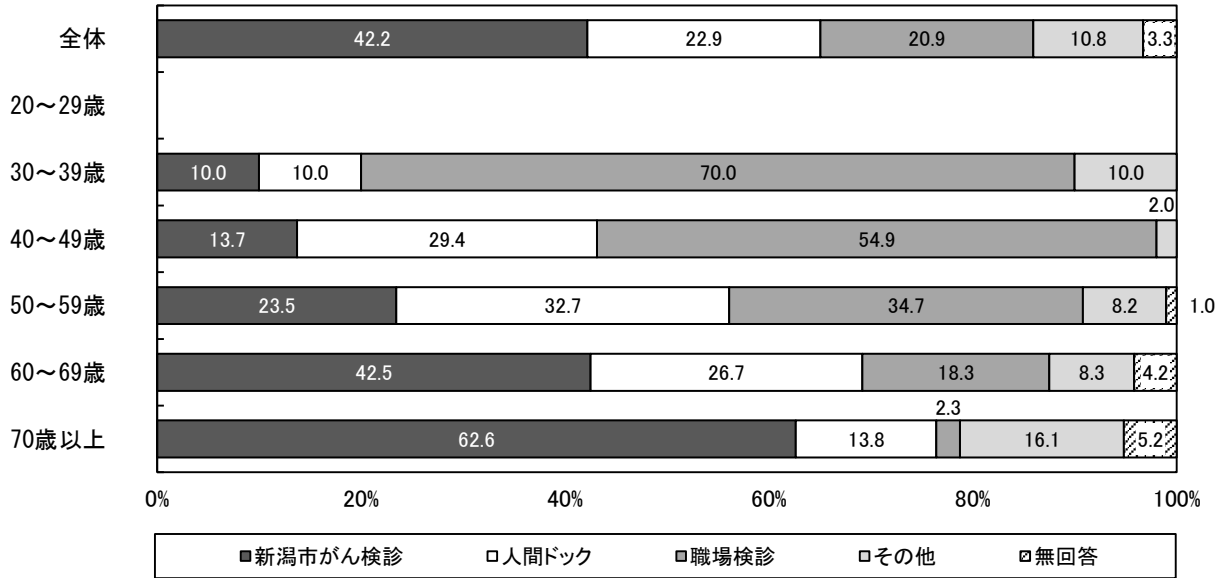
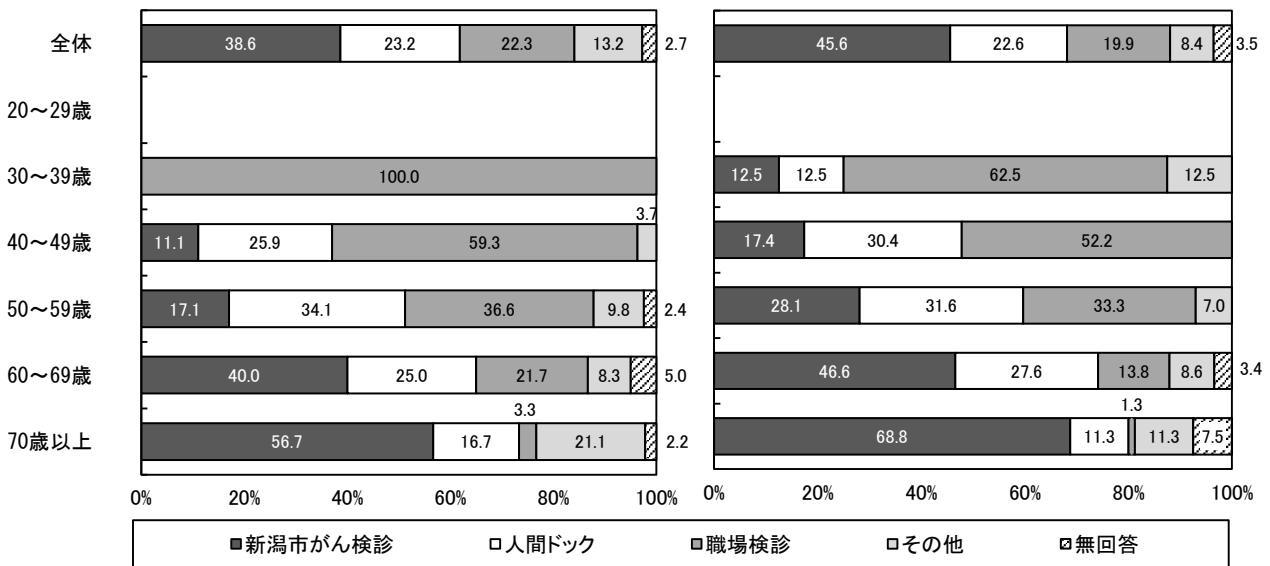


図 5.25-9 がん検診の検診場所

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	455	0	10	51	98	120	174	2
男性	220	0	2	27	41	60	90	0
女性	226	0	8	23	57	58	80	0

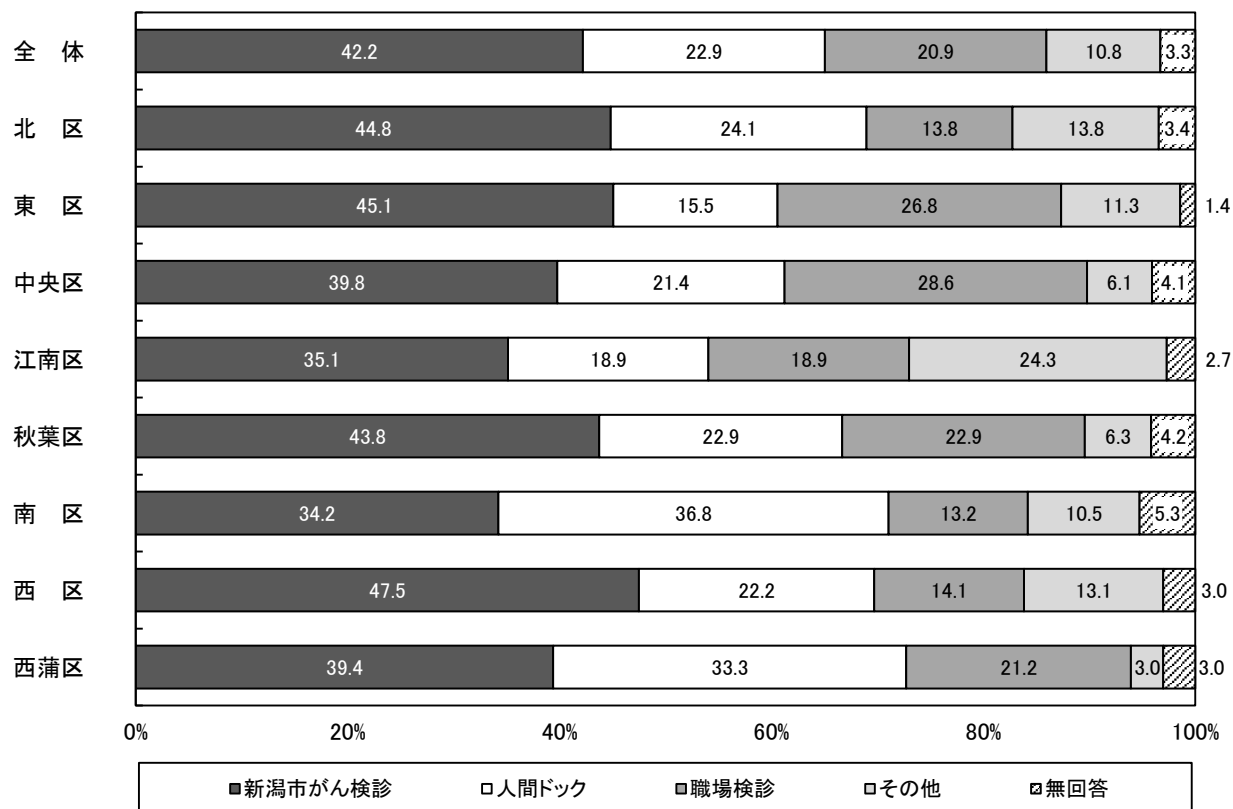
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区を除く地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高い。南区では「人間ドック」と回答した割合が最も高くなっている。

図 5.25-10 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
455	29	71	98	37	48	38	99	33	2

(人)

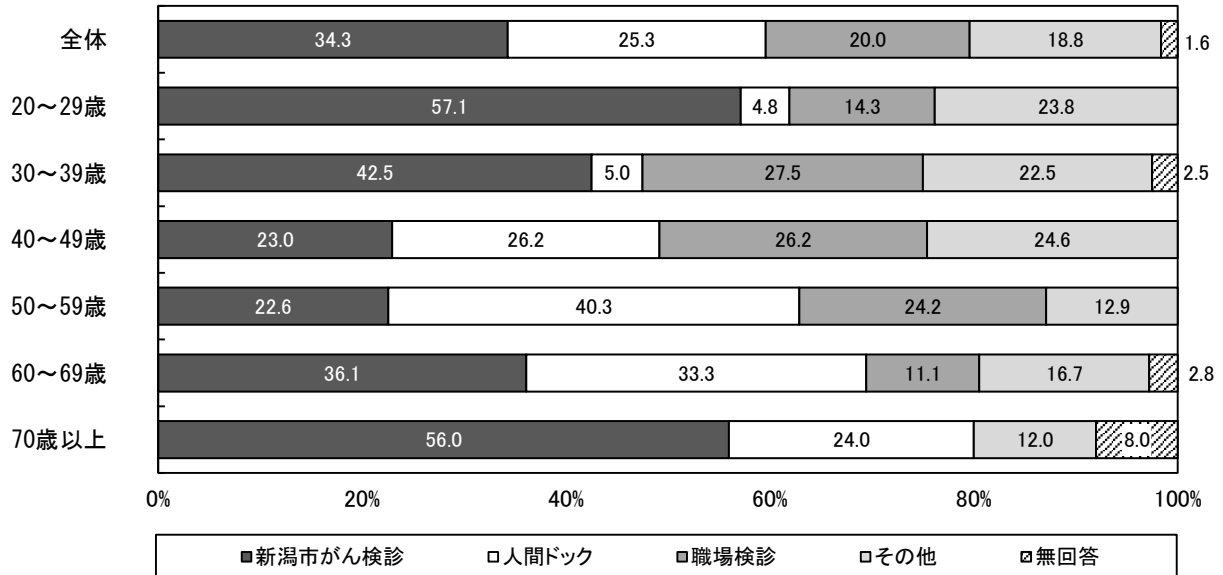
※地区不明者のグラフは省略した。

エ) 子宮頸がん検診

【性別・年齢別】

「新潟市がん検診」の割合は、20歳代と70歳以上で高く、5割を超えている。

図 5.25-11 がん検診の検診場所（年齢別・全体）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	245	21	40	61	62	36	25	0

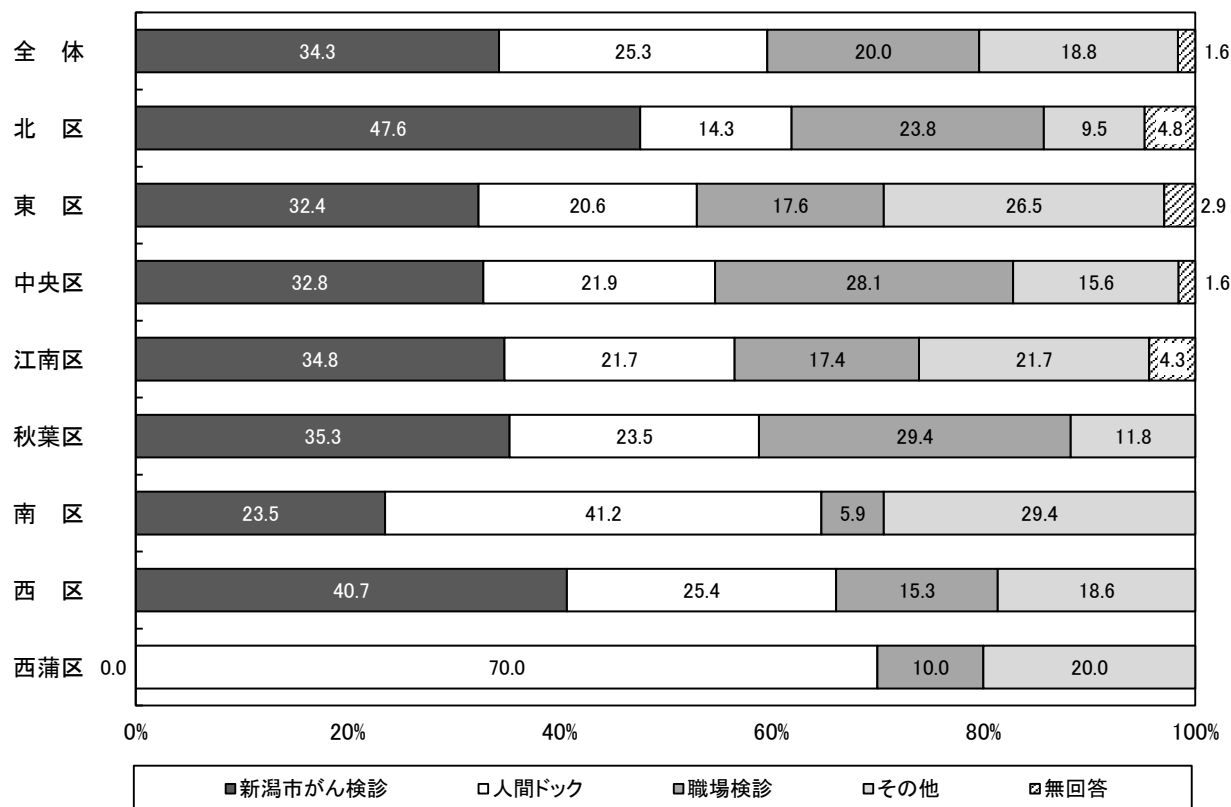
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区、西蒲区を除く地区で「新潟市がん検診」と回答した割合が最も高い。南区、西蒲区では「人間ドック」と回答した割合が最も高い。

図 5.25-12 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
245	21	34	64	23	17	17	59	10	0

(人)

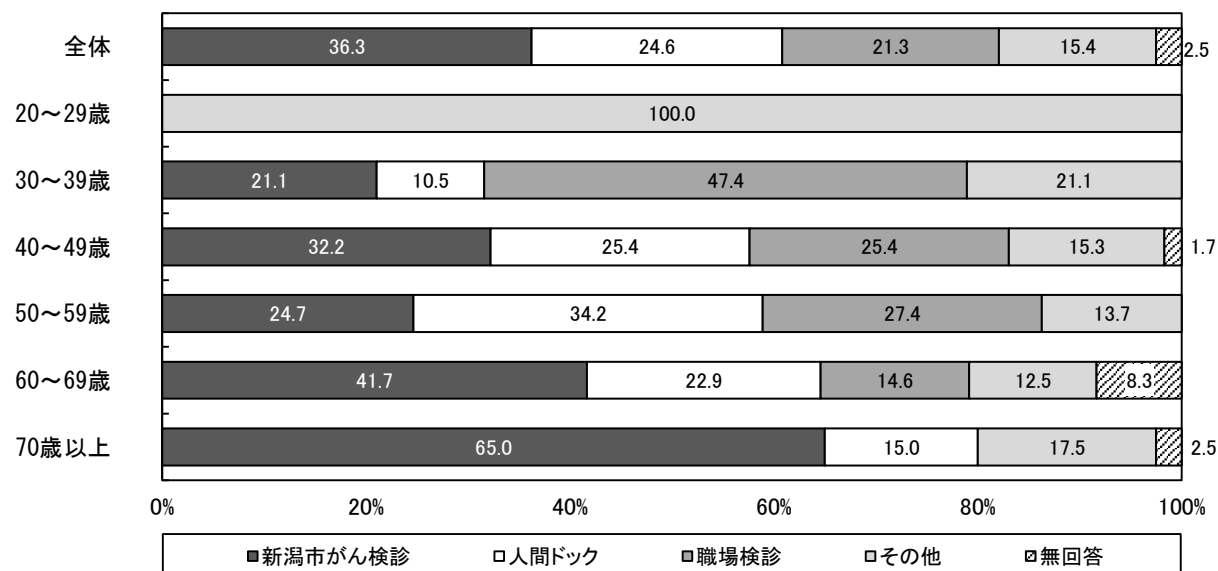
※地区不明者のグラフは省略した。

オ) 乳がん検診

【性別・年齢別】

30歳代では「職場検診」の割合が最も高くなっている。60歳以上では「新潟市がん検診」の割合が最も高くなっている。

図 5.25-13 がん検診の検診場所（年齢別・全体）



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	240	1	19	59	73	48	40	0

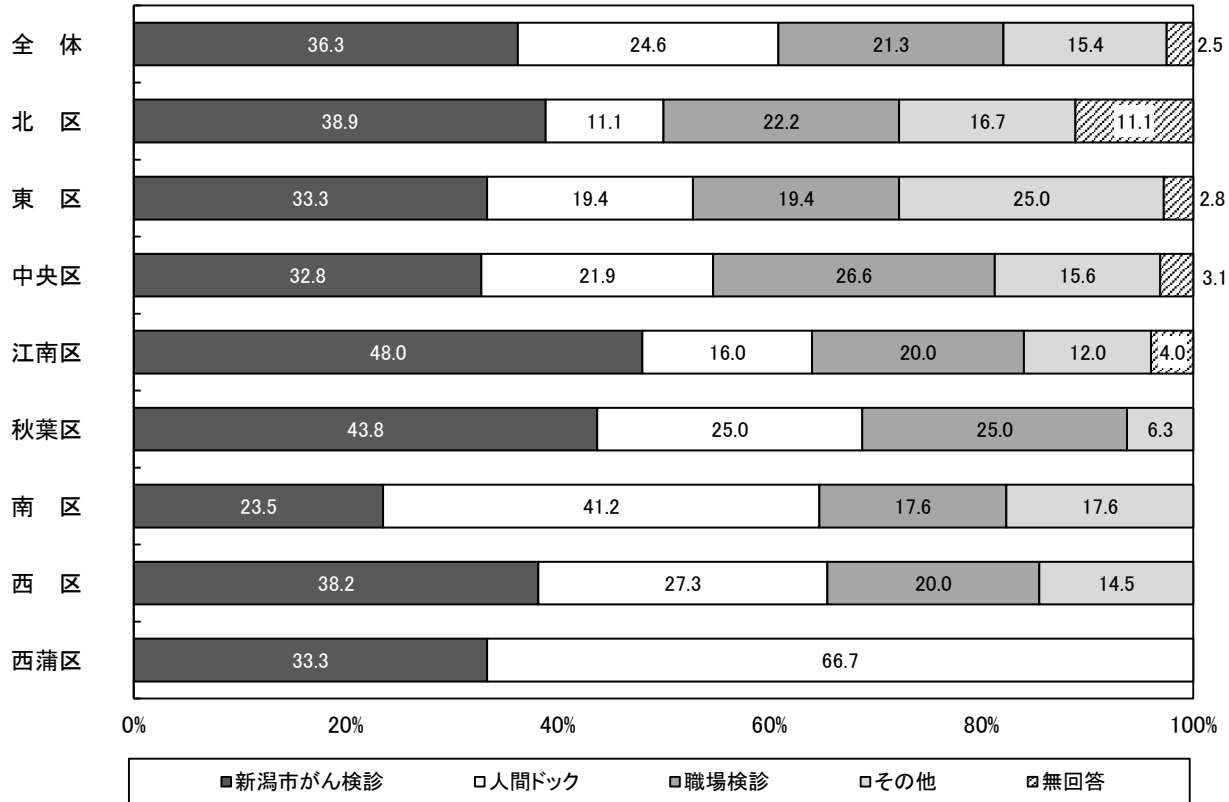
(人)

※年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

南区、西蒲区を除く地区で「新潟市がん検診」と回答した人の割合が最も高い。南区、西蒲区では「人間ドック」と回答した割合が最も高くなっている。

図 5.25-14 がん検診の検診場所（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
240	18	36	64	25	16	17	55	9	0

(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

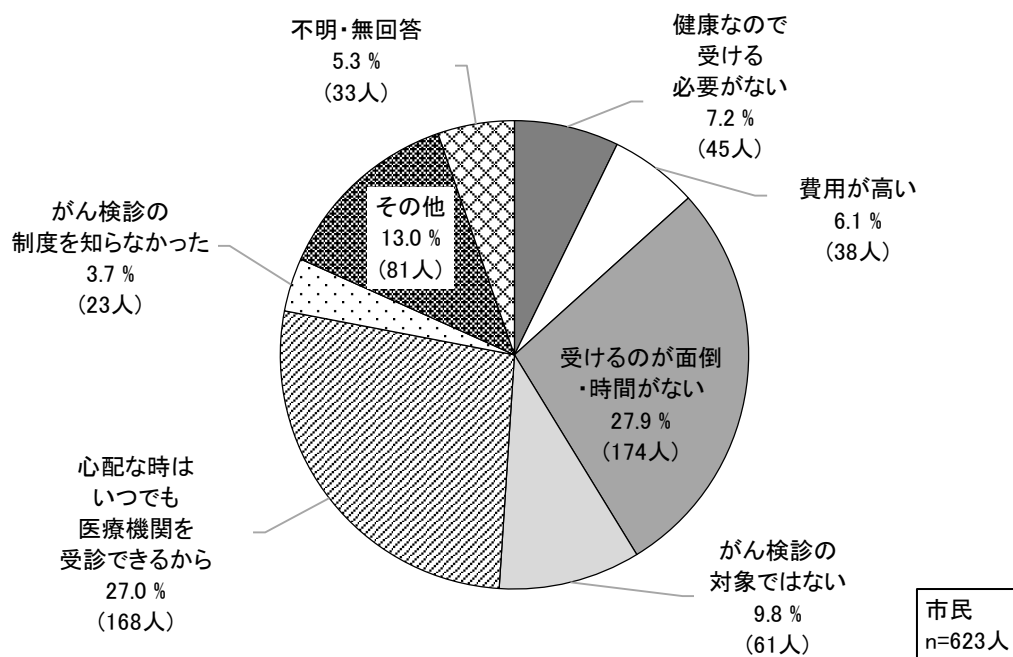
(26) がん検診を受けなかった主な理由

問47 問45で「6 いずれのがん検診も受けていない」に○を付けた方にお尋ねします。
がん検診を受けなかった主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

「受けるのが面倒・時間がない」と「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が3割弱

がん検診を受けなかった主な理由は、「受けるのが面倒・時間がない」(27.9%)と回答した人が最も多く、以下「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(27.0%)、「がん検診の対象ではない」(9.8%)、「健康なので受ける必要がない」(7.2%)と続いている。

図 5.26 がん検診を受けなかった主な理由



【性別・年齢別】

30歳代から50歳代は「受けるのが面倒・時間がない」、60歳代以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と答えた割合が、それぞれ最も高くなっている。

図 5.26-2 がん検診を受けなかった主な理由（年齢別・全体）

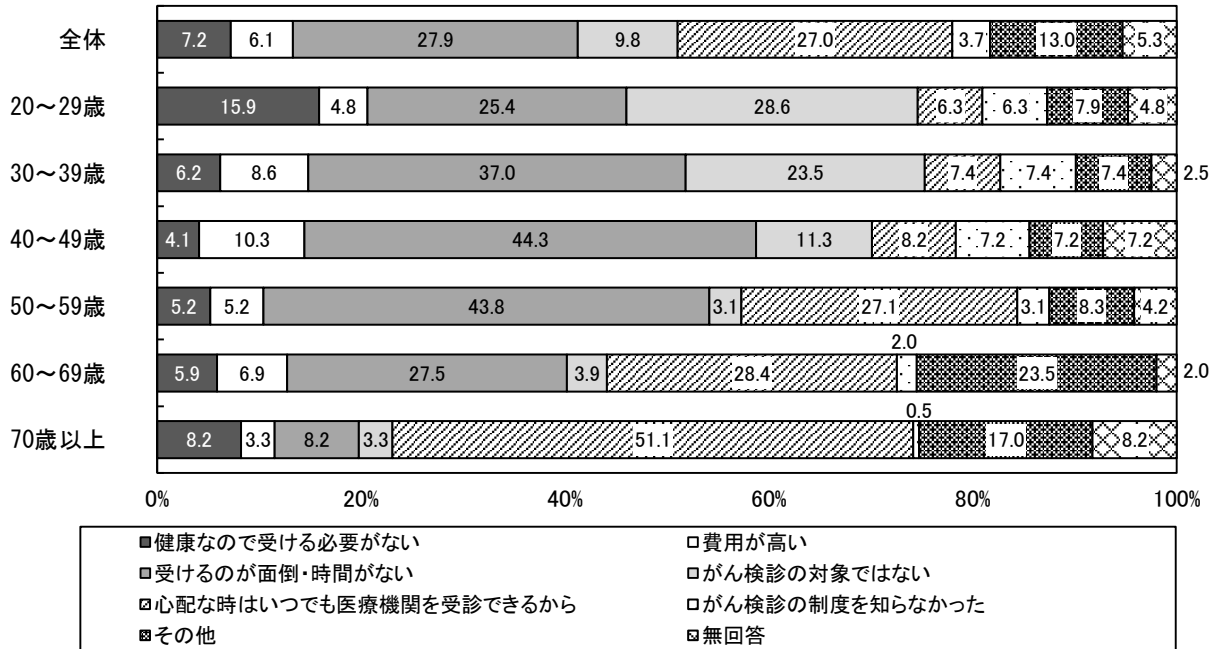
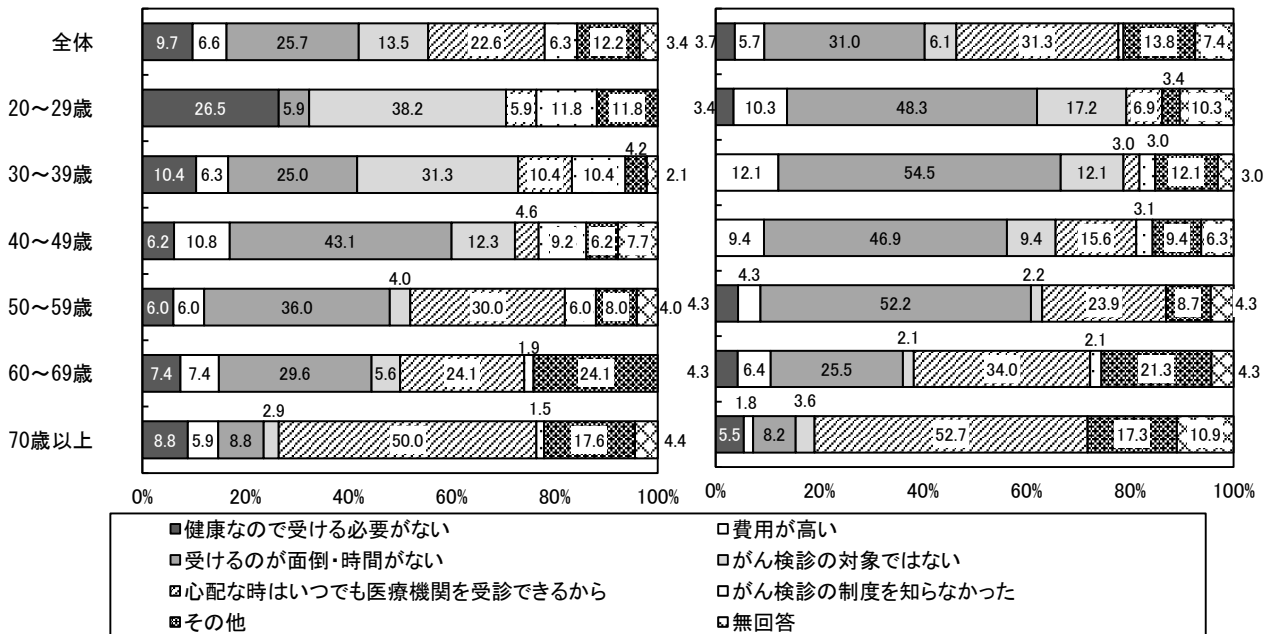


図 5.26-3 がん検診を受けなかった主な理由

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	623	63	81	97	96	102	182	2
男性	319	34	48	65	50	54	68	34
女性	297	29	33	32	46	47	110	29

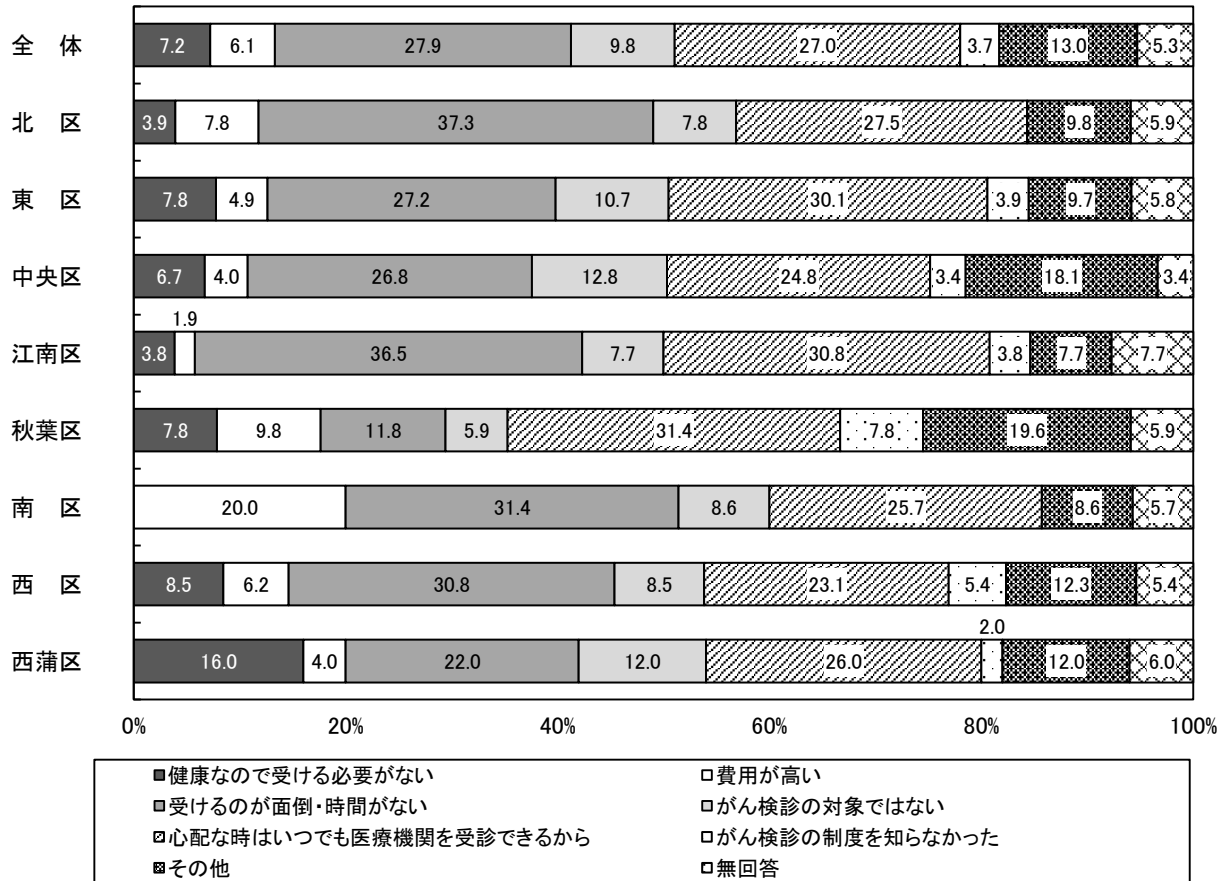
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

東区、秋葉区、西蒲区では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と答えた割合が最も高く、他の地区では「受けるのが面倒・時間がない」と回答した割合が最も高くなっている。

図 5.26-4 がん検診を受けなかった主な理由（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
623	51	103	149	52	51	35	130	50	2

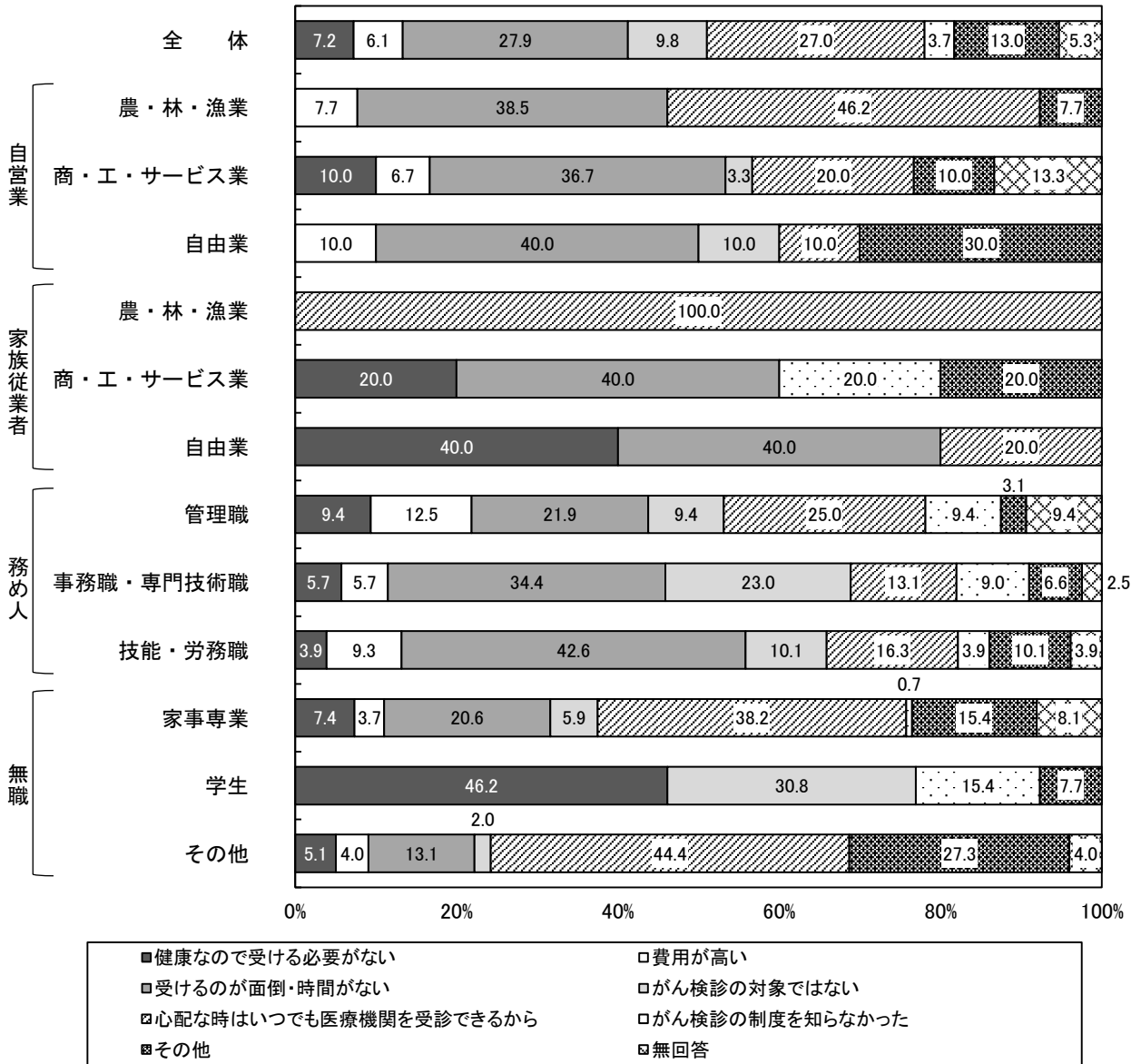
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.26-5 がん検診を受けなかった主な理由（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
623	13	30	10	2	5	5

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
32	122	129	136	13	99	27

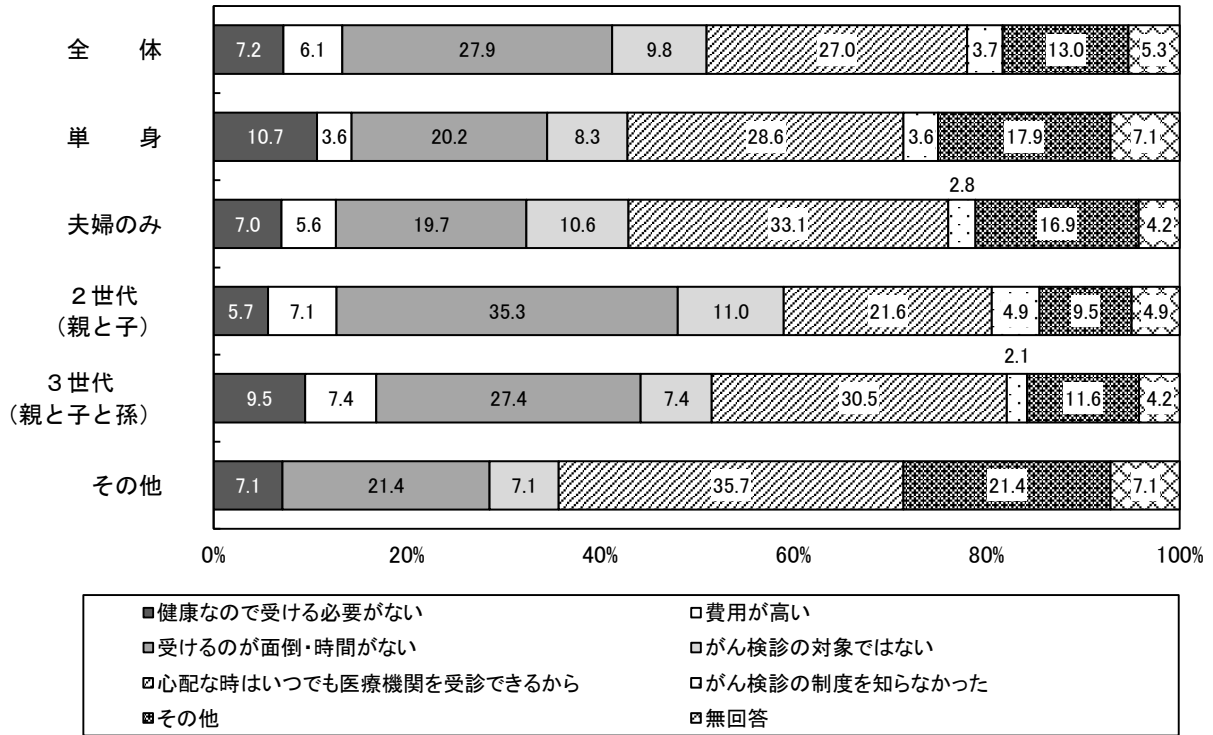
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

2世代を除き、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した人が、それぞれ最も多くなっている。2世代は「受けるのが面倒・時間がない」と回答した割合が最も高い。

図 5.26-6 がん検診を受けなかった主な理由（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
623	84	142	283	95	14	5

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(27) 地域の人とのつながりの強さ

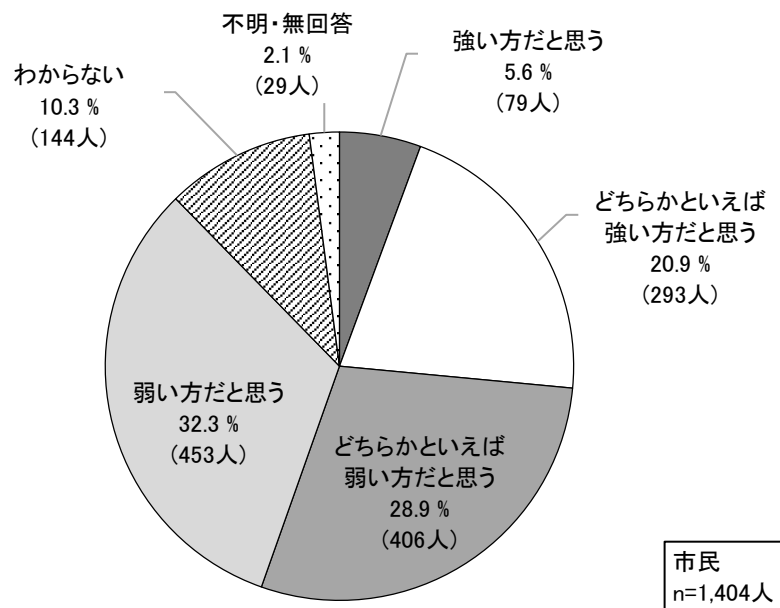
問48 あなたにとってご自身と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。(○は1つだけ)

3割弱が地域の人たちとのつながりは強いと回答

「強い方だと思う」(5.6%)、「どちらかといえば強い方だと思う」(20.9%)と回答した人を合わせた、地域の人たちとのつながりは強いと感じている人の割合は3割弱(26.5%)となっている。

一方、「どちらかといえば弱い方だと思う」(28.9%)、「弱い方だと思う」(32.3%)と回答した人を合わせた、地域の人たちとのつながりは弱いと感じている人の割合は6割強(61.2%)となっている。

図 5.27 地域の人とのつながりの強さ



【性別・年齢別】

すべての年代で、「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合は、70歳以上（36.7%）で最も高くなっている。

図 5.27-2 地域の人とのつながりの強さ（年齢別・全体）

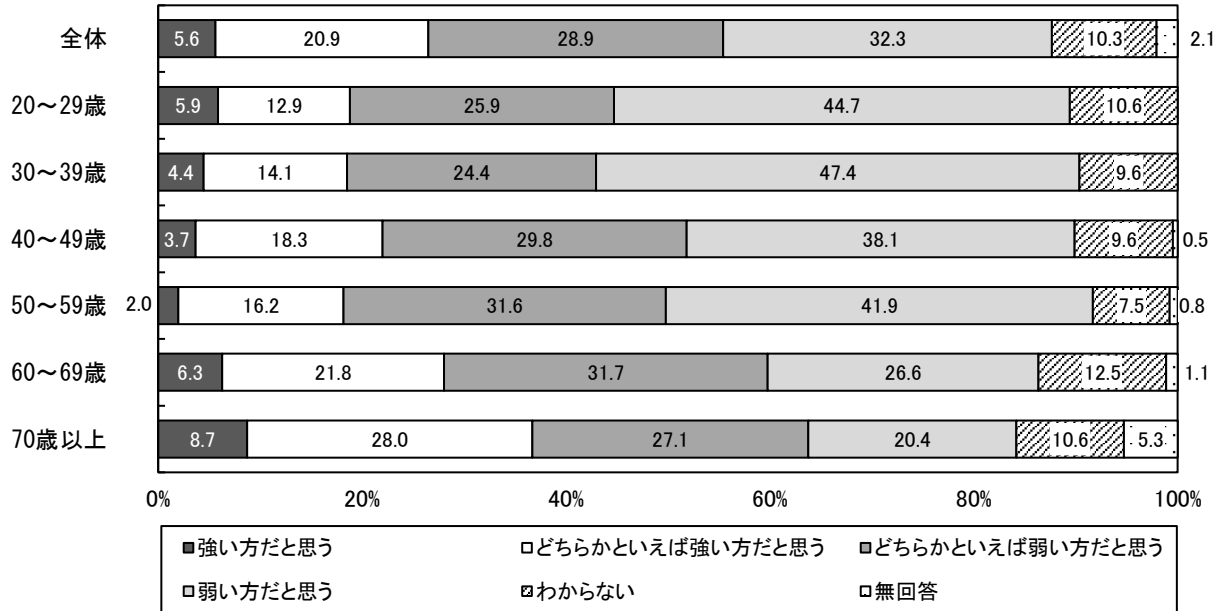
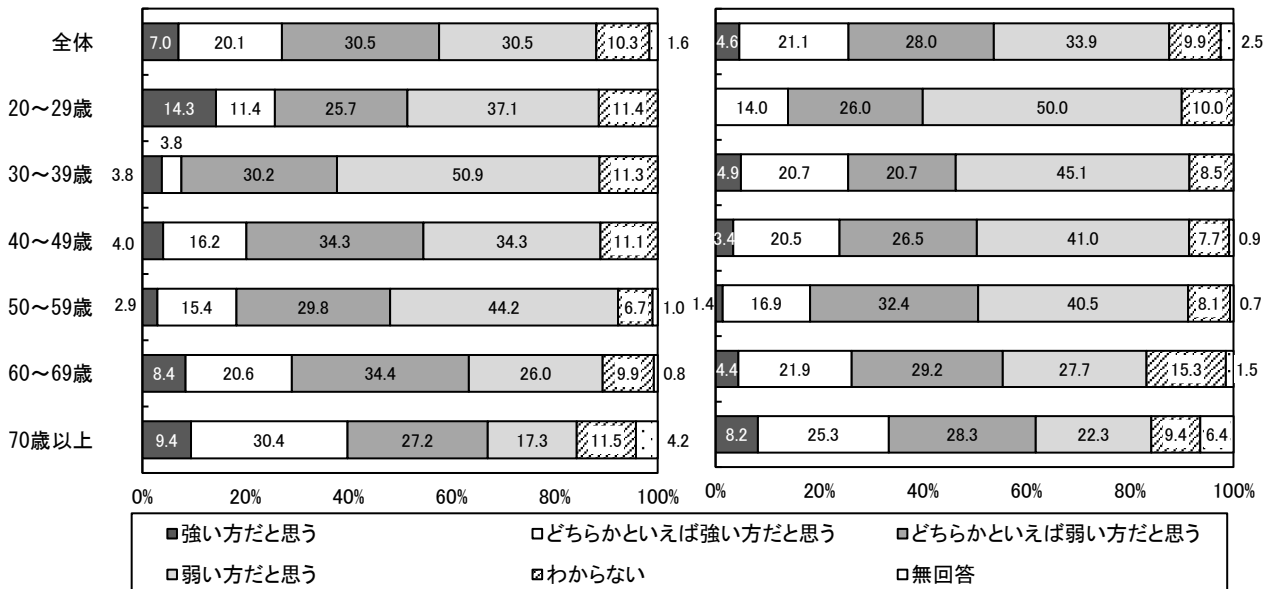


図 5.27-3 地域の人とのつながりの強さ

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	46
男性	613	35	53	99	104	131	191	27
女性	767	50	82	117	148	137	233	17

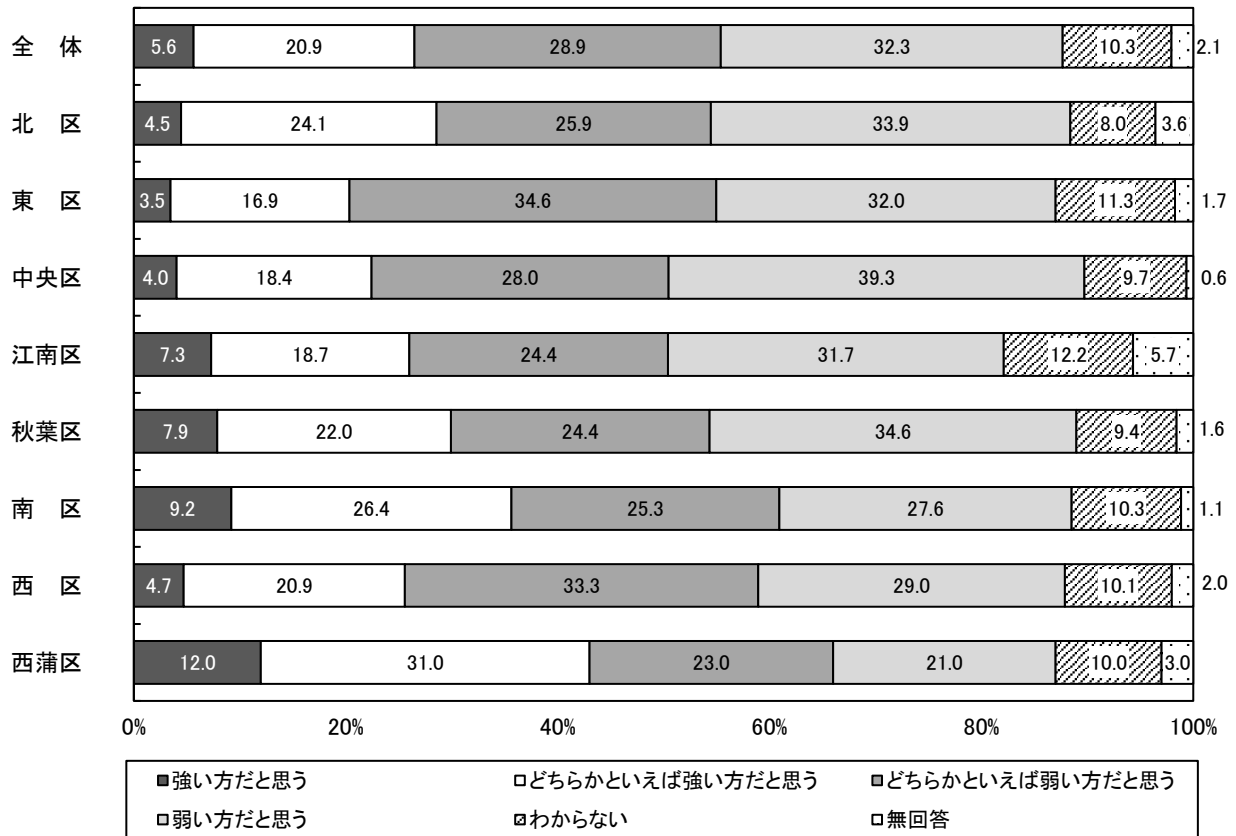
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

すべての地区で「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合は、西蒲区（43.0%）で最も高い。

図 5. 27-4 地域の人とのつながりの強さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

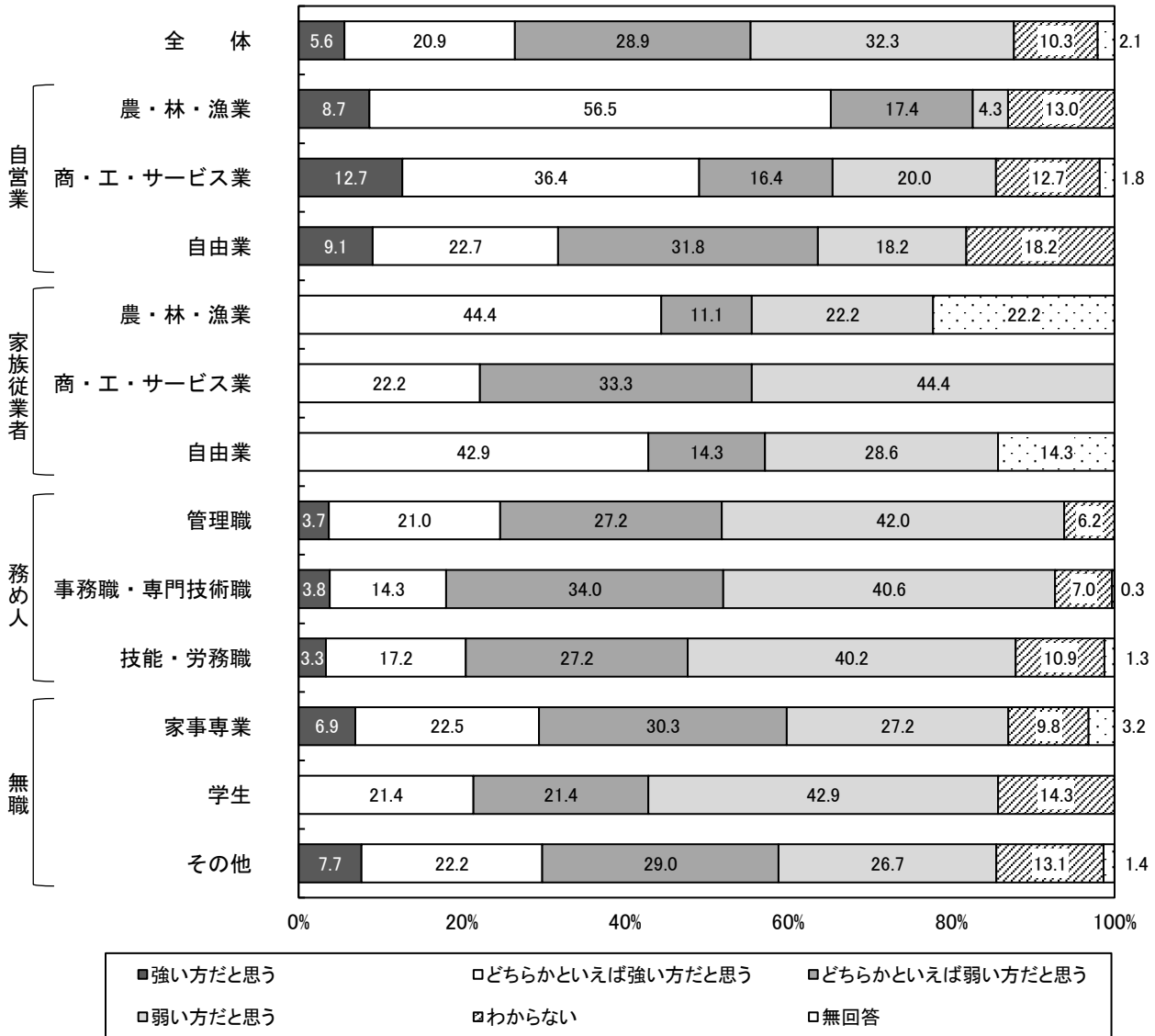
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 5.27-5 地域の人とのつながりの強さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

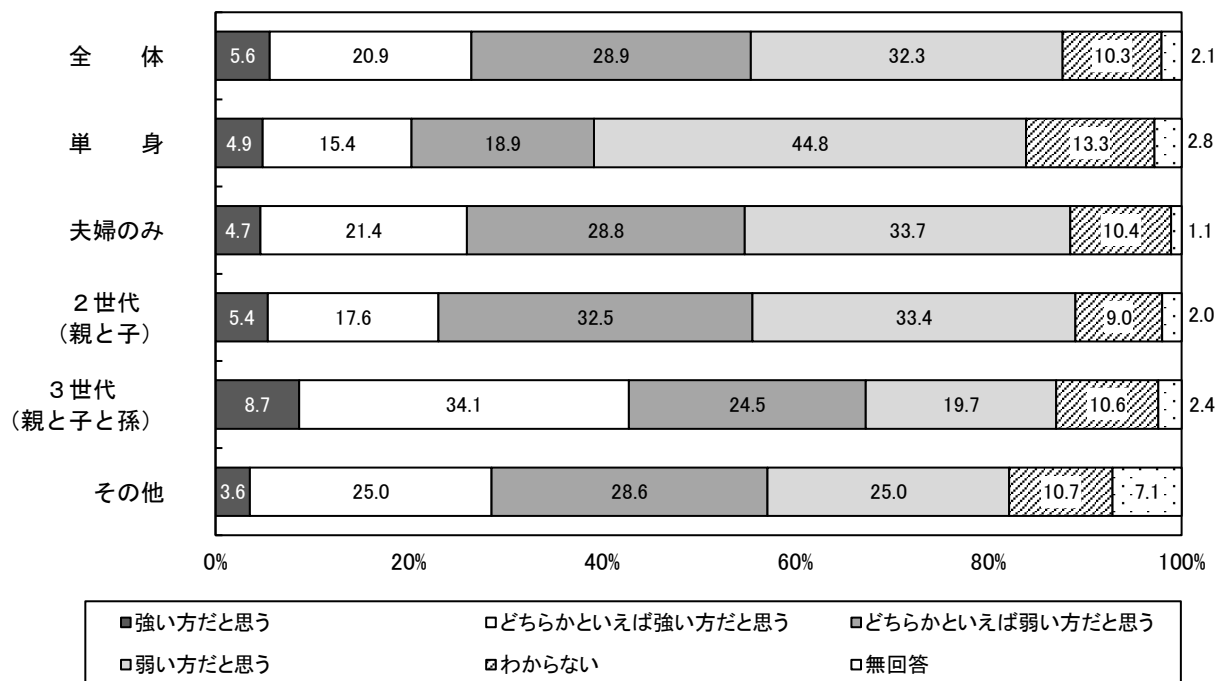
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

各家族構成とも、「どちらかといえば弱い方だと思う」「弱い方だと思う」を合わせた割合が、「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合を上回っている。「強い方だと思う」「どちらかといえば強い方だと思う」を合わせた割合は、3世代（42.8%）で最も高い。

図 5.27-6 地域の人とのつながりの強さ（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

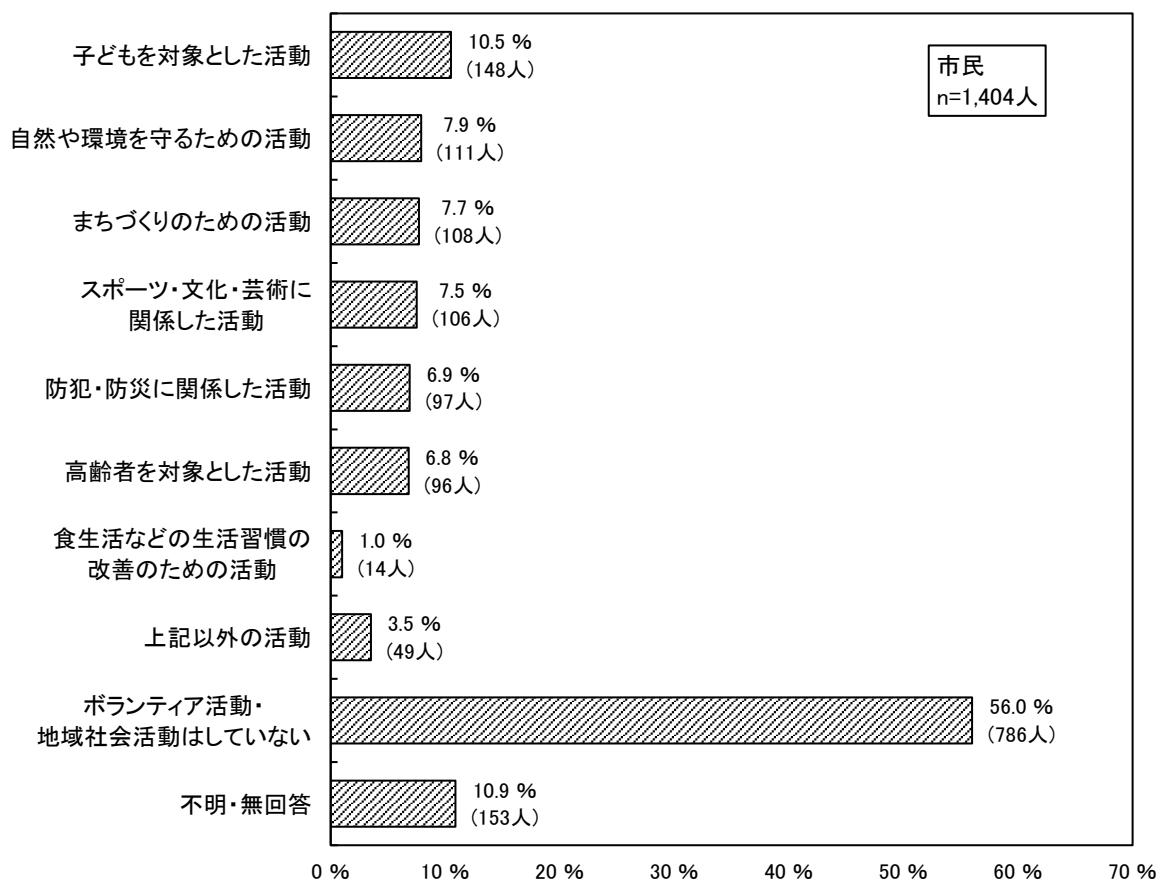
(28) 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況

問49 あなたがこの1年間にボランティア活動（近隣の人への手助け・支援を含む）、地域社会活動（町内会活動・地域行事など）を行いましたか。（○はいくつでも）
※有償・無償にかかわらず

「ボランティア活動・地域社会活動に参加している」人は3割強

「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」（56.0%）、「不明・無回答」（10.9%）を除いた、何らかのボランティア活動・地域活動に参加したと回答した人の割合は3割強（33.1%）となっている。その中で、「子どもを対象とした活動」（10.5%）を回答した人が最も多く、以下「自然や環境を守るための活動」（7.9%）「まちづくりのための活動」（7.7%）と続いている。

図 5.28 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況



【性別・年齢別】

各年代とも「ボランティア活動・地域社会活動はしていない」と回答した人の割合が最も高くなっている。30歳代と40歳代では、「子どもを対象とした活動」の割合が、50歳代と60歳代では「自然や環境を守るための活動」の割合が、70歳以上では「高齢者を対象とした活動」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

表 11.1 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・全体）

	対象者	子どもを対象とした活動	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に関係した活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	1,404	10.5	7.9	7.7	7.5	6.9	6.8	1.0	3.5	56.0	10.9
20～29歳	85	1.2	1.2	0.0	9.4	0.0	3.5	1.2	2.4	78.8	2.4
30～39歳	135	17.0	6.7	9.6	9.6	5.9	0.7	0.7	3.0	60.7	5.9
40～49歳	218	22.5	7.8	10.6	6.4	4.1	2.8	0.5	3.7	56.9	3.7
50～59歳	253	9.5	9.9	7.5	7.1	7.1	2.8	0.4	3.2	62.1	3.6
60～69歳	271	10.0	10.3	9.6	8.1	10.0	6.6	1.5	3.0	54.6	11.1
70歳以上	436	5.5	7.1	6.2	7.1	7.8	13.8	1.1	4.4	47.0	21.8
年齢不明	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0	16.7

対象者：人/回答：%

表 11.2 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・男性）

	対象者	子どもを対象とした活動	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に関係した活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	613	11.4	12.4	11.3	9.5	9.5	5.9	0.7	3.4	55.5	6.9
20～29歳	35	0.0	2.9	0.0	8.6	0.0	5.7	0.0	2.9	80.0	0.0
30～39歳	53	17.0	11.3	7.5	11.3	11.3	1.9	1.9	3.8	58.5	5.7
40～49歳	99	19.2	9.1	10.1	10.1	5.1	1.0	0.0	3.0	57.6	3.0
50～59歳	104	9.6	17.3	13.5	5.8	8.7	1.0	0.0	1.9	58.7	1.9
60～69歳	131	13.7	15.3	15.3	9.9	13.7	4.6	1.5	3.1	55.0	6.1
70歳以上	191	7.3	11.5	11.0	10.5	10.5	13.1	0.5	4.7	47.6	13.6
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 11.3 最近1年間のボランティア活動、地域社会活動の参加状況（年齢別・女性）

	対象者	子どもを対象とした活動	自然や環境を守るための活動	まちづくりのための活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	防犯・防災に関係した活動	高齢者を対象とした活動	食生活などの生活習慣の改善のための活動	上記以外の活動	ボランティア活動・地域社会活動はしていない	無回答
計	767	10.2	4.6	5.1	6.1	4.8	7.6	1.2	3.4	56.7	13.7
20～29歳	50	2.0	0.0	0.0	10.0	0.0	2.0	2.0	2.0	78.0	4.0
30～39歳	82	17.1	3.7	11.0	8.5	2.4	0.0	0.0	2.4	62.2	6.1
40～49歳	117	25.6	6.8	11.1	3.4	3.4	4.3	0.9	4.3	56.4	3.4
50～59歳	148	9.5	4.7	3.4	8.1	6.1	4.1	0.7	4.1	64.2	4.7
60～69歳	137	6.6	5.8	4.4	6.6	6.6	8.8	1.5	2.2	54.0	16.1
70歳以上	233	4.3	3.9	2.6	4.3	5.6	14.6	1.7	3.9	47.2	27.9
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

6 農林漁業体験について

(1) 農林漁業体験の参加経験の有無

問50 これまで、あなた又はあなたの家族の中で農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。
子どもたちの学校や園での体験も含まれます。(〇は1つだけ)
「農林漁業体験」とは、次のようなものに関する体験とお考えください。

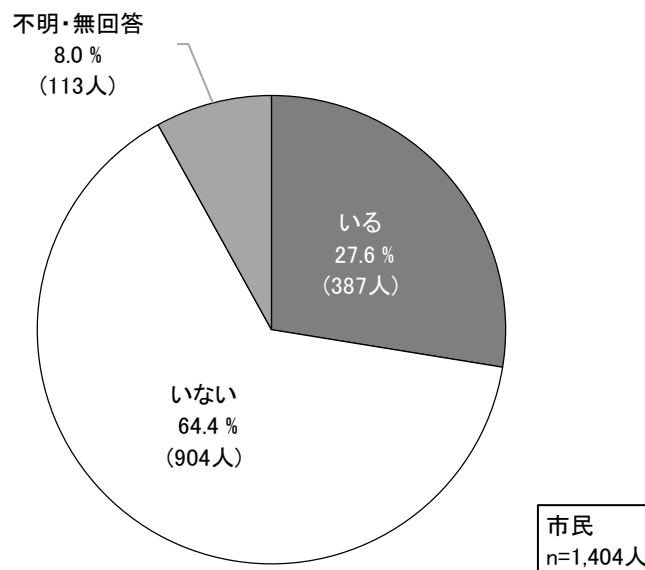
「農林漁業体験」の例

- ◆ 水田での田植え、栽培管理、稲刈り、はざがけなどの米に関する体験
- ◆ 畑での種まき・苗植え、栽培管理、収穫などの野菜に関する体験
- ◆ 樹園地での花粉付け、袋がけ、収穫などの果樹に関する体験
- ◆ 花の栽培・育種などの花に関する体験
- ◆ 乳しぼり、エサやり・ミルクやり、畜舎の管理などの酪農体験、その他の畜産体験
- ◆ 植林、下草刈り、枝打ち、除伐・間伐などの林業体験
- ◆ 釣り、底引き網などの漁業体験

3割弱が参加経験者が「いる」と回答

自身や家族の中に農林漁業体験に参加したことがある人が「いる」と回答した人は3割弱(27.6%)、「いない」と回答した人は6割強(64.4%)となっている。

図 6.1 農林漁業体験の参加経験の有無



【性別・年齢別】

「いる」と回答した人の割合は、40歳代（41.3%）で最も高く、40歳代までは年齢が上がるにつれて高くなり、40歳代以降は低下している。

性別では、「いる」と回答した人の割合は、男性の30歳代で4割強、女性の20歳代と40歳代で4割を超えている。

図 6.1-2 農林漁業体験の参加経験の有無（年齢別・全体）

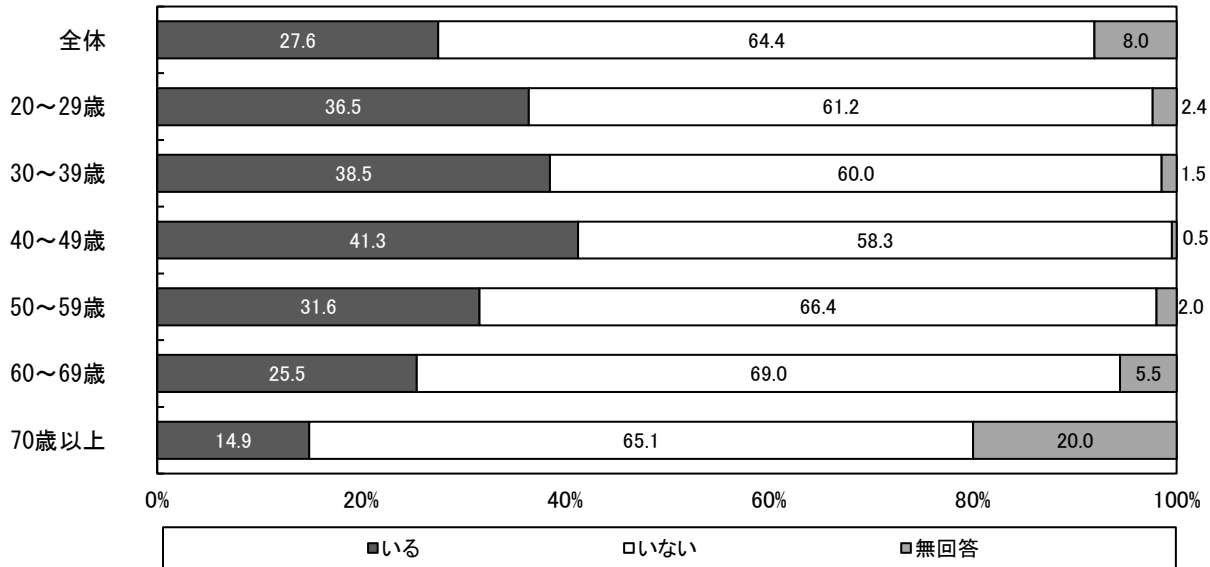
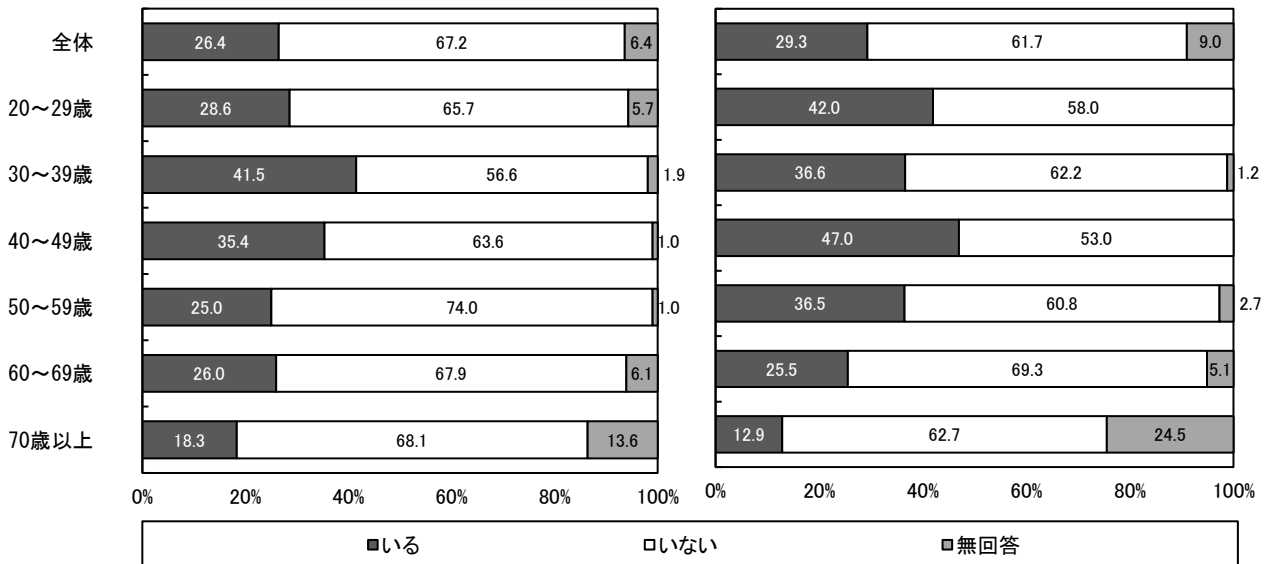


図 6.1-3 農林漁業体験の参加経験の有無

(年齢別・男性)

(年齢別・女性)



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

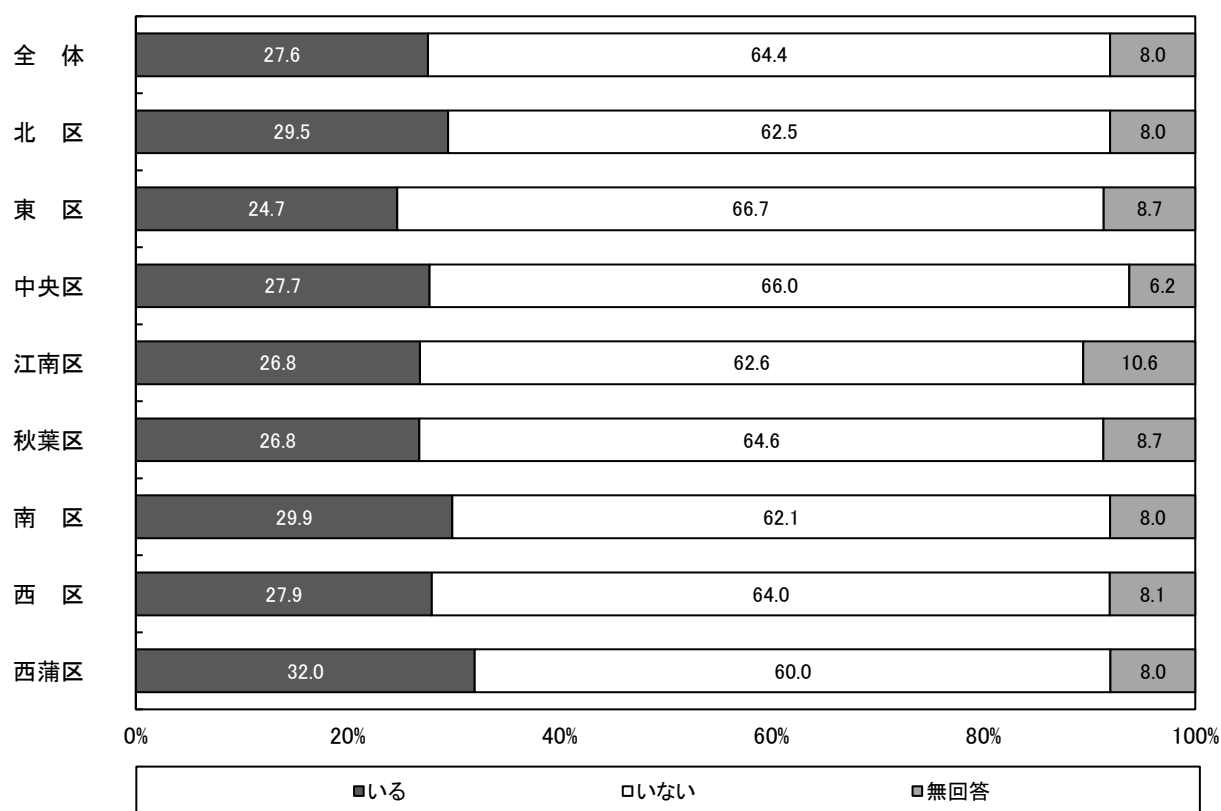
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いる」と回答した人の割合は、西蒲区（32.0%）で最も高くなっている。

図 6.1-4 農林漁業体験の参加経験の有無（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

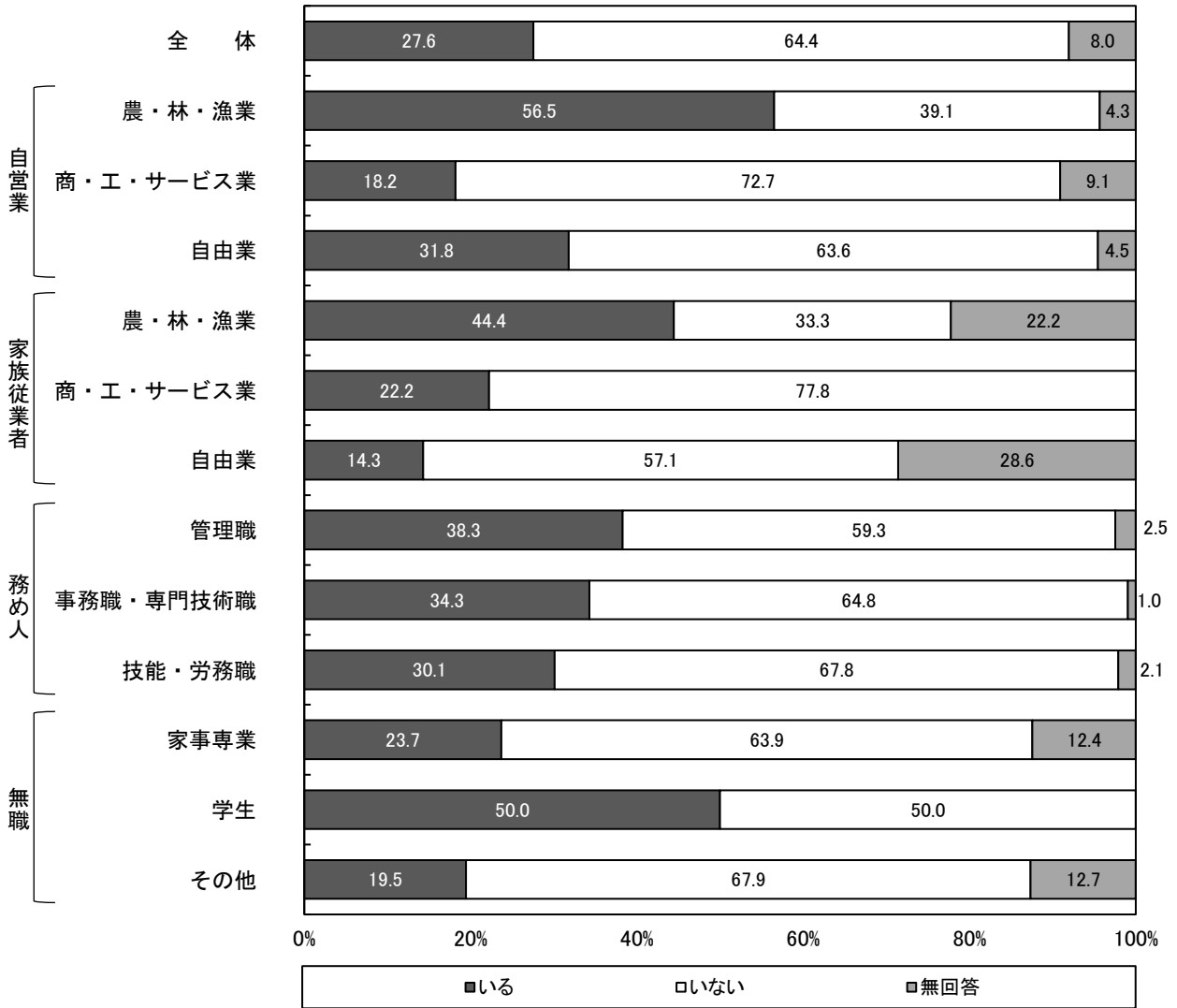
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6. 1-5 農林漁業体験の参加経験の有無（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

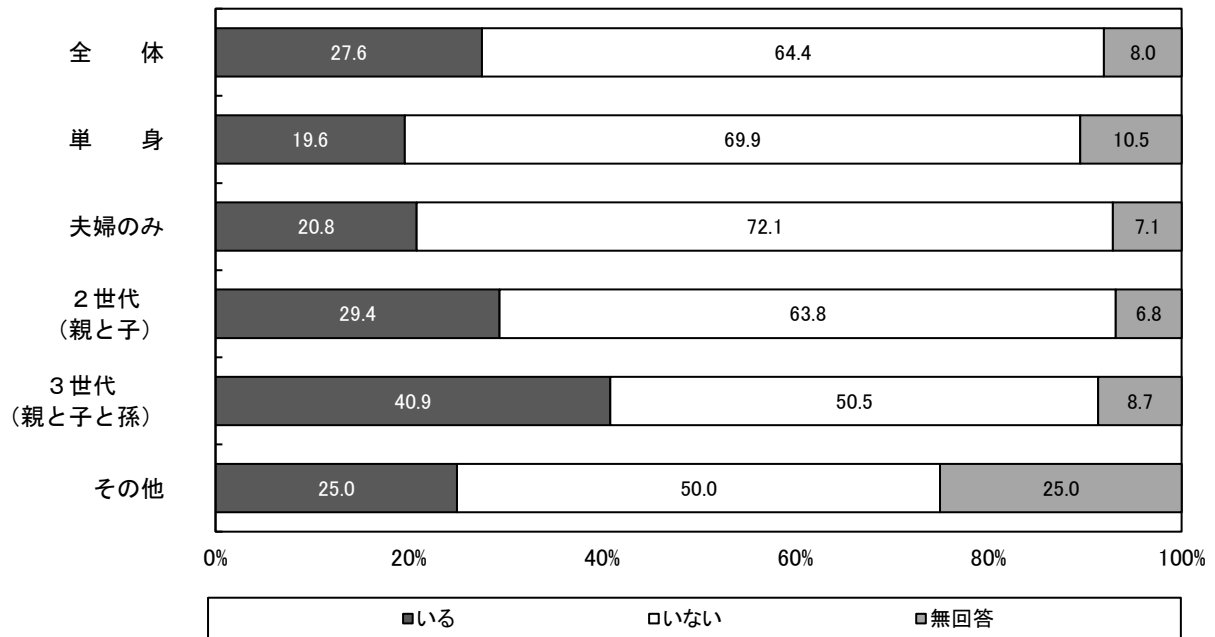
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いる」と回答した人の割合は、3世代（40.9%）で最も高く、4割を超えている。

図 6.1-6 農林漁業体験の参加経験の有無（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

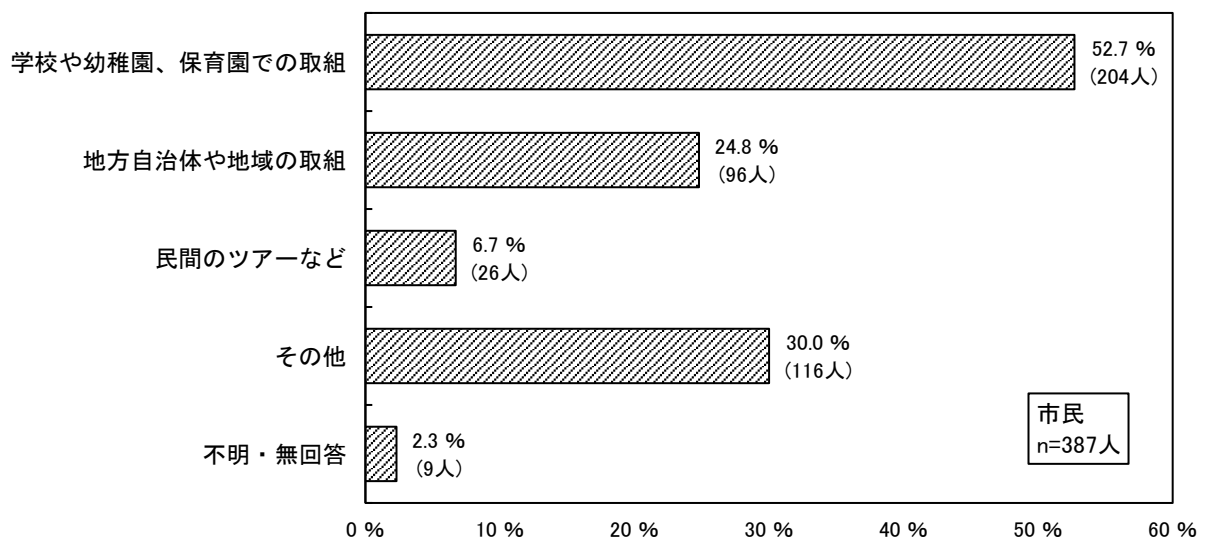
(2) 参加した農林漁業体験の内容

問51 問50で1に○をつけた方にお尋ねします。どのようなものに参加されましたか。
(○はいくつでも)

5割強が「学校や幼稚園、保育園での取組」と回答

「学校や幼稚園、保育園での取組」(52.7%)と回答した人が最も多くなっている。「その他」を除き、以下「地方自治体や地域の取組」(24.8%)、「民間のツアーなど」(6.7%)と続いている。

図 6.2 参加した農林漁業体験の内容



【性別・年齢別】

「その他」を除き、60歳代では「地方自治体や地域の取組」と答えた人が最も多く、他の年齢では「学校や幼稚園、保育園での取組」と答えた人が最も多い。

表 12.1 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・全体）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	無回答
計	387	52.7	24.8	6.7	30.0	2.3
20～29歳	31	80.6	22.6	6.5	9.7	0.0
30～39歳	52	65.4	23.1	3.8	30.8	1.9
40～49歳	90	67.8	22.2	10.0	18.9	0.0
50～59歳	80	61.3	25.0	7.5	26.3	1.3
60～69歳	69	24.6	30.4	5.8	42.0	1.4
70歳以上	65	27.7	24.6	4.6	46.2	9.2
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 12.2 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・男性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	不明・無回答
計	162	43.8	23.5	6.8	36.4	2.5
20～29歳	10	80.0	20.0	10.0	0.0	0.0
30～39歳	22	72.7	18.2	0.0	31.8	0.0
40～49歳	35	60.0	28.6	8.6	20.0	0.0
50～59歳	26	50.0	11.5	11.5	42.3	0.0
60～69歳	34	11.8	32.4	5.9	50.0	2.9
70歳以上	35	25.7	22.9	5.7	48.6	8.6
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 12.3 参加した農林漁業体験の内容（年齢別・女性）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	不明・無回答
計	225	59.1	25.8	6.7	25.3	2.2
20～29歳	21	81.0	23.8	4.8	14.3	0.0
30～39歳	30	60.0	26.7	6.7	30.0	3.3
40～49歳	55	72.7	18.2	10.9	18.2	0.0
50～59歳	54	66.7	31.5	5.6	18.5	1.9
60～69歳	35	37.1	28.6	5.7	34.3	0.0
70歳以上	30	30.0	26.7	3.3	43.3	10.0
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

【地区別】

秋葉区を除く地区で「学校や幼稚園、保育園での取組」の割合が最も高く、秋葉区では「地方自治体や地域の取組」の割合が最も高くなっている。

表 12.4 参加した農林漁業体験の内容（地区別）

	対象者	学校や幼稚園、保育園での取組	地方自治体や地域の取組	民間のツアーなど	その他	不明・無回答
計	387	52.7	24.8	6.7	30.0	2.3
北区	33	48.5	27.3	0.0	39.4	0.0
東区	57	56.1	12.3	3.5	36.8	5.3
中央区	89	53.9	25.8	12.4	33.7	0.0
江南区	33	57.6	24.2	3.0	27.3	3.0
秋葉区	34	35.3	41.2	8.8	29.4	0.0
南区	26	57.7	19.2	3.8	19.2	3.8
西区	83	57.8	21.7	7.2	26.5	3.6
西蒲区	32	43.8	37.5	6.3	18.8	3.1
地区不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

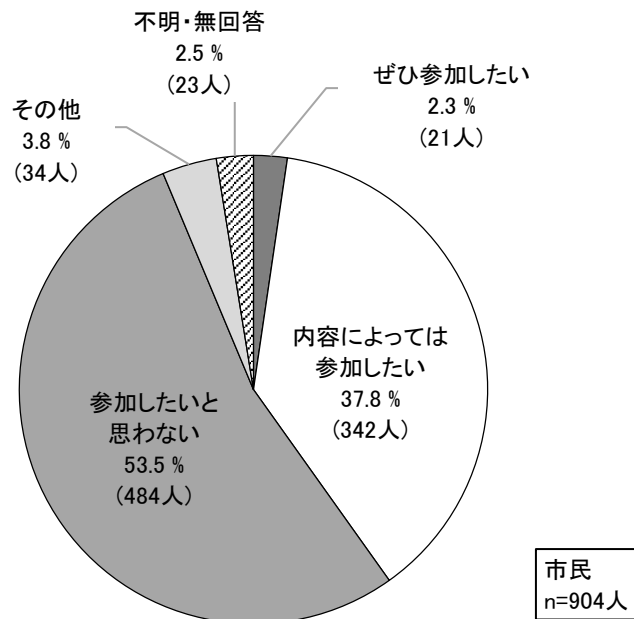
(3) 今後の農林漁業体験への参加意向

問52 問50で2に○をつけた方にお尋ねします。今後、あなたは農林漁業体験に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

約4割が「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」と回答

「ぜひ参加したい」(2.3%)、「内容によっては参加したい」(37.8%)と回答した人を合わせた割合は約4割(40.2%)となっている。

図 6.3 今後の農林漁業体験への参加意向



【性別・年齢別】

30歳代～50歳代では、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合が、「参加したいとは思わない」の割合を上回っており、20歳代では同率となっている。60歳代以上では「参加したいとは思わない」の割合が高く、70歳以上では7割弱（66.2%）となっている。

図 6.3-2 今後の農林漁業体験への参加意向（年齢別・全体）

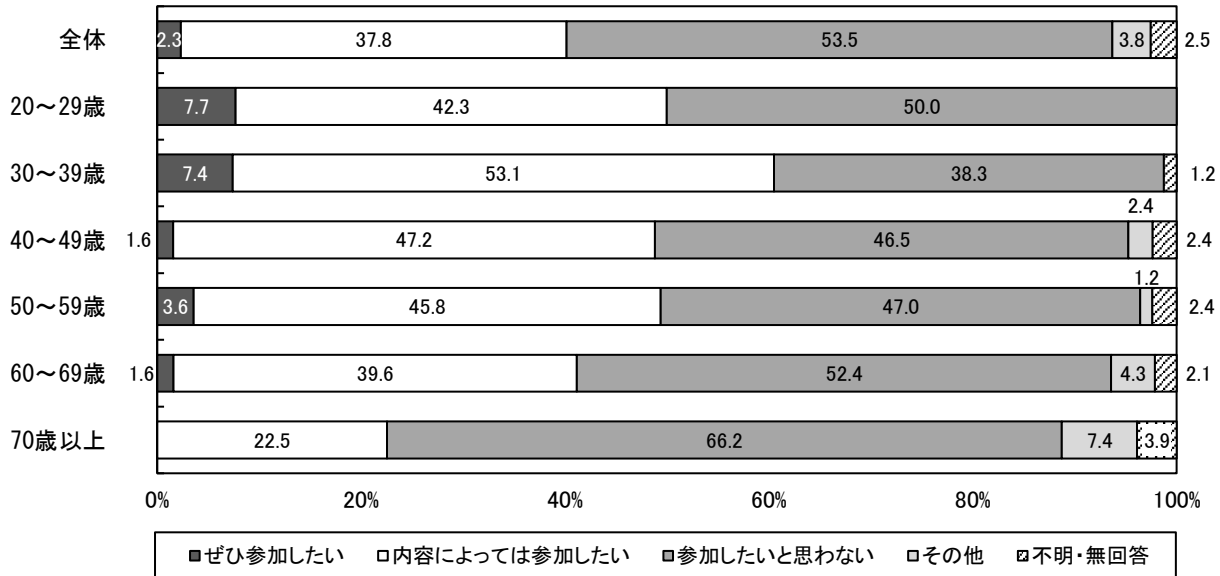
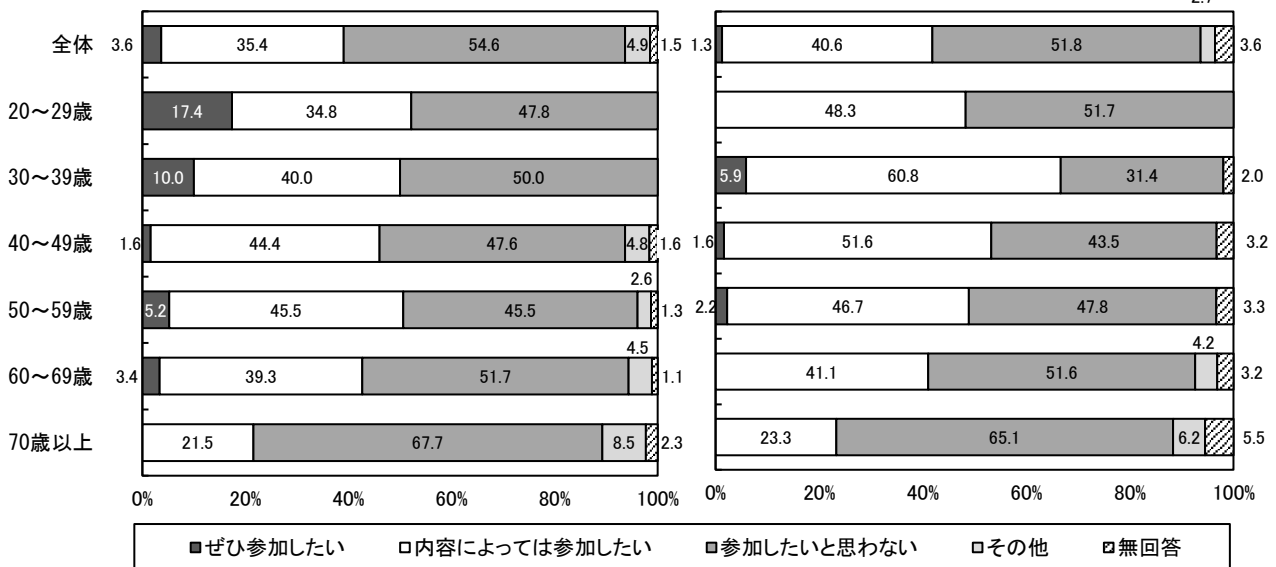


図 6.3-3 今後の農林漁業体験への参加意向

（年齢別・男性）

（年齢別・女性）



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	904	52	81	127	168	187	284	5
男性	412	23	30	63	77	89	130	0
女性	473	29	51	62	90	95	146	0

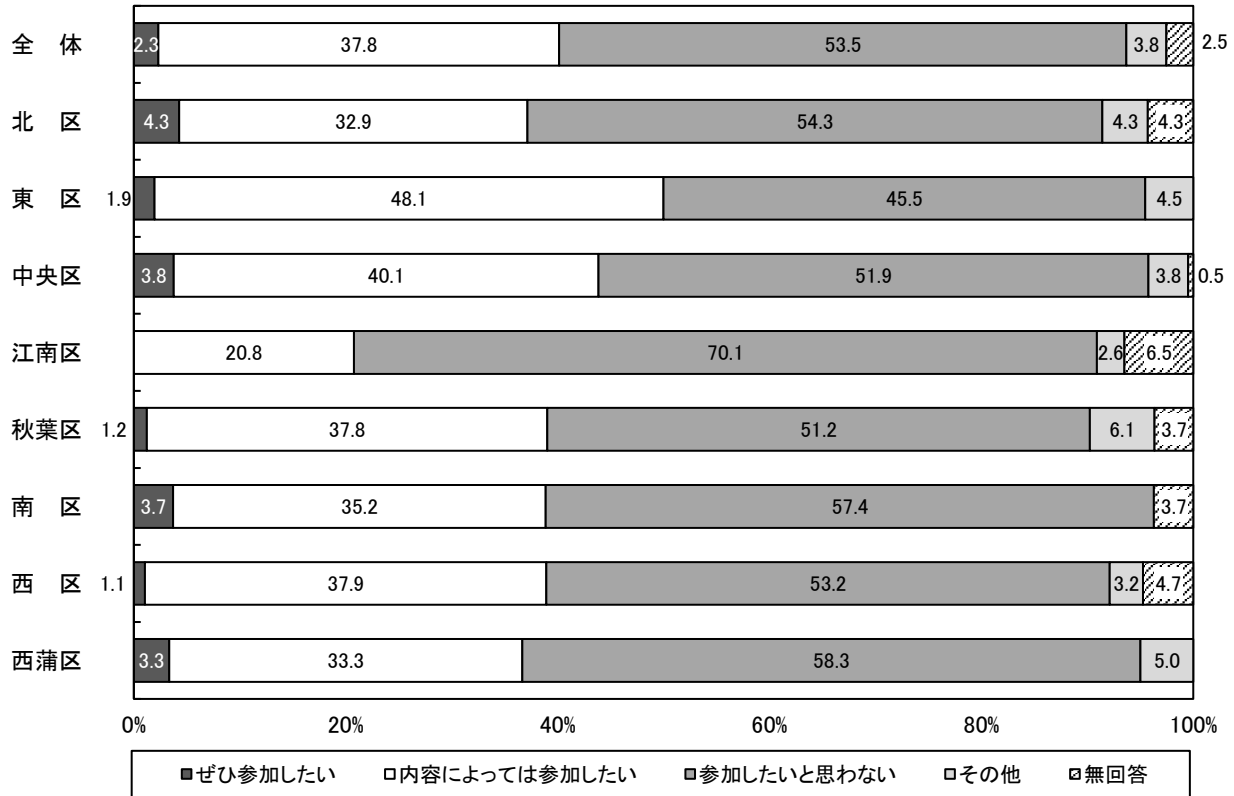
（人）

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は東区で最も高く、5割となっている。また、東区以外の地区で、「参加したいと思わない」を回答した人の割合が、「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合を上回っている。

図 6.3-4 今後の農林漁業体験への参加意向（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
904	70	154	212	77	82	54	190	60	5

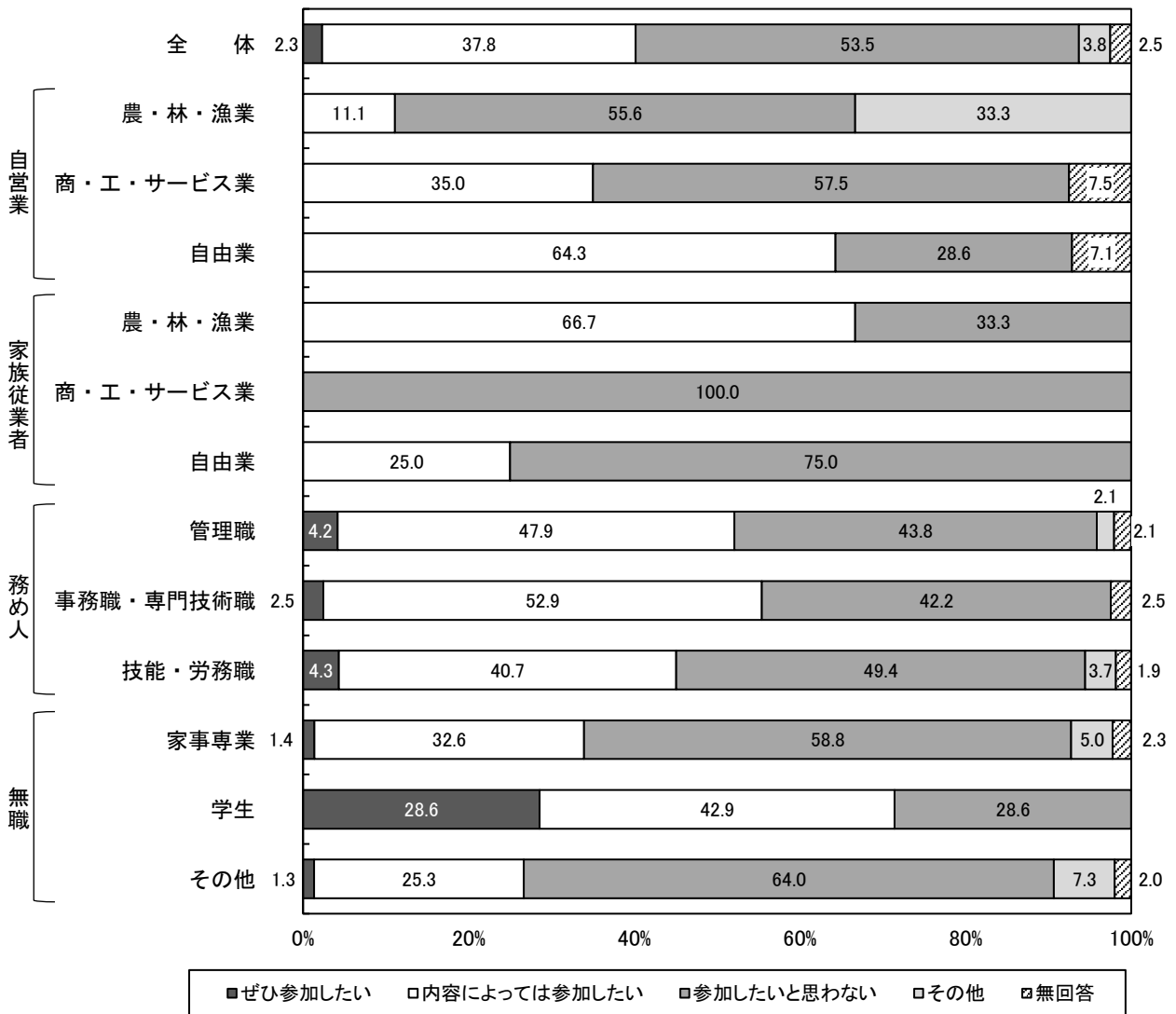
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 6.3-5 今後の農林漁業体験への参加意向（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
904	9	40	14	3	7	4

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
48	204	162	221	7	150	35

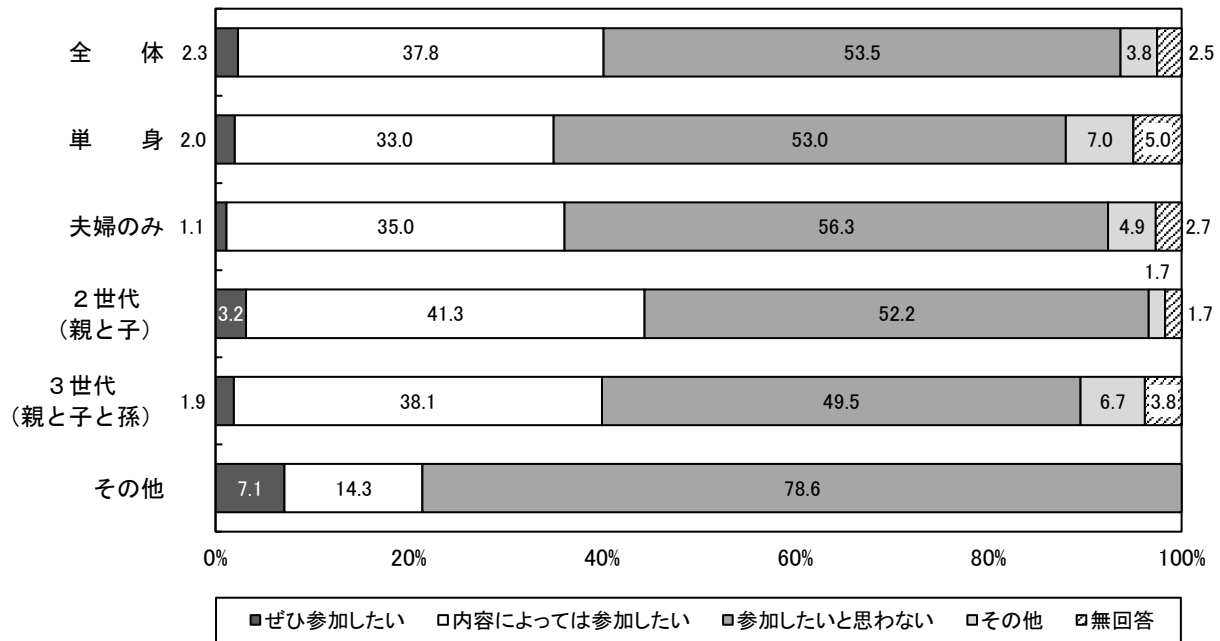
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」を合わせた割合は、2世代（44.4%）で最も高い。

図 6.3-6 今後の農林漁業体験への参加意向（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
904	100	263	412	105	14	10

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

資料編

調査白票

